徹底肉薄！“魔王”秋山成勲の“黒”に迫る!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MA

enterbrain MOOK

2008
119
880yen





ハッスル祭りで充電完了!?
覇王の逆襲宣言ロングインタビュー!!

ミルコ・クロコップ

マット界 2008年ハッスルするぞ!!

暗黒の2007年をサッカーボール・キック!!
桜が咲く頃、明るい未来が開花する！

世界的格闘俳優から富士急ハイランドまで！
完全密着!! これが皇帝のお正月だ！

エメリヤーエンコ・ヒョードル

やったぜ、ボノちゃん！
大晦日“初勝利”記念インタビュー

曙

内館牧子も仰天!?
本誌プロレス大賞にKAMIKAZE吹いた!!

kamipro Award 2007

『やれんのか！』に“戦極ビターン”が炸裂!?
どうなる“その後”の格闘大連立！

谷川貞治／笹原圭一 佐藤大輔

秋山成勲戦を振り返りの蹴りまくり!!
GRABAKAオフサイド対談

三崎和雄×郷野聡寛

超待望のキッド・リターン！
“PRIDE芸人”が『やれんのか！』を語る!!

浅草キッド

kamipro 2008 119 2008年、ハッスルするぞ!!

2008年2月5日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

うわ～ん、うわ～ん!! とにかく怖いよ～!!



格闘技スター・ウォーズ
魔王の逆襲

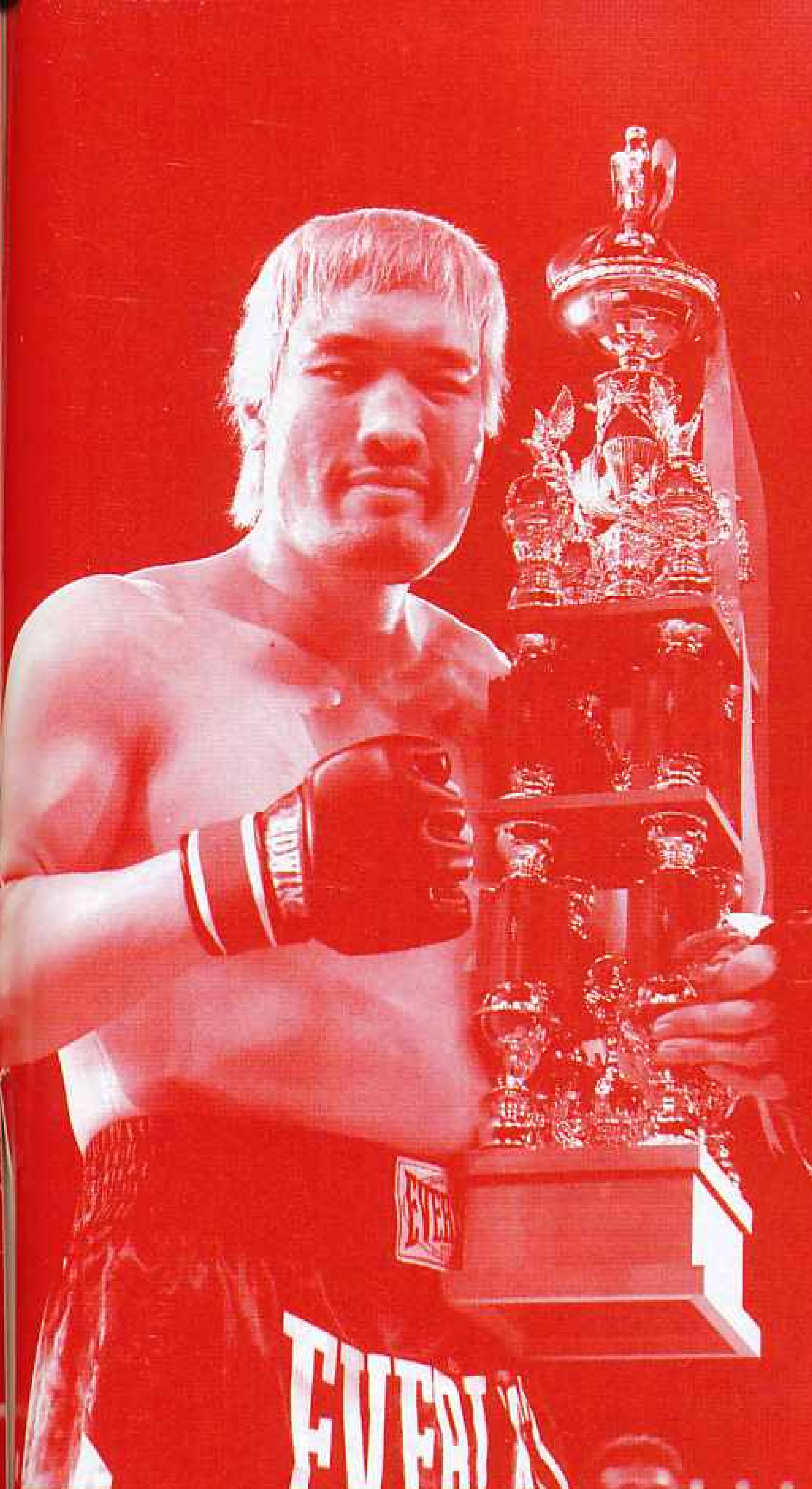


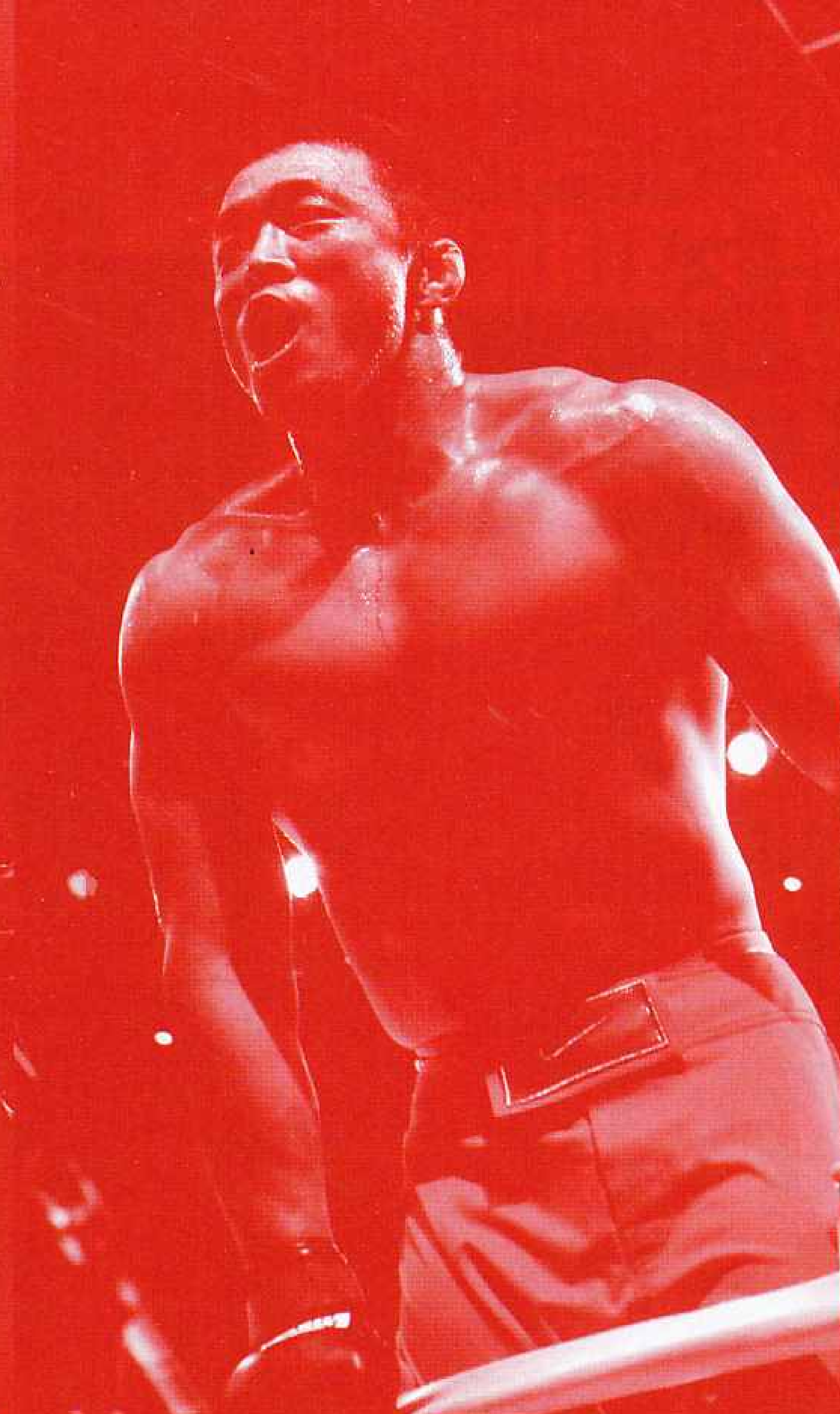
うわ〜ん、うわ〜ん!! とにかく怖いよ〜!!

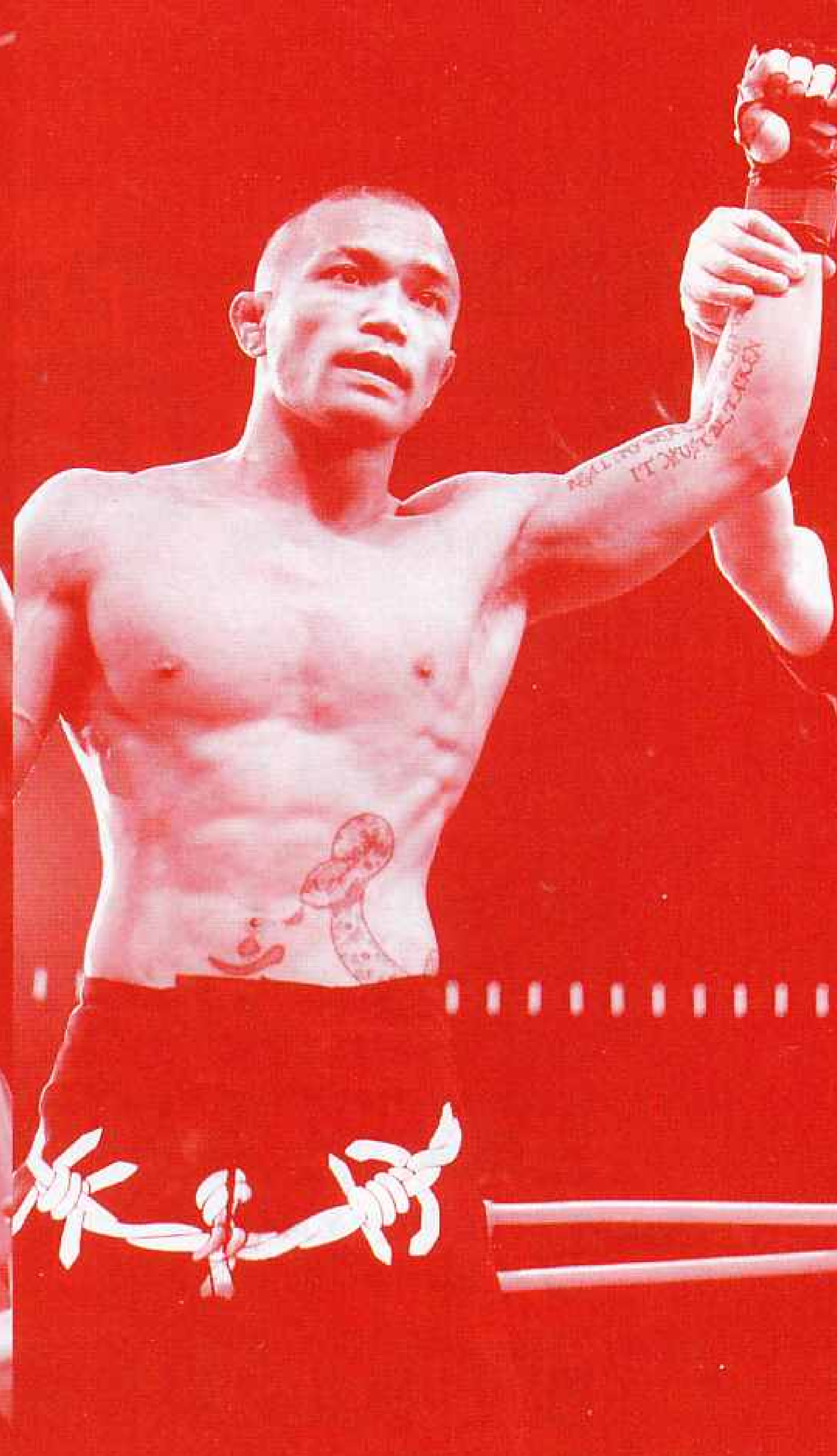
©みのもけんじ

2008 No.119 CONTENTS
kamipro

表紙写真／山口比佐夫

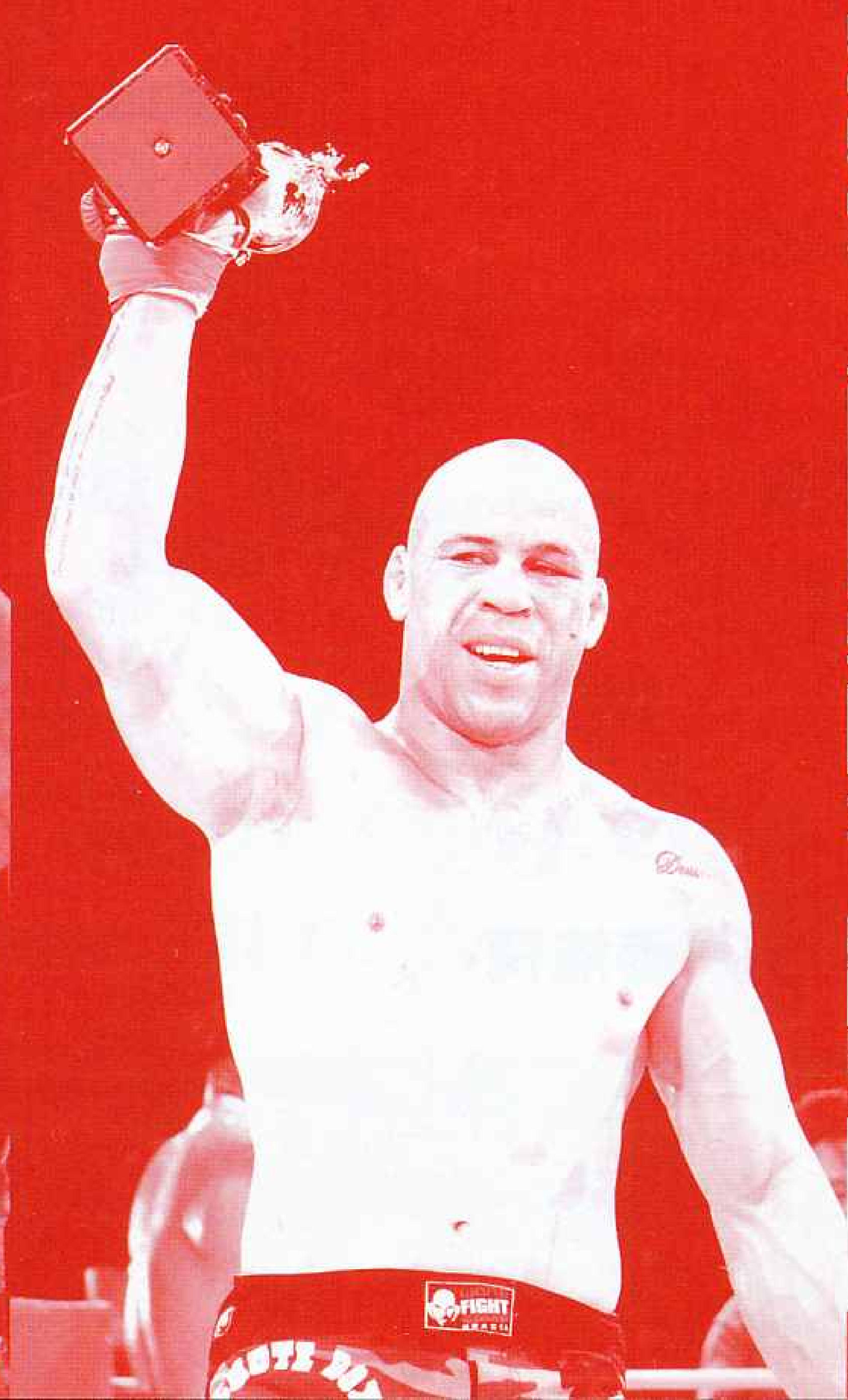






胸騒ぎの2008年——!!
こるかわかりませんよ!













その後の大連立に胸騒

桜咲く頃、何が起こる

桜が咲く頃、いったい何が起ころうとしているのか。ズバリ言って、まったくわかりません。いまなら何が起きたっておかしくないし、怪しげな情報もまことしやかに聞こえてしまう百鬼夜行状態なのである。たとえば、本誌・阿修羅チョロ氏がお金に目をくらんで『HERO'S』に参戦！というトンデモ情報さえもいまなら信じる人が……いないか。さすがに。

現実的なことを言えば、あのPRIDEは、もうなくなってしまった。選手の、ファンの、関係者の心の中で想うことでしかPRIDEは生きることは許されなくなってしまった。そんなPRIDEの誇りを受け継ぐということは、あの美しき思い出と闘うということだ。受け継げるのか、匹敵するものを作れるのか。

ただ一つだけ言えることは、物事を見るうえで五感に染み渡る瞬間とは、すべてが壊れゆくさまか、イチから新しく作られていくさまのどちらかだ。2008年は作られるさまで何かを感じたいのである。やりますか、おいっ!!（ヨダレ）。





逆襲の2008年

独占ロングインタビュー

ミルコ・クロコップ

第二の故郷・日本に俺は必ず帰ってくる!



2007年、PRIDE無差別級GP王者の肩書きを引っさげ、鳴り物入りでUFC参戦をはたしたミルコ。当初はヘビー級王座奪取は時間の問題かとも思われたが、ルールの違いとオクタゴンに苦しみ、デビュー戦こそ勝利で飾ったが、その後、まさかの二連敗を喫してしまった。そんな傷心のミルコが、大晦日の『ハッスル祭り』にゲスト出演。ひさびさに日本のファンの大歓声を浴びたミルコは、どんな逆襲を見せるのか?　また日本マット復活はあるのか?　2008年元日、ミルコを独占直撃した!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／山口比佐夫、平工幸雄

――おひさしぶりです!　一年前にUFCに行ってしまったミルコ選手を、まさか『ハッスル』で観ることになるとは、思ってもみませんでしたよ（笑）。

ミルコ　俺自身、想像したこともなかったよ（笑）。

――そもそも今回、『ハッスル』に出場するきっかけはなんだったんですか?

ミルコ　ちょっと待ってくれ。インタビューに入る前に一つ確認させてくれ。

――は、はい。なんでしょうか?

ミルコ　今回は俺が表紙だって聞いたけど、それはホントなのかい?

――その予定ですけど。

ミルコ　本当に俺が表紙でいいのか?　いまの俺には、表紙に載せてもらう資格がないんじゃないのかと思うんだけど……?（真剣な表情で）。

――そうきましたか。『kami·pro』としては今回、『逆襲』というテーマでいくことにして、あえてその象徴として、ミルコ選手を選んだんですよ。『逆襲』の2008年にふさわしい闘いをミルコ選手には、ぜひ見せていただきたいと思いまして。

ミルコ　……そうか（しばし沈黙して）。わかった始めよう。どうして、『ハッスル』に出場したか……だったよね?

――そうです。

ミルコ　それはミスター・タカダから、直々にメールをもらって招待されたからだよ。彼が、誰かに頼んでとても丁寧にきちんと英訳された、心のこもった文章で、だらしなかった俺のことを心配して、叱咤してくれているようなメールをくれて感動した。とにかく日本のファンにも会いたかったし、ほかならぬ彼の招待だから、日本に行くことはすぐに決めたよ。た



だ、俺にはUFCとの契約もあるから、ゲストで登場しても問題にならないか確認しなきゃいけないこともあって、発表はギリギリになってしまったけどね。

——今回の『ハッスル』登場はUFCの許可を得て行なったものなんですか？

ミルコ もちろん。ケン（マネージャーの今井賢一氏）がすぐにラスベガスに飛んで、クリスマス休暇でメキシコに発とうとしていたダナ（・ホワイト＝UFC代表）をつかまえて、直接説明をしてOKをもらったんだ。だから旧PRIDEスタッフが行なうMMAではなく、『ハッスル』への招待だったからよかったのかもしれない。もし、ミスター・タカダが「『ヤレンノカ！』に来い」と言ってきたら、もしかしたらそのリクエストには応えられなかったかもしれないからね。

——まあ、『やれんのか！』に来場できたらそれに越したことはないんでしょうけど、同日同会場ということもあって、『ハッスル』とかなり客層がカブっていたでしょうからね。

ミルコ そうみたいだね。とにかく、（『ハッスル』に）あんなにもお客さんが入ってるということに驚いたよ。さいたまスーパーアリーナはPRIDEで何度も行ったけど、PRIDEと比べても遜色ない客入りだったからね。あんなに人気があるイベントだなんて知らなかった。

——クロアチアにはプロレスってないんですよね？

ミルコ ないね。ただ、衛星放送でアメリカのWWEは観ることができる。俺はとくに観てはいないけどね（笑）。

——ミルコ選手にとって、プロレスってどんなイメージがありましたか？

ミルコ プロレスのイメージというか、K



—1が最初にMMAをやろうとしたとき、プロレスラーと闘うK—1ファイターというキャラクターが与えられたのが、ほかならぬ俺自身だからね。最初にフジタ（藤田和之）と闘う前は、一応プロレスのビデオを観て研究したよ。ただ、それはあくまで対戦相手として観ただけで、プロレスというものの本質的な部分、どういうことをアピールしようとしているのかは俺にはわからない。ただ、そのリングが輩出してきた人材、タカダさん、フジタ、サクたちにはファイターとしても、人間としても敬意を持っている。でも、日本に行ってみて「ミルコ、プロレス参戦」というかたちでメディアで報じられていたと聞いたときは不思議に思ったね。俺はあくまでゲスト出演するだけだったから。

——べつにプロレスをやりに来たわけでも、プロレスラーになるわけでもないですもんね。

ミルコ　俺のファイターとしての仕事が終わったわけでもないしね。

——実際、シークレット・ウェポンとしてゲスト出演してみて、どんな感想を持ちましたか？

ミルコ　楽しかったよ。それからスロットマシンのセットが回転して、そこから俺が登場するっていうのは、ショーとして非常によくできてるな、と感心した。ただ、最初はゲームの〝大当たり〟で俺が登場するっていうことを説明されても、ちゃんと理解するまで時間がかかったね。

——まあ、いきなり「ウェポンとして登場してください」って言われても、意味がわかりませんよね（笑）。

ミルコ　だって、そのウェポンだといっても、俺の前に登場するのは女の子（ほしのあき）なんだから、なんなんだろう？って思ったよ。

——ほしのあきと役柄が一緒で、「いったい俺に何をさせる気なんだ」という感じですか（笑）。

ミルコ　だからリハーサルをやりながらも、登場の仕方については、じつはよく意味がわかってなかったんだけど、本番をやり終えて、ようやく「そういうことだったのか」って理解することができたよ（笑）。

——でも、ミルコ選手が登場したときは、『ハッスル祭り』の中でも一番の大歓声でしたね。

ミルコ　あれは正直、嬉しかったね。やっぱり日本のファンが世界で一番素晴らしい！　とあらためて思ったよ。アメリカやイギリスの会場で受ける歓声には、「ついにUFCに登場したか、ミルコ・クロコップ、いったいどれだけやるんだ!?」みたいな興味のほうが大きくて、そこには温かさが感じられないんだ。日本のファンは、俺が過去4年間にPRIDEのリングで味わってきた屈辱や感動をすべて理解してくれた上での応援であり歓声だから、そこには欧米とはまったく質の違う温かさがあるんだよね。やはり日本こそが俺にとってのホームなんだって、あらためて気づかされたよ。

——ファンの反応が「UFCに行ってしまった裏切り者」的な感じではまったくなかったですもんね。

ミルコ　本当は、それをちょっと心配してたんだけど、とても温かく迎えてくれて感激した。

——その大歓声を受けて、思わずハイキックに気持ちが乗りすぎて、キンターマンを失神させてしまったんですか？（笑）。

ミルコ　いや、あれは申し訳なかった（苦笑）。リング上でピクリとも動かなくなってしまったんで、正直言って焦ったし、マイクで挨拶するスピーチの内容も飛んでしまったよ。

『ハッスル』での大歓声は本当に嬉しかった。やはり日本こそが俺のホームだと気づかされたね

——あ、ホントはもっと長いスピーチだったんですか？

ミルコ　ああ。本当はケンと相談をして、この一年間にあったこと、日本からアメリカに行った理由、この一年間に俺に起こった変化などを話すために少し長めのスピーチをするはずだったんだ。俺はみんなに挨拶もせずにUFCに行ってしまったからね。ところが、ハイキックで倒したあと、ピンクのコスチュームの彼女（Erica＝アジャ・コング）が彼をフォールするために引っくり返そうとしても、まったく動かず、失神してしまっているのを見て、「これはマズいな……」と思って、マイクを渡されても最初の言葉が出てこなかった。彼が心配でスピーチが吹っ飛んでしまったんだ。

——利き足ではない、右足でのハイキックだったことで、コントロールが利かなかったんですかね？

ミルコ　いや、俺は右利きだよ。

——え!?　そうなんですか？

ミルコ　右利きだけど、俺は利き足を軸にして腰を回転させて放つ方が、強い蹴りになるので、左ハイキックというものを作ってきたんだ。ただ、左ハイキックは回転する力で放つので、そのぶんコントロールが利きにくい。だから、いままで映画やコマーシャル撮影でハイキックを放つシーンでも、じつは型として見せやすい右のハイキックになってるんだ。

——へぇ、それは気づきませんでしたね。

ミルコ　だから演出家や『ハッスル』のスタッフからも「左で蹴ってほしい」と言われたけど、それを説明してあえて右で蹴った。でも、ちょっと腰が回転しちゃったのかな。まさか失神するとは思わなかったけど、本当に悪いことをしたと思ってるよ。だってあのあと、彼は次のショーを欠場するハメになったんだろ？

——深夜2時からの『プロレス・ターミナル』は欠場になりました（笑）。

ミルコ　その話をあとから聞いて、そのギャランティは俺が保証してあげたほうがよかったんじゃないか、ぐらいに思ったよ。やっぱり俺はプロレスラーには向いてないね（苦笑）。

——リングに上がるとセーブが利きませんか（笑）。でも、あらためてミルコのハイキック恐るべしですね。

ミルコ　でも、いい経験をさせてもらったよ。楽しかった。

——『大みそかハッスル祭り』のあとは、『やれんのか！』のバックステージにも顔を出したんですか？

ミルコ　いや、それはしなかった。もちろん俺はPRIDEのファンがたくさん集まっている会場でも挨拶をしたかったし、カトーさん（加藤浩之DSE元専務）をはじめとして、旧PRIDEスタッフには本当に世話になったわけだから、会場に行ってみんなと握手はしたかったよ。でも、UFCと袂を分かつかたちとなった旧PRIDEスタッフと、ランディ（・クートゥアー）のUFC離脱の黒幕のようにダナに思われている『M—1グローバル』の幹部が集結する場所で、俺がリングに上がって挨拶をするというのも、さすがに『ハッスル』への登場を許可してくれたダナ（・ホワイト）に失礼だとも思ったんだ。とても迷ったけどね。ファンのみんなには、ここまで来ていて顔も出さないのは申し訳ないとも思えたしね。で



スペシャル・ウエポンとして登場したミルコが右ハイキックを放つと、モロに食らったキンターマンはそのまま失神！ リング上でいびきをかく危険な状態になってしまった。力をセーブしてもこの破壊力。あらためて魔性のハイキック恐るべしだ！

ミルコ・クロコップ

も最後は、おとなしくホテルのテレビで、『Dynamite!!』との二元中継を見させてもらったよ。

——現状で最大限にできるファンサービスが、『ハッスル』への登場だったというわけですね。

ミルコ ファンサービスでもあるし、俺自身が日本のファンからエネルギーをもらった。たった3泊の日本滞在だったけど、本当に来てよかったよ。これで気持ちよく2008年のスタートが切れる。

——2007年は苦難の年でしたからね。いま、あらためて振り返ってみていかがですか？

ミルコ 言うまでもなく格闘家としては人生最悪の年だったよ。ただ、その一方で経済的には、ファイター人生でもっとも大きな評価をしてもらった年でもあった。そのギャップの大きさが、自分のプライドとして許せない。ガブリエル・ゴンザガ戦であれだけの屈辱を味わったのに、経済的にもたらされたものがあまりにも大きかったので、一回では目が覚めなかった。ぬるま湯に浸かっていた自分がいたんだ。

——裕福になりすぎて、自分を追い込みきれなかったわけですか。

ミルコ 俺はプロだからもちろん金を稼ぐことは大事だけど、それによって心が太ってしまったら、元も子もない。去年の俺はいつの間にか心がブクブク太り、心の肥満体になっていた。その事実に2連敗して、ようやく気づかされたんだ。そこからはつらい日々だったね。自分が恥ずかしかった。

——だからチーク・コンゴに敗れた9月以降、地元クロアチアのメディアにもほとんど出なかったわけですか？

ミルコ やっぱり人に会うのが恥ずかしいし、あんな無様な試合をして、俺はファイターとして、もう終わりなんじゃないかとも思ったからね。だから11月にクロアチアで総選挙があって、社会民主党から出馬の要請を受けたときも、とてもじゃないが選挙に出る気にはなれなかったので、出馬を取りやめ、国会議員の席を一度手放すことにもした。

——もう国会議員は辞めてしまったんですか!?

ミルコ ああ。だって、あんな無様な姿をさらしたあと、笑顔で手を振りながら選挙活動なんてできないだろう？ 俺の国会議員としての二期目というのは9月8日の敗戦ですべて吹っ飛んだ。もちろんクロアチアの将来のためにやり残したことはたくさんあるし、将来落ち着いたときにまた政界に復帰したいとは思っているけど、いまの俺にファイターとの二足のワラジを履く余裕なんてないね。国会議員は歳をとってからもできる。でも、ファイターはいましかないんだ。

——では、2008年は一ファイターに



助っ人の役目を見事にはたし、崔領二&Ericaと勝利を分かち合うミルコ。それにしてもミルコとEricaちゃんが一緒にいるのは、凄い絵面だ！

戻っての再スタートなわけですね。

ミルコ　本当の意味での出直しだね。駆け出しの頃の気持ちに戻って、自分をいじめ抜くつもりだ。俺が最初にチャクリキに行った94～95年頃は、ジムの廊下で寝袋にくるまって寝泊まりしながら練習していた。金がなかったからね。さすがにいまはそこまではやらないけど、去年の末にはイワン・ヒポリットのジムの近くの小さなペンションに長期滞在して、オランダの若くてハングリーなキックボクサーたちとガンガン、キックボクシングの打ち合いの練習をしてきた。

――すでに出稽古で本格的なトレーニングを再開してるんですね。

ミルコ　クロアチアのジムでもしっかりトレーニングしてるし、あとはレスリングの練習も大幅に増やしたから、これまで使っていなかった筋力もアップして、知らないうちに体重が105キロにアップしていた。これまで100キロそこそこで闘っていたことを考えると、これだけ練習して105キロに増やせたってことは、自分でも楽しみだね。

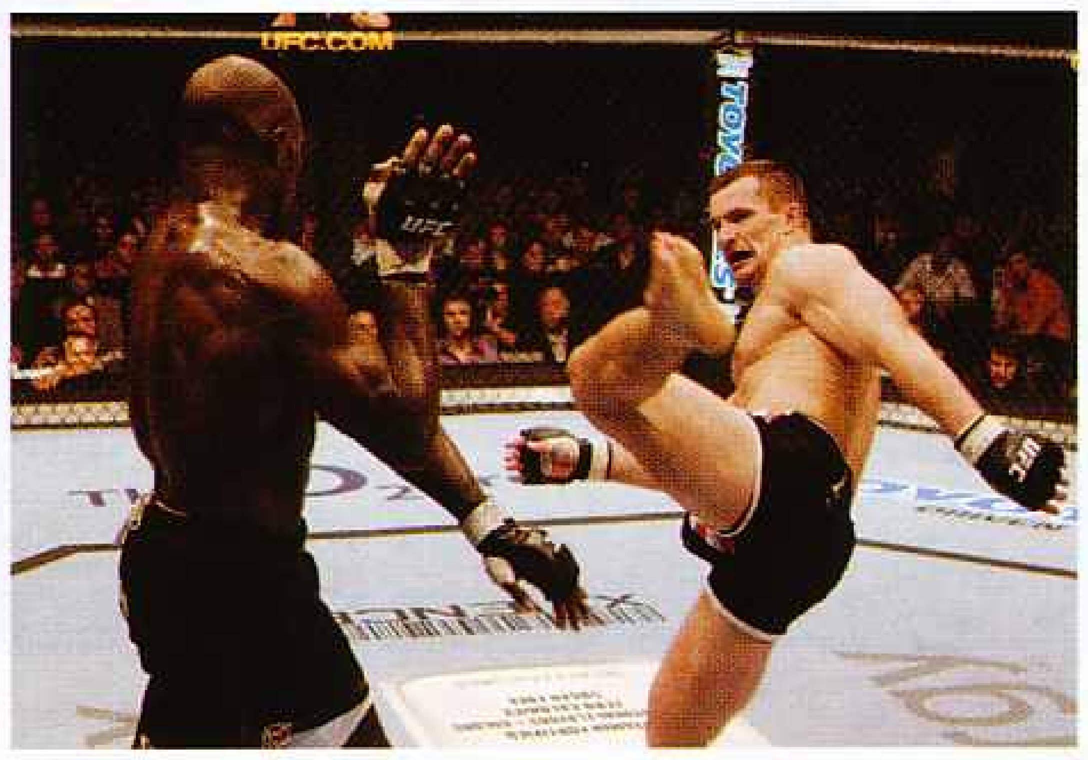
――体重が増えても動きは落ちてないわけですか。

ミルコ　もちろん。これは鼻の手術をしたことも大きい。鼻呼吸ができるようになって、走る距離が凄く増えたからね。それもトレッドミル（ランニングマシン）の上ではなく、森の中を長距離走っているから自然とスタミナがついて、同じ練習をしてもバテることがない。体重を増やすためのトレーニングメニューを組んだわけではないのに、自然とウェートアップに成功したんじゃないかな。

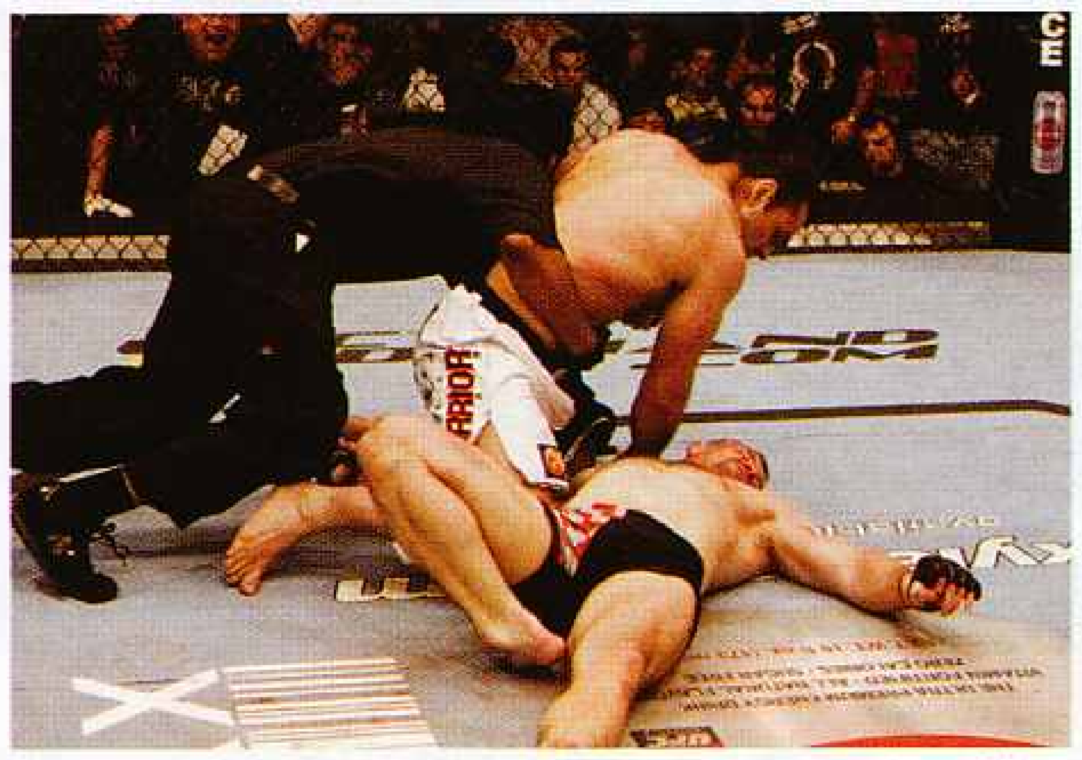
――このところ、ラウンド後半になると息が苦しそうになってましたけど、それも

ミルコ・クロコップ

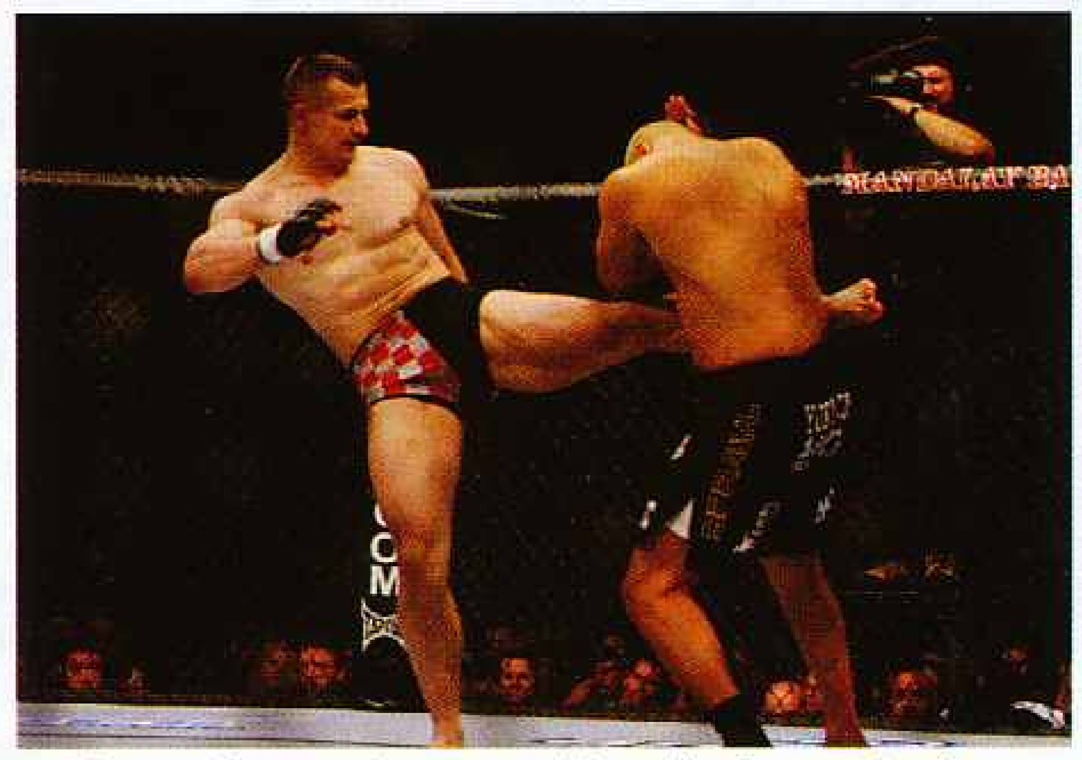
2007年は格闘家として人生最悪の年だった
今年は復活のために国会議員も辞めて出直しだ!



9.8『UFC75』ロンドン。新生チーム・クロコップを結成し、再起に挑んだミルコだったが、長身のストライカー、コンゴ相手にスタミナ切れを起こし失速。判定負けで、まさかの2連敗を喫した。



4.21『UFC70』マンチェスター。ヘビー級柔術家ゴンザガの寝技のヒジに苦しんだミルコは、そのダメージで棒立ちとなりハイキックで衝撃の失神KO負け！　オクタゴンの洗礼を味わうこととなった。



2.3『UFC67』ラスベガス。UFCデビュー戦にミルコはなんとPRIDEのテーマで入場。逃げ回るエディ・サンチェスを捕らえるのに少し時間を擁したが、1R、TKOで幸先のいいスタートを切った。

克服できそうだ、と。

ミルコ　あれこそまさに鼻が通らないから、口から呼吸をすることの弊害だったからね。それを考えると、手術して本当に良かったよ。

――では、逆襲の2008年、どういったプランがありますか？

ミルコ　いまちょうどダナとケンが話をしてくれているけど、俺からの要望は「ファイトマネーもいらないから、ゴンザガとやらせてくれ」それだけだね。1月19日にゴンザガとファブリシオ（・ヴェウドゥム）が試合をするけど、その結果に関わらず、俺はゴンザガとやりたい。自腹でブラジルに行って試合をしてもいいよ。この俺の気持ちをUFCがどう汲み取ってくれるか、それが残った契約をどうするかという部分に関わってくるね。

――ゴンザガ戦が実現するかどうかで、今後の進路が変わってくるということですか？

ミルコ　そうだね。じつは選択肢はたくさんあるんだ。その中でまずUFCが俺の気持ちを理解してくれて、できるだけ早くゴンザガと再戦を組んでくれるのがベストなシナリオだけど、ゴンザガサイドはできるだけ先に延ばそうとするのは目に見えているからね。2004年にケビン（・ランデルマン）に負けたあと、俺はPRIDEにわがままを聞いてもらい、その年の大晦日にケビンとの再戦を組んでもらった。それがどれだけ大変な作業だったか、俺は理解しているつもりだ。今回は、ゴンザガとの再戦までに途方もない時間待たなくてはいけないのか、そして、そこまで待つべきなのか。いろいろと考えなきゃならないことがある。

――たとえば近い将来、日本マット界に帰ってくることもありえますか？

ミルコ　もちろんある。この大晦日に『ハッスル』に出演してみて、やっぱり日本が俺の第二の故郷だとあらためて思ったしね。UFCが日本大会を開いてくれれば、それがベストだけど、まだわからないからね。とにかくUFCとは、いままさに話し合いの真っ最中で、この話し合いの方向を見極めないと、なんとも言えないな。

――では最後に、『ハッスル』のリング上では言いきれなかったメッセージがあればお願いします。

ミルコ　2007年はみっともない試合をしてしまって、ごめんなさい。俺は国会議員の地位も捨てて、もう一度ファイターとして這い上がるつもりだから、これからも応援してください。もしかしたら、皆さんが想像するよりも早く、日本で試合を見せられるかもしれない……。とにかく待っていてください。いま言えるとしたら、これぐらいかな。

――わかりました。2008年、"ミルコの逆襲"に期待してます！

【08年1月1日／都内・某所にて収録】

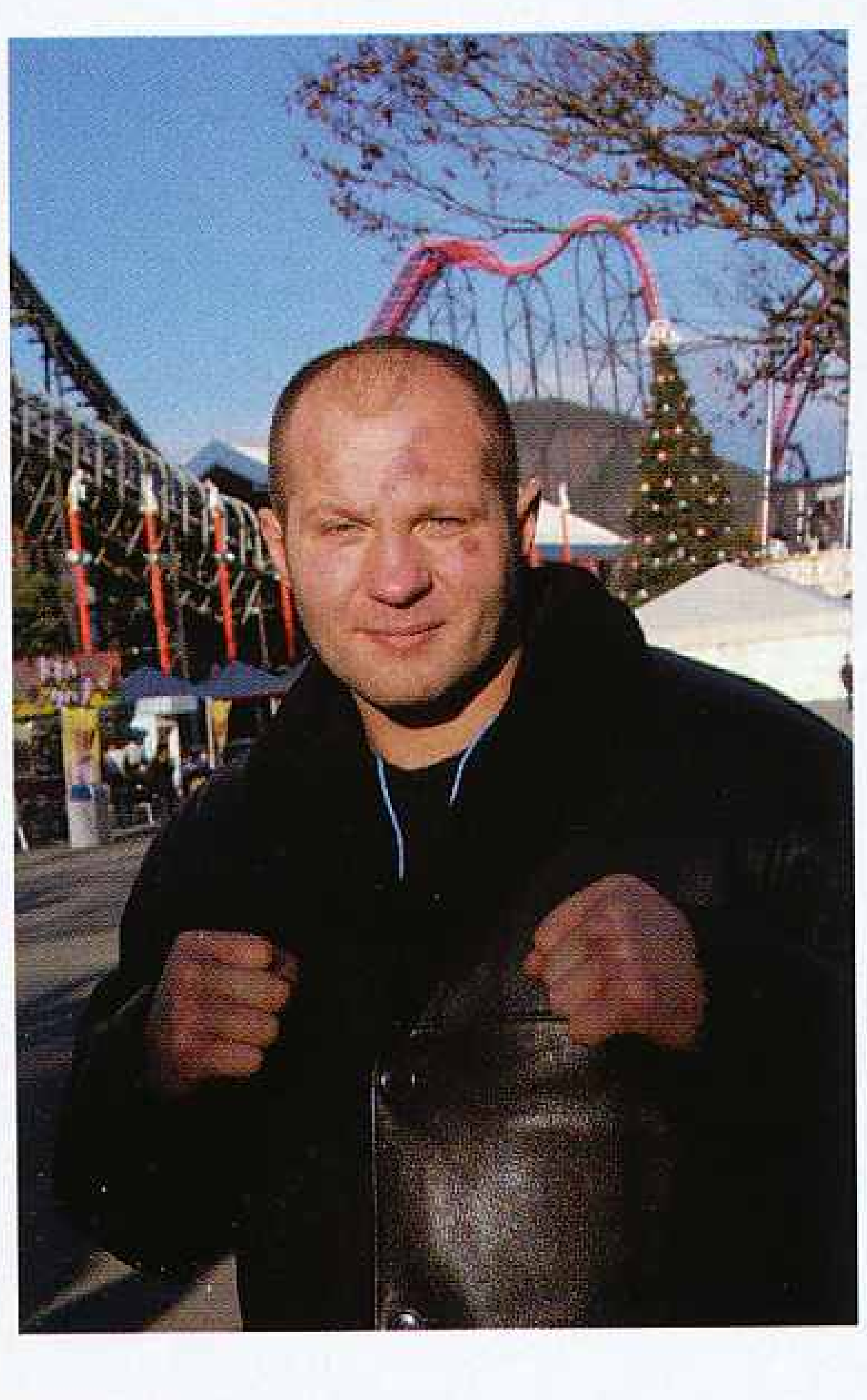


MIRKO CRO COP■1974年9月10日、クロアチア出身。96年にK－1に初来日。01年に総合デビュー。03年からは主戦場を『PRIDE』に移し、06年にPRIDE無差別級GP優勝。07年より主戦場をUFCに移すが、1勝2敗と苦戦している。188センチ、100・4キロ。



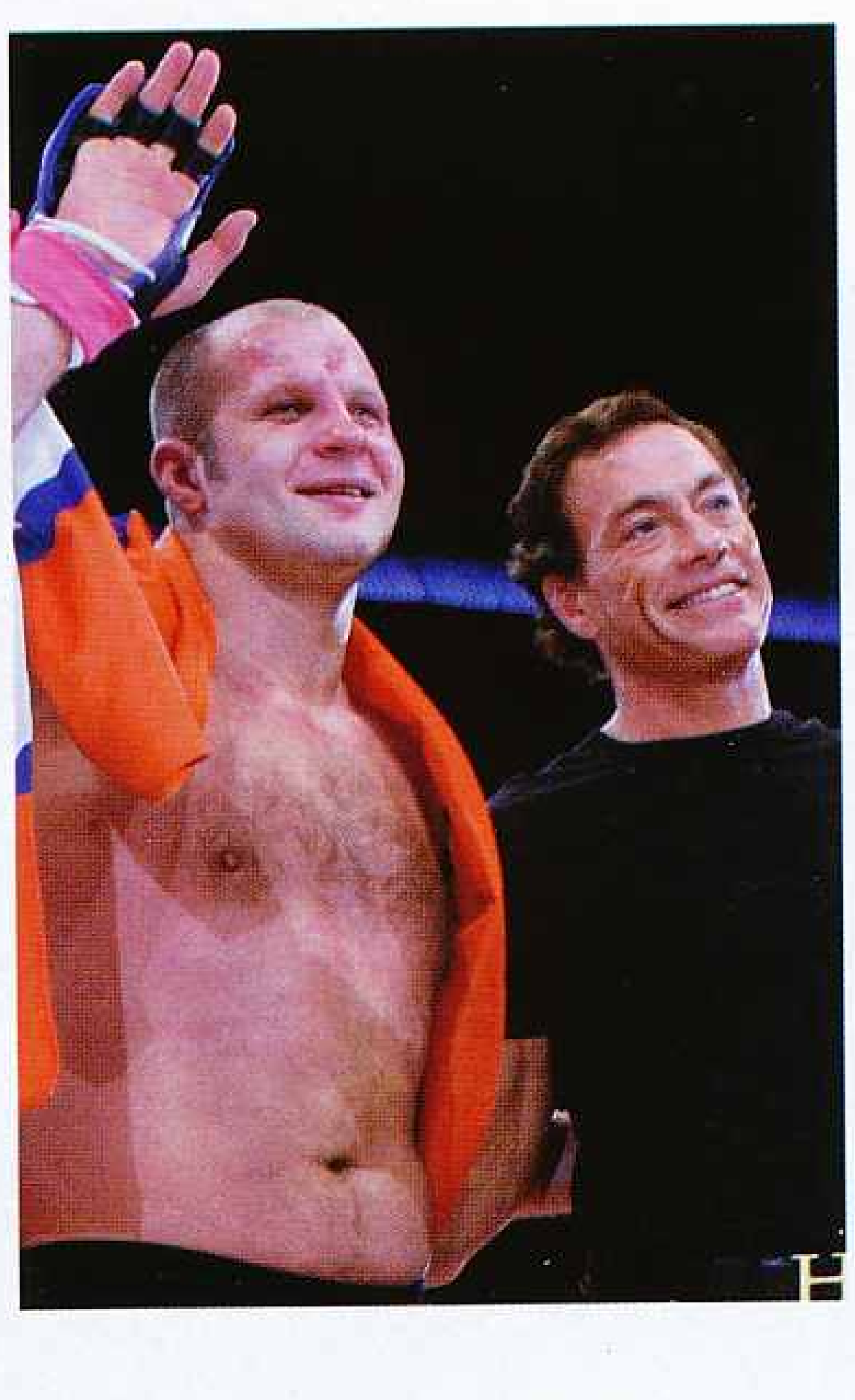
密着
皇帝のお正月

エメリヤーエンコ・ヒョードルの
日本滞在漫遊記



1月2日
遊園地の絶叫マシーンで大興奮!

1月1日
世界的アクション俳優と再会!



大晦日の『やれんのか！　大晦日！　2007』でチェ・ホンマンを下して、リング上で喜びを爆発させたエメリヤーエンコ・ヒョードル。日本のスタッフ、日本のファン、日本のリングを絶賛する皇帝の笑顔は幸福感に満ちあふれていた。そんな皇帝が1月3日まで日本に滞在するという情報をキャッチした本誌は、その貴重なプライベートに独占密着取材を敢行！　皇帝が垣間見せてくれた、素敵な微笑をたっぷりお届けッ!



世界最強対談で
2008年の幕開け!!

皇帝の元日

大晦日の『やれんのか! 大晦日! 2007』で実現したエメリヤーエンコ・ヒョードルvsチェ・ホンマン。奇跡の大連立がもたらしたこのドリームカードで、〝最強皇帝〟ヒョードルは〝60億分の1〟の実力をいかんなく発揮して、圧倒的な体格差をもろともせずに見事な腕ひしぎ十字固めで一本勝ちを収めた。さいたまスーパーアリーナに集まった約2万3000人の大観衆はヒョードルに惜しみない大歓声を送り、ヒョードルも満面の笑みとガッツポーズで一年ぶりに日本のファンに勝利をプレゼントした。

ヒョードルがレッドデビルのチームメイトと喜びを分かち合った歓喜の輪の中に、一人の世界的なアクション俳優も加わっていた。その男の名は、ジャン＝クロード・ヴァン・ダム。映画『ユニバーサル・ソルジャー』『サドン・デス』などで主演を務めた世界的なアクション俳優である。あのミルコ・クロコップも少年時代にジャン＝クロード・ヴァン・ダムの映画を観て格闘技に目覚めたというほど、世界中で計り知れないほど大きな影響力を持つハリウッド・セレブである。

その彼が、なぜ『やれんのか!』のリングの上にいたのか? じつは、この両者は過去に一度だけ公の場で同席したことがある。そのときの模様は本誌でもお伝えしているが、07年4月『ボードッグ』ロシア大会後の晩餐会で、プーチン大統領も交えて会食しているのだ。

そして、世界最強の男と世界的なアクション俳優は大晦日に再会をはたした。本誌はその翌日、すなわち元日の夜に都内の某高級ホテルで面会した両者を独占キャッチすることに成功した。

いったいこの二人は何を語り合うのだろうか?

世界的アクション俳優
ジャン＝クロード・ヴァン・ダムとの再会

世界中がド肝を抜かれる超ド級の対談企画が『kamipro』で実現！　いま世界中が最も注目しているMMAファイターである“60億分の1”の男エメリヤーエンコ・ヒョードルと、世界的アクションスターであるジャン＝クロード・ヴァン・ダムは友人同士なのだ。本誌は、そんな仲良しの二人の顔が合わせるほんのわずかな時間にお邪魔して、対談をしてもらうことに成功した。そこに現われたのは、いつも以上に穏やかなヒョードルだった！

聞き手／坂井ノブ　撮影／吉場正和

——今日はあまりに凄い顔合わせの対談が実現できて興奮しています！

ヒョードル　私もです（ヴァン・ダムのほうを向いて微笑）。

ヴァン・ダム　私もこの場にいることを神に感謝するよ。

——まずは、興奮さめやらぬ昨日の試合についてうかがいたいと思います。

ヴァン・ダム　非常に印象的な試合だったね。あれだけ体格が違うのに、ヒョードルはいとも簡単に勝ってしまった。チェ・ホンマンのパンチはさほど強いとは感じなかったけど、ヒョードルの顔は傷ついている。

ヒョードル　たいしたケガではないですよ。

ヴァン・ダム　実際はかなり強烈なパンチだったんだろう。それでも勝ってしまうんだから、ヒョードルは真の王者だよ。

——フィニッシュの腕ひしぎ十字固めも圧巻でしたね。

ヴァン・ダム　えっ、極めたのは脚じゃなかったのかい？

——ヴァンダムさん、腕です（笑）。

ヴァン・ダム　そうなのか？　メチャクチャ太いから脚かと思ったよ（笑）。

——おお、世界的アクション俳優のギャグだ！（笑）。

ヴァン・ダム　MMAは頭がスマートでなければできない競技だね。ヒョードルが左フックを放ったときに、ホンマンは少し引いた。その隙を見逃さずにヒョードルはテイクダウンした。あの一連の動きは本当に芸術的だったよ。

ヒョードル　ありがとうございます（笑）。

——大絶賛ですね。大会全体の印象はいかがでしたか？

ヴァン・ダム　グレイト！　じつに完成度が高かったよ。旧PRIDEのスタッフが作ったショーは、UFCよりも強烈な印象を受けたね。そして、日本のオーディエンス（観客）は勝者にも、敗者にも同じような敬意をもって接していることにも驚かされたよ。非常にソフィスティケート（洗練）されたオーディエンスだ。ヒョードルはその素晴らしいオーディエンスから愛を受け取っている。

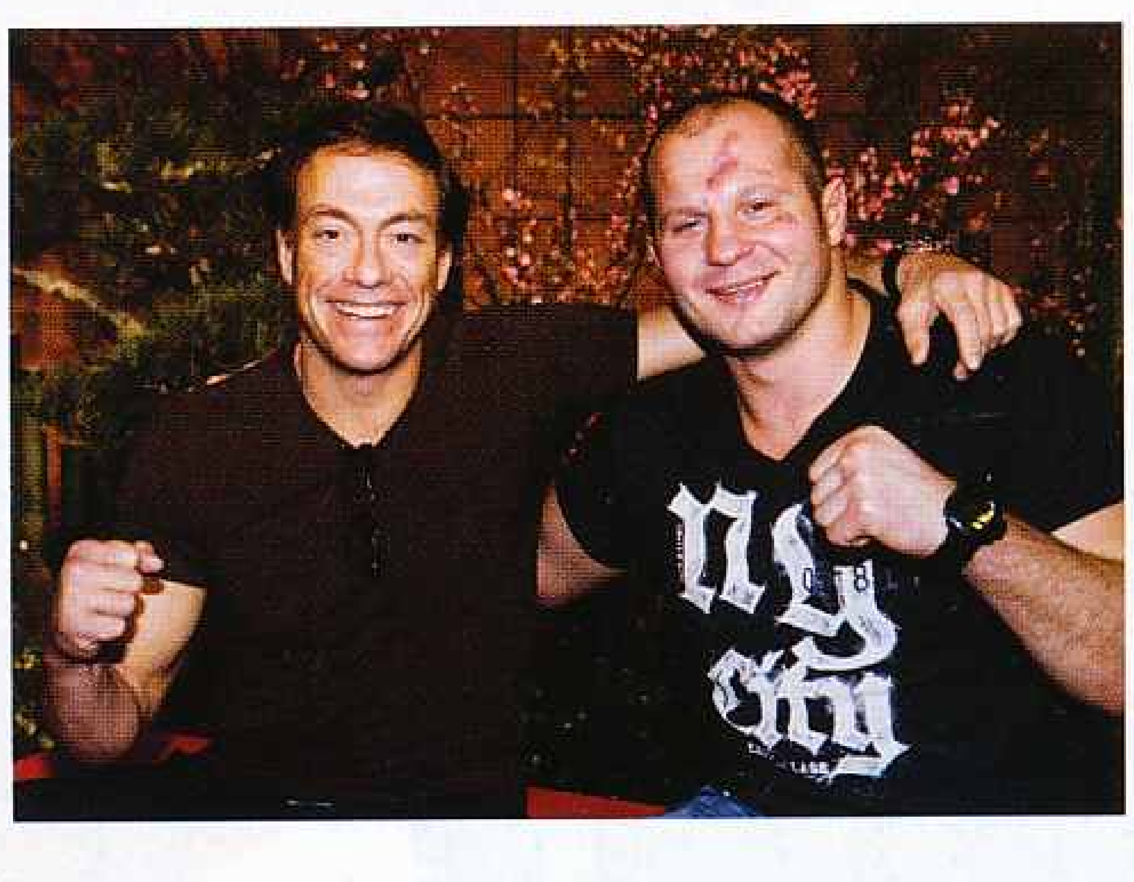
——ヴァン・ダムさんがご覧になっている前での見事な勝利でしたね。

ヒョードル　ジャン＝クロードが私の試合を観に来てくれていることを知っていたので、今回の試合は本当に力が入りました。昨夜の試合に勝利して、彼を喜ばせることができたことが何よりも嬉しいですね（ニッコリ）。

——いつ頃から仲良くなったんですか？

ヒョードル　もう約2年前のことです。フランスで会ったのが最初ですね。そのときからずっと仲良くさせてもらっています。初めて会ったときから、ジャン＝クロードとは旧友のような感じで、初めて会ったような気がしませんでした。

ヴァン・ダム　そうだね（とうなずく）。



皇帝のお正月 2008年1月1日編

――ヒョードルさん、ヴァン・ダムさんの映画は観てました?

ヒョードル もちろんです（ニッコリ）。私は彼の映画で育ったようなものですよ。

ヴァン・ダム 嬉しいね（笑）。私にとって映画とは歯を磨くようなものだったんだ。つまり、日常生活の一部だったということさ。私の映画が若い世代にどんな影響を与えたのか、昔は考えもしなかったけど、こうして私の映画を観て育った人が格闘技を始めてくれたという話を聞くと本当によかったと思うね。

――結果的に世界最強の男が育ってしまったわけですよ!

ヴァン・ダム ああ、凄いことだよ。私とヒョードルは家族ぐるみで友人なんだけど、息子にヒョードルを初めて会わせたとき「世界最強の男だ」と言って紹介したんだ。覚えてるかい?

ヒョードル ええ、もちろん（微笑）。

ヴァン・ダム しかも、強いだけじゃない。非常に紳士的で優しい男でもある。人間として最高の男だよ。彼の強さ、素晴らしさ、スマートさ、人間的な魅力が私の息子にも20パーセントぐらい備わってくれていたらと思うよ。

ヒョードル （黙って微笑む）。

ヴァン・ダム 少し私の昔話をさせてくれるかい? 私がハリウッドに行った直後、酒もタバコもやらないサムライのような生活を送っていたんだ。常にアップ&ダウンのある生活だったから、常に自分を刀のように研ぎ澄ましておかねばならなかった。いつ仕事が舞い込んでくるかわからなかったからね。

――厳しい競争社会ですからね。

私はジャン=クロードの映画で育ったようなものです 初対面のときから旧友のように感じました（ヒョードル）

ヴァン・ダム ああ、そうさ。だが、私はいま香港に住んでいる。酒もたしなむようになった。それで酔っぱらって心がオープンになったときは、近くにいるロシア人を捕まえてヒョードルに電話してもらうんだ。

――酔っぱらって皇帝に直電ですか!

ヒョードル いつも思いもよらないときに電話がかかってきますね。

ヴァン・ダム そうだろ? 私は、素直な気持ちをヒョードルに伝える。彼のような素晴らしい友人が常に横にいてくれたらと思うんだ。私にとっては親友だ。私が80歳になる頃にはヒョードルも60歳になってるだろうけど、そのときでもいまの関係を続けていけたらいいなと思うよ。

ヒョードル 私にとっても、ジャン=クロードは大事な友人ですよ。

ヴァン・ダム ありがとう（笑）。君は人間的にも素晴らしいが、試合も素晴らしい。とても長い時間トレーニングを積んでいるんだろうけど、なぜか君の試合からはまったく怒りというものを感じないんだ。まるで相手の中に入っていくような自然さで、純粋なテクニックと強靭な精神力を発揮しているだろ? トレーニング（練習）、ファイティング（闘い）、ウイニング（勝利）がまるで結婚しているかのように連動しているんだ。

ヒョードル おっしゃるとおりですね。私は勝利のイメージとともに日々のトレーニングを積んでいます。

ヴァン・ダム これは私の推測だけど、君は試合が終わったときに哀しみや憂いを感じているんじゃないか? 一つの勝利は、また次の試合へとつながっていくだろ? ただ、それは偉大なるチャンピオンが持つべき資質でもある。そういう感情を持ったことはあるかい?

ヒョードル 自分が持っているすべてのテクニックを披露できないときはスッキリしませんね。ただ、勝利はやはり嬉しいものですよ。昨夜のように試合が早く終わってしまうこともありますが、それは自分の強さの証しでもありますから。

――ヴァン・ダムさんはヒョードル選手を映画に出したいと思いませんか?

ヴァン・ダム ああ、将来的にはぜひ実現させたいね。スーツを着たりしてファイターではない別のキャラクターで映画に出てもらいたいと思ってるよ。その映画を私が監督したいね（笑）。じつはヒョードルを映画に出そうと思ったことがあったんだけど、（このあとカザフスタンの大統領との取引のある人物やUAEの王子様など凄まじい世界的VIPの話や映画の話が矢継ぎ早に飛び出して話が止まらなくなる）。まあ、君といつか映画が撮れればいいなと思っているよ。

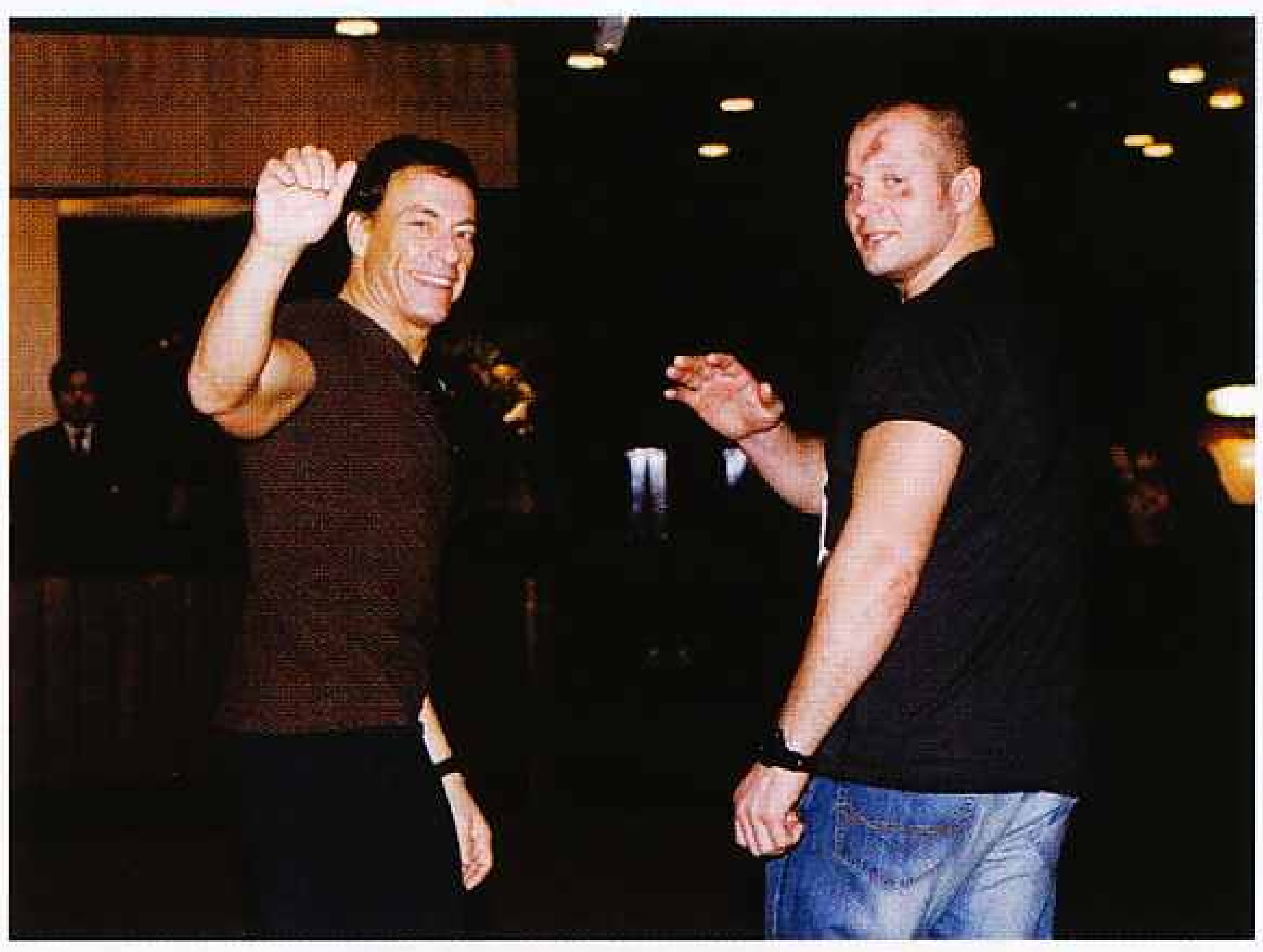
ヒョードル ええ、私も機会があればぜひ出たいです。

ヴァン・ダム 韓国では君を映画に出そうという話もあるらしいね。

ヒョードル そんなオファーもあるようです。

――いつかお二人のコラボが実現することを願っております! 今日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

【08年1月1日／都内ホテルにて収録】



JANE CLAUDE VAN DAMME■1960年10月18日、ベルギー・ブリュッセル出身。数多くのアクション映画で主演を務める国際的大スター。80年代後半からハリウッド映画に多数出演、代表作は『ユニバーサル・ソルジャー』など。80年にはプロ空手のヨーロッパ王者に輝くなど格闘家としても立派な実績を誇っている。

EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ出身のロシア人。サンボや柔道で実績を挙げ、00年リングスに初来日。02年よりPRIDEに参戦してPRIDEヘビー級王者に君臨する。04年にPRIDEヘビー級GPも制覇。07年M-1グローバルと契約。今後の活動に注目が集まるMMA世界最強の男。182cm、104kg。

世界最強のファイターと世界最強のアクション俳優の対談というワールドワイドな対談は、あっという間に制限時間が終了してしまった。対談前も対談後も仲良く会話しているところを見ると、この二人は本当に仲がいい。本物は本物を知るということなのだろう。ヴァン・ダムが格闘技ファン……というか、ヒョードルのファンであることを丸出しにして、興奮しながらしゃべっている姿は非常に印象的だった。

いつもは淡々とした語り口で無表情か微笑んでいるだけのヒョードルの笑顔がいつもより柔らかいように感じたのは、気のせいではないだろう。大好きだと言ってはばからない日本で、親友と過ごすリラックスした時間に垣間見せた素顔は、やはり謙虚で優しくてカッコよかった。



本誌独占! 完全追跡!!
新春のニッポンを行く

皇帝の遠足

in富士急ハイランド

新年二日目の皇帝は、なんと富士急ハイランドで大絶叫〜。いつもニコニコ笑顔で冷静沈着な皇帝だが、この日は試合後&大好きな絶叫マシーンに乗れるとあって、信じられないくらいハイテンション! その一部始終を『kamipro』が独占追跡させていただいた。これはもう、隅から隅までチェックするしかない!!

緊急追跡隊/松下ミワ　緊急追跡カメラマン/菊池茂夫

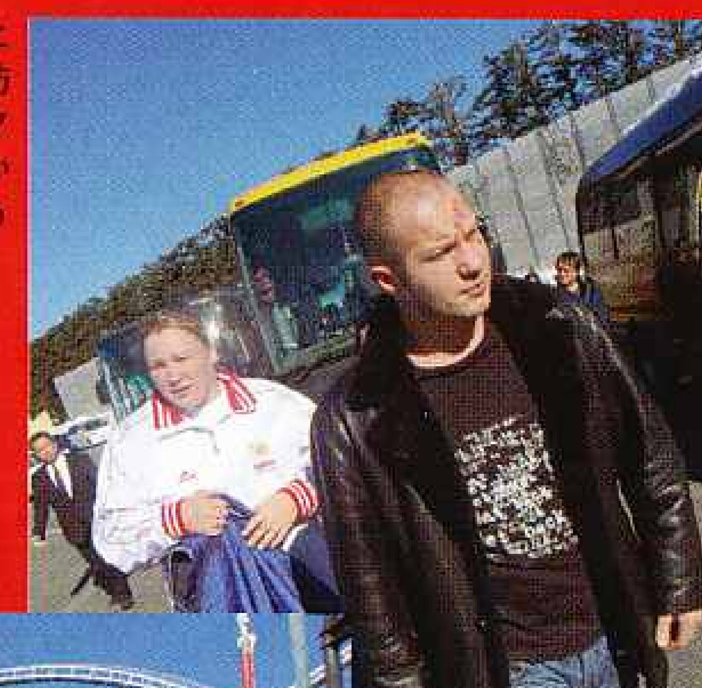




真っ先にバスへ乗り込むヒョードル。ほかのメンバーがグズグズ乗車するのを見かねて、「早く乗りましょう（微笑）」と、リーダーシップをとる姿が印象的だった。



バスの中では"ジャイアン・シート"に座るヒョードルを中心に、トランプに興じる御一行様。そのメンバーの一人から、『kamipro』追跡隊はガムをもらったりもした。



貫禄の表情でバスを降りるヒョードル。一度、この地を訪れたというヒョードルは、クオリティが落ちてはいないかと、まるで品定めをするような眼光の鋭さを見せた。



しかし、鋭い目つきはほんの一瞬だけ。メンバーの一人が持ってきたビデオカメラを自ら回すヒョードル。バックにある温泉の効能が書かれた看板とのミスマッチぶりがたまらない。



このフリーパスは全部ヒョードルのゴチ！　さすが、太っ腹具合も"60億分の1"である。「あざーっす！」とばかりに御一行様は皇帝からチケットを受け取った。



さあ、チケット用のカードケースを首からぶら下げ、いよいよ絶叫タイム!! というか、こんなに目がキラキラしている少年のようなヒョードルは見たことないよ！

08年1月2日。「いやー、今日もじつにいい天気ですねえ〜」と、朝9時前からノンキな話をしていたのは、筆者の自宅から余裕で1時間以上かかる某ホテルの玄関前。普通の人にとってはそんなに早くない時間かもしれないが、基本的に"夜行性"の『kamipro』編集部員にとっては、まさに地獄の集合時間である。

しかし、この集合は我々にとってかなり重要な意味を持っていた。そう！　何を隠そう、これから皇帝ヒョードルと一緒に富士急ハイランドに行くのだから!!　なんともヒャーと驚くこの企画。じつを言うと、年明け前から編集部内では「1月2日、誰かにヒョードルと富士急に行ってもらう」と、そんなオメデタすぎるお達しが下っていたのだが、まさか本当にこんな"夢の遠足"が実現するなんて！

前情報によると、なんと皇帝はかなりの絶叫マシーン好きとのこと。いやはや、なんたるこの組み合わせ！　今回の遠足はヒョードルが立案者で、ロシアから連れてきたお友だちを喜ばせるために企画したのだという。ちなみに、お友だちは全部で10人。メンバーの中には相撲の女子チャンピオンだったり、ドイツの団体で活躍しまくる女子ボクシングのチャンピオンだったり、よくわからないけど見る人が見たらきっと凄いであろう方々も含まれているからドキドキだ。そんな御一行様だったわけだが、聞くところによると今回の富士急行き、すべてヒョードルのゴチだというではないか!!

しかし、試合が終わったばっかりなのに、皇帝御一行様は本当9時に集合できんのか!?　と、かなり疑っていたのだが……、これは驚きだ！　9時にはヒョードルを含む総勢11名が非常にサッパリした顔でホテル前に集合したではないか。気合いが入っている。そして「乗りましょう（微笑）」と皇帝にうながされるまま、全員が颯爽とバス付近に集結。順序よく車内に乗り込んでいったのだった。

皇帝、バスの中からあるものを目撃！一瞬にして車内騒然

こうして皇帝御一行様と、『やれんのか！』スタッフ、『kamipro』緊急追跡隊はバスに乗り、いよいよ出発。バスの中で、皇帝は迷うことなく"ジャイアン・シート"（一番うしろの真ん中）へ直行。その皇帝を囲むようにお友だちが次々と着席していった。

ああ、お友だちをはべらせる今日の皇帝は、なんだかいつもと違って暴君キャラに見えてしまう。先ほどの「乗りましょう（微笑）」というセリフも、もしかするとお友だちにとっては「乗れよ」というニュアンスだったのかもしれない——。

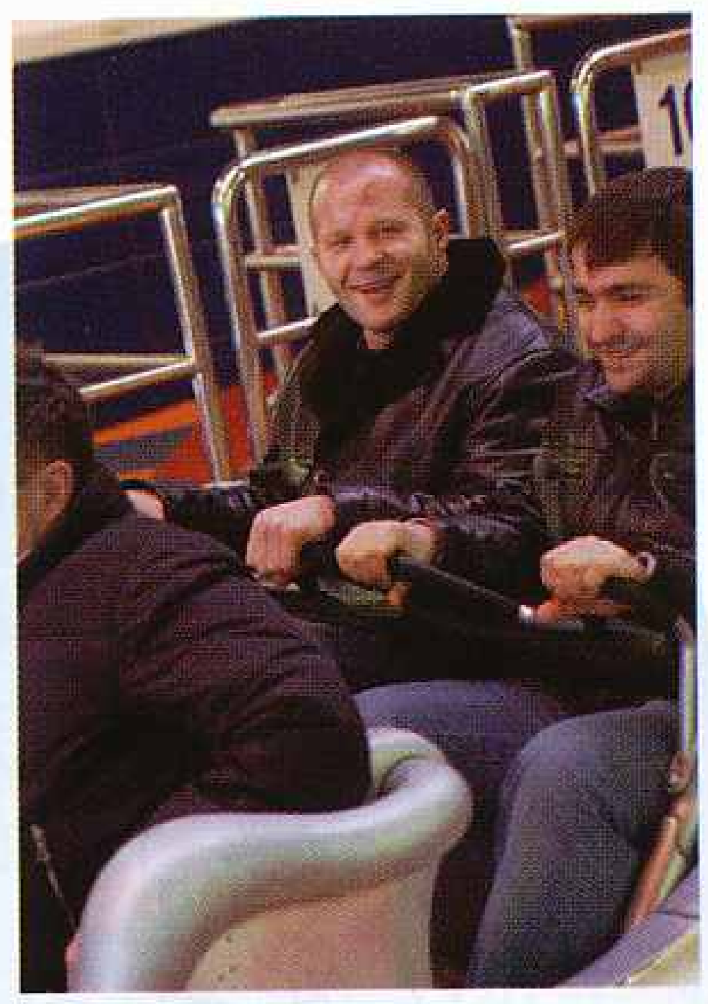
そんな皇帝御一行様は皆、絶叫マシーンへのモチベーションがかなり高いらしく、富士急へ向かう道中も終始気が気じゃないご様子。と、そんな雰囲気の中、ここで突然皇帝が何かを目撃したらしく、窓の外を指さした！　皇帝の動きに「なんだ、なんだ!?」と車内は騒然。身を乗り出すその方向には、なんと遊園地らしき情景が見えるではないか！　早くも到着か!?　そんな乱れた車内をとりまとめようと、中腰状態の皇帝は「あれなのか!?」と、高鳴る鼓動を抑えきれずにスタッフを詰問。

……しかし、よくよく考えると、出発してまだ1時間弱。富士急まではゆうに2時間はかかるはずである。案の定、残念ながらそれは富士急の輪郭ではなく、別の遊園地だった模様だ。スタッフがその旨を告げると、「Oh〜……」といった感じで車内にはなんだか笑い混じりのため息が漏れたのだった。

富士急に到着するも皇帝は余裕の表情！その理由とは……!?

道中、ムダにフェイントをかけながらも、いよいよ富士急の絶叫マシーンが視界に入ってきた！　まだバスが停車していないにも関わらず、次々と席を立ち、バスの出口に並ぼうとする御一行様。あわてすぎである。しかし、主役である皇帝はそんな余裕のない行動はしない。理由は簡単、ズバリ、皇帝は富士急経験者だからである！　いやいや、ま

皇帝のお正月
2008年1月2日編



皇帝が最初に乗ったのは最高地点79メートルという大人気絶叫マシーン「FUJIYAMA」。皇帝はこの「FUJIYAMA」が大好きらしく、富士急ハイランド自体のことも「フジヤマ」と呼んでいた。



時速130キロのスピードで、皇帝はこの表情。二度目とはいえ、このゾクゾク感はたまらないであろう。ちなみに、ヒョードルもこの写真は自ら購入していましたよ。

さか我らが皇帝にそんな歴史があったとは!!

フリーパスを人数ぶん購入した皇帝は、"初心者"のお友だちにそれを配りながら「こっちだぜ」と親分オーラ全開で全員を誘導。そして、一番はじめに向かったのは、なんと富士急で最もエキサイティングな絶叫マシーン「FUJIYAMA」であった!! 一応、説明すると「FUJIYAMA」は最高地点79メートル、最大速度・時速130キロの"キング・オブ・コースター"。しかし、初っぱなにこれをチョイスするとは、さすが"60億分の1"。強敵となる相手は最初から潰そうという作戦か。

ただ新年2日にも関わらず、場内はけっこうな混み具合だ。「FUJIYAMA」も当然のごとくかなりの列を成していたのだが……。ここはビックリするほど紳士的な皇帝御一行様。全員がニコニコ顔でちゃんと列に並んで順番待ち。"60億分の1"をひけらかさず、来たる時を静かに待つその姿には、ため息が漏れるほど感心させられたのだった。偉い! 偉いよっ!!

絶叫後、興奮状態の皇帝にさっそく直撃!! ところが……!

そして、いよいよ皇帝の順番がやってきた!! いくら二回目とはいえ、この興奮はもはや抑えらはしまい。そのテンションのままに、『kamipro』緊急追跡隊にかつ



興奮状態のままコースターを降りると、そこには写真売り場が出現。ここで、ヒョードルの写真を見つけた一般のお客さんは、自分の写真そっちのけでヒョードルの写真を強引に購入しまくっていたのだった。

てない笑みを見せる皇帝をキャッチ！（15ページ写真参照）。か、かわいすぎるでしょ!! そんな胸をときめかせるのもつかの間、ついに出発のベルが鳴り響いた!! ああ、ヒョードルよ、いってらっしゃ〜い。

「FUJIYAMA」乗車一回ぶんの所要時間は3分36秒。さあ、皇帝はいったいどんな顔をして戻ってくるのだろうか——。

しばらくすると……、むむむっ！ 皇帝が戻ってきた!! なんと、これまた予想をはるかに超えるハイテンションぶり!! 皇帝がコースターから降りる様子をずっと目で追っていたというカメラマンいわく、皇帝は一瞬、心なしかスキップするかのようなフワフワしたステップを踏んでいたそうである。ああ、ここで興奮の声を聞かなければ、いったいどこで聞くというのか！ そんな思いを胸に、〝躁状態〟の皇帝から強引にコメントを取りに行く。

「どうでしたか!? やっぱり、怖かったですよね!!」

とロシア人の皇帝に無理やり日本語で話しかける追跡隊。さあ、答えてくれ、皇帝よ！ そんな追跡隊の情熱が伝わったのか、皇帝がいよいよその口を開いた!!

「ゴメンナサイ。何を聞かれているのかワカリマセン（微笑）」。

これ、冷静すぎる上に、かなりショック……。でも、そりゃそうですよね。それはそれは〝公務〟を多くこなす皇帝だもの。いくら興奮状態とはいえ、理解できない質問には、いいかげんに答えるわけにはいかないのである。

多少の混乱もありながら、スタッフの方になんとか英語で通訳してもらい（皇帝はかなり英語が話せるのだ）、先ほどの質問に答えてもらったところ、「まったく怖くないです（微笑）」「最高でした！」ということであった。そうですか。それはよかった。言葉の壁をモロに実感した瞬間だったが、皇帝が幸せならぜんぜん問題ないです!!



やっぱり予感的中！ 皇帝との遭遇に一般客が大あわて!!

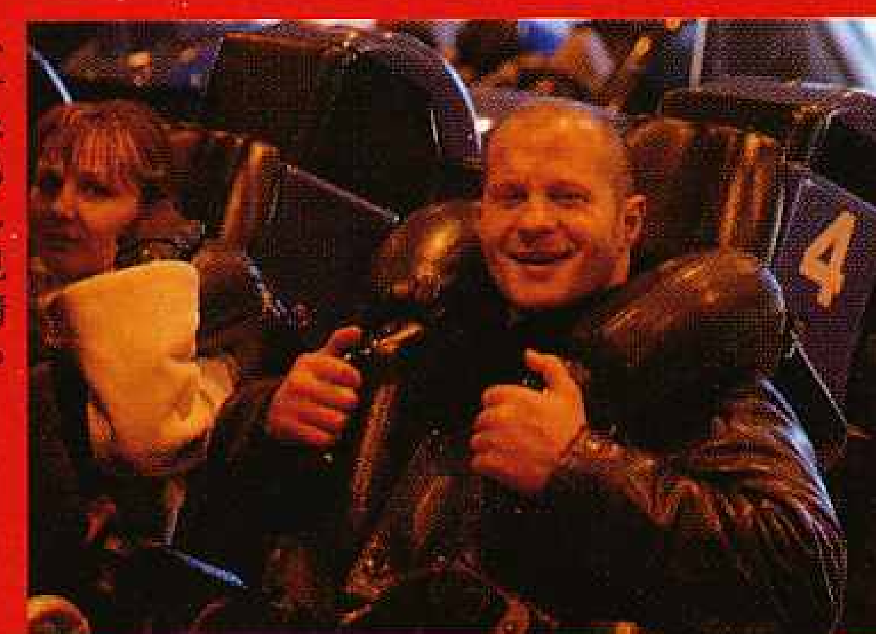
こうして対「FUJIYAMA」戦は大満足のまま終了したのだが、どん欲な皇帝一行の野心はとどまることを知らない。その後も「絶叫系」というテーマを外すことなく数々の〝敵〟を果敢に攻める。そして、





どの絶叫マシーンもほぼ1時間近く順番待ちをしていたが、何も文句を言うことなくひたすら並び続ける皇帝一行。周囲からは「偉いねえ」と感心の声が漏れていた。いや、ホントに偉い！

二番目に乗ったのは、総回転数世界一のローラーコースターでギネスにも認定されている「ええじゃないか」。しかし、皇帝の表情を見ると、そんな細かい情報はどーでもよくなったりする。





もはや、何がなんだかわけがわからないショットだが、皇帝が大喜びしている雰囲気だけは、ビンビンに伝わってくる写真である。



こちらは発車後、わずか1.8秒で時速172キロまで到達するハイパー絶叫マシーン「ドドンパ」である。写真は皇帝の"内臓が浮く瞬間"のショット。



この日最後に乗車したのが、振り子運動する上に回転までしてしまうアトラクション「トンデミーナ」。真っ逆さまになりかけるも、皇帝は少年のようなこの表情。



もう帰ろうかと、皇帝一行が駐車場に向かおうとすると、なんとどんどん群衆がついてくるではないか！　中には「息子は格闘技をやっているんです!!」と興奮状態で訴え、撮影を乞うお客さんも。

皇帝のお正月 2008年1月2日編

そのたびに皇帝は満面の笑みを浮かべるのであった。このへんは写真を見れば一目瞭然だろう！

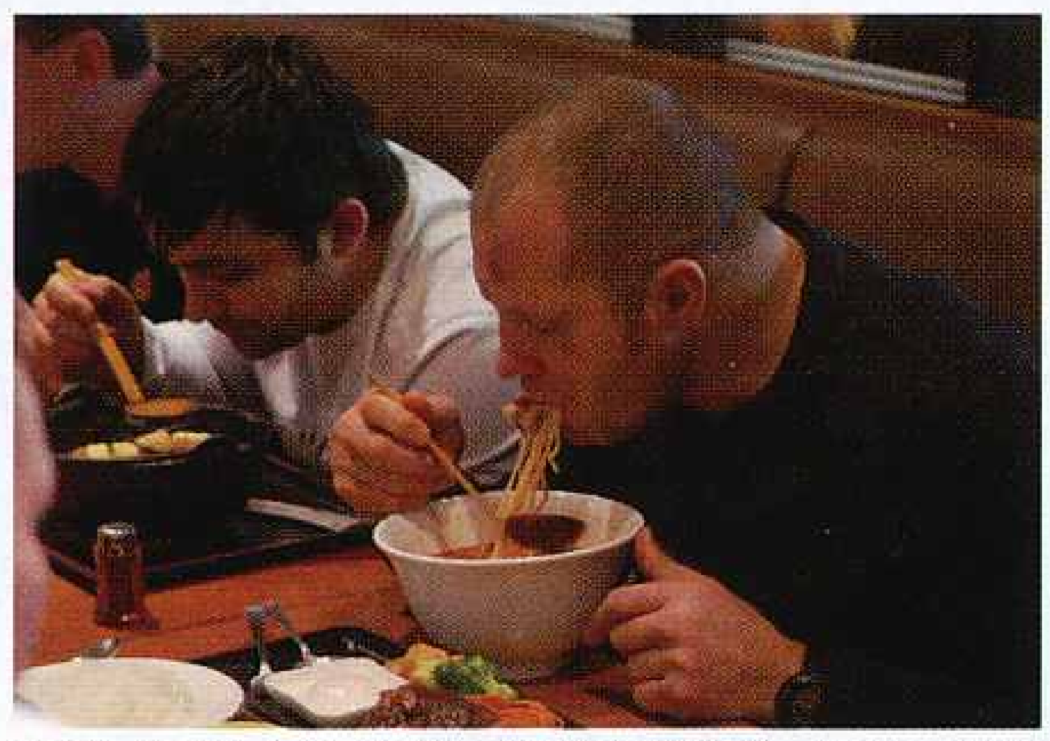
しかし、ただでさえ知名度がある上、二日前にチェ・ホンマンと闘った姿が地上波で放送されたこの皇帝を、偶然にも富士急に遊びに来た浮かれ気分のお客さんたちが放ったらかしにしておくはずはない。ひとたび皇帝を見かけるや、「あれ、ヒョードルだよね？」「チェ・ホンマンと闘った人でしょ？」などと、一部がひそひそ話し始めると、あら大変！　皇帝が向かうところにゾロゾロと群衆がついてくるではないか!!　混乱しまくってるけど、大丈夫なのか!?

ところが、そんなことには慣れっこ（？）の皇帝。この騒ぎにも「微笑」で対応だ！　10人のお友だちを率いながらも写真撮影や握手を嫌がることなく〝60億分の1〟の貫禄を見せつける。素晴らしいなあ〜。えっ？　ただ、チヤホヤ状態で嬉しかっただけじゃないかって!?　いやいや、この際、そんなことはどーでもいいのだ！

帰り道は本能のおもむくままに——

こうして、富士急を堪能し、帰路についたのは15時30分。なんと、御一行様は9時の出発からちゃんとした食事をとらずに絶叫マシーンに興じていたのだ。って、どんだけ夢中なんだよ!!

というわけで、帰り道の途中、談合坂のパーキングエリアで〝昼食〟をとった皇帝御一行様。11人も日本語がしゃべれない人間がいる中で、誰が何を注文したのかわからなるというトラブルが発生しつつも、ようやく食事にたどり着くことができた。その後の車内といえば、行きの興奮とは対照的に、寝息が合唱する穏やかな空間となったのだった。



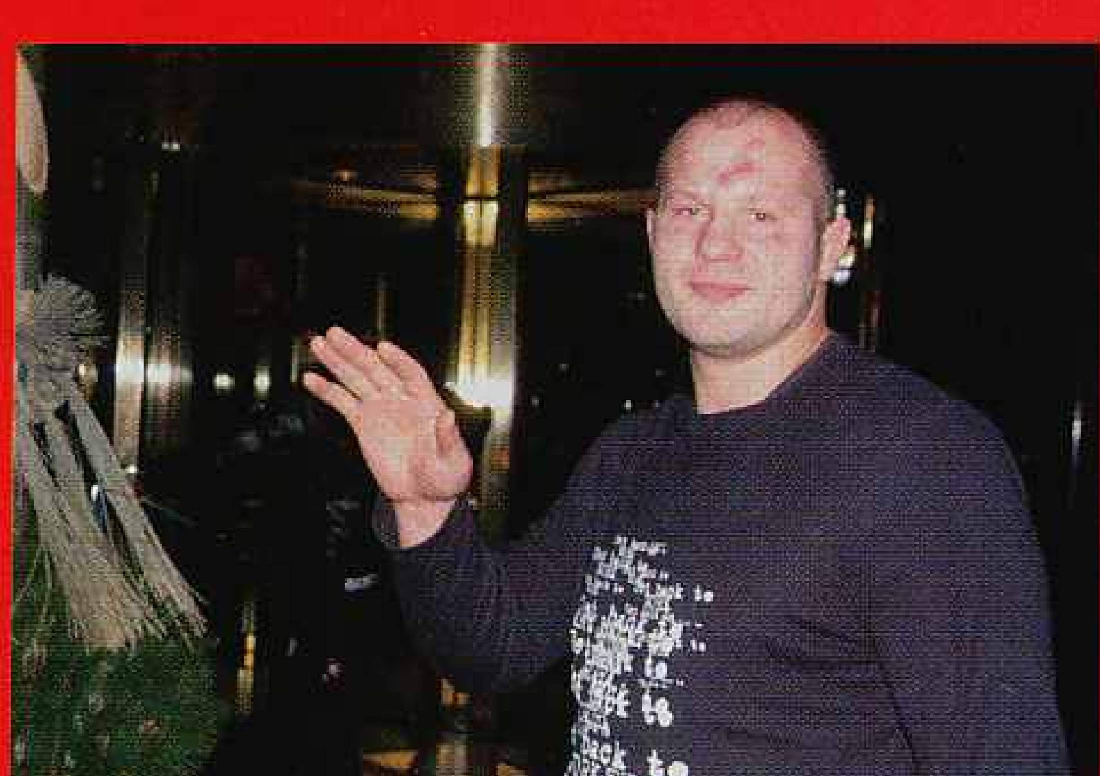
この日“昼食”をとったのは、なんと16時30分。じつは、約7時間半何も食べていなかったのだ！　ちなみに、皇帝が注文したのは担々麺。中華もイケるクチなのである。

それにしても、人類最強がこんなにおちゃめな姿を見せることがあるなんて。ああ、日本にハイクオリティな絶叫マシーンがあるかぎり、皇帝が日本を見捨てるなんてことはおそらくないんじゃないだろうか。いや、きっとない！　皇帝のあの喜び具合を目撃した者なら、誰もがそう確信できるはずである。そんな、超ごきげんな一日を、我々『ｋａｍｉｐｒｏ』追跡隊は一緒に過ごさせていただいたのだった。

しかし、08年元日はジャン＝クロード・ヴァン・ダムとの対談、2日は富士急ハイランドへ遠足と、皇帝の新年は早くもビッグスケールで、夢いっぱい！　ああ、ヒョードルよ。そのドリームを、今年もぜひ日本マット界におすそ分けしてくださいませ。3、2、1、皇帝、バンザ〜イ！



「（写真右の）記念撮影ボードから顔をのぞかせると、きっといい思い出になるよ」と、皇帝のおもしろショットを撮影しようとするも、「私はだまされません」とヒョードル。さすがの洞察力だ。



眠い目をこすりながら、「バイバイ」と手を振ってくれたヒョードル。でも、「これからまた大宴会が行なわれると思います」とスタッフの情報が。これぞ、皇帝流正月の過ごし方なのだ！





「郷野さんがそう言うから
ヒヤヒヤしてるんですよ！」

カーボール・キック対談

A×三崎和雄



「和雄は大晦日で人生の運を使い果たしました！」

新春GRABAKAサッカー
DJ GOZMA

秋山成勲から劇的なTKO勝利を収め、大晦日の主役をもぎ取った男、三崎和雄！
「いったいどういうファイターなの？」という本誌読者の声に応えるべく、
チームメイトのDJ GOZMAこと郷野さんが「♪Na-Na-NaNaNa～！」とやってきた！
さあ、三崎の入場のように腕をブルンブルン回しながら読め!!

聞き手／阿修羅チョロ　構成／ジャン斉藤　撮影／乾晋也　試合写真／平工幸雄、山口比佐夫、平専英

——大晦日の秋山成勲戦で一躍、時の人になった感がある三崎さんなんですが、地上波放映の影響からか三崎和雄というファイターに興味を持った人が非常に多いんですよ。そこで、三崎さんのチームメイトにして先輩でもあるＤＪ ＧＯＺＭＡこと郷野さんの出番じゃないか、と。

郷野　なるほどね～。じつは似たような依頼はよく受けるんですよね。

三崎　え？　そんなこと、よくあるんですか？

郷野　合コンやったあとによく。「一緒にいた誰々ちゃんが三崎さんに会いたいって言うんだけど、もっと詳しく教えて！」って（笑）。

三崎　全然違うじゃないですか（笑）。

郷野（無視して）まあでも、大晦日の試合は反響あるのは当然だね。まずね、一番ビックリしたのは、このオレが他人の試合であそこまで熱くなって興奮したことはこれまでなかったんですよ。

——それくらいの大熱戦だった！　と。

郷野　和雄が『ＰＲＩＤＥウェルター級ＧＰ』で優勝したときも、オレが負けたから悔しいなっていう気持ちがあって、そこまで熱くならなかったんだけど。今回はホントに勝った瞬間、身の毛がよだったというか。髙田（延彦）さんが言うところの「鳥肌立ったっ‼」という感じだったんですよ（笑）。

——それだから、いてもたってもいられず山本小鉄ばりに解説席を飛び出してリングインしてしまったというか。

郷野　そうですね。勝ったらリングに入るというのはもともと予定どおりだったんですけど。

——以前のインタビューでも「和雄が勝ったらオレが肩車する」と言われてましたけど、あわよくば目立とう、と（笑）。

郷野　そうそう（笑）。で、家に帰ってからも興奮してなかなか寝つけなかったんですよ。自分の試合だとたまにそういうことがありますけど、人の試合で朝になるまで寝つけなかったというのは初めてでしたから。だから自分の試合に近いくらいのものを感じたっていうのがオレにとっては凄かったですよね。



——同じくＰＰＶ解説をされた髙阪（剛）さんも、「たくさん試合を観てきたけど、他人の試合であんなに鳥肌が立ったのは初めてだった」と言われてましたね。

郷野　ホントに凄かった。ＧＰ優勝といい、和雄には最後に持っていく何かがあるのかもしれないですね。

DJ GOZMA×三崎和雄

三崎　どうなんですかね～。

郷野　まあでも、オレらＧＲＡＢＡＫＡの仲間内では、和雄はＧＰ優勝で人生の98パーセントの運を使って、残り2パーセントの運を残りの人生で細かく細かく分けて生きていくんだろうみたいなことを言ってたんですよ。

三崎　郷野さんたちにそうやって言われて、ボクはヒヤヒヤしながら人生を送ってるんですよ（苦笑）

郷野　でも、大晦日にまたドカーンときましたからね。さすがにもうこれで終わりでしょう！　あとは余生をゆっくり過ごすだけです（笑）。

三崎　もうやめてくださいよ！　今回の試合前までずっと、そう言われたことが頭の中にあったんですから（笑）。

郷野　まあ、オレから見てると、三崎和雄は神がかった強さを持ってるんですよ。たとえば、窮地に立たされて「もう行かなきゃオレは負ける‼」っていう気持ちの闘いになったときに格闘技の〝技〟の部分が取れて、本当の〝格闘〟になっちゃうんですよ。

——そうなったときの三崎さんは手がつけられない！　と。

郷野　ホントに強いですよ！　それは昔の練習からそうです。一発もらうとスイッチが入って、そこからとんでもないパワーが出ますからね。そこがデニス（・カーン）との大きな違いでしたよね。デニスは秋山に一発もらって明らかに動揺が顔に出たじゃないですか。同じ状況で和雄は弱気になる自分が許せないんだと思うんですよ。自分との闘いという部分もあると思うし、昔の表現を使うと、「イモ引く俺は許せねえ‼」みたいな（笑）。

——じゃあ、試合後の三崎さんのマイクアピールもスイッチが入っちゃったんですかね（笑）。

郷野　やっぱり客観的に見たらあのマイクは突っ込みどころ満載なんですよ（笑）。でも、あれだけ極限の状態で試合をして、どんな人にもわかりやすく話せっていうほうがおかしいと思いますね。

——確かに試合直後のことですし。

郷野　ま、そこをフォローできるのはたぶんオレぐらいだし（笑）。

三崎　アハハハハ。

郷野　アレも魂の叫びではあったと思いますよ。でも、その魂が出すぎてて（笑）。本能で何かを伝えたかったんでしょうけど、そこに自分の気持ちを伝える道具である言葉というものをうまく使えてなかったな、と。

——獣と化してたんですね。

郷野　そうそう。「ウガウガガ～！」みたいな感じで。そこに感情的な要素をまったく入れないで見たら、どう見ても悪意があってああいうことを言ってるわけないんだから。表面だけを見て、それを感情的に解釈するのがお客さんなのかもしれないですけど、やっぱりそういう感じで見られたのはちょっと残念ですねえ。

——あと、最後のサッカーボール・キックがいまだに各方面で論じられたりしてますけど。

三崎　あのキックについてボク自身の思いで話をすれば、もちろん反則を狙ってやったわけでもないですし、ファイターとしての感覚的な問題だと思うんですよ。もちろんボクはルールを把握しているし、相手がパンチでダウンして起き上がってくる、そこを狙う蹴りという認識がボクの中であるんで。

——つまり、ルールに則った合法的な攻



これが前日会見における魔王こと秋山成勲の出で立ち!! たしかにGOZMAとソックリ。いつか魔王の「♪Na-Na-NaNaNa～！」も見てみたい!?

撃を狙っていたわけですね。

三崎　それが結果的に協議されて、下された審判によってはボクの中で受け止めなければいけない場合も出てくるのかもしれないですけど。

——郷野さんは、あのサッカーボール・キックについてどう思いますか？

郷野　オレ？

——チームメイトとして。

郷野　チームメイトとしてでいいなら、全然しゃべれるけど。オレなりに客観的に見ても、ルール的には微妙なところだとは思うし、微妙って色で言ったらグレーでしょ。まあ、グレーゾーンなわけで、結局は〝疑わしきは罰せず〟なんですよ。だからやっぱりあれは反則とは言いきれないと思いますよね。それに闘う側としても、パンチが効いて倒れたとき、あんな無防備な立ち上がり方は絶対しないしね。

——ちなみに海外の総合の大会では、あいう蹴りをもらわないような〝はいはい状態〟の闘い方をしている選手が出てきてるみたいですからね。

郷野　へえ～、そうなんですか。そうすると競技の本質から離れちゃうじゃないですか。だからあれはあまりにも無防備に立ちすぎた秋山選手の失敗だと思いますけどね。

——こういう状況になると、やれ再戦だなんだという声が報道されちゃいますけど、三崎さんはそのへんはどうですか？

三崎　今回の試合に関していえば、もちろんボクも勝つためにリングに上がってるわけですけども、勝ち負けをつけるためにリングに上がろうと決めたわけではないです。まず秋山さんとリングの上で向かい合って睨み合いたいという本意が一番強かったんで、今回の試合を見て再戦だって言われたところで、ボクの人生の中でその必要があるのかなって。これからまた秋山さんが活躍して、ボクも運よく活躍することができて、またこの二人の対戦が観たいって声が挙がれば、また勝負するときが絶対に来ると思うんですよ。ただ、いまはそのタイミングではないのかなっていう気はします。

——郷野さんは契約の問題もありますし、秋山選手と対戦する可能性はいまのところ低いですが、ファッション的には近い部分がありますね（笑）。

郷野　その件について、ここで弁明の機会をいただいてよろしいでしょうか（笑）。

——はい。ぶり返すつもりはないんですが、ファミレス事件に続いて。

郷野　ぶり返してるじゃん！（笑）。あの～、オレの大晦日のカッコは、秋山選手の大会前日記者会見の衣装をパロッたわけではありません。

三崎　またみんなに言われんじゃないの？「郷野さん、さすがだね～！」って（笑）。

郷野　あえて似たような衣装を着ることで相手に心理的ダメージを与えるみたいな……って、そんなわけねえだろ！

三崎　アハハハハ！

郷野　まあね、そういう効果があったんだったら、それはそれでもいいですけど。実際、ＰＰＶの解説をやるという話もあったし、〝ラストＰＲＩＤＥ〟っていうこともあったし、そして何よりも和雄がＧＰで奇跡を果たしたときと同じ衣装でいるっていう、和雄の勝利を祈るオレなりのゲン担ぎでもあったわけですよ。

オレの大晦日のカッコは、秋山選手の衣装を パロったわけではありません！（郷野）

三崎　ありがとうございます！

郷野　で、ちょっとバージョンアップしてもいいかなって。ＵＦＣでお金も稼いだし（笑）。いろいろ買い集めて、あの衣装に決まったんですよ。で、前日に「さて今日は会見があったらしいからネットでチェックするか」って思って秋山の衣装を見たら、本当に驚きましたね～。

——「あ、秋山と同じだ」と（笑）。

郷野　あんな感じのサングラスも用意してたんですよ！　もう急きょ変更してデパートにサングラスだけ買い直しに行きましたからっ。

三崎　そうだったんですか（笑）。

郷野　ボクも秋山には振り回されました!!（笑）。あと地上波で解説が流れるかと思ったら、スカパー！だけだし。頑張ったのに。気合い入れてしゃべったのに。なんかまだ負のオーラに包まれてて（苦笑）。

——アハハハハハ！

郷野　でもね、秋山選手はファイターとしては尊敬できる強さですよ。良くも悪くも周りに左右されず、それがいいのか悪いのかは別として自分というものがしっかりとある。そこは凄いなあと思いますよね。やっぱこういう世界にいると、周りの目とか批評とかを気にしていろいろ動かされる。秋山にはそういった心のブレがまったく見えないし、闘う相手からしたら、心の動きが見えないっていうのは凄く嫌だと思うし、ホント、イチ競技者としては能力も含めメンタルな面も含め、本当に尊敬できる選手ですよね。かなりスゲエと思いながら観てましたし。







『やれんのか！』に狂気のKAMIKAZEを呼んだ、三崎vs秋山戦！　緊張感溢れる攻防もさることながら、観客や演者の誰もが我を忘れてしまう熱狂空間がそこにあった。それが“けじめのイベント”で起きるなんて、PRIDEの生命力を感じられずにはいられないのである。PRIDEサイコー！

DJ GOZMA×三崎和雄

じつは色が白いんです。柔道やってた頃は柔道衣とカブるくらい白かったんで（笑）（三崎）

三崎　本当に強いですよ、秋山さんは。

―そういえば、今回の秋山戦が決まったときに菊田さんがブログで、二人の共通点として「黒い」って書いていたんですよ。ズバリ言って、三崎選手は……？

三崎　ボクは人工的な黒さです（笑）。じつは元が白いんでねえ。

―えっ、三崎さんはホントは色白なんですか!?（笑）。

三崎　そうなんですよ。それで黒くしたいんですよ。柔道やってた頃は柔道衣とカブるくらい白かったんで（笑）。

―どんな白さですか！（笑）。

三崎　だから黒くなるのに憧れてんのかなあ……。あらためて考えたことはなかったですけど。

郷野　和雄の意外な話はいろいろありますよ。ただ、ボクは彼が悪かった頃を知らないですけどね。

三崎　べつに悪くなかったですよ（苦笑）。

郷野　（無視して）オレと知り合ったときはほぼ更生しかけてました。まだ悪の香りは凄く残ってたんですけどね、時が経つにつれて都会に慣れて、くすみも抜けてね。

三崎　ハハハハ！　じゃあ、みんなはいまの自分に騙されてるってこと？

郷野　そうそう。大晦日も一番熱い試合をお茶の間に披露して、知名度も一気に上がって。田舎ヤンキーがセレブ格闘家の道をいま登っている最中ですね。

―そういえば、三崎さんと地元が近かったという村田龍一さん（吉田道場）に三崎さんの印象を聞いたら、「いやあ、怖かったです」って言ってましたし。かなりのワルだったのは間違いないみたいで（笑）。

三崎　う〜ん、ボクの中ではやんちゃしてるイメージはなかったんですけどねえ……。

郷野　オレが死ぬまで忘れないだろうなっていう和雄の写真があってさ。チンピラファッションでヤン車のボンネットの上になぜかあぐらをかいてるんですよ（笑）。

DJ OZMAというよりは、80年代WWF（現在のWWE）にいた悪徳マネージャー然としている郷野のキャラクター。ちょっと戸惑い気味の三崎もサイコーだ。ガンバレ、ニッポン！



和雄の意外な話はいろいろありますよ。彼が悪かった頃は知らないですけどね（郷野）

―アハハハハ！　それ、確実にワルじゃないですか！

三崎　いやいや、田舎なんで、それが最先端のファッションみたいな感覚なんですよ。それに行ないは悪くないんですよ。どちらかというと昔から正義感が強かったんで、弱いものいじめ的なこともしてないつもりですけどね。周りはどう受けとめてるのはわかんないですけど。

郷野　（無視して）あと綾小路翔さんが「三崎さんは俺らでもしないファッションをしてたよ」って言ってたし（笑）。そういうのを聞いて、やっぱり悪かったんだなあって思いましたけどね。

―そういう最先端のファッションをしつつも、三崎さんは女の子には、かなりモテたと聞いてるんですけど。

三崎　そんなことないですよ（笑）。これはねぇ、いまも昔もそうなんですけど、ボクの周りは男しかいないんですよ。で、ボクは男のほうが好きなんですよね

―い、いきなり何を言い出すんですか（笑）。

三崎　いやいや、へんな意味じゃなくて。男の心が好きなんです。

郷野　ああ、わかるな、それ。

三崎　だから女の子に男の心があったら、もう最高ですよね！　だからやっぱり男臭いのが好きなんでしょう。子どもの頃から男と遊んで、柔道やって、いまは格闘技で、ずっと男の中にいますから。女っ気がホントにないんですよ。会場だけを見ると派手なイメージってあるじゃないですか。だからよく「モテるでしょ」とか言われるんですけど、ボクたちは個人競技なんで日常生活がすぐに結果として出てしまうんですよね。食事から生活スタイルから、いろんなことを節制して生活してて、試合当日からは想像がつかないような質素な生活をしてるんですよ。

郷野　そのうえで合コンをやる、と（笑）。

―アハハハハ！

三崎　最近はやってないですけどね（笑）、

郷野　ボクは合コンに三崎和雄をあんまり呼ばなくなりました。合コンやると女の子は和雄のほうに行くからね（笑）。

三崎　あ！　最近、ねーなと思ってたんだけど（笑）。隠れてやってんだ！

郷野　言うほどやってないけどね。でも、和雄は合コンには呼べないですよ。

―それくらい三崎さんはモテると？

三崎　う〜ん、やっぱり顔ですかね？　どうですか、先輩？（笑）。

郷野　いやいや、違うね！　やっぱりオスなんじゃないの？　和雄は絶対に顔じゃない!!

三崎　そこは否定なんだ（笑）。

郷野　顔じゃない！（笑）。

三崎　まあでも、そういうのはあるのかもしれないです。ボクも決してルックスがいいわけじゃないですけど、仮に自分にそのルックスがあって自分のルックスだけに近づいてくる女の子だったら、なんかボクも「オマエなんかいらねえよ」って言っちゃうかもしれないです。ボクの芯の部分、心の部分に来てくれる女性は受け入れたいなって思っちゃうし。でも、そんなこと言いながら、全然、寄ってこないですよ。女っ気がない。

郷野　オレには寄ってくるけどね。「一緒にいた誰々ちゃんが三崎さんに会いたいって言うから、もう一回4人で会えない？」みたいな感じで（笑）。



――郷野さんは女の子からすると電話をかけやすいっていうことなんですかね。

三崎　ボク、郷野さんとかうらやましいのは、女の子と気さくな感じで話ができるじゃないですか。ボクとかは見た目的な問題もあると思うんですけど、電話がかけづらいって感じがあるらしいんですよ（苦笑）。

――なるほど（笑）。

三崎　なんか怖いってイメージがあるらしくて。で、話してみると「全然、普通の人でよかった」とか。一発目に話かけられないっていうのがあるらしいです。でも、郷野さんとかこういうキャラクターだし、ちょっと声をかけやすいとこがあると思うんですよね。

郷野　ええ。こういうキャラクターだし（笑）。まあでもオレも、本当に気に入ってる子にはまったく話しかけられないですけどね……。

――いったいなんの話をしてるんですか（笑）。

郷野　（無視して）そこはたぶんね、オレの自分自身に対する自信のなさなんだよな。そこをホントになんとかしようと思って、いま男磨き中なんですよ。

――具体的に何かしているんですか？　男を磨くために。

郷野　いや、とくにないですけど、昨日の自分より今日の自分より明日の自分がいい男になってるように、まあ、何やってるっていったらトレーニングしたり勉強したり、それぐらいなんですけどね。最近は『報道ステーション』を毎日録って、世の中の動きを必ず把握するようにしてますから。で、ボクに直接関係のある問題としてはドルと円の関係で、ドルで貯金してあるお金をいつ円に換えようか、と（笑）。

――UFCデビュー戦の一本勝ち賞で5万5000ドルですからね（笑）。

郷野　まあ、そんなのもちょっと前からは想像できないですからね。で、いい男になって気に入った女性を射止めよう、と。格闘技もその一環ですね。

――わかりました（笑）。GRABAKAジャパンの世界に向けての活躍を期待してますので。

郷野　だいぶ土台がしっかりしてきた感じですよね。こうやって結果を出したんで。道場でも、みんなつばぜり合いというか、紙一重のスパーリングをいつもやってるから、どこに出てもいけるって印象があると思うんでね。今年からみんな自信を持っていけんじゃないかなと思いますけどね。

三崎　そうですね。リングや団体にとらわれず、自分の道をしっかり歩いていきたいなというのはあります。あとは試合が終わった瞬間にGRABAKAの仲間の中に飛び込んでいきたいというか。試合が終わったあと、まず仲間のことが頭の上にバーって広がりますから。

郷野　そうだね。これだけ仲間意識が強いチームって、世界を見渡してもないんじゃないですかね。やっぱりみんなお金の問題とかで離れたりくっついたりしてるじゃないですか。そういうことはオレらないし。いまいるメンツというのは本当に兄弟と言っても差し支えないぐらいの結びつきはあると思いますね。そのわりに普段はまったく遊ばないんですけど（笑）。

――まあ、芸人とかもそうだって言いますしね。

郷野　だって普段の結びつきを10点満点で表わすと、和雄とは4ぐらいですからね。で、菊田さんは1（笑）。

三崎　そういう関係が逆にいいのかもしれないですね。

郷野　そう。闘いという非日常にみんなが集まって、一緒に闘うって感じでまとまれるという意味では、素晴らしいチームだなって思いますよね。

――お二人の2008年の活躍を期待してます！

【08年1月10日／都内・新大久保のGRABAKA柔術クラブにて収録】

みさき・かずお■1976年4月25日、千葉県出身。01年パンクラスのネオブラッドトーナメント優勝者。PRIDEウェルター級GP2006優勝。ハイテンションな入場は必見。178cm、86kg。

ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都出身。修斗、パンクラス、PRIDEを経て、現在はUFCに参戦中。恒例の入場パフォーマンスでオクタゴンにある意味、戦慄を走らせた。176cm、77kg。

総帥・菊田に続いて三崎が『戦極』に参戦!!



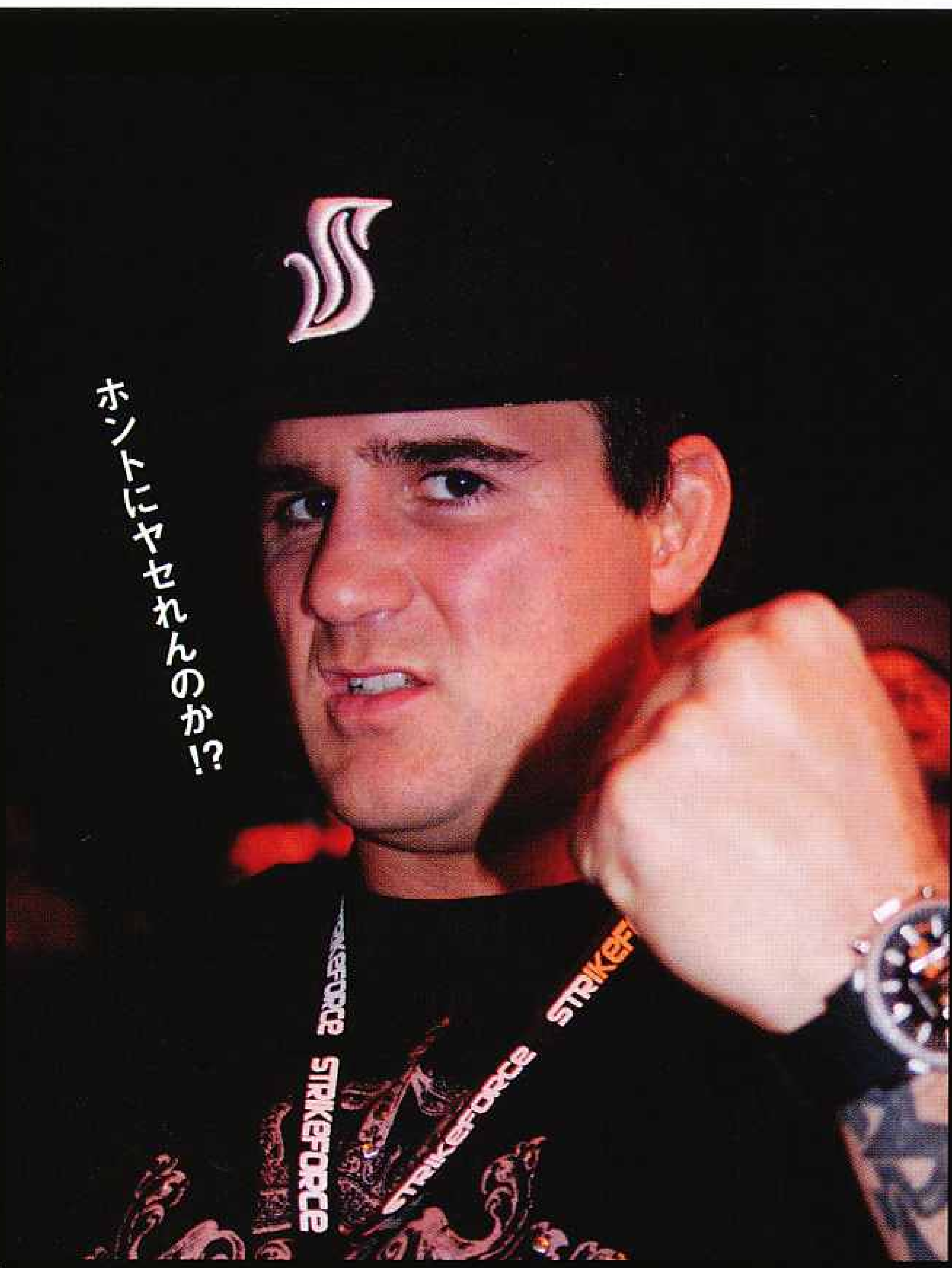
衝撃の戦極ビターン!!　サッカーボール問題により秋山成勲との再戦が取りざたされている三崎だが、次の戦場は3.5『戦極』に決定！　1月14日の時点で対戦相手は決まっていない。腕をブルンブルン回しながら詳細を待て！

郷野のオクタゴン第二戦！相手は超実力者だ！

白星デビューを飾った郷野に難敵！　3.1『UFC82』でジョン・フィッチと対戦することになった。フィッチといえば、WJ主催のX-1に参戦したことで（本誌読者には）知られているが、UFC7連勝中。ズバリ強敵だ。ちなみに同大会はアンデウソンvsダンヘン戦も組まれており、かなり見逃せない。どうにかして観よう!!



PRIDEでマーク・コールマン、ケビン・ランデルマンとともに筋肉三兄弟の一員として人気を博したフィル・バローニが3・5『戦極』旗揚げ戦に参戦!!『PRIDE武士道 其の拾』有明大会では近藤有己を秒殺KOするや、緊張感から解放されて男泣き。『PRIDE・32』ラスベガス大会では、ヒョードルに負けたコールマンの娘たちを哀れんだ記者に対して、「人生ってのはそもそも残酷なものなんだ。彼女たちは世界最強の男と闘った父親を誇りに思えるはずだ!!」と熱くスピーチをぶった夕焼け番長。そんなムダにバイタリティ溢れる男が日本に帰ってくる!! 本誌は参戦決定直後のバローニを電話で直撃! ひさしぶりの来日を目前にすでに気合い満々かと思いきや……!?



——バローニさん!『戦極』旗揚げ戦の試合が決まりましたね! もうすでに激しいトレーニングを始めてますか?

バローニ いいや、それがいまは故郷のニューヨークに来ているんだ。妹のウェディング・パーティがあってね。ヒック!

——あれ、バローニさん、酔っぱらってるんですか?

バローニ ん〜、酔ってちゃいけないって言うのか? かわいい妹の結婚式なのに〜!? (声を裏返して)。

——わわわ、落ち着いてくださいよ! しばらく試合をしてませんでしたけど、いまの体重はどれぐらいですか?

バローニ (自信満々に)いまは、209ポンド(=約95キロ)だな!

——試合は83キロ契約ですよね……。全然ダメじゃないですか!(笑)。

3.1戦極で男泣きリサイタル開演!?

“PRIDEの夕焼け番長”が帰ってくる!!

フィル・バローニ

聞き手&撮影/石井史彦　構成/上杉革命

バローニ うるせえヤツだなぁ。結婚式が終わったら練習して、一気に絞るさ。

——だと、いいんですけど(笑)。ところで、バローニさんにはWECからもオファーがあったと聞いていますけど。

バローニ ああ、あったさ。WEC以外にも、UFCやエリートXCからもオファーがあったな。

——凄い! モテモテじゃないですか。

バローニ まあな(再び自信満々に)。俺がエキサイティングな試合をすることは、よく知られているだろ? だからみんな俺にオファーしてくるんだ。

——その中から『戦極』を選んだのは?

バローニ それは……なんでかなぁ? 俺はアメリカ人だし、普通ならこの国で闘うのがあたりまえなんだろうが、俺はなぜか日本が好きなんだな〜、うぃ〜。

——自分でも理由がわからない?(笑)。

バローニ それだけPRIDEを愛していたってことだな。あの舞台は本当に素晴らしかった。ファイターもスタッフも……、(突如、涙ぐんで)なんであのリングはなくなっちまったんだい!?

——わあ! 今度は泣き上戸ですか!!

バローニ うう、グズン……でもな、『戦極』はPRIDEに代わって、世界でナンバーワンの組織になるよ。ヒック! なんたって、俺がそこに出るわけだからなあ〜!!(興奮して)。

——ああ、泣かれたり叫ばれたり、めんどくさいインタビューだなあ(笑)。ところで、『やれんのか!』は観ましたか?

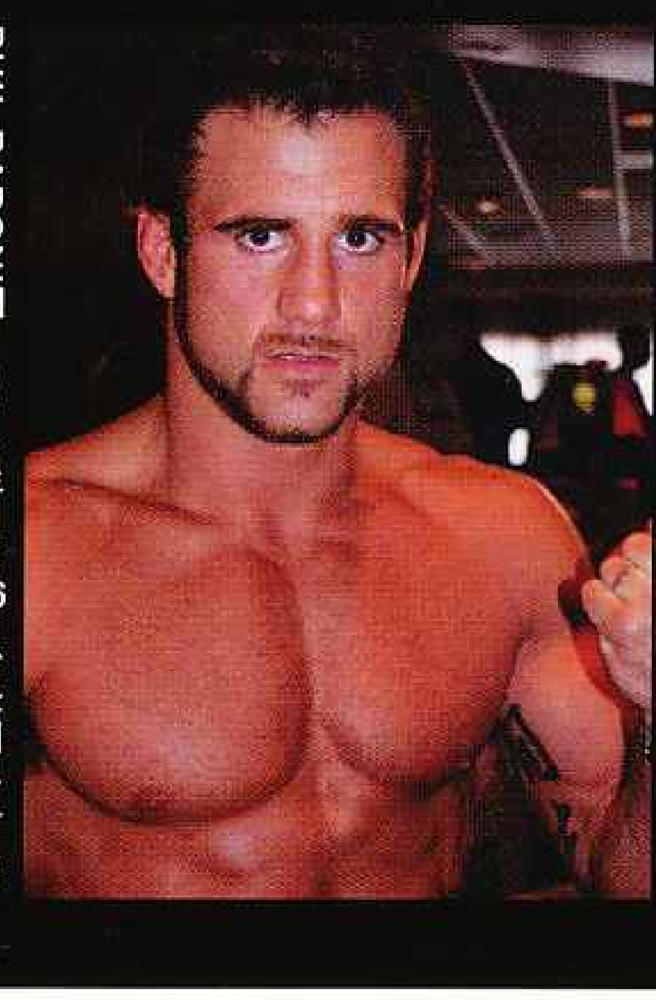
バローニ ああ、観たよ。ミサキ(三崎和雄)とアキヤマ(秋山成勲)の試合は凄かった。でもな、俺はあいつらよりも強いし、それを証明するためにも『戦極』で闘うんだ。ヒック!!

——対戦相手の菊田早苗はADCCで優勝したこともある寝技の達人ですよ。

バローニ ああ、キクタが強いことは知ってるさ。でもな、せっかく日本に戻れるのに、その第一戦でイージーな相手を選びたくなかったんだ。タフな相手と闘って勝つことこそ、男のロマンだろ? スタンドで派手なKOを見せてやるから、楽しみにしていてくれよ。うぃ〜。

——その前に減量がうまくいくことを願ってます!(笑)。

【08年1月12日/米国ニューヨーク州、妹のウェディング・パーティでご機嫌のバローニを電話にて取材】



PHIL BARONI■1978年4月16日、米国ニューヨーク出身。PRIDEでは豪快なパンチで活躍。昨年、身に覚えのない薬物陽性反応で出場停止処分に。以来、ヤケ食いして太っているが、本来は、写真のような美しくカットされた筋肉を見せる。180センチ、83キロ。

戦極 -SENGOKU- 旗揚げ戦
3月5日(水)東京・国立代々木競技場第一体育館
17:00開場/18:30開始

[決定対戦カード(1月14日時点)]
菊田早苗 vs フィル・バローニ
[出場予定選手]
吉田秀彦、三崎和雄、瀧本誠、川村亮
エヴァンゲリスタ・サイボーグ、シアー・バハドゥルザダ
[チケット料金]
VIP席(グッズ付)100,000円/RRS席 30,000円
戦極シート(グッズ付)17,000円
S席 17,000円/A席 7,000円
[お問い合わせ]
ワールドビクトリーロード TEL.03-3369-2211

秋山vs三崎戦を韓国マスコミはどう観たか!?



韓国に広がる

魔王の波紋

文／大川義之　試合写真／平工幸雄

すでに大きな反響があちこちで出ているが、『やれんのか！ 大晦日！ 2007』での秋山成勲vs三崎和雄戦は、本当に素晴らしい試合だった。あの試合からは街頭テレビに映る力道山を観て熱狂していた時代のような、異様な輝きが放たれていた。それを演出したのは、間違いなく稀代のナチュラルヒール、"魔王"秋山成勲である。

その秋山vs三崎戦が、現在韓国でも大反響を呼んでいる。そしてその反応は、やはり日本とはまったく違っている。この両極端な反応の違いこそが、秋山成勲の魅力と言えるだろう。さっそく、韓国はこの試合をどう観たかお伝えしよう！

驚異の視聴率！

まず、データ的な話からすると、TBSで放送された大晦日『Dynamite!!』の視聴率が日本では14・7パーセントであった。日本では『やれんのか！』の一部の試合が"Dynamite!!協力試合"としてTBSで放送されたが、両大会が別々に完全生中継された韓国では『Dynamite!!』が24・8パーセント、『やれんのか！』が22・2パーセントと、驚異的な記録を残した。瞬間視聴率はホンマンvsヒョードル戦の47・3パーセントで（歴代最高視聴率）、秋山vs三崎戦の試合も平均30パーセント近い視聴率を記録した。人数に換算すると、約2256万人が視聴したことになり、韓国では格闘技熱がどんどん高まっているのがわかる。

"反則王"は秋山ではなく三崎？

さて、問題の韓国における秋山vs三崎戦の報道について触れよう。日本の一部スポーツ紙が報じたように、三崎の劇的な勝利は「絵に描いたような勧善懲悪劇」と称されたが、韓国ではまったく逆。フィニッシュとなった左フックからの三崎のキックは、秋山の手がグラウンドについていたため、4点ポジションでのサッカーボール・キックで"完全な反則"というのが定説となっている。これは韓国側では『やれんのか！』とFEGの関係性がしっかり把握されておらず、FEG代表・谷川氏の「あれは反則でしたね」というコメントが、まるで公式発言のように報道されているためでもある。

そして知らないうちに韓国では6月の『HERO'S』大会で両者のリマッチが行なわれることになっていて、三崎にはなんと"反則王"というニックネームがついているのだ。怒りのあまりに自国の英雄・秋山が一年前に犯した反則をすっかり忘れてしまっているようだ。

ただ、この問題はある程度の技術論を含んでいるために、格闘技専門の情報メディアが主導しての比較的冷静な分析が進められており、現在は鎮静化の気配を見せている（それでも結論は「完全に三崎の反則負けにすべき」との論調だが）。

しかし、本当に韓国で問題となっているのは、上記のフィニッシュシーンのことではなく、試合後に三崎が秋山に行なった"説教劇場"のことである。思い出してほしい。二つの大会は、ともに韓国では同時通訳つきで生中継されていたのだ。つまり、韓国人は、日本の中継ではカットされた前田日明が田村潔司にトロフィーを投げつけたシーンも、三崎のマイクもリアルタイムですべて目撃していたのである。

嵐を呼ぶ三崎の"説教劇場"

韓国には「体面が人を殺す」ということわざがあるように、韓国人は人一倍自尊心が強く、公衆の面前で名誉を傷つけられることを最も嫌う。説教される内容が正しいかどうかは問題ではなく、大勢の前で自尊心を打ち砕かれることは、韓国人にとっては死よりも耐えがたいことなのだ。会場中が秋山にブーイングを浴びせる状況に怒りをもって観ていた韓国人は、三崎のコメントを聞いてさぞかし腹を立てたことだろう。

それだけに、大会終了直後の韓国メディアの報道は感情的な意見が圧倒的に多い。「三崎の話はまるで神が罪人に『おまえの罪を赦す』と言っているように感じられるほど、傲慢に見えた」（『スポーツimb













c』紙)。

「三崎の『愛国心』という文字の入ったスパッツは、在日同胞すべてに対する侮辱」(『ｏｈｍｙｎｅｗｓ』紙)

「『日本人は強い』は差別発言で、自民族優越感の表出」(『ダウムニュース』紙)。

「『柔道サイコー！』という秋山独自のコメントをパクった三崎は下品な礼儀知らず」(『ＯＳＥＮ』紙)。

もう、その批判ぶりは「社会の公器たる新聞がこんなに主観的でいいの～?」と驚くほど。さらに韓国メディアの「坊主憎けりゃ袈裟まで憎い」精神は留まるところを知らない。「主催者側の煽り映像は意図的に秋山を悪役に仕立て上げている」と佐藤大輔氏の演出に噛みついてみたり(そうでもなきゃ、いまの秋山成勲に価値が見いだせないことを理解してないのだ)、「日本は最近、野球やサッカー、フィギュアスケートなどで韓国に煮え湯を飲まされているため、韓国に対する民族的劣等感から在日同胞を含む韓国人を排他しようとしている」など、韓国メディアの怒りは日本全体に飛び火しているのである。

三崎vs秋山戦は、よくできたワークファイトだった？

さらに韓国メディアは、秋山vs三崎戦があらかじめ勝負が決められていた試合(ワークファイト)だった可能性についても指摘しているからビックリだ。

「また髙田延彦の存在も疑わしい。髙田は現役時代にも頻繁に脚本演出疑惑や行きすぎたショーマンシップで批判された元プロレスラーだ。髙田は三崎が勝利すると抱擁を分かち合うなど、おおいに興奮した様子を見せた。もし三崎のコメントがあらかじめ準備されたものだったとすれば、これは髙田の思惑と完全に一致する」(『スポーツｉｍｂｃ』紙)

……冷静になれば、元ＰＲＩＤＥの統括本部長である髙田が、PRIDEのウェルター級王者が『HERO'S』の同階級王者に勝ったことを喜んでいることに気づくはずなのだが、ここでは勝敗を陰で操った張本人であることを臭わせている。

また1月10日付の『ダウムニュース』でも「一部では次回興行のために秋山に免罪符を与えて、事前に勝負の操作があったという疑問まで提起されている」という記事が見られるが、これも三崎が『戦極』への参戦を決めたことや、『ｋａｍｉｐｒｏ Special 2008 SPRING』の三崎インタビューで「早期の秋山とのリマッチは望んでいない」と発言していることを鑑みても、興行論を根拠とした韓国側の"ワークファイト説"は論理性を欠く。

悲しいかな、現在の韓国メディアは三崎への憎さが強すぎて、あの試合がいかに素晴らしい試合だったかを忘れてしまっている。逆に言えば、韓国人にとっては、それほど秋山が三崎に敗れたショックと、試合後の"説教劇場"のインパクトが大きかったのだろう。

ただ、1月も半ばになると、少し怒り一辺倒の記事に変化も見られるようになってきた。1月12日付の格闘技専門誌の『ＭＦＩＧＨＴ』は「『日本人は強い』という発言で韓国のファンから批判を受けた三崎和雄は、『誤解の余地を残した』として謝罪したいという意思を表明した」と報じている。これは何を隠そう、これはなぜか最近韓国でかなり注目されている『ｋａｍｉｐｒｏ』がソースなのだが、そのほかにも「三崎の"説教"は、じつは秋山を助けるための配慮だった」など、冷静な記事も見られるようになってきている。

ゴッドアングルを活かせ！

格闘技の試合が、その範疇を超えてこれほど社会的に大きな話題となったり、妄想的憶測を呼ぶのも珍しいが、それは秋山自身の歩んできた運命的な生涯がそうさせているとも言える。

リアルな愛情と憎悪は、大きな熱を呼び、びっくりするほど感情移入できてしまうことを、我々は秋山から学んだ。いまの韓国側の「ちょっとどうしちゃったの?」と怖くなるぐらいヒートアップした憎悪や、「三崎に復讐してくれ！」という怒りの怨念・切実な願いは、ある意味では格闘技界を盛り上げる、よい素材であるとも言える。

イベント側は、ぜひともこのような社会を巻き込んだ熱のあるうねりを、うまくビジネスに結びつけてほしい。そして今回以上にドラマチックな闘いを演出し続けてほしい。これは神の与えた"ゴッドアングル"なのだから。

何がやりたいんだ 田村潔司!?



悩める“頑固者”を元旦に直撃!

大晦日の『Dynamite!!』では所英男に完勝するも、プレゼンテーターの前田日明にトロフィーを投げつけられるというハプニングがボッ発！ かつての師匠の理不尽な行動に言い返すシーンも見られるなど、納得のいかぬまま2007年を終えた田村は、一夜明け会見でも、その件に関する質問はシャットアウト。07年はIGF&『HERO'S』に初参戦、プライベートでは結婚を発表するなど、いろんな意味で我々を驚かせてくれた田村の08年の展望とは!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

―発売日には、ちょっとタイミングは遅くなりますが、あけましておめでとうございます！

田村　今年もよろしくお願いします。

―一番聞きたい前田さんとの件に関しては触れてはいけないようなので、まずは、田村さんとの対戦も期待されていた秋山（成勲）選手の敗戦について話を聞かせてください。

田村　まだ全部は観てないんだよ。試合が終わって飲みに行ったお店で観てたんだけど、知り合いの人としゃべりながらテレビをチラチラ観てたって感じで。

―先ほどの会見でも言ってましたけど、秋山選手に勝った三崎（和雄）選手は運が強い、と。

田村　そうだね。

―内容的にも三崎選手の完勝っていう感じではなかったですからね。

田村　そうそう。まあ、誰でもそうだと思うんだけど、パンチ一発当たったら倒れるじゃない？　三崎選手の練習の賜物だと思うし、たまたまかもしれないけど、パンチと蹴りが当たって勝ったっていう部分では運と努力があると思うし。

―会場的にもの凄く盛り上がってたみたいですけど、田村さんが言うように、これまでヒールとして育ってきた秋山選手が負けたっていうのは、業界的には、ちょっと残念な部分もありますよね。

田村　そうだよね。なかなか、そこまでのヒールはいないでしょ。

―そうですね。まあ、田村さんも去年のこの時期のインタビューで秋山戦に名乗りを挙げて、ファンの期待も大きかったわけですけど、残念ながら金泰泳戦でつまずいて、対戦の気運を逃してるわけじゃないですか。

田村　そうだけど、それは金さんに失礼だ！

―し、失礼しました。昨日の三崎戦で敗れたことによって、秋山選手の今後の展開はわからなくなりましたが、田村さん的には、まだ興味はありますか？

田村　まあ、闘いたいって気持ちはあるよ。会見でも言ったけど、秋山選手っていうのは態度はよくないと思うけど、選手としては凄くいい選手だと思うんで。

―タイミングさえ合えば闘いたい？

田村　まあ、谷川さんがどういうふうに考えるかだよね。いま、秋山選手と組まれて闘ったとしても、あんまり意味がないから、どんな感じでストーリーを作っていくのかな、とか。もう一回、塗ればいいんじゃない？

―は？　また、クリームを塗って出直せ、と（笑）。

田村　そうそう（笑）。

―それをやったら、完璧な極悪ヒールの誕生ですけどね（笑）。『HERO'S』には何度か参戦してるわけですけど、谷川さんからのオファーっていうのは、田村さん的には信頼してるわけですか？

田村　信頼とかそういうんじゃないけど、谷川さんっていう人は帳尻を合わせないで、発想で言ってくることが多いんだよね。うしろを見てられない人だから。

―うしろを振り返る暇もないでしょうし。

（秋山と）闘いたいって気持ちはあるけど……。もう一回、塗ればいいんじゃない？

田村　暇もないし、図太くないとできない立場の人だから。ただやっぱり、選手っていうのは波もあると思うし、闘うタイミングもあるから、そこは谷川さんの発想と、テレビ局の発想と、選手それぞれの発想が一致すれば、いい感じで決まると思うんだけど。

―ぶっちゃけ、2007年の田村さんはくすぶっていたイメージがあるんですけど、いまのところ桜庭選手や船木選手との対戦はまだ流動的ですよね。

田村　でも、船木さんはまだやるのかな？

―試合後は、「もう辞めるとは絶対に言わない」って言ってましたね。一度引退して、結果的に復帰をして、たくさんの人を裏切ったかたちになるので、今後、そういうことを言ったら「自分は死刑だと思います」って言ってましたから（笑）。

田村　船木さんらしいね（笑）。

―田村さん的には、いつかは船木戦もありなんじゃないかなとか思ってます？

田村　う～ん、そうだねぇ……（しばらく考え込む）。まあ、船木さんが「田村とやりたい」と言ったとして、「ボクも船木さんとやりたい」ってなったら、なんか軽い感じがするんだよね。

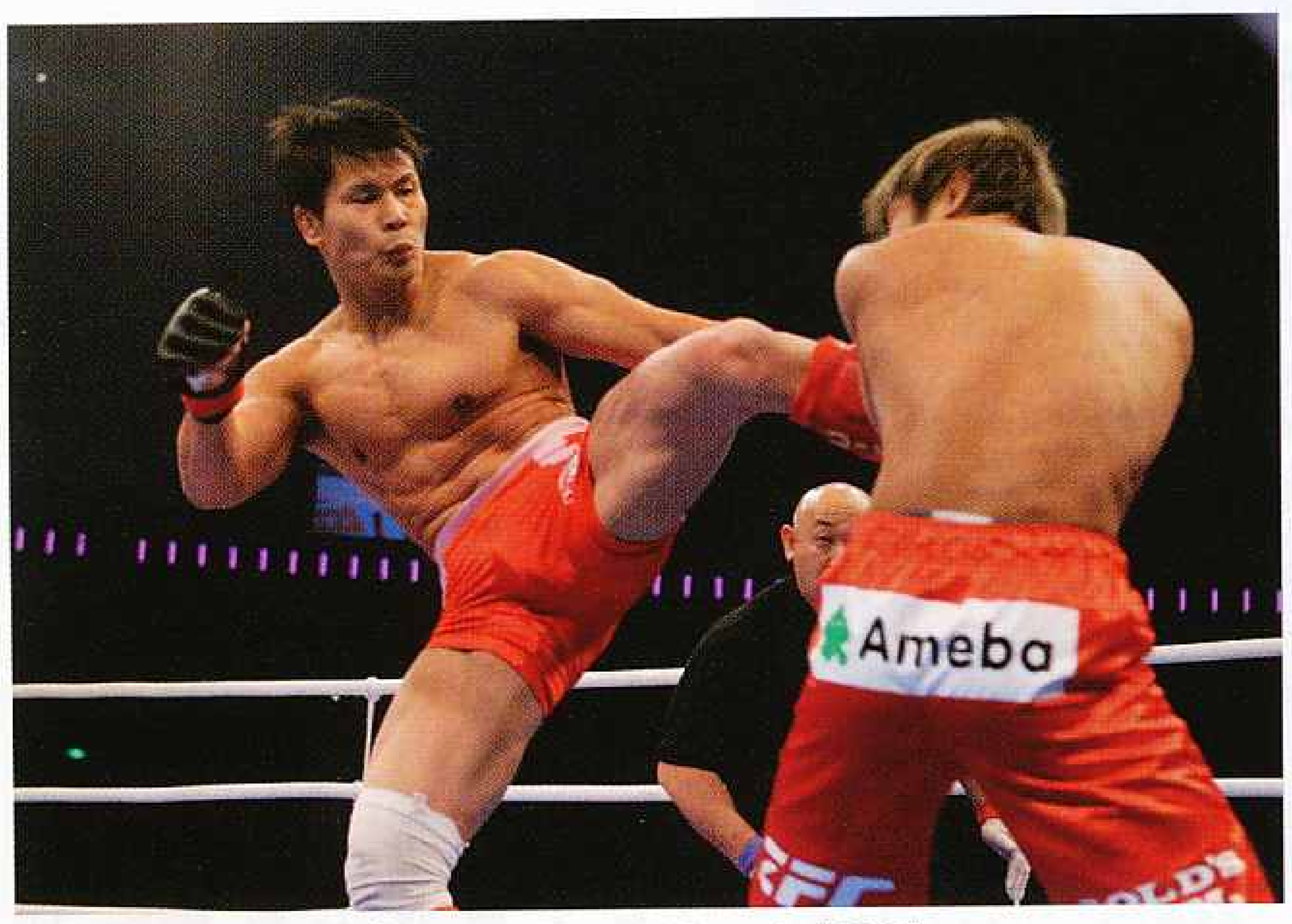
―なんとなくわかりますね。

田村　船木さんは2年先輩で、俺がデビューした頃にはもう全然上の選手だったから、凄くやってみたいっていう、憧れみたいなのは正直あるんだけど……。

―あるんだけど？

田村　なんか凄い複雑なんだよねぇ。髙田さんとやったときもそうなんだけど、船木さんとか桜庭もそうだけど、闘うのは凄い複雑な感じがする。

―今回闘った所選手とかは後輩になる



[12.31 K-1 PREMIUM Dynamite!! 2007]
大阪・京セラドーム
○田村潔司vs所英男×
(3R 3分08秒 アームバー)

大会前にはUスタイルルールを提案した田村だったが、あえなく却下。それでも“U”への思い入れの強い二人だけに噛み合った試合が期待されたが、田村は得意の左ミドルを連発し、圧勝。勇気を振り絞りゴング前に張り手を放った所は和田レフェリーに注意を受けるなどさんざんな一日に。





撮影／平工幸雄

「何、カッコつけとんねん！」と田村にトロフィーを投げつけ、その後リング上で口論を展開すると不機嫌な表情でリングを降りた前田日明。真相はいまだ不明……。『Dynamite!!』同日、さいたまSAで行なわれた『やれんのか！』では、約一年前、田村が対戦要求していた秋山が三崎にKO負け。田村は翌日の会見で「本音を言えば秋山には負けてほしくなかった」と複雑な心境を告白。

わけですけど、ある意味、複雑なんじゃないですか？

田村　所くんとかは全然世代が違うから感傷めいたものはないかな。でもやっぱり、複雑は複雑だったんだけど、それ以上に船木さんとか桜庭とやるってなったら複雑だよね。敵なんだけど、認め合ってる部分もあるから。秋山は俺にとって完全に敵っていうか、１００パーセント敵っていうモードに入れるから。

――まあ、そうでしょうね。で、昨日の田村さんの試合を振り返ると、今回の所戦の前にはUスタイルルールを提案してましたよね。結局は認められませんでしたけども、それに関しては？

田村　とくになんとも。

――多少のリスクを冒してでも攻めに行けるUスタイルルールだと、総合ルールよりもおもしろい試合が見せられるんじゃないかってことでしたけど。

田村　そうだね。エスケープ1回とか、ダウン1回とか、それぐらいの遊びはあってもいいかなって思って。昨日の船木さんの試合でも、そういうルールだったら、またちょっと違う展開になったと思うし。

――遊びのない総合ルールでは、なかなか回転体的なおもしろい試合を見せるのは難しいってことですよね。

田村　う〜ん、それはどうしてもあるよね。所くんとの試合なんかも俺にも余裕がなかったから、エスケープとか遊びがあれば、試合展開とかも余裕を持って引っぱってあげられたと思うんだけど。

――正直、回転体とか動きのある試合になるのかなと思ってたんですけど、体重差もあって予想以上に堅い試合になってしまったというか。

田村　まあ、勝負論になったら難しいよね。そのへんは微妙なんだけど、まあ、いろんな葛藤があんのよ。俺も試合をやってて、一発目で決めようか、とか。ローキックばっかり打とう、とか。

――昨日は得意の左ミドルキックをこれでもかというぐらい連発して、途中から余裕があったのかなとも思ったんですけど、そんなこともなかったと？

田村　まあ、余裕は結果的にはあったんだけど、試合前っていろいろ考えたりするわけよ。不安になったりもするし。

――試合後には、「いまの所くんだったら、ウチの中村大介には勝てない」って発言もありましたけど、それは実際に闘ってみて、そう思ったってことですか？

田村　二人は俺から見て同じ世代だから、いい意味でつながってほしいなっていうのがあったし、所くんは俺に対して「ありがとうございました」っていう気持ちはあるとは思うんだけど、どっかで悔しい思いもあるだろうし、そこで這い上がってやるっていう気持ちもないと、彼も続かないと思うから。いまは壁にぶつかってると思うし、方向性っていうか目標を持ってもらいたかったから。実際にいま所くんと中村がやったら中村が勝つと思うよ。

――所選手も総合ルールでおもしろい試合をするって評価は得てますけど、最近は結果が伴なっていないところがありますし、壁にぶつかってますよね。

田村　そうでしょ。俺は勝ったから言えるんだけど、「どうしたらいいんだろう？」って悩んでると思うんだよ。そこで、スパイスとして刺激を与える意味でウチの中村とやるのはいいんじゃないかなと思って名前を出したんだよね。あの二人がやることによって、また新しい展開が出てくると思うし、あの二人がやると勝ち負けじゃなく、仮に中村が勝ったとしても、所くんは中村を追っていこうとか、新しいテーマが出てくるから。だから、所くんの相手は中村しかいない（キッパリ）。





04年２月に後楽園で行なわれた「U-STYLE旗揚げ一周年」で高阪剛と極上のUスタイルを披露し、場内を沸かせまくった田村。高阪引退後、田村自身が満足できるUスタイルを披露できる相手は、やはり桜庭和志なのか？　それとも約７年ぶりに現役復帰をはたした船木誠勝か？

――また、言いきりますね（笑）。

田村　いや、それはホントにそう思う。

――でも、ここ最近、田村さんのやりたいUスタイルの試合はご無沙汰ですけど、田村潔司の相手として誰かいい相手は思い浮かびます？

田村　いまは……いないかなぁ。

――たとえば、何年か前の高阪剛さんとの試合は、総合ルールもだいぶ浸透した時期でしたけど、後楽園をドッカンドッカン沸かせてましたよね？

田村　そうだよね。まあでも、ＴＫも引退したし、いまでいえば、船木、桜庭とか、そういう選手になっちゃうのかねぇ。

――まあ、吉田秀彦選手とUスタイルルールでいい試合になるかっていったら、それも違うでしょうし。

田村　それは無理だな（笑）。だからね、俺が歳取ったのよ。

――いきなりどうしたんですか？（笑）。

田村　Uの同世代の人間も少なくなってるし、相手がいない。歳取ったし。

――また、自虐的な（笑）。確かに、同世代では引退する選手も珍しくなくなってきましたからね。

田村　カッキー（垣原賢人）も引退したし、金原（弘光）も引退するんでしょ？

――金原選手は引退を撤回しましたけどね（笑）。

田村　え、撤回したの？

――そうみたいです（笑）。以前闘ったジョシュ・バーネットとUスタイルの完成



07年9月のIGF名古屋大会ではI編集長も一押しだったモンターニャ・シウバと対戦した田村。その巨体に圧倒される場面もあったが最後はフロントチョークで巨人狩りに成功！

何がやりたいんだ田村潔司!?

モンターニャ戦も個人的には緊張感あったよ。何してくるかわからんし、言葉も通じないし

系が見せられるかっていったら、それもまた微妙な感じがしますし。

田村　そうだね。でもまあ、Uスタイルっていうのは、ガチガチで攻めるだけっていうのも違うし、ゆるすぎてもダメだし、ストロングスタイル的な猪木さんみたいな熱い闘いもいいと思う。

――IGFでのモンターニャ・シウバ戦は、どっちかといえば、ストロングスタイル的なUスタイルになるんですかね？

田村　そうだね。あれとやるにしても俺個人的には緊張感あったよ。でっかいし、何してくるかわからんし、ハイキックが腹に当たるし、言葉は通じないし。最終的にはプロレスでも格闘技でも、心技体がお客さんに伝わって熱い闘いができるのがUスタイルかな？

――確かに、モンターニャ戦は妙な緊張感がありましたね。田村さんの強烈なミドルが何発も入っても全然効いてないような顔をしてるし（笑）。

田村　そうそう（笑）。でもホント、俺は緊張感持った熱い闘いがしたいだけ。緊張感がないと自分で怠けてしまうし、総合とかガチガチの練習もしないといけないし、純プロは純プロで大変だろうけど、楽しくやりそうな自分がいそうだし。

――楽しそうに試合をする田村さんは見たいですけどね（笑）。

田村　いやそう言うけどね、もうね、精神的にキツイんだよ。

――それは総合ルールの試合が続く最近の状況がキツイってことですか？

田村　それはあるよね。だからといって、なんかね、ゆるい試合はしたくないし。

――ゆるい試合はしたくない？

田村　いや、ちょっと違うな？『HERO'S』もまだそんなに熱がないから寂しい部分もあるけど、プロレスにしても格闘技にしても、俺が求めてるのは熱かな？

――田村潔司が求めているのは熱ですか？

田村　そう。熱のある試合がしたいっていうのが一番のような気がするね。

――気がしますか（笑）。その熱を求めてなのか、3月にUスタイルの大会をひさびさに開くみたいですけど。

田村　そうだね。見切り発車だけど、やりたいっていうか、やんなきゃいけないからやるって感じなんで。

――3月の大会には田村さん自身も出場する予定なんですか？

田村　いや、俺は出ない。若い子中心で、やりたい人で、とにかくやっちゃおうかなぁって思ってる。



07年12月のIGF有明大会では新日本の永田さんとともにスカパー！の解説を務めた田村。アントン総帥が乱入するなどドタバタ続きの大会に田村と永田さんは終始苦笑気味。好勝負必至の二人の対決の可能性は？

――田村さん的には今年は総合ルールだけじゃなくて、Uスタイルもやっていきたいっていう考えなんですよね？

田村　両方やっていきたい。全然やっていきたい。……まあ、生きていくのは大変ですよ（苦笑）。

――いきなりどうしたんですか（笑）。

田村　まあまあ、今年は去年あんまりできなかったUスタイルもやっていくっていうのは自分の中では決めてることなんで。

――Uスタイルも期待してますけど、いま格闘技界は大連立とか話題になってるじゃないですか？　田村さんは『HERO'S』以外のリングに上がるっていう可能性もあるんでしょうか？

田村　俺はもう、闘う場所があれば闘うだけで。テーマがあれば全然出ていくだろうし。ただ、格闘技っていうのは勝ってナンボで、いい試合してナンボだから。それはもう天と地の差があるし。昨日の試合だって、もし所くんに負けたりしてたら今日のインタビューだって受けなかったし。そのへんは難しいよね。

――勝敗で評価はガラッと変わりますからね。

田村　そう。格闘技界は盛り上げていかなきゃいけないんだけど、ただ、この選手とこの選手をやらせたらっていう単純な発想が嫌なの。闘うのは自分たちだし、主催者側とも多少の緊張感を持っていたいっていうのはあるよね。



たむら・きよし■1969年12月17日、岡山県出身。第二次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。昨年は6月のIGF旗揚げ戦に参戦、7月は『HERO'S』に初参戦するも金泰泳に判定負け。9月には再度IGFに出陣。大晦日は『Dynamite!!』で所英男に完勝するも、試合後に前田SVと一悶着。プライベートでは昨年6月にタレントの桜井悠美子と結婚。180cm、85kg。
田村潔司のフルヌードブログ→http://ameblo.jp/tamura-blog/

――いろんな葛藤はあるとは思うんですけど、2008年は「これがやりたい」とか「コイツと闘いたい」っていう具体的なものは何かありますか？

田村　う～～ん、明確にこれとか、誰っていうのはいま現在はないなぁ。

――新年の意気込みとして、坂田（亘）さんみたいに「ハッスルで俺が天下を獲ってやる！」みたいなのはないですか？

田村　アハハハハハ！　まあでも、坂田は凄いよね。素晴らしいと思うよ。嫌味なく素晴らしいと言える。

――なんか言い方が嫌味っぽいですけど。

田村　でもホント、アイツは凄いと思うよ。

――ついでだから聞きますけど、田村さんは『ハッスル』には興味はあります？

次の相手？　いまは谷川さんの発想というか、あの人の脳味噌に任せるしかない

何がやりたいんだ田村潔司!?

田村　興味はまったくない。凄いことやってると思うけど。めんどくさそう。

――あ、そうですか（笑）。『ハッスル』に出る田村さんも観たい気もしますが。

田村　アハハハハ！　38歳、もう少しハッスルするよ。

――コンディションとか身体を見ても38歳にはとても見えませんけどね。

田村　そうでしょ（笑）。もっとほめてほめ殺してくれ。

――いや～、そこまではできかねます（笑）。

田村　あ、そう（笑）。まあ、今年もテーマのある闘いができるよう頑張ります。

――テーマのある相手と意味のある試合をやっていきたいというスタンスは今年も変わらないわけですね？

田村　そうだね。いまの流れで言うと、船木さんも復活したし、秋山もないわけじゃないだろうし、いろいろ選択肢はあると思うし。まあ生き残ればだけど（笑）。

――生き残ってくださいよ！（笑）。

田村　まあまあ、そういう意味では、おもしろい展開にはなるのかなとは思うんだけど。自分で自分を評価すると、そこまでいってないっていうのもあるし。

――船木さんだったり、秋山選手と闘う位置までいってない、と？

田村　というか、いま、この瞬間はそんな気持ち。あとは、さっきも言ったけど、谷川さん次第（笑）。

――また、それですか（笑）。

田村　選手もそうだけど、いまは谷川さんの発想というか、あの人の脳味噌に任せるしかないんで。

――それは、ある意味、怖いような気もしますが（笑）。

田村　選手以上に谷川さんは大変だよね。同情はしないけど（笑）。

――同情はしない（笑）。

田村　谷川さんって、どっかおかしいと思うよ。ある部分、キ○ガ○っていうか（笑）。

――アハハハハ！　それぐらいじゃないとあのポジションは務まらないかもしれないですね（笑）。

田村　陰口なんかクソぐらい言われてるんだろうけど、そんなことは気にしてられないだろうし。

――まあ、田村さんも今回の所戦の前には、体重差のこととかけっこう叩かれたりもしてましたけどね（笑）。

田村　そうだね。まあ、そういう意味では俺もキ○ガ○なんだろうね（笑）。

――そうかもしれません（笑）。船木さんや秋山選手なんかも、ある意味、キ○ガ○なような気もしますし（笑）。

田村　アハハハ。ひっどいこと言うなぁ。

――まあでも、そういう選手同士の闘いをファンは望んでるところもあると思いますし、2008年は田村さんもいろんな意味でハッスルしてください！

田村　頑張ってハッスルします！（笑）。

【08年1月1日／大阪・帝国ホテルの喫茶店にて収録】



三崎の“魔王討伐”で現出してしまった

秋山成勲と日韓問題

音楽家であり文筆家

菊地成孔



きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家/文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、膨大な知識を駆使した批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。格闘技批評「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍~僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった~」（白夜書房）も出版。

『やれんのか!』の煽りVでは、菊地成孔氏命名による谷川FEG代表のキャッチフレーズ“谷川黒魔術”も登場！　その豊富な知識から的確な論説をズバリ展開して好評の菊地氏が、今回の三崎の勝利によって浮上した、“魔王”秋山成勲をめぐる日韓問題に深く切り込んだ!!

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／平工幸雄、山口比佐夫、平専英

――今日は『やれんのか！ 大晦日！ 2007』を菊地さんの視点で解説していただきたいと思います。

菊地 本当は昼（『ハッスル祭り』）から、たまアリに行く予定だったんですけど風邪で腹壊しちゃって（笑）、仕方なく『新宿バルト9』（シネマコンプレックス）のパブリックビューイングで観たんですけど画面が大きくて迫力あるし、シートもフカフカでよかったですよ。この事務所からも近いし（笑）。

――大晦日の深夜から新宿でお仕事があったみたいですし、都合がいいですね。

菊地 大会自体が総じて素晴らしかっただけに、ちょっとイヤだなあと思ったのは、途中で試合のシャッフルが起きたでしょ。本来はヒョードルvsチェ・ホンマン戦がメインの予定だったんですよね。

――ところがTBSで生放送するために試合順が変わってしまって。

菊地 それで、ヒョードル戦の煽りVの中に、何ヵ所かブランクがあった気がしたんですよ。僕の気のせいかもしれないけど。

――ああ、会場のビジョンだと黒バックに白抜きで「お客」という文字が何度か出てたんですよ。「なんかのメッセージなのかな」なんて思ってたんですけど（笑）。PPVを観ている人にも瞬間的に黒いブランクみたいなものがあったということを聞いてますね。

菊地 そうそう。それです。そんなもんすぐに推測できるじゃないですか、本来はそこに当日の客の生々しいレアな姿を挿入する予定だったんだな、と。それはPRIDE信者でなくとも、想像するだに感動的ですよね。でもシャッフルによって、ブチ壊しになって。佐藤（大輔）さんも痛恨だったんじゃないかと思います。

――『やれんのか！』のスタッフもあのシャッフルは悔やんでましたね。

菊地 まあ「そういうことがありえるかも」という噂は耳にしていたんですが、なんにせよ「PRIDE帝国が傾斜、崩壊し、次の帝国に食われていく」という構図が明確すぎました。しかも会場では「この試合がテレビで放映されるのは、喜ばしいことだ」という煽りでしたから。





（写真左）「最後の舞台」という文字が浮かび、名場面が次々フラッシュバック。ヒョードルvsホンマンの煽りVは本来のラストにふさわしい感動的構成だったが、黒バックに「お客」と入った画面（写真上）が唐突に挿入され、演出プランが崩れていたこともうかがい知れた。

――ええ。ありましたね。

菊地 「申し訳ありませんが、こちらの都合でシャッフルせざるをえなくなりました」という感じじゃなかった。ブチ壊しにされて「喜べ」と言われるのは手ひどいですよ。でもそこは日本人の優しいとこで、とりあえず「わー」なんて言って（笑）。

試合順がシャッフルされたことで「帝国が傾斜、崩壊し、次の帝国に食われていく」という構図が明確に出た

――そこは空気を読むというか。

菊地 「地上波にヒョードルが出るのは、結果的にはいいことなんだ」なんつって。ものわかりいい上に泣き寝入り体質というか。でもこれが困ったことにFEG側からも偉そうなオーラを感じないんだよね。「皆さん！ この試合がなんと地上波に流れますよお！ 凄いでしょう！」と本気で喜んでる感じが、まさしく〝谷川黒魔術〟の世界ですよね。煽りVにでっかく〝谷川黒魔術〟の文字が出たときはちょっとドキドキしましたけど（笑）。

――ダハハハ！ 〝谷川黒魔術〟は菊地さんの造語ですしね（笑）。

菊地 それに画面がでっかいから最後の三崎（和雄）選手のキックもよく見えました。休憩中のトイレでは格ヲタの皆さんが早くも「あれは谷川さんが文句を言うに違いない」「前田がクレームつけたら大変なことになるよな」といった会話をしていましたな。

――さっそくそんな話題が（笑）。

菊地 あくまで個人的な見解を言えば、第一にあれは完全に4点着いてました。といっても4点↓3点↓2点と立ち上がる過程だったとも言えるし、一瞬待ちゃあ結果は同じだと言われたら、そうかもしれない。ただ「4点着いてる限りは蹴れない」という一瞬の読みも、秋山（成勲）選手の中にあったかもしれない。そのあと、この問題がどうなっているかまったく追えてないんですがいろんな議論が出ると推測されると思うんです。ただ最低でも「逆に、秋山が三崎を疑惑の4点で鼻を折って勝った、と想定した場合のムード」は想像すべきだと思いますね。

――蹴ったほうが秋山ならもっと大騒ぎになっているでしょうね。

菊地 まあ会場では何点かなんて見えないだろうから仕方ないけど、少なくとも新宿のパブリックビューイングでは7割が「うひょー！」と立ち上がって3割が醒めて、という雰囲気でした。ただ画面に大アップだったんで、「あちゃー」と思いましたね。話がさらに複雑になったし、いろんな論点があると思いますが、「秋山が反則を申告しなければそれでいい」とか「そんな申告できるわけないもんな」とか、ましてや「ヌルヌルしたヤツなんだから当然だ！」とかいった、メチャクチャな三段論法とかも出てくると思うんですよ。PRIDEがたまに見せる日本人同士の〝死闘〟の中でも傑出したものだっただけに、余韻のコクが出すぎた（笑）。

――この一戦はまだまだ尾を引きそうですよね、試合後の説教劇場を含めて。

菊地 これは決して三崎選手を誹謗しているわけじゃないですけど、三崎選手っていまの流行りでいうところの〝KY〟だと思うんです（笑）。

――ダハハハ！ 確かに勝利の興奮に押されて確実に空気は読んでなかったですね（笑）。

菊地 僕は〝KY〟を悪く言うつもりはまったくありません。逆に、空気が読めない人の痛さに耐えられず〝KY〟なんつって差別するヤツらの脆弱な潔癖性が気持ち悪くてたまらないです。っていうか、そもそも〝KY〟っていったらね、僕の世代ではこれは将軍KYワカマツなんですよ。

――名前からして〝KY〟！（笑）。

菊地 手から金を出すんですよ（笑）。空

秋山成勲と日韓問題

気を読む人間にできることじゃない。だから人を"KY"と称して差別するということは、若松市政さんを弾劾することであって、これはちょっと許すわけにはいかないです。青少年には空気なんか読むのはやめちまえ、と言いたいですね。

——その歪みがエンターテインメントになる場合もありますし。

菊地　っていうか"KY"はある種、GRABAKAのチームカラーだと思うんですよ。

——どんなチームカラーですか！（笑）

菊地　だって、菊田（早苗）選手も郷野（聡寛）選手も大"KY"じゃないですか。そういう意味で三崎選手はチームカラーに忠実なわけです。もの凄い技術力と、もの凄い誠意と熱意、それに伴なった実績もあって、圧倒的に善人なんだけど、でも"KY"（笑）。あの、いま僕は笑ってますけど、本当に誹謗ではないと強調したいです。痛快だから笑ってるんですよ。だって凄いんだから、GRABAKAは。瀧本選手が総合に転向したあと、「マジでヤバい」と思って心を入れ替えたのは、菊田選手に何もできなかったからよ。

——柔道の実績で自分に劣る菊田に完封されたショックは大きかったでしょうね。

菊地　少なくともあの試合に関しては、としますが、"KY"とナショナリズムがキーワード化せざるをえないかたちになってしまった。そこが二重に息苦しかったです。なぜか日韓問題が不可避的に居座ってしまったこと、そしてそういう身動きがとれないくらいの鈍いナショナリズムの問題をコントロールするのが"谷川黒魔術"なんだっていうこと（笑）。そういう意味で、後味は複雑でしたね。

——しかも会場内にはそのねじれを封じ込めてしまう"熱"があって。

菊地　そういう妙に生々しいナショナリズムと無関係でいられなかったのがね。三崎選手は煽りVで「（秋山は）俺じゃ止められないかもしれない」、「次の人でも止められないかもしれない」、最後は「誰も止められないかもしれない」と。そして「それでも俺は行く」という、一種の"特攻精神"を見せた。しかし「心がある人間同士ならば、必ず一つになれる」とも言うわけです。勝ったあとのマイクで「許せなかったけど、おまえの心は伝わってきた」と言ったけど、これはトランス・ナショナリズム（越境）ですよね。この時点ですでに三崎選手は言ってることが、あっちゃこっちゃなんですが。とはいえなんとか人間同士、そこは日韓問題みたいにしないんだっていうコンセプトは伝わってくる。ところが三崎選手は違う意味でトランスしちゃって、その口で……。

——最後の「日本人は強いんです！」ですね。

菊地　あれは三崎選手のキメ台詞だから、「いつもどおりに言っただけだ」と言われたらそれっきりですけど。ただFEGにしたって、あとあと韓国市場との付き合いだってあるわけですよね。そういう部分も含めてまあ"KY"っていうか、試合のスキルとタクティクスは凄くフォーカスが絞られてるのに、マイクや入場でフォーカスがあっちゃこっちゃになって滑るというのがGRABAKAですよね。

——確かに在日韓国人だった秋山の前ではなかなか言えないですね。

菊地　秋山選手の試合後の複雑な表情が印象的でしたね。複雑すぎましたよ。



試合後の「日本人は強いんです！」発言に関して、三崎は「国籍云々のことを言うつもりはなかった」と1.11発売の『kamipro Special 2008 SPRING』でコメント。この記事にすぐさま韓国メディアが「三崎が謝罪」と激しく反応するなど感心の深さが浮き彫りに。

決して誹謗して言ってるわけじゃないですけど
三崎選手は流行りでいうところの"KY"だと思います

——秋山は無表情で三崎と向き合ってましたけど。

菊地　まあ"KY"の炎上を見る、畏怖の目ですよね。かつてはアントニオ猪木が、いろんな人をああいう表情にしたと思いますけど。

——ダハハハハハ！　猪木さんも"KY"でしたか。

菊地　しかもマイク持ってトランスしてる人がドンドン接近してくるし、最後は肩までつかまれちゃって（笑）。しかし、秋山選手の技術は何から何までホントに凄かった。あのノーモーションで繰り出される、右からのあらゆる打撃はホントにおっかない。秋山選手が弱いと思った人は一人もいないでしょう。

——選手としての評価は逆に上がりましたね。

菊地　PRIDEが、桜庭（和志）がホイス・グレイシーを倒すことでブレイクしたとするならば、これは対ブラジルであり、対グレイシーというところが出発点で、あれはナショナリズムのマンガだったと思うんですよ。いわゆる"プチナショナリズム"のプの字もない時代でしたけど。あの頃は、プロレスのプの字ばっかりで。

——「プロレスがやられる！」という危機感から生み出された熱でもありましたね。

菊地　「日本で消滅した"サムライ"という文化を、もっとも遠い国であるブラジルが持っていた」という構図だから、本当にマンガみたいなナショナリズムのドラマでした。マンガという表現が妥当でなければハーフプロレスと言うべきです。ナショナリズムの扱いが。「桜庭っていうオタクあがりみたいな感じの近代的な"IQレスラー"が"大和魂"を保存していた地球の裏側から来た黒船を討つ」。そし

て帝国が完成して幾星霜。ついにPRIDE帝国も終わった、と。そこで今度は反転して、一番近い国との構図が浮上した。もうマンガにはできない、リアルで鈍いナショナリズムが動かしがたい問題として出てきちゃった。

――いままで日本と韓国との関係というのは、プロレスにおける物語の中で、前田（日明）や長州（力）、そもそもは力道山の出自としての要素としてはあったけど、最近はそれほどその色合いは残ってなかったですよね。

菊地　もともと日本のプロレスが、日韓問題、日朝問題をはらんでいたというのは過去の亡霊であって、PRIDE帝国はかなり健全にオリンピック化したし、いまや「UWFですら通ってない」という青木真也世代が中枢を占めてきた。やっと「もう、そんな問題はいいよね」っていう段階になったのに、ここにきて過去の亡霊が姿を現わした。だから今回の一件で「秋山が在日であることは、単なる偶然だよ。一人一人のパーソナルじゃん、重要なのは」なんていうある種のオプティミズム（楽天主義）は誰にも言えなくなっています。

――完全にこびりついてますね。

菊地　大げさに言うならば「四つん這いになっている人間を蹴る」っていうのは〝イジメの蹴り〟だと思うし。

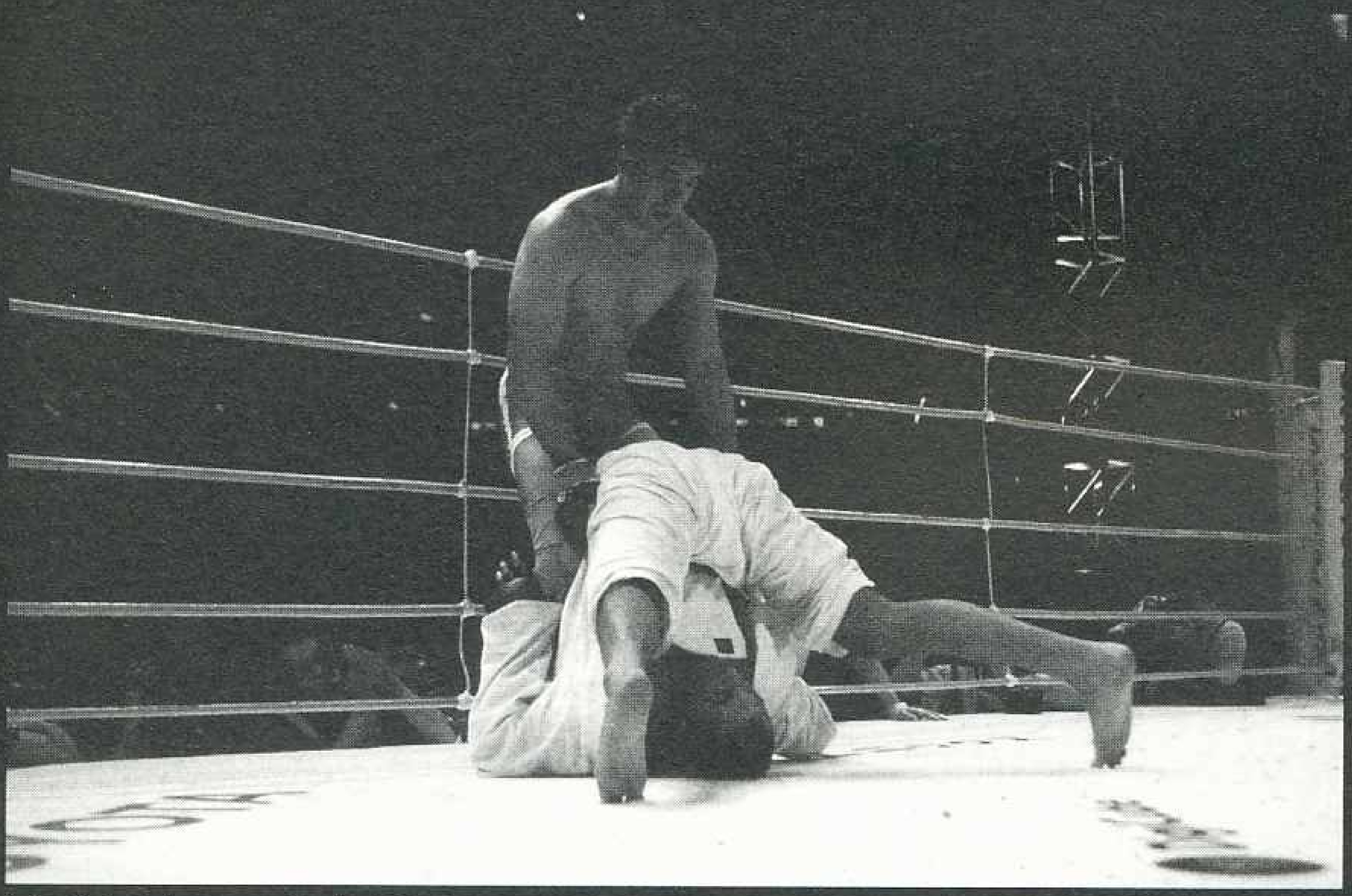
――「足蹴にする」なんて言い方もしますし。

菊地　三崎選手にそんなつもりはなくて、反射的に出したことはわかってるんだけど、そこは秋山選手の持つ強烈な運命というか。古い言葉ですがゴッドアングルですね。

――すべて脚本があるかのようですもんね。

菊地　そういう意味が立ち上がってきちゃうんだもの。〝成敗〟とか言っちゃってさあ。そういう一瞬のビジュアルが訴えるメッセージって凄いじゃないですか？

――韓国サイドから見れば、かなり屈辱的なイベントだったのかもしれませんね。



“ブラジル”のグレイシー一族vs“日本”のプロレスラーという縮図の決着戦となった00年5月『PRIDE GP』での桜庭vsホイス戦。1時間49分のファンタジックな死闘から約7年半後、『やれんのか！』で三崎vs秋山戦が提示したのは身近でリアルな日韓問題だった。

桜庭vsホイス戦が“マンガ的なナショナリズム”なら三崎vs秋山戦は“リアルで鈍いナショナリズム”

菊地　ポストコロニアリズム（ポスト植民地主義）、21世紀ナショナリズムというのは本当に難しい問題です。プロレスというのはそもそも〝難しい問題〟をマンガにして沸騰させ、煮沸消毒するカタルシスティックなイベントだったわけですよね。北朝鮮レスラーというのはまだ出ていませんが。

――昔ならともかく、いまやったら完全に国際的な問題になりますね（笑）。

菊地　でもプロレスのマンガ的なナショナリズムは第二次世界大戦後の世界で健康的に機能したし、様式にちゃんと組み込まれていましたよね。いまや我が国に戦争も遠くなり、『ハッスル』では高田総統がナチスの格好をしていてもなんの問題もない。だから秋山選手や前田SVをはじめ、在日ではない韓国人格闘家もすべて含めて総合の世界にリアルで鈍いナショナリズムが宿って、世相……といってもネット世相かも知れないけれども、プチナショナリズムみたいな世相と結びついてしまっている。これは一種の回帰現象です。

――ある意味ではプロレスよりも過激で、そして深いですよね。

菊地　だから、三崎選手のアンビバレンツなマイクっていうのはのちのちまで問題になると思うんですよ。そういう意味でも問題を複雑にする人が勝っちゃったなあ、と（笑）。

――秋山成勲という炎にガソリンを注いでしまったというか（笑）。

菊地　本誌でも過去に言いましたけど、〝韓流ブーム〟と〝嫌韓流〟の根本は同じです。それに韓国人と日本人って顔は似ていても、性根が全然違う。韓国人特有のエグさが異物化してしまう。いい異物と、悪い異物と。

――先日の野球のオリンピックアジア予選での〝暗黙の了解〟を破るさまにしても、韓国のおそるべき勝利への執念を感じましたね。

菊地　その一方で日本人はすぐ許しちゃうんですよね、ひらひらとしなやかだから（笑）。「秋山は永久追放だ、顔も見たくない！」っていう人もいたのに、秋山選手が出てきても文句は言わない。んで「鼻を折った！　バンザイ！」と（笑）。それで秋山選手があとで抗議したらどうするのか。日本人の軽い部分ですよね。それこそナショナリズムですけど。中国や韓国には「絶対に一生許さない」「一族郎党皆殺し」なんて感覚もあるわけじゃない。

――ええ。日本でそんなことを言ってたのは、破壊王ぐらいですからね（笑）。

菊地　前田日明が「家族の前で制裁を加える」と言うとかね。そういったメンタリティも知った上で、08年の格闘技の動向にあたるべきだと思いますね。そのほうがおもしろいと思うんです。

――うーん。そう言われるとなんか得体のしれない時代に突入したのかもしれないですね。

菊地　だから「遠い国とのファンタジーは楽しかったけど、近い国とのリアリティはキツいぞ」と。でも、楽しいファンタジーからキツイリアリズムへの移行というのは、僕はけっこうなことだと思います。たとえば堀辺（正史）先生みたいな有識者が、日本の武士道のことをお話しされるじゃないですか。僕は専門外だから知りませんけど、韓国にも武士道はあるハズだから、そういうことを話してくれる方が必要ですよね。堀辺先生ならお出来に

秋山成勲と日韓問題

なると思いますが。なんにせよ「こちら側の倫理がまったく通用しないような倫理がある」ってことを生々しく知ることはいいことです。

――そうですね。ただ、戸惑ってる読者もいると思うんですけど（笑）。

菊地　PRIDE全盛期に充溢していたのは、〝60億分の1〟というオリンピック的なセンスだよね。ある種、愛と平和と幸福だったと思いますよ。ところがその体制が崩壊したら、谷川帝国による、どうなっちゃうんだか計り知れない日韓問題が浮上してきた（笑）。ブラジルとやってたときは楽しかったけど。

――ですね。しかもブラジル人同士のケンカを大晦日に観て喜んでいたり、日本人の中村カズよりハイアン・グレイシーを応援したり（笑）。

菊地　だから「そもそも日本になんでこんなに韓国人がいるんだ」「アメリカと日本って戦争したんだってね」ってところからちゃんと理解しないと、まったく意味がわからない試合が出てくる、といったようなことになったとしたら、僕はいいことだと思います。

――格闘技界にとって日韓問題に触れることは、これまで一種のタブーではありましたからね。

菊地　僕はこういう場所（新宿職安通りの韓国店街）に事務所があるし、民族性の違いや、韓国文化の趨勢が歩いていればわかります。韓流ブームは終わった。でも終わったあとのほうが問題です。じつは昨年の10月にパリコレに行ってたんですよ。あたりまえだけど僕は日本人プレス席に座ってた。で、こっち側にはやれ『読売新聞』の人だとか、『ヴォーグ・ジャポン』の人とかがいるわけ。その反対側が中国、韓国のプレスなんですよ。その席の配置の采配をふるっているのはパリ側ですよね。で、昔の日本は中国、韓国のプレスに対しても、全然立場が上だったんだけど、一昨年にアルマーニが上海に進出したのを皮切りに、中国の富裕層がドカーン！　と買い始めたんです。パリコレって言っても商売だから、結局日本でこれ以上シャネルやヴィトンを買う人は増えないし、店の数も国の敷地面積ギチギチまで建ってるわけだから（笑）。もう日本は市場としては未来がない。

――そうなったら市場としては中国、韓国に可能性を見ますよね。

菊地　だから日本人プレス席がどんどん縮小されてる。記者も元気がなくなって、逆に中国や韓国のプレスは凄く元気で、なぜか京劇みたいなメイクしてたりね。というか単純に席の数も多いんですよ。そんでしかも、彼らは席が多い上にまだ日本の席を取るんですよ（笑）。日本人がもし多く席を取ったら、そこで満足すると思うんですけど。さらにそこから少数派のヤツの席を取ろうとは思わないじゃないですか（笑）。

――思わないですね。

菊地　一枚のプレスで5人で入ってきて、席がない4人ぶんは日本の席からイスを持っていくんですよ。で、日本はどうするかといえば泣き寝入りしてるの。「アイツらヒドイんだからぁ」って（笑）。

――ダハハハハ！　わかりやすいなあ。

菊地　この界隈のマフィアの話はエゲツないからしませんが、たとえば僕はほぼ毎日、新宿のデパートに行くんですけど。いまは買い物客の半分以上が中国、韓国の富裕層ですから。

――半分以上も？

菊地　日によっては、ですけど。だからフランス語はしゃべれなくても、中国語や韓国語をしゃべれる店員さんはいっぱいいたり。実体的な中国や韓国の姿に、これから日本人がどう相対するか。格闘技界に限らず問われてますよね。で、話をグルっと戻すと〝KY〟なんていうせせこましいことを言ってたら、強いのに反則したり、多数派なのに席を取ったりするエグさに対して、そもそもどうしたらいいかわからないまま、永遠に曖昧になっちゃうしかない。



秋山には大ブーイング、三崎の説教劇場にも大歓声！　まさに完全な無礼講状態に突入していた『やれんのか！』の観客席。この圧倒的アウェイ感の中で討伐された格好の“魔王”秋山、そして韓国のファンは何を感じたのか？

実体的な中国や韓国の姿に今後、日本人がどう相対するか　そこは格闘技界に限らず、問われてますよね

――確かにそうですね。

菊地　「〝KY〟嫌悪は和を尊び、場が収まるのをよしとする日本人ナショナリズムの突端だ。スタミナもエグさもない日本人が場の空気も読めなくなったら終わりだ」とかいう論法もあるでしょうけれどもね。

――そういう意味で秋山は入場を含めて〝魔王〟だとか評価できますけど……あれはもう〝KY以上〟ですもんね。

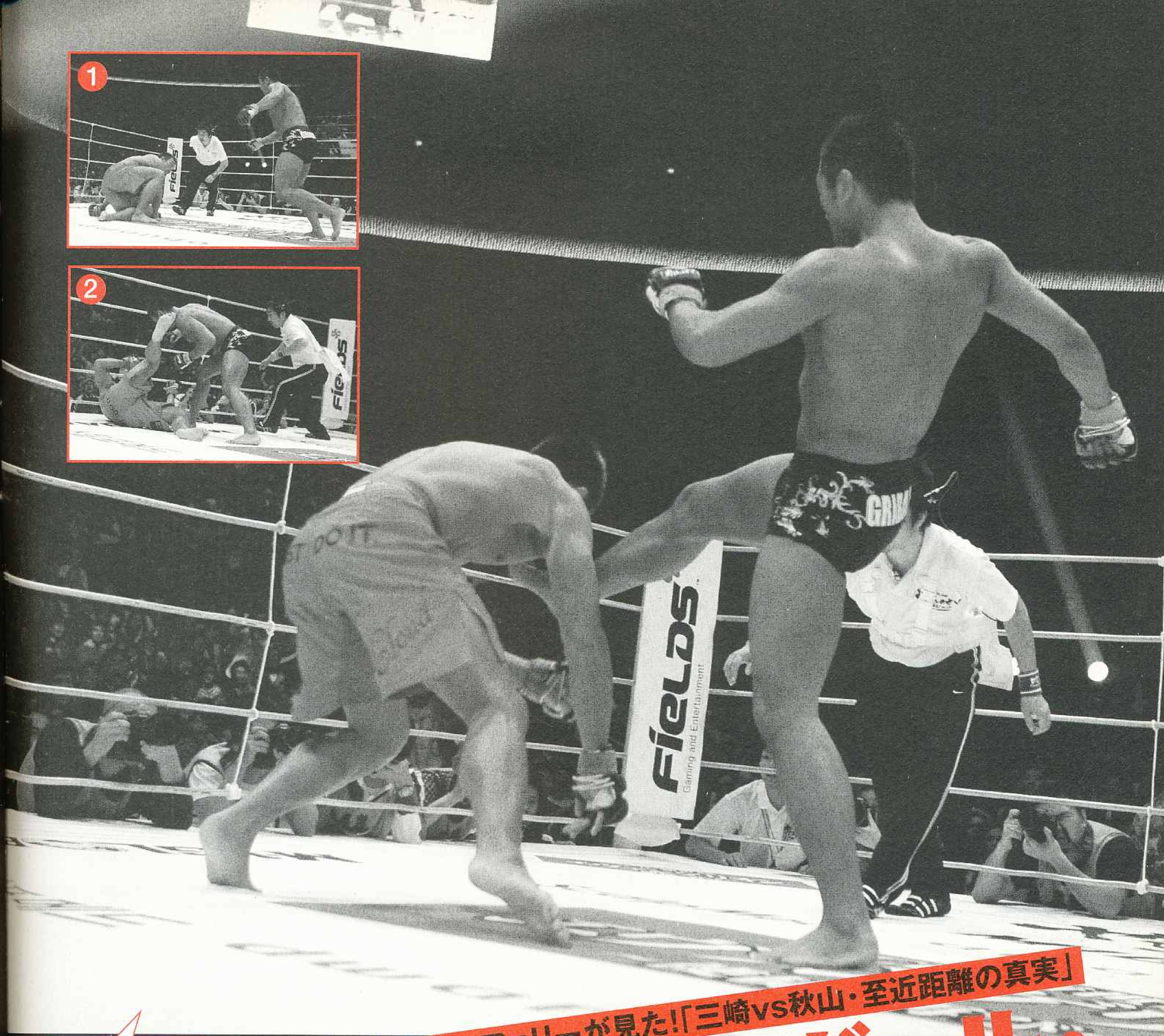
菊地　入場での正座とかも凄いですよね。もう安心してブーイングもできない。〝KY以上〟だよね。だから今回は〝KY〟が〝KY以上〟を倒した試合だな、と。

――ダハハハ！　そんな試合でもあったんですね（笑）。そのうえ国民性の問題もはらんでいた、と。

菊地　今後の継続があるようなないような曖昧な引きといい、「桜咲く頃、会いましょう」なんちゃって、もの凄い和風だったもんねえ。……なんか〝KY〟と日韓ナショナリズムの話ばっかりになっちゃいましたけど（笑）、『やれんのか！』は素晴らしい試合が連発し、適度にアヤもついたいい大会でした。要するに、「いままでPRIDE帝国の圧倒的な統治によって成立していたインターナショナリズムが、ナショナリズムに戻った」。「でも、そこから積み上げないとインターナショナリズムなんてない」ということです。総合はこれからどんどんインターナショナルになっていくわけですから。激動を感じさせながらものんびりとしたいい年明けに思いました。激動ものんびりも好きなんで（笑）。

――今日はありがとうございました（笑）。

【08年1月8日／都内・新宿の菊地氏の事務所にて収録】



これが問題とされたフィニッシュの蹴り。写真①はヒットの直前、秋山が立ち上がろうとしているところで、「この時点で『蹴るなよ！』と割って入ることはできない」。蹴りで吹っ飛ばされた秋山に三崎が覆い被さり、パウンドを入れたところで試合をストップしている（写真②）

“当事者”野口大輔レフェリーが見た！「三崎vs秋山・至近距離の真実」

あれはサッカーボール・キックじゃない。ボレーシュートですよぉ！



日本中の格闘技ファンの注目を集めた、『やれんのか！』での三崎和雄vs秋山成勲の一戦は、試合直後から思わぬ方向で議論を呼ぶことになった。三崎が最後に放った蹴りが、今大会では反則となっている「サッカーボール・キック」ではないかというのだ。この一連の議論を受けて、谷川氏は再戦の可能性を示唆した。その中、当の一戦を裁き、自身のブログでもいち早く「あれは反則じゃない」と表明していた野口大輔レフェリーはこの状況をどう見ているのか？　ズバリ直撃！

聞き手／高崎計三　試合写真／山口比佐夫、乾晋也　写真提供／やれんのか！

ヒットの瞬間、手はついていなかった。
競技上、その瞬間で判断するしかない

昨年年頭は〝黒の事件〟でネットが大騒ぎとなったが、今年も同じ秋山の試合に関して議論が沸騰することとなった。野口レフェリーはいち早く「反則ではない」との見解を自身のブログで述べたが、アクセスは2万件にも達したという。じつは聞き手のブログも、この件では過去最高のアクセス数とコメント数となった。去年の秋山問題とはコメントの質は異なっていた（比較的冷静な〝議論〟が大半を占めた）が、騒ぎの規模では引けをとらなかった今回の「サッカーボール問題」。野口レフェリーは、まさにその当事者にあたるわけだ。

――野口さん、大晦日の一件で大変なことになってるらしいですね！

野口 ホントですよ！ 普通にレフェリングして普通に試合を終わらせただけなのに、なんでこんなことになってるんだろうっていう感じですよ！ ブログもコメントが200件ぐらいついて。コメントが書き込まれると携帯にメールが来る設定になってるんで、夜中でも朝でも携帯が鳴りっぱなしだったんですよ。

――寝かせてもらえなかった、と（笑）。まずはその三崎vs秋山戦のフィニッシュについて、あらためて見解をお聞きしたいんですが。

野口 要は三崎選手の攻撃でダウンした秋山選手が立ち上がってきたところを三崎選手が蹴りにいって、その蹴った瞬間が、僕は両手が浮いていた状態と判断したので、TKOにした、と。サッカーボール云々と言われてますけど、あれは秋山選手の顔面に対してのハイキックと、僕は判断してます。「うわー、蹴った！」→「秋山ダメージあるなあ」→「三崎また殴りにいった」→「止めなきゃ」という流れですね。



野口レフェリーも「正しいサッカーボール・キック」の例に挙げる、ミルコ・クロコップがロン・ウォーターマンに放った一撃。04年2月17日、『PRIDE.27』（大阪城ホール）でのものだ。

――サッカーボール・キックにはあたらないと。

野口 あたらないですね。

――議論が分かれてるのは、三崎選手が蹴り始めた時点ではグラウンド状態だったじゃないか、という点ですが。

野口 ムリヤリっぽいですね～（笑）。蹴りにいったときがグラウンド状態というよりも、蹴った瞬間どうだったかという方が、競技としては重要じゃないかと思うんですよね。たとえば秋山選手がダウンしたときに、「三崎、蹴っちゃダメだよ！」って言うこともできないじゃないですか。やっぱりそこは流れの中で、フィニッシュブローがどうだったかということだと思うんですよね。

――PRIDEルールでは認められていた（4点ポジションでの）サッカーボール・キックが今回は禁止だったことが影響したんじゃないかという意見もありますね。

野口 故意かどうかはわからないですけど、あの流れの中で秋山選手が立ってこなければ蹴ってはいないでしょうし、流れの中で出た一撃というのは裁いてるほうとしてもわからないですよね。その人がどういう気持ちで蹴りを打ちにいっているかというのは。三崎選手が故意じゃないと言っても「ウソだ！」という人もいるだろうし、逆もあるだろうし。だからその瞬間がこうだったというところから言うしかないと思うんですよね。

――同時に噴出したのが、「4点ポジション」というのは厳密にどういう状態なのかという議論ですよね。たとえば今回のように立ち上がろうとする途中で、ゴリラのような姿勢で両拳がマットについていたら、4点にはなるわけですか。

野口 厳密に言えば4点にはなります。基本的には両手両足の4点がマットについている状態ということなんですが、その中で一瞬でも手が浮いていたらとか、立ち上がりざまの攻防は……ホント、あとから何回ビデオで見ても、僕自身が見ても微妙なんです。まあ僕の中では間近で見て浮いていたと判断したわけです。ダメージでフラッと崩れて手をついてしまった状態で蹴ったら反則ですけど。ただ、秋山選手が立ち上がろうとしてマットから手を離したということに対して、あれが4点なのかどうなのかということが議論されているんですよね。それは間違いなくグラウンドポジションではないですよ。

――もともと4点ポジションというのは〝亀〟の状態を想定しているもの？

野口 基本はそうですね。あと、「サッカーボール・キック」という言葉があまりにも一人歩きしていると思うんですよね。逆に、みんながどういうものを「サッカーボール・キック」としてイメージしているのかというのが僕もわからないところなんで（笑）。もちろん、ミルコ・クロコップvs.ロン・ウォーターマンの試合のように、亀の相手の頭部を蹴るのがサッカーボール・キックですよね。この前の秋山選手のように立ち上がってきている相手の頭部を蹴るのは、はたしてサッカーボール・キックなのか、ということなんですよ。

――地面にあるボールを蹴るからサッカーボール・キックなわけですよね。

野口 そうですよ。だから今回のは、『キャプテン翼』で言ったらボレーシュートですからね。タイガーショットですよ！

――三崎選手は日向小次郎だったと（笑）。関係者と今回の件で話はしましたか？

野口 いろんな人から「あれは反則じゃないでしょう」と言われましたし、髙田

裁定が簡単に覆ってしまうような大会は緊張感が台なしになってしまいますよ！

（延彦）さんにも「まったく問題ない」と言っていただきましたし。僕の関係している人の中では、「全然大丈夫じゃないの？」という人は多いですけど。

——大会後、審判団でも話はしたわけですよね。

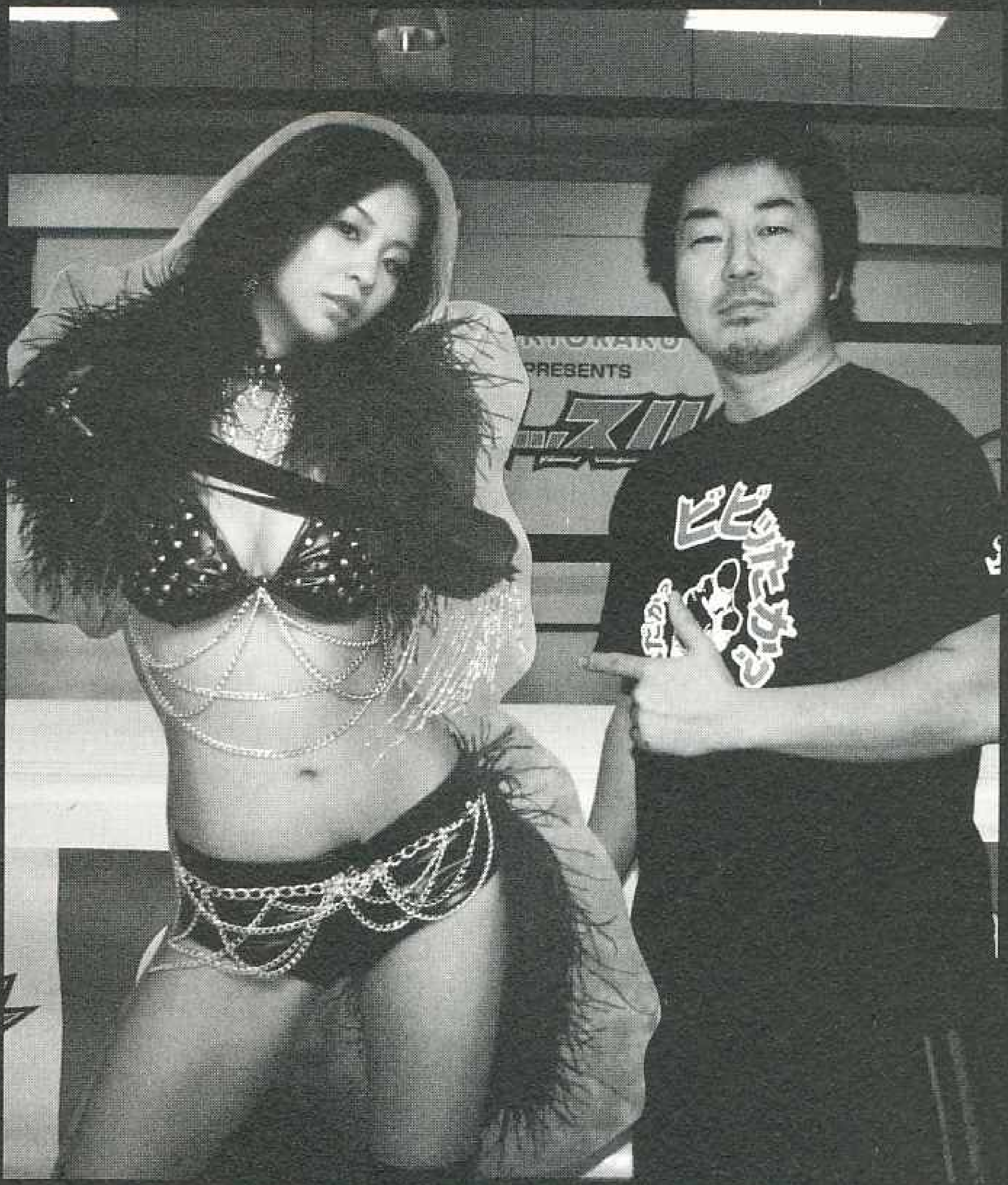
野口　もちろん。一番近くで見てたのはジャッジの大橋（正教）さんだったんですけど、「止めたのは凄くいいタイミングでしたね」と。マット・ヒュームも「あれはいい判断だった」と言ってました。

——ネット上では、「三崎vs秋山という試合だから、三崎の勝ちになったんだからいいじゃないか」という意見もけっこうありました。相手が秋山選手だから反則にする必要はないとまで。

野口　それも、そもそも論ですよね（笑）。わからないじゃないですか、そんなの。秋山選手がやってても止めてるかもしれないし。そもそもあのヌルヌルがなかったら、この試合もなかったわけですしね。これで僕が、「秋山選手がやってても僕は止めてましたよ！」って言っても、「ウソつけ！」ってなるでしょうし。

——ただ、常々「空気を読むレフェリング」ということが言われたりするじゃないですか。その一方で、レフェリーというのは厳格なルールの守護者でなければならない。そのへんのさじ加減というのは？

野口　僕の場合は一言で言うと、「島田裕二の背中を見て育ってきた」と。その言葉にすべてが集約されますね。もちろんレフェリーとしてルールは厳守させなければいけないし、守っていかなければいけない。根源はそこですけど、最低限あるルールの中でいかにお客さんに伝わりやすい試合にさせるか、そういうレフェリングをするかということだと思うんですよね。ルールを犯してまで試合をおもしろくする必要はないですから。やっぱりあれだけの会場であれだけのお客さんが盛り上がっている中で、グダグダの試合をさせてもいけないですし、そういう面ではいい意味で空気を読まなければならない部分はありますね。でも今回は、べつに空気を読んであぁなったわけじゃないですよ（笑）。あれだけキレイに、顔面にハイキックが入ったから止めたというだけで。



のぐち・だいすけ■1976年10月28日、栃木県出身。相撲、空手、柔術の経験を持ち、01年にレフェリー・デビュー。PRIDE、ハッスル、キックボクシングなどさまざまなリングでレフェリー業をこなす。

——現状、秋山選手サイドから抗議するという話があがっていますが、今後の対応としては？

野口　ルール上は、文書で来たら審判団で検討して、文書でお答えしますよということだけですね。抗議する場合は2週間以内に文書で、というのは明文化されてますけどね。その後は主催者の判断なんで。

——ルールの解釈が『やれんのか！』サイドとFEGサイドでわかれた形になってますよね。

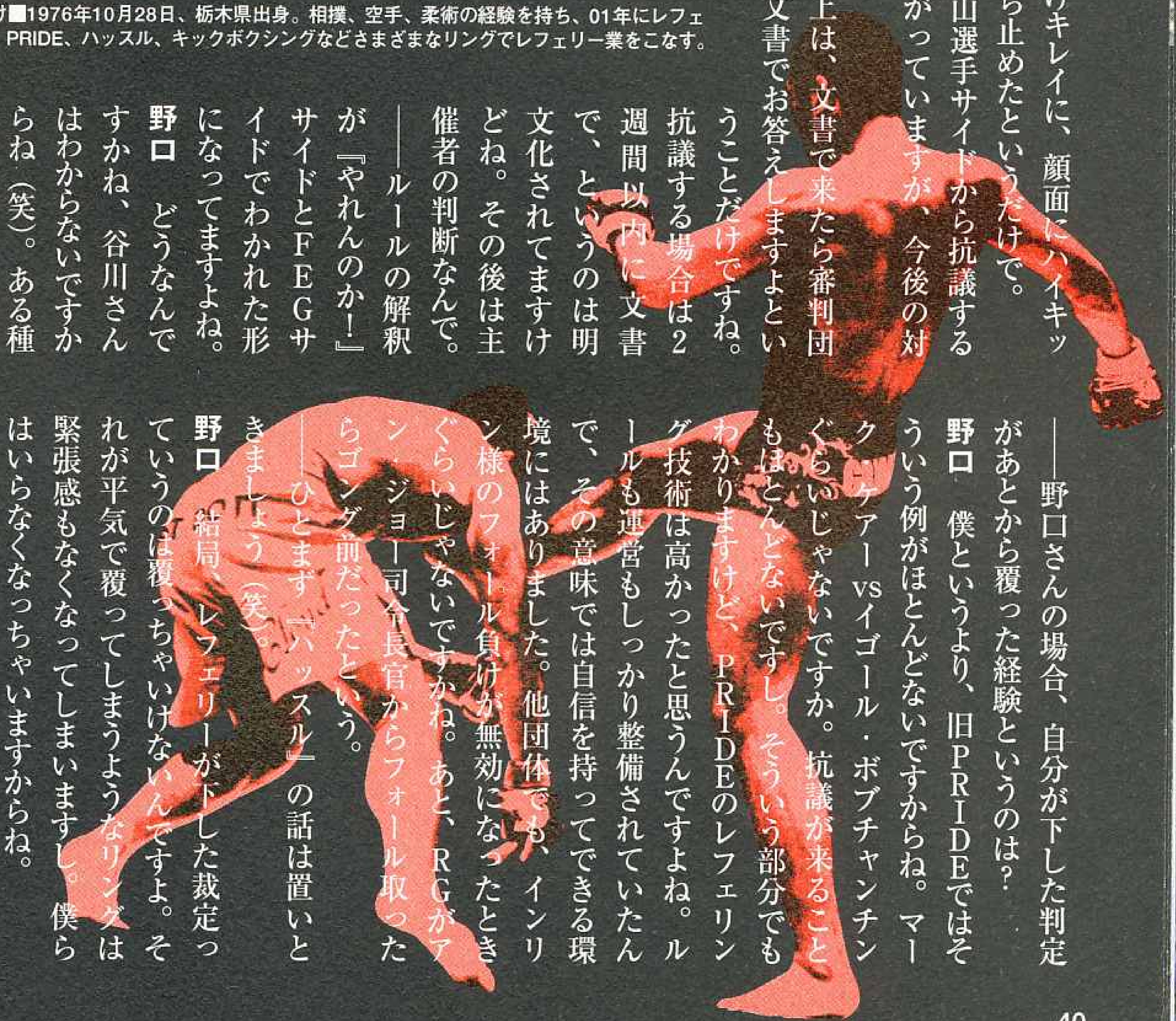
野口　どうなんですかね、谷川さんはわからないですからね（笑）。ある種それも、谷川マジックなんじゃないですか（笑）。

——リング上では秋山サイドから抗議はなかった？

野口　なかったですね。大会後もとくに。気にせず髙田さんと飲んでましたから。朝の9時、10時まで（笑）。そっちのほうがよっぽど大変でした（笑）。

——再戦という話も出てますが。

野口　どうなんですかねえ、再戦するのなら「また僕がレフェリーやりますよ」と言いたいですけどね。自分の判断についてはうしろめたいことはまったくないので。韓国でも行きますよ、と。



——野口さんの場合、自分が下した判定があとから覆った経験というのは？

野口　僕というより、旧PRIDEではそういう例がほとんどないですからね。マーク・ケアーvsイゴール・ボブチャンチンぐらいじゃないですか。抗議が来ることもほとんどないですし。そういう部分でもわかりますけど、PRIDEのレフェリング技術は高かったと思うんですよね。ルールも運営もしっかり整備されていたんで、その意味では自信を持ってできる環境にはありました。他団体でも、インリン様のフォール負けが無効になったときぐらいじゃないですかね。あと、RGがアン・ジョー司令長官からフォール取ったらゴング前だったという。

——ひとまず『ハッスル』の話は置いときましょう（笑）。

野口　結局、レフェリーが下した裁定っていうのは覆っちゃいけないんですよ。それが平気で覆ってしまうようなリングは緊張感もなくなってしまいますし、僕らはいらなくなっちゃいますからね。

島田裕二　（突然現われ）どっちが好きなんだよ、『やれんのか！』と『ハッスル』と！

野口　なんですか、急に！

島田　世界的レフェリーなら、バシッとどっちか言わなきゃいけないだろう！　どっちなんだよ！

——ちなみに、島田さんはどっちなんですか？

島田　オレ？　オレは両方。

野口　なんですか、それは！（笑）。

——え〜、収拾がつかなくなってきたので、インタビューはこのへんで終了させていただきます（笑）。どうもありがとうございました。

【08年1月10日／都内・ハッスル道場にて収録】

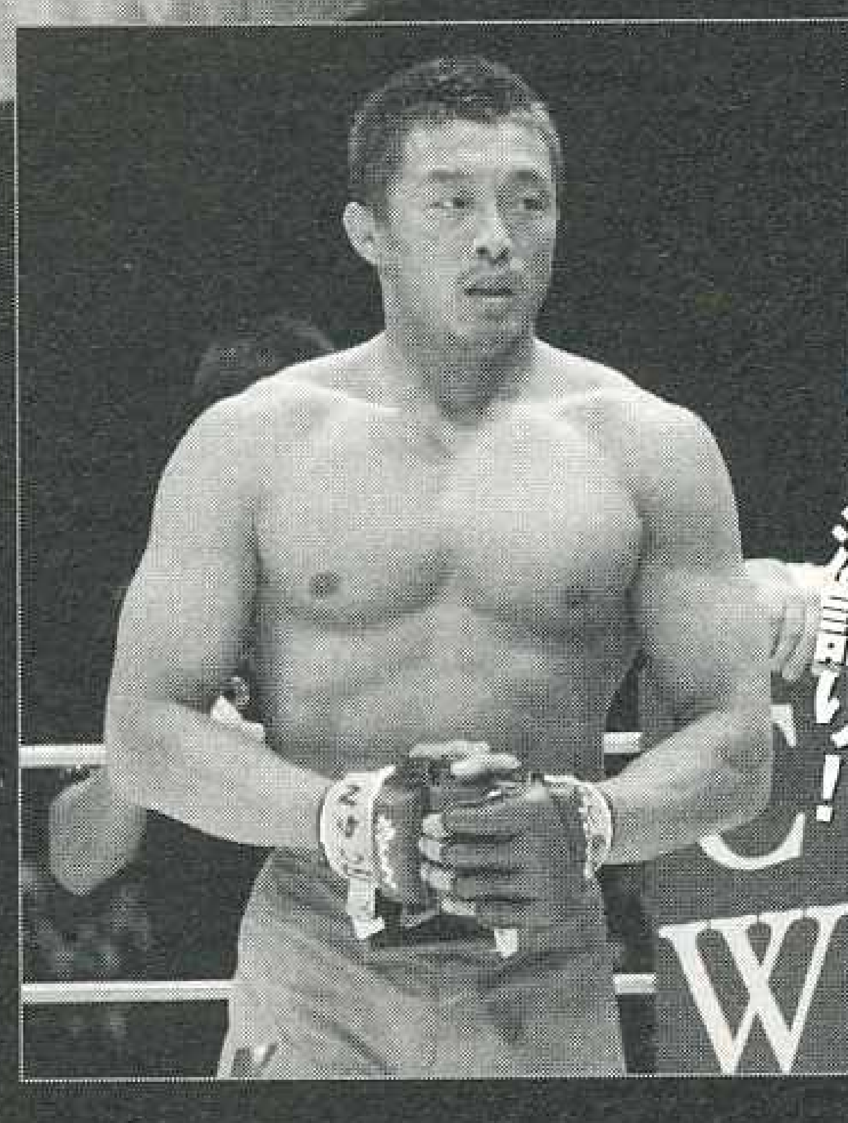
マット界再編の仕掛人がまたまたまたまた硬派宣言！

2008年は〝ホンモノ〟しかやりません!!



男に嫉妬するヤキモチ焼きなFEG代表

谷川貞治



サダハルンバ、〝魔王〟秋山を激語り！

大連立、大成功ニャー！　というわけで、今号も我らがサダハルンバの登場だ〜い！　大爆発した大晦日イベント、とりわけ、いろんな意味で凄い展開になった三崎vs秋山をはじめ、気になるカルバン緊急欠場の話まで今回もたっぷり語ってもらった。また、08年の大連立の行方だって鍵を握るサダハルンバに直撃ダー!!

聞き手／ジャン斉藤　写真／山口比佐夫、平専英、平工幸雄

自覚症状はあると思うんだけど
でも秋山くんはビクともしない！

谷川　（いきなり）ズバリ、今日は聞きたいことがいっぱいあるでしょう！

――新春からやる気満々ですね（笑）。まさしく、今日は大炎上大爆発した大晦日の話をうかがいに駆けつけましたよ！

谷川　はい！　もう、なんでも答えます（元気よく）。

――ではさっそくですが、正しいトロフィー贈呈の仕方を教えてください（笑）。

谷川　んあ～！　前田（日明）さんのその件はノーコメントでお願いしま～す！　理由もよくわからないし。

――「なんでも」って言ったのに（笑）。今回の大晦日は大連立やら二元中継やらいろいろありましたけど、谷川さんの率直な感想はいかがでしたか？

谷川　ええっと、まず『やれんのか！』のTBS放映に関して言えば、本当はもっと大々的にやりたかったよねえ。「大阪・東京二元中継決定！」だとか、「大晦日は大連立・大興奮だ！」って感じでプロモーションしたかったんだけど。

――諸問題を考慮すれば、放映できただけでもヨシというか。

谷川　そうなんだよね。だってさ、『やれんのか！』がやるとなったのは11月の下旬の話だよ。

――そこからよくまとまりましたよね、本当に（笑）。

谷川　うん。これが実現できたという点では、やっぱり大きな前進だったと思いますよ。そういう意味では、ボク的には大晦日のMVPは間違いなく（両イベントの冠スポンサーの）FieLDSの山本会長だよね！

――確かに、FieLDSは大連立発表会見後、『Dynamite!!』だけじゃなく、『やれんのか！』の冠スポンサーにもなってましたね。

谷川　山本会長には感謝してもしきれないですね。大晦日で5時間半にわたる特別協賛を組むのは、ただでさえかなり大金がかかるわけじゃないですか。ゴールデンタイムにコマーシャルをバンバン打ってさあ。大晦日のコマーシャルって高いんだよお！　それに『やれんのか！』の特別協賛になってもらうときも、「それは素晴らしいことだね」って二つ返事でOKしてくれましたからね。

――へえ～。男気がありますねえ。その大晦日ですけど、やっぱり『やれんのか！』の三崎和雄vs魔王（秋山成勲）戦につきますよね。

谷川　ボクは大阪でPPVで観てたけどね、もう本当の意味でひさびさに震えたねっ!!（目を見開いて）。

――谷川さんの魂をも震えさせましたか（笑）。

谷川　いや、ホントに。近年稀に見るおもしろさだったよ！　まず、あの佐藤大輔の煽り映像にめっちゃムカついてさあ！

――一年前の〝黒の事件〟が必要以上にクローズアップされた煽りVですね。

谷川　ボク、本気で「コンノヤロー！」って思ったもん!!　あの映像を観たら「秋山、頑張れっ！」って心から思ったからね。

――それは、魔王を『やれんのか！』に送り込んだFEGの最高責任者として？

谷川　そう！　責任者としての感情がちょっと出た。でも悔しいけど、さすが佐藤大輔だったよね。あの煽り映像を観た人は、一気にあの試合に感情移入できたと思いますよ。ただ、それ以上に感心したのは、やっぱり秋山くん本人ですよ。あれはたいしたもんですよっ!!

――凄かったですよね、あの堂々たる〝魔王〟っぷりは。

谷川　凄いタマだよ！　ビクともしない!!（興奮して）。

――入場シーンでもあれだけブーイングを浴びてるにも関わらず、まったく揺れてませんでしたよね。

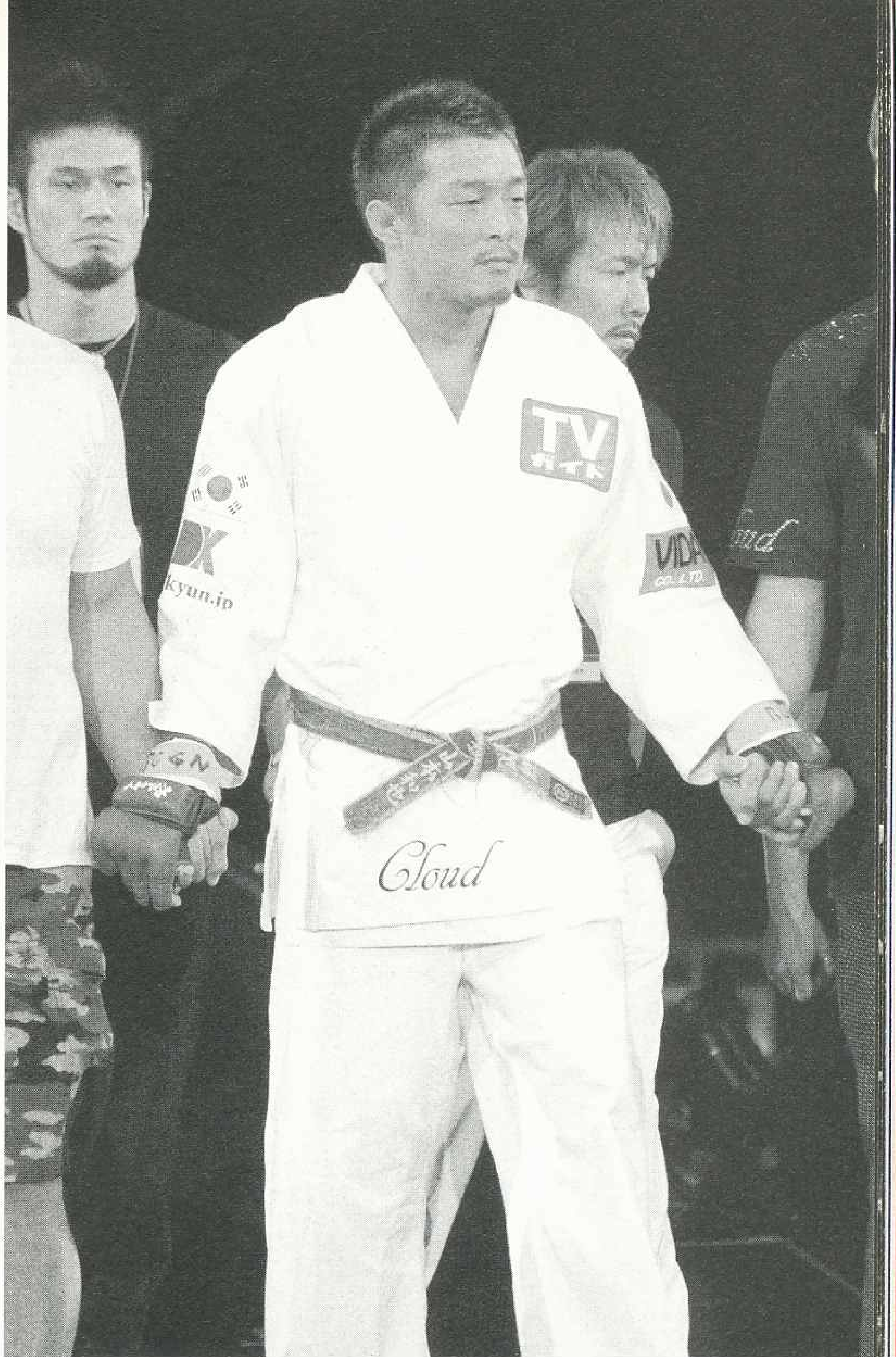
谷川　ねえ！　もちろん、本人なりにいつの場面でもあの事件に関する自覚症状はあったと思うんですよ。でも、今回を含めてね、秋山くんはビクともしないの！　ボクは20年ぐらいずーっと格闘技の仕事してて、総合格闘技には10年ぐらい関わってますけど、いまの時代に一番大切なのは、じつは選手ではないと思ってるんです。それより、いかにイベントをブランディングしていくかということが大事だと思ってるんだよね。

――要は、イベントとしていかに独自の空間を作るかということですね。

谷川　そう。PRIDEになぜお客さんが集まったかというと、ブランディングが優秀だったからじゃない。『HERO'S』にしても、『HERO'S』のブランドでお客さんが集まってくるわけで。だから、誰かが出るからお客さんが入るということはほとんどないと思うんだけど、でも、秋山くんはそこを突破してるよね。

――ああ、魔王の試合はもはや目が離せませんよね。〝黒〟に魅入られてしまったというか（笑）。

谷川　だよね～。人としてお客さんを集める力を感じた選手でいうと、ここ10年のあいだではグレイシーを倒したときのサクちゃん（桜庭和志）には凄くあったし、魔裟斗くんもあったし、一時期のKIDくんもものの凄くあったけど、秋山くんはひさび


この日、さいたまスーパーアリーナには2万7128人の観客が集まったが、秋山成勲の登場シーンでは容赦なく大ブーイングを浴びせたのだった。しかし、この異様な空気の中、花道を歩く秋山は含み笑いのこの表情！　なんたる“魔王”っぷりであろうか!!　秋山の大物ぶりにはサダハルンバも感心するばかりであった。

さに来た！　あんなタマはいないですよぉ。
――しかも、KID選手や魔裟斗選手も「光」か「影」かでいうと「光」だと思うんですけど、魔王は明らかに「影」で特殊な存在ですよ。
谷川　あのー、それはなぜかというと、要は彼の性格がもの凄く複雑なんだよね。
――育った環境なんかも含めて、その複雑さがお客さんにも見えちゃってますよね。
谷川　でも環境でいえば、たとえば金泰泳に対してボクらはなんとも思わないじゃない。みんな「金ちゃんは単純にナイスガイ」とか「身体能力が高い」とか、単純にそう思うでしょ。でも、秋山選手はそういうわけにはいかないんですよ。しかも、ボクも含めてこれだけ韓流ブームで韓国人が好きな日本人が増えてさあ、それでもそういう背景をクローズアップさせるなんて。
――力道山から始まるマット界の在日問題の光と影が、忘れた頃に浮き上がってきたという。それに、あれだけの憎悪を集める選手ってここ最近はなかなかいないですよね。昔はタイガー・ジェット・シンとか、そういうキャラクター的な人がいましたけど……。
谷川　（さえぎって）秋山くんはキャラとかじゃないもんね！　ヒール役を演じようとしているヒールじゃないじゃない。だから、そういうところが「秋山くん、凄いなあ」って。これはもうね、男として嫉妬するぅ！
――ダハハハハハハハハハ！　嫉妬してどうするんですか（笑）。
谷川　だって、なんか悔しいなあと思ってさあ。
――ただ、本人はあんなふうにブーイングを浴びたり、悪役として扱われることはどう思ってるんですかね？
谷川　あのね、非常にイヤだと思ってる（キッパリ）。
――あ、そうなんですか。
谷川　だから、秋山くんサイドは、



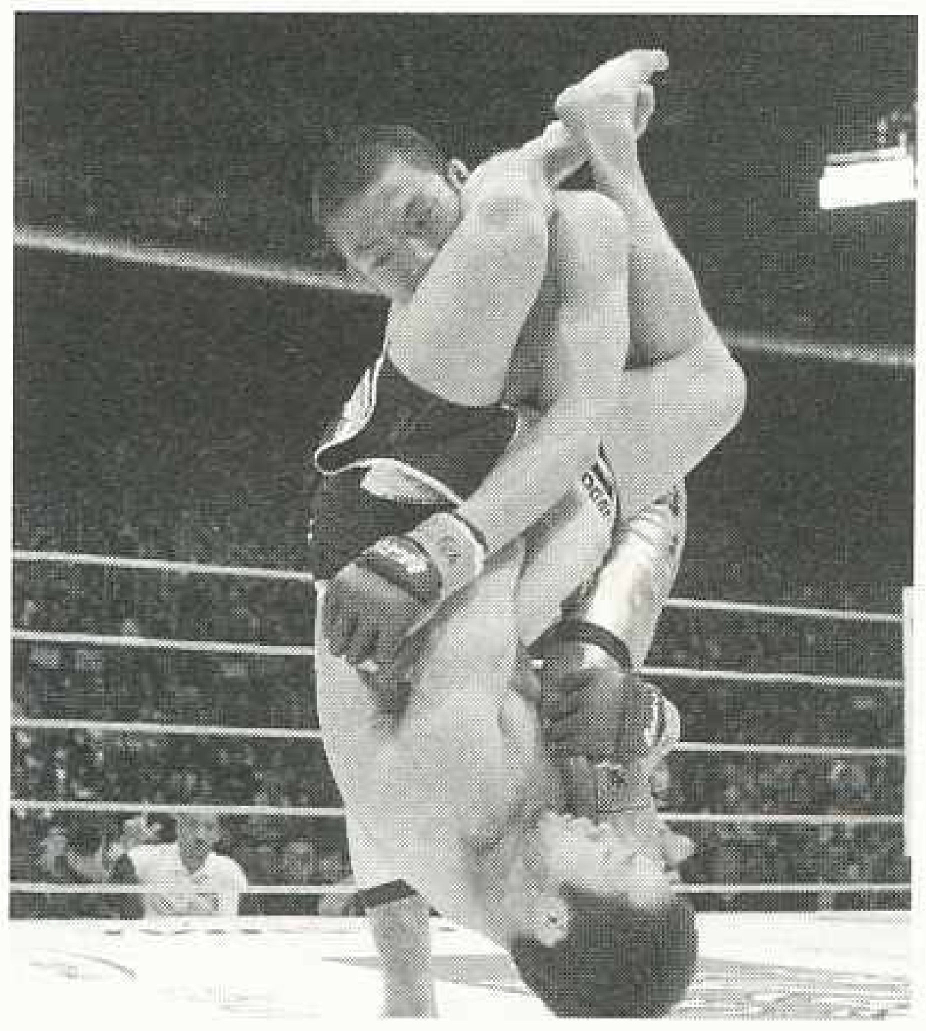
ご存知のとおり、4点ポジションでの三崎のサッカーボール・キックが取りざたされているこの試合。4点ポジションは残酷な技だという指摘がある一方で、MMAの試合においてルールを制限すると、イベントとしての魅力が大きくダウンしてしまうのも確かである。

佐藤大輔や『kamipro』に対してかなり怒ってます。
――んあ～⁉　それは困ったなあ。こっちはボクらなりの方法論で応援しているつもりなんですけどねぇ。
谷川　だってね、秋山くんって実際に接すると本当に気さくないいお兄ちゃんなんですよ。礼儀正しいしね。でも、やっぱりそんなお兄ちゃんがああいうふうに映るという怪物ぶりが、本当に凄いよなあ……。
――しかし、ここにきてやっとエンターテインメントとして成立しそうな雰囲気ってありますよね。やっと観る側にもあの魔王ぶりを楽しむ余裕が出てきたというか。
谷川　それに、冗談抜きに今年の格闘技界ではみんな一番興味があるんじゃないかと思いますよね。ひさびさに銭の取れるファイターだなって。でもさ、三崎選手は三崎選手で単純なヤツでおもしろかったけどね。
――ですね（笑）。
谷川　三崎選手の今回の神がかった強さというのは、やっぱり一番はさいたまのお客さんの勝利だと思いますね。あれが三崎選手をスターにしたって言っても過言ではないですよ。
――その三崎vs秋山ですけど、最後の三崎のサッカーボール・キックが4点ポジションでの蹴りだったんじゃないかということで、話題になってますよね。
谷川　そう！　そこで、またこの反則というのを生み出す秋山くんの運命の凄さ！
――またグレーな方向に転んでますもんね（笑）。でも、谷川さん的にはどうですか？　あれは反則だという見解でしょうか？
谷川　あれは、悪質な反則だよぉ！（笑）。まあそれは冗談として、冷静に考えて反則だよね（キッパリ）。故意か過失かで揉めるかもしれないけど、ボクは反則だと思う。
――それはFEG代表の立場として、そう言わなきゃいけないってことですか？
谷川　いやいや、冷静に観てそう思いました。4点ついているときに蹴りにいってるのがまず反則だし、実際に4点ついているところで蹴ってるからね。あの試合を最初に観たときはわからなかったけど、あとで秋山サイドがそう言ってるのを聞いて、あらためて写真と映像を観たときは「これ、反則だなあ」って。
――魔王はどう言ってました？
谷川　秋山くんは去年自分が反則してるから自分では言いにくいって言ってたんですよ。でも、ボクは「それはダメだ」って。「反則は反則なんだから、チームとしてちゃんと提訴しなさい」という話をしました。
――谷川さんはこの夏に『Dynamite!! KOREA』で再戦を計画しているとか。
谷川　ボクはぜひやりたいですね。でも、秋山くん本人は「韓国ではやりたくない」って言ってます。どうしてもやるなら日本でやりたいって。
――それはまた、たいしたタマですねえ。
谷川　ボクは三崎選手を韓国に引っぱり出したんだけどなあ。これは燃えるよ～‼
――ダハハハハ！　しかし実際、サッカーボール・キック問題はどうなりそうですか？
谷川　最終的には『やれんのか！』の審判、ジャッジ陣が決めることだからね。もちろんボクらも意見はしますけど。
――なるほど。ただ、4点ポジションのサッカーボール・キックって難しいですよね。『HERO'S』はルール上認めてませんけど、それはテレビ的に問題があるという理由からですか？
谷川　うーん、やっぱり残酷だっていうのもあるし、今回の秋山くんの問題じゃないですけど、総合格闘技って凄く判断がしづらいですよね。瞬間的に場面転換するから、サッカーボール・キックはアクシデントが起こりやすい。だから、ボクは完全に反則にしたほうがいいと思ってるんですよ。
――でも、総合格闘技ってルールでよくまあ揉めますよね。競技的に未成熟というよりは、複雑すぎるからなんでしょうけど。
谷川　だからよく言うのは、K－1が難しいのはレフェリーよりジャッジなんですよ。でも、総合はジャッジよりも明らかにレフェリーが難しいんですよね。だって、レフェリーの裁量で勝敗なんかぜんぜん変わっちゃうから。
――今回は『Dynamite!!』

秋山くんって実際に接すると気さくでいいお兄ちゃんなんですよ

02年の『Dynamite!』みたいなのをもう一回やりたい





J.Z.カルバンの欠場を受けて、青木の相手はユン・ドンシクの刺客、シドニー五輪銀メダリストのチョン・ブギョンに変更。このショッキングは報告に青木は涙目になりながらも、報道陣の前で「皆さん、暗くならずに！」と大人な対応を見せた。しかし、このブギョンが強い、強い。青木が勝利を勝ち取ったものの、終始ヒヤヒヤする展開に。

でもKIDvsヤヒーラ戦でサッカーボール・キック問題がありましたよね。あれは、どういう解釈なんでしょう？

谷川　あれは顔面には当たってないけど、レフェリーがストップしたあとに蹴ってるからダメだっていう判断ですよね。だから、あれも反則ですよ。結果は変わらないけども、イエローカードという判断です。だから結論としては、KID選手から罰金を取りますよ。

──大晦日でのトラブルというと、JZカルバンの欠場というのもありました。

谷川　ああ、カルバンを出した側としては申し訳ないなあと思いますね。だから、必ず再戦させますよ。でも正直、仕方ないなあって思う部分もあります。それに、カルバンも何回も日本に来て謝ったし一生懸命努力はしてたんで、ボクらとしてはけっこう許してもらえてるのかなと思ってるんですけど。

──カルバンの代役のチョン・ブギョン、強かったですよね。

谷川　彼、強かったねえ！

──ええ。カルバン欠場を見越した谷川さんが"青木真也殺し"のために前もって用意してたんじゃないかって噂もありますけど（笑）。

谷川　んあ〜！　でも、カルバンが闘えないってなったときに、「ユン・ドンシクをバンバン極める選手がいるんだよ」って『やれんのか！』側に言ったら、彼らも「それ、おもしろいんじゃないですか？」って言ってくれて。実際、とってもおもしろい試合になったからよかったのかなって。

──それで今回は大連立ということで二大イベントを地上波で放送したわけですけど、その効果ってどうでしたか？

谷川　うーん、正直言って今回は数字的には反映されてないですね。やっぱりそれはプロモーションの問題もあるし、『やれんのか！』の開催時間が遅かったりだとか、いろいろありましたからね。ヒョードルの試合順も当日に入れ替わったりしたじゃないですか。

──あの件で『やれんのか！』自体の世界観がねじ曲がってしまったところもあるんですが、そこは難しい話ですよね。ああでもしないと二元中継は成り立たないところはありましたし。

谷川　それに、もともとヒョードルの試合はあの時間にやろうと決めてたんですよ。でも、不思議と時間がのびのびになってたんだよね。なんでだろうなあ。

──じゃあ、『Dynamite!!』そのものの視聴率（平均視聴率14・7パーセント、瞬間最高視聴率20・9パーセント［山本KID vsハニ・ヤヒーラ戦］）という点でもあまり納得はできてないんですか？

谷川　えーっと、正直、ボク的には凄くガッカリしてますね。カードとしては去年よりはるかによかったんですけど。

──谷川さんはどうして下がったと思いますか？

谷川　やっぱり全体的にテレビの視聴率が下がってるのと、格闘技全体の熱が下がってるからだと思いますね。それに、去年はやっぱりバラエティの年だったということもあるし。それでも民放では格闘技が一番だったし、一ケタに落ちてないという点では、やっぱりキラーコンテンツだとは思いますけど。ただ、やっぱり個人的にはガッカリだなあ。

──そういう結果を受けて、"その後の大連立"の行方はどうなりそうですか？　試合後の談話ではまた『やれんのか！』と一緒にというお話をされてましたけど。

谷川　えー、正直まだ話はできてないんですけど、ボクは02年の国立競技場で開催した『Dynamite!』みたいなイベントをもう一回やりたいですね。

──真夏の祭典を！　それこそ当時はまだ旧PRIDEスタッフと協力関係にありましたもんね。

谷川　そのくらいのスケールでやりたい。それは旧PRIDE勢と我々が一緒にやれば絶対にできると思ってますから。やっぱり何回も言ってきましたけど、一つのジャンルのバブルが弾けちゃうと、少数野党ばっかりになるじゃないですか。たぶん、このままいくと総合格闘技も少数野党になる予感がありましたよね。それが大連立の始まりで、ボクらのほうから頭を下げて「なんとか一緒にやってくれないか」ということでスタートしましたから。

──え？　谷川さんが頭を下げたんですか？

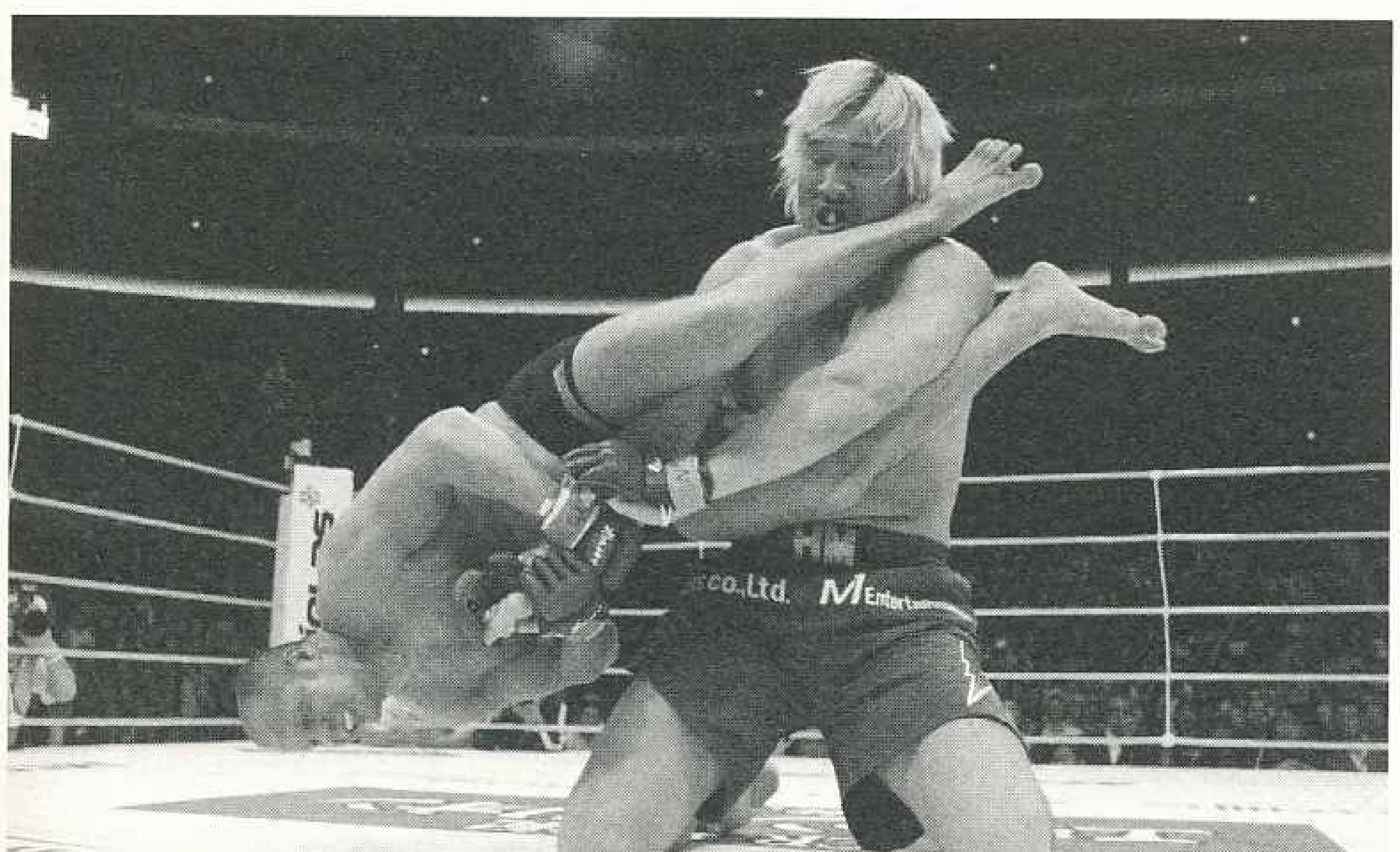
谷川　そうですよ。だって、むしろ彼らはボクらと一緒にやることにかなり抵抗があったと思いますよ。だけど、あのままだと絶対に少数野党になっちゃうもんね。いまは巨大な与党を作らないとダメじゃないですか。

──まあ、世界的なことで言うと、現在の巨大与党はUFCなんですけど、日本のファンにはいまいちピンときてないんですよね。

谷川　きてない、きてない。だから、連立してどんどん夢のあるカードを作っていかないと。

──では状況的には、とりあえず一度大連立の興行は打ったけど、今後のことはこれからまた話を詰めていくという感じなんですね。

谷川　これからですね。そんな簡単にまとまる話じゃないし。ホントに桜が咲く頃には、また一緒にやりた



「極端に身体が大きい相手でも大丈夫です」と本誌インタビューで語っていたヒョードルだが、ついにチェ・ホンマンからはテイクダウンを奪えず。しかし、最後は十字でフィニッシュ。皇帝スマイル全開ダー！

いなと思ってるんですけどね。

—これは前にも言われてましたけど、たとえば『HERO'S』というイベント名を変えてでもそういうものをやりたいという気持ちはあるんですか？

谷川　ありますね。PRIDEでもないし『HERO'S』でもない。そのくらいのつもりでやらないと。そういう意味では、あらゆるものをいったんリセットするべきですね。PRIDEもK−1も素晴らしいものだと思うんですけど、新しいファンからすればわかりづらいものもたくさんあると思うんですよ。

—それにUFCが圧倒的な力を持ったいま、イベント運営や見せ方もシフトチェンジしないといけませんよね。PRIDEやK−1のイメージをいい意味で受け継ぎつつも、おもいきって捨てることができるかどうか、という。

谷川　だからリセットしなきゃダメなんです。で、ポイントはね、やっぱり07年12月31日にさいたまに集まったお客さんですよ。

—言い方は悪いですけど"変態"の集まりですもんね（笑）。

谷川　あのお客さんを大切にしないとダメですね。あれはもうプロレスにもないし、ほかの格闘技団体でもないですよ。っていうか、Pヲタって凄いよねえ（しみじみ）。

—ダハハハハ！　確かにああいう熱は何かを動かしますからね。

谷川　たとえば、K−1というのはマスファンの集まりなんですよね。いままでそういうブランディングをしてきたし、実際にボクらがビックリするようなポイントを突いて「今日のK−1おもしろいね」って言っちゃうような人たちなんですよ。『HERO'S』もどっちかというとマス向きのコンテンツだと思うんですけど、コアとしての格闘技ファンというのは、もう大晦日にさいたまに集まったようなファンしかいないもんね。だからボクは、もう一回格闘技をコアな土壌に戻して、それが作り出す熱によってテレビ局やいろんなものを巻き込んでいきたい。そういう意味では、今年の大晦日は絶対に視聴率20パーセント超えができる体制になると思いますよ。



サダハルンバの大英断により実現した格闘大連立。08年はかつて国際競技場で行なわれた『Dynamite！』級の連立イベントが実現するのか!?　桜の咲く頃が楽しみである！

—それはいわゆる芸能人を投入するような感じじゃなくて、総合格闘技のストレートな魅力で勝負しようということでですか？

谷川　そうそう。だから第一のリセット候補は、ボブ・サップvsボビー・オロゴン戦的なカードですよ。あれはもういらない！（キッパリ）

—……本当ですかあ（冷たい目線で）。

谷川　ホントだよ！

—でも、谷川さんは一昨年の大晦日の直前、ボクに「コア層に響くカードをやるよ！」って言った翌日に曙vsジャイアント・シルバを発表したりしてましたよね。

谷川　そうだっけ？

—で、去年も「PRIDEっぽいことをやる」とブチ挙げた数日後に「クロマティvs立川隆史」をブチあげて。

谷川　ニャ〜！

—また明日あたり「新たな芸能人参戦！」のニュースが飛び出してくるんじゃないですかね。

谷川　やだなあ、もう。最近になって、やっとボクの大好きな格闘技ができる状況になってきたんですよ。

—は？　それはどういうことでしょうか。

谷川　だ・か・ら！　サップvsオロゴンとかをやってきたのは、ボクの大好きなマジメな格闘技をやるための

ポイントは07年大晦日さいたまに集まったお客さんですよ

土台作りであってさあ。

—ダハハハハハハハハハハハハハハ！

谷川　これからはボクの大好きな格闘技をどんどんやるぞぉ！　ほら、三崎vs秋山とか、青木vsカルバンみたいなさあ。今年はマジメにいきますよ！　ボクのことを誤解している『kamipro』読者には応援してほしいなあ。

—じゃあ、「ニャー」とか「谷川黒魔術」とか言ってる映像はもう使ってくれるな、と。

谷川　ああ、そこは捨てがたいところなんだけどなあ。

—ニャ〜！（笑）。

【08年1月9日／都内・FEG事務所にて収録】

このインタビューが収録された3日後、なんとサダハルンバはK−1版ジャニーズジュニア創設宣言！　2月2日K−1MAXにて『K−1ワールドユース2008』を開催すると発表したサダハルンバ。「ジャニーズもジュニアがあってSMAPがある。K−1も10代から鍛えてポスト魔裟斗の登場に期待します！」と、"マジメな格闘技"に大方向転換だ。う〜ん、これはぜひ、"ジャニー谷川"としてK−1からキムタク級の国民的アイドルを誕生させてほしいものである！　ユー、蹴っちゃいなよ！



たにかわ・さだはる■1961年9月27日、愛知県出身。FEG代表。格闘技界の将来に不安を抱き、07年年末、格闘大連立をブチ上げる。その効果抜群で大晦日興行は大成功を遂げた。08年はこの大連立をどう展開していくのかが注目される。また今年は、「サダハルンバ」とは別に、「ジャニー谷川」というキャッチーな愛称も手に入れた。

『K-1 WORLD MAX 2008 日本代表決定トーナメント』

東京・日本武道館
日時／2月2日（土）
試合開始／15:30

［対戦カード］
【スーパーファイト】
ブアカーオ・ポー.プラムック vs 佐藤嘉洋
アルトゥール・キシェンコ vs 我龍真吾

【日本代表トーナメント】
アンディ・オロゴン vs 山本優弥
尾崎圭司 vs 城戸康裕
TATSUJI vs 前田宏行
HAYATO vs 龍二
白須康仁 vs 密山剛三（リザーブファイト）

【K-1 WORLD YOUTH 第一弾 日本vsオランダ】
（大将戦）HIROYA vs オランダ選抜
（中堅戦）嶋田翔太 vs オランダ選抜
（先鋒戦）才賀紀左衛門 vs オランダ選抜

［チケット料金］※全席指定・税込
SRS席 23,000円／SS席 13,000円／S席 10,000円／A席 6,000円

［問い合わせ］
FEG／TEL.03-3796-5060



桜咲く頃、『やれんのか』の行方――!!

どことやれんのか!?



『やれんのか! 大晦日! 2007』実行委員

笹原圭一

大成功に終わった“けじめのイベント”『やれんのか!　大晦日!　2007』だが、一息つく間もなく『やれんのか!』スタッフの次なる動向が注目されている。「桜咲く頃……」という意味深なフレーズから推測されるのは、3月開催の『戦極』や『HERO'S』への協力!?　いったいどことやれんのか!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/乾晋也、平工幸雄

—『やれんのか！大晦日！2007』の大成功、おめでとうございます！

笹原　ありがとうございます。これもひとえにファンの皆さまの後押しのおかげです！

—本当に凄い盛り上がりでしたけど、個人的にはどうも〝終わった〟感じがしないんですよね。終わった感じがしないのはいろいろと先に見えるものがあるからだと思うんですけど。

笹原　そうなんですか？　ボクには何も見えないですけどね（笑）。

—んあ〜。いろいろありますよ！　三崎（和雄）さんのサッカーボール・キック問題や、笹原さんたちとFEG、そして『戦極』との関係だったりとか。

笹原　なるほど、なるほど。

—ズバリ！『やれんのか！』は『戦極』をやれんのか⁉　ということなんですけど。

笹原　何を言ってるのか意味がわかりません！

—そうですか（笑）。前置きが長くなりましたが、今日は『やれんのか！』スタッフはどこに向かうのか？　ということをおうかがいしたいんですけど。聞くところによると、笹原さんは大晦日を最後に格闘技界から身を退くみたいなことを言われているそうですね。

笹原　……え？　そうなんですか？　そんなこと言ってないですよ。書いてもいないですよ。まあ、私の去就なんてどうでもいい話だと思いますけど。

—あれ？　おっかしいなあ。どこかで「あとは佐伯（繁DEEP代表）さんに任せる」とかなんとか言ったとか書いたとか。

笹原　佐伯さんの名前を出している時点でネタじゃないですか！（笑）。

—ダハハハハ！　じゃあ、いままでと変わりなくマット界に残られるということですね。

笹原　はい。そうなると思います。たぶん（笑）

—でも、今回の『やれんのか！』で終わってもいいという姿勢で大晦日はやられていたんですよね。

笹原　そうですね。今後のことはどうなるかわからないですけど、〝けじめのイベント〟という覚悟でやりました。それに1月1日に『やれんのか！』のブログにも書いたんですけど、終わった瞬間って、凄い達成感とかカタルシスが得られるんじゃないかと思ったんですよ。でも、それがまったくなかったんですね。

—達成感なしですか！

笹原　多くのファンや関係者の方から「凄くおもしろかった」とか「楽しかった」とか「やっぱりいいね」とかほめていただいたんですけど、個人的にはいままで関わったイベントの中で一番、悔しかったですねぇ。

—うーん。それって我々のイベントはこんなもんじゃない！　という感じなんですかね。

笹原　そうですね。皆さんに喜んでいただけたのは凄く嬉しいんですけど、終わったときに「もっとやれたんじゃないか？」っていう気持ちのほうが強かった。いや、強かったというよりも、その気持ちしかなかったですね。大会の中で、我々がもっと準備してバックアップできることは山ほどあったと思いますし、選手にしても、青木（真也）選手もイベントの途中でいきなりメインイベントになることを知らされたんですから、申し訳ないっていう言葉しか出てこないですね……。それから大会を完全パッケージで流していただいてるスカパー！さんに対しても、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいですし。



「やれんのか！」終了後、場内の垂れ幕やビジョンには、春頃に何かが起こるかのようなメッセージ！　これで何も期待するなっていうほうが無理なのだ。マット界にはしばらく未確認情報が飛び交うことになりそう。

個人的にはいままで関わったイベントの中で一番、悔しい!!

—青木さんにしてみれば、いきなりのメインでプレッシャーもあったでしょうねぇ。

笹原　そうですね。ヒョードルも自分の試合が最後だと思ってウォームアップしているわけじゃないですか。あのタイミングで試合をさせてしまったのは本当に申し訳なかったです。

—でも、そうでもしないといまの日本であれだけのメガイベントは成立しないというのが、厳しい現実なんですね。誰が悪いわけでもなくて。

笹原　まあ、そうですけど。主催者としては、「これが現実なんで、皆さん許してください」なんて言えないじゃないですか。そんな言い訳もしたくないですし。だからこそ、もっと綿密に準備をしておけばよかったと思うんですよ。もちろん、地上波の生中断でヒョードルの試合を流すことができたのは、非常に大きなことだったと思いますけど。

—それでも『やれんのか！』を年間最高イベントとして推す声は多いですね。

笹原　ありがとうございます！　手前味噌ですけど、あれは「さすが世界最高峰の制作チーム！」って思いましたもん。制約があって思いどおりのことができない中で、最高のも



暗黒と沈黙に支配された2007年の大晦日を“格闘大連立”で乗りきったマット界。その後の格闘大連立がどうなるにせよ2008年の大きなポイントになる。

『やれんのか！』のMVP 間違いなく秋山選手ですよ！

のを見せられたと思いますし、会場も凄く盛り上がりましたからね。

――それで、いま話題になっているのが、三崎さんと魔王（秋山成勲）の試合におけるサッカーボール・キック問題なんです。

笹原　反則か否かは、私が軽々しく言えることじゃないですけど、大会から二週間以内に申し立てがあれば、主催者としてルールに則って粛々と対応することだけですね。……しかし、秋山選手は凄かったですね！

――魔王、サイコー!!（笑）。

笹原　私は断然、惚れましたね、もうすべてが！　入場から、負けっぷりから、すべてよかった。もっと言えば新宿の前日記者会見のときの佇まいも。間違いなく秋山選手は大会MVPですよ。

――異常なくらい『やれんのか！』のリングに魔王は映えましたね。

笹原　きっと、秋山選手は、ベビーとヒールとか、その個性がちゃんと明確になるリングのほうが絶対に映えるんですね。

――『HERO'S』だと、実際の人間像とテレビ局の打ち出したいイメージにギャップが生じてますし。

笹原　あのヒールっぷりは、作られた感じがまったくしないじゃないですか。ナチュラルヒールっていう言葉すら言い足りないくらいの存在感がありましたもん。もっともっと磨けば、総合格闘技史上最大のヒールになれますよ！

――本人の意向はともかく（笑）。ただ、佐藤大輔入魂の煽りV、魔王はどう観たのか凄く気になるんですけども。

笹原　いやぁ、感想を聞いてみたいですね（笑）。あんな刺激的な紹介Vを作れるのは大輔さんだけでしょうし、あれぞまさしく「煽り」ですよね。会場の熱を上げるブースターになりましたからね。

――あと、試合で残念だったのは青木さんですね。

笹原　そうですね。ただ、JZ（カルバン）とやらせたかったですし、試合順も変わって大変だったと思いますが、やっぱり一本極める姿をファンの人たちは観たかったと思うんですよ。それだけ青木選手は期待されている選手ですし、もっと高いところを目指せる選手ですからね。

――でも、青木さんの試合は去年一年間のマット界を象徴するような内容だったというか。カルバンの欠場にしろ、「世の中、思うようにいかねえなあ」という感じで。

笹原　ああ、なるほど。確かに。だとすれば、それも含めてオープニングで感極まってしまう姿も、大会をずっと待ち続けていた姿も、誰よりもファンの気持ちとシンクロしていたからこそ、一本極めて最後にすべての熱をさらってほしかったですね。

――で、谷川さんは3月の『HER

いまは状況を冷静に見極めたほうがいいかなという感じはします

O.S』で青木さんとカルバンの試合を行なうという話をしてますね。

笹原　えっ！　そうなんですか？

――ニャ～！　谷川黒魔術（笑）。谷川さんは今後も大連立を維持していきたいようですけど……、『やれんのか！』はどこに向かっていくんですか？

笹原　どこに向かうんですかねぇ。

――でも、あちこちからラブコールは受けてるじゃないですか。『戦極』やら、『HERO'S』やら。

笹原　へえ、そうなんですか？

――また、すっとぼけますね（笑）

笹原　だってまだ大晦日が終わって一週間くらいしか経ってないんですよ。もうちょっとゆっくりさせてくださいよ（笑）。真面目な話、まだどこに向かっていくかは、決まってませんよ。まだ調整中ってことです。

――でも、昨日（1月8日）の『戦極』会見で、『やれんのか！』の運営でイベントを行なうことを発表しましたけど。

笹原　いやあ、あの場でああいう発表するなんてまったく聞いてなかったので、ボクらがいちばんビックリしてるんですよ。

――わざと知らないふりしてないですか？（笑）。

笹原　いや、本当なんです。

――うーん、微妙な話になってきましたね（笑）。ええと、『戦極』から仕事の発注は受けてるんですか？

笹原　話はもちろんしていますし、我々が協力できることは協力しますけど、主催や共催みたいなかたちで関わることはないですね。

――ははぁ。ということは、両者の考えていることに温度差があるってことでしょうか？

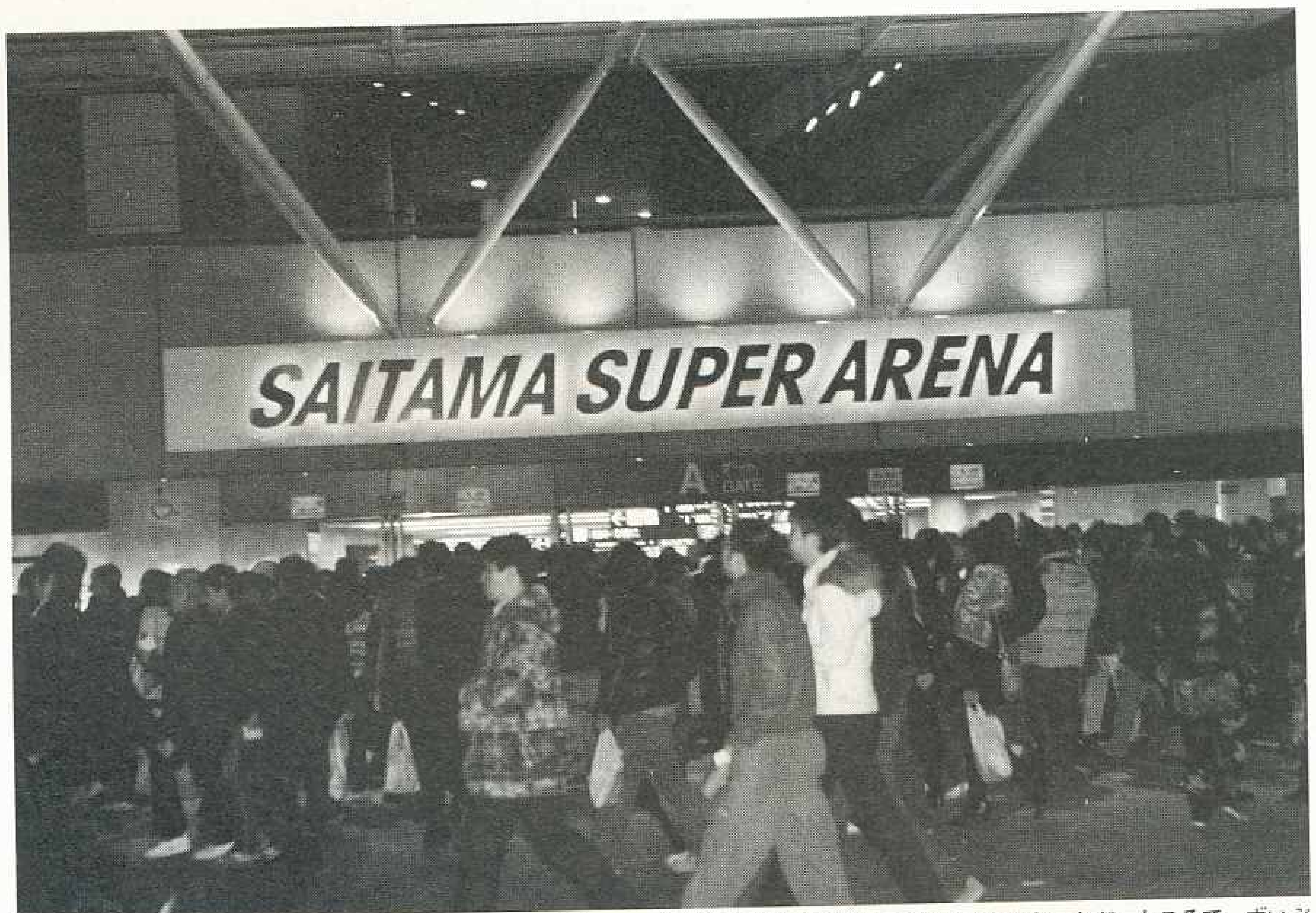
笹原　私が直接お話をさせていただいてるわけではないので、正直そのあたりのニュアンスはわかりかねるんですけど。

――では、佐藤大輔さんの煽りVで、レニー・ハートさんが選手コールをやるかどうかもわからない、と。

笹原　全然です。先の記者会見では、大輔さんや、レニーさんのことに言及されたと聞いてますけど、具体的には何も決まってないですからね。

――一方で、谷川さんは『HERO.S』のイベント名を変えてでも一緒にやりたいくらいの意気込みなんですよ。そこは『戦極』よりは歩み寄ってますよね？

笹原　歩み寄ってるという言い方が正しいかどうかわかりませんけど、たぶん谷川さんがそういう言い方をされるのは、イベントの世界観の作り方を熟知されているからだと思います。それこそ『ROMANEX』というタイトルにスパッと見切りをつけて、『HERO.S』を立ち上げたことなんかも、そういうことなんじゃないですか。



先のことは何も決まっていないと繰り返す笹原氏。つまり、マット界も行方もまだ定まっていないということだ。ところで、ずいぶんと先の話だが今年の大晦日、さいたまスーパーアリーナはどこが使用するのか？　これもポイントの一つになるが……。

――M－1グローバルとはどういう関係なんでしょう。噂では9月頃に日本大会をやるそうですけど。

笹原　その前に、なんかロシアでもやるって言ってましたけどね。

――ロシアで？　それも『やれんのか！』が協力するんですか？

笹原　どうなんですかね？　ちょっとまだわからないですね。

――でも『やれんのか！』ってかなり引く手あまたの状況ですよね？

笹原　まあ、評価いただけるのはありがたいことですけど、もうちょっとだけ休ませてくださいっていうのが本音です（笑）。

――そうした笹原さんの本音はともかく、『やれんのか！』はどこかに吸収されたり、下請け会社になるんじゃないかという声も上がっていますが、そういうわけではなさそうですね？

笹原　さあ、どうなんでしょう。ただやるからには、命を懸けて取り組めるようなものをやりたいですし、てっぺんを目指したいですけど。

――なるほど。そうすると、『やれんのか！』が単独でイベントを行なうのが一番理想的ではありますよね。

笹原　でも、『やれんのか！』は一夜限りのイベントなので、継続するとか、単独であらためて行なうっていうのは、ちょっと意味が違いますけどね。

――でも、かつてのPRIDEのようなメガイベントを簡単に行なる状況ではないわけですよね。

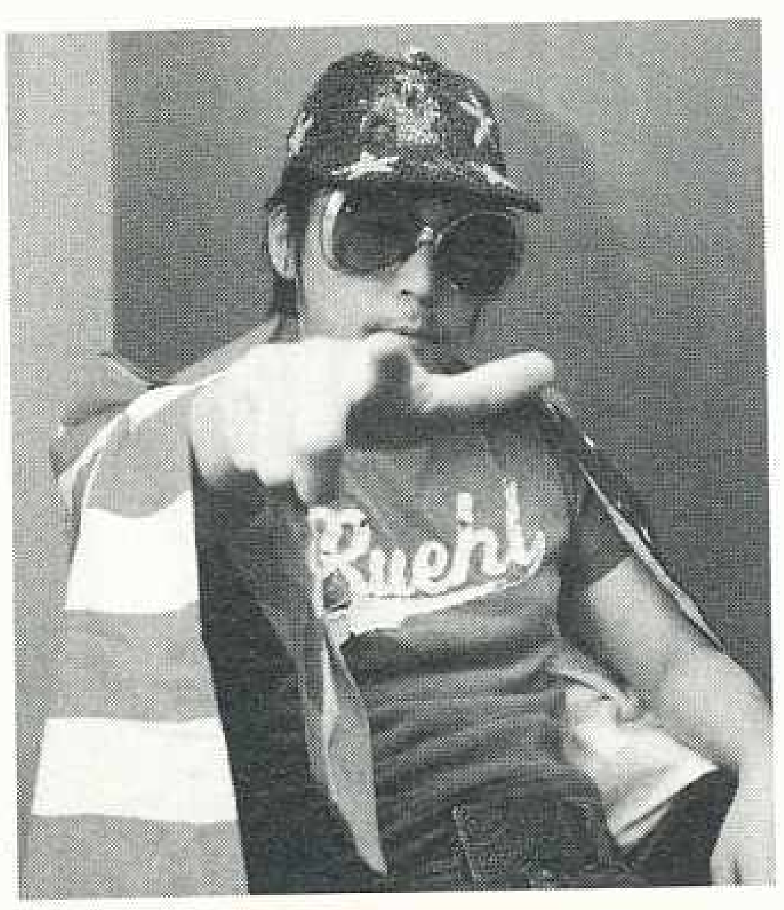
笹原　そうですね。焦らずに一歩ずつ、もう一度階段を一から上がっていくしかないでしょうね。


――なるほど。

笹原　いまは状況を冷静に見極めたほうがいいかなという感じはします。しっかり力を蓄えて、もちろんそれは金銭的なところも含めて、自分たちの自力でやれるっていう状況にしてからやるっていうのも一つの選択肢としてあるでしょうし。まあ、大晦日は終わったときに凄く悔しくて、逆にあのイベントの生命力みたいなものを感じたんですよね。「おまえら、これで本当にやめられんのか？」みたいに言われているような感じがしたんですよ。この先、どうなるかは本当にわからないですけど、あの悔しさを今後の糧にすることは間違いないですね。

――わかりました！　では、桜が咲く頃、また会えることを祈っております！

［08年1月9日／都内・某所にて収録］


ささはら・けいいち■1967年9月16日、愛知県出身。『PRIDE』は旗揚げイベントから参加する〝歴史の証人〟の一人。PRIDEの広報として写真のようなことを喜んでこなす活躍を見せていた。『ハッスル』では初代GMを務めたが、敏腕マネージャーキャラのケイ・ササハラはあっという間に姿を消した。現在は『やれんのか！』実行委員会の一員。



“煽りVアーティスト”

佐藤大輔

ドキュメント「やれんのか!」舞台裏

大晦日の『やれんのか!』で総合演出を務めた“煽りVアーティスト”佐藤大輔氏。今回、歴史的大連立が実現し、TBSでは大阪とさいたまの二元中継が実現。そのさいたま側の中継を統括した大輔氏が、大晦日の裏側をあますところなく語ってくれた。さらに注目の“夢の続き”にも言及。『やれんのか!』はこれを読まねば終わらない!

聞き手／堀江ガンツ　試合撮影／山口比佐夫、平専英、平工幸雄

島田レフェリーに対する大ブーイングを聞いたとき、少しウルッときましたね（笑）

—大輔さん、大晦日はお疲れさまでした！

佐藤　いや、ガンツさんも長旅ご苦労さまでした。UFCと『やれんのか！』をハシゴされたそうで。今日はすっかりアメリカかぶれした人にUFCのお話をいろいろ聞こうと思って。「ギブ・ミー・チョコレート！」って感じですか？

—何を言ってるんですか（笑）。でも、凄まじい盛り上がりでしたよ。12・29『UFC 79』は。

佐藤　ボクもネットで観ましたけど、カッコいいね。ジョルジュ・サンピエール。すべての対処の仕方が新しくて、寸分の隙もない。総合がまた新しい次元にいった感じだね、あれは。

—GSPは未来人ですよ。『ドラゴンボール』のトランクスみたいな。ま、そんなことはいいとして、年末はかなり大変だったんじゃないですか？

佐藤　ええ、本当にしんどかったですね。

—大晦日毎年恒例の決まらない&直前で変更になる対戦カードで（笑）。

佐藤　もうね、マイク・ルソーvsローマン・ゼンツォフなんて、VTR作るのをあきらめましたからね。

—いきなり第一試合は「煽りVなし」って、あれは新しかったですね（笑）。

佐藤　あの試合が決まったのも大会直前で、しかも試合映像なんて集まらないってことだったんで「もういいじゃん、なしで」って話になったんですよ（笑）。大会中もね、泣こう泣こうと思いながらも、とても感慨にふけるどころじゃなくてね。

—それどころじゃない（笑）。

佐藤　もう舞台裏はてんやわんやですよ。試合順も突然変わったりしましたけど、そういうイベントのいびつさも、お客さんの熱に救われた感じですよね。あれ、みんな『kamipro』読者でしょ？

—まあ、そんな感じの濃い熱はありましたよね。

佐藤　オープニングの島田（裕二）さんに対するブーイング、あそこでちょっとウルッときましたよ。

—「あの世界観が戻ってきた！」って感じですか。それを島田さんで感じるのもどうかと思いますけど（笑）。あの日はドクターやジャッジの紹介から異常な盛り上がりでしたもんね。トップバッターで大歓声浴びた中山ドクターとか、相当気持ちよかったと思いますよ。



準備期間が短かったにも関わらず、超満員の大観衆で埋めつくされたさいたまスーパーアリーナ。観客の盛り上がりも、オープニングからでき上がっており、最高だった。

Daisuke Sato

佐藤　ねえ。あれはね、ドクターやジャッジの紹介も曲をかけて、一人一人テロップを入れようってことになってたんです。観客も含めた、すべての人がこのリングを作ってるってことで。

—みんなが仲間というか、共同体ができあがってましたよね。

佐藤　その流れで、秋山（成勲）選手に対して、2万人以上が一斉にブーイングを送るってことが起こったじゃないですか。あれ見たとき、最初はあまりにも画一的で、ボクはちょっと引いちゃったんですよね。狂信的なものを感じたというか。

—PRIDE教の一大集会的でもありましたよね（笑）。

佐藤　でも、いまボクはスカパー！のPPVで流す『やれんのか！』のドキュメンタリー番組を作ってて、お客さんの表情を撮ってたカメラもあるから、その映像を見てみたんですよ。そしたら、みんな笑顔で楽しみながらブーイングしてるんですよね。

—心からブーイングを飛ばせる大ヒール登場が嬉しくてしょうがないって感じもありましたよね。

佐藤　だからボクも最初、秋山選手に対するアンチって、人種国籍問題と絡めたりとか全然センスないし、ちょっと気持ち悪いなと思ってたんですけど、ここの観客は全然そうじゃないなって思い直しましたね。なんかのきっかけで、秋山人気爆発っていうのもあるな、みたいな。

—すでにその徴候もありますよね。

佐藤　ありますね。

—PRIDEファンが、あの悪の魅力にシビれないわけがない、というか。まあ、それを煽ったのは大輔さんの秀逸な煽りVでしたけど。

佐藤　あの煽りVTRに関しては、じつは完全に誰にも見せなかったんですよ。

—ガハハハ！　事前の根回しなく、いきなり現場であれを流しましたか！

佐藤　いつものことなんですけど。

—まあ、普通に事務所の確認とか取ったらNGですよね。ヌルヌル事件をおもいきりぶり返して、あらためて悪のイメージを強調するという（笑）。



今回も秀逸だった煽りV。しかし、ヒョードルの煽りVは試合順変更のため不完全に。秋山の煽りVにはさりげなく前田SVが登場し、PRIDEファンにヌルヌルと同時に「ざまあみろ！」を想起させ、よりヒール度を煽る装置となった。

佐藤　あと放送コード的にもけっこうヤバいですよ。ピカピカさせたりしたのが。

——「部屋を暗くして見ないでください」ってヤツですね。

佐藤　そうそうそう。

——だから谷川さんが言ってましたよ、「秋山陣営は佐藤大輔の煽りVと『ｋａｍｉｐｒｏ』に怒ってるよ」って（笑）。

佐藤　そうなんですか？　僕は谷川さんご本人から「ひどいけど、最高！　凄い！」って言われたんですけど（笑）。あとこれはね、イベント演出の〝立ち位置〟をハッキリさせておきたかったんですよ。

——立ち位置ですか？

佐藤　そう。『やれんのか！』をFEGと組んでやるって発表したとき、「えぇ!?」って思ったPRIDEファンも多かったと思うんですよ。それは何年もかけてボクら制作側や選手、ファンが作ってきた「K−1に対する相容れなさ」があって、それがある日突然、「一緒にやります」と言われても、どう乗ったらいいかわからないと思ったんです。だからちゃんと、大連立しても演出はあくまでも旧PRIDEだぞっていう、しっかりその立ち位置を明確にしたかったんですよね。だからこそ事前には誰にも見せずに、一番ストレートに伝わるものを作ったんですよ。そうでもしなきゃ、今回の特殊なごった煮感の中、ボクらの魂は保てない、と思った。

——あのリングが〝敵地〟じゃなくなったら、魔王・秋山が来る意味すら薄れますもんね。

佐藤　だから自分としては、秋山選手の違和感や恐怖感という魅力を一番出すものを作ったつもりだったんですけどね。

——メチャクチャ〝悪の魅力〟に溢れてましたよ！　でも、あの秋山インタビューは笑いましたね。「柔道で礼節を学ん云々〜」を語ってるところで、ヌルヌル事件だとか、礼節とは真逆の映像が流れてるという（笑）。

フジテレビがPRIDEの映像素材をすべて捨ててしまったことが判明し、ショックでした

佐藤　あれは悪意があったわけじゃなくて、秋山選手の本音を言わなさ加減っていうのを空気として出したかったんですよ。

——インタビューの裏の本性がフラッシュバックしてくる、みたいな。

佐藤　そうそう、フラッシュバックしてくる感じ。

——そして、さりげなく前田スーパーバイザーが出てくるのもまた、PRIDEファンの憎悪を増幅させてましたね（笑）。

佐藤　またそういうとこを見逃しませんねえ（笑）。

——だって絶対に確信犯でしょ（笑）。PRIDEファンの前であの二人を出すっていうのは「混ぜるな危険」ですよね。あの二人が混ざったら毒ガス出てきちゃう、みたいな。

佐藤　ああ、毒ガス感ですか。

——毒ガス感（笑）。でも、あのトラウマになりそうなVTRが、TBSの地上波では、見事に毒ガス感皆無、芳香剤みたいなVTRになってたのが残念でしたけどね。

佐藤　いや、ボクは『Dynamite!!』の放送を全然観てないからわからないんですよ。でも、今回は地上波向けのVTRを作るつもりなんて微塵もなかったし、TBSでボクの映像は使わないっていうのは、最初から決まってましたから。やっぱり三崎vs秋山、ヒョードルvsホンマンの2試合だけテイストが違うというのは、イヤに決まっているでしょう。TBSとしては、『Dynamite!!』と『やれんのか！』をあたかも同じイベントのようにしたかったハズだしね。

——でも、会場の熱の違いは、テレビで観ても一目瞭然でしたけどね（笑）。

佐藤　それは何カ月も待ち続けてチケットを買ったお客さんが集まってる会場と〇〇の違いでしょう（笑）。

——またそういうことを言う（笑）。

佐藤　まあ、ボクも試合順を変えてまでTBSで試合映像を流すということにいろんな思いがあるんですけど、大事なことは旧PRIDEスタッフが作ったイベントの映像がちゃんと地上波で流れたっていうことですよね。この『やれんのか！』っていうイベントは、「あいつらが協力しなかったから（PRIDEの）地上波が決まらなかった」と言われて、解雇された人たちが作ったイベントなんですよ。でも、地上波で流れたじゃんって。「あのイベントが汚れたイベントだから地上波が決まらない」なんて言われたけど、決まったじゃんって。もっと言えば、その「汚れ」のレッテルを貼ったテレビ局は、流したら問題になるって判断して放送をやめたわけでしょ。でも、年が明けても全然問題になってないじゃんって。

——そういった意地もモチベーションになっていた、と。

佐藤　なりましたね。まあ、今回もけっこうショックなことがいろいろあったんですよ。年末にVTRを作る段階で、試合映像はズッファに権利が移っていて使えないから、それ以外の練習映像とかだけでも使いたいと思って、フジテレビに「映像素材を貸してください」とダメ元でお願いしたんです。

——ほう。フジテレビが持っている試合以外のPRIDEの映像素材を借りようと。

佐藤　そう。「すいません、川尻やヒョードルの練習映像とかあると思うんです。それを貸してください」って言ったんですけど、一度は検討してくれつつ、「結論から言うとダメだな。ごめんな、今回はちょっと絡めないわ」と言われたんです。

——断わられちゃいましたか。

佐藤　しかもね『やれんのか！』には貸せないということもあるけど、じつは物理的にも貸せないんですよ。

——どういうことですか？

佐藤　フジテレビはもう、PRIDEの映像をオンエアテープ以外はすべて捨ててしまったんです。

——えぇ〜っっっ！　捨てちゃったんですか!?

佐藤　捨てちゃった。しかもその理由は「倉庫が手狭だから」。

——倉庫が手狭……。

佐藤　桜庭和志の全インタビュー、美濃輪育久が飛行機を追っかけてる映像、ヒクソンの山籠り、エリオの家、ロシアン・トップチームやブラジル、ミルコの生家や血ヘドを吐くトレーニング等、撮ってきた映像、すべて消去です。

——えぇ〜っっっ！

佐藤　これは世界中のPRIDEファンが悲しむことですよ……。

——そうですよね。そんな格闘重要文化財を！

佐藤　そうでしょ、そういった映像の一つ一つが奇跡の10年の財産だと思うんですよ。使えないにしてもどこかに大事に保管してほしかった。

——それを比叡山焼き討ちのごとく、寺ごと燃やしちゃえ、みたいな。

佐藤　残念ですね。まあ、しょうがないですよ、倉庫が手狭なんだから。日本は狭いからね。

——お台場にあんなに土地余ってるじゃないですか！

佐藤　そうなんですよね（笑）。今後、そんなに増えるもんでもないし、取っておけばいいのに、もうないんです。悲しいですよね。

——そんなショックなことがありましたか……。それならまだ、PRIDEの試合映像をバンバン流して有効活用してくれてるUFCのほうがいいですよね。なぜかUFCの会場に行くと、ヴァンダレイ・シウバの歴史が一目瞭然、みたいな。

佐藤　だからもう、大晦日のフジテレビの視聴率を聞いたときは、非常に気分が良かったですよ。

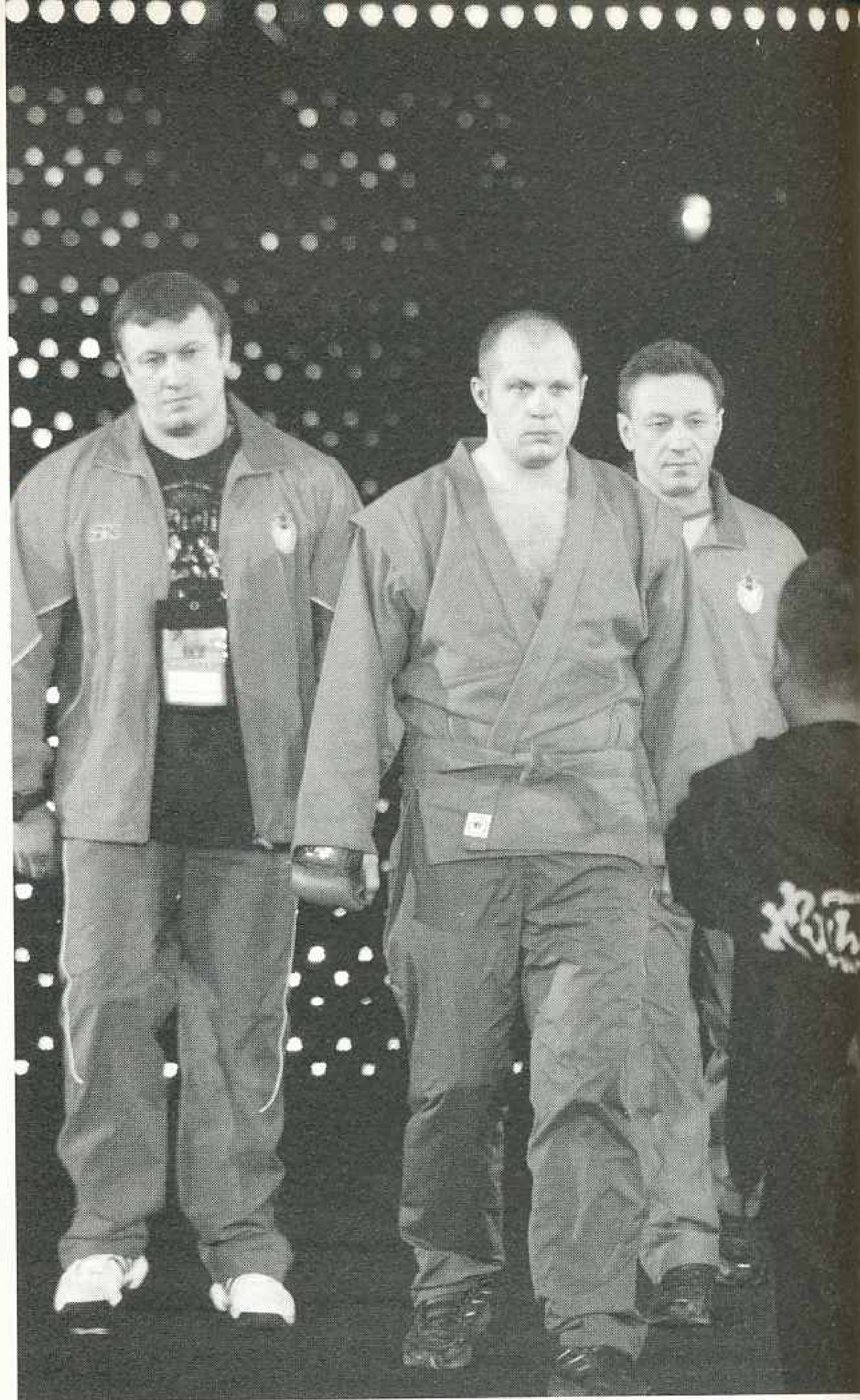
——ガハハハハ！　『1億分の1の男』の視聴率を聞いて。

佐藤　地上波不適格とレッテルを貼った元DSEの『やれんのか！』と『ハッスル』が、あれからたった2年で大晦日ゴールデンにそろい踏みして、どちらもフジテレビを上回りましたからね。フジテレビさんも感慨深いんじゃないでしょうか（笑）。

——民放各局が健闘した中、あのフジテレビが大晦日にテレ東に負けちゃうんですから、あれはちょっとマズいですよね。

佐藤　でも、日テレやテレ朝も二桁獲った中で、『Dynamite!!』が15パーセント近く獲ったというのは、去年の流れでいうと、よく獲ったなって感じますね。

——そうですよね。『K-1ワールドGP』決勝だって15パーセントに届かず、魔裟斗vsブアカーオも11パーセントだったと考えると大健闘ですよね。しかも、『Dynamite!!』はあの作りで（笑）。



格闘技イベントを盛り上げるのに欠かせない入場シーン。しかし、大晦日の地上波では入場がカットされていることが多く残念。3月から噂される"新党"興行では改善されるのか？

Daisuke Sato

佐藤　いやいや、本当に観てません（笑）。

——でも、ホントにへんな作りの番組でしたよ。延々と当日やった試合以外の映像を流したかと思いきや、入場シーンもなくいきなり試合が始まったりとか。

佐藤　あれはね、TBSって選手紹介VTRとか入場シーンを流すと、スコーンと数字が落ちるんですって。でも、ボクはPRIDEをやってた頃、そんな経験ないんですよ。

——ダハハハ！　PRIDEは煽りVとか入場シーンが大事ですからね。でも、TBSではそこは落ちてた、と（笑）。

佐藤　だから今回も『やれんのか！』の試合はボクが中継の統括をやっていたんですけど、「ヒョードルvsホンマン戦は入場シーンからライブですか？」ってTBSの人に聞いたら、「入場なんか使いませんよ！」っておっしゃって。だからこれまで入場で数字を獲れないような番組を作ってたってことなんですよね。

——本来なら、あの入場が気分を盛り上げるし、実況アナウンサーも腕の見せどころなんですけどね。

佐藤　そう。もし入場で若干数字が落ちるとしても、数字のトルクの太さがある程度持続できれば、それで平均視聴率は上がるし、それがソフトにとってプラスだったら流すべきだと思うんですけどね。それにビッグマッチのときは、入場とか試合後のマイクなんかもけっこう数字獲るんですよ。たとえば小川vs吉田戦は試合と同じぐらいマイクが数字を獲ってますからね。あれはなぜマイクで数字が獲れたかというと、二人のストーリー、これまでの流れをしっかりと流したことが効いてるんですよ。

——煽りが効いてるからこそ、試合が終わったあと、二人の人間ドラマがどんな結末を迎えるか、興味が持続するわけですね。

佐藤　そう。人間ドラマになってるんですよ。そういうのも含めてプロレスっぽいといえばプロレスっぽいのかもしれないけど、そこも含めてソフトじゃないですか。ところが、三崎vs秋山戦にしても、あの三崎のマイクの善し悪しは別として、試合後のマイクはまったく放送しなかったそうですね？

——まったくありませんでした。

佐藤　K-1甲子園や、元ロッテの立川さんや、我らがヨアキム兄さんの試合よりは、数字持ってると思うんですが（笑）。

——確かに（笑）。

佐藤　イベント側が作りたいソフトとテレビ側が作りたいソフトを、高い次元で一致させるのは、やっぱりフジテレビが一番うまい、ってことだと思います。いまはつまらないけど。

——つまらない（笑）。テレビの放送枠の関係で、ヒョードルvsチェ・ホンマン戦が急きょ前に来て、試合順が変わりましたけど、あれはかなり焦ったんじゃないですか？

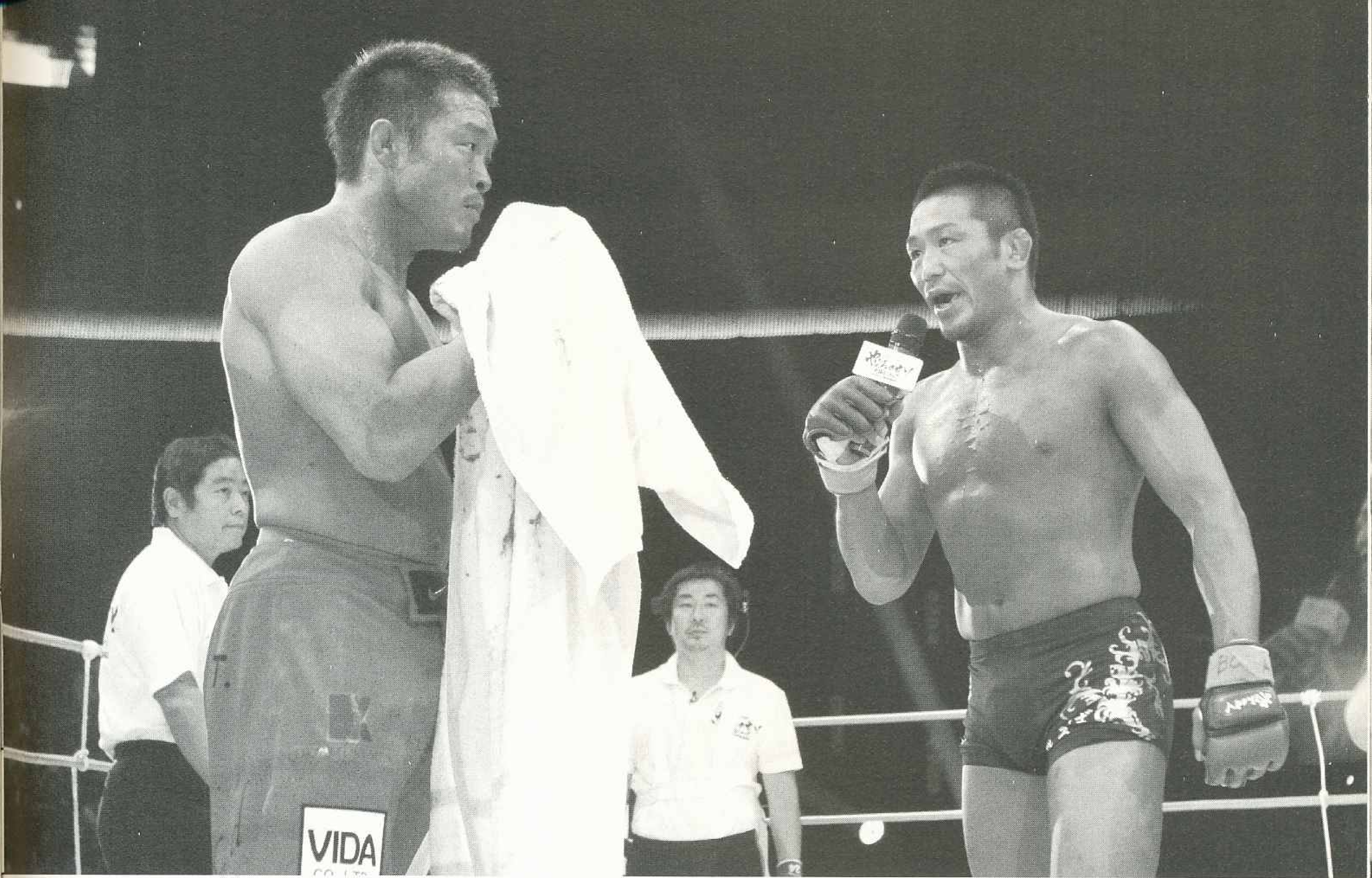
佐藤　そうですね。まあ、しょうがないなって思ったんですけど、紹介VTRの編集が間に合ってなくて、当日の観客の表情を入れようと思ってたところが、「お客」っていうダミーで入れた文字だけになっちゃってたんですけど（笑）。

——あの「お客」の文字はなんなんだ!?って思いましたけど、やっぱりダミーでしたか（笑）。

佐藤　でも、いいんじゃないですか。破綻してる感じが『エヴァンゲリオン』みたいで（笑）。

——あれは「編集が間に合わないから、このままいっちゃえ！」って感じだったんですか？

佐藤　いや、間に合ってると思ったの。で



三崎vs秋山を韓国でやったら、モロ韓国サイドに乗った煽りVを作るのもおもしろいかもしれない

も、実際は間に合ってなくて、そのまま流れちゃったという。まあ、いろいろありましたよ。あのヒョードルvsホンマンの映像完全版と青木vsカルバンの紹介VはDVD特典でつけようかなぁ。

——それはぜひ、そうしてください（笑）。

佐藤　青木vsカルバン戦の紹介Vは凄くいいですよ！　でき上がった映像をスタッフみんなで見て「うわっ、カルバンかっこいい！　燃えるな〜！」とか言ってたんですけどね。でも紹介Vがお蔵入りしたことが残念というより、やっぱりコアな人たちが一番楽しみにしてくれていた対戦が中止になってしまったことがショックだし、残念でしたね。

——あの試合は『やれんのか！』の〝ヘソ〟でしたからね。

佐藤　完全にヘソですよ。

——あれが試合の一週間前に中止になっちゃうなんて、青木真也はかわいそうでしたよね。

佐藤　かわいそうですよ。しかも代わりに当てた相手がどえらい強くて。

——だからもう、これを納得するためには、全部仕組まれていたと思うしかないかなとか思ってるんですよ。JZは最初から当て馬で、最初からジョン・ブギョンは青木抹殺のためにFEGが用意した秘密兵器だった、とか（笑）。

佐藤　まさに谷川黒魔術だった、と。それいいねえ！

——だって、ブギョンだって準備してなきゃあの動きはできないでしょう。これは昔の前田日明vsドン・ナカヤ・ニールセン戦のときに、前田には直前まで相手が知らされなかったのに、ニールセンは二カ月前から vs前田用のトレーニングを積んでたっていう、ホントか嘘かわからない物語と同じですよ！　……とか、そんなふうに考えたほうがおもしろいかなって（笑）。というわけで、ボクの中ではFEGが仕組んだ罠ということになっています（笑）。

佐藤　こうして大連立で一瞬ベビーフェイスになりかけた谷川さんが再びヒールになる、と（笑）。

——やっぱり、いくら大連立しても格闘技界に対立構造は必要ですからね。

佐藤　大連立といえば、ボクが作っている『やれんのか！』のドキュメンタリー番組ために桜庭和志選手をひさしぶりにインタビューするんですよ。それで「秋山vs三崎戦を観てどう思いましたか？」ということを聞く予定なんです。

——それはまた短刀直入に一番聞きたいことを聞きますねぇ！

佐藤　はい。あとは「夢の懸け橋」を望んだ張本人として、大連立をどう思うかについても聞きます。なんて答えてくれるか楽しみですよね。

——でも、本音でしゃべってくれるんですかね？

佐藤　そうなんですよ。カメラが回ってる前で言ってくれるかどうかなんですけど、このインタビュー自体は二つ返事でOKだったんで、何か思うことがあるんだと思いますよ、きっと。

——それは非常に楽しみですね。

佐藤　あとは秋山選手にもインタビューをお願いしてます。これもどうなるか楽しみなんですけど、やっぱり嫌われてるのかなあ、『やれんのか！』は。

——さあ（笑）。

佐藤　わかってくれると思うんだけどなあ。

——へっちゃら感はありますよね。

佐藤　そうそうそう。

——あのブーイングを浴びながら入場して

『戦極』さんからは具体的なことは何も聞いてませんから、僕の名前が出てびっくりしました

くるときの顔なんか……。

佐藤　素晴らしいですね。強いですよ、人間的に凄く強いと思います。『ｋａｍｉｐｒｏ』の座談会でも言ってましたけど、曲に合わせて小走りで入場したり（笑）。

――あんな天下分け目の試合で「え、そこ気にしてんの！」っていう（笑）。

佐藤　そうそう、いいですよね。

――あの試合自体、とんでもないテンションの高さで素晴らしかったですしね。しかもあれほどドラマチックな決着がつきながら、最後の蹴りが反則かもしれないというケチがつくのがまたいい。

佐藤　でも主催者が「あれは反則です。再戦させましょうか」ってすぐ言うのはちょっと冷めました。あれ言われると興行側の思惑が見えすぎて、冷めちゃいますよ。韓国で再戦というアイデア自体は凄くおもしろいと思いますけどね。

――谷川さんじゃなくて、秋山陣営が抗議して騒ぐなら、盛り上がってくるんですけどね。

佐藤　でも、もしそれが実現したとして、日韓戦のような、ホントにセンシティブなソフトを扱うのにボクはまったくもって不適格ですね（笑）。

――ガハハハハ！　煽りすぎちゃう（笑）。

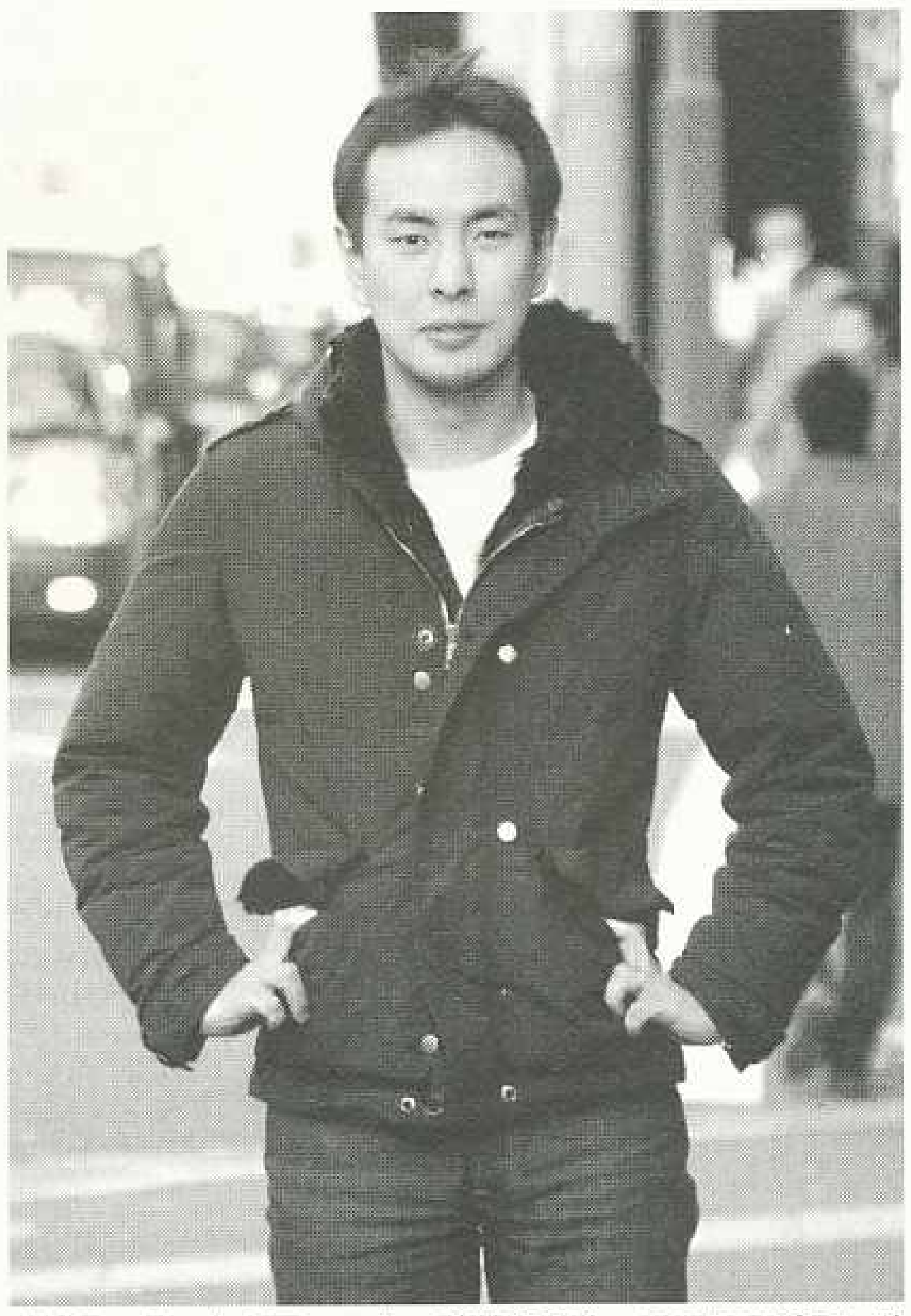
佐藤　だから一番向いてないかもしれない（笑）。とはいえ、ボクもプロですから。韓国で流すとしたら、モロ韓国サイドに寄ったものを作るのもおもしろいかもしれないですよね。韓国の人たちを燃え上がらせるに充分な状況ですからね！

――試合後の説教マイクは格好の素材ですよね（笑）。

佐藤　そして日本に流すＶＴＲは、おもいきり三崎選手に乗ったものにしてもいいしね。そういうことができるのが『やれんのか！』的なおもしろさですよ。

――韓国で三崎vs秋山の再戦が実現したら、それこそドキュメンタリーも撮りたいですよね。三崎が飛行機から韓国に降り立つところから撮って。

佐藤　いいですねぇ！



さとう・だいすけ■1974年、東京都出身。97年にフジテレビ入社。スポーツ局でPRIDEシリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』、『F1GP』などの番組を手がける。一昨年10月31日付でフジテレビを退社し、独立。現在は（株）佐藤映像代表。

――やっぱり、この物語は終わりませんよ。『やれんのか！』自体もエンディングで「桜が咲く頃に夢の続きを……」という垂れ幕がかかってましたけど、実際、今後はどうなっていくんですか？

佐藤　ボクはまだわからないですね。「桜が咲く頃に夢の続きを……」っていう垂れ幕を見たときも「まぁまぁ、ちょっと休もうよ」って感じだったし。

――じゃあ、まだ大輔さん自身はこれからの話なんですか？

佐藤　全然これからですよ。ＰＲＩＤＥという、僕たちにとってあまりに大きなものがなくなったわけですから、もし新しいプロモーションができても、これまでと同じ熱を持って作ることができるかどうかわからないですしね。このソフトを僕たちで作っていくんだって本当に思えるかどうかとか……。

――やっぱり格闘技の仕事をするとなると、こだわりがあるわけですね。

佐藤　「お仕事だ」っていう感覚でやろうと思えばできるんだろうけど、格闘技に関しては「それでいいのか？」って思いますから。仕事っていうことだけなら、正直、ほかのジャンルの仕事だけで手一杯です。

――じゃあ、『戦極』の記者会見でも大輔さんの名前があがってましたけど、まだそれも白紙ですか？

佐藤　あれはびっくりしました。お話自体は昨年の末に一度いただいてるんですけど、どんなチームで、どんなふうにやるのか、具体的なことは何も聞いていませんから、本当に決まってません。「吉田さんや瀧本さんのために、少しでもお力になれるのであれば」という気持ちもありますけど、とにかくびっくりしました。

――まだ、どうなるかはわからないということですね。

佐藤　そういうことです。いまは『やれんのか！』のドキュメンタリー番組を全力で作ってますから。話はこれができあがってからですね。年末、佐藤映像はテレビ番組の制作を断って『やれんのか！』の映像を作ってましたから、このドキュメンタリーがＰＰＶで売れないとまずいんですよ（笑）。

――そんな現実的な問題がありましたか（笑）。

佐藤　ですから、ぜひＰＰＶを買っていただけたらと思います！

――わかりました。ＰＲＩＤＥファンの皆さんはぜひ、ＰＰＶをお買い求めください。

佐藤　よろしくお願いします！

【08年1月10日／都内・某所にて収録】

巨匠・佐藤大輔が放つ渾身の映像作品!

「ドキュメンタリー やれんのか! 完結編」

スカパー!PPVで堂々放映決定!!

昨年大晦日、格闘技界大連立効果によって開催され、07年最後にして最大のクライマックス興行となった『やれんのか!』。その中で人々の心をとらえまくり、心を震わせる煽りVを作り上げた“煽りVアーティスト”佐藤大輔氏が編集した『やれんのか!』の実録番組『ドキュメンタリー やれんのか! 完結編』がなんとPPVで放送されることが決定した。煽りVでは紹介しきれなかった数々の映像、当日のバックステージ映像、選手インタビュー、さらに全国から集まったファンの声などを120分にまとめあげた佐藤大輔入魂の大作を観れば、もう一度心が震えること間違いなし! 詳細は以下のとおり。

【放送日時】

[初回]
2月2日（土）23:00〜25:00（ch.177）

[再放送]
2月7日（木）21:00〜23:00（ch.176）
2月11日（月・祝）19:00〜21:00（ch.176）
2月19日（火）21:00〜23:00（ch.162）

※スカパー! のほか、一部CATVでも視聴が可能。なお、視聴方法についてはケーブルテレビ局に問い合わせを。

【視聴料金】

1,575円／番組

■問／スカパー! カスタマーセンター TEL.0570-039-888（10:00〜20:00）年中無休
詳しくは、パーフェクトチョイスHP（www.ppvj.co.jp）まで。

夢枕獏の“ピュア・ホワイト”魔王論



ゆめまくら・ばく■1951年神奈川県小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年に渡り執筆など格闘技への造詣は広く深い。

「よかったねぇ～（しみじみと）」でおなじみ、誰よりもピュア・ホワイトな格闘技ファン・夢枕獏さんに大晦日『やれんのか！』、そして“魔王討伐”という結末となった三崎vs秋山戦を直撃！ 今回も獏さん、おおいに語る！

聞き手／真下義之　撮影／平工幸雄

——獏さん！ 大注目の大晦日『やれんのか！』はどこで観られたんでしょう？

獏 残念ながら結局、自宅観戦でしたねぇ（悔しそうに）。ただ悔しまぎれに言うと、家で観てよかったのは、三崎vs秋山戦で秋山の表情がバッチリ見えたこと！

——ちなみにPPV観戦ですか？

獏 基本的には『やれんのか！』のPPVを観ながら、途中で『Dynamite!!』を観たり。『ハッスル祭り』にミルコも出たじゃない？

——テレビ東京までチェックしてましたか（笑）。

獏 ホントに忙しかったねぇ。で、『やれんのか！』を観終わったあと、録画の『Dynamite!!』を始めから観たの。

——じゃあ、元旦から徹夜状態で？

獏 いや、それは早送りでね。

——あ、早送りでしたか（笑）。

獏 いや、試合は観ますよ。早送りはCMとか観なくてもいいところ。TBSは試合までが長いじゃない。長い前煽りはいいかげんヤメてもらいたいよ！ 俺の周囲のすべてで、評判よくないね。

——ダハハ！ で、『やれんのか！』のほうはいかがでした？

獏 これはよかったねぇ～（しみじみと）。やはり〝最強〟の象徴であるヒョードルがいたからよかったんだろうね。

——皇帝がいたから、あの世界観が成立した、と。

獏 で、試合はやっぱり三崎vs秋山につきるかなぁ。「やや秋山有利か」と思っていたけど。期待が裏切られるって部分では、爆弾が炸裂したようなもんだし、今後につながる負けだから、「アリだな」と。それに問題も起こってるじゃない？

——ええ、4点キックの問題ですね。

獏 あれはマットと水平の位置にカメラを置いてない以上、わかんないよ（笑）。仮に三崎があの蹴りを迷っても、あそこは行くしかないところだろうし、俺は三崎があそこまで突き抜けたのは支持したいねぇ。……最後のマイクはよけいだったけど。

——やっぱりマイクはダメ（笑）。

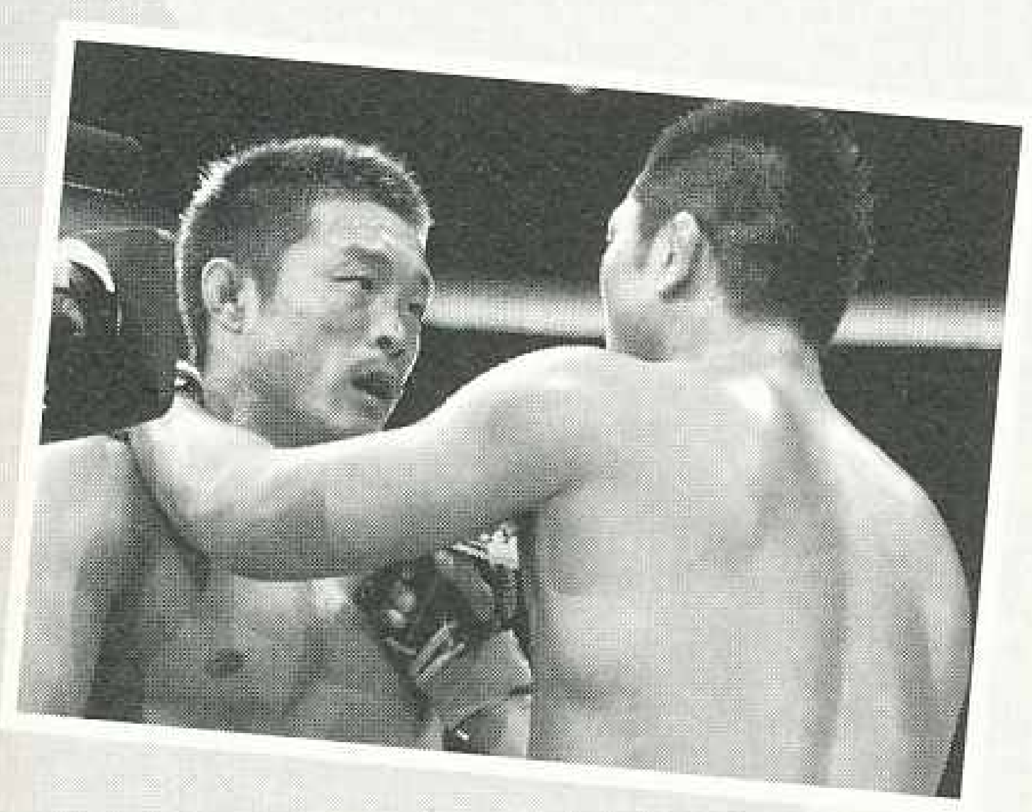
獏 勝ったヤツが負けたヤツに説教したらダメですよぉ！ 立場が強いものが説教するのは。勝ってるから充分だし、きっと秋山とリングで触れ合って、感じたものがあったってことだと思うけど、あんなかたちになったのは心の何かが振り切れちゃっていたからだろうねぇ。

——会場も異常興奮でしたから。

獏 あの「日本人は強いです」発言も、三崎のキメ言葉とはいえ、誤解を生みかねない。ただ冷静じゃないテンションが持続してたから、「会場で観たら、違う感想もあったかな」とは思ったし、これは会場にいなけりゃいけないね。会場が出すアドレナリンはその場所じゃないとわからないから。

——現場主義の獏さんにとっては、さぞかし無念でしょうね。

獏 でも、さっきも言ったけどさ、俺はあの秋山のアップを観てホントに驚いたよ！ あんな秋山の表情は始めて観た。普通、人間っていうのはどこかで他者に対して、構えているでしょ。つまり〝心の中でカメラが回ってる〟というか。



見てみぃ、この表情！　三崎の説教劇場の中、2万人以上の観衆の前で仮面を外したかのような、あまりに無防備な表情を浮かべていた秋山成勲。いったい“魔王”の内面には何が去来していたのか？

あんな秋山の表情は初めて観たねぇ あれは〝心のカメラ〟が回ってないよ!!

——いつ何時も〝心にカメラ〟ですか。

獏 たとえばテレビに出たら、もちろんテレビカメラを意識するけどさ、日常生活でだって外に出れば、人の視線を意識するでしょ。部屋でたった一人でいるときも、心のカメラが回ってるものなんだよね。

——つまり客観的なもう一人の自分がいる、ということですね。

獏 そうだね。俺も会場観戦のときに、ときどきスクリーンを観るんだけど、画面の位置が真横や真うしろにあると大変なんだよ！ うしろのヤツと目が合って「お、夢枕だ！」なんて言われると、「あ、いま無防備な顔をさらしちゃったんじゃないか」って〝心のカメラ〟が回るしさ（笑）。

——獏さんも〝心のカメラ〟が回っている、と（笑）。

獏 秋山も〝心のカメラ〟がいつもは回ってるハズなんだけど、あのシーンだけは写真で見返しても、ホントに茫然としてるよね。とくに悔しがってるわけでも、泣いてるわけでもなく……何があったかわからなくて、前にいる人がもの凄く興奮してるから、「これはどうなってるんだ？」っていう不思議な顔をしてるよね（笑）。

——ええ。絵に描いたような〝茫然自失〟って感じですよね。

獏 あの瞬間、秋山の〝心のカメラ〟は回ってなかったよねぇ……。

——あの〝魔王〟が素の人間になった瞬間があったんですね。

獏 だから、この試合はもう一回観たいねぇ。反則とか反則じゃないとかは置いても、再戦してもいいんじゃない？ 秋山もやりたいだろうし。

——韓国のファンは三崎のマイクに怒ってるみたいですから、韓国で再戦すると真逆の構図になるんじゃないか、と。

獏 それが実現したら、ぜひ観てみたいけどなぁ～。ただ、今回はPRIDEのケジメ興行というより、ケジメにしちゃうとおしまいなんで、次の扉を開く大会ではあったよね。（声をひそめて）……で、俺も聞いてるけど、動きがあるんでしょ？

——現時点では、FEGとのミラクルドッキングが有力視されていますね。

獏 俺的には、『HERO'S』とは分けた興行でもいいんだけど、年に2、3回は一緒みたいな感じでやってほしいねぇ。あと、今年は俺からお願いがあるんだよ！

——獏さんからお願いが！

獏 頼むから、後楽園ホールでもっとやってくれよぉ！

——ダハハ！ 獏さん的には後楽園がベスト（笑）。

獏 そう。リングも近くて、観やすくていいじゃない。俺のようなファンのためにもできれば後楽園でやってほしいなあ。

——後楽園でもやれんのか？ と（笑）。ありがとうございました！

【08年1月5日／電話取材にて収録】

ただ

せっかくの参戦
幻となったプラ
空振りに終わっ
いま北岡悟の中
昨年爆発させ
08年初戦はいき
そろそろ来るぞ

ダメな大人に大好評! UWF“変態”シリーズ第五弾



僕たちが好きだった

髙田延彦“最強”座談会

ダメな30代を中心とした変態ファンの熱烈なアンコールにお応えして、新年早々、またまたやってまいりましたUWF変態座談会! 今回のテーマは我らが最強、髙田延彦! Uインター時代は北尾戦、バービック戦など、刺激的な闘いを数々展開。さらにUWF系のトップレスラーとして初めてバーリ・トゥードに打って出るなど、時代を常に揺り動かした髙田を変態たちはどう観ていたのか? 髙田を考えること、それこそがUWFを考えることであり、プロレスを考えることだ!

構成／堀江ガンツ



ゆめまくら・ばく■1
まれ。小説家。77年の
陽師』シリーズなど話題
した『餓狼伝』を20年に
は広く深い。

夢枕獏の

――獏さん！
れんのか！』け
しょう？
獏　残念ながら
たねぇ（悔しそ
れに言うと、家
三崎vs秋山戦で
り見えたこと！
――ちなみにP
獏　基本的には
PPVを観なが
amite!!』
祭り』にミルコ
――テレビ東京
したか（笑）。
獏　ホントに
『やれんのか！』
録画の『Dyn
めから観たの。

プロレスリング世界ヘビー級王者時代の肉体は“最強”と納得させるほど素晴らしかった（椎名）

ガンツ　え～皆さん、新年早々、変態座談会にお集まりいただきありがとうございます！

井上　まさかこの変態座談会シリーズが、年をまたいで続くとは思わなかったよね。年賀メールに混じって、まさか招集メールが届いてるとは……（笑）。

タコ　ホンマやで。この座談会がリアルに仕事始めという人もおるんじゃないですか？

椎名　俺がそうです。

井上　あ、椎名さんは新年最初の仕事が変態座談会ですか。御愁傷さまです（笑）。

椎名　いままでは毎年『バカサイ』だったんだけどね。まあ、どっちもどっちだよ（笑）。

タコ　では、そんな変態の皆さんが揃ったところで、新年一発目のお題は「髙田延彦」です！

ガンツ　いや～、来ましたねぇ。前回の前田日明座談会もヒヤヒヤしましたけど、怒られる確率でいえば、今回のほうが遥かに上のような気がするので（笑）、ここは気をつけていかないと。

椎名　殴られはしなくても、怒られる可能性は高いんだ（笑）。

ガンツ　というわけで、今回もデリケートなテーマですので、なるべく地雷を踏まないように、美しい思い出を語っていきましょう！

タコ　そういうことです！　いつものようにこの座談会は敬称略ですので、そのあたりもよろしくお願いします。では、話を進めていきますけど、変態の皆さんは、髙田延彦は当然デビューのときから知ってるっていうことですか？

ガンツ　デビューからはさすがに知らないですね。

椎名　俺も「青春のエスペランサ」って呼ばれて、テレビデビューした頃だな。

井上　やっぱり髙田の若手時代で一番印象に残ってるっていうのは、カルガリーでのテレビマッチもありますけど、新日正規軍vs維新軍の5対5で谷津嘉章とやったとき（84年）じゃないですか？

椎名　髙田が凄いミサイルキックやるヤツ！　あの試合がナンバーワンだよね。ホントにカッコいい！って思った。

ガンツ　あれは鮮烈すぎますよね。

井上　で、谷津がカウントを3寸前で返すタイミングが凄い微妙で。「3つ入ってるだろ!?」っていうシーンが何回もあるんだよね。それで「本当は髙田のほうが強い」みたいな幻想を図らずも谷津が作ったという。

ガンツ　のちに『kamipro』で「髙田なんか素人だろ!?　ヒクソンに勝てるわけない」と言った谷津が髙田幻想を作りましたか（笑）。

椎名　あのとき新日正規軍はいきなり藤波が先鋒で出てくるんだよね。

井上　それで小林邦昭と寺西勇を二人抜きするという。

椎名　藤波が小林邦昭にやったジャーマンが凄いんだよ！　藤波のベスト・ジャーマンだよ、素晴らしい！　こないだ『タモリ倶楽部』でジャーマン特集やってたけど、なんであれが出ないんだって思って。

ガンツ　藤波のジャーマンならチャボ・ゲレロ戦じゃなくて、こっちだろう、と（笑）。

椎名　『タモリ倶楽部』では髙田が谷津にやったジャーマンも放送されて、あれも良かったけどね。

タコ　そんなふうに誰が見てもスター候補だった髙田が、あれからすぐ第一次UWFに移籍したんは驚きましたよね。

井上　ダイナマイト・キッドとのタイトルマッチが決まってたのにも関わらず、その前のシリーズで移籍しちゃったんですよ。

椎名　じゃあ、キッドがザ・コブラにバックドロップで勝つリーグ戦があったじゃん。あの直後のキッドとやるはずだったの？

井上　そうなんですよ。キッド戦に向けて猪木さんと必勝祈願に行ったりした直後だったんで、当時「あれだけは心残り」って言ってて。

ガンツ　あそこで髙田がUWFに行ったっていうのは、プロレス史の大きな分かれ目ですよね。

タコ　大きいですよ、ほんまに！　髙田はあのまま新日におっても、バリバリのエース候補やのに、あえてUWFに行ったわけやもんな。

椎名　でも、出て大正解だよね。それによっていまのPRIDEまで続いちゃうんだから。

井上　だから第一次UWFっていうのは、髙田にとっての“海外修行”みたいなもんじゃないですか？　UWF軍として新日本に戻ってきたのは、凱旋帰国みたいなもんで。

タコ　結果的にそうやもんね。イメージ変えて、ハクつけて帰ってきて。

ガンツ　優等生のイメージが消えて、殺気みたいなものを纏ってましたからね。見事な変身ぶりでしたよ。

タコ　それで新日－UWF業務提携時代の髙田といえば、越中との名勝負数え唄につきるかなあ。

椎名　あれは最高だね！

井上　髙田と越中って対照的なキャラなのがいいですよね。この前、『やれんのか！』でやった三崎と秋山も最高でしたけど、髙田と越中ぐらい対照的だったら、わかりやすくてもっと世間を巻き込んだと思うんだけど。

ガンツ　秋山と三崎は、どっちも柔道出身で日サロで日焼けしてて、かなりカブってますからね（笑）。

井上　でもPRIDEウェルター級王者に越中みたいなのが君臨するわけないか（笑）。

椎名　ド演歌PRIDEファイター（笑）。

UWF“変態”シリーズ第五弾

髙田延彦座談会出席者プロフィール



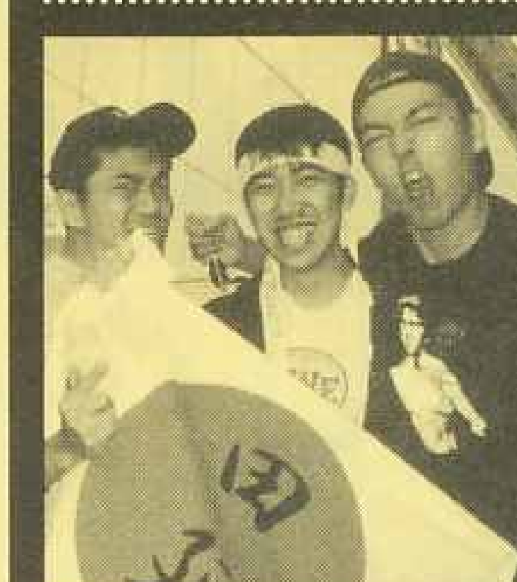
椎名基樹

本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負、にあくなきこだわりを持ち、当然、髙田vsヒクソン戦のときは大炎上。UWFの血が流れていることを公言し、プロレスラーがMMAで勝つ方法を見つけるために、木口道場に通って自ら格闘技を習ってしまった経験もあるのだ。



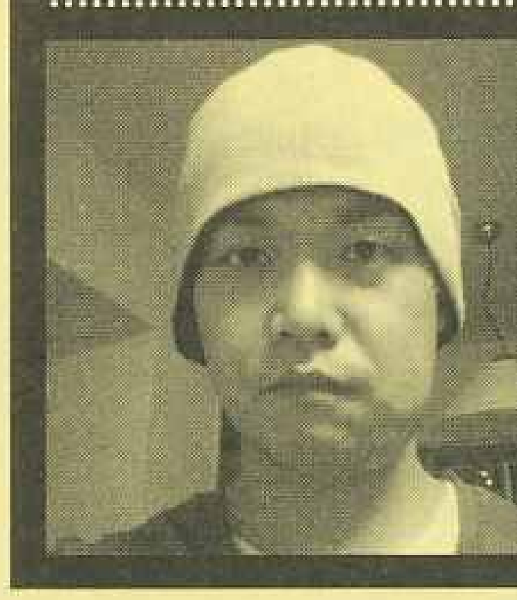
井上崇宏

携帯サイト『スカパー！ バトルLIFE!!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。髙田延彦にあくなきこだわりを持ち、かつてはショップ『グレート・アントニオ』のプロデューサーとして、髙田の「アイ・アム・プロレスラー」Tシャツを手がけた。髙田のモノマネ第一人者でもある。写真は髙田が愛用してたUインターロゴ入りカンタベリーのラグビージャージ（非売品）を着て。



堀江ガンツ

本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称する。髙田vsヒクソン戦の前には、わざわざ地元・宇都宮の二荒山神社まで行って髙田の必勝祈願をした経験を持つ。写真は髙田vsヒクソン戦のとき、東京ドームの前で髙田応援日の丸を持って浅草キッドと撮ったファン時代の一枚。



原タコヤキ君

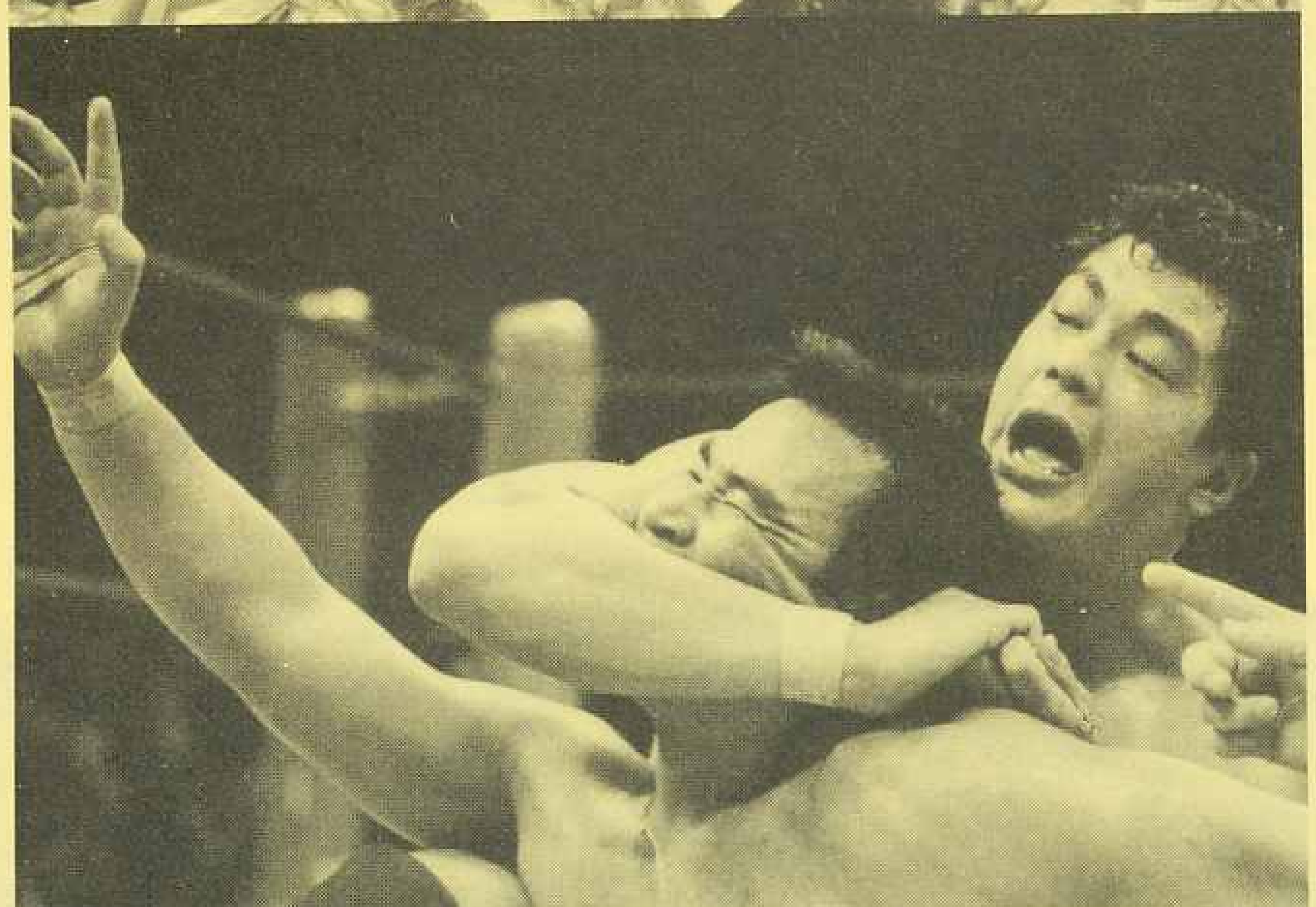
元・小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。現在は音楽プロデューサー兼変態座談会のカリスマ司会者。自転車とギターとジャイ子へのセクハラに夢中な37歳。『紙プロ』ダミー編集長時代は、渋谷の交差点で選挙演説中の髙田に、タコのかぶり物をかぶって直撃取材を試みるも「『紙プロ』はダメだ」とあっさり断られた経験を持つ。



タコ　そんなんおるかいな（笑）。

髙田の魅力が爆発した
北尾戦とバービック戦

タコ　ほんで第二次ＵＷＦになるわけですけど。正直、この時期は前田に続く万年二番手のイメージが最後まで崩せなかった気がするんやけど。
ガンツ　最後の頃なんか、船木に抜かれて三番手ぐらいの感じさえありましたからね（笑）。
タコ　そうやな。
ガンツ　試合にしても前田戦、山崎戦は毎度熱戦だったとはいっても、印象に残ってるのはバックランド戦と船木戦ぐらいですからね。
井上　あと幻のモーリス・スミス戦とか（笑）。
ガンツ　ありましたねえ（笑）。
椎名　なんだっけ、それ？
ガンツ　ＵＷＦの東京ドーム大会で鈴木実（現・みのる）がモーリスに負けたあと、髙田が「スミスとやりたい」ってうっかり言っちゃったんですよ。
井上　そうそう。そしたらモーリスの契約持ってた全日本キックが「ウチのリングでそのカードを組みます」とか言って、一方的に「何月何日に日本武道館で待ってます」って発表したんだよね。
椎名　それ、髙田側の了承なしに？
ガンツ　そう。契約もしないで勝手に髙田vsモーリス・スミスって発表して。で、結局来ませんでしたってことで、モーリスの不戦勝（笑）。そんなことが許されていいのかって！
椎名　ムチャクチャだね（笑）。
ガンツ　いまそんなことやったら、ネットで大騒ぎになるでしょうからね。非常にのんきな時代でしたよ。
タコ　で、そのあとＵインターになるわけやけど。個人的にはボク、Ｕインターの頃は旧『紙のプロレス』に入ってて、山口（日昇）さんや柳沢（忠之）さんから「Ｕインターはダメだ！　髙田はダメだ！」って教育を受けてたから、ダメだって思ってたんですけど、井上くんとかは大好きやった？
井上　もちろん大好きですよ！　そのときの『紙プロ』に対しては（髙田の声マネで）「うるさいな、おまえら」と。『紙プロ』は好きだけど、そこだけは乗れないって大学生のボクは思ってました。
ガンツ　ボクは『紙プロ』に同調してたんですけど、いま思えば節穴でしたね（笑）。
タコ　そして、いまは会長（山口日昇）と髙田は一緒に仕事しとるんやから、わけわからんよな。
ガンツ　でも、確かにあの頃って、前田日明という金看板と正道会館をはじめとした格闘家が揃ってたリングス、ＵＷＦの最先端を走っていた船木擁する藤原組と比べると、Ｕインターって「それ以外の集まり」みたいな感じではありましたよね。
タコ　一番プロレスチックやったし、ＵＷＦのファンからも批判を浴びてたもんなぁ。
ガンツ　でも、いまになっていろんな選手に話を聞くと、やっぱりＵインターが最強だし、その中でも髙田が最強だったみたいですけどね。
椎名　最強なの？　それ強いってこと？　極めるってこと？
ガンツ　そこまで疑問に思わないでくださいよ（笑）。
タコ　でも、マニアはみんな、あたりまえのように「Ｕインター最強は安生」って言うやん。
ガンツ　確かに安生は強かったんですけど、それ以上に髙田は強かったらしいですよ。
椎名　それ強いってこと？　極めるってこと？
井上　もう一丁確認しますか（笑）。
ガンツ　ホントに強かったらしいです。Ｕインターの若手選手って毎日、先輩とスパーリングしていたわけじゃないですか。その人たちに聞くと、みんな口を揃えて「安生さんは強いけど、髙田さんが一番強い」って言いますからね。これはオフレコの話をしているときもそうです。
タコ　インタビュー用の発言じゃないってことか。
椎名　その強いってお酒のことじゃないの？
ガンツ　違います（笑）。まあ、酒も最強だったみたいですけどね。でも、道場でも強くて、リング上でもエースとしてカッコいい、だからこそＵインターの若手はみんな髙田に憧れて、見事なピラミッドができていたんですよ。
タコ　それやったらみんな「髙田さんに食わしてもらってる」って自覚が生まれるよなあ。
椎名　でも実際、紫のパンツでプロレスリング世界ヘビー級チャンピオンを名乗ってた頃の髙田の身体は、最高のものがあったよね。あれは強そうだっていう。
ガンツ　プロレスラーとして最高の肉体ですよね。
椎名　あれでみんな納得しちゃったよ。
ガンツ　そのときの前田の身体がひどかったぶん、よけいに髙田の素晴らしさが際立ったというか（笑）。
椎名　試合もさ、ＴＢＳでやってた北尾戦とかオブライト戦とか観たけど、確かに凄い試合だったもんね。
井上　ボクが最初に燃えたのはトレ


（写真・上）新日本プロレス若手時代から第一次ＵＷＦの頃、実の兄弟のように仲の良かった髙田と前田。髙田は一時期、前田のマンションに居候していたこともあるのだ。（写真・中）越中詩郎との一連の闘いは、Jr.版名勝負数え唄と呼ばれるほどだった。（写真・下）88年1月に開催された第1回『トップ・オブ・ザ・スーパージュニア』錚々たるメンバーの中には船木の顔も見える。

夢枕獏の

ゆめまくら・ばく■1
まれ。小説家。77年の
陽師』シリーズなど話題
した『餓狼伝』を20年に
は広く深い。

――獏さん！
れんのか！』は
しょう？
獏　残念ながら
たねぇ（悔しそ
れに言うと、家
三崎vs秋山戦で
り見えたこと！
――ちなみにP
獏　基本的には
PPVを観なが
amite!!』
祭り』にミルコ
――テレビ東京
したか（笑）。
獏　ホントに
『やれんのか！
録画の『Dyn
めから観たの。

バー・バービック戦ですよ。あれは震えた！

タコ　Uインター最初のビッグマッチで、異種格闘技戦やんな。

ガンツ　「異種格闘技戦」じゃなくて「格闘技世界一決定戦」です。これ間違うと、宮戸に怒られますよ！

椎名　ディテールにこだわるんだ（笑）。

井上　だからボクはバービック戦以降、都内でのUインターの試合は全部観てますよ。

ガンツ　バービック戦は最後、へんなかたちで終わりましたけど、あれはシュートマッチだったって話がありますよね。

タコ　そうなんや。

ガンツ　で、そうだとすると、長年疑問だったのは、なぜシュートでやる必要があるのかということなんですよ。だって、あまりにリスキーじゃないですか。

井上　Uインター初のビッグマッチで、社運がかかってたわけだもんね。

ガンツ　まだバーリ・トゥードなんて世に出てない時代ですから、ちゃんと段取りをつけそうなもんでしょう。なぜそうしなかったのかを考えると、あれって宮戸が猪木vsアリ戦を再現させようとしてプロデュースした試合ですよね。となると、猪木vsアリ戦がシュートだったから、高田vsバービックもシュートにした。そうとしか考えられないんですよ！

タコ　そんなとこまで猪木vsアリを完コピしたんや（笑）。

井上　確かに猪木さんがアリ戦の調印式で紋付羽織袴で登場したのと同様、高田も寺尾関に借りた羽織袴姿でアメリカで調印式やってるんだよね。

ガンツ　宮戸は当日、日の丸と星条旗の位置が、猪木vsアリのときと違うってことで、スタッフをぶん殴ってたらしいですからね（笑）。

椎名　じゃあ、宮戸ってUインターの頭脳って言われてるけど、オモシロ猪木マニアじゃん（笑）。

タコ　でも半端じゃないよな、宮戸のそういうこだわりは。それを受ける高田も凄いよね。あのとき、どっかケガしてたんやなかったっけ？

井上　肋骨を折ってたんですよ。

ガンツ　ボクシングの現役世界ランカーを呼んで練習してたんですよね。そしたらボディ打たれたときに肋骨折られちゃったという。

井上　『めちゃイケ』の「やべっち寿司」で亀田や内藤に勇猛果敢にやられる岡村みたいなもんですよ。

ガンツ　またたとえが的確というか的確じゃないというか（笑）。

井上　でも、あの試合でボク、完全に高田にハマりましたね。「あ、この人はスーパースターだ！」っていう。

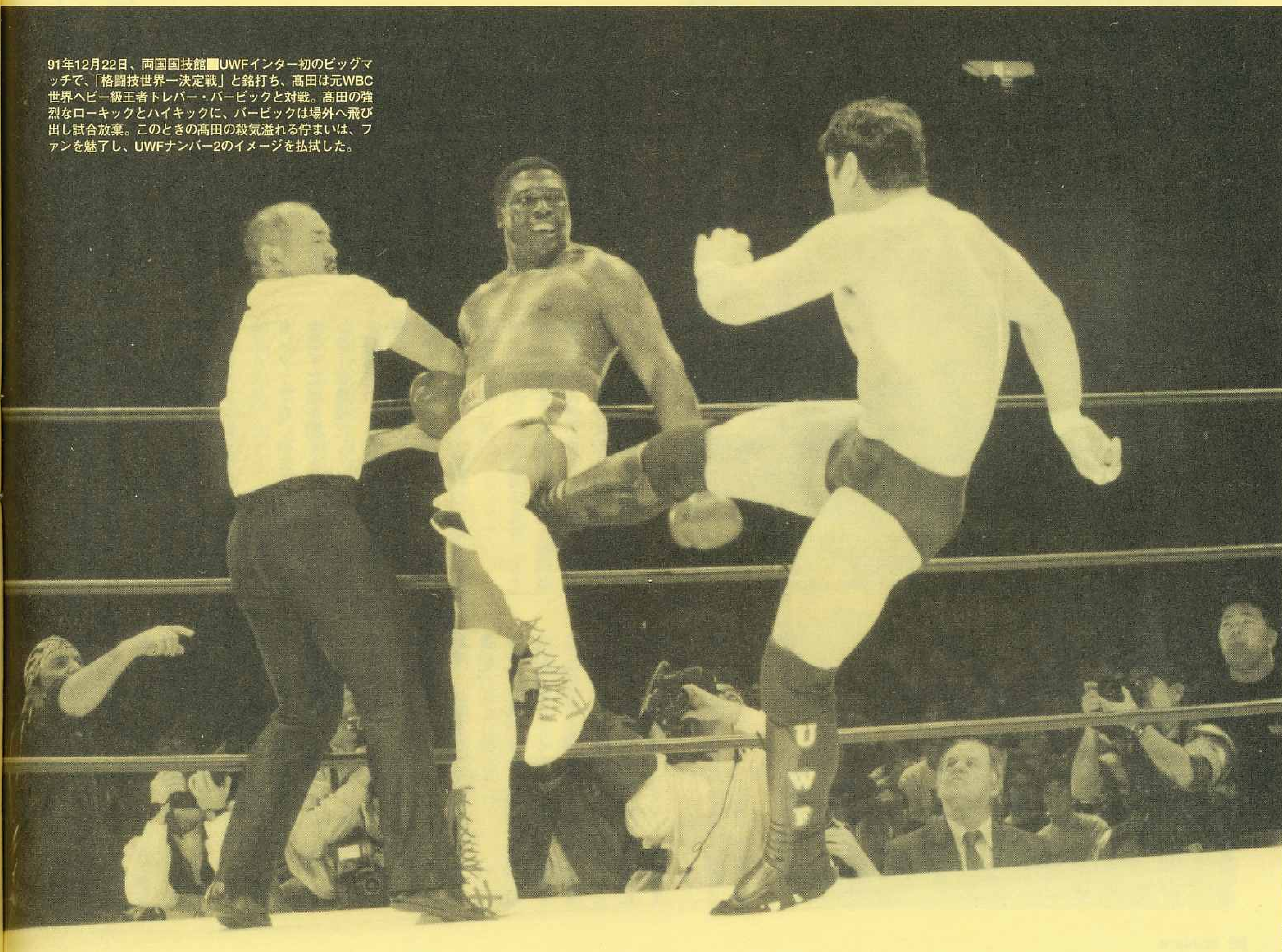
タコ　そのあとの大勝負というと北尾戦やと思いますけど、あの試合も諸説あるじゃないですか。あの試合の真相というのは、どうなんですかね？

ガンツ　あのときは最初に山ちゃん（山崎一夫）が負けたじゃないですか。プロレス的には普通、そのあと高田が出ていって、高田が勝って万々歳となるわけじゃないですか。

タコ　そうやな。藤波、坂口が負けるけど、シリーズ最終戦で猪木さんが倒すみたいな。

ガンツ　でも、その流れを北尾サイドが断ったらしいんですよね。それでUインターは「じゃあ、シュートでやってやる」って言ったんだけど、北尾はそれも断った、と。

椎名　俺の勝ちじゃなきゃイヤだっていうんだ（笑）。



91年12月22日、両国国技館■UWFインター初のビッグマッチで、「格闘技世界一決定戦」と銘打ち、高田は元WBC世界ヘビー級王者トレバー・バービックと対戦。高田の強烈なローキックとハイキックに、バービックは場外へ飛び出し試合放棄。このときの高田の殺気溢れる佇まいは、ファンを魅了し、UWFナンバー2のイメージを払拭した。

ただ

せっかくの参戦
幻となったプラ
空振りに終わっ
いま北岡悟の中
昨年爆発させら
08年初戦はいき
そろそろ来るぞ

北尾戦のときの髙田はスターになる選手特有の神がかり的に見える輝きがありましたよ（タコ）

ガンツ　それでも話がまとまらなくて、3分5ラウンドをフルで闘うってことになった。ところが、Uインターサイドは「蹴りは全然ＯＫです」みたいなことを北尾に言わせたらしいんですよね。だからこそ、ハイキックでＫＯされても北尾サイドは文句が言えなかったという。

椎名　俺もテレビで観ながら、ロー効かせてハイキックっていうのは、理にかなってると思った。

ガンツ　髙田は高山（善廣）をスパーリング・パートナーにして、ずっとローからハイキックの練習をしてたらしいですね。それがズバリ決まった、と。

タコ　やっぱりスターになるヤツって、一瞬、神がかり的に見えるときありますよね。

井上　それとそこはやっぱり宮戸の髙田に対するマインド・コントロールがうまかったんじゃないかと思うんですよ。だって、バービック戦にしても北尾戦にしても、シュートでハイキックを出すなんてよっぽど腕に自信があるから出したんでしょう。

ガンツ　実際、あの当時の髙田は自信に満ち溢れてる感じでしたよね。

井上　でさ、船木vsルッテン戦のときに「船木、辞めるな！」って言ったのは、じつはガンツくんだったって話があったでしょ？　じつはボクもそういう話があるんですよ。

タコ　お！　聞かせてもらいましょう！（笑）。

井上　髙田vs北尾戦のとき、俺は2階席で観てたんだけど、北尾に勝って髙田が肩車されて帰っていくとき、俺が2階席から身を乗り出して下にいる髙田に「髙田さん、おめでとう！」って言ったんだよ。そしたら「ありがとう！」って返してくれたの。そのシーン、ビデオに入ってるよ。

ガンツ　あ、ありましたねえ！　言ってた！

井上　あれ俺に言ったんだよ！（笑）。

ガンツ　あれはいいシーンですよね。2ちゃんと髙田が口に手を当てて、2階席に向かって「ありがとう」って言ってましたよね。

椎名　ガンツわかるんだ、さすが（笑）。

井上　もう俺、そこらじゅうの見知らぬファンと抱き合ったり、万歳三唱したりして大騒ぎしたもん。

ガンツ　ボクも会場にいましたけど、とにかく、あのときの盛り上がりは凄かったですよね。

井上　あれはボクの生観戦ベストバウトなんですよ。

タコ　あれ現場で観てたらそうやろうね。

井上　三崎vs秋山どころじゃなかったですよ、あの武道館の揺れ方は。

ガンツ　三崎と違って、髙田はマイクで引かせたりもしませんでしたしね（笑）。

髙田は私生活においてもプロレスを守っていた！

ガンツ　その北尾戦にしてもバービック戦にしても「自分の陣地におびき寄せておいて、ガチで潰す」っていうのが、Uインターのお家芸でしたよね。

タコ　そうやなあ。

ガンツ　バービック、北尾以外にも田村vsマシュー・サード・モハメッド戦とかビリー・スコットvsジェームス・ワーリング戦なんかもそうですからね。

椎名　ヒクソンも同じようにおびき寄せようとしたんだよね？

井上　でも、ヒクソンにはその魂胆がバレていた、と（笑）。

ガンツ　そして、ヒクソン同様、おびき寄せようとして、その魂胆がバレて実現しなかったのが、プロレスリング・ワールド・トーナメント。通称「1億円トーナメント」ですよ。

タコ　前田、船木、橋本、三沢、天龍という各団体のチャンピオンに、トーナメント出場の招待状を一方的に送りつけたやつやんな。

井上　あのときマスコミの前で5通の招待状を公開したんですけど、ＷＡＲだけ宛て先が間違ってたんですよ。

一同　ガハハハハ！

井上　天龍が招待状に対するコメントを出してたけど、本当に手元に届いてたのかって（笑）。

ガンツ　まあ、あれは橋本、三沢、天龍は当て馬で、最初から前田と船木をおびき寄せる計画だったんでしょうけどね。

椎名　それで出場しなかったら、「逃げた」ってことにするんでしょ。汚えな（笑）。

ガンツ　でも、あれはホントにシュートでやるつもりで送ったらしいですけどね。もちろん1回戦で相手するのは安生で（笑）。

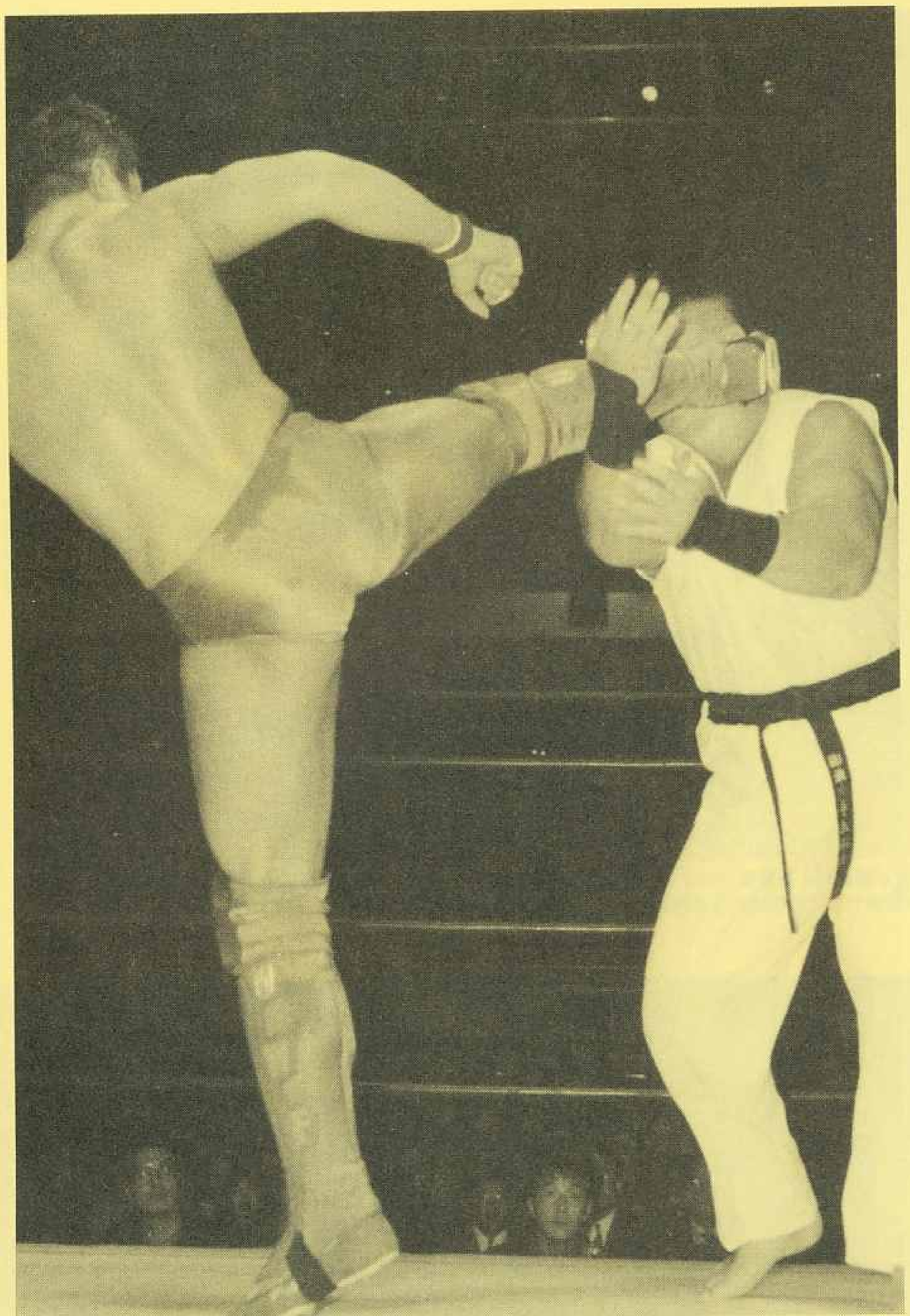
タコ　やっぱり安生なんや（笑）。

ガンツ　あの企画が持ち上がったとき、安生が「自分、船木さんなら自信ありますよ。前田さんもイケます」ってことで、「じゃあＯＫだ。もし安ちゃんにもしものことがあったとしても髙田さんがいかれることは絶対にない」って、それでゴーサインが出たって話ですよね。

タコ　安生はそれぐらい自信があったんやな。

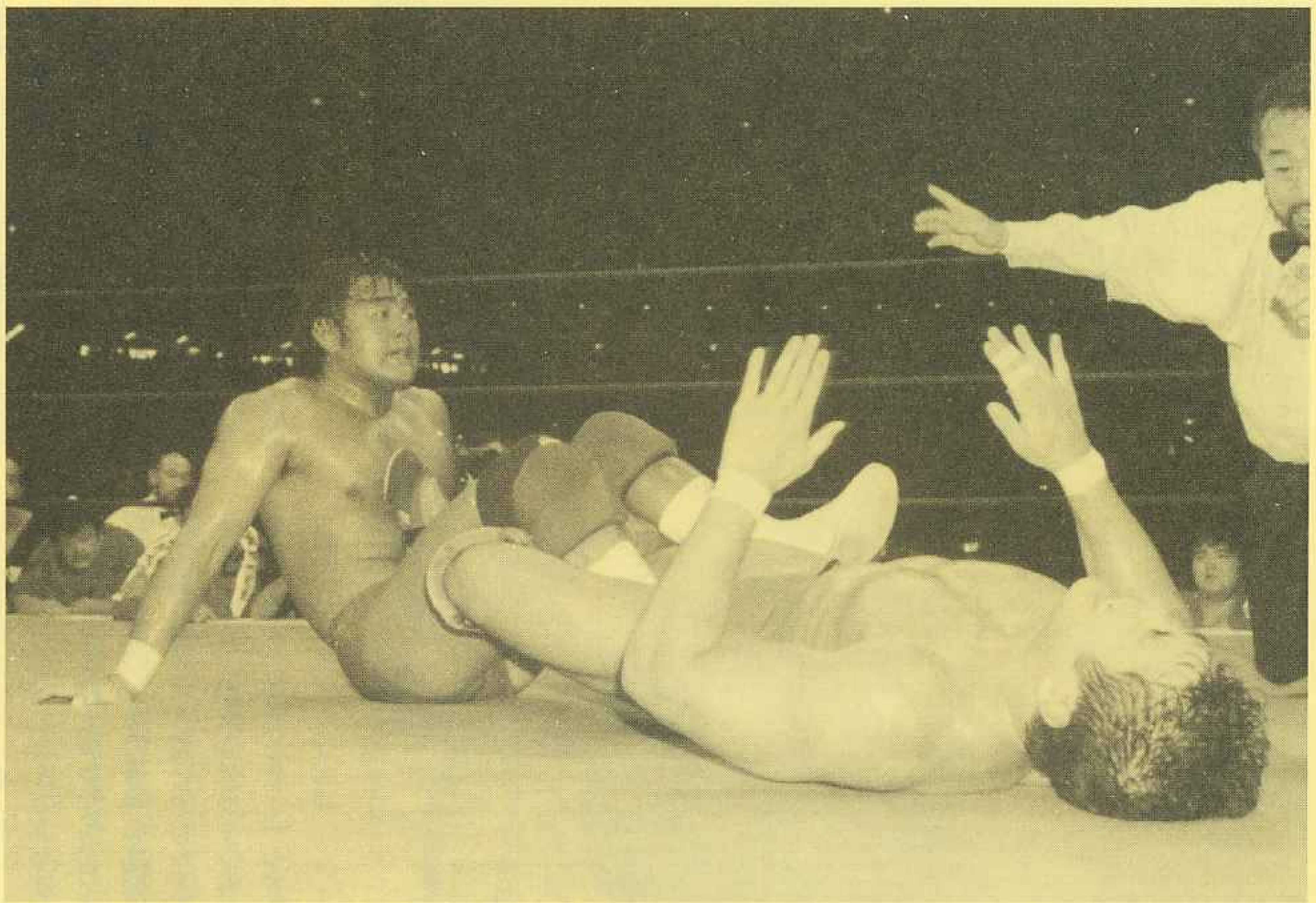
ガンツ　そして安生がやられたら、行かざるをえない立場に髙田がいたってことは、髙田も相当に自信があったってことですよね。

タコ　だから、宮戸が凄いのは、猪木さんのプロレスをなぞりつつ、ち



92年10月23日、日本武道館■現在の秋山成勲と比べても遜色ないほどの大ヒールだった元横綱・北尾光司を、髙田はあまりにも劇的な右ハイキックでKO！　この一戦で髙田人気は大爆発し、一気に日本プロレス界のトップに躍り出ることとなった。

ゃんとタイ人を連れてきてキックの練習させたり、そういうところにもちゃんとお金を使ったっていうところですよね。
ガンツ　ボーウィー・チョーワイクンとかがいたおかげでみんなムエタイの練習ができて、後半は安達巧さんが入ってレスリングの立ちレスの重要性を学んだんですよ。
椎名　70年代からサンボを導入したり、ランカシャー・レスリングをやらせてた国際プロレスみたいだよね。どっちも名前はインターナショナルだし（笑）。
タコ　あとUインターで特筆すべき点といったら、結束力の強さがあると思うんですよ。全盛期は高田を頂点にガッチリとピラミッドができてたり、キングダムになってからもサクがUFCジャパンで勝ったら、みんなが金網乗り越えて、あんだけ喜んだりね。
ガンツ　あの結束力は飲み会で培われたらしいですよ。普段は徹底した上下関係がありながら、飲み会では無礼講で、雲の上の存在の高田とそのときだけは若手が一緒に歌えたりとかするっていうんで。そこで一体感が生まれるという。



95年10月9日、東京ドーム■団体の経営が悪化し、新日本プロレスとの全面対抗戦に打って出たUインター。高田はメインで武藤敬司と対戦。古典的なプロレス技である足４の字固めで敗れ、この敗戦から急激に求心力を失ってしまった。

元UWFインターの選手の多くは「ヒクソンより髙田さんのほうが強い」って言いますよね（ガンツ）

椎名　普段ギリギリまで緊張感を持たせておいて、そのぶん無礼講のときはパッと騒ぐんだ。
ガンツ　道場では誰よりも練習して、飲み会では誰よりも騒いで楽しむ。雲の上の存在と肩を組んで歌えたりしたら、若手も嬉しいじゃないですか。だから、みんな髙田に惹かれていったんですよ。
井上　だって普段の髙田は米の炊き加減が悪いってだけで無言で道場から帰っちゃうくらいピリピリしてたんだから（笑）。
タコ　それができたのも、宮戸と安生が普段ガッチリ押さえつけて、髙田を本当に尊敬される存在にしてたからなんやろな。素晴らしい組織やね。
ガンツ　ホントに宮戸が組織のあらゆるところに目を光らせてて、ケーフェイも事務所の人間やレフェリーに対してまで完璧に守ってたみたいですからね。プロレス団体としては、理想的ですよ。
井上　そういえば、当時ボクが付き合ってた彼女が美容師さんだったんですけど、働いてた原宿のお店が髙田と向井亜紀の行きつけのところだったんですよ。で、そのコに聞いてビックリしたのが、Uインターの頃、髙田は試合に負けた直後は予約をキャンセルするんですって。キャンセルが入ると店長とかが「ああ、髙田さんこないだ試合に負けたからな～」って必ず言うんだって。プロレスラーってそこまでやるんだって少し衝撃を受けましたね。
タコ　確かに負けたのに何事もなく髪切りに来てたらへんやもんな。負けて落ち込んでないんですか？　って話にもなるし。
井上　東京ドームで武藤とやったとき、ドラゴンスクリューでヒザ破壊されたじゃないですか。その1週間後ぐらいに美容室に来たときなんか、メッチャメチャ足引きずって来たらしいですよ。
ガンツ　いい話ですねえ（笑）。これぞプロレスラーの業というか、生き様ですよね。
井上　だからそれは凄い感心した。足引きずったり予約をキャンセルしたりとか。だってそもそも予約入れなきゃいいじゃん？（笑）。その頃のレスラーは私生活でもそこまでやってたんだよ。
タコ　そこまでやって初めて「プロレスを守る」っていう意味があるよな。そこまでやらんのやったら、それこそカミングアウトしたほうがええんちゃうか、と思うし。
ガンツ　守るならしっかり守りなさいってことですよね。
井上　そうそうそう。だから『泣き虫』が出たときも微妙な気持ちになったけど、その美容室のエピソードを知ってたから、「まあ言う資格あるよな」って。そこまでやってたんだもん、この人。
タコ　逆に言うと『泣き虫』に書かれてないこともさらに膨大にあるわけでしょ。こんなふうに振る舞ってましたとかいうことが。
椎名　いろんなところで足引きずってたんだろうね（笑）。
井上　そういえば一昨年、近所の幼稚園にウチの子どもの受験願書を出しに行ったら、オレの前の前に●●が並んでたんですよ。
ガンツ　そんなところで●●と遭遇ですか（笑）。
井上　●●っていつもうしろ髪が長いじゃないですか。でも、そのときは、ちゃんと短くしてきてるんですよ。で、よくよく考えてみると、その1週間ぐらい前、試合中にうしろ髪を切られてるんですよ。
ガンツ　なるほど！　それでうしろ髪なくなっていた、と。
井上　そうそう、スッキリしちゃってるの。プロレスと幼稚園面接とがタイアップしてるんだよ（笑）。
ガンツ　ガハハハ！　それは許せないですねえ（笑）。
椎名　だけどさ、自分はプロレスラーでうしろ髪が長い、でも面接があるから切らなきゃなんねえってとき、どな。常に頭はプロレスのこと考えてるってことだから。
ガンツ　まあ、そうとも言えますね。
井上　いや、でも子どものほうがメッチャメチャうしろ髪長くて。お父さんは職業だからいいけど、髪を切るのはまず息子のほうが先だろっていう。
一同　ガハハハハ！

ただ

せっかくの参戦
幻となったプラ
空振りに終わっ
いま北岡悟の中
昨年爆発させら
08年初戦はいき
そろそろ来るぞ



ヒクソンに負けたのは“宮戸”がいなかったから

タコ 話を髙田に戻しますけど、そのあとUインターが崩壊して、ヒクソン戦が実現。この敗戦で、髙田の最強幻想っていうのは、完全になくなってしまいましたよね。

椎名 予想された結果ではあったけどね。

ガンツ でも、元Uインターの選手たちの多くは「ヒクソンやホイスより髙田さんのほうが強い」って言うんですよ。

タコ それは都市伝説じゃなくて?

ガンツ 違いますよ!(笑)。Uインターの若手選手の多くが、総合でも通用したじゃないですか。彼らは髙田の強さも知ってるから、本来の力を出せば負けないって言うんですよ。

タコ でも、実際の試合を観ると、とてもやないけど、そうは思えへんやんか。

ガンツ まあ、理由はいろいろあると思うんですけど、ヒクソン戦の前に髙田は、自腹でヒクソンの80年代最大のライバルと呼ばれたセルジオ・ペーニャっていう柔術家を呼んで、マンツーマンで練習したらしいんですよ。

椎名 それはヒクソンとの1戦目のとき?

ガンツ そうです。そのペーニャはホントに凄い柔術家で、桜庭、金原といったキングダムの選手もそのとき教えてもらったんですけど、練習なんで、みんな極められてたんですよ。髙田はそれを見て「ヤバいかもしれない」って思っちゃったらしいんですよ。

タコ 練習とはいえ、サクや金ちゃんが極められたの見て、「柔術は凄い」って思っちゃったんや。

ガンツ しかも、ペーニャの助言は「こうしたらヒクソンに勝てる」じゃなくて、ヒクソン相手に「これをやっちゃダメ」っていうものばかりだったんですよ。

井上 絶対にグラウンドにいくな、とかだよね。

ガンツ そう。蹴るな、寝るな、ガードポジションになるなとか。それで「じゃあ、何をやったらいいんだ!」ってなっちゃって、何もできなくなってしまった、と。

井上 だからヒクソン戦には“宮戸”がいないんだよ。「髙田さん、絶対にあなたは世界一です」って言って、その気にさせる人が。

ガンツ 髙田が柔術の怖さを知らずに、自信満々で出てきて、メチャクチャやってたら違う展開になってたと思うんですけどね。

椎名 そういうの観たかったね、暴れる髙田を。

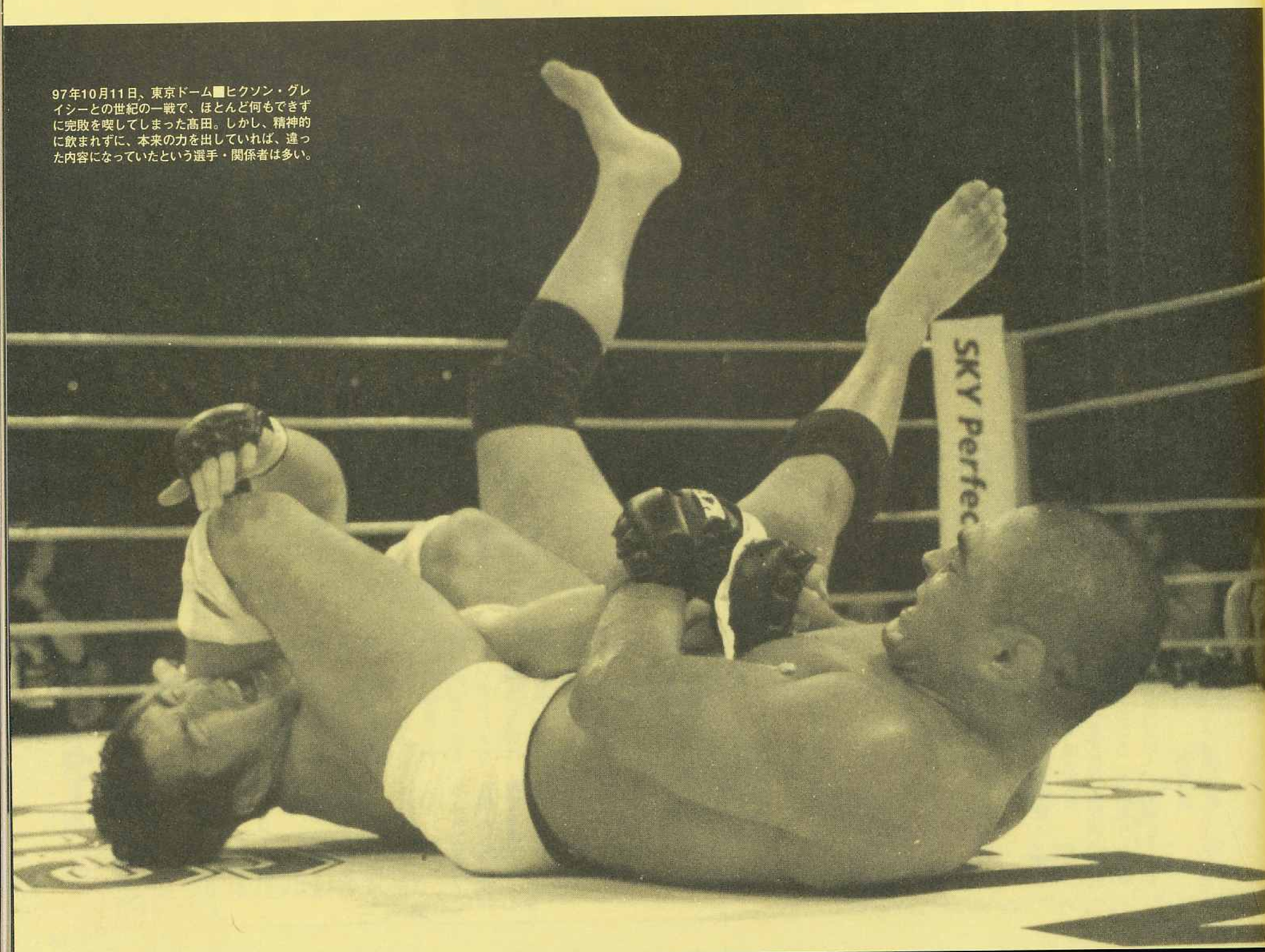
ガンツ 実際、エンセン井上がUインター道場に来てたとき、桜庭とか金原は柔術の技を知らないのに、わけもわからずメチャクチャにパスガードしたりして、対応はできてたんですよ。ヒクソンとエンセンのレベルは違うでしょうけど、髙田は本来腰が強いし、上に乗ったら強いんだから、勝てないこともないと思うんですよね。

井上 やっぱりそのマインドコントロールなんだね。

ガンツ 逆にヒクソン戦の前は不安になっちゃって、占い師の勧めであらゆるものをラッキーカラーの紫に統一したりして。

タコ 髙田って精神的に極端な方向に振れちゃう傾向があるよね。

井上 だって、ヒクソン戦の前に田



97年10月11日、東京ドーム■ヒクソン・グレイシーとの世紀の一戦で、ほとんど何もできずに完敗を喫してしまった髙田。しかし、精神的に飲まれずに、本来の力を出していれば、違った内容になっていたという選手・関係者は多い。



ゆめまくら・ばく■1
まれ。小説家。77年の
陽師』シリーズなど話
した『餓狼伝』を20年
は広く深い。

夢枕獏の

――獏さん！
れんのか！』は
しょう？
獏　残念ながら
たねぇ（悔しそ
れに言うと、家
三崎vs秋山戦で
り見えたこと
――ちなみにP
獏　基本的には
PPVを観なが
amite!!』
祭り』にミルコ
――テレビ東京
したか（笑）。
獏　ホントに
『やれんのか！
録画の『Dyn
めから観たの。

村が控室に行ったら、髙田が田村に「なんかいい作戦ある？」って聞いたらしいもんね。試合直前にその状態なんだもん。

ガンツ　髙田はヒクソン戦の前にキングダム勢と練習しないで、リングスの前田道場に通ってたんですよね。それでリングスの若い選手たちに「こういう場合はどうしたらいいの？」って聞いてたらしいです。要はUインターの選手にとって自分は最強・髙田延彦だから、自分の弟子には……。

井上　その姿を見せられない。

ガンツ　そうです。弟子に「どうしたらいいの？」って聞けないから、前田を頼って前田道場に極秘で通っていたんじゃないかという。しかも、あのプレッシャーの中で、いろんな人から「ヒクソンは強い」って逆マインドコントロールされて。

タコ　北尾とやったときのマインドやったら、違ったのかもしれんな。

井上　全然違うよ！　やっぱり宮戸ですよ、宮戸！

タコ　宮戸なんや。

井上　だって髙田vsヒクソン戦後の宮戸のインタビューなんて凄いんですよ。髙田vsヒクソンって最初は8月にやる予定だったじゃないですか。そのことについて宮戸は「（ヒクソン戦が）8月だと聞いたとき、『ヤバい』と思ったんですよ。なぜなら髙田さんと8月っていうのはホントに相性が悪い」って言ってるんです。

タコ　ああ、言ってたねえ。

井上「ゲーリーにもやられて、ベイダーにもいかれた、あれはすべて8月なんです。だから10月に変更って聞いたときはちょっと安心したんですけど……」って、そんなこと真顔で言えるんだから！

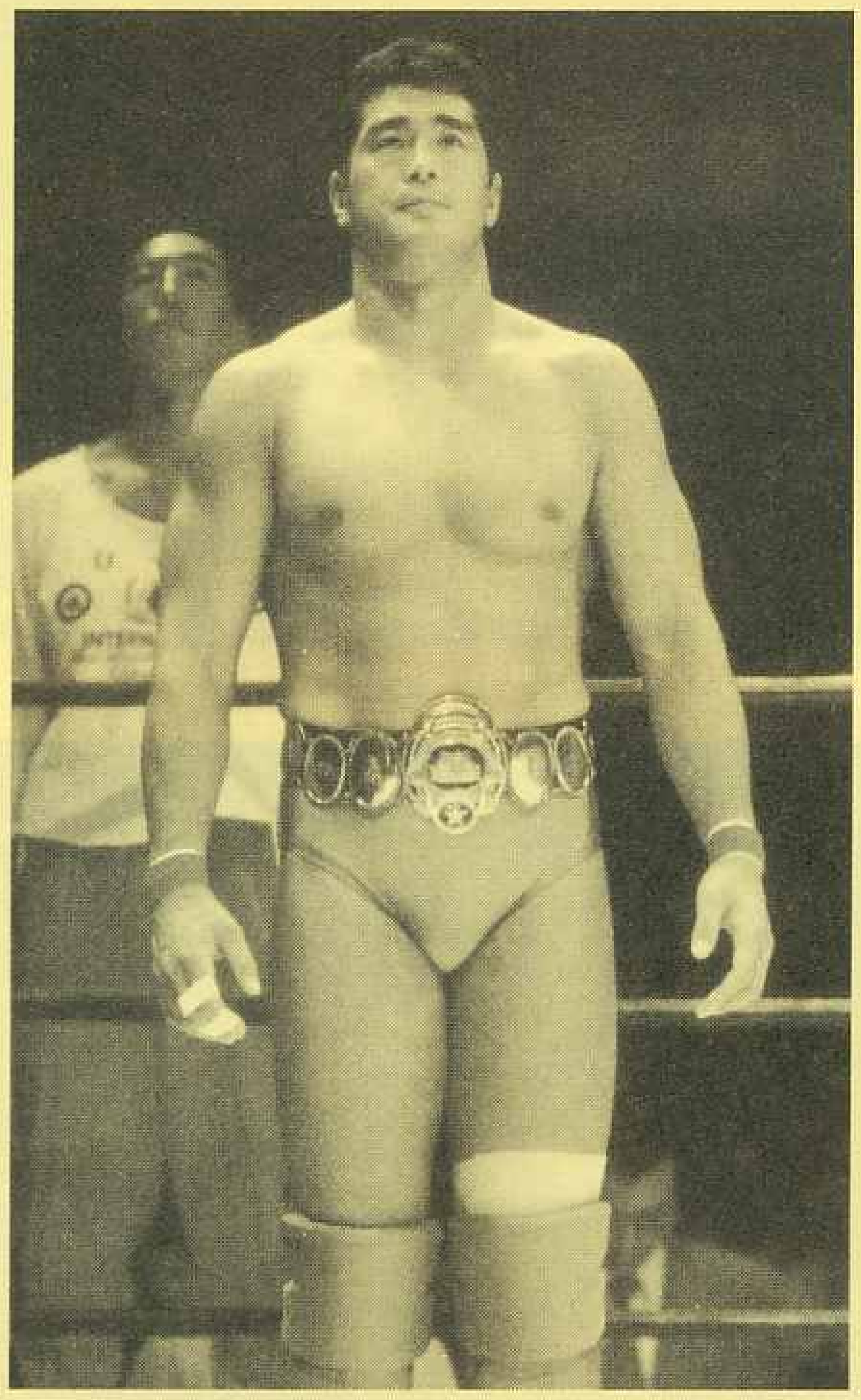
タコ「おまえがいれば」って感じやなあ。

椎名　まあ、結果は変わらなかったと思うけど（笑）。

タコ　でも、あんな試合じゃなかったやろうなっていうのはないですか？

椎名　それはあるかもね。2戦目は、ちょっと勝機が見えたもんね。倒されなきゃイケるっていう。

ガンツ　でも、気持ちの持ちようで全然違った結果になるっていうのは、ホントにあると思いますけどね。髙田がヒクソンに負けたあと、桜庭がマーカス・コナンに勝ったじゃないですか。あのときのアームロック狙いから回転して腕十字っていうのは、セルジオ・ペーニャとの練習でずっとやってた動きらしいんですよ。



椎名　サクのあれはそうなんだ。

ガンツ　あとホイス戦でやった、ガードポジションのホイスを帯持って逆さにしてパンチを落とす動きも、側転パスガードもセルジオとの練習で身につけたらしいです。だから同じ技を習って、髙田は「これをやられたらマズい」と思ったけど、サクは「あ、こうやれば柔術に勝てるんだ」っていう捉え方をした。その違いなんじゃないかって。

借金抱えた経営者でありガチンコファイター　それが成立するのはプロレスラーだけですよ（井上）

タコ　同じものを見てどう感じるかの違いやなあ。サクとかTKの世代はそう思ったんやろうな。

ガンツ　サクは、その前にエンセンとも練習してたから、より柔術を理解する土壌があったというのもあるんでしょうけどね。

井上　でもね、髙田vsヒクソン戦については、ボクも一零細企業の経営者として言わせてもらうと、経営もうまくいかずに多額の借金抱えてたらガチンコで勝てないですよ！

一同　ガハハハハ！

タコ　勝てるもんも勝てない。そりゃそうやな。

井上　だってもしヒクソンが髙田と同じように会社を持ってたり借金を抱えてたりしたら、山籠りなんてしてる余裕ないって（笑）。そういう同じ条件下でこそ、純白のリングで最強を決められるんですよ。

椎名　とりあえず同じだけ借金背負ってから（笑）。

ガンツ　確かに髙田は会社が絶好調のときは絶好調でしたからね。

井上　そういうこと！　俺だって借金を抱え始めたらノコノコと変態座談会に出てきませんから。たぶんクスリとも笑わないですよ（笑）。

タコ　じゃあ、これからは体重を合わせると同時に、会社を持ってるか持ってないかも吟味せんとあかんな。

井上　両者の負債の額に1億以上の差があると、一方に4点ポジションの攻撃が許される、と。それぐらいのハンデを与えなきゃフェアじゃないですよ！

ガンツ　会社のあるなしは、体重差のあるなしより重要ですか（笑）。

井上　でも、経営者であり、選手でもあるっていうのはプロレスラーの特徴だよね。だから、経営者でありガチンコファイターっていうのは、ちょっと成立しないんじゃない？

ガンツ　難しいですよね。勝敗イコール会社の業績になっちゃうわけですからね。

タコ　そう考えると、アリとやったときの猪木さんとか、並のハートの強さじゃないよね。だから今後どれだけ格闘技の大きい試合があっても、それは一選手対一選手でしかないから。自分の人生と、全社員の生活を背負って出た猪木さんとか髙田とは違うよね。

椎名　なんだかんだ言って、そういう立場のプロレスラーで、バーリ・トゥードやったのは髙田一人だよね。強い弱いを超えて、それはやっぱり凄いことだと思う。

タコ　だから俺ら、ええとき観てるよね。プロレスラーがジャンルを背負って真剣勝負に打って出る瞬間を観てきたんやから。ええもん観てきたなあ、と思うわ。

ガンツ　ダイナミックなもの見せてもらいましたよね。髙田vsヒクソンの勝敗というのは、単なる選手間の勝ち負けじゃなく、その結果がジャンルを変えていく、大きなうねりになってましたからね。

タコ　今後、そういうことってあるんかな？

ガンツ　あるわけないですよ！

椎名　単純な興奮度や盛り上がりでいえば、三崎と秋山が韓国で再戦したら、それに匹敵するかもしれないけどね。

ガンツ　それも凄いことになりそうですね。

井上　そして、次世代の変態チルドレンが10年後、20年後に『kamipro』で三崎vs秋山戦を語るんですよ！


ガンツ　三崎和雄変態座談会ですか！（笑）。

タコ　凄いなあ、三崎を延々と語る新世代が出てくるんや。

ガンツ　そんな次世代に変態の遺伝子を残すためにも、これからも我々はさらなる変態ロードを突き進みましょう！

【08年1月7日／都内・新宿、リビングバーにて収録】


ただいま満タン。
せっかくの参戦権も、
幻となったプライド・ライト級トーナメント。
空振りに終わった旧師・船木選手への挑戦表明。
いま北岡悟の中には、
昨年爆発させられなかったエネルギーが充満している。
08年初戦はいきなりの大一番。
そろそろ来るぞ！
HYBRID WRESTLING PANCRASE
PANCRASE 2008 SHINING TOUR
1.30(水)後楽園ホール
OPEN／18:00 START／18:30 当日券16:00から発売
パンクラスからのお年玉！
ご入場時に500円のグッズ商品券をお渡しさせていただきます。どうぞご活用ください。
※当日のみ有効です。お釣りは出ません。一部除外グッズもあります。
メインイベント 第3代ウェルター級王者決定戦
（和術慧舟會RJW／暫定王者）井上克也［3R］北岡悟（パンクラスism／1位）
初代ライト級王者決定戦
（SKアブソリュート・ロシア／2位）ウマハノフ・アルトゥール［3R］昇侍（KIBAマーシャルアーツクラブ／3位）
ミドル級戦
（SKアブソリュート・ロシア）ガジエフ・アワウディン［3R］久松勇二（和術慧舟會TIGER PLACE）
ライト級戦
（KRAZY BEE）小路伸亮［3R］五十里祐一（パンクラスP'sLAB東京）
ライト級戦
（総合格闘技道場コブラ会）花澤大介13［2R］高橋渉（チーム桜畑）
バンタム級戦
（スタンド）山澤勇紀［2R］川原誠也（パンクラスP'sLAB横浜／プロデビュー戦）
3.26（水）後楽園ホール［2.2 ON SALE］／4.27（日）ディファ有明［3.1 ON SALE］
チケット料金（当日券は一律500円増しとなります）
［後楽園ホール］SS・¥12,000 A・¥8,000 B・¥6,500 C・¥5,000 D・¥4,000 ／［ディファ有明］SS・¥12,000 A・¥8,000 B・¥6,000 C・¥4,500
パンクラス アマチュアジム「ピーズ・ラボ」東京／横浜／大阪で会員募集中！ お問い合わせ：(03) 5792-7079
●主催：（株）ワールドパンクラスクリエイト ●後援：インデックス、スカイ・A、ドン・キホーテ、STC GROUP ●お問い合せ：パンクラス 03-5792-0815 http://www.pancrase.co.jp/



帰ってきた“PRIDE芸人”
浅草キッド『やれんのか!』を語る

浅草キッドが『kamipro』に帰ってきた！　『PRIDE.1』から誰よりも熱くPRIDEを追いかけ、本誌のインタビューにもたびたび登場していた日本一の“PRIDE芸人”浅草キッド。しかし、フジテレビの放映打ち切り以降、大人の事情により表舞台でPRIDEを語ることはなくなってしまった。ところが今回、ついに本人たちの熱意と周囲の理解により、ひさびさの『kamipro』登場が実現！溜まりに溜まったものを一気に吐き出すように、『やれんのか！』を語りまくった！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　試合写真／山口比佐夫、平専英、平工幸雄

PRIDEが突然なくなった喪失感は、俺たちにとって9・11同時多発テロ級だよ！

——いや〜、おひさしぶりです！　長らくお待ちしておりました！

玉袋　すっかりご無沙汰でございます。

博士　俺たちも待ちに待った『kamipro』登場だからね。なにしろ、フジテレビの打ち切りだけでも、相当な喪失感だし、そのあとPRIDEが飲み込まれて消失したというのはね……。

玉袋　9・11的だよな。まさか世界貿易センターがなくなるとは思わねえからさ。それがある日突然なくなっちまうんだもんな。

博士　うん？　それだったらUFCがアルカイダか？　違うだろ、UFCはアメリカそのもんじゃん。

玉袋　そんなのアルカイダ？（笑）。いや、俺たちの生活の一部だったものが、なんの前触れもなくなくなってことだから。

博士　大晦日の風物詩だった『男祭り』が地上波で放送しなくなったっていうのは、俺たちの『紅白』がなくなったってことだから！　リングスが終わったときは、まだ『ザ・ベストテン』が終了したみたいなもんだから、最終回もありえる話だけど、まさか『紅白』は終わるわけないと思ってたもん。

玉袋　終わんねぇよ。未来永劫に続くに決まってる。そんなものに最終回があるかってんだよ！

——それぐらい「なくなるはずがないもの」だった、と。

玉袋　地上波が打ち切られたあともPRIDE自体は続いてたから、俺も陰ながら応援しててよ、（昨年3月に）六本木ヒルズでやったUFCとの記者会見もプライベートで行ってさ、一つの明るい未来を見出してたんだよ。ところがそれ以降、「明るい未来が見えません！」だもん。

——鈴木健想状態になってしまいましたか（笑）。

博士　そんな絶望的状況の中、今回、旧PRIDEスタッフの人たちが立ち上がって、『やれんのか！』開催に漕ぎ着けたって聞いたときは、その言葉どおり、覚悟を感じて嬉しかったね。

玉袋　まさに「待ってました！」だよ！

博士　そして大連立によって、ようやく明るい兆しがちょっと見えてきた。ヒョードルもよく日本に残ってくれたよな。

玉袋　明るい未来が見えたんだけど、秋山（成勲）という暗雲が立ち込めた！

博士　でも秋山なくして今回の大晦日はなかったと間違いなく言えるよね。そもそも桜庭が秋山と同じリングに立ちたくないからこそ、秋山のさいたま登場が持ち上がり、大連立も実現したなんていう話もあるけど、それが本当だとしたら、ようやくファンもあの〝ヌルヌル事件〟を消化できたんじゃない？　複雑な思いはあるけど、今回、秋山がさいたまにいなかったら、あの大爆発もなかっただろうし、あの日の最高のスペクタクルもないわけだから。

玉袋　そうなんだよな。べつに今回の『やれんのか！』で秋山のヌルヌルがチャラになるわけじゃねぇけどさ、俺たちをこれだけ本気にさせてくれたっていうのは、秋山がいたからこそだもんな。

博士　２００７年1月に世間では『ある大事典』の事件が起きて、大騒動だったわけだけど、その裏で、格闘技界は〝ヌルヌル大事件〟が起きたわけだけど、あの問題が長い謹慎期間を経たあともここまで長引いたことには、プロレスと格闘技の違いを感じたな。プロレスだったらもっと秋山の〝悪〟を肥大化させて、ヒールとして待望するわけじゃん。でも、そうじゃなくて格闘技ファンは秋山を追放までしようとしてたわけだからね。

玉袋　やっぱさ、それぐらいの存在なんだよ、秋山が。手に負えねえんだから。

——なんか、触ったらヤバいから閉じ込めておくしかないって感じですよね。

玉袋　ホントホント！　こんなの出しちゃダメだよっていうヤバい感じがあるんだよな。ありぁ、ヤベ〜ぞ。そのぶん色気もあるんだろうけど。

博士　そういう追放劇、バッシングが色気につながったっていうか、この大暗黒ヒール誕生につながっていくわけだから、タメは効いたよね。

——出場停止処分中を受けて逆に巨大化していきましたよね。

玉袋　だってさ、桜庭がファミコン時代の『スーパーマリオ』だとしたらよ、突然違うハードで『バイオハザード』が出てきちゃったようなもんだろ。こっちはマリオがキノコを取ったりしてるのを楽しんでたのに、いきなり銃でマリオをバンバン撃ちまくるのが出てきちゃったらよ……それぐらいの衝撃はあったね。

——マリオが銃で撃たれてリアルに倒れる姿は見たくないですね（笑）。

玉袋　だから秋山の出現っていうのは……マズいなあ、マズい、あれは！　こんな天然に強くて、空気の読めないヤツが天下獲っちゃったらどうしようって思ったよ、俺は。それを三崎がひっくり返してくれたからさ。

——三崎が勝ったときの会場の沸き方は異常でしたからね。

玉袋　そりゃあ、盛り上がるだろう。国技館だったら、座布団が全部宙に舞ってるよ！

博士　〝海鮮〟ならぬ、〝凱旋！　三崎港〟って言うくらい、大漁旗が振られたね。文句なしの大興奮状態だった。でも、ライブの客席はともかく、いざ、時間を経て、落ち着いて考えてみると、今回、秋山が負けたっていう事実そのものは、痛し痒しの部分が残るのも事実。それはやっぱり、秋山が勝って、ダース・ベイダーが君臨する暗黒面が広がるスター・ウォーズサガ的なストーリーを考えてたわけじゃん。この希代の大ヒールに、ここで倒れてもらっちゃ困るというね。

玉袋　でも『スター・ウォーズ　エピソード4』だってさ、最後、デススター爆



かつてはPRIDEのメインコメンテーターを務めた浅草キッドだったが、フジテレビの放映打ち切り後は、大人の事情で表舞台ではPRIDEと疎遠に。しかし、プライベートで会場や、六本木会見に訪れるなど、PRIDEへの愛情と情熱はいささかも衰えることはなかった。

ASAKUSA KID

発のところで一回ダース・ベイダーがドーン逃げてさ。一回終わらすっていうのがあるし、続編じゃ『帝国の逆襲』だってあるからね。

博士 うん。その『帝国の逆襲』的に言うと、エンドマークに見えていたのに、三崎の最後のキックが「あれは4点ポジションで反則だ」って声が出ることで、トゥー・ビー・コンティニューにはなったんだよね。やっぱり、あれだけの大作だからね、〝続編〟は観たいよ！ だからこそ、谷川さんも「三崎の蹴りは反則」、「韓国で再戦を」って言ってるんだろうから。

玉袋 次回作は『韓国の逆襲』だよな。

——ダハハハ！ いいですねぇ（笑）。

博士 俺たちみたいなプロレスで育ったファンは、一度決着がついたからって「これで秋山のストーリー終わりました。けじめつきました。禊は終わりました」ってことじゃ物足らないのかね。こんだけ興奮させてくれる〝ヒール〟秋山をこれで終わらせちゃいけないし、早くも清原（和博）に飛び火してるところなんか、相当おもしろいよ！

——なぜか清原が「俺が三崎を蹴ってやろうか」とか言ってるんですよね（笑）。

玉袋 力道山vs木村政彦戦では、木村が負けたとき大山倍達が立ち上がったことに『空手バカ一代』ではなってたけどさ、今回はなぜか、セコンドにいた、清原が「やってやる！」だもんな。

——普通に考えたら、プロ野球人生最後の年として、背水の陣で挑む2008年の一発目のコメントで、格闘技の話ばかりするってありえないですよね（笑）。

玉袋 ないないない！ だからよ、清原も巻き込んで、もう物語は続いちゃってるんだよ。今度は藪でも入れて続編作るしかねぇだろ。

桜庭が『スーパーマリオ』だとしたら、秋山は『バイオハザード』だよ！



三崎vs秋山は最後まで真逆のトンパチ同士のトンパチ合戦だったね

博士 そもそも秋山のヒールって認識だって、世間的には、去年の亀田、朝青龍、沢尻の3大ヒールに比べれば、マニアックな局地的な話題にすぎないところを、清原の発言が、世間との風穴を開けてるでしょ。

——実際、秋山はKOされたのに、あれで〝死んだ〟っていう感じが全然しないんですよね。

博士 あれで決着がついたって感じがしないほど、〝秋山強し〟のイメージが凄くあったからね。10回やっても三崎が勝ち越す感じがしないじゃん。

玉袋 そんな感じもあるなあ。俺、座ってた席がリングサイドの青コーナー側だったからさ、秋山の入場からずっと観てたんだけど、あんだけのブーイング浴びてるのに、なんにもこたえてねぇんだよ、あの男は。その強さったら凄いよ！ 俺だったら泣いて帰るよ。「すいませんでした！」って。そんな秋山に対して、三崎もゴングが鳴るまで一回も目を合わせねえんだよ。あれも凄い！ 試合後のマイクにもひっくり返ったけどな（笑）。

博士 だから、あの試合は、お互いKYと言うけど、トンパチ同士だと思うよね。KYって言ったら、マイナス要素で語られてるけど、そもそもトンパチって言葉そのものが、マット界では、肯定要素でしょ。もう最初から最後までトンパチ合戦じゃん。

——方向性が真逆のトンパチですよね。

博士 そう。普通はさ、三崎も試合後は、秋山の手を取って健闘をたたえて、「今日、試合をして、おまえの心が俺にも届いた！」だけで終わってもいいんだけどね。

玉袋 三崎劇場は違ったな～。おいおい、そういう展開かよ！ って。

博士 KO勝ちしたあと、なぜか、相手を残らせて説教道場になって青春ドラマになってくんだけど、熱血先生は、熱血だけで意味不明、不良は不良で、てんで反省してない（笑）。

玉袋 そうなんだよ、『飛び出せ！ 青春』じゃないんだよ。こっちはそれを期待してるのに、最後は『シティ・オブ・ゴッド』になってるからさ、こんな終わり方あんのかよ！ みたいなさ。

——青春ドラマのはずなのに、ギャング映画になっちゃって（笑）。

博士 でも、秋山が三崎に説教されながらも、沢尻エリカ的な「べつに……」って顔してたことで、幻想が続いたね。あれでヒールを保ったよ。

——KOされたあとも、〝魔王〟であり続けたんだから、たいしたもんですよね。

博士 まあ、三崎の説教にしてもさ、清原が言ったことが、ある意味、正論だったりするけどね。「桜庭に言われるならまだしも……」って。

——そりゃそうですよね。三崎はヌルヌル関係ないだろって（笑）。

博士 試合後の興奮で意識過剰、言葉が足らないんで、ストライクゾーンからズレてるよね。

——この前、三崎のインタビューをしたんですよ。そしたら全然、自分の発言がへんな反響を呼んでることに気づいてなくて、へんなこと言っちゃったってことにも気づいてないんですよ。

玉袋 その鈍感さは大物だな（笑）。

博士 確かに「日本人は強いんです！」って、あれ、三崎が勝ったときの定番のセリフなんだよね。



一段と鋭さを増していた秋山の打撃。敗れたものの、その強さと恐るべき潜在能力をPRIDEファンに見せつけたことは確か。魔王のストーリーはまだまだ終わっていない。

――要は、目標のない若者たちに「自分に自信を持とう、頑張ればなんでもできるんだ」っていうよくあるメッセージなんですけど、それが「日本人として誇りを持とう」になったっていう。

玉袋　なるほどね。

博士　でも秋山相手にあれを言うと……。

――観客の頭の中に国籍問題が渦巻きますよね（笑）。三崎自身はそれにまったく無意識で言ってるからこそトンパチなんですけど。

玉袋　だからやっぱりKYだよ。ホント、空気読めない祭りだったよなあ。

――歴史に残る劇的勝利を一気にクールダウンさせる、歴史に残るKYマイクでしたよね（笑）。「え、それ言うの？」って言葉が次から次へと出てくるっていう。

玉袋　ただ、俺たちの仕事なんてさ、とくにテレビなんかでは常に言葉を規制されてるから、たまにああいう言っちゃいけねえような言葉を聞くとスカッとする部分もあるんだけどね。おふくろなんかと会話してるとポロッと出る、意識しないで言う放送禁止用語とかさ、気持ちいいなと思うんだけどさ。

――三崎のマイクはまさに無意識の放送禁止用語ですよね（笑）。

博士　三崎が「おまえは子どもたちを裏切った、オレは絶対に許さない」って言ったことに対してさ、ターザン（山本！）がひさびさに納得できること書いてたんだよ。「秋山は子どもを裏切ってない。ただ大人を見せただけだ」って。うん、それはそうだなって思った。「大人とはこういうもんだ」って（笑）。それで「善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや……」ってヒールの見方も親鸞の悪人正機説で、秋山擁護なのは相変わらずなんだけど。そもそも、秋山の存在なんて逆手説におもしろがるのが、『Kami pro』的には主流なんだけどね。

――ホント、秋山って存在自体が〝R指定〟だから、青いプロレスファンに対して、これみよがしに大人の世界を見せつけてくれますよね。

玉袋　そうだよなあ。だから、俺も試合前は三崎が負けるっていう心の準備をしてから行ったもん。セガレと二人で観てたんだけど、試合後は「こういうもんだよ、人生は」なんて言いながら、とぼとぼ電車に乗って帰るって刷り込んでた。ところが、ああいう結果になって、気が大きくなってタクシーで帰ったもん。

――任侠映画を観たあとみたいに、気が大きくなっちゃいましたか（笑）。

博士　でも、単純なハッピーエンドじゃないよね。三崎万歳！　万歳！　で終わらず、不可解な三崎劇場があったおかげで、いい意味でモヤモヤして、観終わってからも物語が続いていくよね。

玉袋　そういう一筋縄じゃいかねぇところが〝PRIDE〟なんだよな。あの日はPRIDEだったよ。

博士　やっぱ映画とか、ただのエンターテインメントにないPRIDEのイビツな魅力でしょ、だって、あんな奇天烈なハッピーエンディングないんだから。

玉袋　ないない！　ヒーローが最後の決めゼリフでモヤモヤさせるんだからよ。

博士　『大日本人』のエンディングみたいだよ。「なんなんだ、これ？」って。あと、秋山の柔道衣にデカデカと縫いつけられてた『TVガイド』っていうのも、相当不思議な感じしたけどね。

—あれは凄いですよね。このタイミングでスポンサーに復帰するって。

博士 あれも『大日本人』がつけていた「白い恋人」みたいなもんだよ。その違和感と符号ぶりは。

玉袋 言えてるよ。このタイミングで何をアピールしてんだって。すげえよ。『TVガイド』。

博士 もはや、秋山の不可思議な存在は、『大日本人』じゃなくて「大日韓人」だね。

—ガハハハハ！

玉袋 それにしても、これからの秋山はどうなるんだろうな。

博士 やっぱり、三崎との再戦でしょう！ だって、三崎はスポーツマンとしては、これで決着だと思ってるだろうけど、プロなら、観客の評価も気にしてほしい。だって、この2007年の大晦日『やれんのか！』は、「秋山が負けた！」とファンに刻印される大会でしょ。やっぱ「三崎が勝った！」と思わせる圧倒的な英雄性を、もう一度見せるべきだよ。だって宇野薫はルミナに2回勝ったから、日本のトップになったわけじゃない。

玉袋 再戦って流れになるだろうねぇ。

博士 しかも単なる再戦じゃなくて、韓国で再戦だよ。それは谷川さんが描いているストーリーでもあるし、それがベストだと思う。

玉袋 そりゃすげえことになるぞ～。でも、〝谷川一騎〟としてはその脚本を書くだろうな。

—これは興奮しますね。三崎なんて韓国に入国するだけで勇気がいるでしょう。

玉袋 どこに戦争に行っちゃうんだっていうね。危ないよな。日の丸背負って行くわけだから、こりゃナショナリズムの闘いになるよ。これで勝ったら、三崎は『やれんのか！』の絶対的なヒーローになれるかな？

博士 なれる！ 勝敗そのものでなくても、韓国での再戦を受けただけで、俺は、その心意気に大喝采を送るね。

—その再戦が実現したら、今回以上にみんな三崎に乗るでしょうね。

博士 乗る！ アンチの人だって乗る！ それを受けたことに乗る！

玉袋 俺も乗る！ 飛行機に乗る！ そして韓国まで観に行く！

—ファンも一緒に敵地に乗り込むような気持ちになりますよね。これが実現したら、オリンピックも吹っ飛びますよ！

玉袋 吹っ飛ぶよ！

博士 三崎が、この昭和ファンの心象をわかってくれたらいいね。スポーツマンとして「これで僕と秋山とは決着がついてますから」じゃなくて。

玉袋 それでよ、秋山は秋山で、再戦のときに前田（日明）と組んだらおもしれえよ！

—うわ～、最凶悪コンビがここで結成！

博士 秋山のセコンドに前田日明がついたら凄いな。これぞ『血と骨』ですよ。こりゃあ、骨太だわ。甘ったるい韓流ドラマにはありえないね。

玉袋 二人が背負ってきた、いままでの人生を見せるんだろうな。こりゃたまんねえよ！

博士 『血と骨』ってそのまま興行タイトルにしたいぐらいカッコいいね。

玉袋 前田と秋山は丹下段平と矢吹丈の関係になるよ。いまはいい段平がいねえんだよ、秋山に。

博士 秋山、前田の持つ、二重のナショナリズムが、日本人にも韓国人にもファンにはリングの上で複雑な感情を想起させるはずだけど、ナショナリズム云々抜きにして、前田が「俺が秋山に礼儀教えたるわ！」って言って、組めば普通に公序良俗に適してくるし、これは乗れる！

ASAKUSA
KID



いろんな意味で話題となった、試合後の三崎和雄説教劇場。この最後まで相容れない、単純なハッピーエンド感のなさが、さらなる物語の続きを生み、運命の再戦は実現するのか？

—前田も秋山も同質の底知れない恐怖と魅力がありますよね。最終的には話してわかるタイプじゃないというか。

玉袋 そうなんだよな。

博士 唯我独尊なんだよ。

玉袋 たとえば近所で犬が吠えてきたらさ、その犬をボコボコにしちゃうような人なんだよ。そのあとの近所付き合いのことなんて考えないんだよ。またそこが魅力なんだよな。危険な魅力にしびれちまうんだよ！

—そういう人って断然おもしろいですよね。近所にいたら、こんなに困る人もいないけど（笑）。

玉袋 引っ越しおばさんだってそうだよ。あのおばさんを映像で観るのが一番楽しいんだから。近所にいたら嫌でしょうがねえだろうけどな。あと、中野のウンコ煮込みおじさんとか、映像で観てると最高だぜ。前田をそれと一緒にしちゃうと失礼だけど。

博士 失礼すぎるよ！

玉袋 そうだよな、どうも失礼しました！ ただ、大きいくくりでいったらそういうことなんだよ。『大家族スペシャル』のハプニング発生みたいなさ、観て楽しみたいって感じするよね。

—『Dynamite!!』でも、ある意味、一番おもしろかったのは前田が田村にトロフィーを投げつけたところですからね（笑）。

玉袋 前田のそのKYっぷりもやっぱすげえや！

—それにしても、大晦日についてのインタビューなのに、ここまでほとんど秋山の話しかしてないんだから、いかに秋山がインパクトあったかということですよね。

玉袋 だからMVP決定でいいんじゃない？ 以前だったら語りたくもねえって思ってたけど、マジで強いし、とんでもねえインパクト残してくれたんだから。

博士 もちろん、メレンデスに初めて土をつけた石田くんだってMVP級だし、川尻や、思わぬメインを務めた青木だって、よくぞ、ここまで、待ってくれた！って、俺たちは、もう抱きしめたいほどに大感謝ですよ。だからこその、あの大会の会場熱であったでしょ。でも、最終的には秋山になるわな。ま、そんな秋山幻想が敗れながらも膨れ上がった一方で、大晦日は船木幻想が縮んじゃったな。やっぱ懐メロは難しいと思ったね。

玉袋 ありゃあ残念だったな～。次の相手どうすんだろう。鈴木みのるかなあ？ 新日の中邑かな？ それとも柴田か？

博士 しかし、そこで柴田が勝ったら、船木vsヒクソン戦ってなんだったんだろうって思うよ。

玉袋 時が経っちまったんだよな。38歳になった桜庭と船木が闘うっていうのも、物語としては好きなんだけどね。だけど、船木のセコンドに山田親分がいても俺は乗れないんだよ！

—ダハハハ！ そこですか（笑）。

玉袋 髙田vsヒクソン戦で、髙田のセコンドにUインターが集結したときは泣い

たのよ、俺は。だけど船木のうしろに山田親分がいてもなぁ……、山田親分っていったら元祖空気の読めない男だからね。
博士　懐かしいね、山田親分の空気の読めなさ。
玉袋　あれ先代だよ。かなりの名人芸だったよ。
――やっぱりパンクラスつながりで三崎の大先輩な感じはしますね（笑）。
玉袋　やっぱり流れてるよ、ハイブリッドの血が。まあ、山田親分の話はいいとして、そんなことより五味だよ！　なんでこの大晦日に五味がいないのか。たぶん、大晦日はガキの頃のように原っぱでスパーリングしてたんだろうな。
――五味はあの場にいないことで、逆の意味で存在感を示したというか、気になる男ですよね。
博士　気になる気になる。昭和で言えば、大晦日に美空ひばりのいない『紅白』みたいなもんだろ。
玉袋　なんとか今年は、五味のあの勇姿をまた観たいよ。どこのリングになるのかわかんないけど。
博士　だけどさ、俺たちがひさしぶり熱くなった大晦日だけど、これは日本国内の話だからね。もっと広い視野で見ると、UFCという『インディペンデンス・デイ』みたいなさ、デカすぎるUFOが来ちゃって、実際に被害受けちゃってるわけだからさ。楽観視はできないよね。しかも、あっちは大作なのに「大味でおもしろくない」ときてるから。
玉袋　やっぱハリウッド映画に飲み込まれちまうのかな～。ただ、とにかく言わせてほしいのは、俺がWOWOW加入して、ようやくミルコ観れるぞと思ったその月


秋山成勲と前田日明は矢吹丈と丹下段平の関係になれるよ！



終わりは始まりが興行の基本。秋山の物語もここで終わるわけない！

にWOWOWが打ち切りになったっていうことだよ！　そこだけは抗議したいんだよ。なんで終わるんだよ！
博士　なんでミルコを『ハッスル』で観なきゃいかないんだっていうね。
玉袋　『ハッスル』のミルコはおもしろかったけど、やっぱり格闘技をやるミルコが観てえんだから。とにかくUFCの情報はガンツからの情報だけだからさ。
博士　俺はUFCの映像もそうだけど、PRIDEの映像権を買い戻してもらいたいよ。あとは『PRIDEのテーマ』の音源！
玉袋　それはあるな！　あの曲、俺のiPodに入ってるけど、会場で聴けるまでとっておこうと思って、俺はずっと聴いてねえんだから！
博士　あの曲さえあれば、ナレーションの立木さんもいるし、PRIDEの世界は完全に復活するよね。
玉袋　あのテーマ曲は、ある意味、放送禁止歌みたいになってるもんな。バラエティ番組ではよく流れてるのに、肝心の『やれんのか！』の会場では流せねえっていう、『ヨイトマケの歌』になっちゃってるからさ。
博士　そういや高田本部長はふんどし暴れ太鼓やるって言ってたのに、ふんどしにはならなかったよね。まさか、ふんどしの権利までUFCに……。
玉袋　おいおい、ふんどしなんか日本古来のもんだよ！　ふんどしまで取られたら、祭りもやっちゃいけねえってことになるだろ、そしたら。じゃあUFCは『男祭り』買いやがった次に「三社祭」買うかもしれないよ。そんときゃ、真珠湾攻撃だよ、そんなもん！
――まあ、『やれんのか！』は大晦日で完結ではなく、かたちを変えて続くみたいなんで、2008年の大晦日こそ、『PRIDEのテーマ』とふんどし両方が完全復活してほしいですけどね。
玉袋　こうなったらどうなってもいいからさ、続いてくれよって話だよ、これ。
博士　だから〝終わりは始まり〟っていうのが興行の基本だからね。終わりを終わりにしちゃダメだから。
――プロレスなんか、50年以上、終わらない物語を続けてるようなもんですよね。
玉袋　やっぱり、かつての1・4ドームみたいにソワソワしなくなっちゃったら、もうおしまいなんだよ。格闘技までそうなっちゃいけない。1・4がダメになりかけたとき、猪木は小川を投入して、橋本とやらせてもう一回盛り上げたんだよ。だから大晦日も〝1・4化〟していくのか？っていうときに、秋山が出てきて、また興奮できるっていうのはいいことだよ！
――そうですね、あのときのオーちゃん投入と秋山投入は似た感じがありますよね。
玉袋　奇しくも柔道界の変わり者っていうね。
博士　トンパチだからこその存在感だよ。
玉袋　あとは井上康生が入ってくるぐらいしかねえんじゃねえか？　東原亜希ちゃんから口説いてもらって。
――そこから（笑）。
博士　うん。でも、井上康生は北京五輪があるから、それ待ちだ。
玉袋　こうやって物語は続いていくんだから。終わっちゃいけねえ。
博士　俺たちの祭りはまだだこれからだよ！

【08年1月8日／都内・新宿、リビングバーにて収録】



『kamipro』読者&
『kamipro Hand』ユーザーが選ぶ

kamipro Award 2007

さぁ〜、今年もやってまいりました！
毎年恒例のkamipro Award!!　PRIDEの“消滅”から
『やれんのか！』開催、UFCのさらなる巨大化にIGFの旗揚げ！　と
マット界にとって例年以上に激動の年となった2007年。
さまざまな名場面や名勝負が生まれ、そして輝いた人がいました。
その中から『kamipro』読者&『kamipro Hand』ユーザーが
本音で選んだ“ザ・ベスト”とは？
kamipro Award 2007、はじまり〜、はじまり〜！

（この結果は、読者ハガキ&携帯サイト『kamipro Hand』での投票、上半期の結果をポイント化し、集計したものです）

BEST FIGHTER



大晦日に奇跡爆発！
kamipro大賞
三冠達成!!

MVP
三崎和雄

585 point

“魔王”秋山討伐で人気急上昇！
本誌初登場で表紙も獲得!!

2007年kamiro大賞・MVPは“魔王”秋山成勲討伐に成功した三崎和雄がブッチギリで受賞！2007年上半期は2.24『PRIDE.33』で、フランク・トリッグに敗れ、『PRIDEウェルター級GP』優勝で上がった株を大きく下げてしまっていた三崎だったが、大晦日の秋山KOで、すべてを吹っ飛ばした。そのインパクトは、これまで『PRIDEウェルター級GP』に優勝しても一向にインタビューを申し込む気配がなかった『kamipro』が、ちゃっかり表紙にしてしまうほど。2008年も、そのスリリングなマイクアピールともども、三崎の活躍にいろんな意味で注目だ！



3rd 越中詩郎

297 point



TV番組をきっかけに48歳にして大ブレイク! まだまだやってやるって!!

MVPまであと一歩だったって！ テレビ番組『アメトーーク！』の"越中詩郎芸人"の回をきっかけに48歳にして大ブレイク！『kamipro』でも毎号毎号、しつこいくらいに越中特集が組まれ、kamipro大賞上半期のMVPにも輝いたが、メキシコ遠征でのアクシデントによるケガもあり下半期は見事なまでに失速。結局、5月に永田さんをあと一歩まで追い込みながらIWGP王座奪取がならなかったのと同様、kamipro大賞もあと一歩のところで逃してしまった。しかしこの、あと一歩が届かないのが越中の魅力だって！ まだまだあきらめてないって！ 08年こそ本隊ぶっ潰してやるって！ サンキュー、サンキューな。

2nd 秋山成勲

305 point



MMA史上最大のヒールがベストファイター2位に! 魔王復活に期待!!

ちょっと前までワーストファイターの座をほしいままにした、MMA史上最大のヒールが、なんとベストファイターの2位に食い込んだ！ 06年大晦日のヌルヌル事件によって、一時は「永久追放すべし」の声も挙がった秋山だったが、10.28『HERO'S KOREA 2007』で復活すると、下馬評を覆し『PRIDEウェルター級GP』準優勝者、デニス・カーンをKO！ そこから"魔王"としての悪の存在感を巨大化させ、大晦日の三崎戦で敗れたもののあらためて「秋山強し」を印象づけた。07年は良くも悪くもこの男を中心に回っていたことは間違いない。08年、魔王がどんな復活を遂げるかおおいに注目される。

5th ソクジュ

178 point



衝撃のPRIDEデビューでアフリカ幻想大爆発!!

「ホジェリオがいくら強いといってもキリンよりは弱い」。MMA史上に残る名言とともデビューしたPRIDE初のアフリカ人ファイター、ソクジュ。その自称・童顔の風貌ともども、うさん臭さ満点だったが、2.24『PRIDE.33』でノゲイラ弟をまさかの秒殺KO！ さらに4.9『PRIDE.34』ではアローナをも倒し、アフリカ幻想が大爆発！ 12.29『UFC79』ではLYOTOに敗れたが、巻き返しに期待だ！ ウッホ!!

4th エメリヤーエンコ・ヒョードル

183 point



『やれんのか!』開催の立役者 今年もこの男がキーマンだ!

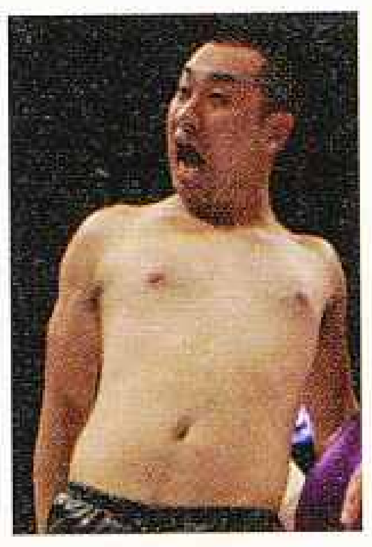
「大晦日に日本で試合がしたい」。我らがPRIDEヘビー級王者、ヒョードルのこの発言がなければ、『やれんのか！』の開催はなかった。PRIDEトップファイターが次々とUFCと契約を結んでいく中、一人、背を向けて日本を選んだ皇帝。大晦日の『やれんのか！』では"大韓国人"チェ・ホンマンを相手に体格差を克服して圧勝。その強さを見せつけた。今年もこの男がマット界の鍵を握る！



WORST FIGHTER

1	秋山成勲	406 Point
2	ロレンゾ・フェティータ	368 Point
3	ボブ・サップ	355 Point
4	谷川貞治	125 Point
5	田村潔司	99 Point
次点	TBS全部	87 Point

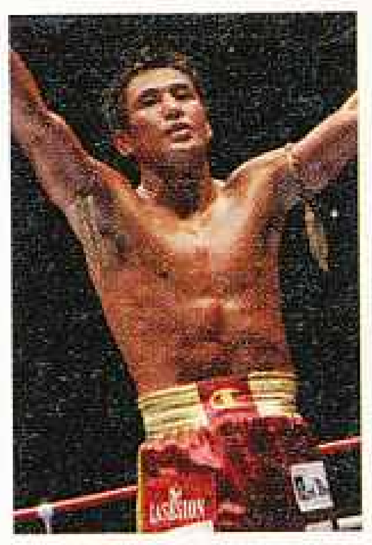
ワースト1位は2年連続で秋山！ とはいえ、MVPでも2位に選ばれていることから、これは"魔王"の悪の存在感の証明。裏MVPといってもいいだろう。2位はPRIDEを消滅させた張本人であるロレンゾ。サップ、サダハルンバはもはや常連。田村は金泰泳戦の"失態"が響いた。次点には亀田問題も含めてTBSが登場。



10th RG 77 point



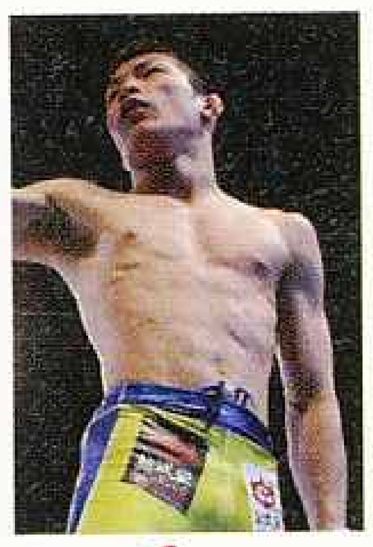
9th ダン・ヘンダーソン 108 point



8th 魔裟斗 115 point



7th 髙田総統 126 point



6th 青木真也 146 point

"ミスターやれんのか！" 青木、『ハッスル』を大躍進させた総統、ブアカーオを倒した魔裟斗、PRIDE二冠王となったダンヘンと大物が名を連ねる中、RGがちゃっかり10位入賞！ ヨウヨウヨウ、あまりに場違いだけど、RGのやられ芸はMVP級だったYO！



2007年最大の緊張感 衝撃のKO決着！

kamipro Award 2007

1st

三崎和雄 vs 秋山成勲

937 point

12.31『やれんのか!』
さいたまスーパーアリーナ

観客異常興奮!!　格闘技史上永遠に語り継がれる名勝負!

異常なまでの緊迫感と凄まじい熱狂！ “魔王”と化し、大ブーイングで“聖地”さいたまスーパーアリーナに降臨した秋山と、逆に大歓声で迎え入れられた『PRIDEウェルター級GP』覇者、三崎のスリリングかつストーリー性に満ちた一戦が、これまたブッチギリでベストバウトに。ハイレベルな打撃の攻防、衝撃のフィニッシュ、そして波紋を呼んだ試合後のやりとりを含めて、格闘技史上永遠に語り継がれる試合といっても過言ではない！



2rd
ダン・ヘンダーソン vs ヴァンダレイ・シウバ

2.24『PRIDE.33 THE SECOND COMING』
米国ネバダ州ラスベガス／トーマス＆マックセンター

185 point

**PRIDE初の王者対決!
ダンヘンが二冠達成!!**



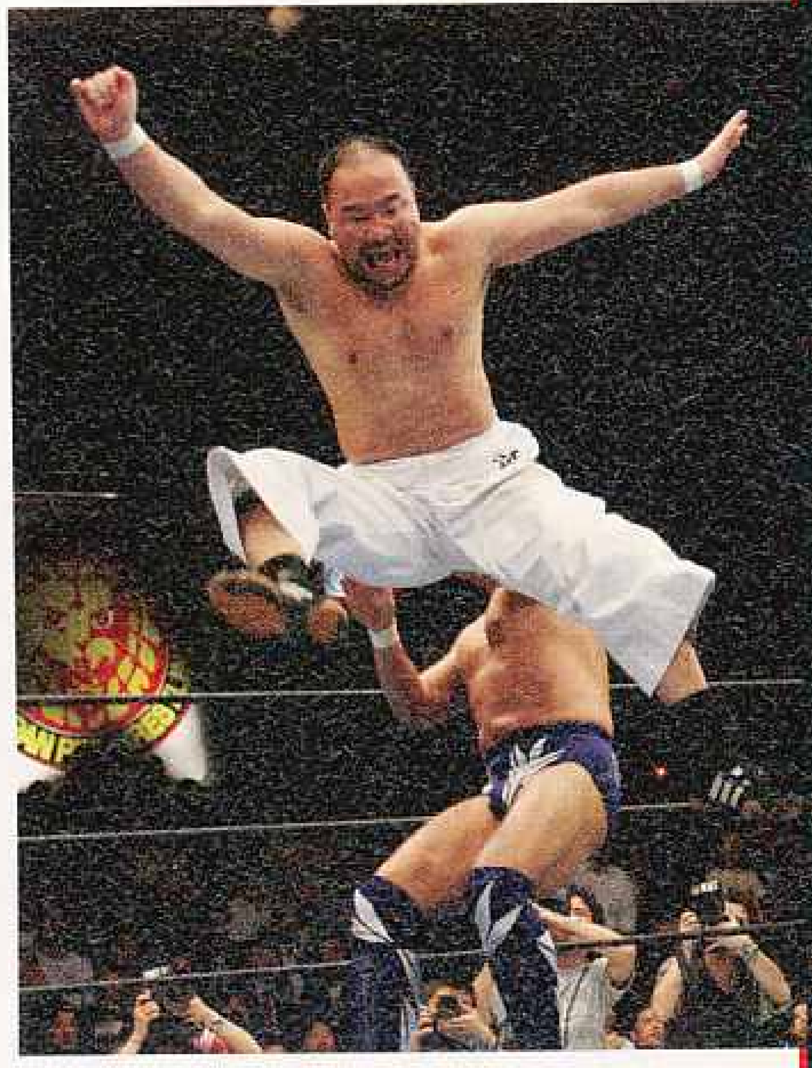
ラスベガスを熱狂に包んだPRIDEウェルター級王者、ダンヘンとPRIDEミドル級王者、ヴァンダレイの王者対決が2位にランクイン！　大声援をバックに奮闘したダンヘンが左フックで豪快にシウバをKOし、二階級制覇を達成！　シウバは初めてミドル級のベルトを手放すこととなったが、高熱を押しての奮闘でアメリカの観客にPRIDEの闘いを見せつけ、ヴァンダレイ・シウバの名前を脳裏に刻み込んだ。

3rd
永田裕志 vs 越中詩郎

5.2 新日本プロレス『BRAVE NEW WORLD』
後楽園ホール

161 point

**中年オヤジの再起ドラマ
熱い歓声に
侍の目にも涙……!!**



『アメトーーク！』でのブレイクを受け、今年、ノリにのった越中。そのクライマックスとなった5.2新日本『BRAVE NEW WORLD』では永田裕志の持つIWGP王座に挑戦！　煽り映像のナレーションをケンドーコバヤシが読み上げるという、豪華な演出で入場してきた越中に会場からは大歓声！　そのあまりに熱い歓声に越中の目には試合前から涙が……。越中にベルト獲ってもらいたかったって！

4th
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs チェ・ホンマン

12.31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ

80 point

**これぞ大連立の象徴!
"世界最大"と"世界最強"が激突**



これまでまったく接点のなかった"世界最強の格闘家"と"世界最大の格闘家"の激突。まさに大連立を象徴するこの一戦は、戦前、一部でミスマッチとも言われたが、ホンマンの潜在能力の高さと、ヒョードルの強さ両方が見られる、予想を超える好勝負に！　とくにホンマンは敗れたものの、総合格闘家としての可能性を見せつけ、株を上げることとなった。

5th
ソクジュ vs ヒカルド・アローナ

4.8『PRIDE.34』さいたまスーパーアリーナ

65 point

**日本初登場のソクジュが
またもやビッグ・アップセット!!**



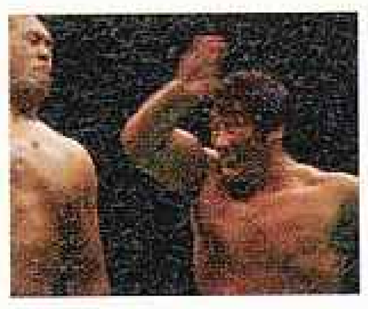
ソクジュの日本初登場となった試合がベスト5入り。前戦の2.24『PRIDE.32』でホジェリオを破るという衝撃のデビューを飾ったソクジュ。対するは、チームメイトの仇を討たんとする"BTT無冠の帝王"アローナ。さすがに苦戦が予想されたソクジュだが、アローナの弾丸タックルを耐えると、ロングアッパー一発で激勝。この一戦で、アフリカ幻想がさらに高まった。



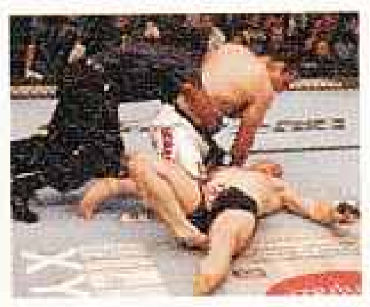
6th
魔裟斗 vs ブアカーオ・ポー.プラムック
10.3『K-1 WORLD MAX 2007世界一決定トーナメント決勝戦』日本武道館
63 point



7th
坂田亘 vs ザ・エスペランサー
11.25『ハッスル・マニア2007』横浜アリーナ
60 point



8th
三沢光晴&秋山準 vs 高山善廣&小橋建太
12.2ノア『WINTER Navigation '07』日本武道館
50 point



9th
ガブリエル・ゴンザガ vs ミルコ・クロコップ
4.21『UFC70』英国マンチェスター／MENアリーナ
48 point



10th
鈴木みのる vs マッスル坂井
5.4『マッスル・ハウス4』後楽園ホール
41 point

6位以降は主要各団体の07年の象徴する試合がランクインした。『東スポ』プロレス大賞ベストバウトの小橋復帰戦は8位。スーパーファイト揃いの中、マッスルのベスト10入りは大健闘。坂田vsエスペランサーともども、プロレスの大変革を感じさせた。



WORST BOUT

1	ホイス・グレイシー vs 桜庭和志 6.2「Dynamite!! USA」米国カリフォルニア州ロサンゼルス／ロサンゼルス・メモリアル・コロシアム	406 Point
2	桜庭和志 vs 船木誠勝 12.31「Dynamite!!」京セラドーム大阪	311 Point
3	金泰泳 vs 田村潔司 7.16「HERO'Sミドル級世界王者決定トーナメント開幕戦」横浜アリーナ	66 Point
4	ピーター・アーツ vs ボブ・サップ 6.23「K-1 WORLD GP 2007 IN AMSTERDAM」オランダ アムステルダム／アムステルダム・アリーナ	298 Point
5	ジェフ・モンソン vs 藤田和之 4.8「PRIDE.34」さいたまスーパーアリーナ	48 Point
次点	ズールvs ミノワマン 12.31「Dynamite!!」京セラドーム大阪	41 Point

桜庭絡みの"レジェンドマッチ"2試合が奇しくも1位2位独占。どちらもファンの思い入れが極めて強いカードだけに、内容というよりも実現させることの是非が問われたと言える。また桜庭に現在進行形の活躍を望む期待の裏返しでもあるのだろう。



ファンが待ち続けたイベントが“約束の地”で一夜限りの復活!!

1st

773 point

12.31『やれんのか! 大晦日! 2007』

さいたまスーパーアリーナ

三崎和雄vs秋山成勲、青木真也vsチョン・ブギョン
エメリヤーエンコ・ヒョードルvsチェ・ホンマン　ほか











奇跡的な大会開催に好試合連発!「桜の咲く頃に、また会いましょう」

年間ベストバウトに輝いた三崎vs秋山の試合が行なわれた“PRIDEワンナイト・スタンド”『やれんのか！』がベスト興行第1位に。事実上のPRIDE消滅を受け、開催自体が不可能と言われる中で、“PRIDE”の一夜限りの復活はファンを狂喜させ、4月以降、溜まりに溜まった熱が大爆発！　大会はオープニングから沸きに沸いて、大成功となった。そして、年明けのカウントダウン後、場内のビジョンには、「桜の咲く頃に、また会いましょう」との文字が。PRIDEを“散開”するとともに“夢の続き”を期待させる大会となった。





3rd
11.25
『ハッスル・マニア2007』
さいたまスーパーアリーナ
坂田亘 vs ザ・エスペランサー、ボブ・サップ vs HG　ほか

311 point

ハッスル4年間の集大成
愛の力がエスペランサーを撃破!!

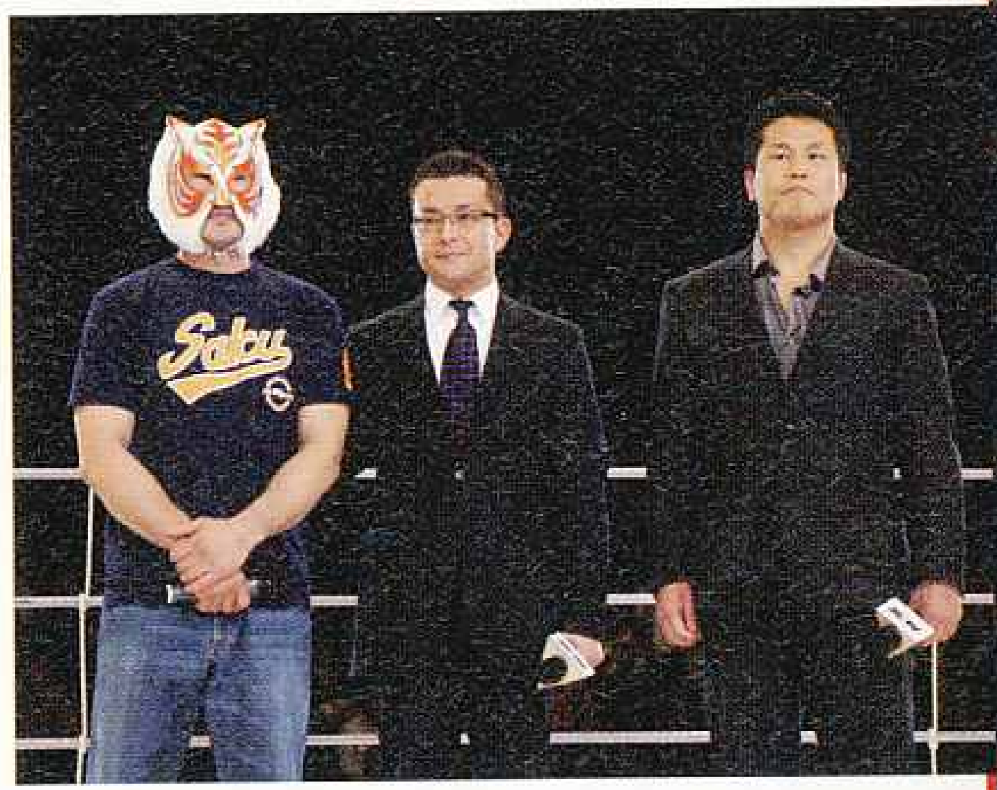


イベントの完成度では2007年ナンバーワンとの声も多い『ハッスル』4年間の集大成、11.25『ハッスル・マニア2007』が、PRIDEラスベガス大会を押さえて、3位に食い込んだ！　本物の夫婦である坂田亘と“妖精さん”こと小池栄子が、愛の力で最強の敵、エスペランサーを倒す。その“真っ赤なウソの中のホント”を見事に描ききり、観客の涙を誘ったメインイベントはハッスルが目指す世界を広く大衆にアピールすることとなった。

2rd
4.8
『PRIDE.34』
さいたまスーパーアリーナ
桜庭和志電撃登場、ソクジュ vs ヒカルド・アローナ　ほか

639 point

PRIDE最終興行はいつまでもファンの記憶に……

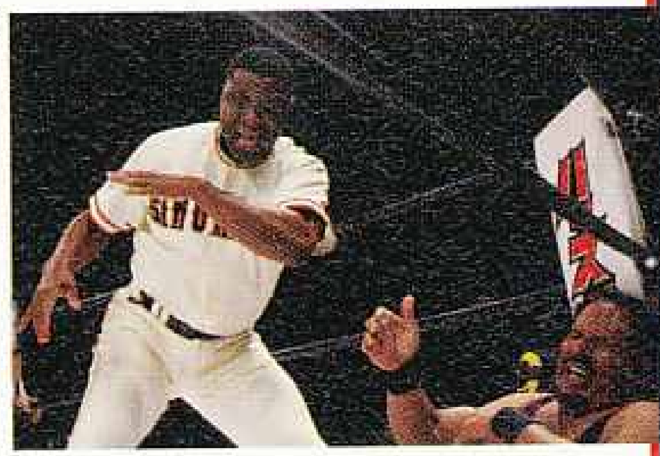


結果的にPRIDE最終興行となった、DSE最後の主催イベント。全試合が一本orKO決着の好勝負連発に加え、06年5月『HERO'S』に電撃移籍した桜庭和志がサプライズ登場！　田村潔司との夢のそろい踏みが最後の最後で実現し、ファンを涙させた。また、この大会はアメリカでもライブ中継され、新体制のPRIDEを期待させたが、その後、PRIDEは凍結。いろんな意味で、ファンの記憶に残る大会となった。

5th
6.17『ハッスル・エイド2007』
さいたまスーパーアリーナ
ウォーレン・クロマティ&崔領二 vs タイガー・ジェット・シン&アン・ジョー之助
HG vs 天龍源一郎　グレート・ムタ&RG vs インリン様&TAJIRI　ほか

50 point

プロレス村に大きな波紋!!
“ミスター・プロレス”が芸人に敗北!



“ミスター・プロレス”天龍が、ハードゲイの芸人にピンフォールで敗れる！　このプロレス村に大きな波紋を投げかけた問題の一戦がメインとなった6.17『ハッスル・エイド2007』がベスト5入り。プロレスの常識を揺さぶる一方で、ムタとインリン様のベストバウト級のタッグ対決やクロマティのプロレスデビューなど、ハッスル的名勝負が展開されるバラエティに富んだ大会となった。

4th
2.24『PRIDE.33 THE SECOND COMING』
米国ネバダ州ラスベガス／トーマス&マックセンター
ニック・ディアス vs 五味隆典、ダン・ヘンダーソン vs ヴァンダレイ・シウバ　ほか

247 point

PRIDEの価値観がそのままアメリカへ
激闘の連続で観客総立ち!!



PRIDEアメリカ進出第二弾となったラスベガス大会が、4位にランクイン！　演出の舞台セットから煽りVまで、日本でのPRIDEの世界観をそのままアメリカに持ち込んだこの大会に、アメリカのファンも熱狂。五味のまさかの敗戦、ソクジュの衝撃デビュー、シウバvsダンヘンの王者対決という激闘の連続で、イベント後半は観客が総立ち。アメリカでのおおいなる可能性を見せたが、残念ながらこれが米国ラスト興行となってしまった。



WORST EVENT

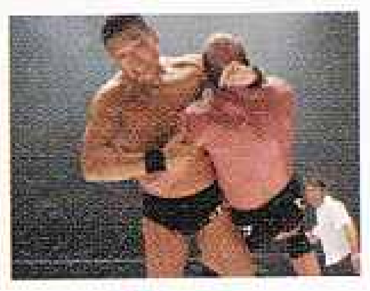
1	6.2『Dynamite!! USA』 米国カリフォルニア州ロサンゼルス／ロサンゼルス・メモリアル・コロシアム 桜庭和志 vs ホイス・グレイシー	771 Point
2	12.31『Dynamite!!』京セラドーム大阪 桜庭和志 vs 船木誠勝、ミノワマン vs ズール	121 Point
3	6.23『K-1 WORLD GP 2007 IN AMSTERDAM』オランダ アムステルダム／アムステルダム・アリーナ　ピーター・アーツvsボブ・サップ	109 Point
4	12.8『K-1 WORLD GP2007 FINAL』 神奈川・横浜アリーナ　セーム・シュルトvsピーター・アーツ	45 Point
5	8.12『新日本プロレス G1 CLIMAX決勝戦』 両国国技館　棚橋弘至 vs 永田裕志	40 Point
次点	6.29『IGF闘今BOM-BA-YE』両国国技館 小川直也 vs マーク・コールマン	38 Point

日米の『Dynamite!!』がトップ独占の快挙！　もはやこれは“有名税”といってもいい強さだが、とくに『Dynamite!! USA』は、観客動員数からホンマの出場停止まで、ズンドコぶりをいかんなく発揮し、いろんな意味でアメリカに伝説を残した。



10th
10.28『HERO'S KOREA 2007』
韓国ソウル／ジュンチャン体育館
秋山成勲 vs デニス・カーン
キム・デウォンvs マルセロ・ガルシア

11 point



9th
6.29『IGF闘今BOM-BA-YE』
両国国技館
小川直也vs マーク・コールマン
カート・アングルvs ブロック・レスナー

13 point



8th
10.3『K-1 WORLD MAX 2007 世界一決定トーナメント決勝戦』
日本武道館
魔裟斗vsブアカーオ・ポー.プラムック
HIROYAvsクォン・オルチャン

28 point



7th
5.4『マッスルハウス4』
後楽園ホール
マッスル坂井vs鈴木みのる
世界フィギュアレスリング開催

37 point



6th
5.2 新日本プロレス『BRAVE NEW WORLD』
後楽園ホール
永田裕志vs 越中詩郎
ディック東郷&TAKAみちのく vs 邪道&外道

39 point

現時点での『マッスル』最高傑作！　と誉れ高い『マッスルハウス4』が7位に入る大健闘。この『マッスル』や『ハッスル』の作り込まれた完成度が評価される一方で、“投げっぱなし興行の権化”IGFもしっかりランクイン。さらなるズンドコぶりが期待される。

識者・関係者が独断と偏見で選ぶ



イラスト／中川画伯

阿部タケシ

ライター。WWE日本公演パンフや、ストーンコールド、リック・フレアーなどの自伝の日本語版監修。現在は某団体のシリーズパンフや、ポスターのディレクションのほか、WWEモバイルでひっそりと連載。

①棚橋弘至

②棚橋弘至vs後藤洋央紀（11・11 新日本プロレス「DESTRUCTION '07」両国国技館 IWGPヘビー級選手権試合）

③4・1『レッスルマニア23』米国ミシガン州デトロイト／フォード・フィールド　11・25『ハッスル・マニア2007』横浜アリーナ

④最優秀プロレスDVD→『ミック・フォーリー グレイテスト・ヒッツ』

【総括】①毎年同様、ボク自身がライブで観た中での選定。棚橋弘至は低迷を続けた新日本において、いままでにない王者像を創り上げ、一つの光を生み出した。今後を考えたら新日本にとって素晴らしい未来があるのではないか？　そんな予感さえした試合でした。やっぱり新日本が元気じゃなきゃダメですな！②棚橋vs後藤はそんな新日本の未来予想図。あのような攻防は毎日観たい！　毎日は無理だな。毎月観たい！③『ハッスル・マニア』は進行もサクサクしてましたし、観ていて飽きなかったです。相変わらずエスペランサーの入場は絵になってました。ああいう溜める入場、大好きです。興行における絵作りってとっても大切ですよね。名シーンは必ず作ってほしいものです。そういった意味では『レッスルマニア23』は、すべてが目にいまでも焼き付いてます。華やかなステージと演出。それに携わる何千ものスタッフの総力。すべてが完璧でした。④『ミック・フォーリー～』は、ミックの足跡というかその功績が圧巻。いわゆる凶器を使用してのレスリングがクローズアップされるミックのレスリングスタイルだが、終始凶器を使うことなく、いざというときに凶器を取り出し、相手を仕留める（もしくは自爆）までのやりとりがじつに重みというか、それを通り越し見応えのある〝深み〟があるというか。古くはアブドーラ・ザ・ブッチャーやタイガー・ジェット・シン、ザ・シークが用いていたが、この方々はベビーフェイスの這い上がり方で一つのドラマ、名シーンを生んだ。ミックの試合はまさに凶器使いのトラディショナルスタイル。〝凶器の使い方〟をベーシックなかたちで使用し、彼なりの闘いを誰にもできない形で表現した。あらためてミックに感服した次第。笑い、涙、感動を同居させるなら、試合をしっかり！　素晴らしい作品をぜひ！　それを経て初めてすべてが美しく見えるもの。クリス・ベノワ、エディ・ゲレロがそうだったようにね。08年のプロレスにはここに期待したいですね。

①あなたが考える2007年のMVP ②あなたが考える2007年のベストバウト ③なたが考える2007年のベストイベント ④そのほか、個人が一方的に贈る賞



kamipro AWARD 2007

石井史彦

米国カリフォルニア州サンノゼ在住の本誌アメリカ駐在員。AKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）で、デイビッド・カマリロに師事し、柔術を練習している。取材の強みは海外選手とのネットワークにあると自負してやまないオヤジ。

①ダナ・ホワイト
②マット・ヒューズvsジョルジュ・サンピエール（12・29『UFC79』米国ネバダ州ラスベガス／マンダレイベイ・イベントセンター　UFC世界ウェルター級暫定王座決定戦）
③9・29ストライクフォース『PLAYBOYマンション』（米国カリフォルニア州ビバリーヒルズ／PLAYBOYマンション）
④無名最強説賞→ジョン・フィッチ

【総括】①MMAをスポーツという観点でその地位を確実に築き業界全体に貢献していること。ファンへの対応はもちろんのこと、選手に対する配慮も他団体と比べても飛びぬけている。歯に衣を着せぬ言動から敵も多いが間違いなく〝有言実行〟者！　PRIDEの買収は感情的な面から批判もあるようだが、ビジネスの観点からは〝選手＆イベント〟を救済したともいえる。とにかくこれほど絵になるCEOはほかの業界でもいない！②どのスポーツにおいても過去にこれほどまで格差がついたチャンピオンシップ戦はあっただろうか？　ゲームプランのおもしろさ、まさかGSPがマット・ヒューズの得意なレスリングで戦略を組み立てるとは……。GSPは前回の全米学生レスリングチャンプであるジョッシュ・コスチェック戦でもその超越したレスリング（テイクダウン）技術を見せていた。試合後のインタビューでGSPは「オリンピッククラスのレスリング選手とスパーをしていてトライアルにも参戦するつもりだった」とコメントを残したが、これは山本KID選手がオリンピック選手に対して尊敬の念をもっているのに通じるのでは、と感じさせてしまう一言だった。この一戦は間違いなく世界レベルというハードルの高さ、技術の奥の深さを痛感させ、また今後の総合格闘技の発展を匂わせた真に歴史に残しておくべき試合の一つである。③ビバリーヒルズの豪邸の中庭に金網＆観客席を設置、庭のいたるところにバーカウンターや食べ物の屋台もあり飲み食い放題。観客のほとんどがVIPであり、一般には500枚しか販売されなかったチケットはプレミアムがついた。ケージサイドには美女に囲まれたヒュー・ヘフナー自身の姿がプレミアムバウトから確認できた。本人は根っからのボクシングファンらしい。そのほか『PLAYBOY』誌を賑わせてるプレイメイト、ビバリーヒルズ在住のセレブ、アクター＆アクトレスなどの著名人のほか、プロモーター＆所属団体の垣根を越えたファイターや業界人が観戦していた。この上なくゴージャスなイベントだった。④UFCの神の階級であるウェルター級にて最強説があるのにも関わらず常に〝無名のベストファイター〟と言われていた。その強さから噂ではほとんどの選手が対戦を嫌がっている。3月に予定されている『UFC82』で勝利を収めれば、夏頃にはタイトル戦が見られる予定。08年は無名のファイターが最強説を証明しチャンピオンになる年になるのでは？　とにかく目が離せないファイター。

イナズマ★K

本名は土屋恵介。音楽ライター、プロレス格闘技デスマッチ探究家。かつて渋谷にあったレコード店『zest』を経て、フリーのライター稼業へ。普段は、クラブミュージックどっぷりですが、昨年は取材で、マリリン・マンソンから沢尻エリカまで、幅広くバンプとりました。

①関本大介
②佐々木貴vs宮本裕向（3・14大日本プロレス『廣島大治組プレゼンツ　高所作業につき立体足場建築現場デスマッチ』後楽園ホール）
③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ
④イナズマ賞→佐藤大輔

【総括】①あらゆる団体に上がっては、ぶっこ抜きジャーマンをキメまくる。肉体が凶器の関本選手。誰と当たっても名勝負にしてしまうスキルは、単なる直線ファイターとは一線を画すところ。ようやくスポットが当たったのはめでたい限り。彼は日本マット界の宝です！②ほぼ無名に等しかった若手レスラー・宮本裕向が、当時チャンピオンだった佐々木貴に挑んだ建築現場デスマッチ。文句なしに、デスマッチの歴史に残る一戦です。地元の鳶の仲間が組んでくれたやぐらの上からの攻防は壮絶すぎでした。強烈なインパクトを残して、一気に宮本選手がブレイクしたわけですが、こういう感じを味わえるのって、じつはデスマッチか格闘技だけだったりもするんですよね。③多くの人が挙げてると思いますが、やっぱおもしろかったもん。石田vsメレンデスなんか、極上のプロレス（へんな意味じゃないよ）だったし、ブスタマンチ先生の完璧なまでのグラウンドコントロール、片目で闘うチョン・ブギョンとか、見所も満載。試合がなかったことで、逆に選手のコンディションも気合いも全開。やっぱり、寝かしの時間っていうのは、何事にも大切ですね。④で、ex・PRIDEとイコール状態の煽りV。ひさびさに観たら、クオリティもさらにアップしてるし、ホント完璧。あの短時間で、両者の感情の表裏まで描ききってしまう、映像作家の佐藤さんの仕事の凄さに、あらためてヤラれました！　きっとそこらへんのオッサンでも、あの人の手にかかればスターになれること間違いなしでしょ。



乾　晋也

06年、PRIDEがアメリカに進出し、07年はさぞや頻繁にアメリカ行くことだろうと取得した1ビザながら、いまだアメリカに行けずじまい。されど、07年12月31日の大連立で夢を再び！　08年の格闘技界で大復活を夢見るスポーツカメラマン。

①秋山成勲
②ソクジュvsアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（2・24『PRIDE．33 THE SECOND COMING』米国ネバダ州ラスベガス／トーマス＆マックセンター）
③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ＆12・31『Dynamite!!』京セラドーム大阪の大連立興行！
④よくスポンサーになりましたで賞→大連立興行のスポンサー、FieLDSに！

【総括】①07年はヌルヌルの話題で始まり、最後は大連立興行で終わる格闘技業界は、まさしく大波乱の一年でした。そしてその主役こそ秋山成勲。ヌルヌルで桜庭に勝ち、旧PRIDEの雄・三崎に敗れて終わるという結末は07年の当然MVPでしょう。②いまとなっては懐かしきあの人になってしまいましたが、ノゲイラを強烈な左フック一発で秒殺したあの瞬間はいまでも鮮明に！③やはりこれにつきるでしょう、今後の展開に期待したい!!④FieLDSなくして大連立なし、なんてね！

井上崇宏

有限会社ペールワンズ代表。猪木→Uインター→PRIDE→三崎和雄のヒップラインを追い続ける。

①谷川貞治FEG代表
②ユン・ドンシクvsメルヴィン・マヌーフ（6・2『Dynamite!! USA』米国カリフォルニア州ロサンゼルス／ロサンゼルス・メモリアル・コロシアム）
③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ
④ご結婚おめでとう賞→ゆでたまご（嶋田隆司）先生

【総括】①格闘技界大連立のファンタジスタ！　この人の偉業が一部のファンに曲解されていることは残念!!②猪木vsベイダー戦の大逆転劇さながら！　柔道サイコー!!③リングドクターの中山先生にあれだけの熱烈声援を送る観客最高！　いでよ、次世代の変態野郎!!④甲本ヒロト＆春一番両夫妻との連名で行なったパーティは07年最高の祝宴！　うちの夫婦は間違い探しか!!

上井二三彦

元・新日本プロレスの営業職、執行役員として数々のビッグマッチに携わり、らつ腕を奮う。04年10月に新日本を退社し、『ビッグマウス』を立ち上げ。06年に「UWAI-STATION」を旗揚げし、07年は〝上井駅長〟として活躍。今年は……？

①鈴木みのる
②鈴木みのるvs武藤敬司（7・1全日本プロレス『CROSS OVER '07』横浜文化体育館）
③12・2ノア『Winter Navigation '07』日本武道館
④上井二三彦賞→三崎和雄vs秋山成勲（12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ）

【総括】①やっぱり鈴木みのるはもう二年連続MVPでいいんじゃないかと思うよ。どの団体にもコンスタントに上がってね、いろんな選手と闘ったじゃない。へんな言い方かもしれないけど、いまプロレスを通して世間にいろいろ訴えかけたいと思ってる人は鈴木みのるぐらいじゃないの？②ベストバウトはやっぱりこの試合。ここ一番の勝負というのはやっぱり見せてたよ。鈴木みのるも「俺は下地が違う」というのを見せてたし、武藤もそうだよね。あの前半の攻防なんて、〝静〟から〝動〟にどう変わるのか、それを存分に見せられた試合だったよ。あれは高山（善廣）も納得しただろうし。③ブッチ切りで小橋復帰戦の大会ですよお！　やっぱりね、い

い興行はなんで判断するかというと、お客が入っているかどうか。興行というのはある意味"ギャンブル"だからね。それがなってないのは興行じゃない。あの大会は武道館を超満員札止めでしょ。プロレスでデカい会場を札止めにしたというのはほかに例がないですよね。新日本が後楽園で一回札止めを出したけど、レベルが違いますよ!! ④僕はね、①～③までは正直12月中旬ぐらいに決めてたんだけど、大晦日で観た三崎vs秋山はよかったね! いや～、あれはよかった!! セコンドも三崎選手と一体になってたしお客さんも燃えてたでしょう。ああいうのが昔のプロレスにはあったんだよ! 全盛だったころのプロレスに!! 本来、プロレスが持っていたものをいまは総合格闘技がやってますよ。テレビには映らなかったけど、試合のあと三崎が秋山に説教してたんでしょ? それは次がよけいに燃えるんじゃないの!? いやー、やっぱり今回あらためて"ヒール"が必要だって思ったよ! 三崎選手なんて強いけど目立たなかったでしょ? でも、秋山のおかげで一気に派手な選手になったじゃない。この世界には世間を敵に回すようなヒールがいなきゃ。そういう意味でも、三崎vs秋山は上井二三彦賞ですよ!

掟ポルシェ

ロマンポルシェ。10周年記念ベスト盤CD『もう少しまじめにやっておくべきだった（仮）』がたぶん3月下旬に発売。出るときは出る。出ないときは出ない。

①ネクロ・ブッチャー
②ネクロ・ブッチャー&マッドマン・ポンドvs MASADA&SJK（4・30大日本プロレス 後楽園ホール）
③8・31アイスリボン 市谷アイスボックス
④いま戻ってくると俺的に盛り上がる女子プロレスラー賞→関綾子、中原奈々、高橋麻由美ほか

【総括】どうでもいいが07年はネクロのものだ! ジェスロ・タルからフルートを取ってホッコリさせたようなダラしない顔とハゲちらかし具合、パンプアップという言葉とは完全に無縁な潔い洋梨体形の不摂生ボディ（しかもガイジンっぽく胴が長くて巨体）、それでいていつ死んでもおかしくない技全受けタイプのデスマッチレスラー! ちゃんとしてないものに目がない俺が嫌いなわけがない!! 4月のひさびさの来日も10年前の中牧昭二の試合のときのように、童心に帰って場外乱闘になるたびリングの周囲をネクロにくっついてグルグル回ってきました! 子どもでいたい、ずっとデスマッチキッズ（団体にとっては迷惑な客）! ベターンという音の水平チョップとか、目測を誤ってつい急所に入れがちな本気のナックルパートとか、一個一個の技がとにかく雑で最高! 試合序盤ちょっとしたアクシデントがあり、ネクロの頭でぶち抜かれたパイプイスのケツ部分が飛んで、場外にいたサムライTVのカメラマンの頭を勢いよく直撃! レスラーよりも先にカメラマンがグレートカブキ並みにピューッと大流血! 一般人の予想外の流血に盛り上がる俺を含めた前方の客（不謹慎）! その後、多少試合中継を離脱したものの、カメラマンは関本選手のやさしい介抱の甲斐あって額にタオルを巻いて即復帰! カメラマン魂見せてもらいました! あんた、サムライだ（単に所属企業名が）! MASADAが取り出したバーベキューの鉄串で額を滅多突きにされて剥きトマトみたいに流血したかと思うと、とにかくボカボカにタコ殴りされたり、ラダーの角に向こうずねの地味に痛いところをわざわざ自分で打ちつけたりで、相手を痛めつけるのを忘れて一方的にクチャクチャにされるネクロに往年の川谷拓三がダブって見えました! ネクロ最高! もう抱いて! 今年もなんとしてもネクロ・ブッチャーを日本に呼んでください!! どこの団体でもいいです! FSRとか。

小佐野景浩

大学時代に『月刊ゴング』編集部に潜入。『週刊ゴング』では全日本担当記者になり、気付いてみたら新日本ファンだったのが馬場的志向に。『週刊ゴング』編集長を経て現在はフリーとして活躍する熱血プロレス・ティーチャー。

①小橋建太
②鈴木みのるvs武藤敬司（7・1全日本プロレス『CROSS OVER '07』横浜文化体育館 三冠ヘビー級選手権）
③11・25『ハッスル・マニア2007』横浜アリーナ
④プロレス技能賞→鈴木みのる

【総括】①年間にやった試合は12月2日の一試合。それでも自分の人生をプロレスによって表現し、力道山時代からのプロレスの本来の使命である"人々に勇気と希望を与える"ということを体現した。何年かあとに07年のプロレス界を振り返ったときに、誰しもの頭に浮かぶのが小橋だと思う。その年の顔という意味で小橋をプッシュ! ②大技連発、セオリー無視のファイトが多い中で、この試合はグラウンド主体の両者の技術と駆け引きの勝負。27分近い長丁場だったが、それでも飽きさせることのない緊迫感のある試合だった。フィニッシュが鈴木のヒールホールドというのもいまの時代には新鮮。ひさびさに「プロレスを観た」という気にさせてくれた。③これはスポーツエンターテインメントショーとして現時点で完成されていた大会。何も言うことはないでしょう。④武藤や健介との三冠戦からラム会長まで、どんな相手と試合をしても"俺流"を貫いて、年間を通してプロレスを楽しみ、そして楽しませてくれた鈴木みのるに本当の意味での技能賞を!

金沢克彦

帯広市民歴18年、東京都民歴19年。埼玉県民歴10年目に突入。青山学院大学卒業後、フリーターを経て『週刊ファイト』から『週刊ゴング』へ移籍し6年弱、編集長を務める。05年末に『ゴング』を離れ、本気の中年フリーターとなっちゃう!

①田中将斗
②鈴木みのるvs武藤敬司（7・1全日本プロレス『CROSS OVER '07』横浜文化体育館 三冠ヘビー級選手権）
③12・2ノア『Winter Navigation '07』日本武道館
④「やれんのか!」「やっちゃったよ!」大賞→三崎和雄

【総括】①やっぱり、よくよく考えてみたら田中将斗しかおらへんやないか! 夏の『火祭り』、秋の『天下一ジュニア』を制し、さらにAWA世界ヘビー級王座（現・世界ヘビー級王座）奪取と、ZERO1・MAXのグランドスラムを達成。何より試合内容がバツグンで、後楽園ホールの月イチ定期戦では毎回のようにベストバウトを更新してきた。名より実だろう。試合内容がよくなければMVPの資格はない。いまのプロレス界はキャパ的にいうと後楽園ホールプロレス。その意味でも田中は文句なく07年の最優秀選手だろう。②この緊張感、駆け引き、シュートなグラウンドの攻防、期待を裏切る想定外のフィニッシュ（ヒールホールド）とすべてに文句なし。溜めに溜めた19年目の初一騎打ち。「これが本来のプロレスだ!」と思わせる素晴らしい攻防だった。それにしても三冠ヘビー級選手権なのに、なぜか新日本のカラーを強く感じてしまった。武藤夫人の久恵さんも、「全日本なのに新日本の試合みたいでしたね。やっぱりルーツは一緒なんですねえ。武藤が負けてしまったけど本当にいい試合でした」と感心しきり。まあ、「新日本っぽい」と言っても、いまは何をもって新日本っぽいのかサッパリわからなくなった時代である。③小橋、こばし、コバシ、KOBASHI……小橋建太が帰ってきた。もう、それだけで何もいらない。黙っていても、前売り券はソールドアウト。まさに究極のベビーフェイス。みんな、小橋が大好き。テレビもラジオも新聞も雑誌も、みんなコ・バ・シ! プロレス界最後の砦である。④三崎が大晦日にやってのけた。大魔王、最強ヒールの秋山成勲をKOしてしまった。三崎は男を上げたし、秋山はこれでスッキリとして、再びよみがえった大魔王として復活・降臨してくるだろう。07年、終わりよければすべてよし。めでたし、めでたし!



小松伸太郎

元『SRS・DX』編集部。現・ベールワンズ所属。本誌ではマット界の"謎"に深くメスを入れる「プロレス探検隊」のメンバーとして、GK隊長とともに絶賛活躍中。キメ言葉は「ラジャーです!」。

①武藤敬司
②ムトー・ランブル（6・10全日本プロレス『武藤祭』後楽園ホール）
③10・18全日本プロレス『プロレスLOVE in 代々木』国立代々木競技場第二体育館
④月間MVP賞（7月）→松井秀喜

【総括】①『チャンピオン・カーニバル』優勝、『世界最強タッグ決定リーグ戦』優勝、そして化身のグレート・ムタは国内外で引っぱりだこ。とにかく働きまくったことに敬意を表わします。武藤敬司は偉大です。②6月10日のいわゆる"ムトー（610）"の日に開催された『武藤祭』のメインイベント。理由は武藤敬司がたくさん出てきて楽しかったから! お腹いっぱい! ③タッグ対決をしていた鈴木みのるとアブドーラ・ザ・ブッチャーが試合後に電撃合体したこともビックリしましたが、何よりも西村修の乱入には驚かされました。これはもちろん、武藤敬司のアイデア! これだから武藤敬司はおもしれぇや! ④昨年、武藤敬司率いる全日本プロレスに入団した西村修。その親友とされているニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜（『東スポ』紙上のみで）の7月の爆発は素晴らしかったです。今年はレギュラーから外される可能性も高いですけど、なんとかヒザの状態をよくして、年間を通じて昨年の7月のような活躍をし、今年で最後となるヤンキースタジアムに華を添えてほしいものです。

①あなたが考える2006年のMVP ②あなたが考える2006年のベストバウト ③あなたが考える2006年のベストイベント ④そのほか、個人が一方的に贈る賞

kamipro AWARD 2007

菊池茂夫

07年の年明けは、酔っぱらったヒョードルに極寒の中、6時間待たされ、今年の年明けはヒョードルと富士急ハイランドに同行。正月はヒョードルに振り回されるのが恒例になりつつある本誌カメラマン。ちなみに全身を覆う、そのタトゥーはヒョードル弟もビックリ！　メタルとアニメとコミックを語らせたら、ジョシュ・バーネットと互角以上に渡り合うマニアぶりを発揮（実際はPUNKSだけど）。

①武蔵
②三崎和雄vs秋山成勲（12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『大みそかハッスル祭り』さいたまスーパーアリーナ
④NO FUTURE賞→武蔵

【総括】今年もいろいろあったが、大晦日の三崎にすべて持っていかれた気がする。俺個人としては、秋山は3年くらいは負けないと思っていた。顔面を蹴って決着がついた瞬間の感動は高田vs北尾戦以来だった。今年一年を通して楽しませてもらったのは武蔵。もともと武蔵の顔も試合も大嫌いだった。今年は若い世代に追い込まれ、格闘家人生を賭けた試合で金玉を蹴られて悶絶する姿はおもしろすぎるやら、悲しいやら、武蔵らしいやらで最高だった。思わず「武蔵頑張れ！」と笑いながら応援してしまった。大晦日も初心者相手に、相手が攻め疲れてから倒すというあたりまえすぎる戦法でおもしろくもなんともない勝ち方でがっかりさせてくれた。だが、この〝KY〟な姿こそが武蔵なのだと気づいた。08年も場の空気を読めない上に、やる気を見せたときには不運がやってくる、そんな武蔵を俺は観たい！

菊地成孔

音楽家／文筆家／大学講師。格闘技関係の著作に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』（白夜書房）なんとなく『kamipro』準レギュラー論客。

①朝青龍
②三崎和雄vs秋山成勲（12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ）
③8・5『K-1 WORLD GP 2007 IN HONGKONG』香港／アジアワールドエキスポアリーナ
④一方的に贈る賞→カール・ゴッチ

【総括】①一応念のために書いておきますが、昨年もワタシは朝青龍でした。どんどん北の湖に似てきている。②凄まじい殺気と、もうどうしようもないほどの文化的な齟齬が08年の行方を決める（さらに混迷させる）、沈痛でマイルストーン的な試合。最も遠い国である対ブラジルのファンタジーで勃興した日本の総合が、最も近い国である対韓国のリアルで転換、あるいは原初回帰を見せるかもしれないという構図も見事。③K-1の海外大会はすべて長編の前衛作品で、大会名の異様な煩雑さも含め、谷川不条理文学として完璧だと思います。大連立ということなので、『マッスル』も取り込んで世界中でやるべきではないでしょうか。11時間のドバイ大会とかあったら完全にトランスしてしまうでしょう。④20世紀の終了。



佐藤譲

1976年10月23日生まれの放送作家／ライター。音楽、プロレス、芸能、食と幅広いぶん、野で執筆を手掛けるほか、テレビの放送作家も務める。好きなレスラーはダニー・クロファット。昨年は『ゴッドタン』（テレビ東京系）、『くりぃむナントカ』（テレビ朝日系）にプロレス魂をくすぐられました。

①髙田総統
②森嶋猛vs丸藤正道（12・2ノア『Winter Navigation '07』日本武道館）
③11・25『ハッスル・マニア2007』横浜アリーナ
④プロレス賞→有田哲平

【総括】①髙田総統（a.k.a.髙田延彦）はメディアへの露出、『ハッスル』における活躍も含めてプロレス界で最も目立った存在だったから。とくに『チューボーですよ！』（TBS系）でのハジケっぷり。『ハッスル祭り』の告知などでテレ東系のスポーツ番組に出演したときのまったく番組にフィットしていない感じは恐ろしくスリリングであり、髙田の器がとんでもないデカさになっていたことを感じさせた瞬間だった。②ベストバウトは純粋に身体を張った試合内容の評価。森嶋の後半のたたみ掛けも凄かったが、丸藤の豪快なバンプがその壮絶な内容をさらに引き立てた。森嶋はいま一番強烈なキッチンシンクを使えるレスラーなので好きだ。ベストイベントは1月の『マッスル』とどちらにするか悩んだが、スケールの大きかった『ハッスル』に軍配。これが大晦日のイベントだったらと悔やまれてならないのだが……。④プロレス賞はジャンルを問わずプロレスを体現していた方に贈る賞というワク。つまらないつまらないと言われる最近のテレビだけど、じつは一編集長の言うところの〝底なし沼〟化をしていると個人的には考えており、虚実入り混じった内容、仕込みやリアクションなどすでに視聴者に知られてしまったお約束などを観る側の驚きや笑いに変えるための誘い水に利用する攻撃的な番組が多く目立った。たとえば24時間テレビの熱湯風呂は一つの象徴的な例だと思う。有田哲平氏は『くりぃむナントカ』（テレビ朝日系）や『むちゃぶり！』（TBS系）などの番組で最も視聴者にプロレス的な勝負を挑んでいた人物だと思う。次点は『どハッスル!!』（テレビ東京系）に出演した徳光正行氏。テレビを観てこの人大丈夫か？　と本気で心配したのはひさしぶり。安倍首相の退陣会見も素晴らしかった。あと沢尻エリカ嬢が巨大な怪物に化けようとしていたにも関わらず、最もいい時期にブラウン管から遠ざけてしまい、サポートすることのできなかったテレビは大変な損失をしたと思う。昨年は簡単に着火するようになった客のヒートを巧みにコントロールできたものが勝者となった一年だった。この傾向はしばらく続くのではないか。

椎名基樹

ライター。本誌にコラム『サムライ三昧』を連載中。今年もよろしくお願いします。

①フロイド・メイウェザー・ジュニア
②高谷裕之vsアントニオ・カルバーリョ（11・8修斗『BACK TO OUR ROOTS 6』代々木競技場第二体育館）
③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ
④毎日ご苦労さん賞→三田佐代子

【総括】①MVPは見あたらず、苦肉の案で。②一番、印象に残ったのは、ネットでなんとか観たミルコの敗戦の連続。が、ベストバウトはこれがぱっと浮かんだので。③『やれんのか！』がやっぱ一番燃えた。④毎日、観てると好きになるから不思議。

スコット・ピーターソン

本誌では『USA COOL宅急便』でおなじみ、アメリカの格闘技サイト『MMA WEEKLY』を主催する日本格闘技通。PRIDEの活動停止に伴ない、八王子のアパートから退去。現在は米国ユタ州在住。

①ランディ・クートゥアー
②五味隆典vsニック・ディアス（2・24『PRIDE・33 THE SECOND COMING』米国ネバダ州ラスベガス／トーマス&マックセンター）
③2・24『PRIDE・33 THE SECOND COMING』米国ネバダ州ラスベガス／トーマス&マックセンター
④ガッカリしたで賞→ミルコ・クロコップ

【総括】①引退していたランディがまさかの現役復帰。しかもその相手は〝UFC〟のビッグ・ガイ〟ティム・シルビア。ヘビー級の中では体格が小さく、『UFC36』でジョシュ・バーネットに負けたあと、ライトヘビー級に転向したランディにとって大きな相手との対戦は、単なる復帰という以上のチャレンジ。それを乗り越えベルトを獲ると、次戦では再び自分より大きなガブリエル・ゴンザガを撃破。その後はヒョードル戦を希望してUFCを離脱。今年はPRIDE買収問題で、キャリアを狂わされたトップファイターたちがたくさんいたが、ランディは自分で道を切り開くことができることを示してくれている。②人間にはあるとき、ある場所に立ち会えたことを幸せに感じる瞬間がある。それがこの五味とニック・ディアスの試合。五味がディアスに仕掛けた攻撃は凄まじかったが、それを凌いでフットチョークで仕留めたディアスのフィニッシュは衝撃的だった。こういった魂のぶつかり合う試合こそ、ファンがイベントで求めているものだ。③この大会はPRIDEのスピリットというものを、アメリカに示した大会だった。ベストファイトに挙げた五味戦以外にも、フランク・トリッグが『ウェルター級GP』覇者の三崎和雄を相手にアップセットを起こしたり、ソクジュが驚きのPRIDEデビューをはたしたりと見どころが満載。メインのヴァンダレイ・シウバvsダン・ヘンダーソンも観客を大興奮させた。④ミルコが移籍したとき、多くのファンはミルコがアメリカの脆弱なヘビー級戦線を通りすぎるようにベルトを獲ることを予想していた。しかし、結果は二戦目でガブリエル・コンザガにKO負け。その後もチー



せき詩郎

ライター。コラムニスト。本誌にコラム『サムライシロー三昧』を連載中。著書に『去年ルノアールで』（マガジンハウス）。

①森嶋猛

②三沢光晴vs田上明（7・15ノア『Summer Navigation '07』日本武道館 GHCヘビー級選手権試合）

③3・6新日本プロレス『旗揚げ記念日』後楽園ホール

④せき詩郎賞→天山広吉

【総括】森嶋がROH王座を20回も防衛！ 20というのは凄いことだ。たとえば高田純次が清川虹子の指輪を20回口に入れたと考えてもらいたい。あるいは清川虹子の指輪を口に20個いっぺんに、と考えてもらってもいいだろう。20という数字の凄まじさ、そして重さがわかるのではないだろうか。

仙波久幸

某写真週刊誌『フライデー』編集次長、『S波登山部。』（命名・富士登山仲間の山笠Z信介）部長。無類の記念写真マニアで、昨年は（アイドルでは）謹慎修業中の加護亜依、小倉優子、沢尻エリカ、中川翔子、倉木麻衣らと2ショットに収まり、ゆうこりんには、「パンチラ写真の掲載を永久封印する！」との約束をさせられたとか（笑）。代官山のごはん処『わたる』の常連で昨年の登場回数はじつに80回を超え、作家・新堂冬樹、山口日昇社長らを抜いて「MVPに輝いた」と、もっぱらの噂だ。

①坂田亘with栄子（妖精さん）

②アントニオ猪木vs小川直也（12・20『GF』『GENOME2』有明コロシアム大会のメイン番外戦）

③4・8『PRIDE・34』さいたまスーパーアリーナ

④『ナマ電話』嬉しかったで賞→アントニオ猪木

【総括】①公私ともに「天下を獲る！」と公言し、"有言実行"しなくちゃならないように追い込んで自らをアップさせていく姿勢には、日頃から"男の美学"を感じてます（ほめすぎかも!?）。昨年8月、栄子女史との結婚発表した週の『Yahoo!』検索ランキングでは「坂田亘」がナゼか堂々3位に名を連ね、エスペランサーを倒した際には、文字どおりに身体を張って夫唱婦随タッグぶりを見せつけた。"小池のダンナ"＝坂田亘"と認知されて対世間に打って出たあとにも、「いまこそ謙虚にならなくちゃ……」（栄子女史）という殊勝な心がけを忘れない一方で、愛用の時計は夫婦揃って『オーデマ ピゲ』の最高級モノで（ダンナは2個所有）、さらに某超高級外車を注文済みというステータスぶり……。これにはかつての猪木with美津子も完全に顔負けだ。（12・31のリングサイドでダンナを見守る栄子女史には、37年前にロサンゼルス・オリンピック・オーデトリアムで猪木vsジョン・トロスのUNヘビー級戦を見守る当時婚約中の倍賞美津子の姿を思い出させるものがあった・笑）。②一寸先はハプニング&ズンドコ感丸出しのイベントだったが、メインの小川vs安田戦の最中にアントンがリングに上がってオーちゃんに放ったパンチは、かつて大阪で中邑真輔にやったほどは目立たなかったが"ガチンコ鉄拳"に違いなく、思わず「ムフフ……」と心の内で興奮！ そして、その直後にスリーパーをかけられたオーちゃんの、"あまりに一瞬"の落ち方にはア然ボー然。本チャンの試合より見応えある"振り幅"の広い番外戦であった。アントンはひさびさにリングに上がれて最後はおいしすぎ！（真の意味で感銘を受けたのは、勇気と感動をもらった12・2小橋復帰戦であるのは言うまでもないけど）。③PRIDE史上最後の大会の一番最後に選手入場ゲートから（スルスル～と目立たないように）出てきた歴史に残る（？）登場者が、メインの藤田和之が花道を歩き出して遅れること5秒、なんと紺のスーツ&白ワイシャツ姿の名物マネージャー・沢野慎太郎氏であったことが記憶に焼きついて離れない。08年は『戦極』（あたりで？）吉田秀彦vs藤田和之の日本人頂上決戦が実現することに期待したい。④11月末の夜、すべてガチンコ芸能プロK会長の直属部下からの電話に出ると、「元気ですかー!! ……アレ出ねえ？……」の声。その瞬間、93年のスポーツ平和党の会見で対面（対決）して以来に聞く「本人のナマ声だ」と理解しつつ、焦って切ってしまう。人間、いざ構えると何も言えなくなるものだ、と自問自答の日々……。次に機会があれば、14年前の会見でも発言したように「猪木さん、おひさしぶりです」なんて切り返しができたらいいけれど……。あの"S波のヤロー"と知った上で、電話に出てもらってことねえよ、とする（!?）アントンの度量の大きさ&人間のスケール&奥深さに感服するのダーッ！

高崎計三

有限会社ソリタリオ代表。格闘技ネタの二つのブログ（「ソリタリオ」で検索）は常に荒れ気味で「それでもプロか」「ジャーナリストと思えない」などと言われるが、オレは断じてジャーナリストと名乗った覚えはない。

①（逆説的に）ロレンゾ・フェティータ&ダナ・ホワイト

②前田尚紀vs梶原龍児（8・25全日本キックボクシング連盟 後楽園ホール Kick Return トーナメント Bブロック一回戦）

③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ

④08年はまた頼むよ賞→カルビン・エアー

【総括】①「秋山成勲」と書きそうになるのをグッと我慢。んで「該当ナシ」にしようかと思ったが、それではあんまりなので……最終的に、日本格闘技界に08年につながる大きな反動を演出してくれたこの2点で。まあでも本音は「使わねえなら返せよ」。②「kamipro」的に引き分けでなくても、07年はこれで決まり。観ながらあんなにドキドキしてしまった試合はいままでになく「記者として観てたのにまずいなあ」と思っていたら、ほかの記者もみんなそうだったことがわかって安心したという。以下、三崎vs秋山、秋山vsカーン、川村。③パブリックビューイングのビジョン越しでも熱気がガンガン伝わってきた希有な大会として。08年はこんな熱い大会が、もっと高い頻度でガツンガツンと行われることを期待します。④07年上半期はいろいろと話題を提供してくれたホットドッグだったのに、後半は（予想どおり？）激しくトーンダウン。もっといろんなところで取材に行きたかったなあ……（遠い目）。08年はまたオレを取材に呼んでください。ムリか。

中川画伯

フリーのイラストレーター。愛犬や姪っ子にデレデレしてたら、アッ！ ちゅー間に一年経っちゃいました。今年でデビュー10周年。30歳。

①辻結花

②辻結花vsアンナ・ミッシェル・タバレス（9・6『SMACK GIRL』後楽園ホール）

③1・3『マッスルハウス3』後楽園ホール

④ニュージェネレー賞→後藤洋央紀
なぜか埼玉で賞→マッスル坂井

【総括】①辻選手は観るたびにドンドンドン強くなってて、毎回ビックリさせられました。努力に勝る天才なし！②辻vsアンナ戦はホントに最高。脳にガツン！と刺激をいただいてウキウキしました。たぶん一生忘れないと思います。③いろいろな試合を観たのですが、全部楽しかったのはお正月の『マッスルハウス3』。楽しいのが好きなんだわ。④後藤洋央紀は格好よかった。モサ～とした印象だった新日トップ戦線にさわやかな風を吹かせたよ。風が吹いたって！『マッスル牧場classic』って番組をテレ（ビ埼）玉で放送してくれてありがとう。ありがとう、いい薬です。

橋本宗洋

フリーライター。『kamipro Hand』で毎週水曜日にコラム『格闘裏グルメ』連載中。最近は携帯サイト『映画秘宝クラブ』で映画レビューも執筆。試写室で●●●●にガン見されたのが去年最大の思い出。

①内藤大助

②秋山成勲vsデニス・カーン（10・28『HERO'S KOREA 2007』韓国ソウル／ジャンチュン体育館）

③3・9全日本キックボクシング連盟『Departure～野良犬FINAL～』後楽園ホール

④カムバック賞→金泰泳

【総括】①会見でも試合でも自分のスタイルを貫いて亀田一家を"丸裸"にした防衛戦以上に、3度目の挑戦でポンサクレックというスーパーチャンプを下した快挙に。一躍スターになってテレビに出まくる姿も、内藤だとなんか許せる。②格闘技史上に残る打撃戦、前田尚紀vs梶原龍児（8・25全日本キック）を僅差で抑えて。周囲の感情などまるで意に介していないかのような言動、圧倒的なポテンシャル……。秋山という人間は常識の範疇に収まらず、それゆえにライター心をくすぐる。③"野良犬"小林聡の引退興行。テンカウント後、二人三脚で歴史を作ってきた宮田充氏（リングアナ兼



kamipro AWARD 2007

興行部長）と抱き合ったシーンは、さすがに涙腺がヤバかった。④初期K-1で国内最高の格闘センスを絶賛されてきた金が、見事な復活を見せた。秋山戦を狙う田村潔司の野望をストップさせた『HERO'S』、"野良犬"のプライドを掲げる藤本祐介をボコボコにしたK-1香港大会。"ストーリー"を"ストーリー"が凌駕する事実の重み、格闘技ならではの苦さを伴ったカタルシスを07年、最も感じさせてくれたのが金だった。藤本戦のテンカオにはほんとシビレた。

花くまゆうさく

毎月書くことがない『kamipro』の連載がツライ40歳。

①とくになし
②三崎和雄 vs 秋山成勲（12・31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ
④TBSを亀田の計画をぶっ壊してくれて、ありがとう賞→内藤大助

【総括】あんまし思い出せないので最近、観たとこで。②ちゃんと思い出せば、ほかにもありそうだけど、大晦日にこれ観て感動して泣いたのは事実（マイク前まで）。③三崎vs秋山のほかにもブスタマンチ、ヒョードル、チョン・ブギョンと素晴らしかった。ほかは生で観たアブダビコンバット。④試合前日までテレビなどであんなに自信満々だった興毅と大毅。どんなことをしてでも、TBSと協栄と亀田家は、大毅をチャンピオンにしようとしていたはず。そんな計画を壊したばかりか、亀田とTBSの悪の面をわかりやすく引き出してみせた内藤には「ありがとう」を言いたい。

原タコヤキ君

元『紙のプロレス』ダミー編集長。現在、大阪のテレビ番組制作会社に勤務しながら、阿修羅チョロの面倒を見ている、"マット界の夜回り先生"。『kamipro』では、初代・井上義啓番を担当。現在、変態座談会にレギュラー出演中。再婚願望強し。

①秋山成勲
②亀田大毅 vs 内藤大助（10・11『WBC世界フライ級タイトルマッチ〜亀田のけんか祭り〜』有明コロシアム）
③11・25『ハッスルマニア2007』横浜アリーナ
④君は昔から伸びると思っていたよ!賞→山口日昇&谷川貞治

【総括】①MVPという表現が適当かどうかわかりませんが、06年末のヌルヌル事件以来、ボク自身、秋山について考えることが多かったなぁ。「格闘技とは何か?」「ヒールとは何か?」「国籍とは何か?」などなど語れる存在ですよね、秋山は。vsデニス・カーン、vs三崎など、どれも名勝負やったし。ちなみに今年の夏はひょんなことから秋山選手と一緒にプールに行ったのですが、「サンオイル、塗りたいっ」という欲求を抑えるのが大変でした。②ボクはボクシングに関してはほとんど興味がないのですが、やはり何年かに一度、辰吉や亀田兄弟を輩出するボクシングというジャンルは、あなどれへんなあと感じました。③『マニア』は素晴らしかった!リングス時代から坂田選手の試合を観ている者として、あれほどまでに興奮しながら坂田選手を応援する日が来るとは我ながら驚きましたし（坂田さん、失礼!）、島田裕二の名バイプレイヤーぶりにはあらん限りの拍手を送りました。浮き沈みの激しいプロレス界において、なぜ島田裕二とサスケだけがずっとおもしろいのか、本気で考えてみる価値があるように思います。④『ハッスル』を立ち上げ、地上波レギュラーを獲得し、おまけにプロレス界初の地上波大晦日放送という快挙を成し遂げた山口さんと"格闘大連立"という偉業を実現してしまった谷川さんにはボクからこの賞を贈ります。あと、思いつくままに総括。●意外と今年のK-1はおもしろかった。GP決勝と『Dynamite!!』がしょっぱかったのは残念●猪木さんがオーチャンに胸ぐらつかまれたとき、あの怯えた表情はなんやったんやろ?●前田日明のトロフィー事件を観て、「子どもができたくらいじゃあ、人間は変わらへんねんな」と実感した。●ところでペールワンズの井上崇宏さんがどれくらい儲かっているのかが気になる。●それ以上に吉田豪さんの年収も知りたい。●でも結局、阿修羅チョロが今年、何をしでかすのかが一番悩ましいです。

平工幸雄

プロレスを撮り始めて20年以上の超ベテランカメラマン。07年大晦日は、『大みそかハッスル祭り』〜『やれんのか!』のメガ昼夜興行をハシゴ撮影。今日もリングサイドで撮影するナイスミドル。

①真壁刀義
②カート・アングル vs ブロック・レスナー（6・29 IGF『闘今BOM-BA-YE』両国国技館）
③12・2 ノア『Winter Navigation '07』日本武道館大会
④スーパーヘビー賞→モンスター・ボノ

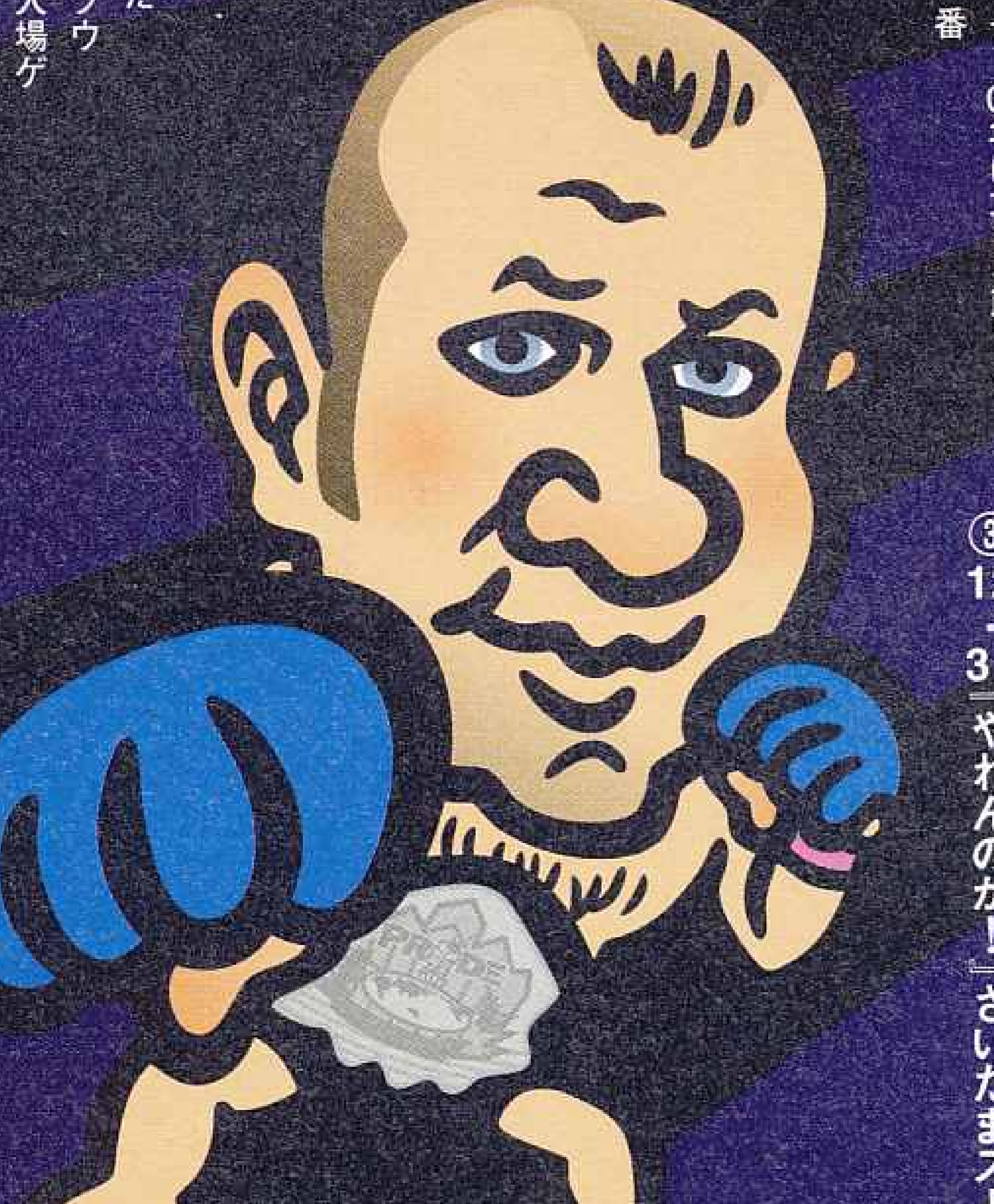
【総括】①インディーから火がつき、07年にブレイクした真壁は数少ない日本人ヒール。08年はインディーやメジャーにこだわらず、さらに大きく育ってほしいという期待を込めて。②WWEではなく、WWFというか昭和（アメリカではそんなの関係ない?）の匂いがするアメプロらしいダイナミックな試合だったと思います。③ファンも我々も待ちに待った小橋建太の復帰戦。日本武道館に鳴り響く小橋コールと熱気、感動して涙するファン、それに応えて闘う小橋、撮影していても熱いものを感じました。④生後間もない（笑）ボノ、文句なしにスーパーヘビー賞（ヘビーじゃないよ）。

布施鋼治

一年前、ヌルヌル・バッシングの逆風をモロに受けるも、秋山のノンフィクションを『月刊PLAYBOY』2月号に書き上げた不屈の男。最近は「ミスターXはおまえだろ?」と周囲から疑いの目を向けられ、眉間にシワを寄せている。

①秋山成勲
②三崎和雄 vs 秋山成勲（12・31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ）
③10・28『HERO'S KOREA 2007』韓国ソウル／ジャンチュン体育館
④冬眠賞→PRIDEの復帰を待ち続け、一年間もMMAをやらなかった川尻達也と石田光洋

【総括】①日本格闘技界にとって、07年は大きな節目となる一年だった。個人的に一番大きなインパクトを感じたのは、よくも悪くも秋山成勲だ。ヌルヌル事件を引き起こしたことで、彼は世間から完全に「ヒール」のレッテルを貼られてしまった。大晦日『やれんのか!』で彼が登場してきたときに凄まじいブーイングが発生したシーンを私は忘れることができないだろう。日本格闘技史上、あそこまで露骨にブーイングを浴びた選手はいない。2ヵ月前、ソウルのジャンチュン体育館の入場ゲートに登場したときには大声援で迎え入れられたのに。この大きなギャップはなんなのか? 秋山に対する二つの声援に私は日本と韓国の違いを見た思いがした。②秋山は勝っても負けてもインパクトが大。復帰第一戦でデニス・カーンから戦慄のKO勝ちを奪ったかと思ったら、大晦日には三崎和雄に逆転KO負け。アンチ秋山派は溜飲が下がったものの、話はそれで終わらなかった。三崎がフィニッシュで放った顔面キックが反則か否かで揉め始めたのだ。結局、ヌルヌル事件同様、三崎vs秋山戦は年が明けても遺恨を残してしまった。ヌルヌル事件同様、PRIDEの完全消滅も大きなマイナスだった。4月以降、PRIDEが興行を打たなくなったため、巷では格闘技が話題にのぼる機会はめっきり少なくなったのだ。しかも大半の外国人選手にとっては思い出より現実。気がつけば、PRIDEの主力は活動の拠点をUFCに移していた。07年はMMAの中心地が日本から完全にアメリカに移った一年でもある。もう日本がMMAの中心になることはないのか? そう思った矢先に旧PRIDE派にFEGやM-1グローバルが手を差し伸べるかたちで"大連立構想"が動き始めた。一昔前だったら考えられないムーブメントは誰もが日本MMAの未来に危機感を抱いていたからにほかならない。年が明けても非常ベルは鳴りっぱなしだ。



堀辺正史

日本武道傳骨法創始師範。鋭い分析力、ユーモア溢れる解説で格闘技の醍醐味をお届けする"青春の大発見者"。

①魔裟斗
②三崎和雄 vs 秋山成勲（12・31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ

リーナ
④正義は勝ったで賞→三崎和雄

【総括】①魔裟斗の素晴らしさは、大スターになったあとも、これだけ勝ち続けているということにつきますよね。とくに07年はボクシング技術の向上により王者ブアカーオを破った。人気に溺れることなく、鍛錬を続けていることがド素人にもわかるという意味で、格闘家の鑑と言えるんじゃないでしょうか。彼こそが真のミスター・ストイック。08年の活躍にも期待したいですね。②三崎はこの試合が決まる前から、秋山のことをしっかり批判していましたよね。それを言えば自分に跳ね返ってくることがわかりながら、それを言える勇気。しかも実際に闘い、勝利したわけですから、この有言実行ぶりはたたえられるべきものですね。あれがもし負けていたら、格闘技ファンは暗い新年を迎えていたわけですよ。やっぱり悪が勝ってしまうのか、という世相そのものになってしまう。それを覆した三崎というのは、素晴らしかったと思いますね。07年、暗いことが続いた格闘技界を明るくしてくれましたよ。③『やれんのか!』がホントにやれたということ自体が素晴らしいと思います。『やれんのか!』のおかげで、火が消えかけていた日本の格闘技界が、ギリギリ持ちこたえることができた。そして、あれだけ多くのファンが期待感を持って会場に足を運んだことで、PRIDEへの潜在的期待感を再確認させてくれた。そういう意味でもやった意味があったと思います。④これはベストバウトと理由は同じですけど、彼には二つぐらい賞をあげたほうがいい。それぐらい試合だったんで、あえて2部門。

松林 貴

『kami-pro』の御目付役。07年で最も驚いたのは、原稿をまったく書いていない本誌編集部員・上杉に「いつ書き終わるんだ!!」と電話で怒鳴った際に、「でも、今日は休みをもらってるんですよぉ」と言われたこと。あまりのバカっぷりに心がタップアウト。

①ダナ・ホワイトUFC代表
②チャック・リデルvsヴァンダレイ・シウバ(12・29『UFC79』米国ネバダ州ラスベガス/マンダレイベイ・イベントセンター)
③12・29『UFC79』米国ネバダ州ラスベガス/マンダレイベイ・イベントセンター
④あんたが大将→谷川貞治FEG代表
日本のリック・フレアーで賞→島田二等兵

【総括】①昨年一年間を通じ、本誌で最も光っていた&キャラが立っていた人物といえばダントツで、毎号"ジャイアン節"を炸裂させていたこの人。マッチメイク、プロモーションの絶好調ぶり、MMA界のリーダーシップ的にも文句なしのMVP!②年末時点までは『UFC74』でのランディ・クートゥアーvsガブリエル・ゴンザガ戦でほぼ決定していたんだが、年末に超ド級のとんでもないものが待っていた。顔面を血に染めながらも前へ前へと出続けるシウバの姿に全身の鳥肌立ちっぱなし!! 日本でのテレビ放映早期再開を熱望!③セミのリデルvsシウバからメインのGSPvsマット・ヒューズまで、会場内の観客すべてが総立ちになりっぱなしで、オクタゴンに釘づけにさせられた超爆裂イベント。日本人としては複雑な想いがあったが、PRIDEの真の喪失感とともに、世界のMMA界の中心が"ココ"に移ってしまったことを実感させられた大会。いやはや、とんでもないものを見せられました。④ファンからいろいろ言われたって、K-1も『HERO'S』も『Dynamite!!』(USA大会も含む)もちゃんと開催してきて、さらには大晦日の大連立まで。まさに、ミスター"ショー・マスト・ゴー・オン"の谷川代表。今年もこの人がカギを握るんだろうなあ。で、もう一人は『ハッスル・マニア2007』で見事な"受け"を見せた島田二等兵。正直、世のプロレスラーたちはあの姿を見て学ぶべきだろう。ということで、奇しくも"犬猿の仲"のお二人に贈らせていただきます。

三田佐代子

プロレスキャスター生活12年目、念願の『東スポ』大賞選考委員に任命されるも選考会は完全なアウェー状態で心臓に悪かったです。『kami-pro Hand』の原稿を書いていると愛猫がいつもすねて怒るのが悩みのお茶目な38歳。

①小橋建太
②佐々木貴vs宮本裕向(3・14大日本プロレス『廣島大治組プレゼンツ 高所作業車につき立体足場建築現場デスマッチ』後楽園ホール)
③9・5～9・7『マッスル15』北沢タウンホール3連戦
④我慢したことが報われてよかったで賞→永田裕志

【総括】①MVP、ベストバウトは『東スポ』プロレス大賞で私が推薦したのと同じものを。今年誰が一番闘ったかで、腎臓ガンと闘ってリング復帰した小橋建太選手に決まってます。たったあの一試合で申し訳ないけれどもあれだけのプロレスラーを凌駕する生き様を見せつけられました。この時代に珍しく、すべてのプロレスファン、関係者から愛されているところも踏まえて得難い存在だと思うのです。②ベストバウトは大日本の立体足場建築現場デスマッチを。っていうか『東スポ』大賞であの試合を推薦して一票を投じたのは私なんですが、いろんな方に「あの試合挙げたのって内館牧子さん?」って聞かれて悔しいのでここでカミングアウト(べつにここで意地張ってもしょうがないけど)。宮本選手のかつての仲間が広島から上京して組み立てた足場、私たちの想像を超えた立体的な闘い方、試合後のデスマッチ絶対王者・佐々木貴選手の「岩手で生徒会長やってた俺と広島でヤンキーやってたおまえが同じリングで血を流してる。人生っておもしれえだろ。プロレスっておもしれえだろー!」のマイクも含めて完璧。③ベストイベントは『マッスル』北沢3連戦を。一つの興行としての完成度からいったら5月4日の『マッスルハウス4』(フィギュア採点とマッスル坂井vs鈴木みのるの回)のほうが高かったと思いますが、三連戦ですべて別の内容で興行を打つ、という実験度を買ってこちら。最終日の『エヴァ風』モノローグは鳥肌立った!④個人賞は永田選手に。ここ数年は総合やって残念な結果になってファンからヒドい言葉を浴びせられたり若い選手の踏み台になってくれと言われたり、思えばヒドい仕打ちをたくさんお受けになったと思いますが、07年の大ブレイクは個人的になかよしだということを差し引いても大変感慨深かったです。30分闘い抜いてもへいちゃらなスタミナ、白目に代表される表情豊かな表現力、そして何よりもあの底抜けに明るいポジティブシンキングに敬意を表して、ディヤッ!(敬礼)

師岡とおる

本誌コラム扉絵担当イラストレーター。AD金井ヒサくんとのコンビで数々の『kami-pro』周辺アートワークを手掛けるほか、広告、CDジャケット、田上明Tシャツなど多方面で活躍中。

①秋山成勲
②秋山成勲vsデニス・カーン(10・28『HERO'S KOREA 2007』韓国ソウル/ジャンチュン体育館)
三崎和雄vs秋山成勲(12・31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ)
③12・31『やれんのか!』さいたまスーパーアリーナ
④残念賞→講談社

【総括】①一昨年の大晦日からの秋山ストーリーは文句なし! でなくて文句だらけ。飲み屋で語れる貴重なヒールっぷり。言動、実力、ファッションと、どこを切っても肌と同様プロレスが濃すぎ!②セットでベストバウト。秋山2連勝で元Uインター勢につなげたかったけど、GRABAKA名物、心配なマイクが聞けたのでとりあえず満足です。③格闘技観戦はほぼ『YouTube』になった07年。スカパー!解約寸前での大晦日興行決定! 開催だけで大感謝。④PRIDEと加護ちゃんを返せー!



八木賢太郎

フリーライター。ちっちゃい頃の『紙のプロレス』時代からの編集部居候。現在は永久非番中。"ハッスル事情通"の肩書きを持つが、原タコヤキ君のポッドキャスト『銀座プロレスNOW!!』以外ではとくに活動はしていない

①島田二等兵
②天龍源一郎&RGvs大谷晋二郎&アン・ジョー司令長官(9・13『ハッスル・ハウスvol・28』後楽園ホール)
③6・17『ハッスル・エイド2007』さいたまスーパーアリーナ
④社長賞→山口日昇ハッスルエンターテインメント社長

【総括】①会場が静まりかえっているときでも一人でヤジり続けて盛り上げるなど、これまでも陰のMVP的存在だったが、今年はリングの上での活躍も目立ったと思うので。海川ひとみへの嫌がらせのやりすぎ具合&いでにいつだかの『ハッスル・ハウス』での決められっぷり、つ『ハッスル・マニア2007』での天龍のペットボトル頭部直撃&そのあとの見事な失神っぷりに謹んでお悔やみの一票を。②RGが会場の観客の心を完全につかんだ試合。デビュー戦からすべての試合を観続けたレスラー(ハッスラーだけど)が、どんどん上り詰



めていく様を目撃したのは初めてだったので、あの会場でのRGへの大歓声には正直、かなりウルウルきてしまった。最初の『マニア』を自費で観に来て笑われていた芸人が二年足らずでメインで活躍するなんて、『ハッスル』としても嬉しい大誤算だろう。もちろん、そこまでRGを光らせた天龍やアン・ジョー、大谷もグー！ってことでベストバウトに。4・21大阪でのHG&RGのタッグ戦が次点。③『マニア』も素晴らしかったけど、『読売新聞』がほめてくれてたし、個人的には『エイド』のほうが観ていて盛り上がったので。まずオープニングの歌。笑いとしては『YAH YAH YAH』で正解だったと思う。だから『マニア』の『ビューティフル・サンデー』はちょっと残念。もちろん、試合もよかった。とくに休憩明けの3試合は絶妙だった。鈴木みのる&高山喜廣の普通の試合がさほど盛り上がらなかったのも、ほかのプロレスとの差別化が明確になったという意味では収穫だったと思う。④内輪ネタだが、社長は社長賞をもらえないと思うので、一般マスコミも含めて露出し続けたこの一年の見事な社長っぷりを表彰したい。あの山口日昇が、まさか小池栄子と並んで記者会見のひな壇に座る（芸能ニュースの映像では見切れてたけど）ようになるとは。"日"の字を勝手にいただいたアノ方のご機嫌を損ねてるのもいい感じで。よっ、社長！

kamipro AWARD 2007

夢枕 獏

小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり執筆など格闘技への造詣は広く深い

①谷川貞治FEG代表

②魔裟斗vsブアカーオ・ポー・プラムック（10・3『K-1 WORLD MAX 2007 世界一決定トーナメント決勝戦』日本武道館 トーナメント準々決勝第1試合）

三崎和雄vs秋山成勲（12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ）

③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ&12・31『Dynamite!!』京セラドーム大阪の合同イベント

④獏さん賞→藤松泰通（大道塾）

【総括】①これは難しいねぇ。大晦日の"大連立"は谷川さんなくしてはなかったから、ここは谷川さんですよ！②ベストバウトはこの二つが横並びだね。この二つは俺には差をつけられない！　大晦日が近いせいか、三崎vs秋山が印象的には強いけど、瞬間最大風速じゃなく格闘家としてのトータルな活躍って意味では、魔裟斗の功績はホントに大きいし、ブアカーオとの試合は文句のつけようがない。③『Dynamite!!』と『やれんのか！』を一緒のイベントと考えると、ベストはこれだろうねぇ。ミルコも来たからホントは『ハッスル祭り』まで入れたっていいんだけど（笑）。④大道塾の藤松は07年も『北斗旗オープントーナメント全日本空道無差別選手権大会』で優勝してる選手。凄く安定してるよねぇ。残念ながら決勝戦は某イベントとかぶってて観れなかったの。でも、その前に観た試合（3回戦のvs高野望戦）が凄かったねぇ。相手の蹴り足をつかんだ状態からのKO勝利で、俺の角度からはパンチがどこへ当たったのかわからなかった。「胸か、みぞおちかな？」と思ったら、なんとアゴに当ててたらしいんだよ。「あんな体勢からアゴまで届いたの？」って驚いたし、ホントに藤松は凄いよ！

kamipro Award 2007
『kamipro』編集部

ジャン斉藤

本誌編集長。"雀鬼"こと桜井章一の内弟子生活を経て、『kami-pro』編集部へ。永久電機やサンゴの養殖などアントン関連事業の調査や、破綻系興行観戦をライフワークとする32歳。

①秋山成勲

②インリン様&モンスター・ボノ&アンジョー司令長官vs天龍源一郎&TAJIRI&RG（11・25『ハッスル・マニア2007』横浜アリーナ）

③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ

④ズンドコ大不発で賞→アントニオ猪木
クソぶっかけられたで賞→内舘牧子

【総括】①朝青龍に亀田一家、沢尻エリカが涙を流して頭を垂れ"悪の仮面"を脱ぐはめになったヒール受難の年において、この男だけは"黒"の底なし沼ぶりを見せつけてくれた。日本中から罵声を浴びているのに、まったく揺るぎもしなかったあの人間性にはとにかくゾッとする。ダークサイドに堕ちたからこそ剥き出しになる魔王ぶりはとかく目が離せないのである。②現在のプロレス界でインリン様とボノちゃんが絡んだときはハズレなし！　クオリティの安心と意外性が同居するプロのレスリングだ。③ズバリ言って、今年のアントン総帥は期待ハズレもいいところだよ。破天荒さを売りにするのはいいけれど、それ自体が"お仕事"になっていた。ズンドコ臭というのは狙って出すものじゃない。小川直也との乱闘なんてその最たるものだ。俺たちのアントンはこんなもんじゃない！　そして内舘牧子氏。『東スポ選定プロレス大賞』の総括コメントで、氏が掲げる"プロレスLOVE"がボクの履いている靴下よりも薄ぺっらいことが明らかになったわけである。まあ、氏が何を主張しようが自由だが、一番の問題は氏にあれだけのクソをぶっかけられたのに、プロレス村がまったく認識してないことなのだ。「このクソ、じつにいいニオイでしょう？　テヘ!!」くらいの感覚なんじゃないのか。とにかく非常に残念だ！

堀江ガンツ

本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者を経て、『kami-pro』編集部へ。"変態座談会"のエースとして活躍する34歳。

①高田総統

②チャック・リデルvsヴァンダレイ・シウバ（12・29『UFC79』米国ネバダ州ラスベガス／マンダレイベイ・イベントセンター）

③4・8『PRIDE・34』さいたまスーパーアリーナ

④喜んで「参りました」で賞→12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ

【総括】①事実上、消滅したPRIDEを尻目に躍進した『ハッスル』の象徴。地上波テレビ放送開始だけでなく、大晦日ゴールデン進出まで成し遂げてしまったのは、高田総統の全知全能の力のおかげに（たぶん）ほかならない。さらに大晦日には"古くからの友人"高田本部長を通じて、ミルコ・クロコップを電撃参戦させ、ファンをおおいに喜ばせた。なお、高田将軍はなかったことにしてもらいたい。②大会前は賞味期限切れ！　と思われたこの一戦だったが、フタを開けてみれば、UFC史上に残る大激闘に。その凄まじい殴り合いは、伝説の高山vsフライが霞むほど。勝敗至上主義の競技であるはずのUFCにおいて、勝敗以上の価値を生み出したヴァンダレイは、身体を張って"PRIDE的価値観"をアメリカに植えつけた。③本当の意味でPRIDEの最終回。それにふさわしく、桜庭和志、田村潔司の涙の揃い踏みは感動的だった。もし、この二人の闘いが実現するとしたら、どちらかの引退試合となるか？　それぐらい意味があるとき以外はやってもらいたくない。④正式発表までファンをヤキモキさせながらも、数々の困難を乗り越えてイベントを開催。多くのファンを涙させる感動の"散開"を実現させた『やれんのか！』全スタッフの努力と行動力と執念には、喜んで「参りました」。そして、このイベント妨害にやっきになっていた連中には、心の底から「ざまあみろ！」だ。



坂井ノブ

ダブルクロス企画制作部。誌面ではもっぱら『ハッスル』担当。大会パンフレットやポスターの制作などを担当。2月のPRIDE、6月の『Dynamite!!』と、9月のUFCと07年は海外出張が3回ありました。MMAシーンの本場がすっかりアメリカに移ってしまったことを目と耳と肌と強烈な時差ボケで体感した一年。

①"モンスターK"川田利明

②ザ・グレート・サスケ&海川ひとみvs島田二等兵&ジャイアント・バボ（11・25『ハッスル・マニア2007』横浜アリーナ）

③11・25『ハッスル・マニア2007』横浜アリーナ

④いくらなんでも5倍は凄いで賞→武蔵
新人賞をあげま賞→RG

【総括】①もはや誰にも止められない『ハッスル』オープニング劇場の主役。芸能人がプロレスのリングに上がるのがいままでのハッスルだったが、"モンスターK"は芸人のフィールドに出て行くという逆のアプローチを確立した。小島よしお、ムーディ勝山、藤崎マーケットなど07年を代表する芸人と絡みまくり。歌う前には「キーが違う」とこだわりを見せ、妖精さんのコスチュームを着るにあたって「28センチのハイヒールがないな

らやらない」と言い放ったという厳しい姿勢はさすが。②グラビアアイドル・海川ひとみのM気質全開のやられっぷりと、髙田本部長をして「男の中の男」ならぬ「島田の中の島田」と言わしめた島田二等兵の奮闘が生み出した珠玉の名勝負。③『ハッスル』は試合単位というよりもイベント単位で評価したい。坂田とエスペランサーの死闘、妖精さんとの愛の劇場、涙のマイクまで流れが完璧だった。これを超えるドラマは、そうそう出てこないだろう。④8月の『K―1アジアGP』で武蔵を見舞った悲劇。金的攻撃で悶絶する武蔵の控室に行った谷川プロデューサーの「金的が5倍に腫れ上がっていた」発言の衝撃は凄まじいインパクトだった。あと、RGには何か賞をあげてもいいんじゃないかと思う。それが「何賞？」と聞かれると答えに困ってしまうのだが……。

阿修羅チョロ

いつからか名字が"阿修羅"となり、本名が"松澤修二"ということが忘れられ気味の年男。ま、そのほうがいろんな意味で都合がいいような気もするので、阿修羅原ばりの突進力とアバウトさで今年も頑張ります。

①マッスル坂井
②丸藤正道&飯伏幸太vsKENTA&石森太二（7・15ノア『Summer Navigation'07』日本武道館）
③5・4『マッスルハウス4』後楽園ホール
④目が離せないで賞→アントーニオ本多

【総括】①MVPは文句なしでマッスル坂井。『笑点』をネタにした1・3『マッスルハウス3』、フィギュアをネタにした5・4&5の『マッスルハウス4』、すべて別内容で初の三連戦を敢行した『マッスル15』、地上波番組『マッスル牧場classic』（テレビ埼玉）のスタート、さらにはフジテレビの超人気バラエティ『めちゃ×2イケてるッ！』の準レギュラーをゲットするなど、一年を通じプロレス界を飛び越えての活躍を評価して。多忙の中『kamipro Hand』のブログ更新もありがとうございました。②個人的に、いわゆるノア的な試合はそれほどグッとこないのですが、ベストバウトに選んだこの試合は理屈抜きに凄かったです。③飯伏には今年もメジャーから、どインディー、学プロと必要以上の幅の広さで頑張ってもらいたいものです。④個人賞はレスラーとしての評価もうなぎ登りのアントンに。試合はもちろん、試合以外のよけいな動きや言動に目を奪われっぱなしの一年でした。



真下義之

本誌・自称ノアヲタ。必要以上にデカイ笑い声&リアクションが特徴。07年のベストガイは無念の欠場となった藤門陣裟くんの熱血トレーナー・加藤会長でキマリ。み〜んな、吹っ飛ばしちゃう！

①越中詩郎
②森嶋猛vsKENTA（7・15ノア『Navigate for Evolution'07』日本武道館 ROH世界選手権試合）
アントーニオ本多vs男色ディーノ（『マッスル牧場第2回「田舎に泊まろう 前編」』埼玉テレビ）
③12・31『大みそかハッスル祭り』さいたまスーパーアリーナ
④最高峰賞→やれんのか！実行委員会

【総括】①上〜中半期の活躍は文句なしなのに、『東スポ』大賞に一部門たりとも投票されなかった不遇ぶりには悲しさを通り越して怒りが込み上げるって！ というかこの男がG1を獲っていれば07年のマット界の流れはまったく違うものになっていたのは確実。でも全然メゲてないから最高！ まだまだやるって！②小橋復活劇にいま一つ乗りそこねた自分が最も思い入れをもって観れた試合。シンプルかつハードヒットな内容と情念が絶妙にミックスされた至福の9分44秒。後者は、赤ちゃんのいる民間のマンションの一室で展開されたゲイvsイタリアかぶれのお茶の間プロレス。あまりの突き抜け具合に、思わず映像をストップしたほどの破壊力。③今年の『ハッスル』はとにかくハイレベル。『エイド』も『マニア』も捨てがたいが、過剰なまでにサービス度満点の『ハッスル祭り』を。④MMAの本場は移っても、あのオープニングの高揚感をクリエイトできるのは、世界中でこのチームだけ。

松下ミワ

本誌・読者ページ担当。最近は同ページの「人生相談コーナー」で上井駅長と連絡をとることが多くなり、「電話の応対」や「薄毛の悩み」などについて、つい長電話をしてしまうことも。しかし、このごろ駅長との電話が楽しみの一つになっていることを自覚し始めている。

①エメリヤーエンコ・ヒョードル
②ダン・ヘンダーソンvsヴァンダレイ・シウバ（2・24『PRIDE・33 THE SECOND COMING』米国ネバダ州ラスベガス／トーマス&マックセンター）
フォレスト・グリフィンvsマウリシオ・ショーグン（9・22『UFC76』米国カリフォルニア州アナハイム／ホンダセンター）
③12・31『やれんのか！』さいたまスーパーアリーナ
④森嶋賞→森嶋猛

【総括】①07年最後の最後で最高にハッピーな気分にさせてくれた我らが皇帝に捧ぐ！ それに、よくよく考えてみると、07年の皇帝はプーチン露大統領、ベルルスコーニ元伊大統領、そしてそしてハリウッドの大スター、ジャン＝クロード・ヴァン・ダムまで巻き込むなど、いちいちスケールがデカいんだもん!! 若干"フライング"気味ではあるが、新年早々に富士急ハイランドにお供させていただいた感謝の意味も込めまして、皇帝バンザ〜イ！ ということで（微笑）。②完全に個人的な嗜好。海の向こうではありますが、ダンヘン&グリフィンには08年も大活躍してほしい！ でも、やっぱり日本でも試合してほしいなあ。③当日の大爆発具合と、07年の紆余曲折を考えると、やっぱり凄かった！④ズバリ言って、07年で一番素敵な出会いだった。毎週毎週『週プロ』に掲載されている森嶋の写真&活躍には圧倒された。本誌でノアを取材できない関係もあり、森嶋を直接この目で観ることはそうそうないだろうと思っていたが……、11・27 DDT後楽園大会、森嶋猛vsマッスル坂井戦では、なんとリングサイド潜入が実現！ ほかのカメラマンに揉まれながら、震えるこの手で撮影までさせてもらった!!（大興奮）。今後もこの距離感を保ちつつ、誰かに何かを言われるまで、読者ページでの追跡を継続していこうと思う。将来、自分や親類に子どもが産まれたら、「森嶋」という名前にしたいな。

上杉秀人

三十路を迎えるや、結婚、妻の妊娠、出産とプライベートでハプニングが続出した昨年。そのため、血中マット界濃度が一時的（?）に急低下。御目付役の小言を聞き流して、かわいい子どものオムツ替えに奔走する親バカ編集者。

①ダナ・ホワイト
②ソクジュvsアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（2・25『PRIDE・33 THE SECOND COMING』米国ネバダ州ラスベガス／トーマス&マックセンター）
ソクジュvsヒカルド・アローナ（4・8『PRIDE・34』さいたまスーパーアリーナ大会）
③4・8『PRIDE・34』さいたまスーパーアリーナ
④お騒がせしてくれたで賞→エド・フィッシュマン

【総括】①世界MMAシーンの盟主として活躍し、07年には本誌の表紙も飾ったダナ・ホワイト。団体代表という、そのポジションにもかかわらず、記者会見では「F○○K」だの「SON OF A BI○CH」など、放送禁止用語を連発しつつ、言いたい放題。『kamipro』読者だけじゃなく、世界中のファンを楽しませてくれた。翻訳する際には、そのニュアンスを活かしたが、できるなら彼の言語感覚をそのまま誌面に出したいところ。また凄いのは"口"だけでない。プロモーターとして団体を引っぱるのはもちろん、去年3月には因縁深いティト・オーティズと闘うために、ネバダ州アスレチック・コミッションからプロボクシングのライセンスを取得！ 結局、試合はティトが拒否したため実現しなかったとのことだが、プロモーションのためには身を削ることをもいとわないその姿勢に脱帽！②単純に、去年最も興奮させてくれたソクジュの成り上がりストーリー。『kamipro』はソクジュを世界で最初に取材した雑誌なのだが、そのときはPRIDEラスベガス大会前にアメリカに行ったものの、取材するモノがなく、"ダンヘンのついで"という感じでインタビュー。ビジュアルがおもしろいため大きくページを取っただけで、さすがに期待はしていなかったのだが、まさかの衝撃KO。続くアローナ戦でも、「今度こそダメかな……」という予想をおおいに裏切って、秒殺勝利。血迷ってキリン特集を組んでいた本誌を救ってくれた。③大会直前まで、舞台裏を含めて騒がしかった旧DSE体制最終興行。桜庭と田村の邂逅、谷川さんの煽りV出演とサプライズ連発。その後の不安や期待がないまぜになりながらも、しっかりとファンを感動させた大会でした。④PRIDEの売却が表面化する前から、一方的に買収の意思を表明して騒ぎを起こした"元アメリカのPRIDEの父"。そのあともパンクラスから身売りの話があったことを突如リークしたり、『HERO'S』買収やマカオでの2万人イベント開催など、得体の知れない話を吹聴したりと、海外担当のボクにとってはネタを提供してくれる、素敵なおじさん。今年も怪しい言動を期待してます！

①あなたが考える2006年のMVP ②あなたが考える2006年のベストバウト ③あなたが考える2006年のベストイベント ④そのほか、個人が一方的に贈る賞



昨年世界最高峰の座を奪取!
この勢いは止まらない!!

UFC goes on 2008

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールでアメリカンなニュースをお届け!

USA COOL 宅急便

PRIDEとWECの買収、イギリス進出に加えて、2007年の最終イベント『UFC79』で大成功を収め、躍進の年の有終の美を飾ったUFC。その勢いのまま迎えた今年は初頭からビッグカードを連発！　さらにウワサになっていた“あの計画”がいよいよ実現する!?

聞き手／デューク東郷　撮影／Josh Hedges（UFC）



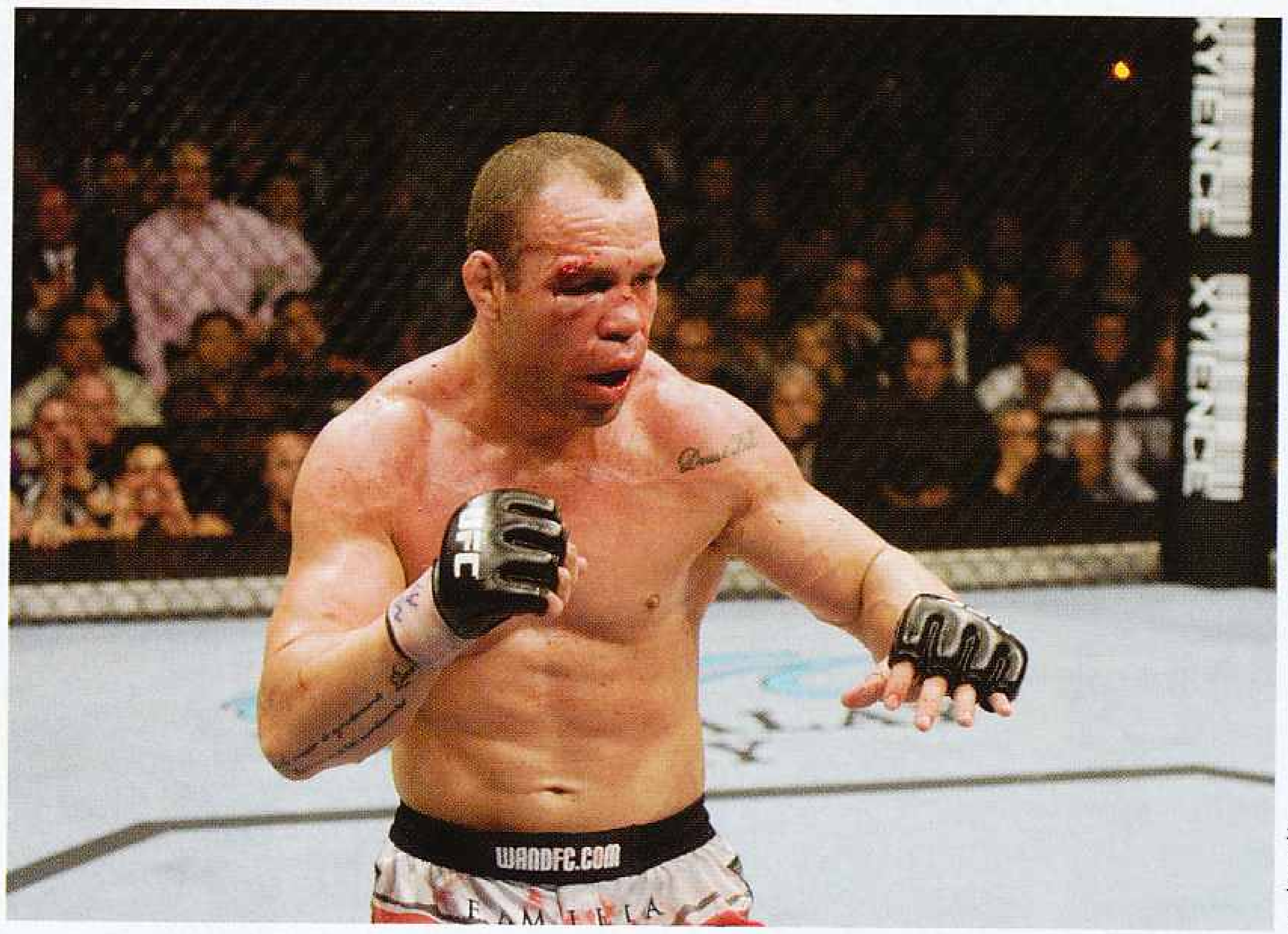
PROFILE
Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。日米格闘技事情に精通。ビッグマッチのたびに来日していたが、PRIDEの活動停止に伴ない、八王子のアパートを撤去。現在は米国ユタ州在住。

——スコット！『MMA WEEKLY』のサイトに『UFC79』ラスベガス大会の現地レポートが載っていたけど、珍しいじゃん？

スコット フッフッフ。それが、聞いて驚くな。UFCの取材が全面解禁になったんだ！

——マジ？ よかったねぇ、これでUFC人気にあやかれるじゃん。いったいどうしたのさ？

スコット ひさしぶりにダナ（・ホワイトUFC代表）と話し合ったんだ。ここしばらくUFCはネットメディアをまとめて取材拒否にしていたけど、『MMA WEEKLY』はプレスパスも貰えるようになった。



年末のUFC再デビュー戦で強烈なインパクトを見せつけたヴァンダレイ。その試合が評判となり、再放送を含めた同大会のPPV購入件数は、それまで去年最大だったランペイジvsリデルの67万件を突破する勢いだ。

——でも、それはちょっと残念だな〜。

スコット ん？ どういうこと？

——だって、これでアンタからダナの悪口が聞けなくなるわけだろう（笑）。実際、最近は過激な発言が少なくなったような気もするしね。

スコット オレは昔から変わってないよ。これからだって、ちゃんとニュースはお伝えするしさ！

——だと、いいけどさ（笑）。で、その『UFC79』はどうだったのさ？ ヴァンダレイ（・シウバ）とチャック（・リデル）の試合が凄かったらしいじゃん。

スコット そう！ ダナも試合後にベストバウトだとほめたたえていたし、現地の新聞でも、「UFC史上最高の試合だった」と報道されてたね。日本のファンもネットでもいいからちゃんとチェックすべきだよ。

——そんな凄いイベントなのに、ネットでしか観られない日本の状況ってツライね。地上波で格闘技の試合がバンバン流れていた、MMA先進国だった頃が懐かしいよ。

スコット その点で言えば、アメリカもずいぶんMMA先進国っぽくなってきた。驚いたのは、ヴァンダレイに対してかなりの声援が飛んでいたこと。PRIDEの映像をガンガン流してプロモーションするようになって、『TUF』ファイターしか知らなかったUFCファンも変わってきた。

——ノゲイラが2戦目でヘビー級王座に挑戦することになったのも、そういった影響があるのかな。

ノゲイラvsシルビアを暫定王者決定戦にしたのは、ランディから金を取り返すため

ケビン そうだね。でも、大会後のダナの発言によると、2月の『UFC81』ラスベガス大会でヘビー級タイトルマッチとして行なわれるはずだったノゲイラとティム・シルビアの試合は暫定王者決定戦に変更になった。

——離脱した王者のランディ・クートゥアーが復帰するってこと？

ケビン う〜ん、その可能性は低いと思う。大会後の会見でダナは、「ランディには、4試合分の契約ボーナスとして50万ドル（＝約5500万円）をすでに渡している。その契約を守って、ノゲイラとシルビアの勝者と闘うことが彼にとって正しいことだろう」と語っているから。

——じゃ、純粋にランディに帰ってきてほしいってことなの？

スコット いやいや、そんなことじゃない。UFCはランディにタイトルマッチをオファーすることで、今後、契約を巡って裁判になったときのための有利な状況を作ろうとしているのさ。

——有利な状況っていうと？

スコット ダナが言っているように、UFCは契約ボーナスとして莫大な金額をランディにすでに支払っている。そして、このままランディを放っておくと、それを単純に失なうことになる。





ランディの離脱により、チャンピオン不在となったヘビー級戦線。『UFC77』で期待の新鋭、ブランドン・ベラを破ったティム・シルビアとノゲイラが暫定王座を懸けて闘うことに。



昨年6月、『Dynamite!! USA』でキム・ミンスをパウンドで秒殺し、総合デビューをはたしたレスナー。当時からダナ・ホワイト代表は、レスラーとしての商品価値だけでなく、そのポテンシャルの高さに関心を示していた。

——ふんふん。

スコット　でも試合をオファーし続けることで、裁判になったときに「試合をしなかったのはランディで、彼が契約をまっとうしなかった」と主張できる状況を作れる。こうやって、契約金を取り戻そうとしているんだ。それに、チャンピオンで居続けさせる理由には“チャンピオン規約”の存在があるとも言われている。

——チャンピオン規約？

スコット　UFCのチャンピオンは王座在位期間中は、団体を離れることができないというもの。

——はぁ、そうやって王者を縛るわけだ。

スコット　実際にその規約がランディの契約に盛り込まれていたかどうかはわからないんだけどね。でも、もう一つ、こっちは間違いなく盛り込まれている規約に“引退規約”というものがあって、それに従うと引退した選手の契約は凍結されるんだ。たとえば、契約があと2年間残っている状況で引退した場合は、復帰しても、その時点から2年間契約が有効になるというもの。

——なるほど。だからランディが離脱を表明した当初、UFCの公式サイトは「ランディはこのまま引退する」と報じていたんだ。

スコット　そうなれば、半永久的にランディを縛れるからね。ただ、それは法的に問題があるという見解もあるから、ランディが裁判覚悟で他団体に強行出場することは可能だよ。とくに『M−1グローバル』と太いパイプを持ちつつ、ランディに接近している“IT富豪”マーク・キューバンのバックアップを受ければ、いい弁護士もつけられるだろうし。

——さすがキューバン！　やっぱ金持ちっていいね（笑）。

スコット　でも早くても、当初の契約期間である10月までは動くことはないと思うよ。裁判に不利になるし、下手すると、PPV放映一回分の利益にあたる金額を請求されることになるからね。

——10億円単位の話になる、と。それはさすがのキューバンもやすやすとは手を出せないね。

スコット　でも、キューバン陣営は、ファイトマネー25万ドル（＝約27億500 0万円）と言われるWBCスーパーウェルター級チャンピオンのフロイド・メイウェザーを獲得しようとするほどだから、それぐらい出しかねない。

——ファイトマネー27億！　それ興行として成り立たないでしょ？

スコット　そうだね。だから、キューバン陣営がホントに試合をさせようとしているかどうかはわからない。第一、メイウェザーを引っぱり出したところで、ボクシングファンの多くはもうすでにMMAにも興味を持っているから、そこまで大金を出す必要はないだろうしね。

——でも、そこまで資金力があるのは凄いことだけどね。UFCにとって、その『M−1グローバル』とマーク・キューバンの『HDNetファイト』連合が唯一の脅威って感じなのかな。

スコット　でもダナは会見でキューバンについて「彼らが業界に入ってきたことは悪くない。金を落としてくれるし、そこで育った選手たちは最終的にUFCで闘うんだからな」と発言。余裕をかましている。だけど、いまのUFCには、そう言うだけの勢いがあるよ。『UFC79』はゲート収入で、490万ドル（＝約5億4000万円）を売り上げていて、それは2007年に行なわれたMMAイベントで最大！　経営面での不祥事が発覚したザイエンス社に代わるスポンサーとして、ハーレー・ダビッドソン社の広告も獲得していたし。

——ゲート収入だけで5億円以上！

スコット　PPVも初期の計算で60万件を突破して、2007年で2番目の数字を記録。試合の評判がいいことでPPVの再放送もかなり多く買われたらしいから、最終的な数字はもっと伸びるかもね。

——ダナの笑い声が海を越えて、ここまで聞こえてきそうだよ。

スコット　そしてUFCの大会は今後も

『UFC79』はゲート収入だけで5億円以上を売り上げ、年間記録更新！

充実しまくっている。ノゲイラとシルビアの暫定王座決定戦が行なわれる『UFC81』では、いよいよブロック・レスナーがオクタゴンデビュー！

——プロレスとMMAが地続きでないアメリカでも、レスナーで客が呼べるの？

スコット モチロン！ プロレスリングのファンが減っているとはいえ、やっぱりその層は厚い。それにレスナーはその身体とアマレスの実績、そして『Dynamite!! USA』でのMMAデビュー戦の闘いぶりからしても優れたファイター。勝負論としても、興味があるんだ。

——アンタ、レスナーがMMAデビューする前はけなしてたくせに！ で、レスナーの相手は誰だっけ？（笑）。

スコット それぐらい知っといてよ！ 元ヘビー級王者のフランク・ミア!! ヘビー級のファイターにも関わらず、ライト級のように素早く動ける柔術家で、過去にシルビアの腕を折ったこともあるビッグネーム。でも05年に交通事故に遭って以来、以前ほどのパフォーマンスは発揮できていない。

——ということは、レスナーにとってはおいしい相手ということだね。勝てば、一気に「元チャンピオンに勝った」ということになるし。

スコット そういうこと！ しかも、ミアは打撃の強い選手じゃないから、レスナーにとっては比較的やりやすい相手だね。そして3月の『UFC82』オハイオ大会ではPRIDEウェルター級王者、ダン・ヘンダーソンがアンデウソン・シウバのUFCミドル級王座に挑戦。ミドル級戦線で敵なしのアンデウソンがついに一階級上のトップファイターを迎え撃つという構図にファンは盛り上がっているよ。さらに4月には、ウェルター級暫定王者GSP（ジョルジュ・サンピエール）の凱旋興行となるカナダ大会も計画されている。

——ビッグカードが目白押しというわけだ。このラインアップだけ見ても、UFCの勢いがわかるね。

スコット それだけじゃない。年末の記者会見でダナは「数週間以内にスポーツビジネス全体を揺るがす大きな発表をする」とも話していた。

——それから、まだ何も音沙汰がないけど、いったいなんなの？

スコット 関係者から聞いたところによると、どうやらこれはウワサされていたとおり、アメリカで地上波でのテレビ放送が決定したということのようだね。

——キターッ！ 去年からそういう話はあったけど、その後、続報がなかったから立ち消えになったかと思っていた。やっぱりやるんだ！

ケビン らしいよ。そのパートナーは3大ネットワーク局の一つCBS。これが実現すれば、凄いことになる。UFC躍進の原動力になったリアリティショー『TUF』を流すスパイクTVも視聴世帯は多いけど、CBSで流れることになれば、本当の意味でメジャースポーツになるからね。

——放送はいつから始まるの？

スコット それはまだわからない。当初の話だと、今月の『UFC80』イギリス大会からオンエアされるということだったけど。ただ、交渉は順調に進んでいるようだ。

——ビジネスとしても絶好調だと。ダナは『kamipro Special 2008 SPRING』でも好き放題言っていたけど、これでますます言いたい放題ってわけだ。ダナの発言はおもしろいから、ウチらはいいけど、アンタたちは「ネット媒体はクソだ」って攻撃されるから、たまらないでしょ？ とくにこうやって強力な媒体を持つと、UFCはますますネットメディアなんかいらなくなるわけだし。

スコット いや、べつになんと言われてもいいけど……。

——あ、歯切れが悪い！ 以前なら、逆に悪口叩いているぐらいだったのに（笑）。やっぱり、プレスパスを貰うことになった弊害だよ！

スコット うるさいな〜！ 毎回毎回、都合の悪いことを言わせないでくれ！

——大丈夫だって。ダナ・ホワイトだってさすがに、この連載までは読んでないから！（笑）。

スコット そういう問題じゃないだろ！

【08年1月9日／都内・タリーズコーヒー千駄ヶ谷店にて収録】

スーパーカード続出！ UFC PPV大会スケジュール

ノゲイラが巨人シルビアとタイトル戦！
ブロック・レスナー、オクタゴンへ!!

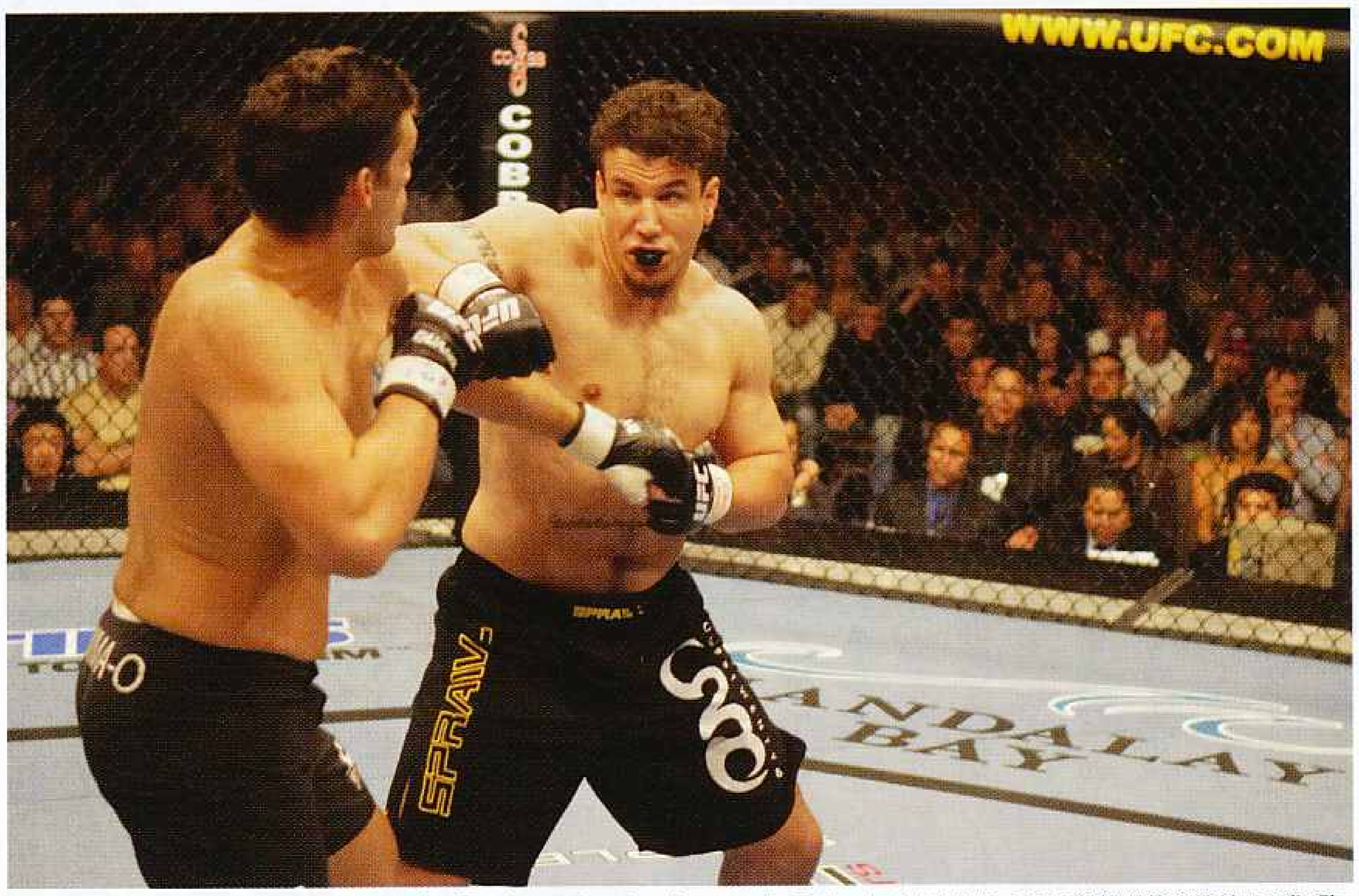
2.2
『UFC81 BREAKING POINT』
米国ネバダ州ラスベガス
マンダレイベイ・イベントセンター

【UFCライト級暫定王者決定戦】
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ティム・シルビア
ブロック・レスナー vs フランク・ミア
ヒカルド・アルメイダ vs アラン・ベルチャー
ネーサン・マーコート vs ジェレミー・ホーン
中村K太郎 vs ロバート・エマーソン

ダンヘン再び王座統一戦へ!!
郷野の相手は無冠の最強戦士！

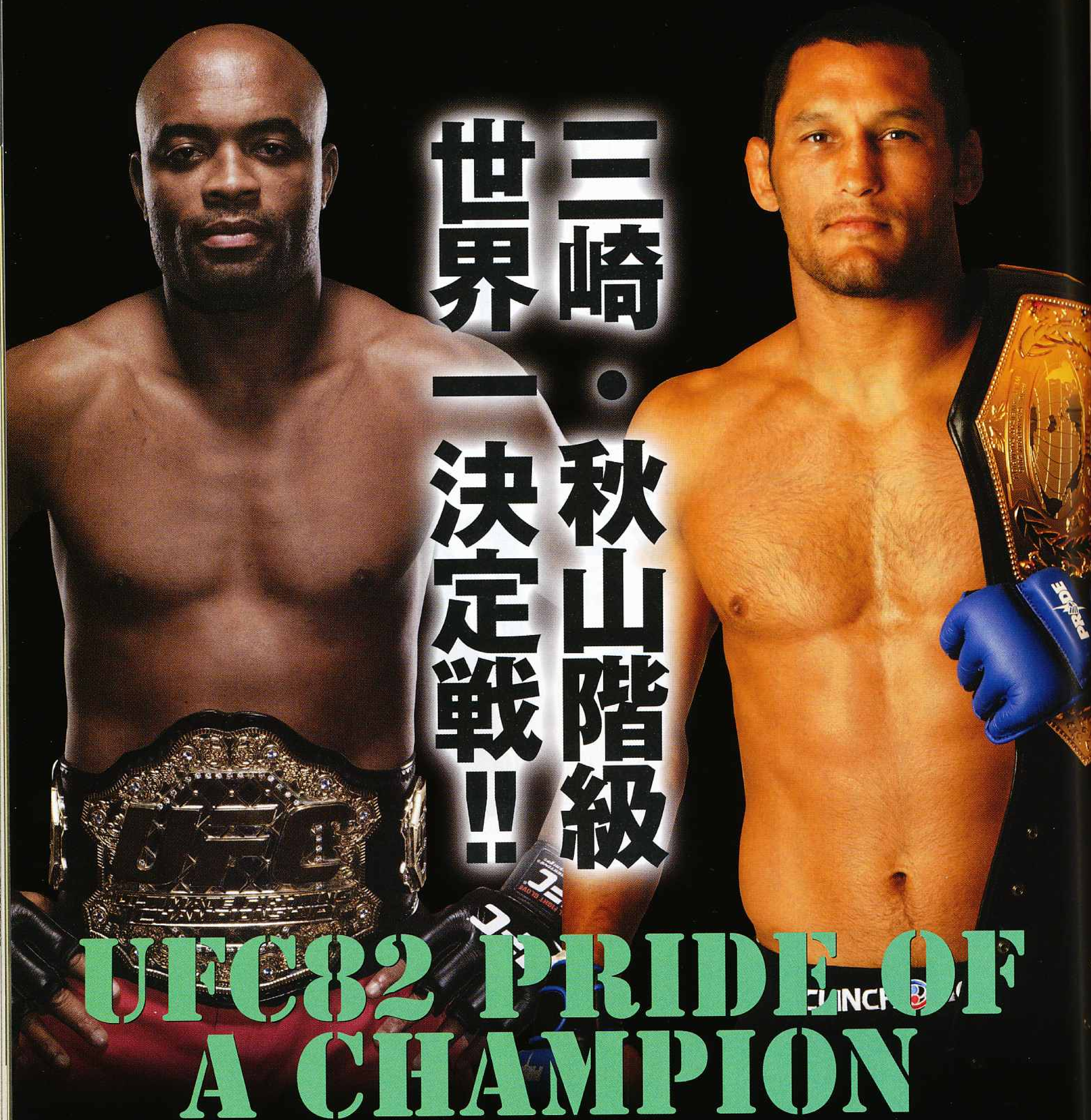
3.1
『UFC82 PRIDE OF A CHAMPION』
米国オハイオ州コロンバス
ネイションワイド・アリーナ

【UFCミドル級選手権】
（王者）アンデウソン・シウバ vs ダン・ヘンダーソン（挑戦者）
郷野聡寛 vs ジョン・フィッチ



レスナーを迎え撃つことになった元ヘビー級王者、フランク・ミア。04年のオートバイ事故による長期離脱後の戦績は2勝2敗。試合結果、内容ともにいまだ、かつての実力を取り戻すには至っていない。

ダナ・ホワイトの言うサプライズの内容はアメリカ地上波放送開始の可能性が高い



三崎・秋山階級 世界一決定戦!!

UFC82 PRIDE OF A CHAMPION

3.1 OHIO

ANDERSON "THE SPIDER" SILVA
UFC MIDDLEWEIGHT CHAMPION

VS

DAN "DANGEROUS" HENDERSON
PRIDE WELTERWEIGHT CHAMPION

王者激突！　大晦日、日本で“魔王”秋山成勲と三崎和雄の闘いが大きな盛り上がりを見せたが、その84キロの階級で最強を決める闘いが、海の向こうで開催されようとしている。UFCミドル級王者、アンデウソン・シウバとPRIDEウェルター級王者、ダン・ヘンダーソンの一戦だ。“パウンド・フォー・パウンド”とたたえられ、もはや敵のいなくなったアンデウソンに正真正銘のライトヘビー級のトップファイターが挑む試合はまさに最強決定戦。やはり、世界最高峰はここにある！

聞き手／堀江ガンツ、上杉革命　撮影／Josh Hedges（UFC）

「階級を落としたくなかったけどタイトルマッチならいいかなって（笑）」

PRIDE王者、UFCの頂点へ再出撃！

ダン・ヘンダーソン



DAN HENDERSON■1970年8月24日米国カリフォルニア州出身。05年『PRIDEウェルター級ＧＰ』制覇。07年2月にはミドル級のベルトも奪いPRIDE初の二冠王に。しかし9月にはUFCライトヘビー級王者、ランペイジとの王座統一戦で惜敗。今年3月、同ミドル級王者、アンデウソンを相手に再び王座統一戦に挑む。180cm、82.9kg。

昨年9月の『UFC75』ロンドン大会にPRIDEミドル級王者として参戦し、UFCライトヘビー級王者、クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンと統一王座を争ったダン・ヘンダーソン。接戦の末、惜しくも敗れたものの、その実力を見せつけたことで、再びタイトル戦のチャンスが訪れることに。次の標的は、UFCミドル級戦線で〝無敵の存在〟となった最強王者、アンデウソン・シウバ。すでに臨戦態勢に入ったダンヘンを直撃した！

——ダン選手！　年末にＵＦＣデビューしたチームメイトのソクジュが残念ながら負けてしまいましたね。

ダン　俺はその試合のセコンドについていたけど、ガッカリしたよ（苦笑）。それは彼が負けたことに対してじゃなくて、彼が自分の力を発揮できなかったことについてね。コンディションは凄くよかったけど、かなりナーバスになっていたんだ。

——オクタゴンの雰囲気に圧倒されていた、と？

ダン　それもあるだろうな。それと、正直言って、マチダ（ＬＹＯＴＯ）があんなに強いとは思ってなかった。彼はいい仕事をしたよ。それに比べてソクジュはひどかった（笑）。

——ソクジュはこの敗戦にショックを受けていますか？

ダン　というか、かなり鬱憤が溜まっているみたいだ。それを次の試合にぶつけるために、もうすでに本格的にトレーニングをしてるよ。

——『ＵＦＣ79』ラスベガス大会では、チャック・リデルとヴァンダレイ・シウバがとてつもない試合をしましたよね。

ダン　いい試合だったな。期待されていたＫＯシーンがなかったけど、二人とも素晴らしいパフォーマンスを見せてくれたよ。

——２００７年のベストファイトという声も挙がっていますよね。

ダン　そうだな。俺とクイントンの試合の次にいい試合だった（笑）。俺はいつかライトヘビー級に戻ると思うから、評価の上がった二人と闘って、ＰＰＶボーナスをガッポリ稼ぎたいよ（笑）。ただ、その前にミドル級でアンデウソン・シウバとやらないといけない。

——そもそも、ダン選手が今回、ライトヘビー級からミドル級に落とした理由はなんだったんですか？

ダン　それはＵＦＣが俺に頼み込んだからさ。俺自身は２０５ポンド（＝約93キロ）でもチャンピオンになる自信はあるから、オファーされたときは正直言えばイヤだった。でも、少し考えてみたんだ。いきなりタイトルマッチなら悪くないし、アンデウソンはほかの選手に圧倒的な強さで勝っている。だったら、みんなＰＲＩＤＥで同階級のチャンピオンだった俺との試合を観たがるんじゃないかなってね。しかも、俺は普段から２００ポンドぐらいしかないから、１８５ポンド（＝約84キロ）まで落とすのはそんなに難しいことじゃないだろう。

——アンデウソンは、ＵＦＣの全階級を通してぶっちぎりの強さを見せていて、パウンド・フォー・パウンドという声も挙がっていますよね。彼のことは、どう評価していますか？

ダン　彼は手足が長くて、テクニックもある。ヒザ蹴りやクリンチがうまいんだ。でもクリンチなら俺も得意だし、俺のような重いパンチを持った選手とは闘ったことがないだろうから、彼は驚くことになるよ。

——ムエタイ仕込みのアンデウソンの打撃は相当に危険ですけど、スタンドでも問題はない、と？

ダン　まったくないな。それより、彼のアゴがどれだけ強いかテストしてやるよ。それに彼のサブミッションは悪くないが、レスリングはそれほどできない。テイクダウンする自信

もある。必ず勝つよ。

——そうなったあかつきには、PRIDEに続いて、UFCでも二階級制覇が目標になりますか？

ダン　もちろん。ただ、UFCはそういう階級をまたがって活躍するようなファイターを作りたがらないんだ。

——それぞれの階級でスターを作る方針ですよね。二つの団体で活躍されたダン選手から見て、UFCとPRIDEではほかにどんな点が違いますか？

ダン　いろいろあるけど、俺の立場からだと、UFCはいつも余裕を持ってオファーしてくれることが嬉しいな。PRIDEはいつも最後の最後に駆け込みでオファーが来ていたから、けっこう困っていたんだ（笑）。

——そうでしたか（笑）。

ダン　でもイベント内容はPRIDEのほうが素晴らしかった。逆にUFCはマーケティングが凄くうまいな。

——団体のトップと接してみて、その違いも感じましたか？

ダン　彼らは違うね。ミスター・サカキバラ（榊原代表）はとても礼儀正しくて、ナイスガイだった。ダナ・ホワイトはファイターのためにいろいろやってくれているが、でもそこに礼儀はない（笑）。彼は言いたいことをストレートに言うタイプなんだ。でも、俺にとって問題はないし、二人ともいいボスだ。

ミスター・サカキバラはナイスガイだったけどダナ・ホワイトは違うね（笑）

——PRIDEのスタッフたちが大晦日にイベントを開催したのですが、ご覧になりましたか？

ダン　半分ぐらい観たよ、HDNet局でね。なんていうか〝パーティ・イベント〟だった。ああいう日本らしいお祭り的なイベントは好きだよ。

——大会を通して、何が印象的でした？

ダン　全部観てないから、なんとも言えないけど、ミサキ（三崎和雄）の集中力が凄かったな。KOされる寸前だったのに、復活して逆にKOしたんだから。ミサキは常に動いていて、倒すのが難しい選手なんだ。アキヤマ（秋山成勲）も凄いファイターだと思ったね。

——ヒョードルがUFCと契約せずに、日本のイベントに出たことについては、どう思いますか？

ダン　ヒョードルは、UFCが独占契約にこだわるのがイヤだったらしいね。俺はアメリカ人だから、UFCと契約してアメリカだけで闘うことになっても問題ないけど、彼はロシア人。自分の国で試合をしてみたいと思うのは当然のことさ。それにヒョードルが『M—1グローバル』と契約して、『やれんのか！』に出たことは、このスポーツ全体にとっていいことじゃないかな。いろんな団体が競争していくことで、ビジネスが発展するしね。

——同じく『M—1グローバル』と接近している、かつてのチームメイト、ランディ・クートゥアーがUFCを離れたことについてはどう思いますか？

ダン　UFCの契約書はどんどん細かくなってきてファイターにとって厳しくなっているけど、こうやって争うことで少しでも状況がよくなるといいと思うね。ボクシングだと、主催者たちだけが儲かって、選手にはなかなかお金が回らない環境だったりもするから。でも今回の件で、今後、選手にとってより厳しい契約書になるかもしれないな（笑）。

——逆に厳しくなってしまう（笑）。

ダン　でも、アメリカ人の俺にとっては、やっぱりUFCがベストの選択肢だ。家族や友だちの前で闘えるからね。とはいえ、日本のファンに会えないのは残念だし、『やれんのか！』を観て日本のショーは最高だと思ったから、いつかまたあの華やかな舞台で闘いたいよ。でもその前に、まずはここでチャンピオンになることが目標だな。

——では、タイトルマッチ、期待しています！

【07年12月28日の米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ＆リゾートでの収録分と08年1月3日の国際電話取材を再構成】

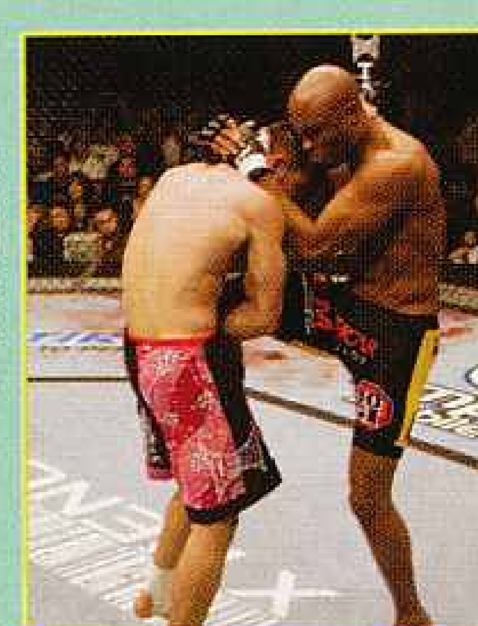
激戦のUFCミドル級で、もはや敵なし！これが全階級中最強王者、アンデウソンだ!!

PRIDE参戦時、長南亮や高瀬大樹に一本負けしたことから、日本での評価は決して高くなかったアンデウソン・シウバ。しかし、そのイメージはもう捨てたほうがいい。

06年10月にUFC本戦に参戦したアンデウソンは、オール一本orTKOで4連勝を重ね、元パンクラス王者のネーサン・マーコートやジョン・フィッチのいる激戦区で、もはや向かうところ敵なしの状態。それは左のランキングをご覧いただければわかるが、UFCファイターに絞って考えれば、2位にあたるリッチ・フランクリンを大きく引き離しており、UFCとしてもライトヘビー級のトップファイター、ダン・ヘンダーソンに階級を落とさせて闘わせるしか挑戦者がいないほど、突出した王者なのだ。

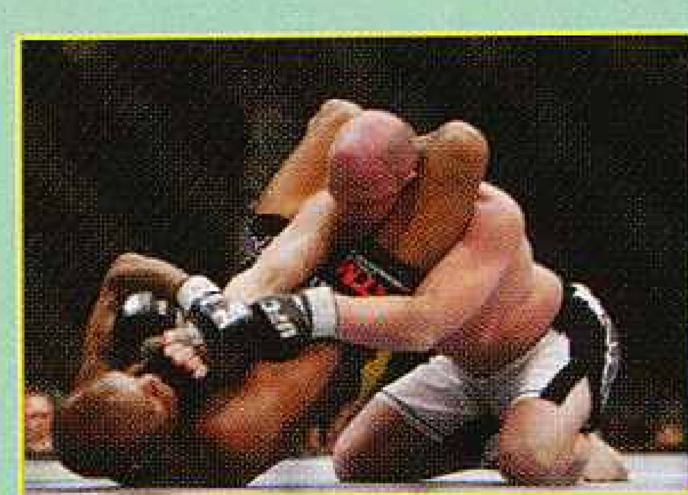
また、このランキングは上位にUFC以外のファイターがいることから、決してUFC贔屓のランキングではないといえるが、大晦日に秋山成勲を倒した三崎和雄でさえも7位止まり。そのはるか上に位置するアンデウソンの強さがどれほどのものかわかる。

一階級上のPRIDE王者、ダンへンを倒すことになれば、アンデウソンを止めるファイターはもうどこにもいない。



UFC本戦初参戦でいきなりタイトルマッチを迎えたアンデウソンは、2年半にわたって8連勝中だった王者をヒザ蹴りで沈めて、ベルト奪取！　ファン、関係者を驚かせた。

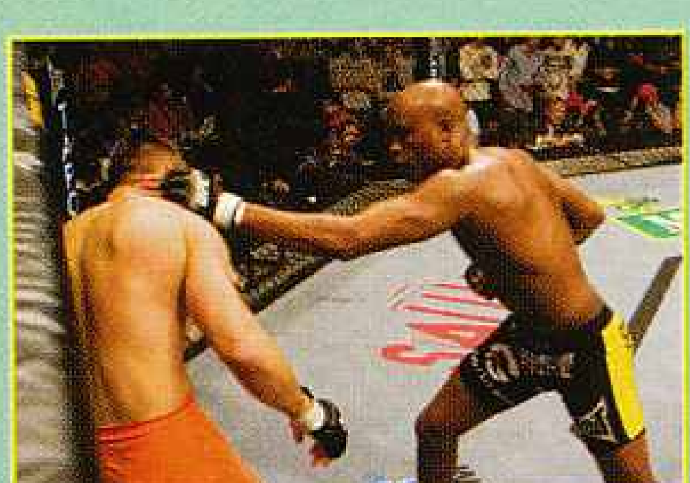
UFC 64
2006年10月14日
○vsリッチ・フランクリン
［1R 2分59秒 TKO］



UFC 67 2007年2月3日
○vsトラヴィス・ルター
［2R 2分11秒 三角絞め］
ルターが前日計量に失敗し、ノンタイトル戦となったこの試合。マウントを取られたアンデウソンだったが、リバースすると三角絞めで捕獲。その状態からヒジを叩き込んで激勝。



UFC 73 2007年7月7日
○vsネーサン・マーコート
［1R 4分50秒 TKO］
長い手足を巧みに活かしてマーコートのグラウンドを封じ込めたアンデウソンは、スタンドでも長いリーチを活かして、ダウンを奪うと、そのまま一気にパウンドでTKO決着！



UFC 77 2007年10月20日
○vsリッチ・フランクリン
［2R 1分7秒 TKO］
一年越しとなった前王者とのリターンマッチ。雪辱に燃えるフランクリンに対し、アンデウソンは鋭い打撃でであっさり完勝。もはや、この階級に敵がいないことを示した。

世界ミドル級（-84キロ）ランキング

1	アンデウソン・シウバ（UFC）
2	パウロ・フィリオ（WEC）
3	マット・リンドランド（フリー）
4	リッチ・フランクリン（UFC）
5	デニス・カーン（HERO'S）
6	ロビー・ローラー（エリートXC）
7	三崎和雄（やれんのか!&戦極）
8	ネーサン・マーコート（UFC）
9	岡見勇信（UFC）
10	フランク・トリッグ（フリー）

（協力／MMA Weekly）



サラブレ2月号 絶賛発売中 定価680円

スターホースたちと期待の若駒たちの今年を占う

2008年 競馬トレンド大予測

- 2008年のダービー馬はすでにデビューしている!?
- ウオッカ、ダイワスカーレットら名牝たちの次なるターゲットは?
- 有馬記念を制したニューヒーロー マツリダゴッホが2008年に歩む道
- 2008年にブレイク必至な未来のGI馬・ホースマン産駒デビューの新種牡馬たち

さらば2007年 ——

- ・四位騎手の「Secret Room」……2007年のGIジョッキーが大終結! ゲスト/岩田康誠騎手、福永祐一騎手、池添謙一騎手
- ・騎手が選ぶ ベストレース&ベストホース……プロの目で選ぶ2007年のMVPは?
- ・2007競馬ちょっといい話……細江純子さん&トラックマンが見た現場の真実

特別付録 携帯できる競馬スケジュール&主要サイアーライン

競馬月刊誌 サラブレは毎月13日発売!



金杯から有馬まで!!

全部見せます 中央競馬2007

重賞年鑑の定番

●JRA全平地GI、JpnIレースインプレッション●2007年GII・III、JpnII・III完全回顧●2007年海外遠征の記録●2007年年度代表馬&各種リーディング●障害重賞プレイバック●交流重賞プレイバック●ターフを去った名馬たち2007●2007年競馬ニュース

全33レース収録 付録DVD付き



2007年平地GI&JpnI全22レース
2007年交流JpnI全9レース
2007年日本馬制覇海外レース全2レース

AB判 176ページ
定価1500円(税込)

1/31(木)発売予定

ケータイサイト サラブレmobile 月額315円(税込)

対応機種:一部例外あり
[iモード] FOMA:70x/90xシリーズ mova:505/506シリーズ
[EZweb] CDMA 1X WIN CDMA 1X
[Yahoo!ケータイ] S3〜S6シリーズ ※3G端末は非対応

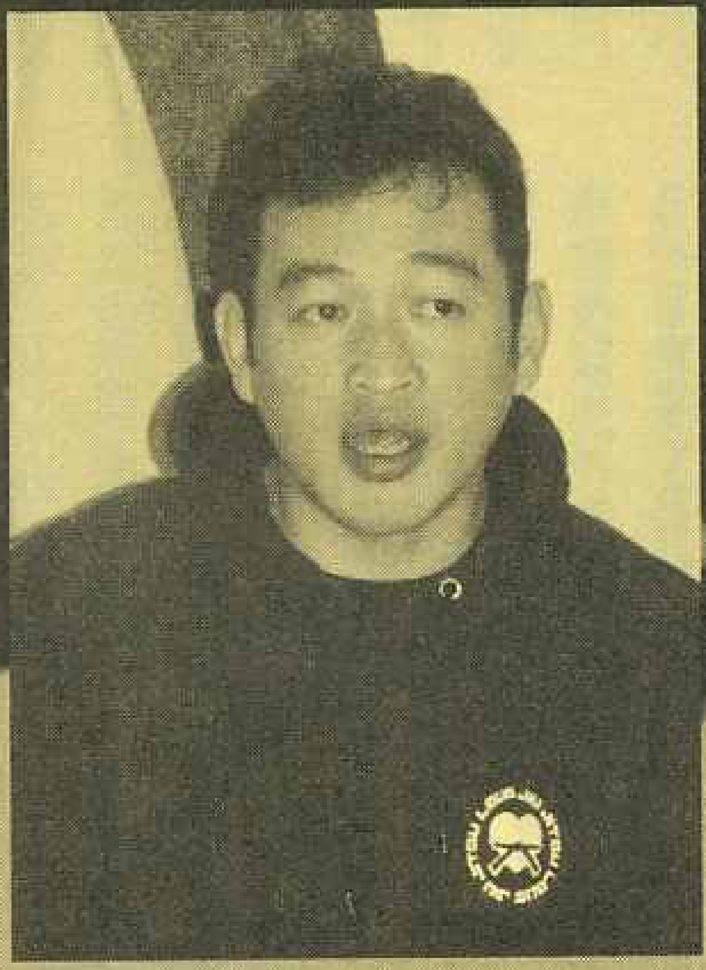
iモード メニューリスト▶趣味/娯楽▶競馬/競輪/競艇▶サラブレモバイル
EZweb EZトップメニュー▶カテゴリで探す▶懸賞・くじ・ギャンブル▶競馬▶サラブレモバイル
Yahoo!ケータイ メニューリスト▶趣味・レジャー▶競馬・公営競技▶サラブレモバイル

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話0570-060-555(代表) http://www.enterbrain.co.jp/

前代未聞!?
『マッスル』大会中に愛妻の死が発覚!

衝撃の新事実が続々発覚!!

前田日明、石井和義、そして、佐山聡 格闘技界BIG3の側近だった男が語る “興行と競技”



日本修斗協会事務局長

若林太郎【前編】

日本修斗協会事務局長&アマチュア普及委員長、パラエストラ東京の番頭、さらにはライター、映像制作など多方面で精力的に活躍しているのが今回登場の若林太郎氏だ。聞いてビックリ、見て仰天! 前田日明、石井和義、佐山聡の右腕だった男が知られざる衝撃発言連発ですよぉぉ!

聞き手/ジャン斉藤 構成/阿修羅チョロ 協力/(株)クエスト

『kamipro』は無理に修斗を扱う必要はないんじゃないですか

そもそも『kamipro』では、これまでほとんど修斗を取り上げていないし、競技だとかアマチュアだとか技術論は、どちらかといえばお手上げ状態。そんな中、今回『kamipro』に初登場となる若林太郎氏は、自らが制作する修斗のパンフレットでは、いつも何かに怒っているイメージが強い。正直、取材前は不安が募った。しかし、若林氏はこれまで前田日明、石井和義、佐山聡といった格闘技界の超ビッグネームの側近を務めていたこともあり、ネタの豊富さは折り紙つき。微妙な緊張感が漂う中、おそるおそるインタビュー、スタート！

若林 『kamipro』といえば、このあいだ、ライターの布施（鋼治）さんに「ダメだよ、見なきゃ」って言われて、俺も『kamipro Hand』に入りましたよ（笑）。

――ありがとうございます（笑）。ただ、日本修斗協会事務局長の若林さんを前にして、言いづらいんですが、ウチは誌面で修斗のことはほとんど取り扱ってなくて。

若林 それは知ってますけど、『kamipro』はこのままでいいと思いますけどね。無理に修斗を扱う必要はないんじゃないですか。

――そうですか。それはそれでどうなんでしょうか（笑）。

若林 それに、いま青木（真也）を一番おもしろく扱ってくれてるじゃないですか。（『kamipro』118号の前田日明変態座談会を見ながら）あと、これはおもしろかったですよね。よく前田さんのことを見てるなぁって思って（笑）。

――若林さんにも、かつて一緒に仕事をされていた前田さんに関しても、たっぷりお話を聞かせていただければと思ってます。

若林 俺がこんなこと言ったら、また絶対に怒るなあなんて思って（笑）。まあでも、こういう話が載せられるって、いい時代になったんじゃないですか。

――いわゆるプロレスの仕組みの話が普通に活字にできる時代になってきましたよね。7年ぐらい前は絶対に無理でしたけど。

若林 そうですよね。（『kamipro』をめくりながら）花くま（ゆうさく）さんのコラムも必ず読みますしね。修斗のパンフの『修斗の汁』はこれのパクリですから。

――修斗のパンフレットでは若林さんはメチャクチャ原稿を書きまくってますよね。しかも、いつも怒っている印象が強いですけど（笑）。

若林 そうそう、そういうキャラにしてるんで（笑）。文句言いキャラのほうが楽だし、ライターでも怒ったことを言ったり書いたりする人は少ないじゃないですか。

――ボクは若林さんのことを「修斗の怖くて偉い人」っていうイメージしかなくて、読者はなおさらどういう人なのか知らないと思うんですけど。2年前に出た『ガチ！』という雑誌でロングインタビューが出ていましたけど、あれを読むとかなり濃い格闘関係者人生を送ってますよね。

若林 望んでこうなったわけじゃないんですけどね（笑）。紆余曲折があっていまがある、と。

――そのインタビューを読んで思ったのは、興行と競技の両輪を転がしていく過程っていうのを若林さんはずっと見てきたんだなっていう印象があるんですよ。リングス、K－1、そして修斗と。

若林 そうですね。わりとこの世界って、興行に興味がある人しかいない感じがするんですよね。

――ウチなんかもそうですね。

若林 たまに「何々を競技としてやっていきたい」とか言ってる人とか団体もあると思うんですけど、なんだか空想というか綺麗事になっちゃってるっていうか……。

――それは『戦極』とかですか？（笑）。

若林 いや、『戦極』さんは逆にまだ興行のことも現段階ではわかってないんじゃないかなって気もするんですよね。誰が主体なのかわからないように僕には見えるので。

――現時点ではそうですよね。で、そんな若林さんの人生を通すことで「興行と競技」を掘り下げていきたいと思いますが、ウチの雑誌は競技という部分は、まったくお手上げなところがあるんですよね（笑）。

若林 まあ、興行じゃないと煽りづらいですよね、雑誌的には。僕がこの業界に入った頃も競技という命題はぜんぜん現実じゃなく、理想でしかなかったし。まだ総合格闘技そのものが小さい世界でしたから。

――いまと比べるとそうですよね。まずは、若林さんが、この業界に入ったきっかけからお話をおうかがいしたいのですが。

若林 業界はリングスからですよね。もともと、僕の大学の先輩に治郎丸（明穂）さんというライターさんがいて。たぶんいまは知らない方のほうが多いと思うんですけど。

――治郎丸さんという方は初期リングスには欠かせない人物だったみたいですね。

若林 そうですね。『格闘技通信』の創刊時代に本格的な格闘技系の記事が書ける数少ないライターの一人で、確か布施さんと同期なんですよね。で、その方が僕の大学1年のときの4年生の先輩で、当時『週刊ビッグレスラー』のUWF番をされていたんですよ。

――じゃあ、その先輩に誘われるかたちで？

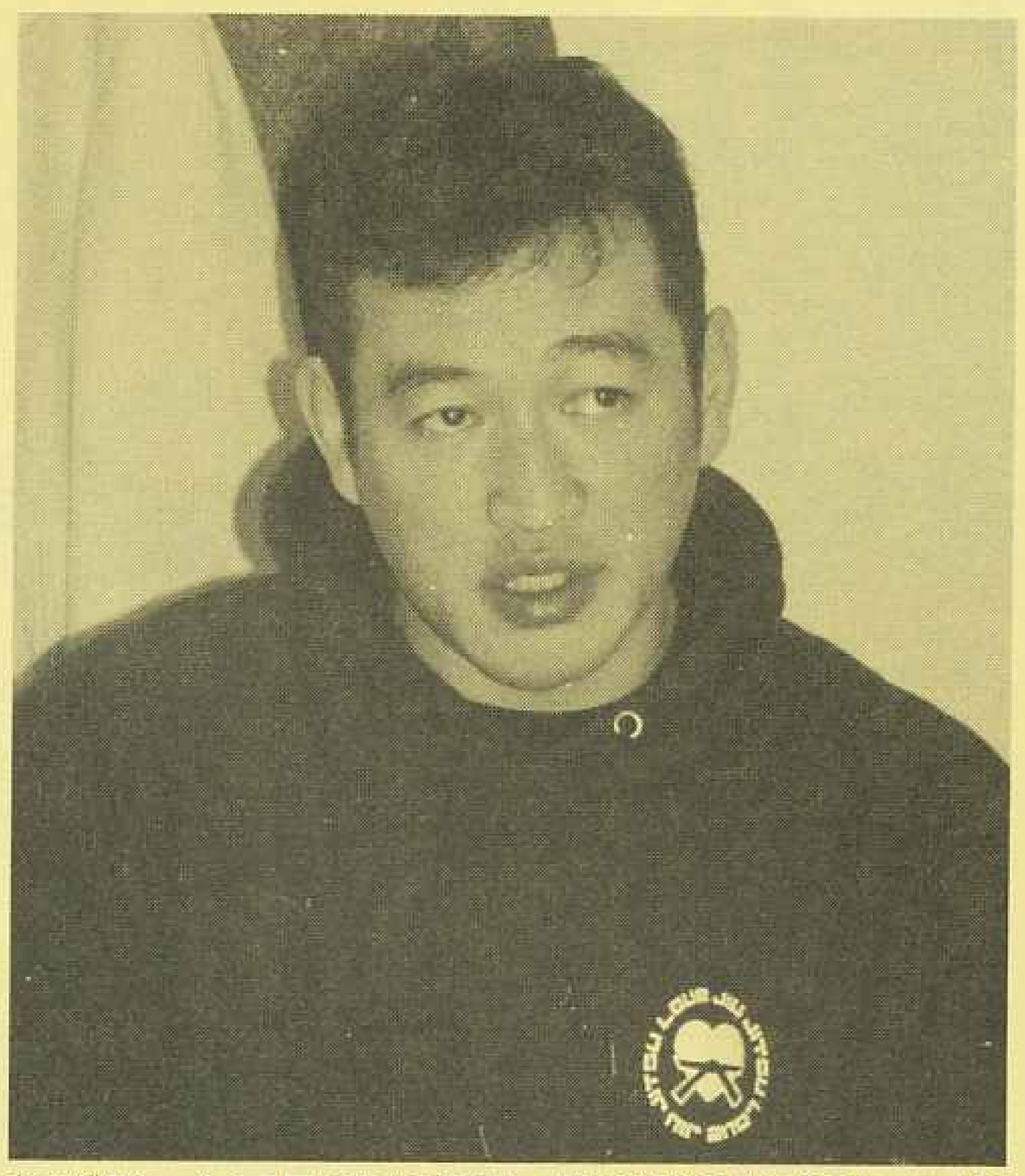
若林 そうですね。治郎丸さんとは格闘技以外の趣味も合ってて、いろんな意味で自分の一歩先を歩いている人という感じでした。

――この業界に関わる前というのは普通のプロレスとかはご覧になってたんですか？

若林 普通にバリバリのプロレスファンですよ。タイガーマスク全盛期ぐらいから熱中しだして、それこそ金曜夜の『ワールドプロレスリング』は正座して観ているような感じでした。いまサンビストになった弟（次郎）と、柔道をやってたオヤジが「プロレスは八百長だよ」って言うのに二人で反抗して、「お父さん、プロレスをやったことがないくせに何がわかるんだ！」なんて言ってましたよ。おそらく父は『太陽にほえろ！』が観たかっただけなんでしょうけど（笑）。

――なるほど。昔の家庭にありがちな風景ですね（笑）。

若林 高校の文化祭ではアマチュアプロレスみたいなのもやってましたからね。プロレスファンとしては技オタクで、そのへんから格闘技とか古武道にも興味が広がっていって、どんどん格闘技の技術書とかを読んだりするようになっていって。浪人のときに旧UWFの『無限大記念日』があったんですけど、当時



わかばやし・たろう■1965年7月8日、大阪府出身の北海道育ち。日大芸術学部を卒業後、電通ブロックスに入社。92年にリングスに入社するも数ヵ月で退社。オフィス・ミツルギを経て、設立当初のK-1に携わる。同時にライターやビデオ制作も行ない、94年からは修斗のマッチメイクやイベントディレクターを務める。現在の肩書きは日本修斗協会事務局長&アマチュア普及委員長。同時に番頭として中井祐樹とともにバラエストラ東京を運営。 ブログ「番頭日記」→http://blog.livedoor.jp/ban10tyo/

ストロングスタイル時代からのコアなプロレスファンはみんなＵＷＦに流れていくんですよ。

――多くのファンがＵＷＦへ大移動しましたよね。

若林　僕も大学に入ってからは、旧ＵＷＦの後楽園ホール大会にはずっと通ってましたし。それで大学4年の新生ＵＷＦ旗揚げ直前に、交流が続いていた治郎丸さんに「ＵＷＦに入社せんか？」と言われて。治郎丸さんって当時、前田さんの個人的なプランナーだったんですよ。

――そうみたいですね。当時、新生ＵＷＦっていうものに対して、どういった目で見ていました？

若林　すでにプロレスの仕組みの話は治郎丸さんからけっこう聞いてたんですが、まだＵＷＦはそうじゃないと思ってました。ただ僕も試合を興奮して観つつも、心のどこかで「なんかちょっと嘘くさいよな」とは思ったりしてはいましたね。ただ、当時、新生ＵＷＦの中身がどうだったかっていうのは、僕も詳しくは知らないんです。リングス時代のことで言うと、社内にも試合が全部ガチンコだって信じている人はいましたよね。前田さんは基本的に、スタッフには試合の仕組みに関しては言わない人でしたから。

――でも、リングスの中にも、「リングスの闘いっていうのはかなり特殊で、一概にヤオガチでくることはできないんだ」って言う人もいたと思うんですけど。それはやっている選手本人たちじゃないとわからないっていう部分はあったんですかね？

若林　基本的に真剣勝負なのかどうかを、結末が決まっているかどうかでくることはできると思うんですけど、プロレスというシステム自体あまり知らなかったり、訓練されていない選手が多かったんですよ。とくにロシアの選手が素をむき出しでリングに上がっちゃったら何が起こるかわからないっていうか（笑）。

――ダハハハハハ！　そりゃそうですね（笑）。

若林　ＵＷＦって一つ発明があったじゃないですか。致命傷を負わせない攻撃はおもいっきりするとか、万が一アクシデントが起こっちゃったときは結果を逆転できるとか。

――いわゆる「当たっちゃったらごめんね」ルールですね。

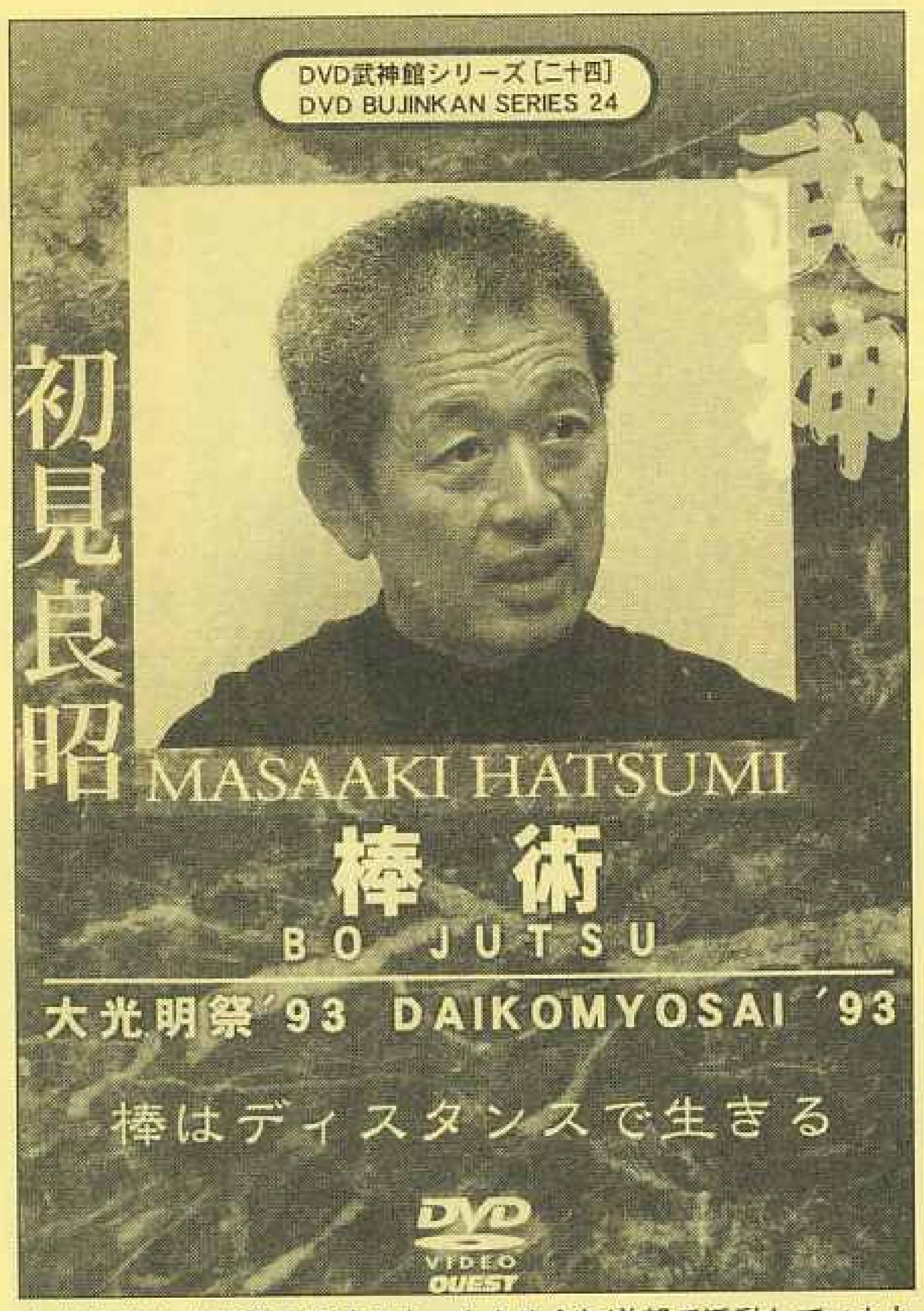
若林　それが真剣勝負プロレスっぽく見せるシステムとしての発明だってことですよね。とにかくロシアの人たちは格闘技的には本当に凄い人が多かったですからね。

――凄い時代でしたよね。

若林　彼らがリングに上がって段取り的なものを忘れちゃって、約束していないものをもらったときに真剣に立ち戻ってしまう瞬間はあったと思うんですよ。たとえば、前田さんとヴォルク・ハンの初戦とかはガチンコの瞬間があるように僕には見えるし、実際にそうだったと聞いています。



同じくクエストから発売中の『新体道〜気の栄光〜』も若林氏が手がけた作品だ。空手・柔術・棒術からなる新体道武術のほかに、滝行や、光と戯れる“ワカメ体操”なる瞑想組手も収録。「天地人々我一体」の観念と体技を完全網羅のこの作品、必見ですよ！



大学時代は古武道に興味があったため合気道部で活動していたという若林氏はクエストから発売中の武神館シリーズ『棒術』をはじめ古武道関連の作品も数多く手がけている。この作品を観れば「棒はディスタンスで生きる」という意味もきっとわかるはず!?

いまの新日本と新生ＵＷＦってあまり変わらないんじゃない（笑）

ます。結局はプロレスなんですけど、その瞬間はヤバかったと思いますよ。ハンは普通にニールキックよけるし。ハッと我に返って二発目を受けるんですけど（笑）。

――とんでもないリングですね、本当に（笑）。

若林　そうですね。リングスには旗揚げのときに治郎丸さんから誘われたんですけど、そのときはもう社会人だったし、結婚して子どももいたので断わりました。だから旗揚げ戦はチケット貰って観に行ったんですけど、正直「ああ、ＵＷＦだなあ」っていう感想しかありませんでした。ただ、不器用なプロレスが真剣っぽく見えるっていうのは前田さんのＵＷＦにおける発明だったと思うんですよね。オランダ人選手の試合なんかはまさにそれです。

――オランダ勢は不器用な選手が多いですからね（笑）。

若林　そういう意味では新生ＵＷＦはうますぎて、いま見るとバリバリのプロレスですよね。いまの新日本プロレスと当時の新生ＵＷＦを比べたらあんまり変わらないんじゃないかなと思いますね（笑）。

――確かに（笑）。

若林　中邑（真輔）選手とかの試合のほうが、技術的にも総合っぽい気もするし。

――中邑選手もある意味、不器用ですからね（笑）。

若林　中邑選手は大昔、アマ修斗に出たことがあるので、密かに応援しているんですけどね。

――話を戻しますと、治郎丸さんは「世界最強はリングスが決める」というキャッチコピーだとか、リングスにまつわるアイデアをいろいろ出した方なんですよね。

若林　そうです。コンセプトワークを作るのが得意な、とにかくプランナーとして凄く優秀な人だったんですよ。前田さんとも信頼関係がかなりあったと思うんですよね。なんたって『パワー・オブ・ドリーム』のゴーストライターですからね。

――じゃあ、ホントに前田さんと信頼関係を築かれていたんですね。

若林　ライターとしても優秀でしたし、やっぱり僕が凄く影響された先輩であることとは間違いありませんね。紆余曲折あった時代は「こんな世界に引きずり込みやがって！」なんて気持ちになった瞬間もありましたけど、いまの僕があるのは治郎丸さんのおかげなんで。治郎丸さんと出会わなければ、僕はこういう人生を歩まなかったと思いますね。

――ちなみに、リングスでどのようなお仕事をしていたんですか。

若林　はじめは治郎丸さんのサブみたいな仕事ですよね。サブ・プランナーみたいなかたちで。あんまり明確な役職はなかったと思うんですけど、治郎丸さんがいなくなってからは完全にその跡継ぎみたいなかたちです。短い期間ですけどね。

――具体的にはどれぐらいの期間だったんですか？

若林　リングスの社員だったのはわずか1カ月ちょっとですね。入社に

前田さんに「真剣勝負の団体を作りたい」って直接言われたんです

気持ちが傾いたのは、ヴォルク・ハンが初来日した『炎上』（91年12月7日、有明コロシアム）を観てからです。会場で観て「何か、いままでと違うな」と凄い可能性を感じたんですよね。ヴォルク・ハンの試合もそうだし、佐竹（雅昭）や角田（信朗）さんとか正道会館勢が上がったこともそうだし。とくに第1試合だった木村浩一郎vs（グロム・）ザザなんて、「どう考えても、プロレスならこんな流れは作らないだろう」って展開で。あとで治郎丸さんに「この試合おかしくないですかね――」って聞いたら、「ガチやからな」って言われて。

――それはいわゆる〝ブレンド〟と呼ばれるものだったんですか？

若林　いや、〝ブレンド〟ですらなかったですよね。

――うわ〜！　じゃあ、可能性を感じるわけですよね。その方向性を決めていたのは前田さんなんですか、それとも治郎丸さんなんですか？

若林　最終的なことを決めていたのは前田さんだと思います。ただ、プランナーとして提案していたのは治郎丸さんなんじゃないかなとは思いますね。治郎丸さんが引っぱって、前田さんが賛同することもあれば、揺り戻しもあるという感じで。

――じゃあ、いいコンビだったんですね。

若林　僕はいいコンビだったと思います。リングスっていう言葉を考えたのは前田さん本人なんですけど、それ以外のさまざまなコピーとか、たとえば「アストラルバウト」とか「メガバトル」なんて言葉は全部、治郎丸さんが名付け親ですからね。僕と出会った頃はまだやってなかったんですけど、治郎丸さんは養神館合気道に通ってたんですよ。

――そうなんですか。

若林　『格闘技通信』に治郎丸さんがやった合気道特集号っていうのがあって、それを担当する前ぐらいの段階から興味があったらしいんですけど。僕は大学で合気道部だったので、その号にも本や資料を提供してました。合気道を突き詰めると神道的なことに興味が向いたりするので、わりとそっちからのネーミングも多かったですよね。札幌大会の「神威」なんかもそうですし。

――でも、当時の前田さんといったらかなりのネームバリューがあって、ファンもいて、そこに治郎丸さんのような頭脳が加わったら、何か革命的なことが起こるのを感じてもおかしくないですよね。

若林　旗揚げ戦のときはまったく感じなかったんですけど、リングス・ロシアができたあたりですね、それを感じだしたのは。ヴォルク・ハンやザザの登場は衝撃でしたたから。あとは佐竹や角田さんが参戦したのも衝撃でしたよね。こういう格闘家も上がるリングなんだって。あとは「リングス」っていう名前自体が凄くよかったと思うんですよね。UWFって名前自体はやっつけで、結果論じゃないですか。でもリングスは、いろいろなリングがリンクしていくからリングスだって。最初、雑誌に載る前に治郎丸さんから聞いたときには、「その発想こそが総合格闘技だな」って思いました。当時からいろんな格闘技や武道に興味があって、いろいろ観たり読んだりしていた僕にとって、それはとてもピンとくるネーミングでした。

――総合格闘技の理想を感じた、と。

若林　その前田さんのコンセプトを治郎丸さんが膨らませていく感じで、凄いなあと思ってたんですけどね。で、リングス・ロシアが現われたときに、これはそのとおりのものになるかもしれないなあっていうのはあったんですよ。『炎上』と確か、一週間とか二週間違いで（トレバー・）バービックと髙田（延彦）をやったUWFインターの両国大会も観に行ってるんですよ。

――その結果、リングスの可能性をより感じたわけですか？



新生UWFの解散後、前田日明がWOWOWの支援を受けて設立したのがFighting Network RINGS。旗揚げ当初、前田以外はクリス・ドールマン率いるオランダ勢やアメリカのファイターが中心だったが、その後、ヴォルク・ハンらロシア勢や佐竹ら正道会館勢の参戦によってリングスの勢いは加速。

若林　僕はUWFインターとかはまったくノれるものがなかったですから。

――それはなぜですか？

若林　空気がなんだかとてもプロレスっぽくて。「ああ、新日本をやろうとしているんだな。IWGPをやろうとしているんだな」というふうに見えましたね。それと比較するとリングスは明らかに、何か新しいものが始まりそうな気がしたんですね。まだかたちは整っていないけど。『格通』がそれを「さまよえる格闘家」なんて煽りだす直前で。

――ありましたねぇ。

若林　そういうのもあって、リングスは化けるかもと思ってました。しばらくして、これは治郎丸さんの作戦だったと思うんですけど、その年のリングスの忘年会に呼ばれたんですよ。その席で前田さんに「真剣勝負の団体を作りたいから協力してくれ！」って直接言われて。それがトドメですよね、やっぱり（笑）。

――それを言われたらもう入るしかない、と（笑）。

若林　プロレスファンだったら、誰でもそうなるでしょ！　治郎丸さんからいろんな内幕は聞いてるとはいえ、やはりまだまだファンでしたからね。じつは僕、リングス旗揚げ前に勧誘されたときにも、できたばっかりの前田道場に呼ばれて、第1回の新弟子テストに立ち合ってるんですよ。

――そうなんですか？

若林　治郎丸さんに「新弟子テストがあるから来い！」って呼ばれて。そのときは、ヤマヨシ（山本宜久）くんとか成瀬（昌由）くんとか、あと桜井隆多もいたらしいんですけど。で、行っちゃった。僕はわりと

前代未聞!?
『マッスル』大会中に愛妻の死が発覚！

図々しかったんですかね、昔から（笑）。治郎丸さんと親しかったのもあるかもしれないですけど、選考にも参加させられて、鍋も前田さんのところで食べてますから。

――凄いなあ（笑）。

若林 そのテストのときに前田さんは「180センチ以上の選手がほしい」って言ってたんですよ。で、180センチ以上の大きいヤツがいたんですけど、そいつはどう見てもモノにならないだろうっていう感じで。それで、もう一人小さいけどとにかく根性があって、明らかにその大きいヤツより良さそうなテスト生がいたんですよ。それが成瀬くんだったんです。そのときは社員でもないのに「この選手は絶対に入れたほうがいいです」って僕もさんざん主張してました（笑）。そんなこともあって、忘年会以前から前田さんとはちょっと面識があったんですよ。

――ちょっとどころじゃないですよ、それは！（笑）。でも、その当時の前田さんに「真剣勝負をする団体を作りたいんだ！」って言われたら……。

若林 そうなんですけど、その当時はコマーシャル制作会社の正社員で、バブル絶頂期で給料もかなりよかったんですよ。

――そのままでいいじゃないですか。ボクならそのままです（笑）。

若林 ただ、バブル全盛期でとにかくもの凄く忙しかったんですよね。もちろん格闘技の会場になんて、まったく行けないし、練習なんてできるわけもない。そういう状態が3年続いてフラストレーションが凄くあったんですよね。このまま一生、格闘技から離れた生活をしていくのかなって。ただ会社は、とにかく何があっても3年は続けようって思って暮らしてました。その3年目が近づいてきたジャスト・タイミングで、前田さんから直接「真剣勝負の場が作りたいからキミが必要なんだ」なんて言われたら「わかりました！」って言うしかないじゃないですか、そんなの（笑）。



現役時代から仲が良かったという佐竹雅昭、現在も『HERO'S』等で活躍する金泰泳がジャケに登場の正道会館の後楽園初進出興行『聖戦Ｉ』のビデオも手がけている若林氏。臼田勝美も参戦してます。

――まあ、そうですよね。しかも、歴史的な瞬間に立ち合えるかもしれないですし。

若林 そうですね。ただ映像を作る仕事というのも僕にとってはずっと目指してたものだったので、それまでは勧誘を断ってたんですよね。ただリングスはWOWOWでオンエアしていたのもあって、これも治郎丸さんの作戦だと思うんですが、「リングスに入ったら、格闘技も映像もできるやんけ！」と。その一言でちょっとやられましたね。

――実際入ってみてどうでしたか？

若林 入ってみてどうというか、翌年の3月いっぱいまではコマーシャル会社にいたんですけど、有給が凄い貯まってたんで1月の興行からは全部休み取って、スタッフとして会場に行ってるんですよ。だから、長井満也vs木村浩一郎とか、角田vsロブ・カーマンの試合のときもリング下で担架を持って待機してましたし。あと、次は尼崎大会だったかな。その日は確か佐竹vsフレッド・オーストロンっていう試合があったんですよ。このときから佐竹が入場するときはゴジラが登場するようになったんですけど、そのぬいぐるみに入ってたのは僕ですからね（笑）。

――ダハハハハ！　そこまでやってましたか（笑）。

若林 ゴジラも好きだったんで、それも夢がかなったかなという感じで（笑）。ゴジラは尼崎、広島の「雷」と計2回入ってますね。

――で、その頃の格闘技界ってメチャクチャ刺激的な時期ですよね。

若林 そうですね。あの頃は凄い刺激的でしたね。西（良典）さんがリングスに上がられたり。『格闘技オリンピック1』っていうのがその年の3月26日にあったんですけど、当時、正道会館にはイベントスタッフがほとんどいなくて、リングスのスタッフが裏方をほぼ全部やったんですよ。そのときもリングスのスタッフとして会場にいましたね。

――前田さんはいまでも「ノウハウをK-1に盗られた！」って言っていますけど、そういった思いもあるんでしょうね。

若林 前田さんの立場だったら、そう思うでしょうね。で、『格闘技オリンピック』とリングスのリンクがあって、市原海樹選手が出たり、平（直行）さんが出たり、結局それが僕が初めに〝リングス〟っていう言葉を聞いたときにイメージした、いろんなリングから選手が集まってくるっていうものそのものだったんで、「あ、本当に実現するんだな」という感慨はありましたね。もともと「総合格闘技の競技化」っていう言葉に僕は凄いロマンを感じていたので。

――総合格闘技と言われ始めたのはどのぐらいの時期ですかね？

若林 なんかそういう言い方は新生UWFの頃もしていたと思うんですよ。実際にそれに取り組んでいたのは当時、シューティングと大道塾ぐらいだったんですかね。とにかく僕らはその言葉に、プロレスから総合格闘技にってことに夢見た第一世代なんで。

佐竹と一緒に入場してたゴジラの中に入ってたこともあります（笑）



現在はUFCを主戦場としている郷野聡寛が優勝を飾っている1995年に熊本で開催された無差別級トーナメント「武人杯」のビデオも手がけている若林氏。ちなみにトーナメント4位は芳賀元太だ（各自調査）。

――当時のライターでもUWFで挫折して純格闘技のほうにのめり込んだ人はけっこういますけど、やっぱりその世代の人っていうのは競技化に対する思いっていうのは一番強いのかなと思いますよね。

若林 いまプロレスを楽しんでるファンとは、おそらくプロレスに対する真剣度が違うような気がするんですよね。僕が真剣にプロレスを観ていたときは、本当にアントニオ猪木が世界で一番強いと信じてましたからね。だって、『ワールドプロレスリング』を正座して観ていたわけですから。正座せざるをえない心情だったわけですよ。青春の、まさに青き時代ってヤツですかね（笑）。それをどんどんリアルな方向に味つけをしていったのがUWFだったんで、そりゃあのめり込みますよ。一つの革命を見ているかのように思ってましたね、当時は。

――少年時代にそれを観ていた人たちが業界に入ったら、当然そういう方向に向かいますよね。

若林 それが本当に形になるかもと

いまのプロレスファンとはプロレスに対する真剣度が違う気がする


前田日明やリングスだけではなく、創生期のK-1、そして石井前館長とも密接な関係を持っていた若林氏。第一回UFCで優勝したホイス・グレイシーの存在を知った石井前館長がとった行動とは？　次号をお楽しみに!!

思ったのは、やはりリングスからでしたね。

――でも結局、治郎丸さんは前田さんのところを離れちゃうんですよね。

若林　そうですね。『格闘技オリンピック』の頃が治郎丸さん体制が一番うまくいっていた時代だったんですよ。僕は治郎丸さんの下でいろいろなことをやってて。そういえば、まだコマーシャル会社にいた頃、「リングスルール・ロシア語解説ビデオ」っていう自主制作ビデオを監督したことがあるんですよ。

――そんなビデオの監督まで（笑）。

若林　ソビエトとグルジアに最初にスカウトに行く前に、治郎丸さんに頼まれて。公式記録員だった田代さんがレフェリー役で、山本くんと成瀬くんがリングスルールを実演するという。それで、当時のリングス社員の友だちのロシア語ができる人にテロップを書いてもらって、CM会社の編集室を夜中に勝手に使って作って（笑）。だから前田さんは、それを持ってロシアに行っているはずなんですよね。それを作ったときにも「リングスってここまでやるんだ」って感心したんですよね。

――そこまでワールドワイドなプロモーションはなかったでしょうし。

若林　そのロシア勢の登場した「炎上」って大会を境に、ガチンコ率が凄い増えるんです。でも、そのせいでケガ人が続出したんですよ。

――それはケガ人も出るでしょうね。

若林　当然ガチンコの試合をしてるわけですからね。あとはまだブラジリアン柔術が世に出てなかった時代だから、寝技を解説する言葉がなかったんですよね。クロスガードだとかパスガードだとか。観る側もやる側もそれを知らないから、寝技の攻防の機微を楽しめる状況はまったくなかったですね。そういう意味で「真剣勝負はエンターテインメント的にどうよ？」っていうのが前田さんの中にはあったと思うんですよ。

――なるほど。

若林　あとはやっぱりアマチュアがないまま、試合をやってたじゃないですか。総合の試合経験がなく、技術的なアレンジがないまま、各々がそれぞれのバックボーンを生かしたまま真剣勝負をしようとすると、どうしても相手の技術の殺し合いになっちゃうんですよね。当然それは膠着に結びつくわけです。だからそれだけでは客がついてこないという思いは、前田さんは強かったと思うんですよね。それとやっぱりお金も凄いかかっていたと思いますし、毎回毎回。詰まるところやっぱり競技団体ではないんですよね、リングスは。

――営利目的の興行団体ですよね。

若林　興行団体なんで、会社を回していかなきゃいけないっていう思いは凄くあったと思うんですよ。だからプロレスへの揺り戻しが起こってきた。そのへんのバランスに関しては、前田さんにしかわからない部分もあったのかもしれません。だけど僕は夢だけ追いかけてリングスに入ったところだったんで、「なんでガチンコじゃないんだ！」とか好きなことを言っていたんですけど。経営者的な判断もあったと思うんですよね。ロシアからは定期的に呼ばなければいけない、オランダからも呼ばなければいけない、WOWOWのために興行も定期的にやらなきゃいけない。そのためにはどうやっていこうかっていう。

――理想だけ追求して潰れたら元も子もないだろうっていうことですよね。

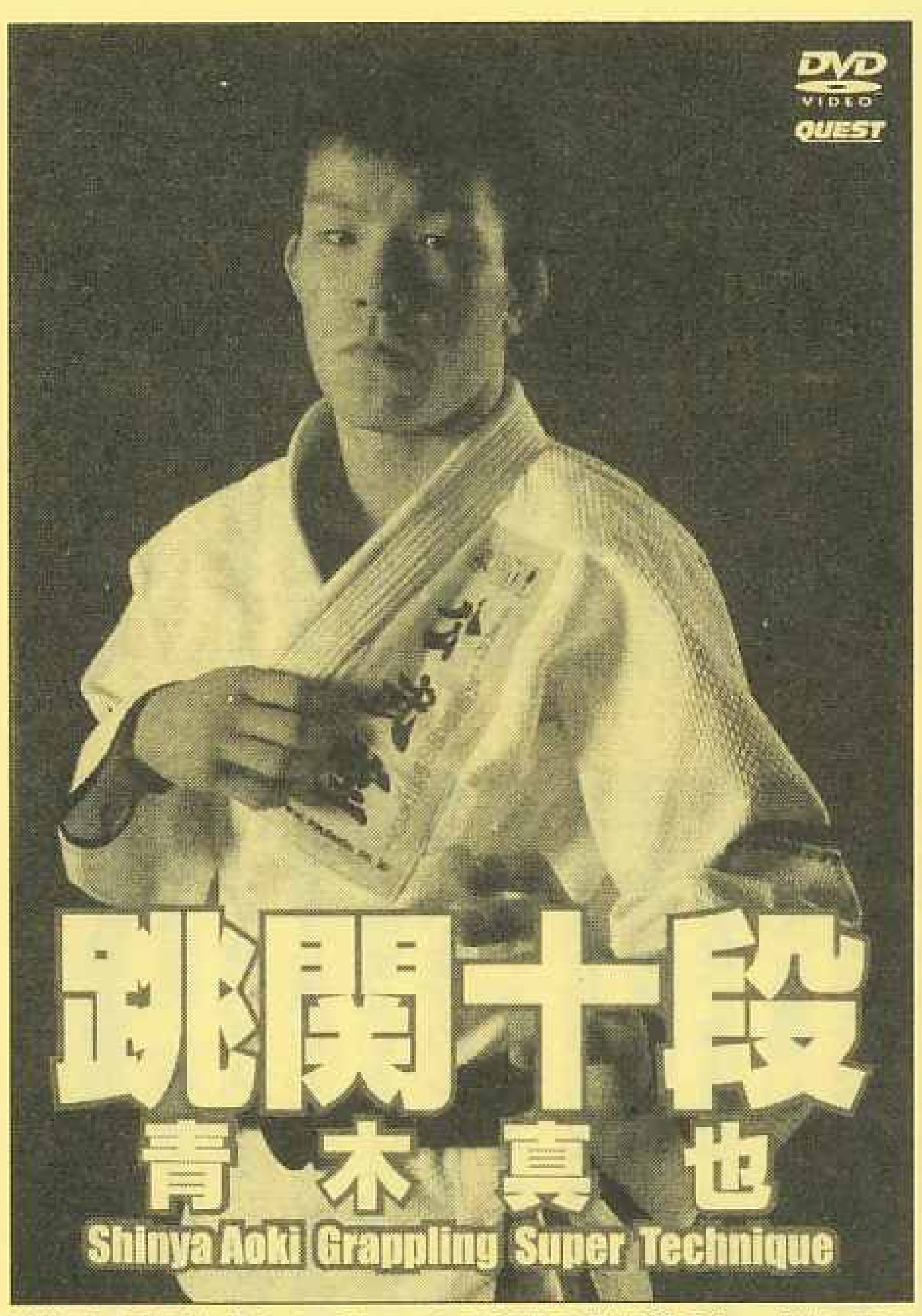
若林　それもあったと思いますね。やっぱりリングスに夢を抱けたのは、WOWOWで中継していたので、それにかける予算が潤沢にあったことですよね。あとは当時は、シューティングこそ、ちゃんと選手を育てていたんですけど、ほかにはアマチュアの総合格闘技っていうものがほとんどなくて、僕もまだ自分たちで選手を育てるってことまでは気が向いてなかったんですよ。道場というものの本質や重要性が見えてなかったんですね。それよりもいろんな国から、いろんな競技の人たちが集まるっていうほうが理想に近づくんじゃないかって思っていた部分もありました。そのためにはリングスのように中継してたり、お金がないと無理だなっていうのが最初に僕の頭の中にはあったんですよね。だからリングスに入れれば、「総合格闘技の競技化」は実現できると単純に思ってましたから。

――そういう夢を実現させるぐらいのパワーが当時のリングスにはあったってことですね。

若林　そのための条件は、その段階では一番持っていたでしょうね。UFCが発足する前は、海外では総合格闘技なんてほとんどない時代でしたから。オランダに行っても総合なんてまったくなかったですし。

――で、その旗振り役であった治郎丸さんがリングスを辞めることになったのは何がきっかけなんですか？

若林　前田さんは治郎丸さんには、試合の中身の話はしてたみたいなんですよね。新生UWFのスタッフに聞いても、ほかのスタッフにはそう



若林氏が番頭を務めるパラエストラ東京の代表選手といえば、この人・青木真也。現在、若林氏は2月に発売になる青木のDVD『跳関十段』のパート2を制作中。今回はパート1をプレゼントでワオ！

前代未聞!?
『マッスル』大会中に愛妻の死が発覚!

「前田抜きのリングスを作ろう」という密議が行なわれたんです

いう話は一切しなかったって聞いてるんで、前田さんは治郎丸さんにだけは心を許してたんだと思うんです。

――治郎丸さんはマッチメイクにも関わってたんですよね?

若林　そうですね。だからなんでも話せる仲だったと思うんですね。UWFのみんなが前田さんのもとから去っていって、一人ぼっちになったときのプランナーが治郎丸さんなんで。ただ人間、うまくいって余裕ができてくると、いろんな疑心暗鬼も生まれるものじゃないですか。で、結局、徐々に真剣勝負の試合が減ってきたイメージが僕にはあったし、治郎丸さんはもっとあったと思うんですよ。その不満を周囲の関係者に治郎丸さんが漏らして、それが回り回って前田さんの耳に入って。

――「何、勝手なこと言っとんのや!」と。

若林　「おまえ、リングスが八百長って言ってるらしいな」って。それは前田さんにとっては最大の裏切りだったと思うんですよ。でも実際のところを話さないでそんな詰め寄り方をするっていうのは、当時の僕にとっては前田さんの裏切りなんですよね。でも、前田さんにとってはやっぱり治郎丸さんは許せない。リングスって週に一回会議をしていたんですけど、前田さんが突然会議中に爆発して、机の上にあった『四角いジャングル』全11巻を両手でガバッと挟んでそのまま投げつけて、さらに治郎丸さんの肩を持って「オラーッ!」って床に叩きつけたんです。

――ダハハハ!　なぜ『四角いジャングル』(笑)。

若林　当時ウィリー・ウィリアムスを呼んでて、パンフの煽り原稿を書かされたときに僕が神保町で買ってきてたんですよ。

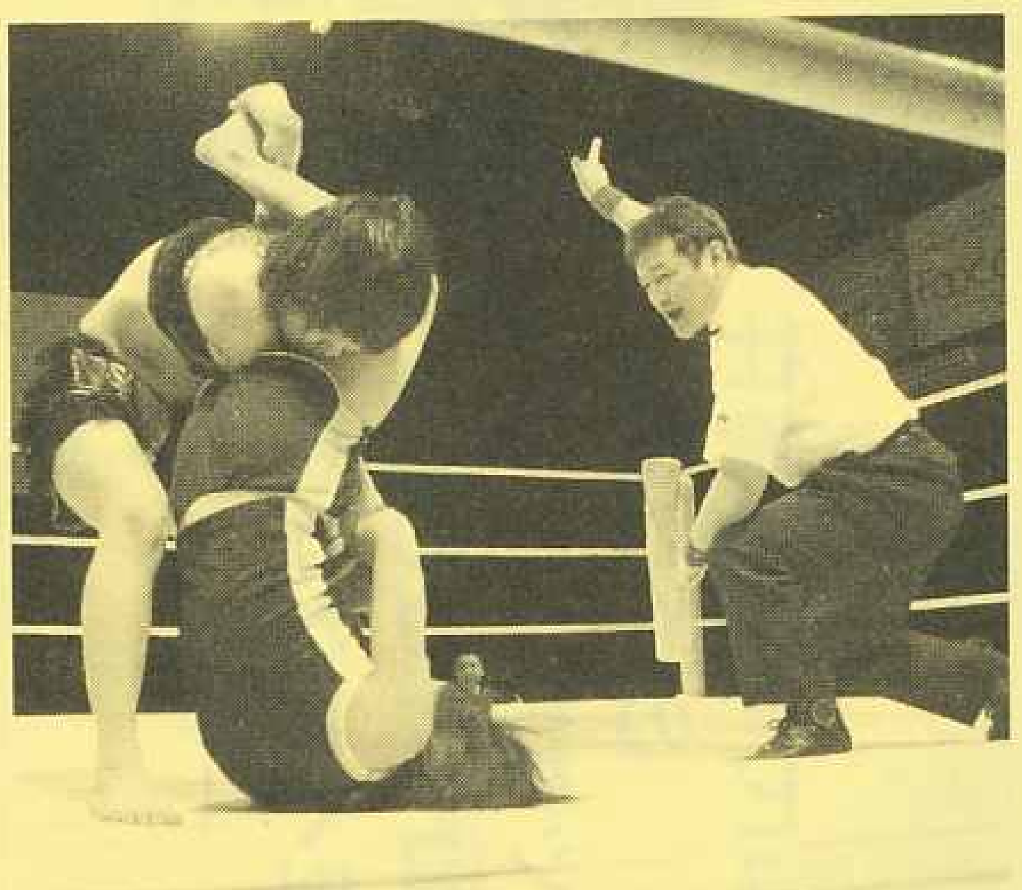
――おもしろいんだか怖いんだかわからないシチュエーションですね(笑)。

若林　やっぱり、びっくりしましたよ。それで「もう、おまえ消えろ!」と。前田さんは怒るとよく「消えろ!」って言うんですけど。ちなみに僕ものちに言われたことがあります(笑)。それで治郎丸さんは完全にリングスから失脚しました。そのときにいたスタッフのうち、僕ともう二人は治郎丸さんのルートで入れてもらったんで、「どうしよう」って話になって……。僕は真剣勝負の団体を作りたいって思ってたから入ったのもあったし、あとはコマーシャル会社って凄く給料が良かったんですけど、それがリングスに入って半分以下になったんですよ。

――まあそうなるでしょうね。

若林　すでに子どもも二人いたんですけど、まあ、貯金もあったんで、「俺の力で一年で給料を元に戻すぐらい頑張る」みたいなことを言っていたんですよ。理由はどうあれ話し合いの場に暴力が持ち込まれたり、リングスに引っぱってくれた治郎丸さんが話し合いもなしに追い出されてしまったのは、やはり大きなショックでした。それに真剣勝負という理想がないのに、人生を懸けてここにいるのは無理だよっていう思いも強かったですね。プロレスへの揺り戻しは経営的な判断だったと思うんですが、やはり僕には裏切りとしか思えませんでした……。

――「真剣勝負の団体を作るって言ったじゃないですか!」って話ですよね。



修斗ではイベントディレクターやマッチメイクも行なう若林氏は、ご覧のとおり「G-SHOOTO」などではレフェリーもこなすなどリング内外で大活躍。女子総合のスター選手だった“マァ☆ティン”こと星野育蒔のトレーナーとしてセコンドを務めたことも。

若林　それもありますよね。それをなんの疑いもなく信じて、理想的なことばかりが続くと考えていたのは、いま思うと若気の至りではあるんですけど。で、しばらくして治郎丸さんにみんな呼び出されて、「とにかく真剣勝負の団体を作るしかない。前田日明抜きのリングスを作ろう」っていう密議が、渋谷のリングス事務所近くあるビジネスホテルの会議室で行なわれたんです。そこにはオランダからもロシアからも選手が全部来る、と。それをやるから手伝ってくれと治郎丸さんに言われて、「真剣勝負ができるならやります」ってことになるわけです。その新しい興行のためにできたのが「オフィス・ミツルギ」っていう会社でした。

――その話があったときは、まだリングスは離れてないんですよね。

若林　その話のあとの5月にリングスの一周年記念興行が有明であったんですよ。僕は4月に入社して5月の有明までやって、その次の6月の仙台大会の前には辞めてましたね。

――前田さんには面と向かって「辞めさせていただきます」っていうようなことは言ったんですか?

若林　直接は言ってません。ただちゃんと辞表を出して辞めましたね。「真剣勝負でなければ人生を懸けられません。いまの試合内容では人生を懸ける価値がないので、辞めるしかありません」というようなことを書いて。

――また、凄い辞表の内容ですね(笑)。

若林　いま考えるとね(苦笑)。治郎丸さんが辞めたあとに「若林君、頼むよ」って言われて、前田さんにはよく扱われていました。「もちろん給料も上げる」みたいなことも言われて。治郎丸さんと前田さんに挟まれるかたちで、気持ちがぐらついた部分がなかったわけではないんですが、やはり夢や理想の部分で治郎丸さんについていくしかないと思ってましたね。このままリングスでやっていくのは無理だなっていう気持ちも強くて。先輩である治郎丸さんには大学時代からの恩や信頼関係もありましたし、治郎丸さんを捨てて前田さんにつくというのはまったく考えられなかったですね。

――その後のリングスっていうのは若林さんから見てガラッと変わった感じなんですか?

若林　そんなに急には変わってないんじゃないですかね。のちに気づくことなんですけど、物事というのはやっぱり誰か一人の力で動いているわけではなくて、「自分が動かしているんじゃ」って思った人がいなくなっても、そんなに変わりなく続いちゃうものなんですよね。まあゆっくりは変わっていくんですが。

――まあ、あれだけの大きな興行ですもんね。

若林　辞めたあとはWOWOWでもあんまり観なくもなってきましたね。ただ、佐竹雅昭選手と僕は同い年で仲良くしていたんで、マネージャーをやらないかっていう話ももらったりはしてたんですよね。

――ゴジラとして一緒に入場してたぐらいですからね(笑)。

若林　正道会館とはミツルギ時代も関係がつながっていて、そのルートで石井(和義・前)館長から、のちに「興行も手伝ってや」みたいなことを言われて、翌年から正道会館を手伝うことになるんですけど……。

　と今回はここまで。次回の後編は石井館長の懐刀としてK-1にも深く関わるようになった若林氏から、またしても衝撃発言が続出!　そんな若林氏が「格闘技界で本物の天才」と断言する二人の人物との興味深いエピソードや、谷川貞治氏やターザン山本!氏との意外な関係、さらには格闘大連立から、修斗の現在までとにかく話題満載!　あと1ヵ月、首を長くして待ってくださ〜い。

【07年12月22日/都内・新宿の喫茶店にて収録】

【ビデオ&DVDプレゼント!】今回、インタビューに登場した若林氏と(株)クエストさんのご厚意により、本文中で紹介したビデオ&DVDを各1名様にプレゼント。希望商品のタイトルを明記の上、158ページを参照し、ドシドシご応募ください!!

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作！

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

B6変型判　344ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）



夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録！

B6変型判　304ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）



泣けて笑える
トンパチエピソード満載！
またまた時は来た！
橋本真也三回忌追善本

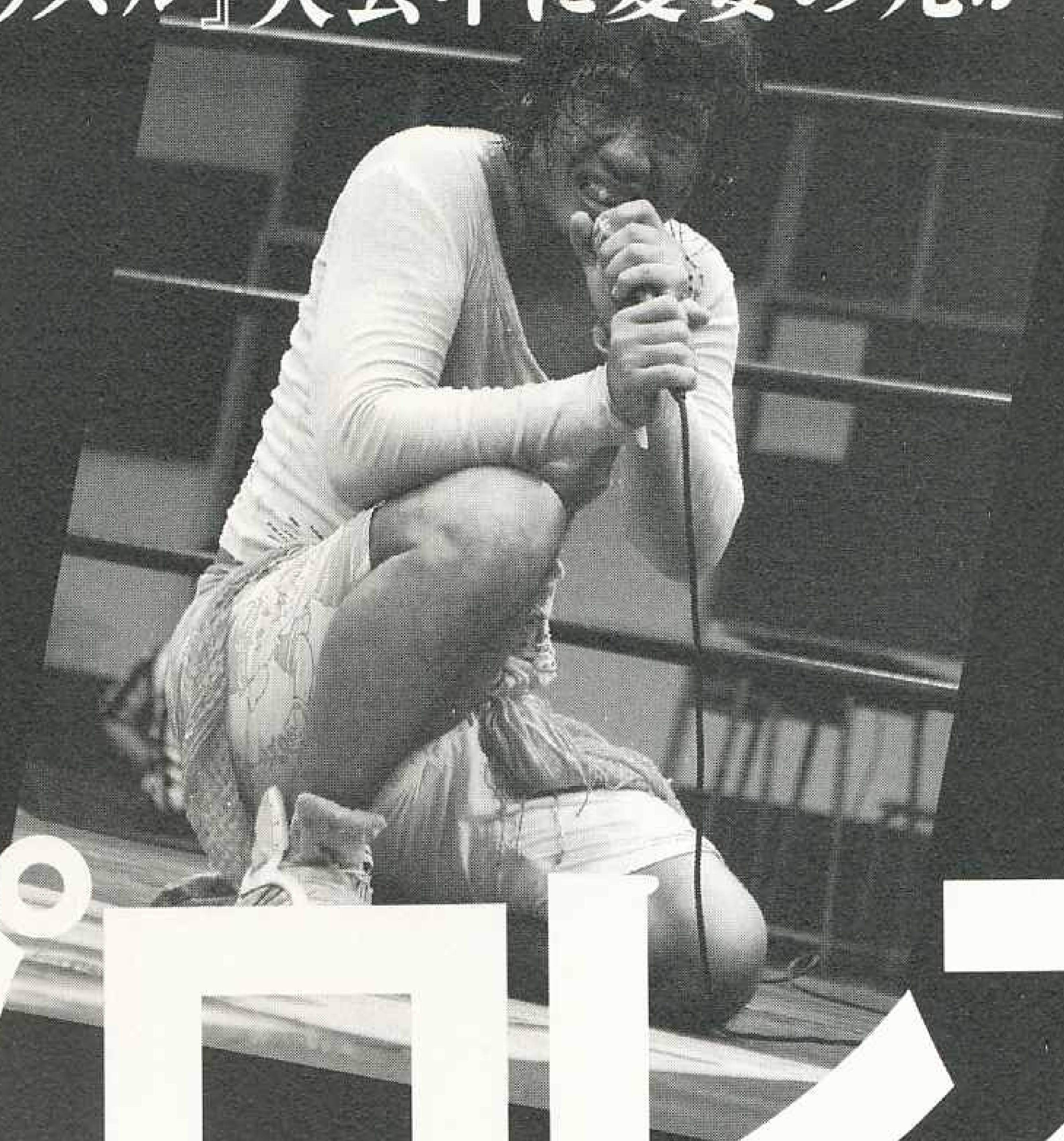
★橋本大地★藤波辰爾★天山広吉★西村修★馳浩★スティーブ・コリノ★田中秀和★田山正雄★ライガー夫人★折鶴兄弟★AYAMI★紅蘭のマスター★佐藤正行★金沢克彦　ほか

破壊王本第二弾!! "愛すべき馬鹿"橋本真也を多くの"証言者"が語り尽くす！ 破壊王の原点とも言うべき新日本プロレスの選手・関係者や破壊王ファミリーらが、いまだ知られざる破壊王のバカネタを大放出した珠玉の一冊!!

B6変型判　304ページ
定価＝1,890円（本体1,800円+税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

前代未聞!?
『マッスル』大会中に愛妻の死が発覚!



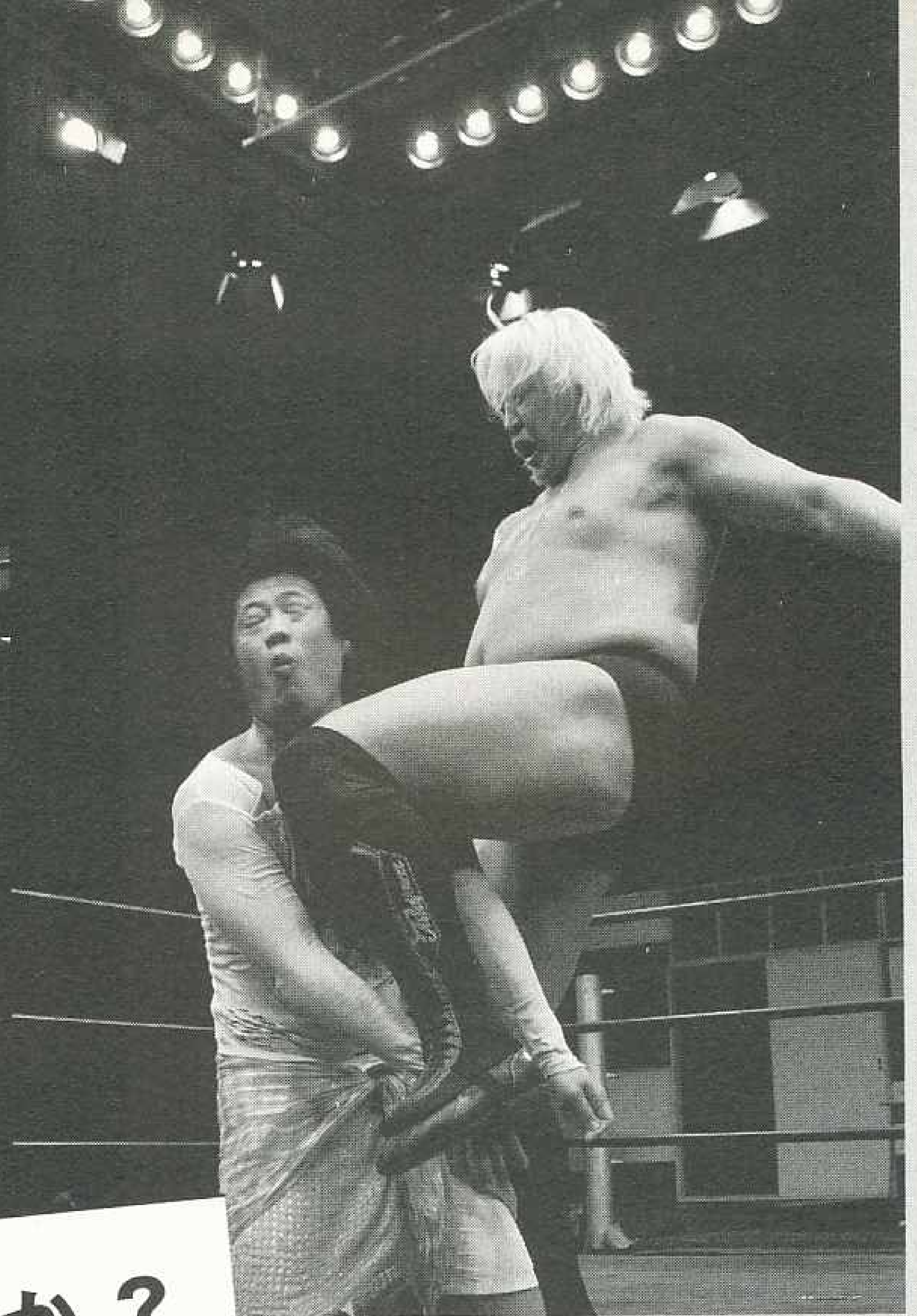
プロレスで死を扱うことはタブーなのか……!?

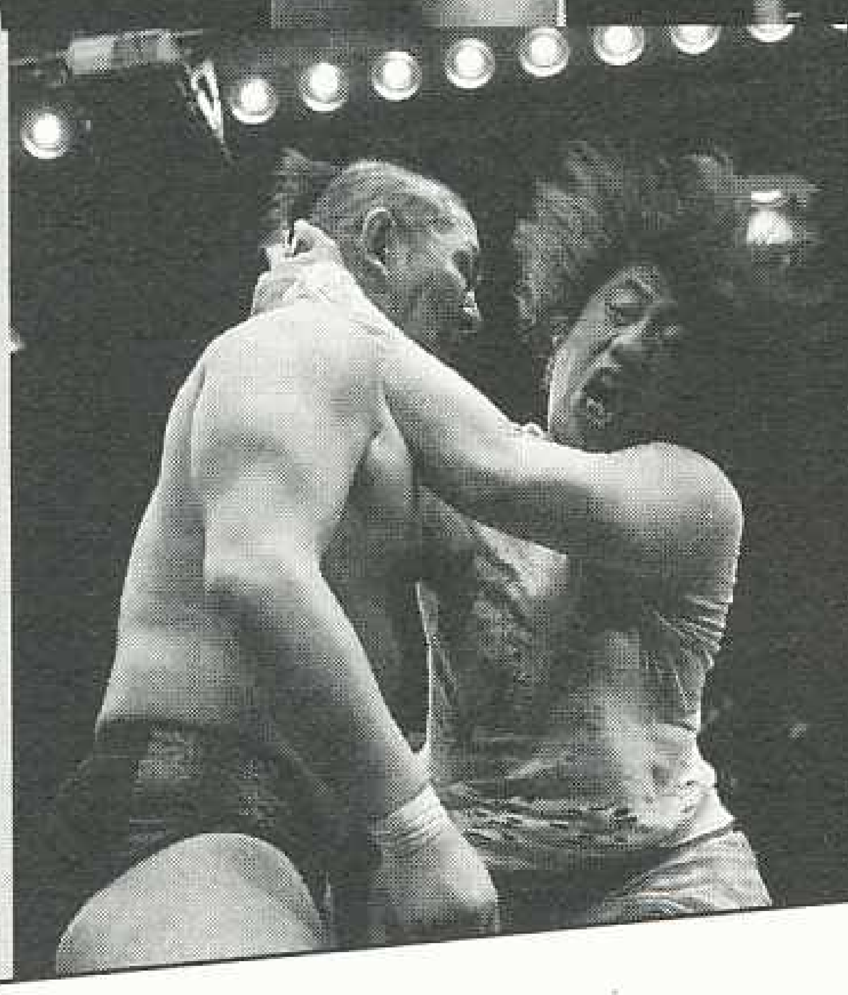
新年早々、インターネットを中心に賛否両論渦巻いているプロレス興行が1.3『マッスル』後楽園大会である。前半戦では、明るく楽しくくだらない、いつもながらの『マッスル』ワールドが繰り広げられたが、クライマックスで『マッスル』主要メンバーの726の愛妻の死がマッスル坂井の口から告げられるという衝撃の興行となったからだ。ある意味、前代未聞の今回の興行の是非を徹底検証!

構成／阿修羅チョロ
撮影／平工幸雄

大会終盤、マッスル坂井があるレスラーの愛妻の死を独白！ そのとき観客は言葉を失ない、水を打ったような静けさに……

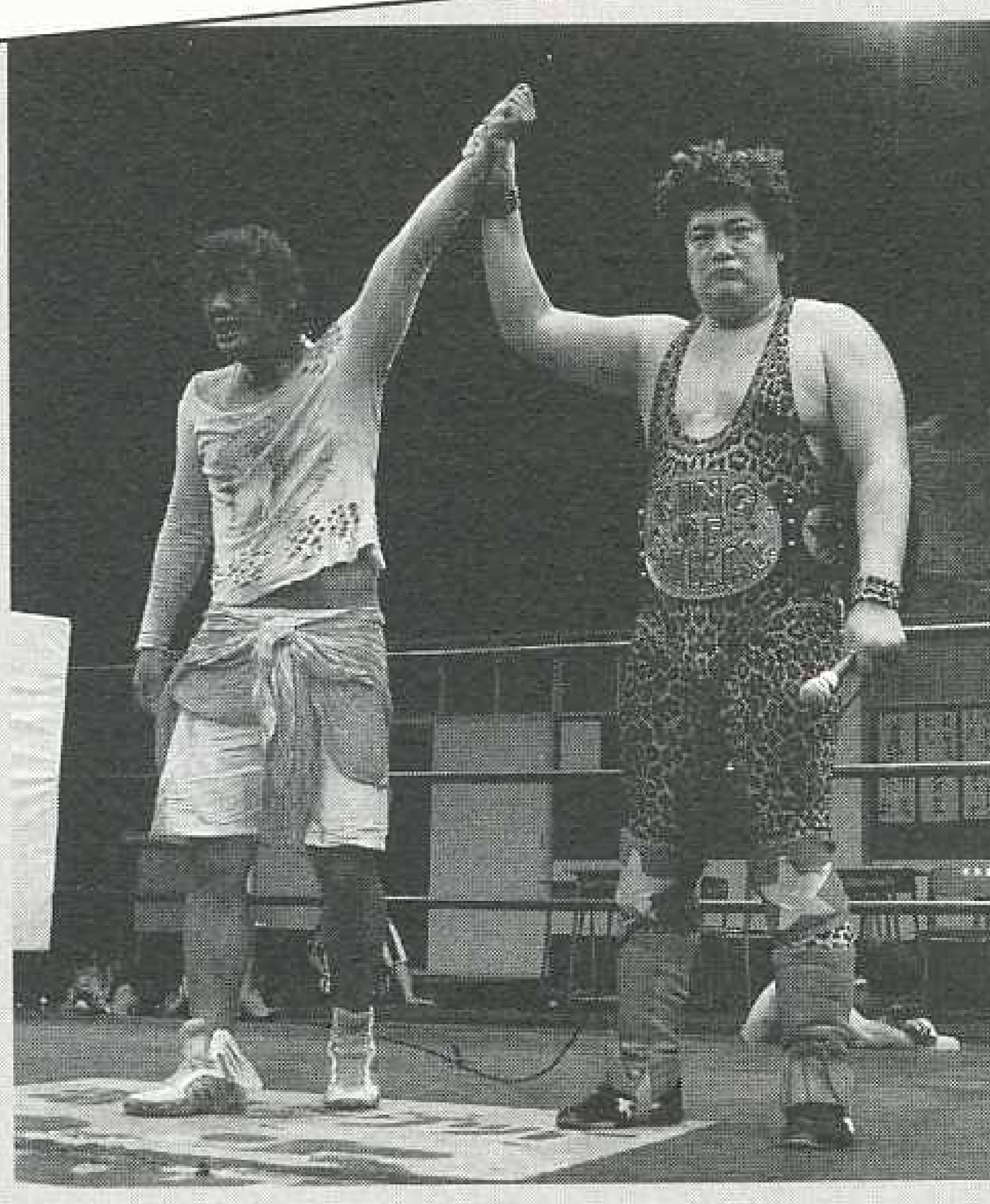


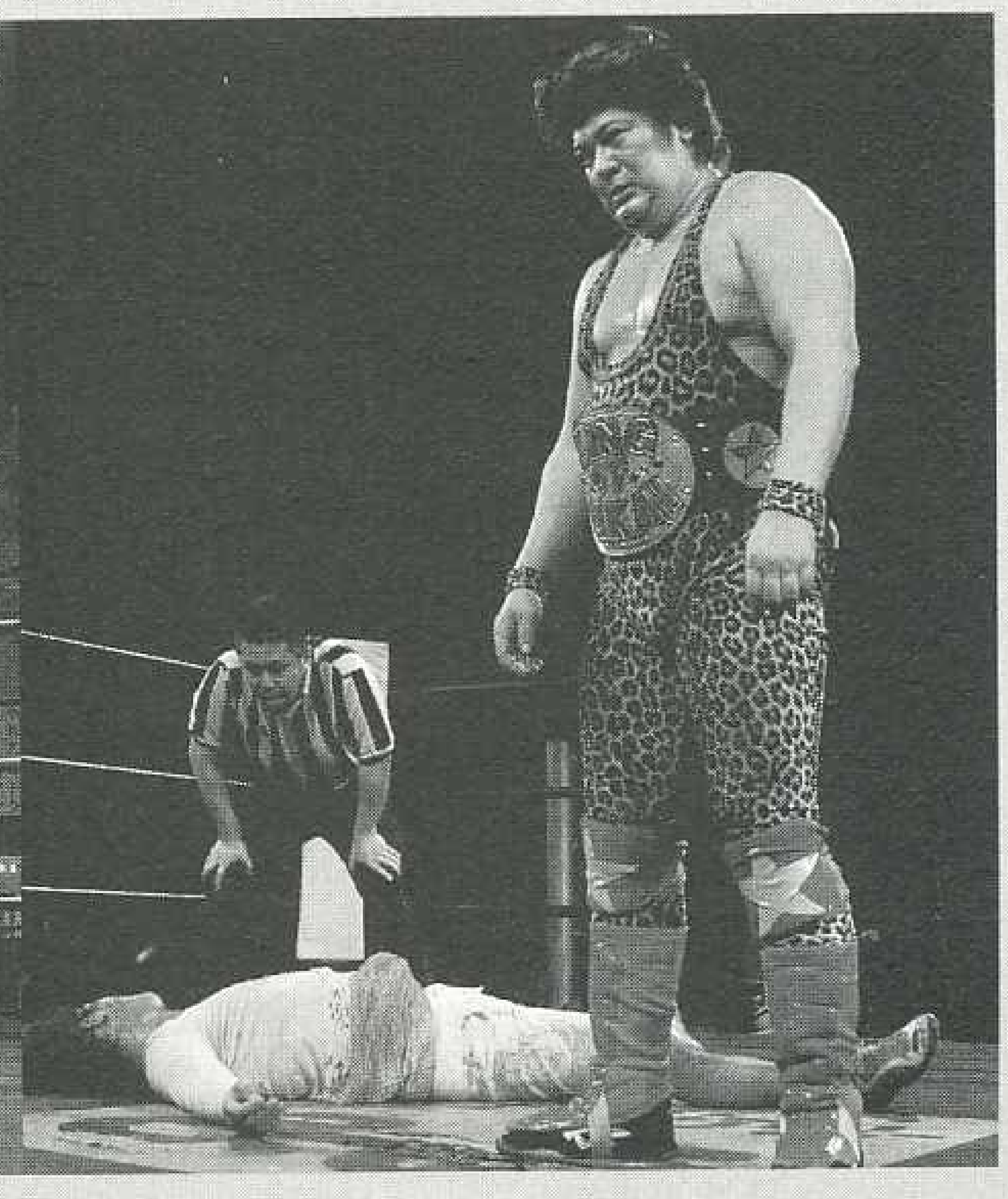




この日、『マッスル』卒業を宣言した726だったが、いろいろあったのち「プロレスがやりてぇんだよ！」と絶叫！　すると、先にリングに上がっていた鈴木みのるが「極上のプロレスをやらせてやる」と呼び込んだのが高山善廣だった。序盤こそビビっていた726だったが、意を決して高山&みのるに立ち向かうも、やはりボコボコに……。

で何が起こったのか？





みのる&高山&坂井から容赦ない攻撃を受け726は完全にグロッキー状態。ここで場内が暗転、スローモーションに突入と思いきや、坂井のナレーションで726の愛妻の死が告げられた。場内からの声援を受け、再び立ち向かっていった726だったが最後は高山のニーリフトで轟沈。726は涙を浮かべながら天国の舞さんにメッセージを送った。

「おまえの舞ちゃんは、亡くなってしまったんだよな」

1月3日、後楽園ホールで開催された『マッスルハウス5』の中で、『マッスル』の主要メンバーの726の妻であり『マッスル牧場classic』にも登場した舞さんが、昨年11月に亡くなっていたことが明かされた。

この日の『マッスル』には、鈴木みのる&高山善廣が参戦。昨年5月に初登場をはたした鈴木に続き、高山が初めて『マッスル』のリングに足を踏み入れた。

大会の中で『マッスル』のレギュラーであるアントーニオ本多、趙雲子龍、そして726の『マッスル』卒業が発表されるが、マッスル坂井が「卒業させない」と強固に反対。「俺は去年、このリングでプロレスの凄さ、怖さ、素晴らしさを学んだ」と、リングに鈴木みのるを呼び込む。鈴木の熾烈な攻撃を受けた本多、趙雲に続き、それまで出番のなかった726が「プロレスがやりてぇんだよ！」と叫ぶと、鈴木は「極上のプロレスをやらせてやるよ」と、相棒の高山善廣を呼び込んだ。

高山、鈴木、そして坂井による容赦ない攻撃で倒れた726。坂井が726を見下ろした場面で場内が暗転、『マッスル』おなじみの〝スローモーションの音楽〟「エトピリカ」がかかるが、ここでなされたのはスローモーションではなく、坂井の独白、そして、衝撃の「726の妻が亡くなった」という言葉だった。

「726、おまえは俺たちの1万倍悲しいはずだ。おまえがいま、どういう気持ちで取り組んでいるのか、全然わからない。だけどいま、プロレスをやる力がもうちょっとだけ残っているのなら、もう一度立ち上がってほしい。もうちょっとだけ、一緒にプロレスをやろう！」

立ち上がり、必死の形相で坂井に立ち向かう726。鈴木と高山はかまわず容赦ない攻撃を浴びせる。趙雲と本多がたまらずカットに入るが、これを坂井と鈴木が場外へ蹴り出す。リング上は726と高山。滞空時間の長



舞さん主役の『マッスル牧場』の内容とは？

2007年11月21日にテレビ埼玉で放送された『マッスル牧場classic』。大会の中でも触れられた、この日の放送では726の妻・舞さんが主役として登場している。

番組の冒頭で登場した舞さんは、うどん屋の店長として忙しく働く夫の726が、最近プロレスに対する愛情が薄れているように感じており、なんとか、もっとプロレスに真剣に取り組んでもらえるようにはならないだろうか、と『マッスル』勢に悩みを打ち明ける。この相談に対し、マッスル坂井やアントーニオ本多らは、舞さんをプロレスラーとして育て、726と対戦させることで目を覚まさせようとする。

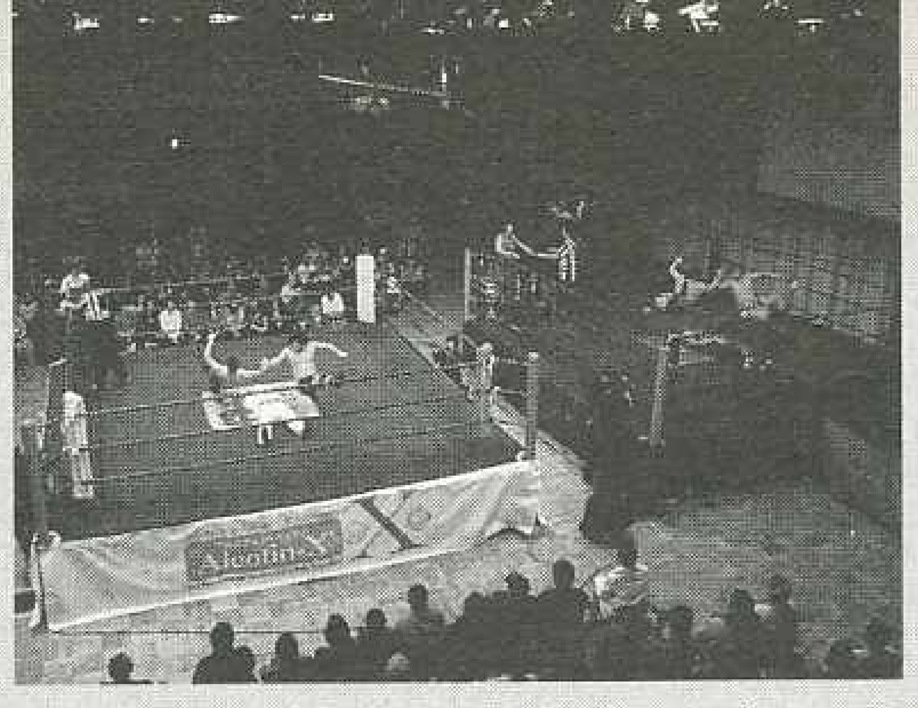
道場でプロレスの指導を受ける舞さんだったが、受け身の練習中にネイルアートを施した付け爪が、生爪ごとはがれてしまうアクシデントが勃発。涙する舞さんと、はがれた爪を前に「うわぁぁぁ！」と声をあげ、うろたえる坂井、本多ら『マッスル』戦士。だが舞さんは「こんな爪でプロレスやろうとしたアタシが悪いんだよ。ごめんね」と、ネイルアートされた他の爪をすべて爪切りで切り「ほら、これでもう大丈夫。だからもう一度、プロレス教えてよ、アントン」と涙の残る笑顔で語りかけるのだった……。

その頑張りに心打たれ、練習を再開する『マッスル』勢と舞さん。映像にはこの回の“台本”らしきものも映されるが、この爪のエピソードについては書かれていない。台本にはない、事実としての舞さんの“アドリブ”が、そこにはあった。

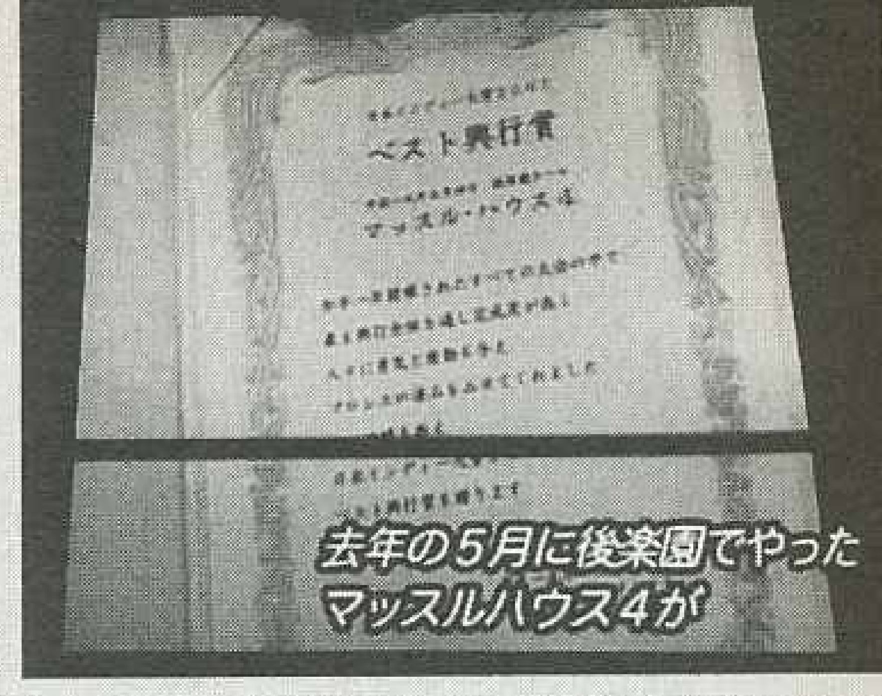
練習を終えた舞さんは、体重35キロの細腕に鶏肉を巻きつけて、小橋建太なみの豪腕へ変身。『マッスル』勢をラリアットでなぎ倒してみせる。いざ726との闘いに向かった舞さんだったが、最後はなぜか726と仲良くパラパラを披露。

「鶏肉は腕に巻くものじゃないです、食べるものです」と、舞さんの腕に巻かれた鶏肉を使った特製うどんを坂井らに得意げに振る舞った726。そんな夫を頼もしそうに見つめる舞さんを見て、「夫婦っていいなぁ」と、うどんをすすりながら、しみじみするマッスル勢だった。

しかし、舞さんはこの回の放送日である11月21日に急逝……。『マッスルハウス5』後楽園大会の休憩時には、舞さん登場時の『マッスル牧場』が会場のスクリーンとサムライTVの放送、両方で流されていた。



今回『マッスル』の前には同所で全日本プロレスの大会が行なわれていたが、なんと全日本のリングはそのまま放置され『マッスル』のリングとWリング状態で開始。前半戦では両方のリングで、まったく同じ内容の試合が展開されるというハプニングも!?



『マッスル』初のサムライＴＶでの生中継として開催された今大会。大会冒頭ではサムライＴＶ視聴者からの投票で昨年の５月４日の『マッスル』後楽園大会が日本インディー大賞のベスト興行に選ばれたことが報告された。趙雲子龍は特別賞をゲット！



『マッスル』戦士が各自おもしろネタを披露するも反応は微妙。最後に残った藤岡メガネが「新春ギャグ100連発」を公開するも、あまりの出来の悪さに生放送中のサムライＴＶに苦情の電話が殺到。スタジオの三田キャスターは困り果て、亜門に生電話！



大会途中でサムライＴＶでは視聴率が出ないということに気づいた鶴見亜門は動画サイトでウケる試合を要求。『マッスル』戦士は高速ペン回しやテラすき焼き弁当ネタなどを次々に披露、呆れた実況陣が黙りこくると、初○ミクの実況が場内に流された。

1.3『マッスルハウス５』



『マッスル』戦士の基礎学力を知るためミニテストが行なわれ、その結果、NOSAWA論外ら東京愚連隊の３名をはじめとする成績の悪い６名が授業を受けることに。金八先生に扮した亜門の指導のもとプロレスを題材にした問題が次々と出されていった。



『マッスル』にはプロレス学校という設定があったものの、これまで授業らしい授業は行なわれなかったことに気づいた亜門は後半戦でプロレスの授業を行なうことを宣言。すぐさま、おなじみのツムラエ芸さんが学校の教室ふうのセットをスピード設営！

い高角度バックドロップこそ返した726だったが、とどめの強烈なニーリフトの前に沈んだ。

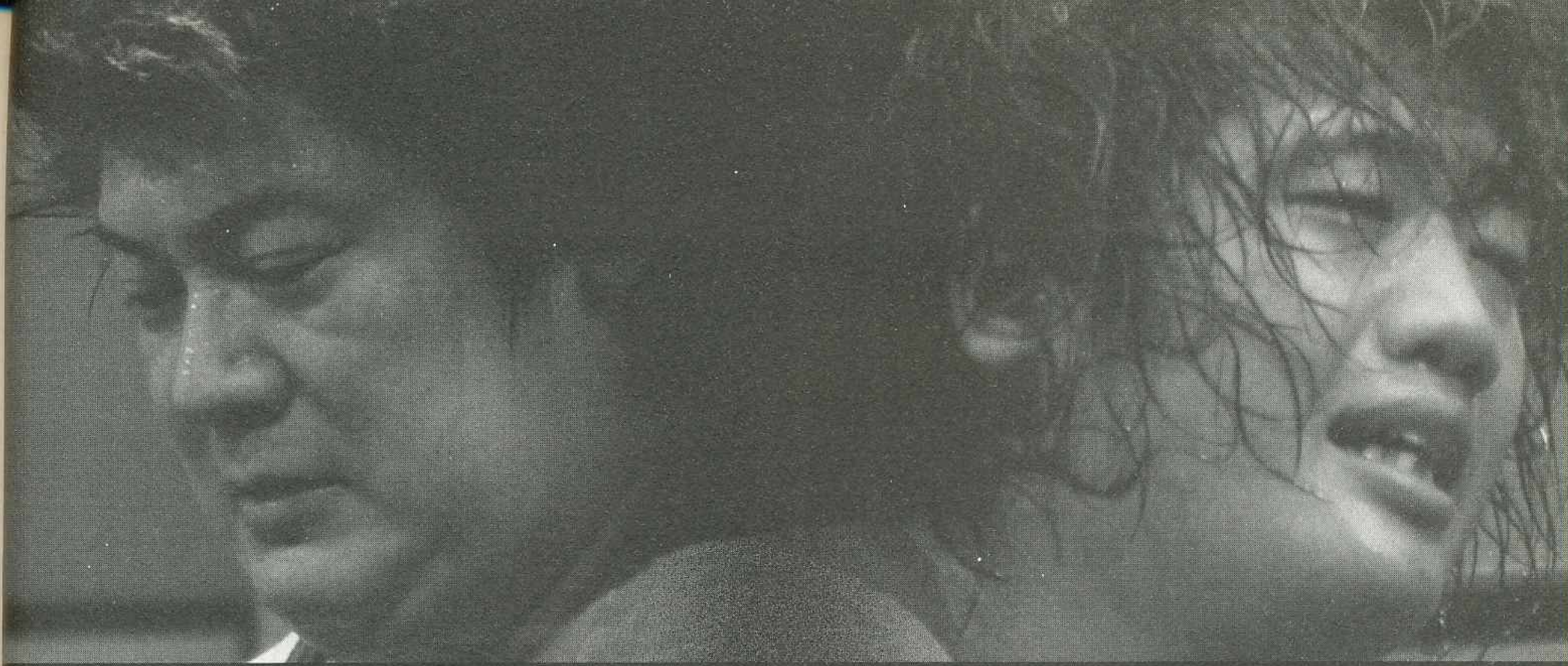
フォールを奪われた726に駆け寄り、泣きじゃくる坂井。鈴木は「おまえには立ち上がる理由があるだろ。立てよ！　立って闘えよ!!」と726にゲキ、さらに坂井へ「日にちと時間決まったら早めに連絡くれ。『マッスル』武道館、俺たちのスケジュール空けとくから」と、自身とパートナー高山の『マッスル』日本武道館大会参戦を約束してリングを去った。

坂井は「いろいろやりたいこととか、見てほしいこととか、挑戦したいこととかいっぱいあったんですけど、いまの自分たちにとって、どうしてもやっておかなきゃいけないことっていうのが、僕は今日の726のこの試合だったんだと思います」とマイク。726は「舞、ありがとう。おまえのおかげで頑張ってプロレスできたよ。これからも舞の好きだったプロレスやっていくから。見ててね。またいつか、どっかで会おう」と、天国の舞さんに向けて叫ぶ。“明るく楽しいマッスル”を期待していた観客は戸惑いの反応を見せたが、エンドロールが終わるまで拍手が鳴りやむことはなかった。

この日の『マッスル』は、総合演出の鶴見亜門がエースとして趙雲を抜擢し、ヒールレスラーを育てることをテーマにスタート。ダブルリング使用、動画サイトでの高アクセス獲得狙いのネタ連発、教室のセットを使用したプロレス学校ネタと次々にテーマが移り変わっていく展開に。しかし、観客に最もインパクトを与えたのは、やはり“死”を扱ったクライマックスだった。

現実に起きた死に対する、これまでのプロレスの興行では例を見ない取り扱い方と、あまりに突然すぎるその発表。サムライTVで生中継が行なわれた注目度の高い大会だったこともあって、2ちゃんねるをはじめネットのプロレスサイトでは「あれはやっちゃいけないことだった」「泣いた」「絶対にありえない」「ガンバレ、726」など、終了直後から賛否両論の意見が大会史上最速の勢いで次々と書き込まれていった。

今回の『マッスル』は、どう受け止めるべき大会なのか？　そして、この大会を行なった『マッスル』主宰者・マッスル坂井の真意とは？



プロレスと“死”の臨界点とは？

1.3『マッスルハウス5』完全“解読”座談会

大晦日格闘大戦の興奮冷めやらぬ1月3日に行なわれた『マッスルハウス5』は、ストーリーの中で“人の死”を扱ったことから、『マッスル』史上最大の衝撃を与える興行となった。いったいなぜこうなったのか？を完全“解読”する座談会敢行！

構成／真下義之　撮影／平工幸雄

座談会出席者

大坪ケムタ
フリーライター。AVライターの第一人者であり、07年には編集した“統計ノンフィクション本”『世界が100人のAV女優だったら』（扶桑社）も発売。サブカル血中濃度の高さもあって『マッスル』にハマリ、その可能性を高評価するマッスルフリーク。

佐々木亜希
元・本誌編集部＆電気部。07年よりプロレス＆格闘技を中心にフリーライターとして活躍。WEB＆携帯サイトデザインおよび運営の修行中。1.3『マッスルハウス5』では『kamipro Hand』にて、現場からその“衝撃”をいち早く速報した。

坂井ノブ
本誌編集部。FMWやWWEなどエンタメプロレス系を中心に担当、現在は編集部一の『ハッスル』事情通として知られる。昨年は『kamipro』特製の『マッスル』のTシャツも制作。同じ“坂井”名を持つ男として、マッスル坂井の動向にも興味津々。

司会／阿修羅チョロ
本誌編集部＆電気部。なぜか07年後半から“阿修羅”名を語り、一部からは“ホームレス編集者”疑惑もささやかれる涙もろい36歳。『kamipro Hand』でマッスル坂井のブログ日記を担当、当然のように編集部一の『マッスル』事情通として知られる。

プロレスと〝死〟、というヘビーなテーマを表出させて、新春のおとそ気分を吹き飛ばす衝撃の興行となった1・3『マッスルハウス5』。

大会のエンディングでは「どうしてもやっておかなきゃいけないことだった」と告白した主宰者・マッスル坂井の真意は？〝死〟はプロレスにとってタブーなのか？『マッスル』史上最大の謎に満ちた大会を『マッスル』ファンのライター陣、本誌編集部が読み解き、熱く語りまくる。完全〝解読〟座談会スタート！

――え～、本日の座談会は今回、プロレスの大会の中で〝人の死〟を扱ったことで、賛否両論が巻き起こっている1・3『マッスルハウス5』について、語ってもらいたいと思います。

一同　よろしくお願いします！

――僕はサムライTVの生中継と録画で観たんですけど、実際にマッスル坂井が726の奥さんである三浦舞さんの死を告白したとき、現場ではどういう反応だったんですか？

大坪　僕は会場で観てたんだけど……やっぱりかなり唐突ではありましたね。あちこちから「えーっ！」という声が聞こえたし。

ノブ　会場でもそうだったんだんですね。僕らも生中継を観て、言葉を失いましたけど。

大坪　本当に空気は凍ってたねぇ。そこから、「うそだよ～ん」って、くつがえされる雰囲気でもないし。

――ザ・エスペランサーが倒されたあとの、高田総統ばりに（笑）。

大坪　ただ、僕も観た直後は納得のいかない部分もあったけど、いまは「これはアリだな！」って思ってます。

佐々木　私は会場で『ｋａｍｉｐｒｏ Ｈａｎｄ』の速報をしながら観ていたんですけど、不思議な空気でしたね。個人的には『マッスル牧場ｃｌａｓｓｉｃ』（テレビ埼玉。以下、『マッスル牧場』）に出た726の奥さんが、放送のあと亡くなったっていう話は、去年の段階でチョロさんから聞いていたので「坂井は自身の中で、どういうかたちで消化するんだろう」「表現しないと先に進めないんじゃないか」とは思ってはいたけど、正直あそこまでやるとは思わなかった。

ノブ　とくに坂井番のチョロさんは生放送を観ながら「ホントにやるのかな……」ってずっと心配してたしね。

伏線を張って〝死〟をきちんとネタにしてたら、そっちのほうが残酷だった（大坪）

──いや～、ドンドンそういう流れに向かってるように見えたからねぇ。ただ『マッスル』流の追悼興行というか、〝ガンバレ726興行〟と考えれば、ああいうかたちになるのかなって。だから僕的には全然アリですね。

ノブ もし、追悼興行なんだとしたら、もっとやりようがあったんじゃないか、という違和感も感じたんだけど。

大坪 確かにネットとかで「死をネタにした」とか「説明不足だった」とか非難されてますけど。じゃあ最初から伏線を張って舞さんの死をきちんとネタにしたらよかったのか？ というと、そのほうが残酷だと思うんです。最初から追悼興行とうたって、笑いあり涙ありの『マッスル』劇場で楽しませつつ、726が主役を張ってたら、観るほうも当事者にとってもホントにキツイことだと思うし。

──ちょっとやそっとじゃ消化できないほど、リアルでヘビーな話ですから。

大坪 舞さんの死を〝素材〟にするならあのぐらいスパッとしたやり方しかなかったのかな、と。だから、エンディングは突発的に変更したのかなと思ったんですよ。

──あくまでボーナストラック的な位置づけで。

ノブ でも、リングで〝死〟を扱うときのフォーマットってありますよね。遺族が写真を持って、マイクして、10カウントゴングを鳴らして……。そういう定石からも逸脱してたこともあって、抵抗感を持った人もいるかもしれない。いままでさんざん人が死ぬネタをやってきた『マッスル』だけにね。

──去年の『マッスルハウス4』でも、大家健が大会中に死んで、幽霊になって出てきたり、我らがサスケも射殺されるってネタもあったし（笑）。

ノブ WWEの追悼大会なんかでは、〝トリビュート〟と題して、まずその人の足跡をVTRで振り返りつつ、試合を捧げるかたちでやってますけど。ただ今回は、「舞さんが『マッスル』の登場人物じゃない」ってことが、「死をネタにした」とか「説明不足」という批判につながってるんじゃないかな？ まあ、厳密に言えば、その前にテレビ埼玉で放送された『マッスル牧場』の舞さんが出てくる回では、主役は張ってたけどね。

──補足すると、坂井は『マッスル牧場』で舞さんと一緒にプロレスラーを目指す練習をしているし、彼女は生爪をはがすくらい一生懸命だったから、舞さんのことも〝プロレスラー〟として表現したんだと思うんだよね……。

ノブ う～ん。でもあまり事情を知らない人には「限りなく一般人」だよね。

大坪 これがメディアにガンガン顔出ししているメジャー団体社長夫人とかなら、違うかもしれないけどね。坂井がこうしたかった気持ちはわかるけど、やっぱり「サブキャラの奥さん」っていうのは感情移入させづらかったかもしれない。

ノブ 申し訳ないけど、そこは凄くわかりづらいですよ。

──『マッスル』のコアなファン以外には、伝わりづらかったかもしれないよね。

大坪 今回は一見さんも多そうだったしね。服装を見ても「ニットキャップ率高いな」って（笑）。

佐々木 私は『マッスル牧場』をやったことで、坂井の中には「『マッスル』のお客さんの多くは『マッスル牧場』を観てるだろう」っていう感覚があったんじゃないかと思うんですよ。でも、テレビ埼玉ってなかなか観られないですよ（笑）。

──坂井番の僕でさえ、全部は押さえられてないから。

佐々木 会場内で、番組を観てた人の率は想像以上に少なかったと思うんですよ。だから、舞さんは『マッスル』の登場人物として、あまり浸透してなかったんじゃないかなぁ。

大坪 それに、いままでの『マッスル』って、その日からいきなり観た一見さんも理解できる〝点の興行〟でしたよね。でも今回に限っては〝線の興行〟だった。

──注意深く、観続けてる人じゃないと理解できない部分はありましたね。

大坪 『マッスルハウス4』で坂井が鈴木みのると闘って以降、レスラーとして目覚めていった成長物語もそうかもしれない。今回は坂井がみのるや高山（善廣）を招いて、アントーニオ本多や趙雲（子龍）や726に「プロレスの厳しさを教える」っていう展開で、流れを知ってる自分は感動できたけど……そのへんもわかりづらかったかのなぁ。

佐々木 一見さんにしたら、あの興行に「遅刻してきた」設定のヤル気ないキャラだった726が、後半は突然シリアス調になって、「じつは奥さんが亡くなっていた」って聞かされたら、これは戸惑いますよね。

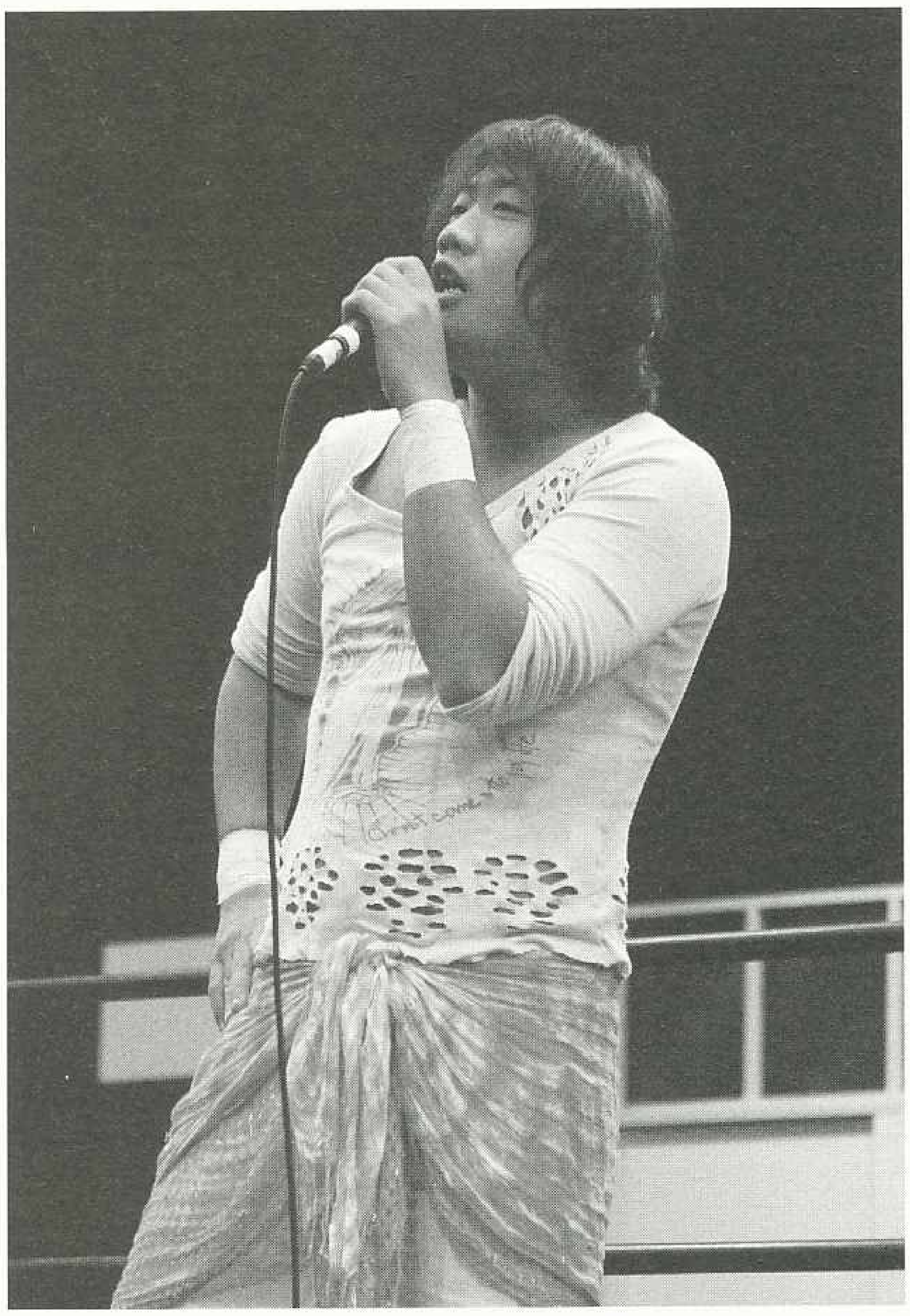
ノブ やっぱり『マッスル』ってかなり不親切だよね。『ハッスル』をパクったり、ネタにはするけど、『ハッスル』のいい部分はなぜか継承してないよね。

──いままでは、その不親切さをおもしろがったり、坂井のアーティスティックな部分を楽しんで、成立してたところもあるんですけどね。

ノブ あと『マッスル牧場』を観て思ったのは、本人も言ってるように坂井がやってるのは、基本的に〝フェイクドキュメンタリー〟なんだよね。要はドキュメンタリーをフェイクで作るんだけど、ドキュメンタリーだから突発的に〝生〟の感情やアクシデントがバーン！ って挿入される。リング上での練習で舞さんの生爪がはがれたのもそうだよね。

──あれは生々しかったよなぁ。編集部でも一部で悲鳴が上がってたし。

ノブ その一方では作り込む部分も多いから、虚構と〝生〟な部分の温度差が凄いでしょ？ だから、たまに観客も置いてけぼりにする。きっと今回の会場もそんな空気だったと思うし。



今大会も遅刻するなど、その“やる気のなさ”がウリという世にも不思議なキャラの726。得意のパラパラなどお気楽な726ムーブも封印し、涙の直球ファイトを展開した今大会以降、どう変わるのか？

—でもね、それがいいふうに回転すると凄いんだよ！ 毎回のように号泣する坂井のマイクや、台本やアドリブから〝虚実〟がにじみ出てくるところが魅力だと思うんだけどなぁ。

大坪 プロレスっぽくないように見えて、根っこは凄くプロレスっぽいよね。今回もガタガタの構成だったけど、逆に坂井のプロレスに対する考えや生な部分が出たし、死の問題も「いまやらなきゃいけない」って切実さを感じたから、僕は否定できないんだよ。

ノブ 作家寄りの考え方ですね。『新世紀エヴァンゲリオン』の最終回が賛否両論になって、「俺は庵野（秀明）監督の気持ちがわかる！」って同調する人も多かったけど、あれと似てるかもしれない。

大坪 いや、モノを作っている人には、凄く理解できたと思うよ。僕はAVライターもやってるんだけど、AV女優さんも突然亡くなるわけですよ。自殺とか事故とか。で、我々がそれを書いていいかどうかは凄く迷うんですね。

——それはあるでしょうね。

大坪 読者にしても「書かれても困る」って話でね。でも、「そこを知りたい」って人もいるから〝死〟を扱うことに凄くジレンマがあるんですよ……。ブログレベルでも何かやっている人だったら、わかるんじゃないかな。「死はネタにはしたくないけど、何か書いておきたい、表現したい」って気持ちは。

『エヴァンゲリオン』の最終回を観て庵野監督に同調するのと似てるかも（ノブ）

ノブ でも、そこで問われるのは表現方法ですよね。

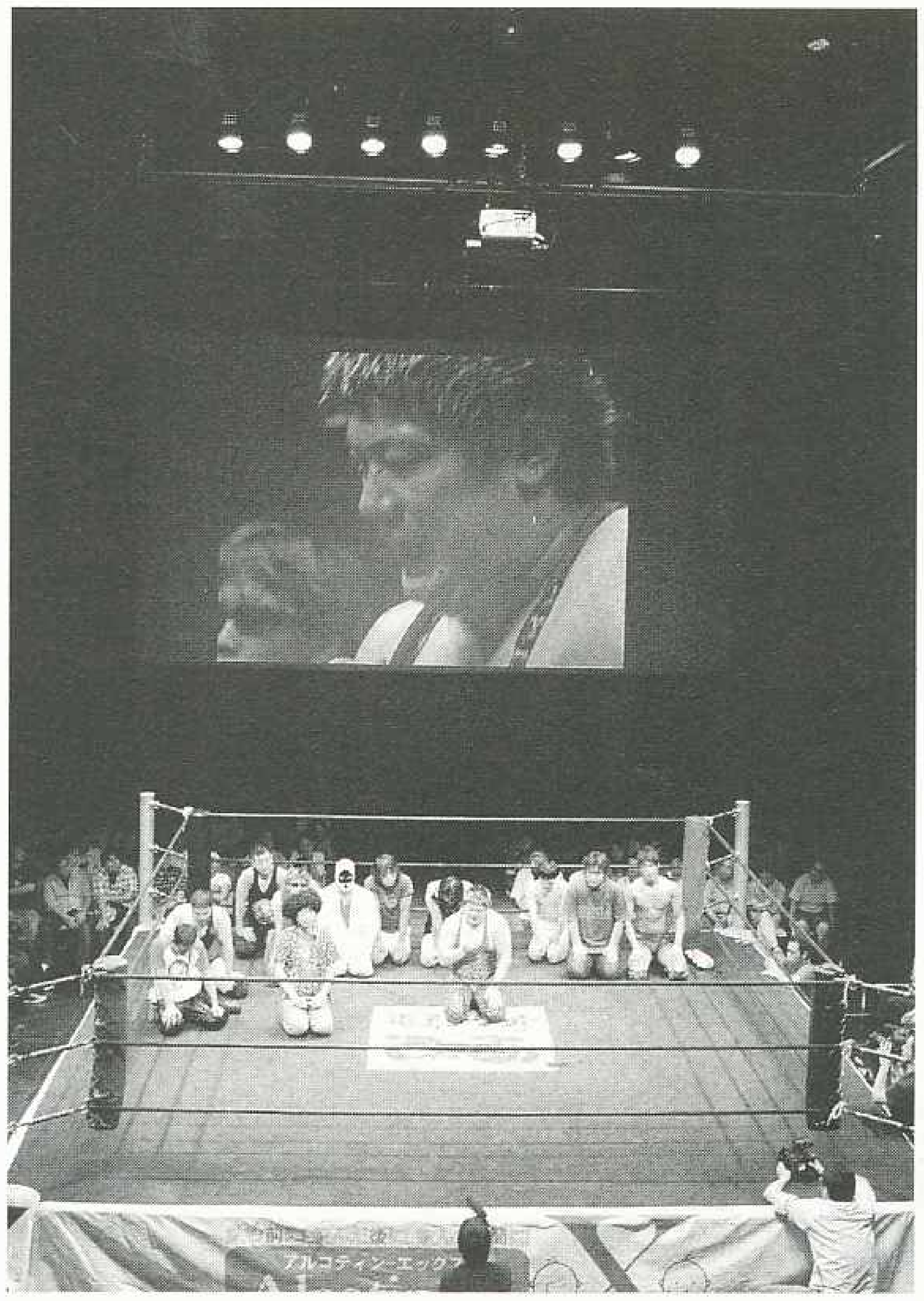
佐々木 ただ、あの現場で非難ができる人はいないと思いますよ。目の前で「人が死んだ」って聞かされて、その旦那が身体を張って殴られてる姿を観せられたら、拍手を送って、「頑張れ！」って言わないわけにいかないですよ。でも、その上で『マッスル』だったら、もう一工夫してほしかったとは思う。

大坪 そういう意味では、726のマイクも直球すぎたよね。「舞、ありがとう！ おまえのおかげで頑張ってプロレスできたよ！」っていうのは。

——うう、ヤバイ……。

佐々木 ん？ どうしたんですか？ チョロさん。

——もう、思い出しただけで泣きそうになっちゃったよぉ～（と目頭を押さえながら）。



何故 マッスルをやる

前大会となる07年の9.7『マッスル15』北沢タウンホール大会では、「3日連続で違う大会内容を提示しなければならなくなった」マッスル坂井が大会中に"壊れ"てしまい、『エヴァンゲリオン』的映像とともに坂井の内面宇宙が描かれる、という異常な興行となって波紋を呼んだ。ここが今大会につながる『マッスル』の分岐点だったのか？

ノブ ホントにしょっちゅう泣いてるなぁ、この人は。

佐々木 肯定派の人は「責任持ってギリギリのところでやってたら、ああいうことをやらざるをえないときがある」って思って、共感して許しちゃってるところはあるんじゃないかと思いますよ。それこそ『エヴァ』みたいな感じで。

——確かに「時間ないから脚本も大変だろうなぁ」とか甘く見てる部分はあるかもしれないよなぁ。まあでも、これまでの興行における〝『マッスル』貯金〟はだいぶ貯まってるからね。

ノブ でも、『マッスル』にしては表現があまりにストレートだったよね。726という格下の選手が、高山という巨大な敵にボロボロにやられながらも向かっていく……。ある意味、凄くプロレスの定石にのっとった試合だよね。そこは『マッスル』っぽくないなぁというか。

大坪 だけど、あそこはあれでしかまとめられないと思うよ。

佐々木 でも、去年の『マッスルハウス4』で坂井が「プロレスをなめるな」と、鈴木みのるにボコボコにやられましたよね？ あれも『マッスル』らしからぬ展開だったけど、そこで大事だったのは、あの大会のテーマである「試合を点数で判定する」っていうフィギュアの採点の仕掛け（キス&クライ）に、最終的に戻っていったこと。つまり『マッスル』の世界観にきれいに落としてたんですよ。

——「じつはこれもネタでした」っていう感じでね。

佐々木 でも今回は、終わりがそのまま現実になっちゃったんですよ。お客さんが戸惑ったっていうのは、そういうところもあるんじゃないかなと思いますし、私が工夫してほしかったと思うのも、そういうところですね。今回は〝学校〟がテーマだったから、最後はみんなで泣きながらでもいいから「今日の授業を終わります！」と言ってほしかった。

ノブ ただよく観ると、今回は「舞さんの死を扱った」っていうより、最終的に「726を励ます」ということがテーマになってたよね。坂井とメンバーたちの友情物語というか。

大坪 死の話じゃなく、〝再生〟の話なんですよね。そこを取り違えちゃうとダメですよね。

ノブ でも『マッスル』って坂井の個人的表現だと思ってたけど、なんだかんだ言って『マッスル』もチームなんだよね。

——あ、それは確かにそうだよね。あの結束している感じは。

ノブ 『ハッスル』もそうだけど、興行をやるには、上から下までキャスト全員が同じ方向を向いて走ってないとできないでしょ。今回は舞さんの死もあって「726が脱落しかけてる」という現実問題があった。それを救済するためのラストだったのかもしれない。だから、坂井というより、チームとして切実だったのかなって。

——リングサイドでも、みんな号泣してましたからね。先の展開を知ってるから、始まる前から泣いちゃって。それ観て、また俺ももらい泣きしてしまった……。

ノブ 期せずして、去年の『ハッスル・マニア』でも坂田亘がエスペランサーに勝って、じつの妻である妖精さんとリングに戻ってくる場面で、リング上ではRGも\(^o^)/チエも泣いていて、バックステージではアン・ジョー司令長官まで泣いてた。そういうことが起きているんですよ。だからチームとしてのメンタリティは凄くわかるなぁ。

大坪 その『ハッスル』に比べると、『マッスル』はアングラに思われがちだけど、最終的には、『マッスル』も大衆的な方向性を持ってる。「武道館に行く」発言も含めて、坂井はあくま



07年の5.4『マッスルハウス4』では鈴木みのるが坂井を叩き潰し『マッスル』を“破壊”するも、最後で『マッスル』の世界観に着地するドンデン返しを披露。今大会は伏線を放棄した衝撃の幕切れを見せたマッスル坂井。今後はいったいどうなる？

でポップな方向に行こうとはしているんだよね。

ノブ　でも、映画の『がんばれ！ベアーズ』じゃないけど、そういうへなちょこなチームが成長していく物語は誰だって共感しやすいじゃないですか。坂井はそこを見越してると思うから、それはちょっとあざといような気もするんですよ。もちろんそういう計算ができなきゃ興行はできないし、そういう冷静な部分は必要ですけどね。

――いちいち厳しいなぁ〜。見越してる部分や、あざといところもあると思うけど、意外とマッスル坂井ってピュアなところもあるし。それに、へなちょこチームの『マッスル』はああいう方法でしか表現できないんじゃないかな（笑）。

ノブ　ただ、（格闘探偵団）バトラーツもそうだったけど、大人になっていくにつれて、へなちょこチームはだんだん一緒にいられなくなるんだよ！

――そういうのはあるよね。

ノブ　これまでのプロレスの歴史を見てると、名も実も持たざる者たちが結束して、「俺たちの熱で世界を変えるんだ」とやってても、やがては歯車が狂ってくる。

――確かにバトラーツやみちのくプロレスも何回か両国でやったけど、そのあと勢いがなくなったし。じゃあ、日本武道館でやっちゃうと『マッスル』も終わっちゃうのかなぁ。

大坪　僕は今回、短歌の歌人・枡野浩一さんと一緒に観に行ってたんですよ。枡野さんが言ってたのは、映画監督が自分の奥さんが亡くなって、自分の作品に昇華させていくような例はたくさんあるじゃないですか。でも今回は、強引ではあったけどキャストの奥さんの死を観客に共有させたわけでしょ？　その上で当事者には「再生しろ！」って奮起させるわけですから、これは凄いですよ。

――726本人にとっても、かなり厳しいハズですよね。

大坪　演者が何回も上演するような芝居の形式だったら、絶対にできない。「そこまで踏み込んだ坂井は凄い」っていう話をしてたんですよ。そういう意味で、ああいうシナリオを実行させた坂井っていうのは〝表現者〟として素晴らしいし、そこは残酷な部分でもあるんだけど。

マッスル坂井は、もっと「許される」と思っていたんじゃないかな（佐々木）

ノブ　〝死〟には一切言及しない、という選択肢もあったんだろうけど、逃げずにギリギリのところで『マッスル』の世界観に落とし込んだのは凄いですよね。

――言い方は適切じゃないかもしれないけど画期的でしたしね。しかし、ここまで賛否両論になったけど、ズバリ、マッスル坂井なら、何をやっても許されるんでしょうか？

大坪　う〜ん。僕は坂井じゃなくても、表現者は何をやっても許されると思うんですよ。たとえタブーに関わることであっても、最初にこういうことをやった人は偉いと思うし、今回は批判も承知でやってるだろうから。

――僕も許されると思いますね。確かに、ここ何回かの『マッスル』の中では全体的な完成度は高くなかったというのは事実だけど。

佐々木　自分の名前を出して、自己責任でやってるわけですから、そこは否定も何もないですよ。でも、もっと「許される」とは思ってたんじゃないかな（笑）。

ノブ　「わかってくれるよね？」って部分はあったかもしれないね。

――今回は、いろんな意味で出しきった感があるし、次の『マッスル』では〝愛〟とか〝希望〟みたいな感じになるのかなぁ。

佐々木　マイナスの感情を出しきると、残るのはそういう気持ちだと思うんですよ。だから次は明るいんじゃないですか。そうするしかないし。

大坪　今度は、そういう〝生〟の感情を、どうやって素材として扱うかが問題だろうねぇ。

――意外と肯定的な意見が多いですけど……。編集部のもう一人の〝坂井〟さんはどう思う？

ノブ　ホントはさ、きっと凄くやさしい人だよね（ポツリと）。

佐々木　なんですか、いきなり。ここにもマイナスの感情を出しきって優しい気持ちに目覚めた〝坂井〟が（笑）。

大坪　僕なんか、あまりにも自分を追い詰めてるから、そこは心配だけど。

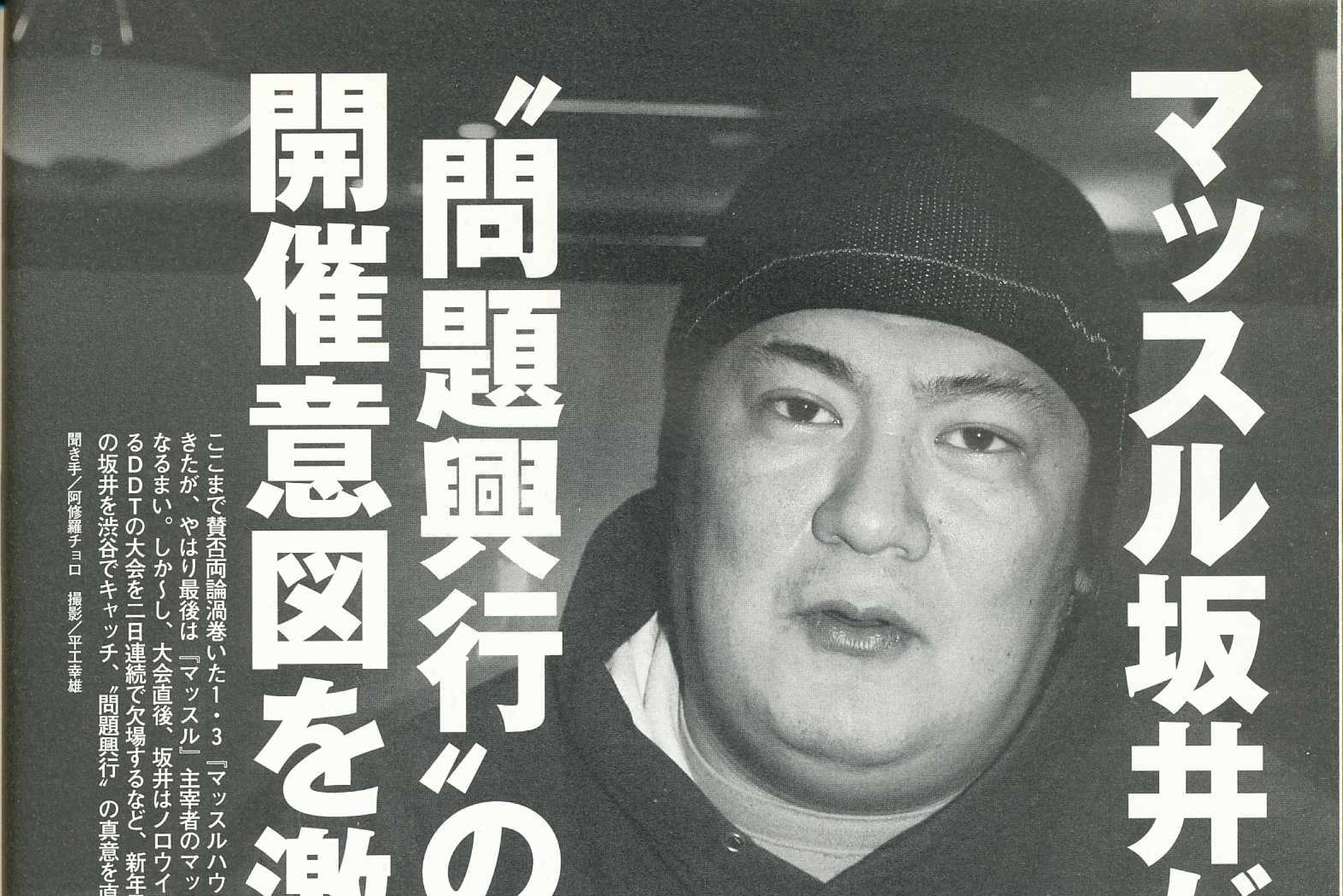
ノブ　でも、最近なんかまた太ってない？　ノロウィルスにも感染したんでしょ。ストレスも凄いだろうし、俺もリバウンド経験あるから、心配だなぁ。

――そこは大きなお世話だと思いますけど。……やべっ、726の号泣マイクのシーンだよ。

ノブ　おいおい、何、座談会中に『マッスル』のDVD観てんだよ！

――いや〜、何回観てもグッとくるんだよなぁ……（と目頭を押さえて）。最後になっちゃったけど、三浦舞さんのご冥福を心よりお祈りします。そして、頑張れ726!!（泣）

【08年1月9日／『ｋａｍｉｐｒｏ』編集部にて収録】



マッスル坂井が“問題興行”の開催意図を激白!!

ここまで賛否両論渦巻いた1・3『マッスルハウス5』について検証してきたが、やはり最後は『マッスル』主宰者のマッスル坂井の話を聞かねばなるまい。しか〜し、大会直後、坂井はノロウイルスでダウン！　所属するDDTの大会を二日連続で欠場するなど、新年早々、踏んだり蹴ったりの坂井を渋谷でキャッチ、“問題興行”の真意を直撃してみました！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／平工幸雄

——坂井さんは、賛否両論となったの1・3『マッスルハウス5』後に、ノロウイルスで二大会欠場してましたけど、一説には仮病なんじゃないかという声も出てましたよ（笑）。

坂井　いやいやいや、もうホントにヤバかったんですよ。大会中もしんどかったんですけど、大会後に道場までリングを持って帰って、みんなで簡単な打ち上げみたいなことをして、そのあとに完璧にダウンしましたね。

——かなり大変だったんですね。

坂井　もう大丈夫なんですけど、趙雲子龍にうつされたんです（苦笑）。

——そうでしたか（笑）。今回の大会後は、いままでになくバッシングのようなものもあったので、心労で倒れたのかなとも思ったりしましたけど。

坂井　いや〜、『めちゃイケ！』（『めちゃ×2イケてるッ！』フジテレビ系）が楽しみだったんで、へっちゃらでした（笑）。

——『めちゃイケ！』の人気コーナーの「色とり忍者」に徳川綱引として出演が決まったんですよね？

坂井　そうなんです。その一回目の放送が5日にあったんで、その喜びで、バッシングとかは、そんなに気にならなかったですね。……というか、バッシングってそんなにあります？

——賛否で言うと、もちろん賛の声もありますけども、いつにも増して否の意見も多かったですね。実際、坂井さんの周りの反応はいかがですか？

坂井　まあ、あれでよかったって言う人もいれば、内容がちょっと難しかったんじゃないかって、いつも観に来てくれる人とかは言ってましたね。あと、

じつは今回、726の嫁の舞さんをレフェリーで使うつもりだったんです

比較的多かったのが、「プロレスでやる内容じゃないんじゃないか?」と。僕は全然なんのこっちゃ意味がわかんないですけど。

——そうですか。今回の興行に対して否定的な意見としては「人の死をネタにして」っていう非常にストレートな声が多いですね。

坂井 それが全然意味がわかんないですけどね。

——『マッスル』だったら、死を扱うにしても、もっとうまい見せ方があったんじゃないかっていうか。あまりにも表現が直球すぎて引いてしまった部分があるんじゃないか、と。

坂井 僕は逆に直球でよかったかな、と。逆に手が加えられたものにすればするほど気持ち悪くなるんじゃないかって……。じゃあ、ケータイ小説みたいな興行にすればいいのかって言ったら、絶対そんなことはないと思うし。

——坂井さんはリング上でも言ってましたけど、今回、奥さんを亡くした726さんにスポットを当ててたのは「いまの自分たちにとって、どうしてもやっておかなきゃいけなかったこと」ってことなんですよね。

坂井 そうですね。でも、やりたいアイデアっていっぱいあるんです。その中から、何をやったらいいか、何をやるべきかっていうのをいつも考えるんですけど、たとえば、今回はお正月だから、かくし芸をやろうとか、生放送だから、それを利用した何かをやろうとか、たくさんあるわけですよ。

——実際に、去年のお正月興行は『笑点』のセットを組んでやりましたよね。

坂井 そうでしたね。でも、そういう興行をやってなんの意味があるんだっていうのも考えちゃうんですよ。いわゆる、おもしろ興行をやって「おもしろかったですね!」って多くの人に言われる大会をやっても、そんなのわざわざ『マッスル』でやる意味があるのかなって思っちゃったんですよね。

——今回、テレビ埼玉とはいえ地上波番組が始まってから初の『マッスル』ということで、これまで以上に注目されてたと思うんですよ。

坂井 そこはあまり意識してなかったですけど、大会前は何を考えてもしっくりこないっていうか、なんか物足りないっていうか、「なんだろうなぁ?」ってずっと考えていて。そんなときに、ちょうど726の嫁が亡くなってしまって、いまは726が頑張るしかないだろうって、そのときはそう思ったんですけど、すっかり忘れてたんです。

——確か、舞さんが亡くなったのは今回の大会から1ヵ月ちょっと前の11月21日でしたよね。

坂井 そうです。その訃報を聞いてから何日かは僕もどうしていいのかわかんなかったんですけど、やっぱり、愛する奥さんに先立たれてしまった726と、ちゃんと向き合うことが必要なんじゃないかなって、なんとなく思ってたんですよ。でも、726がそんなにプロレスを一生懸命やるのかなと思って。

——やる気が見えるのはリング上でパラパラを踊るときぐらいで、基本的にはやる気が表に出ないタイプのレスラーというか、キャラですからね。

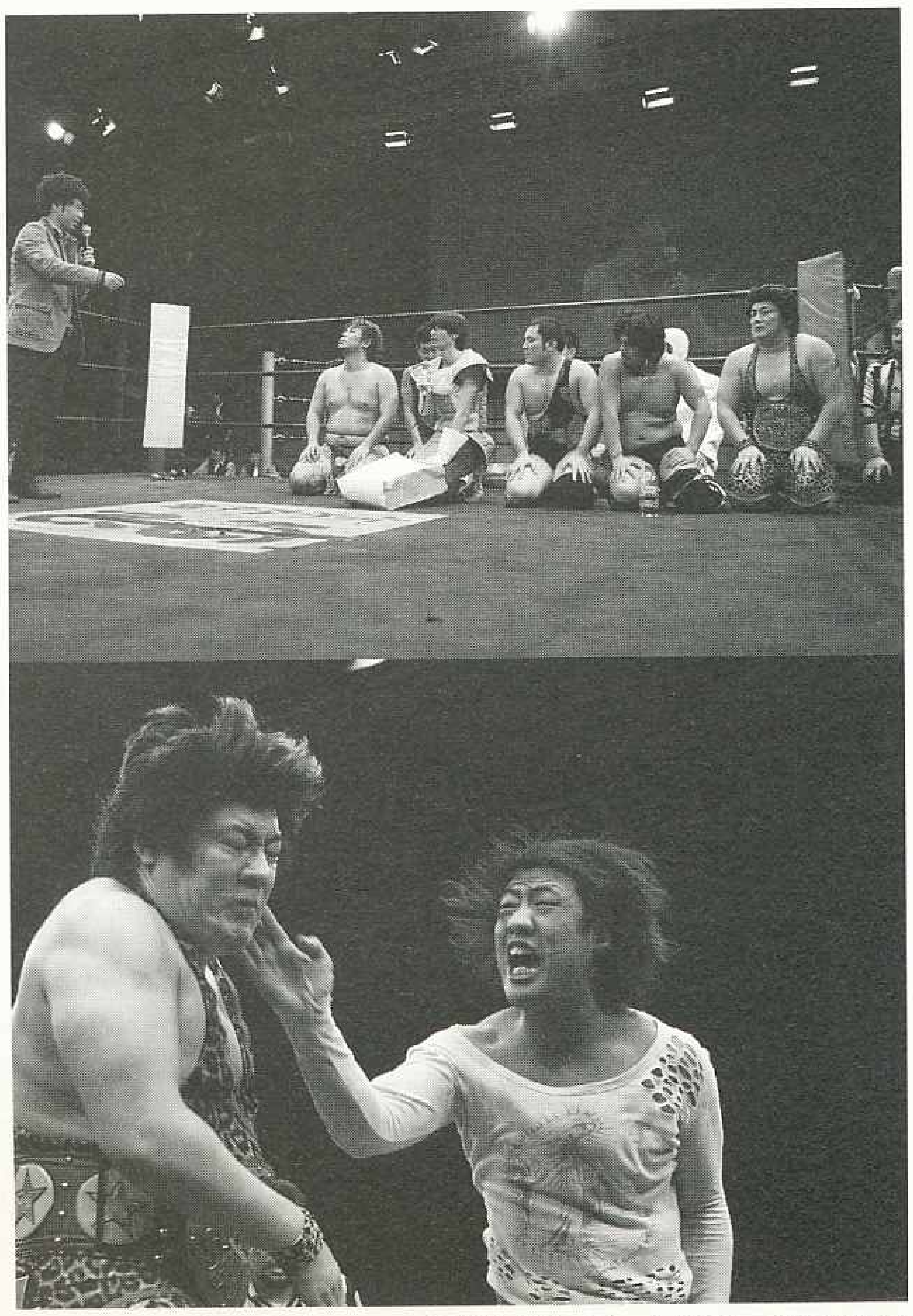
坂井 キャラというか、リアルなんですけどね(笑)。それで、お客さんはどう思うのかなとかも考えたんですけど、そんなことよりも、今回はそれをするしかないよなって思って。ああいう悲しいことが起こって、そのまま726がプロレスを辞めちゃうのも、何もなかったかのように続けるのもどうかと思ったし。実際にDDTでも726が所属するユニオンプロレスでも、その件に関してはスルーしてたんで。

——確かに、公にはなってなかったですよね。

坂井 そうなんです。でも、僕は726の嫁に「1月から『マッスル』でレフェリーをやりたい」って言われてたんですよ。

——あ、そうだったんですか?

坂井 はい。本人も真剣な感じだったんで、1月からやろうってなってたんです。女子は基本的にいまの『マッスル』のメンバーにはいないですけど、726の嫁はブッ飛んでいるし、そういうキャラが一人いたらおもしろいなあって思って、726の嫁だったらいいだろうって話してたんですよ。



今回の『マッスル』は最終的に726が主役的な扱いになったものの、これまでと違い主要メンバー全員に万遍なく出番が与えられた。坂井は「いままで隠していた部分を全部出すことによって、いつもより未熟な部分が目立ったと思う」と語る。

——それは舞さんが主役として登場した『マッスル牧場』の収録前後の話ですか?

坂井 収録後に言われて。726も最初は反対してたんですけど、「坂井さんがよければ」みたいなことを言ってて、レフェリーもキャラが立ってるほうがおもしろいしって思って、実際に1・3の後楽園からレフェリーとして使うつもりだったんですよ。

——そうだったんですか……。しかし、舞さんが出演した『マッスル牧場』が放送されたあとに、亡くなったことが判明したわけですよね。坂井さんもその話を聞いて、かなり落ち込んだと思うんですけど。

坂井 相当落ちましたね。しばらく、意味がわからなかったですもん。

——舞さんの回の『マッスル牧場』を観ていたら、今回の大会はなぜやらなければいけなかったか、よく伝わったと思うんですけど、地上波放送とはいえ、残念ながらテレビ埼玉を観られる環境の人は少ないじゃないですか。

坂井 まあ確かに。でも僕としては、726の嫁が死んだってことをわかりやすく伝えるための興行だとは思ってなかったし、本題はあくまでも726だったんで。そこはある意味、それまでの流れとは別にボーナストラックみたいな感じで。正直、今回はお客さんは置いていきましたから。

——ある意味、観ている人に伝わりづらくても、しょうがない、と?

坂井 それでも仕方ないと思ってました。そこは、申し訳ないけど、お客さんに一つ甘えさせてもらおうと。『マッスル』のお客さんだからこそ、ああ

いうことができると思ったんですね。結果的に後楽園ホールのメインイベントのリングでプロレスをやって、「726頑張れ！」みたいなことが起こる状況がほしかったんです。

——状況がほしかった、というと？

坂井　（急に小声になり）あまり大きな声では言いたくないんですけど、ある意味、実験というか、僕は何回か前の『マッスル』から方法論的にドキュメンタリーの作り方の手法というか、あえてそういう状況を作って、そこに演者を追い込んでいくっていうやり方をしてるんですよ。

——昨年の北沢3連戦は、まさに坂井さんが追い込まれていくっていうシチュエーションでしたよね。

坂井　そうです。自分を3日間別々のことをやらなきゃいけないっていう状況に追い込むドキュメンタリーをやったんですけど、今回は726が、そういう状況にあることを明らかにした上で、観客の声援を集めてレスラーとして変われるかっていうのを試したかったんです。それは演劇ではないし、逆に演劇でもそういうことはできないし、ほかのジャンルでもなかなか表現できないと思うんですけど、プロレスならできると思ったんで。

——それこそプロレスの新たな可能性の追求ですね。

坂井　そんな感じです。まあ、これからもそういうことはやっていきたいと思ってますけど。

——結果的に726さんはあの大会を受けて、変わっていけそうですかね？

坂井　いや、そういう意味では、726にとってあの大会自体で全然終わってないんですよ。726が本気になって高山さんや鈴木さんにぶつかっていったことによって、これから周りが接する態度とか感じる部分とか、もの凄い変化があると思うし。言い方は悪いですけど、「プロレスをやるとこんなにほめてもらえるんだ」みたいな（笑）。

——これまではそういう感情はほとんど持ったことはないでしょうからね。

坂井　絶対これから変化を感じると思いますよ。……でも一方で全然変わらない気もするんですけど。大会後もひょうひょうとしてますし（笑）。

やっちゃいけないとは思ってました。でも、やってみる必要はあるだろう、と

——それはそれで726さんらしい感じもしますけど（笑）。先ほど、お客さんに甘えさせてもらったと言ってましたが、正直、坂井さんの口から舞さんの死が告げられたときは、観客はかなり引いてましたよね。「ホントなの？」って意味も含めて、どうリアクションを取っていいのかわからないっていう感じで。

坂井　まあ、引かれないわけないだろうなって思ってましたし、やっちゃいけないとは思ってましたよ。

——そう思いながらも、やらざるをえなかったって感じですか？

坂井　そうですね。でも、わりと冷静に「でも、やってみる必要はあるだろう」とはなんとなく思ってました。

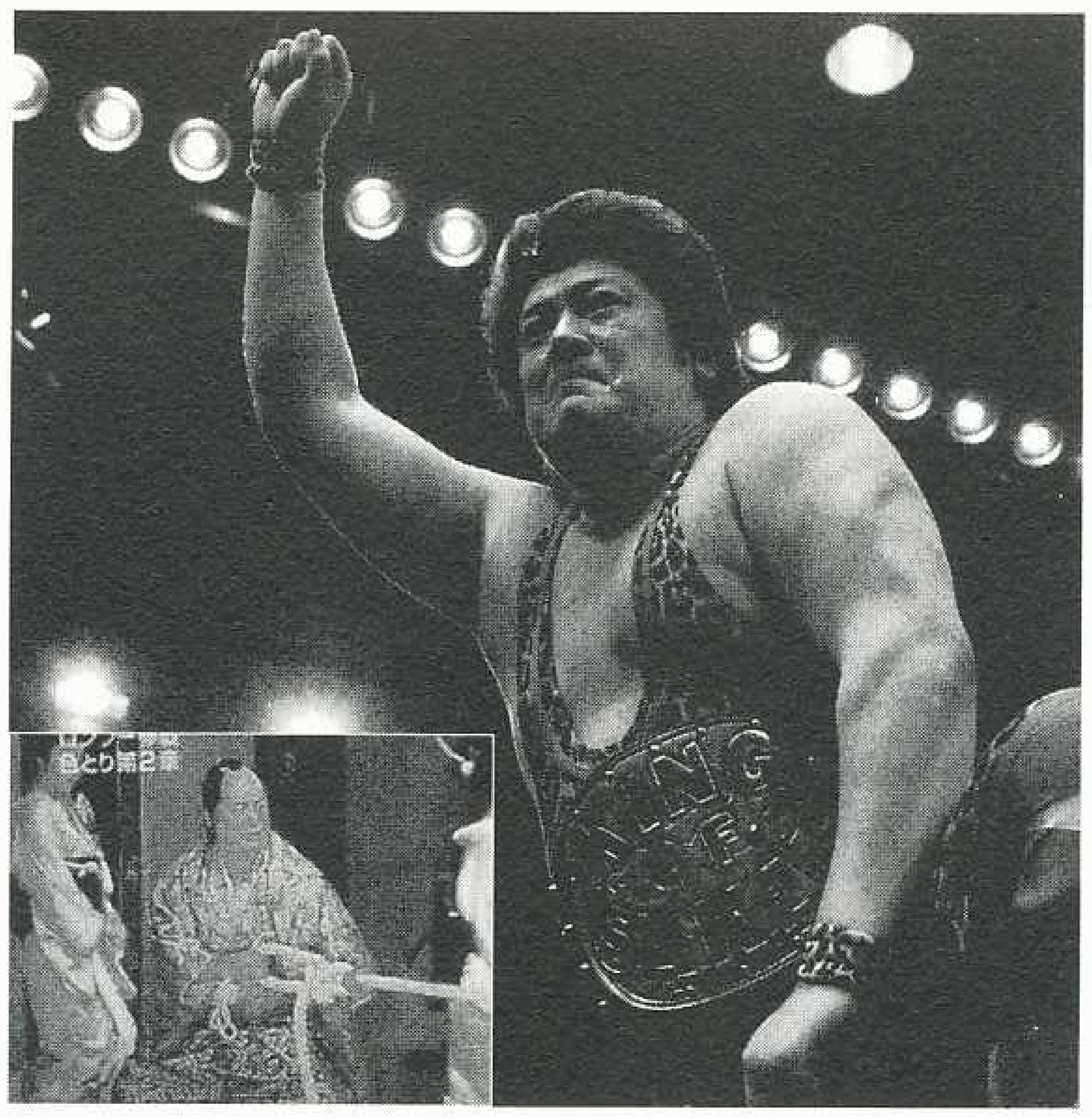
——あえて客を置いていきつつ、やりきった今回の『マッスル』を観て、あらためて坂井さんを中心にチームワークというかメンバーの結びつきが強いんだなっていうのは感じましたけど。

坂井　そういう意味では〝人の死を扱う〟ってこともあって、今回の大会前は、いままでの『マッスル』と比べても、だいぶ話し合いをしましたね。リハーサル云々よりも、何をどうやってやるかっていう、お互いの考えをすり合わせる必要があったんで。

——まあ、そうでしょうね。

坂井　……でも〝死〟云々とか、そこだけしか言われないのはなんなのかなあっていうのは正直ありますね。僕は今回の興行に関して、もっと突っ込むべきところはたくさんあると思うし、準備不足だったところとか、ダメなところはいっぱいありましたからね。

——確かに、全体を通して「ここはこうしたほうがよかったんじゃないか」って突っ込みたい箇所とか細かいミスはいままで以上にあったような気がしますし。



まっする・さかい■本名・坂井良宏。1977年11月5日、新潟県出身。DDT所属にして、主宰する『マッスル』ではプロデューサーを務める一方、映像制作やグッズなどを手がけるDDTテック代表の顔も持つ。本文中にもあるとおり、坂井は現在フジテレビの超人気バラエティ番組の『めちゃイケ！』の「色とり忍者」というコーナーに"徳川綱引"として出演中。『kamipro Hand』では、ほぼ毎日ブログを更新中！　186cm、120kg。

坂井　そういう批判だったら、もう全然受け入れるんですけどね。そのへんがちょっと今回のリアクションは違うかなっていうのがあるんで。

——大会から数日経ってますけど、今回の反応とかを見て、ちょっとガッカリしてます？

坂井　正直、むちゃくちゃガッカリしましたよ。

——もっと受け入れられると思ってました？

坂井　そうですね。倫理的とかそういう話じゃなくて、「構成的にこうしたほうがいい」とか、そういうことを言われたら僕も「そうだな」って思うんですけど、なんか〝人の死を扱った〟っていう部分だけで批判している風潮があるような気がして。

——坂井さん的には、もっとレベルの高いところで批判してくれ、と？

坂井　ホント、そう思いましたね。「全然、〝プロレスの向こう側〟じゃないじゃん」とか「『マッスル』でマジメにプロレスやってどうすんの？」みたいに言われたり、そういうヤツに限って「まあ武道館までは義理で観るけど」とかって言うんですよ（笑）。

——アハハハハ！　でも今回は地上波効果なのか、これまでの『マッスル』に比べて新規のファンも多かったみたいですし、『マッスル』の世界観を知らない人が、このあいだの大会を観て満足できるかっていったら、正直ちょっと難しいと思うんですよ。

坂井　そういう点で言えばダメだったと思います。それに、ああいうことをするのは最初で最後だと思います。……だから、今回の内容を踏まえて次どうするかですよね。

——そうですね。まあでも、同じようなことは毎回言われてる気もしますが、次の大会はこれまで以上にハードルは高くなるのは間違いないですね。

坂井　（突然）でも、わかりました！　腹をくくりました！

——どうしたんですか、突然？

坂井　僕なんて、しがないイチひょうきんレスラーなんで、2008年の『マッスル』は初心に返って、もっとお笑いの要素をふんだんに散りばめた興行をやっていこうと思います。……あ〜、もうホントにっ！

——吐き捨てるように意気込みを語らないでください（笑）。

坂井　すみません、取り乱してしまいました（笑）。次こそは、皆さまの期待に応えられるよう頑張りますので、よろしくお願いします！

【08年1月9日／都内・渋谷のロイヤルホストにて収録】

<RADICAL特選劇場>

キッドなくして『kamipro』なし! あの素晴らしい大放談を確認セヨ!

no.73 04年『PRIDE GP』総括



no.84 "前田日明復活" 大特集!!



●高田vsヒクソンの"世紀の再戦"の意義を焚きまくったNo.12(現在は品切れ)に登場以降、最重要『kamipro』論客として大活躍。No.78では、皇帝・ヒョードルに敗れて、なおハッスルした小川直也の行動を「オーちゃんの敗戦は、俺たちの玉音放送!」と"圧倒的現実"が展開された04年の『PRIDE GP』を大総括!

● No.84では、ついにマット界の表舞台に復活した前田日明を『語ろう! アキラのズンドコ大復活!』と題し、「俺たちのアキラはホントに小林旭になった!」「いや、これは『血と骨』だよ!」と、その規格外な魅力を存分に語りまくった!

ついに待望の大復活!! 浅草キッドの"格闘大放談"は RADICAL で読める!!

注 No.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます! 03-5368-1797

販売元 (株)ダブルクロス 平日 13:00~19:00



『kamipro』読者よ! "進軍ラッパ"を吹きまくれ!

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード 清水白凰・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16~87

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙:エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を「紙プロ」で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32 840yen '00.10
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙:サクマシン (イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙:橋本真也 (イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙:髙田延彦 (イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙:アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実" 辻よしなり/高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙:アントニオ猪木 (ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙:田村潔司] さらばリングス! 金原×和田、浅草キッド/ならず者DEEPで勝利! エル・カネック/キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才" 武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/ 武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる "U" が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×髙阪/宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙:橋本真也&小川直也 (イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙:桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDE ミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDE ミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙:桜庭和志] 小川の "盟友" と "宿敵" が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙:髙田総統] キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/ 草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙:桜庭和志] "道場破り" の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘" が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田/パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamipro Hand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。 ※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

なぜ、この「おめざ」を選んだのか――。そんなことを聞かれても、まったく答える気もない今日このごろですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？　そんなヤツには酢豚に入っているパイナップルを無理やり食わせて失神させてやりたくなりますが、そこは大人なのでグッと我慢しましょうね！　それでは08年一発目の読者ページ、スタートします。3、2、1、赤荻、赤荻、う～、スシ食いねェ!!（毒殺）。

kamipro118号へのお便り紹介

〝魔王〟秋山成勲聖地降臨の記事がよかった。まさかこんなビッグサプライズがあるとは！　佐藤大輔氏の強烈な煽りVを期待しています！
【石川県・浅井清治さん・会社員・35歳】

⬇実際、クリームの映像をたっぷり使った煽りVでした。しかし、三崎vs秋山はまたサッカーボール・キック問題という新たな物議を醸し出しています。どーなるんでしょーか!?

坂田亘のインタビューがよかったです。この人もコクのある人生を送ってきたんだなとあらためて思いました。リング上でも私生活でも充実している坂田さん。男としてうらやましいかぎりです。
【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・42歳】

⬇我が読者ページのスターであるS波氏は坂田の経営する店「わたる」に通いづめだとか（kamipro大賞のプロフィール参照）。しかし、いくらなんでも、年80回は行きすぎです！

よかったのは前田日明〝変態〟座談会。あの頃が一番おもしろかった。髙橋義生（現・和生）とも和解していたとはビックリ。佐竹も髙田も船木も、結局前田と仲直りしたかったんだなあ。あの頃、大同団結していれば、凄い規模になっていたのに。
【愛知県・加藤達也さん・大工・38歳】

⬇田村さんとも仲直りしてほしいですね。

〝魔王〟秋山特集の山田トレーナーの記事を見ました。複雑な思いだったと思います。秋山選手とどんな再会をして、一緒に入場するのか（？）気になります。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・28歳】

⬇いろんな意味で大反響だったこのインタビュー。結局、山田トレーナーが秋山と一緒に入場することはありませんでしたが、会場で遭遇した二人のあいだではどんな会話がなされていたんでしょうか？

佐藤大輔の記事がよかった。インタビューを読んだだけでドキドキワクワク。煽りVの妄想が膨らみまくります。
【兵庫県・太田真哉さん・会社員・37歳】

⬇「ニャー」と叫ぶ愛すべきサダハルンバの映像を持ってくるとは、さすがです！



有田（哲平）さんのインタビューを読んで、確かにプロレス好きというのは感じたが、自分とは違うプロレスファンのタイプですね。いままで自分と同じタイプのプロレスファンだとずっと思っていましたが、『kamipro』のインタビューを読んで、違うタイプだと思いました。『ハッスル』は受け入れてるけど、自分はガチのプロレスファンなので、『ハッスル』みたいなプロレスは好きではないですね。確かに、『ハッスル』に出ている本物のレスラーは一流ですけどね。
【青森県・菅原豪浩さん・フリーター・21歳】

⬇分析、ご苦労さまです！

ドン・キホーテの安田会長のインタビューがよかった。「合い言葉は、ピュア・ホワイト」！　本当の金持ちはカッコいいと思った。
【東京都・小澤暁人さん・会社員・34歳】

⬇自伝によると、ヒルズ族をおもいっきり敵視しているという安田会長ですが、私からするとどっちもうらやましいです。同情するなら金をくれ！（祐実調）。

『kamipro』のインタビューでノゲイラの状況がわかってよかった。元々ファンで、PRIDEが消滅したあと、日本ではあまり情報がなかったので、読めてよかった。
【千葉県・小橋忠久さん・会社員・33歳】

⬇ティム・シルビアとの事実上ヘビー級王座決定戦が控えているノゲイラ。〝オクタゴンの罠〟にはまることなく、快勝してくれることを祈る！

「藤門曄裟　with　加藤重夫」のページがよかった。藤門曄裟選手がどんな練習をしているのかわかったし、とてもクールな人だなと思ったから。
【茨城県・石塚裕伴さん・学生・15歳】

⬇15歳からのこのお便り、やはり同世代として藤門曄裟の動向は気になるのでしょうか？　次回のK－1甲子園では絶対に参戦してほしい！　そして加藤会長には絶対にセコンドについてもらいたいです!!



麗しのI編集長写真館は素晴らしすぎる……。永久保存モノだ。
【三重県・ラドンさん・会社員・34歳】

⬇貴重なお写真をご提供してくださったご遺族の方には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

ザ・グレート・サスケが語る毎年恒例の超常現象の記事がおもしろかった。僕もUFOが大好きなのですが、次回はUMA（未確認動物）の特集をやってもらいたいです。そのインタビューの相手はやっぱりソクジュで決まりでしょ！
【大阪府・山内義久さん・自遊業・39歳】

⬇UMA特集ではないですが、次号ではそれに近い記事をお届けできるかもしれませんよ。ムフフフ……。

118号・おもしろかった記事ランキング

1位	前田日明“変態”座談会
2位	“魔王”聖地降臨
3位	藤門曄裟　with　加藤重夫 藤ジム会長
4位	有田哲平
5位	I編集長写真館

1位に輝いたのは、前々号に続いてやっぱり前田日明“変態”座談会！“変態”たちの宴はまだまだ続きますので、乞うご期待。2位は『やれんのか！』ベストバウト級の試合を繰り広げた秋山企画。残念ながら『Dynamite!!』参戦ならずも、藤門曄裟&加藤会長の強烈さは3位という人気ぶり。I編集長の一周忌追善企画は尋常ないインパクトで5位まで食い込みました。さすがです!!



埼玉県・棘蟹さん⊙棘蟹さんには今月7枚のイラストをお送りいただきました。感謝！　それにしても、この桜庭はなんともいえない味が出ていますね。

kamipro Special・08年冬 おもしろかった記事ランキング

1位	船木誠勝×ミヤマ☆仮面
2位	青木真也
3位	アントニオ猪木
4位	エメリヤーエンコ・ヒョードル
5位	大晦日夢の大同団結座談会



11月に発売された『kamipro Special 2008 WINTER』の人気企画ランキングはご覧のとおり。UWF師弟対談となった船木×ミヤマ☆仮面は、船木の衝撃告白の連発により堂々1位に！　そのほか、やっぱり大晦日『やれんのか！』系の企画は青木、ヒョードル、座談会と、どれも上位に食い込みました。そんな中、IGF南極大会開催をぶち上げているアントンは3位と大健闘！　バカヤロウ!!　それにしてもUWF系の企画はまだまだ強いなあ～。

スクープ！ ザ・目撃!!

●クリスマス前の土曜日、サンリオピューロランドに行ったら、目の前に家族連れのニコラス・ペタスがいるではありませんか!!　3人のお嬢さん、とてもかわいかったです。あまりのうれしさに我が子以上にはしゃいでしまい、逆に子どもにたしなめられました。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

●11月27日に行なわれた『戦極』の会見で、タダシ☆タナカさんを目撃しました。今回は写メではなく、ちゃんとしたカメラを持参していたようですが、なんだか外付けのストロボの取り付け方がわからなかったようで、結局、内蔵ストロボで撮影されていました。お疲れさまでした。
【kamipro Hand投稿】



●ミヤマ☆仮面さま
今年も森の平和のために闘っていただきたいと思います。打倒・佐藤兄弟!?



●リキプロさま
ひそかにネズミ仕様になっている長州のイラストがたまりません！



●原タコヤキ君さま
今年はにさらに輪をかけて"変態"道を追求していただきたいと思います。

あけまして 年賀状

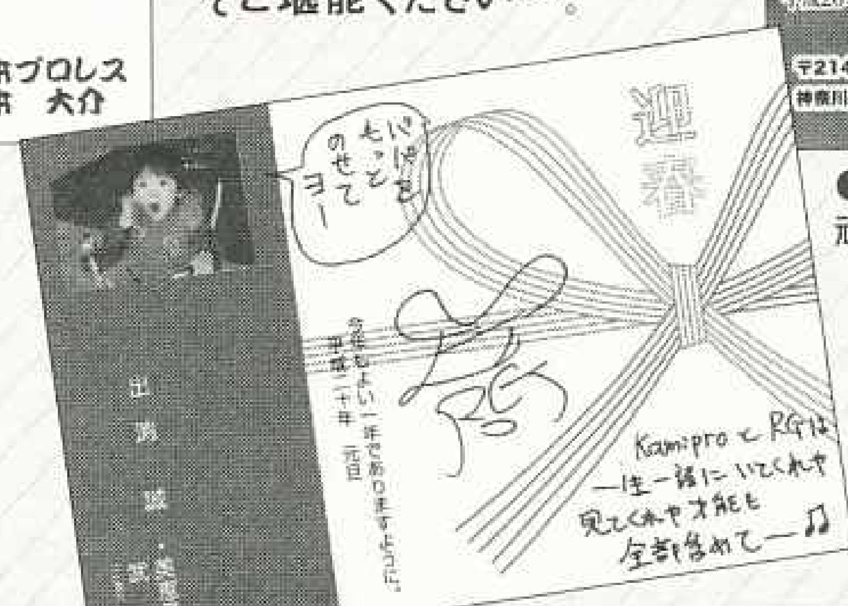
えー、今年もたくさんの方々から年賀状をいただきまして、まことにありがとうございました。一部、このページで紹介させていただきますので、どうぞご堪能ください～。



●関本大介さま
昨年大活躍の関本大介さん。一度のインタビューで、ちゃんと年賀状まで送ってくださるなんて、感激です！



●大久保一樹さま
頑固プロレス、応援しています。



●RG
「『kamipro』とRGは♪一生一緒にいてくれや」とありますが、謹んでお断りいたします。

読者ページのヒーロー 森嶋猛の大応援コーナー 紙の森嶋

森嶋さん、あけましておめでとうございます！（遠くに向かって）。今年も"読者ページのヒーロー"森嶋を追いかけさせていただく「紙の森嶋」を勝手に継続させていただきたいと思います。なんと、幸先いいことに、年始から森嶋のイラストが2枚も到着!!　いやー、嬉しいなあー。しかも、1月6日ディファ有明大会では、森嶋がGHC王者・三沢光晴を挑発!?　ヒャイーン！　というわけで、ぜひ、森嶋の近況をチェックしまくって、今年も森嶋を追いかけましょ～！



埼玉県・棘蟹さん



東京都・サカモトカズヤさん

森嶋の近況

[2007年]

12月23日 ディファ有明大会で、潮崎とタッグを組み、ノアのエース二人組である丸藤&KENTAと対戦。丸藤を踏みつける潮崎。それに加勢するように、体重を活かし丸藤を両足で踏みつける森嶋の姿は圧巻。

12月24日 恒例のクリスマス大会で、プレゼントを投げながらメインで入場。やはり"サンタ"っぽい役は森嶋がやるに限る。

12月29・30日 ニューヨークで開催されるROH主催の大会に出場。

[2008年]

1月6日 メインの6人タッグマッチでGHCヘビー級王者・三沢光晴と対戦。森嶋は三沢のお株を奪うがごとく、145キロの巨体をもって三沢にエルボーをお見舞い。GHCのベルト挑戦を熱烈アピール!!（興奮）。



さあ、明るい未来への列車に乗ろう！ 上井駅長の人生相談

さあ、今回は男性なら誰もが通る世界共通のお悩みが届いております！　いつものように、上井さんにドカンと答えていただきましょう！　それではスタートで～す!!

お悩みごと
後頭部の密度が気になります

■育毛に関する相談
（東京都・桂三郎さん・SE・♂）

先日、散髪にいったときに気づいたのですが、少し後頭部の毛が薄くなっているような気がしています。家系的に父も母も髪が薄くなるような血筋ではないと高をくくり、これまで何もケアをしていませんでした。いまはまだごまかせる範囲だと思っているのですが、月日を重ねるのが不安でなりません。上井さんは髪の毛が豊かですが、何かケアをしていらっしゃるのでしょうか？　効果的な方法がありましたらぜひ教えてください！

上井駅長

まあねえ、うしろだけだったらそんなに気にする必要もないんじゃないのかなって思うけどね。でもまあ、僕の場合で言うと、僕は家系的にもぜんぜんそういう薄い人はいないんだけど、僕自身は一日髪を洗わないとペターってなっちゃうような髪質だから、なるべく石けんに近いようなシャンプーで洗ってるんですよ。そして敢えてリンスはしないの。それをね、「僕のやり方、間違ってますか？」って散髪屋さんに聞いたことがあるんですけど、本当に石けんで洗ってもいいくらいの髪質だって言われたんですよね。だから、人によって違うんじゃないかな。その話で言うと、僕は一度ジョーダンズの三又さんに「上井さん、あれズラじゃないですかね」って疑われてたことがあったみたいなんですよ！　ハッハッハッハ!!（爆笑）。もう、引っぱって確かめてもらってもいいんだけどね（笑）。それから、後頭部が気になるんだったら、枕も気をつけたほうがいいかもしれませんね。赤ん坊なんかでも、ずーっと同じ姿勢で寝かせたりしてたら、頭薄くなってるよ。うん。だから、ちょっとしたことかもしれないけど、横になって寝るとか、枕を適度に変えるとかやったほうがいいかもしれませんね。え？　僕が薄くなったら!?　そりゃもう、お金に余裕があるんだったら、頭皮に毛をくっつけるヤツやってみたいよね!!（興奮して）。あれ不思議だよねえ！　へんな話、相当凄いと思うよ！　あ、だから、そういう専門のところに相談するのも一つの手だよね。相談するくらいはタダなんじゃないの？　うん！

桂さん、おわかりになりましたでしょうか？　ぜひ上井さんの助言をもとに、専門の会社に相談してみてください。あと、枕の案もご参考に！
※人生相談ドシドシ送ってください！　また、悩みが解決した人もぜひ結果をご報告ください!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　kamipro編集部
「ランペイジ弟」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず 情報局
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

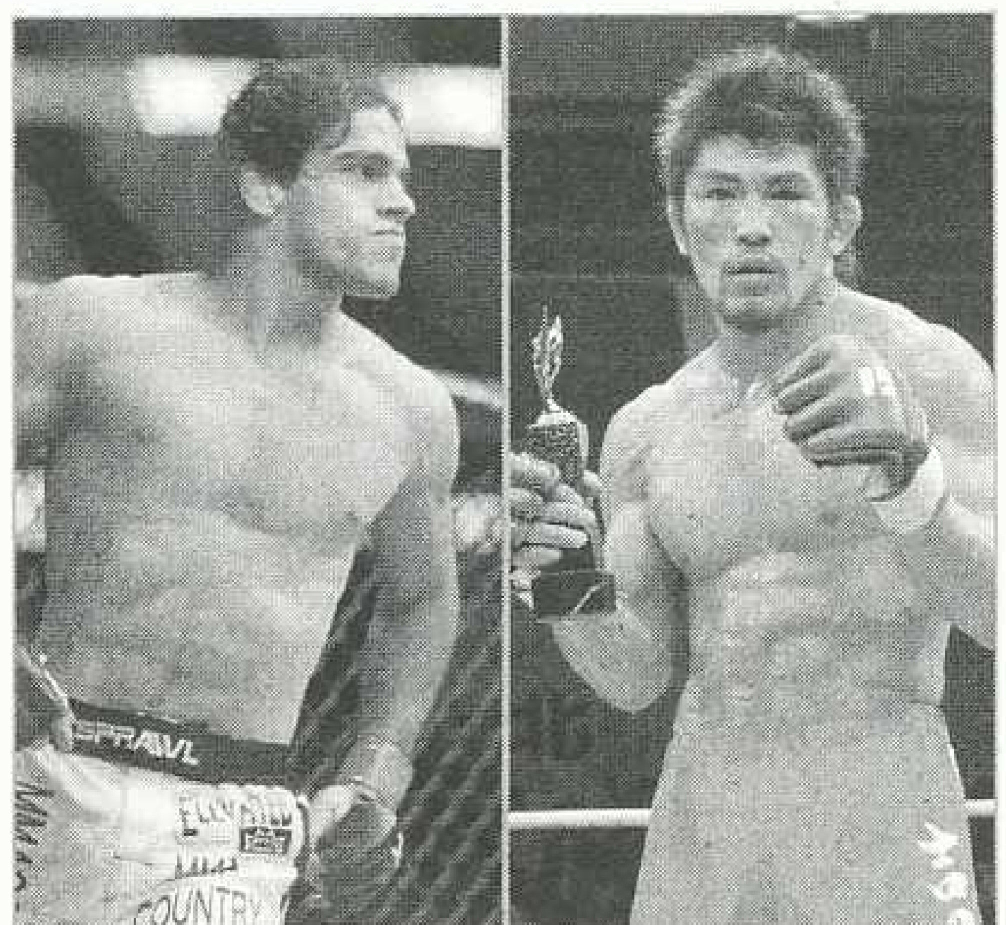
Fight & Event January 1

22 TUE.

◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）

23 WED.

小見川、UFC第二戦はUFNで強豪チアゴ・タバレスと対戦!!



『UFC FIGHT NIGHT：Swick vs Burkman』
米国ネバダ州ラスベガス、ザ・パール

決定対戦カード
チアゴ・タバレス vs 小見川道大
マイク・スウィック vs ジョシュ・バークマン

◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（19:00）

24 THU.

◆ZERO1・MAX／東京・新木場1stRING（19:30）

25 FRI.

◆新日本／沖縄・沖縄武道館（18:30）
◆ZERO1・MAX／千葉・千葉ポートアリーナ（19:00）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）

26 SAT.

◆全日本／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:00）
◆DRAGON GATE／和歌山・和歌山県立体育館（18:30）
◆El Dorado／静岡・清水マリンビル（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆修斗／東京・後楽園ホール（17:30）

27 SUN.

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／愛媛・松山市総合コミュニティセンター（17:00）
◆El Dorado／愛知・クラブダイアモンドホール（13:00）
◆大日本／愛知・クラブダイアモンドホール（17:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:30&15:00）
◆バトラーツ／東京・北千住シアター1010（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
◆JWP／東京・キネマ倶楽部（13:00）
◆NEO／東京・キネマ倶楽部（17:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（18:30）

28 MON.

◆ZERO1・MAX／栃木・足利市民プラザ（19:00）
◆DRAGON GATE／兵庫・ドラゴンゲートアリーナ（19:30）

29 TUE.

◆ZERO1・MAX／茨城・牛久運動公園体育館（19:00）

30 WED.

井上と北岡が新年初の頂上対決! キング・オブ・パンクラスはどっちだ!?



『PANCRASE 2008 SHINING TOUR』
東京・後楽園ホール（18:30）

決定対戦カード
【第3代ウェルター級キング・オブ・パンクラス決定戦】
北岡悟 vs 井上克也
【初代ライト級キング・オブ・パンクラス決定戦】
ウマハノフ・アルトゥール vs 昇侍

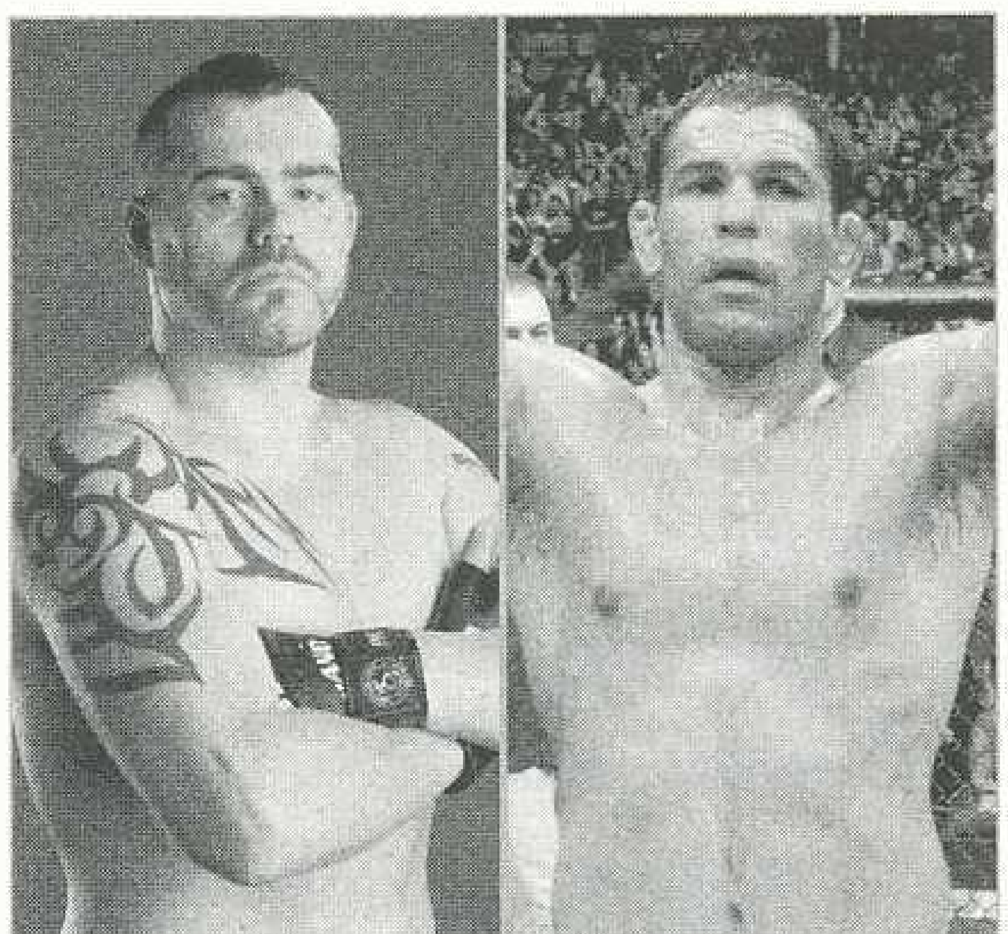
チケット料金
SS席＝12,000円、A席＝8,000円、B席＝6,500円、C席＝5,000円、D席4,000円
◎問＝パンクラス 03-5792-0815

◆ユニオン／東京・新木場1stRING（19:30）

Fight & Event February 2

2 SAT.

ブロック・レスナーがUFCデビュー! ノゲイラがUFC暫定王座に挑戦!!



『UFC81 BREAKING POINT』
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター

決定対戦カード
【ヘビー級暫定王座決定戦】
ティム・シルビア vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、
フランク・ミア vs ブロック・レスナー

K-1 MAX日本代表決定トーナメント開催! 最強は誰だ!!



『K-1 WORLD MAX 2008 日本代表決定トーナメント』
東京・日本武道館（15:30）

決定対戦カード
ブアカーオ・ポー.プラムック vs 佐藤嘉洋

21 THU.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆全日本／静岡・ツインメッセ静岡（18:30）
◆NOAH／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:00）

22 FRI.

◆全日本／栃木・矢板市農業者トレーニングセンター（18:30）
◆DEEP／東京・後楽園ホール（18:30）
◆R.I.S.E.／東京・新宿FACE（未定）

23 SAT.

◆全日本／埼玉・蓮田市総合市民体育館（18:00）
◆NOAH／京都・KBSホール（18:00）
◆DRAGON GATE／愛知・名古屋テレピアホール（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆DEP／愛知・刈谷市産業振興センター（17:30）
◆修斗／東京・新宿FACE（未定）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（18:30）

24 SUN.

ハッスルが再びさいたまに!
HG、RGにボノちゃんも参戦!!



『ハッスル28』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ・コミュニティーホール（17:00）

出場予定選手
坂田亘、HG、RG、天龍源一郎、インリン様、モンスター・ボノ、川田利明

チケット料金
ハッスルVIP＝10,000円、S＝5,000円、A＝3,000円、子どもS＝2,500円、子どもA＝1,500円
◎問＝ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

◆全日本／群馬・グリーンドーム前橋（17:00）
◆LOCK UP／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／福井・福井市体育館（14:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:30&15:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆風香祭り／東京・新木場1stRING（12:30）
◆NEO／東京・北沢タウンホール（18:30）

26 TUE.

◆全日本／長野・めいてつショーホール（18:30）
◆NOAH／東京・京王プラザホテル八王子（19:00）

27 WED.

◆全日本／茨城・ひたちなか市松戸体育館（18:30）
◆El Dorado／東京・後楽園ホール（19:00）

28 THU.

◆全日本／茨城・つくばカピオ（18:30）
◆NOAH／神奈川・小田原アリーナ（18:00）

29 FRI.

◆LOCK UP／大阪・IMPホール（18:30）
◆NOAH／茨城・水戸市民体育館（18:30）
◆VKF／大阪・アゼリア大正（19:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

チケット料金
SS席＝20,000円、S席＝15,000円、A席＝10,000円、B席＝5,000円、C席＝3,000円
◎問＝キョードー東京 03-3498-9999

◆新日本／岐阜・岐阜産業会館（16:00）
◆DRAGON GATE／千葉・千葉ポートアリーナ（18:00）
◆DDT／愛知・名古屋市中村スポーツセンター（13:00）
◆健介オフィス／東京・後楽園ホール（12:00）
◆大阪プロ／大阪・大阪府立体育会館（15:00）
◆MARS／東京・新宿FACE（17:00）
◆NEO／東京・板橋区立グリーンホール（13:00）
◆JWP／東京・板橋区立グリーンホール（17:00）

12 TUE.

◆WWE／東京・日本武道館（18:30）

13 WED.

◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

14 THU.

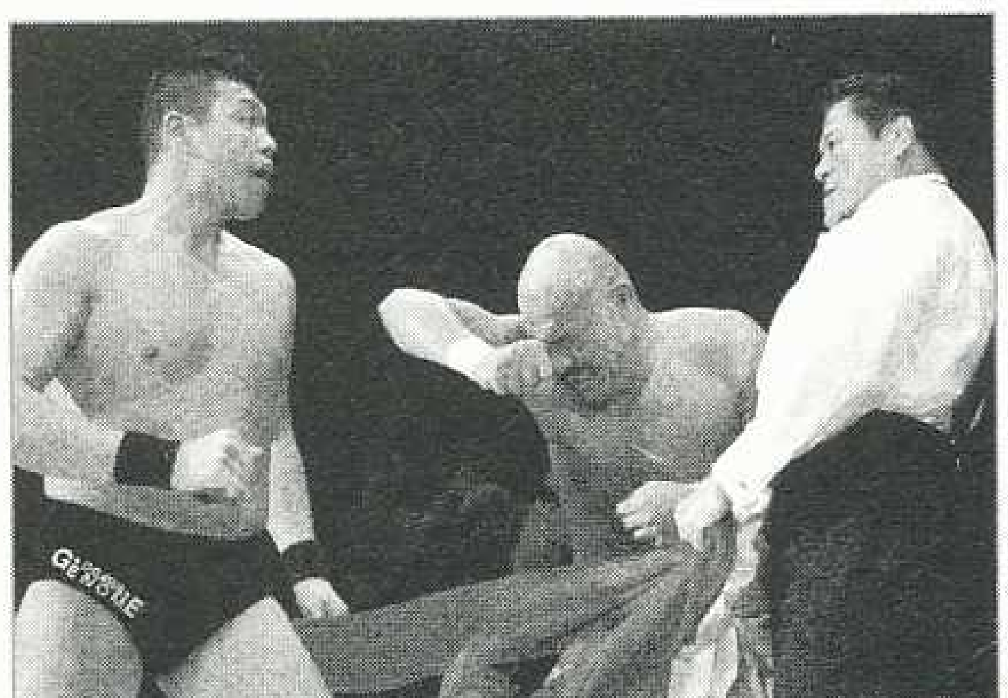
◆新日本／茨城・ひたちなか市松戸体育館（18:30）
◆スマックガール／東京・後楽園ホール（19:00）

15 FRI.

◆全日本／東京・新宿FACE（19:00）
◆NOAH／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）
◆宮本和志自主興行／東京・新木場1stRING（19:30）

16 SAT.

猪木 vs 小川の師弟抗争勃発か!?
一寸先はハプニング?



『IGFプロレスリング GENOME3　猪木Memorial65』
東京・有明コロシアム（18:00）

チケット料金
SRS席＝20,000円、S席＝10,000円、A席＝5,000円
◎問＝IGF 03-5159-3380

◆DRAGON GATE／岐阜・岐阜商工会議所（18:30）
◆大日本／広島・広島産業会館（18:30）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆ソウル・コネクション／東京・新宿FACE（19:00）

17 SUN.

◆新日本／東京・両国国技館（17:00）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NOAH／愛知・Zepp Nagoya（17:00）
◆DRAGON GATE／京都・KBSホール（17:00）
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（18:30）
◆大日本／大阪・鶴見緑地花博記念公園（15:00）
◆みちのく／東京・新宿FACE（18:00）
◆RIKI OFFICE／大阪・世界館（18:00）
◆JWP／東京・東京キネマ倶楽部（13:00）

18 MON.

◆全日本／福島・白河市中央体育館（18:30）

20 WED.

◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）

出場予定選手
アンディ・オロゴン、TATSUJI、HAYATO、ドラゴ

チケット料金
SRS席＝23,000円、SS席＝13,000円、S席＝10,000円、A席＝6,000円
◎問＝FEG　03-3796-5060

◆新日本／新潟・三条市厚生福祉会館（18:00）
◆DRAGON GATE／福岡・うきは市吉井体育センター（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

3 SUN.

◆新日本／群馬・太田市新田文化会館（16:00）
◆DRAGON GATE／福岡・博多スターレーン（16:00）
◆DDT／東京・後楽園ホール（12:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆El Dorado／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:30&15:00）
◆マグニチュード岸和田自主興行／大阪・アゼリア大正（14:00）
◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール（未定）

7 THU.

◆K-DOJO／東京・新宿FACE（18:30）
◆新北京／東京・新木場1stRING（19:30）

8 FRI.

◆新日本／埼玉・所沢市民体育館（19:00）
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）

9 SAT.

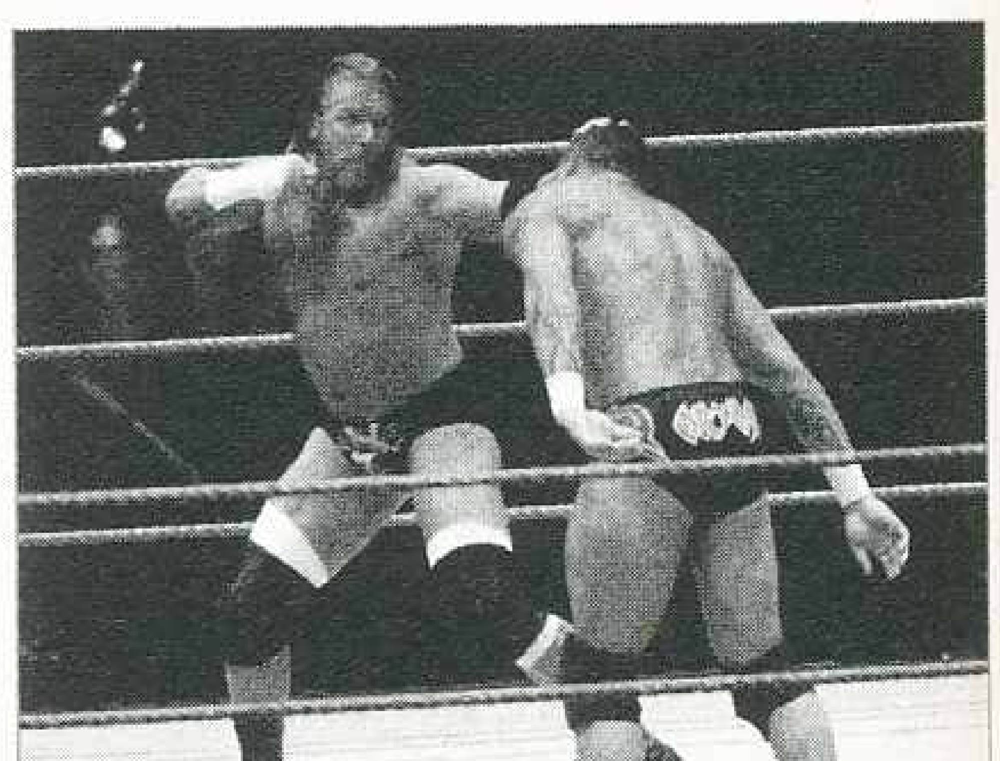
◆新日本／栃木・清原体育館（18:00）
◆DRAGON GATE／神奈川・相模原市総合体育館（18:00）
◆ZERO1・MAX／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:00）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆全日本キック／東京・後楽園ホール（18:00）

10 SUN.

◆DRAGON GATE／東京・新木場1stRING（15:30&19:00）
◆El Dorado／山形・山形国際ホテル（17:30）
◆DDT／東京・新木場1stRING（12:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（15:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆JWP／東京・新宿FACE（12:30）
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE（17:00）

11 MON.

今年もスーパースターがズラリ!
トリプルH、ジョン・シナらが大挙襲来!!



『WWE RAW ROYAL RUMBLE TOUR in Japan』
東京・有明コロシアム（17:00）

出場予定選手
ジョン・シナ、トリプルH、ランディ・オートン、ウマガ、ジェフ・ハーディ、ポール・ロンドン、ブライアン・ケンドリック、Mr.ケネディ、ランス・ケード、トレバー・マードック、キャンディス・ミッシェル

団体INDEX(50音順及びアルファベット順)

Event 目指せ賞金100万円! 伝説の格闘イベントが6年ぶりに復活!!



伝説の格闘技イベントが復活！ 2000年からヤマケンこと山本喧一が開催していた、プロ・アマ問わず挑戦を受ける『クラブファイト』が6年半ぶりにリスタート！ このイベントはヤマケンに加えて、高瀬大樹らが"格闘技の鉄人"として賞金首となり、挑戦者が勝てば100万円もらえるというもの。ヤマケンは「闘いに飢えてるヤツとやりたい」と参加者を募集。応募はホームページ(現在制作中)で受け付けるとのこと。あい～や！

★開催日／3月4日(火)深夜　★会場／東京・club asia
★問／ラインワークス　03-3440-5225

Television 佐藤大輔責任編集!! 『やれんのか!』のメイキングが放映決定!!



『やれんのか！』のメイキング番組『ドキュメンタリー やれんのか！ 完結編』が放送決定ーッ！　しかも責任編集するのは、"60億分の1の煽りVアーティスト"佐藤大輔氏!!　その内容はPRIDE経営権譲渡会見から始まり、試合映像はもちろん、大会当日のバックステージ秘蔵映像や、大会後の選手&関係者インタビューで『やれんのか！』を振り返るというもの。放送は2月2日から。

★問／スカイパーフェクTV!　0570-039-888
★HP／http://www.ppvj.co.jp/sport/yarennoka2007/

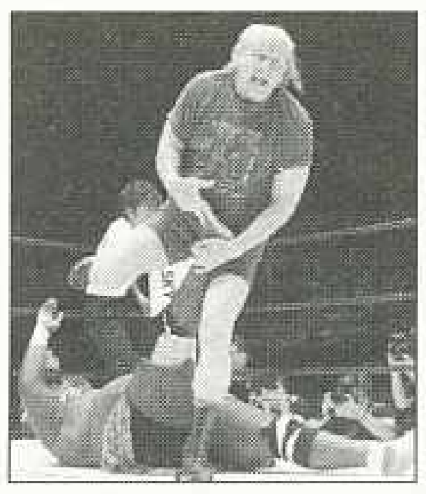
Event ストライク・フォースだけじゃない! 夏目ナナがPLAYBOYイベント開催!



『PLAYBOY』誌オーナー、ヒュー・ヘフナーの有名なPLAYBOYマンションでストライク・フォースがMMAイベントを行なったことは記憶に新しいが、今度は夏目ナナがPLAYBOYイベントをプロデュース！ 大人向け番組を放送しているプレイボーイチャンネル・ジャパンに夏目ナナと武藤敬司が企画を持ちかけ実現したという同大会。独身レスラーによるトーナメント以外、企画内容は未定だが、何かが起こるかも!?

★『PLAYBOY CHANNEL NIGHT 2008』 ★開催日／2月15日(金)19時開始
★会場／東京・新宿FACE　★問 全日本プロレス 03-3228-0610

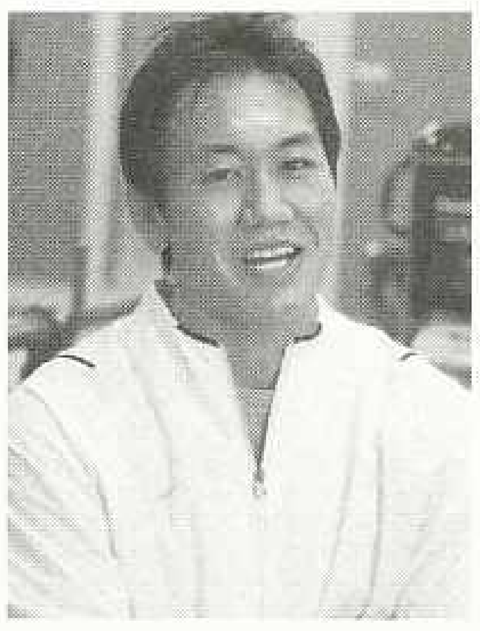
Event スピンニング・トーホールド! ドリー・ファンクJr.が日本マット界で引退!



"グレート・テキサン"ドリー・ファンク・ジュニアがついに日本引退！　弟テリー・ファンクとの名タッグ「ザ・ファンクス」で70年代から全日本プロレスを支えてきたドリーが2月の『2008エキサイトシリーズ』に全戦参戦。最終戦となる3.1両国国技館大会で、日本でのラストマッチを行なうことが発表された。最後のスピニング・トーホールドを目に焼きつけろ！

★『プロレスLOVE in両国 Vol.4』 ★開催日／3月1日(土)17時開始
★会場／東京・両国国技館　★問／全日本プロレス　03-3228-0610

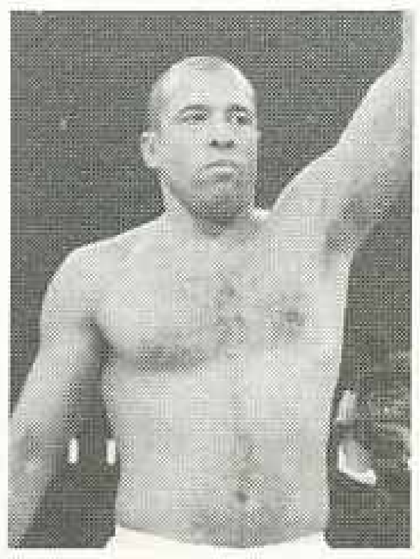
Gym 設立10周年記念! 和術慧舟會が無料入会キャンペーン実施!!



和術慧舟會が設立記念10周年キャンペーンを実施！ 日本各地に道場を展開し、岡見勇信や門馬秀貴らトップファイターによる指導に定評がある慧舟會。1月中に入会すると、通常の入会金1万円が無料になるキャンペーンを行なっている。また、体験レッスンも随時受け付けているので、今年から格闘技を始めようと思う人はぜひ！ 詳細はホームページをチェック!!

★HP／http://www.wk-net.co.jp/news/can/index.html

Seminar これでキミもグレイシー! 東京、名古屋、大阪でホイスが柔術セミナー!!



『Dynamite!! USA』での桜庭戦以来、ご無沙汰のホイス・グレイシーが来日！　2月2日から11日まで東京、愛知、大阪の3都市で柔術セミナーを開催する。このセミナーは護身術を学びたいという初心者から、MMAファイターまで、ホイス自身が直接指導を行なうというもの。グレイシー・ファミリーに入りたい人は、このチャンスを逃すな！

★問／ホイス・グレイシー・ジャパン　050-5537-6429
★HP／http://www.uticket.jp/uticket/features/roycegracie/

Book アイドルレスラーの揺れる心情 風香の痴漢逮捕劇がドキュメント本に!



乙女心が赤裸々！　昨年、スポーツ紙を騒がせた"アイドルレスラー"風香の痴漢逮捕劇。被害に遭った風香が痴漢を逮捕するまでの100日間がドキュメンタリーとなって出版されることになった。自らパトロールを実施し、犯人を発見するに至った過程と、そのあいだの"心の揺れ"が如実に書かれたこの本。「痴漢の犯人を見つけたときは、片思いの人に再開したときのような気持ちになった」という風香の発言には驚き！

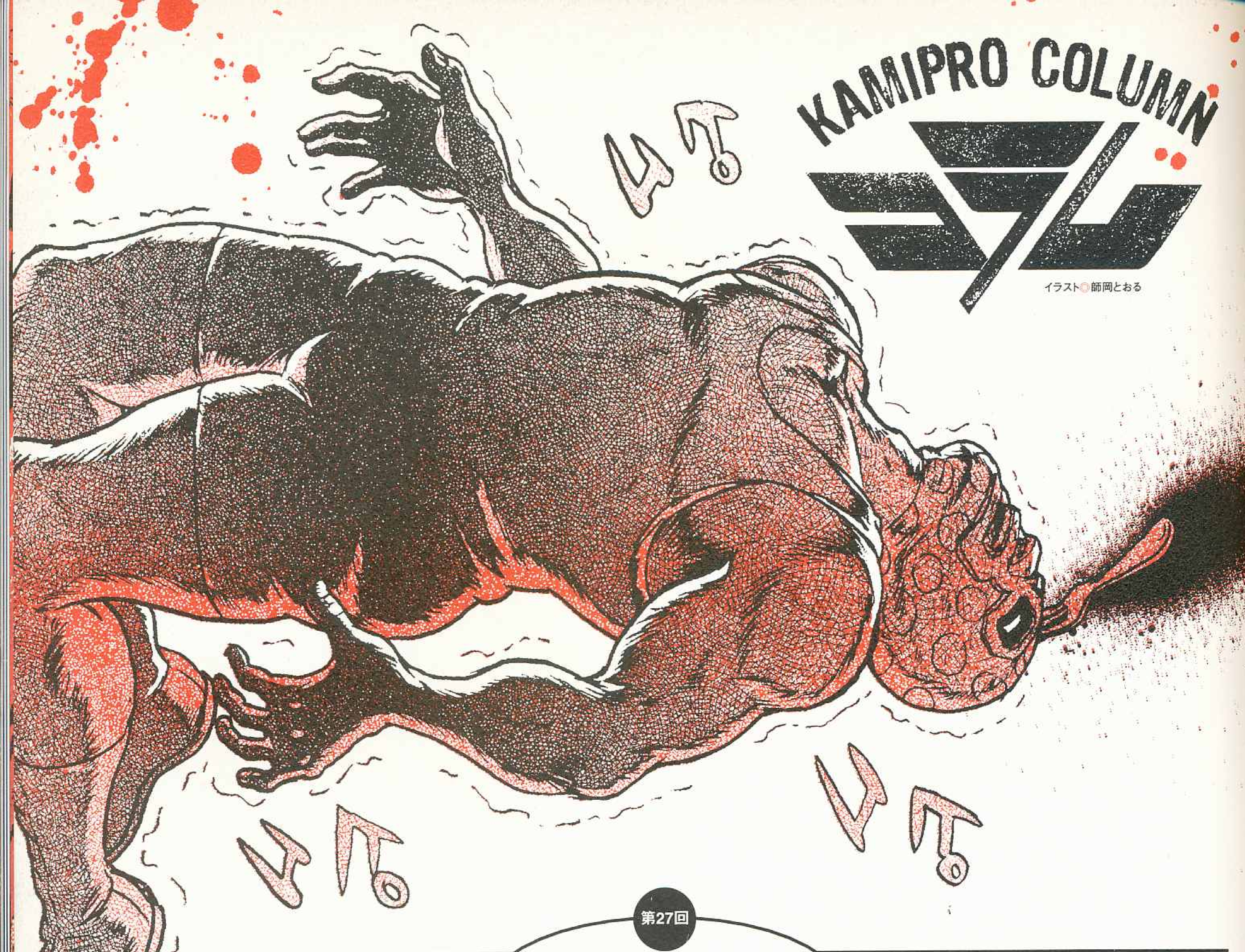
★『女子魂。』風香著(講談社)　★定価:1000円(税込)1月25日発売

Book この本を読めば、なんでもできる! 我らがアントンの『猪木語録』が発売!



「元気があればなんでもできる！」「踏み出せば、その一歩が道となる」などなど、多くの名言を生み出してきた、我らがアントンが名言集を出版！『猪木語録』とタイトルされたこの本には、猪木が自ら選んだ不朽の名言、全366語が収録。それぞれの言葉の由来と意味が掲載されており、カレンダー形式で毎日一言ずつ読めるというもの。猪木の熱いメッセージを感じるんダー!!

★『猪木語録　元気ですか!一日一叫び』アントニオ猪木著(扶桑社)
★ 定価1,000円(税込)発売中



イラスト◎師岡とおる

第27回

地味なゆく年くる年

花くまゆうさく リングの汁ミニ

12月31日
テレビで『Dynamite!!』。同じVTRや昔の試合でなかなか今日の試合が流れないので、しばらくフジテレビでビーチバレーしてる浅尾美和のみを凝視することにした。

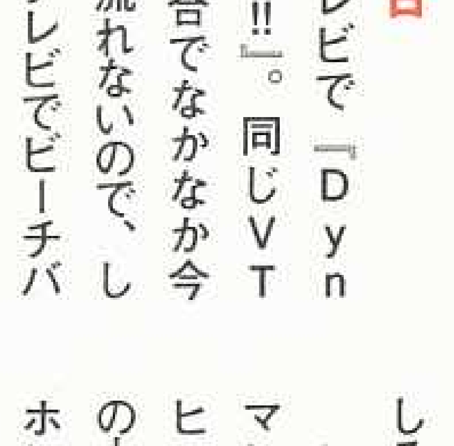
田村vs所は、階級が違いすぎてミスマッチすぎる。いったい誰がこんなカードを決めたんだろう？

217センチの巨神兵こと、キム・ヨンヒョンが崩れ落ちるシーンは美しかった。ミルコにやられたドスカラス・ジュニア以来の美しいKO負けかな。あと、2メートル以上の人は、なんでみんな同じような顔なんだろう？ もし、あの身体で顔がイケメンだったらどうだろうか？ とかどうでもいいことを考えてしまうのは、『Dynamite!!』がつまらないからなのか。

そして、まったく寝技にならず残念だったKID vsヤヒーラ。寝技勝負になったらどうなるか、一回くらい観たかった。

やっぱり船木はおもしろいと入場シーンで痛感。今後は独自の世界に棲む不思議な人キャラで『ハッスル』に出たらおもしろそう。

ヒョードルvsホンマン。あいかわらずヒョードルの下からの十字は鋭く美しい。ホンマンに押し倒されたとき、ひねったヒザに体重かかって危なそうだったね。



いままで三崎を応援したことは皆無だったけど、今日は別。試合が始まると、スタンドだと異様に秋山強そうで、三崎がピョンピョンするたんびに不安になってくる。大逆転で三崎勝って、なだれこむグラバカ勢。放送席からすっとんできた郷野＆高田の姿を観てると、泣けて涙出てきた。まさか、涙出して泣くとは思わなかった。

そしてハンセンvs宮田。大晦日のテレビのトリがハンセンなんて嬉しい！ しかも完勝！ そのあとスカパー！の清志郎ライブでカウントダウンして新年を迎えた。

1月1日
新聞やネットを見ずに、『やれんのか！』をPPV。何度観ても、三崎勝利直後のリング上を観ると泣けてくる。でも昨日地上波では観れなかった三崎のマイクを観たら、ちとズッコケた。

青木の相手が寝技強くておもしろい。アブダビのガルシア戦、ホジャー戦、柔術での渡辺直由戦など、青木が寝技でやられる姿は新鮮で見ごたえある。

今大会、ブスタマンチ、ヒョードル、チョン・ブギョンと下からの鋭い十字にしびれた。上からコツコツとパウンドで勝ちを狙う人より、下から極めるほうがロマン感じるし、プロだと思う。

反省します



Hanakuma Yusaku
◎スカパー！でやってる、ホーガン家の番組おもしろいね。

リング上からプライベートまで！
"なんでもあり"の質問コーナー

第12回

所英男のトコロ天国



本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

聞き手／松下ミワ

所（息を切らせながら）す、すいません！ お待たせしました！（※この日、所は15分遅刻して登場）。

——もう、今日は来てくれないかと思いましたよ！ しかし、年末の差し迫った時期に取材を受けていただいてたいへん恐縮です（このインタビューは07年12月17日収録）。

所 いやいや！ で、今日はいったいなんの話をしたらいいんでしょうか？

——えっとですね、今日のテーマは「話術」ということになっております。

所 はぁ。それはまた、ボクにとっては不安そうなテーマですねぇ……。

——とりあえず質問を読んでみましょう！

受け身に関する質問

埼玉県・オダススムさん・18歳・高校生

僕はプロレスができない人間だとよく言われます。なぜなら、本質を突かれたことを言われると、すぐに顔が真っ赤になってうまい受け応えができないからです。そう思うのは、とくに「おまえ、〇〇ちゃんが好きなんだろ」とか言われたときです。本当はそれで正解なんだけど、でもウソをつきたいときって、どういうふうに交わせばいいんですか？

——昨年、三十路を迎えられた所さんとしては、こういう問題はお手のものでしょう！

所 な、なんか、ちょっと悪意を感じるんですけど……。でも三十路のボクもけっこうごまかすのはあんまり得意じゃないというかなんというか（ぶつぶつ）。

——え〜、本当ですかぁ!?（疑いの目で）。だって、この『トコロ天国』のコーナーだけでもかなり"交わされてる感"たっぷりなんですけど。

所 なんてこと言うんですか！ ボクはいつだって真剣ですよ（遠い目で）。でも、見る人から見れば、正直ボクも核心を突かれるとかなり目が泳ぐって言われます……。

——そうですか（笑）。じゃあこの投稿者みたいに「〇〇ちゃんが好きなんだろ」って言われたらどうします？

所 う〜ん。とりあえず、「〇〇ちゃんもいいけど、××ちゃんもかわいいよね！」って言います。そして、少しずつ話をそらす！

——ワハハハ！ でもそれ、かなりバレバレっぽい感じがするんですけど（笑）。

所 あとは演技力が備わっていればいいかなって。

——なるほど。ちなみに、今日、所さんはこの取材に遅刻しているにも関わらず、途中でラーメン食べてきたという情報を"共犯者"の奥出（雅之）さんから入手したんですけど。

所 えっ……（と言って固まる）。た、た、食べてないですよ、ボク……（極端に目を泳がせながら）。

——おもいっきり目が物語ってるじゃないですか（笑）。

所 だって、食べてないですもん！（逆ギレ中）。

——え－、そういうわけで、投稿者の方は所さんを"反面教師"にして、ぜひ巧みな演技力を身につけてください！

ツッコミに関する質問

愛知県・おやじ目前さん・37歳・営業職

先日、友だちと格闘技の話をしていたときに和術慧舟會の話題が出たのですが、その友だちに「でも、"わじゅつ"で言うなら、オレの話術のほうがイケてる」などと、くだらないギャグを言われてしまいました。友だちは僕と同い年ですが、最近はとくにどうしようもないギャグを言うようになって困っています。所さんの周りにはそういう人はいますか？ いたら、どう対処しているか教えてください。

所 おやじギャグねぇ……。

——所さんはバナナマンさんをはじめお笑い芸人との親交も深いと聞きますし、けっこうギャグにはうるさいほうなんじゃないですか？

所 でも正直言って、ボクもだんだんおやじギャグとか下ネタが好きになってきてるんですよねぇ（しみじみ）。

——ワハハハ！ 所さんのおやじギャグはぜひ聞きたいですねぇ。ちょっとひとネタ言ってみてくださいよ！

所 そんなこといきなり言われても、言えないですよ！ やっぱり何かタイミングないと。

——いやいや、お願いします！

所（まんざらでもなさそうに）じゃあ……、「このシャツ何色ですか？」って聞いてもらえますか？ できれば大女優に聞いてるようにお願いします。

——コホン。え－、では、このシャツは何色でしょうか？

所 これは……、シャツきみどりです！（※一応、説明すると「五月みどり」とかけているつもり）。

——…………（絶句）。

所 ……って、この前、上原さん（ZST広報）が言ってました（しらじらしく）。

——絶対ウソでしょうよ！（笑）。いや－、それにしてもヒドいなあ、所さんのおやじギャグは。

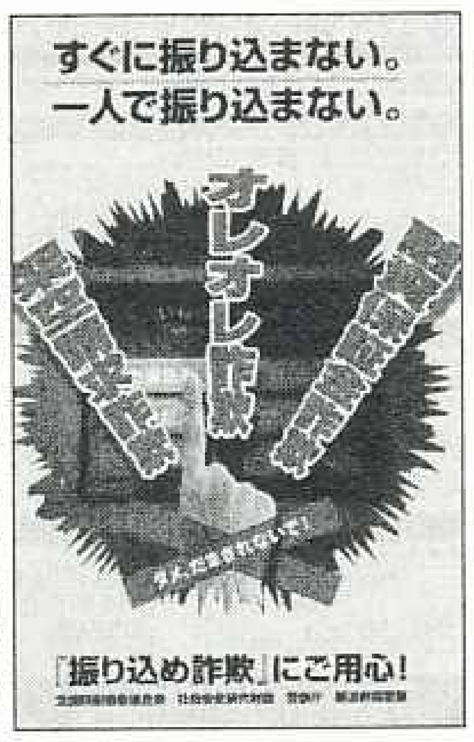
所 だから、ボクじゃないんですって！ でもねえ、そういうことを言いたくなる年頃なんで、言われた人はそっと笑ってあげてほしいと思いますね。

——すんごい実感こもってるんですけど（笑）。ま、とにかく、所さんのおやじギャグはヒドいという結論で！

詐欺に関する質問

岡山県・サギ祭りさん・34歳・公務員

新年早々、こんな悩みで恐縮ですが、私は人にダマされやすくて困っています。昨年はとくに被害が大きくて、オレオレ詐欺に遭って27万円、結婚詐欺に遭って115万円を失いました。とくに結婚詐欺に遭ったときはお金もそうですけど、精神的にかなり参ってしまいました。今年こそは絶対にそうならないようにと思っているのですが、どうやったらダマされないように発言の真贋を見抜けるのでしょうか？ また、所さんはダマされたことってありますか？



あえて所さんに相談するあたり、かなりの"ダマされ力"を持った投稿者である。

所 ダマされたというと、ボク、前にも話したと思うんですけど、宗教系の勧誘にあったことがあるんですよね。東京に出てきて1〜2年の頃だったと思うんですけど。

——ああ、確か「お経を読みに行ったんですよ！」って、得意げに語ってましたよね（笑）。

所 そう。正直2回行ってたんですけど……。

——2回も行ってたんですか！

所 その帰りに、へんな本とか数珠をもらったんです。でも、さすがに当時付き合ってた彼女に「返してこい！」って怒られて返しに行ったんですけど。

——しっかりした彼女さんでよかったじゃないですか。

所 こういうことって本当にあるんだなって、凄く勉強になりましたね！ でも、結婚詐欺もボクはテレビの世界だけかと思ってたんですけど、まさか『kamipro』読者にいるなんて……。

——世間は狭いですよね。ただ、合計150万円近くダマされてるって、いったいどんだけお人好しなんですかね、この方も。

所 っていうか、なんで信じちゃうんですかね！（怒りぎみに）。

——ズバリ、"ダマされ経験者"にはそんなこと言われたくないと思いますけど（笑）。

所（無視して）もう、親だろうが彼女だろうが、どんな人にも一銭もあげないぐらいの気持ちでいかないとダメなんじゃないですか!?

——おっ！ そんなに厳しくいきますか！

所 ええ。こう宣言しておけば、あんまりいろんな人にプレゼントを迫られなくていいかなって思いますし。

——いつの間にか、所さんの個人的な話になってませんか!?（笑）。

所（聞かずに）なんと言われようと、08年はこの方向でいくのがいいと思います！

——強引にシメすぎです！（笑）。

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/ 【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F『kamipro編集部 トコロ天国』係まで

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの
ぶっかけ!
格闘裏情報

第25回

私だけが知っている クレイ・グイダの 素晴らしさ

『kamipro』読者の皆さん、あけましておめでとうございます！　昨年に引き続き、このコーナーではマット界の知られざるイイ話をお届けいたしますが、今回は激動の年となった昨年を総括する意味で、『ブッカーK大賞2007』をお送りいたします。

まずMVP！　これは文句なしにUFCファイターのクレイ・グイダです。日本ではあまり知られておりませんが、いまや要注目のファイターの一人。2005年頃、シュートボクシングに来日させようと思ったほど、なかなか見どころのあるファイターでした。

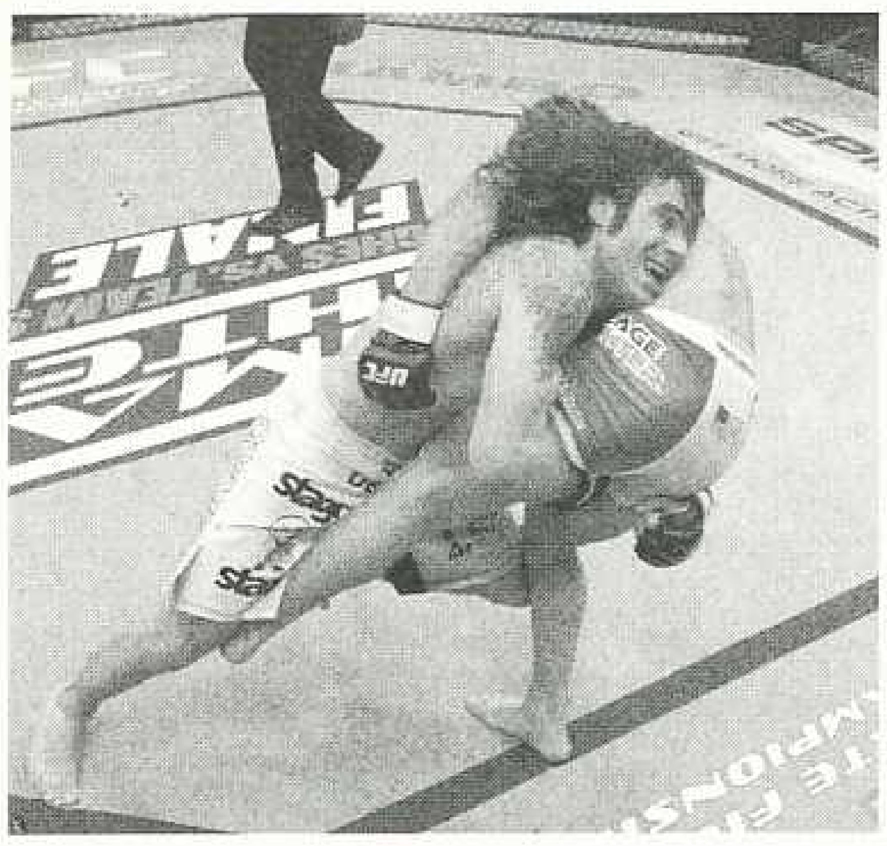
彼の名を一躍、轟かせたのは、ストライク・フォースでのギルバート・メレンデス戦です。内容的には互角。そのアグレッシブさを買われてUFCと契約し、それ以降、すべての試合がハズレなし。とくに素晴らしかったのは12月8日『TUF6フィナーレ』で行なわれたロジャー・フエルタとの一戦です。攻守が激しく入れ替わったこのファイトを制したのはフエルタですが、グイダのアグレシッブなスタイルがそれを呼び起こしました。昨年のグイダはタイソン・グリフィンとの試合では判定負けでしたが、私の判定ではグイダの勝ち。直後の選手たち自身もそう思っていたようでした。

ちなみにこの一戦はNO PPVマッチだったので、PPV解説者のジョー・ローガンのおしゃべりもリラックスしたもの。「マッチメイカーのジョーはグイダのことが嫌いなんじゃないか。だって、いつもグイダの相手はタフな奴ばかりだよ（笑）」

こんなジョークを交えていました。白星には恵まれていないグイダですが、名勝負マシーンぶりは今年も注目すべき。ブッカーKオススメファイターなのです。

次点はいま名前が挙がったジョー・シルバでしょうか。UFC本戦、UFNのマッチメイクだけではなく、ズッファ社の新ブランドWECのプロデュースも兼ねる大車輪の大活躍。ただでさえイベント数が増えており（ほぼ月2回のペース！）、それに元PRIDEファイターなどのトップどころの契約選手も増加。細分化された階級ごとに、将来を見据えてマッチメイクをしないといけない。昨年11月に話をしたときには、向こう4ヵ月のマッチメイクを来週までに考えないといけないと言っておりました。その多忙ぶりには頭が下がります。今年のオクタゴンの風景は彼の頭脳次第でしょう。

本当は日本絡みのファイターも挙げたかったのですが、昨年はそれどころじゃありませんでしたのでご勘弁を（笑）。今年の日本マット界は、アメリカに負けずにホットな話題が占めることを願ってやみません！



『kamipro』読者の皆さん、あけましておめでとうございます！

毎年、「今年こそはいい年にして、大晦日の試合に出るぞ！」って目標を立てるんだけど、去年の年末もやっぱり試合がなくて、例年どおりコタツでテレビを観ながら過ごした金原です（苦笑）。

大晦日になると、どこのリングに上がるのか？　って騒がれる選手がいる一方で、俺は毎年、どの番組を見るか？　っていうことが問題になってるんだよ。俺も大晦日に試合したいな～。

大晦日まず一番見逃しちゃいけないのは、俺が愛してやまない『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!　絶対に笑ってはいけない病院24時』。これは大事に保存しておかなきゃいけないから、HDDに録画して、『Dynamite!!』は画質が落ちるビデオテープのほうに録画（笑）。そして、オンタイムでは『大みそかハッスル祭り』を観ることにしたんだよ。

地上波の『ハッスル』って初めて観たんだけど、ボノちゃんいいね～。あのハワイアン訛りの日本語が、子どものたどたどしさに聞こえてかわいいんだよね。でも、『ハッスル』観て、プロレスは変わったな～、としみじみ思ったよね。俺がやってたプロレスと全然違うんだもん。

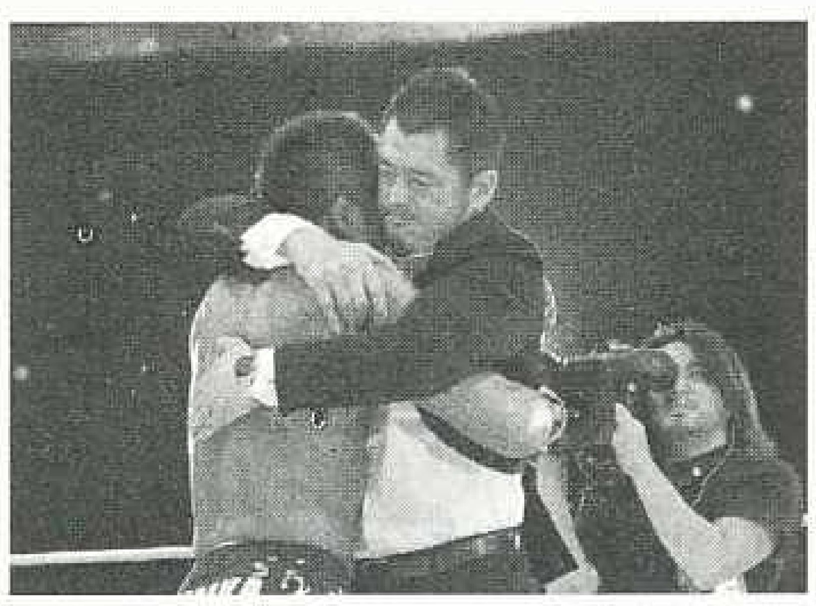
それで『ハッスル』を観終わったあと、『Dynamite!!』の気になる試合だけビデオで観たんだよ。秋山vs三崎は、三崎くんが良かったけど、あれが『Dynamite!!』でやってたら、結果も変わってたのかな、と思ったよね。2年前にKIDと須藤元気くんがやったときも、須藤くんがちょっとダウンしたら、すぐ止められちゃったでしょ？　あのストップの基準でいったら、三崎くんが最初にダウン奪われたときストップされてもおかしくなかったからね。

でも、PRIDEのレフェリング基準だったから、あそこで止められずに済んで、ちゃんと逆転勝ちしたから、凄く良かったよね。観客の声援を自分の力に変えられて素晴らしかったと思うよ。

ただ俺はね、三崎vs秋山を観て、もの凄くジェラシーを感じたんだよ！　それはべつに俺が闘いたかった秋山を三崎くんが倒しちゃったことじゃなく、三崎くんが勝ったあと、髙田さんがリング上で祝福して抱擁したじゃん。あれにもの凄くジェラシーを感じたんだよ！

俺はUWFインターで髙田さんの最初の付き人をやらせてもらって、髙田さんの背中を見て育ったからね。俺たち元Uインターにとっちゃ雲の上の存在である髙田さんに、あれだけたたえてもらうって凄いことだよ！　俺だってあんなふうにたたえてもらったことがないのにさ。もう正月からジェラシーの炎がメラメラと燃え上がったよ！

「おまえは男だ！」っていうのも田村さんやサクは言ってもらってるけど、俺はまだ言われたことがないからね。だから、今年の目標は髙田さんに「金原、おまえは男だ！」って言ってもらえる活躍をすることだね。あとは、ちょい役でいいから、『ガキの使い』の『笑ってはいけない』シリーズに出てみたいな～。蝶野さんが出てるのを観て、そこでもジェラシー感じたからさ（笑）。





金ちゃんのどこまでやるの？

イラスト◎中川画伯

第20回　哀しくてジェラシーの巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

せき詩郎の

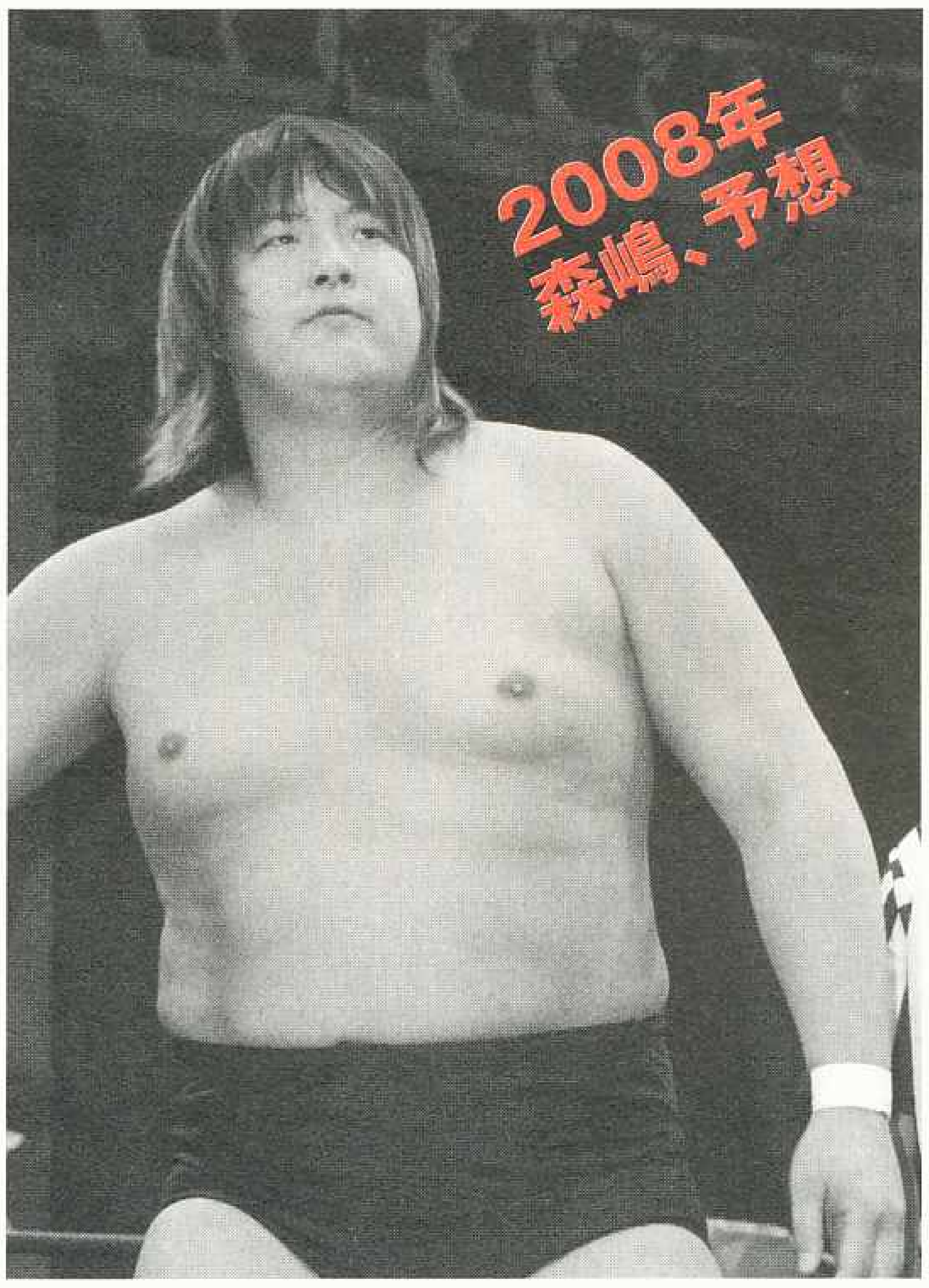
サムライ三昧

シロー

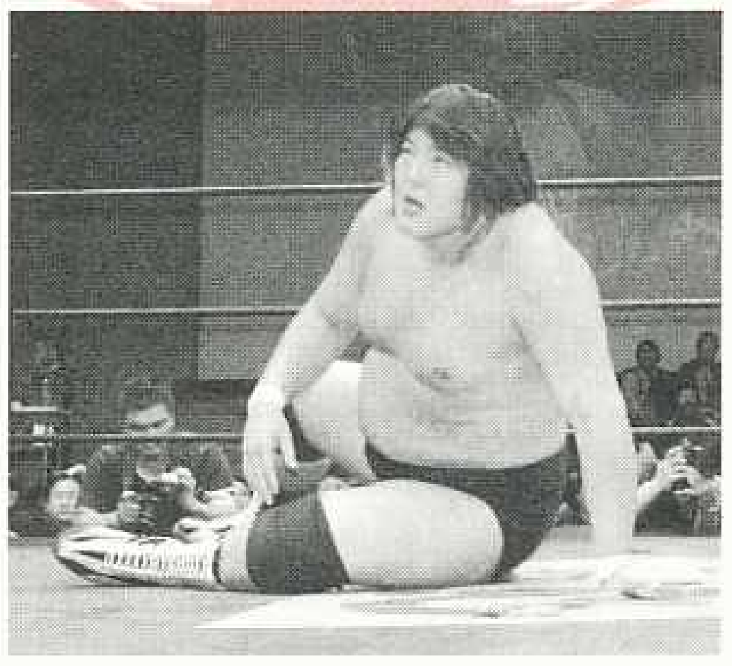
第21回

2008年、森嶋予想

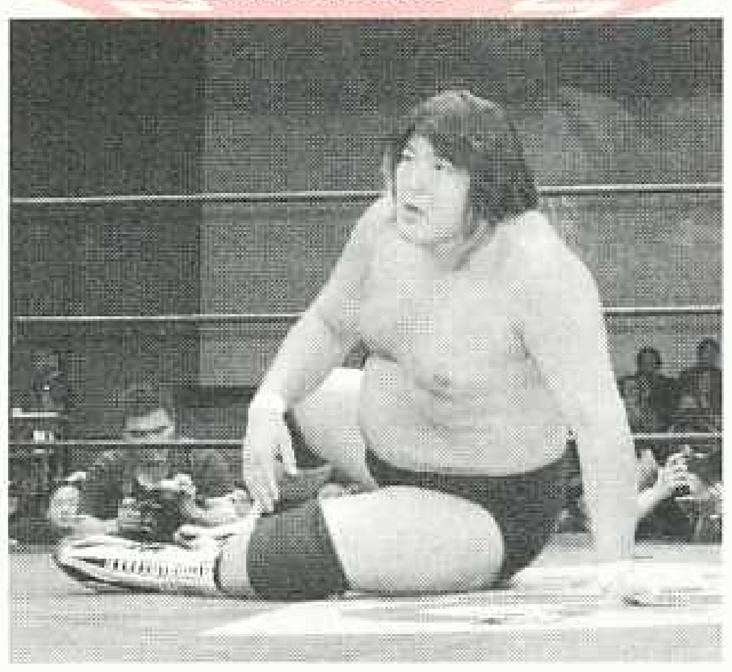
昨年、ROHヘビー級王座を20回防衛した森嶋。今年はどんな活躍を見せてくれるのか。今後森嶋を語る上で外せないだろう「20」という数字にこだわって、彼の2008年を予想してみよう。



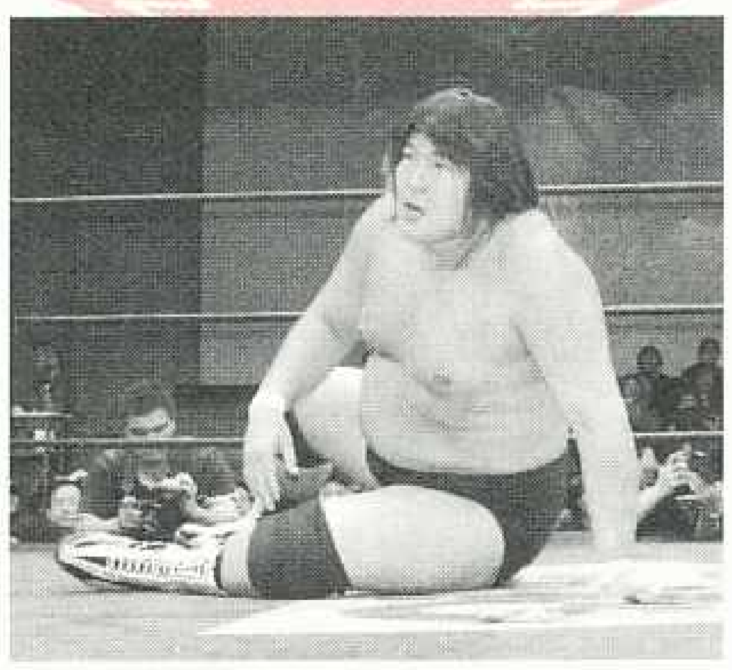
ドラゴンボールを見つけた森嶋。
しかも20個も！



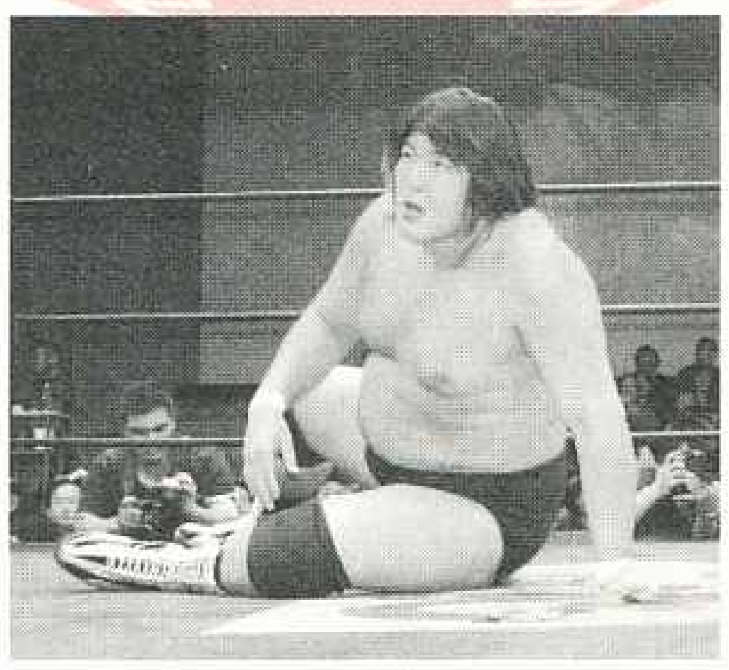
バイバインで増えた栗饅頭を
20個残した森嶋が……！



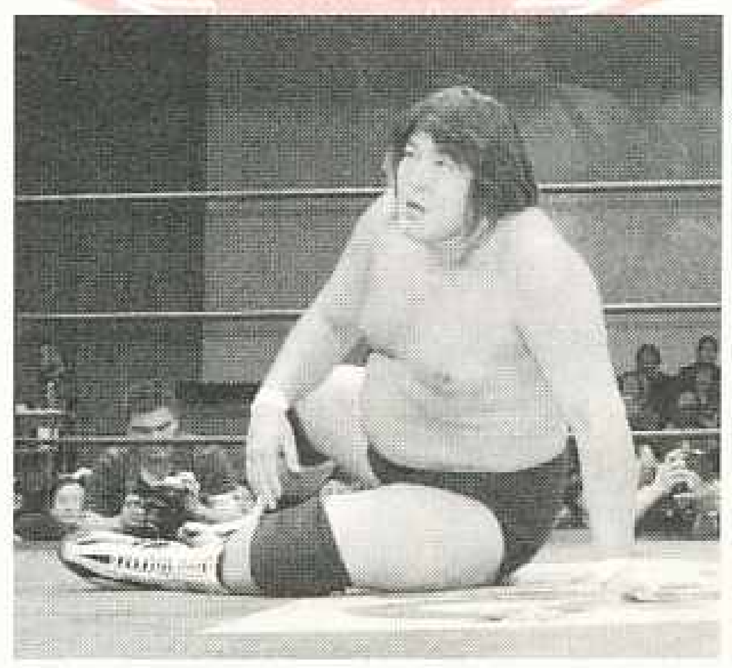
20本の矢を力任せに折った森嶋には
さすがの毛利元就も困り顔



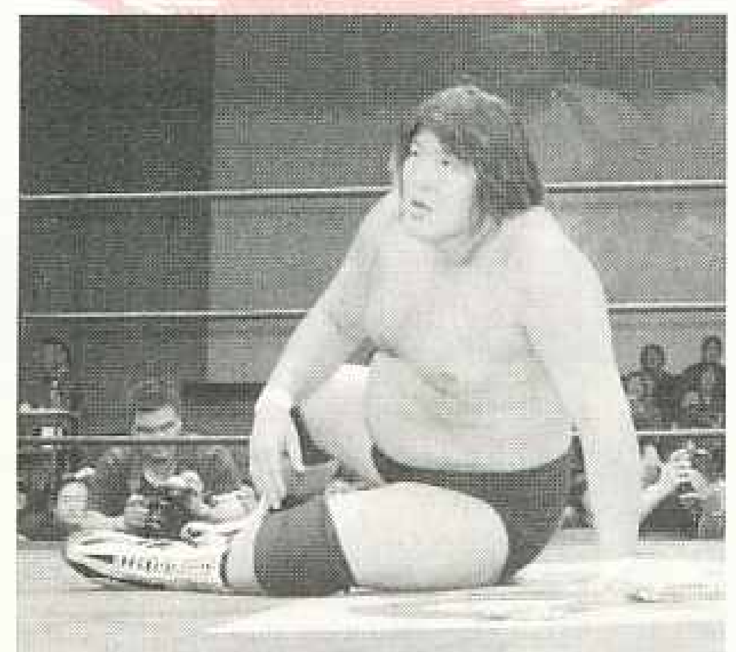
20人と一度に話をした森嶋に
聖徳太子も真っ青だ！



森嶋が石を20個積み上げたところで
鬼が崩しに来た！



ハーン兄弟とともに頭に落ちてくる
水滴を20まで数えた森嶋



「もう平成20年!?」と、
時が流れる速さに森嶋も驚いた



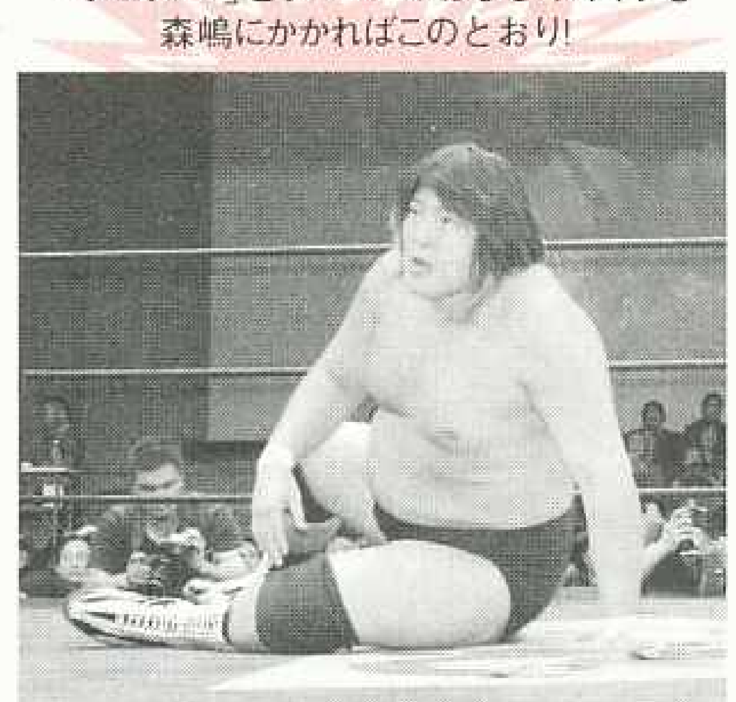
辛口批評でおなじみの森嶋、
星野ジャパンに20点の評価



「アタック25」にて森嶋が
20番のパネルに迷わず飛び込んだ！



「イッコ、ニコ、サンコ、ヨンコ……ジュウキュウコ、
ニジュッコ！」とサンコンのおなじみギャグも
森嶋にかかればこのとおり!



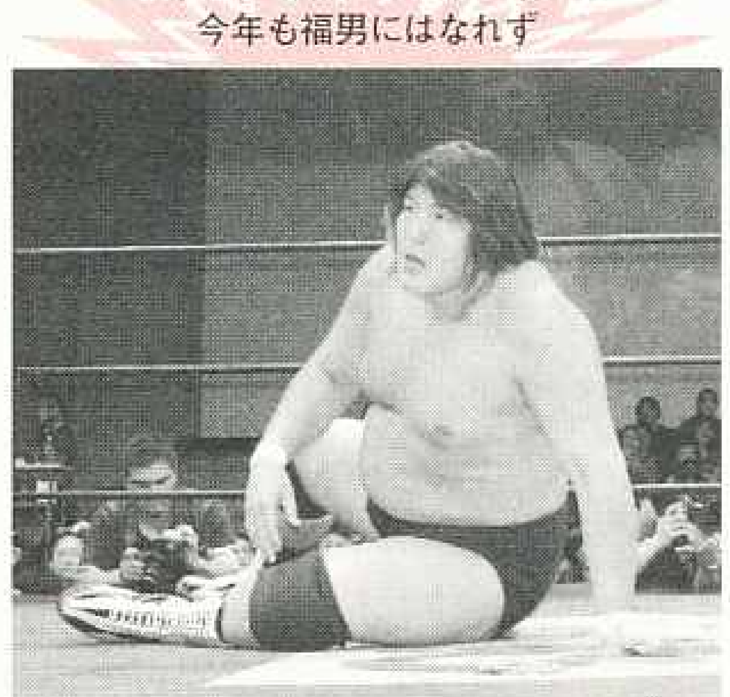
彼女までわずか20センチ。
手を伸ばせば触れられるだろう。
しかしこの距離が森嶋には近くて遠い……



20台並べられた車の上を、
森嶋がモトクロスバイクで飛び越えた！



20位でフィニッシュした森嶋。
今年も福男にはなれず



20色のカラーバリエーションを用意した
「812SH」。森嶋は何色を選ぶのかな？



椎名基樹の サムライ三昧

第22回 大晦日格闘技観戦

あけまして、おめでとうございます。今年もよろしく。

ところで、大晦日は数の子とかかまぼことかお刺身とかを肴に酒を飲みながら『やれんのか！』のPPV生放送を観て過ごした。

そしたら酔いも手伝ってか、歳を取ったか、予想以上に、いや意外にもジーンとして、うるうるきたので驚いた。明らかにPRIDEが自分の興味の比重の中でナンバーワンだった時期があったなあとか、少なくとも月に一度、凄い楽しみがあったのに、それも失なわれてしまったなあとか、感慨が駆けめぐった（駆けめぐる青春）。

青木真也も入場式のとき泣いているよーだったが、オレのようなファンは泣いてもいいが、選手は泣いてはいけない。弱いところは見たくない。だから、（跳関）十段は以後泣かないでください。

冒頭で書いたように、生で『やれんのか！』を、裏の『Dynamite!!』を録画しながら観たので、高いPPV代払ったのに『やれんのか！』が録画できなかったので、確認できないのだけれど（大晦日同時開催反対！　思えばPRIDE崩壊、日本格闘技沈滞の元凶ではないか！）、観戦後、妙に頭の中でプライマル・スクリームの曲が鳴っていて、『やれんのか！』の中で何度も流れていたような気がして、CD棚からプライマルのアルバムを引っぱり出し、その曲「ムーヴィン・オン・アップ」の和訳歌詞を読んでみたら、いまの（旧）PRIDEが置かれた現状と重なり、また不覚（過ぎ）にもジーンとした。

俺がバカだった
いま、ようやくわかった
お前は俺を
完全に信じさせた
俺がバカだった
いま、ようやくわかった
お前は俺を
完全に信じさせた

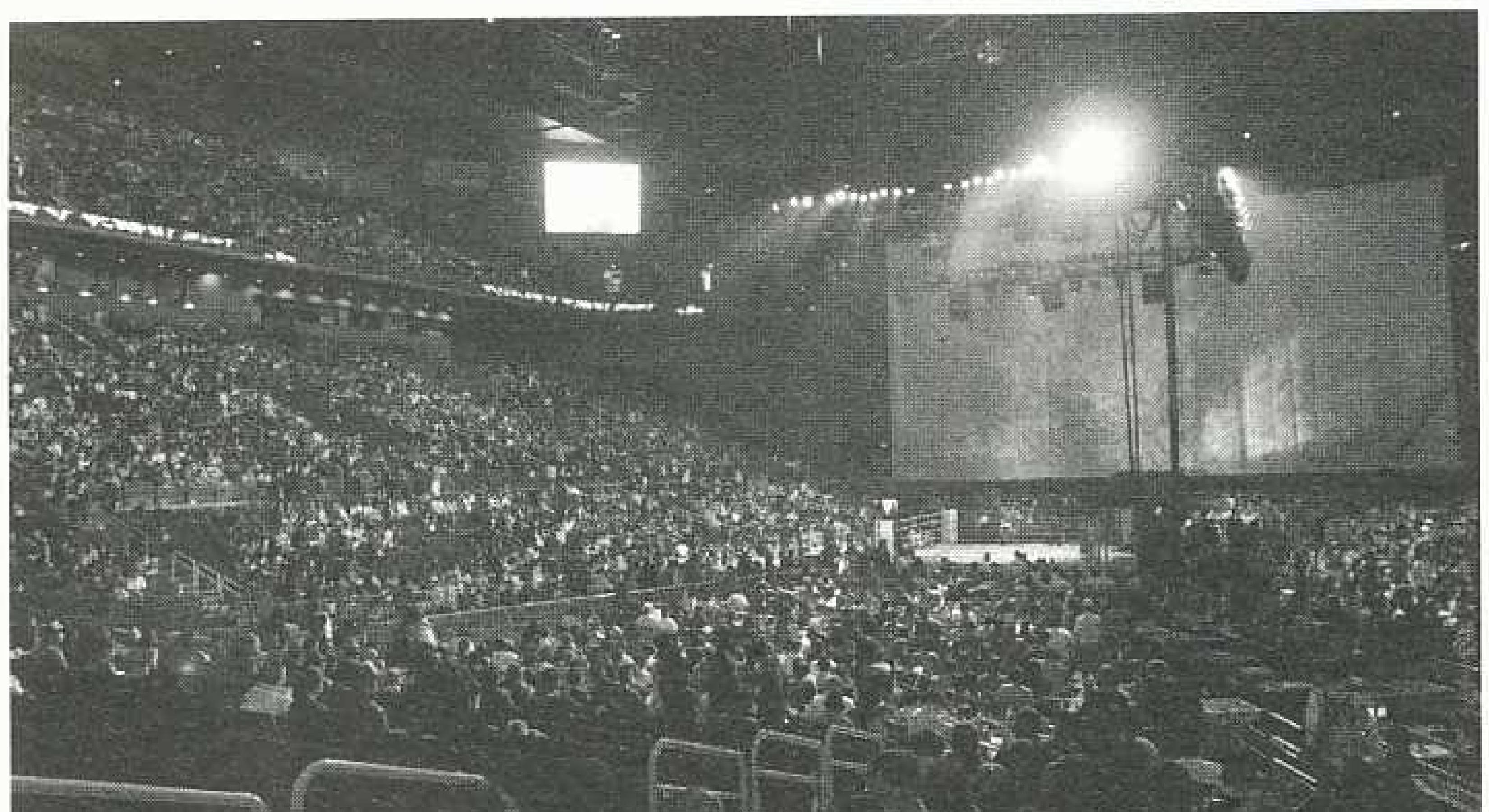
俺たちは前進する
闇から抜け出て
俺の光が輝いてる
俺の光が輝いてる
俺の光が輝いてる

迷い子になってた俺が
ようやく見つかったんだ
お前を信じてる
俺に限界はない
迷い子になってた俺が
ようやく見つかったんだ
お前を信じてる
俺に限界はない

俺たちは前進する
闇から抜け出て
俺の光が輝いてる
俺の光が輝いてる
俺の光が輝いてる

と、ジーンとさせられた『やれんのか！』であったが、三崎和雄選手の「日本人は強いんです」の発言で冷水をかけられた（あとで聞いたら、これまでも強豪選手に勝利したあと、よく言ってたらしいが）。

民放ではカットされていたようだし、わざわざここに書く必要はないのかもしれないが、最終試合の青木真也選手の相手が韓国の選手だったから、試合後、PPV放送では観客からの韓国人選手に対する侮蔑的な言葉が流れた。同じ「日本人」として恥ずかしい気分になった。まったく情けない。



PRIDEファン、そして選手&関係者にとっても〝けじめ〟の大会となった『やれんのか！』はオープニングからエンディングまで凄まじい盛り上がりに。はたして、続きはあるのか？〝やれんのか！ガール〟もまた見たいぞ！

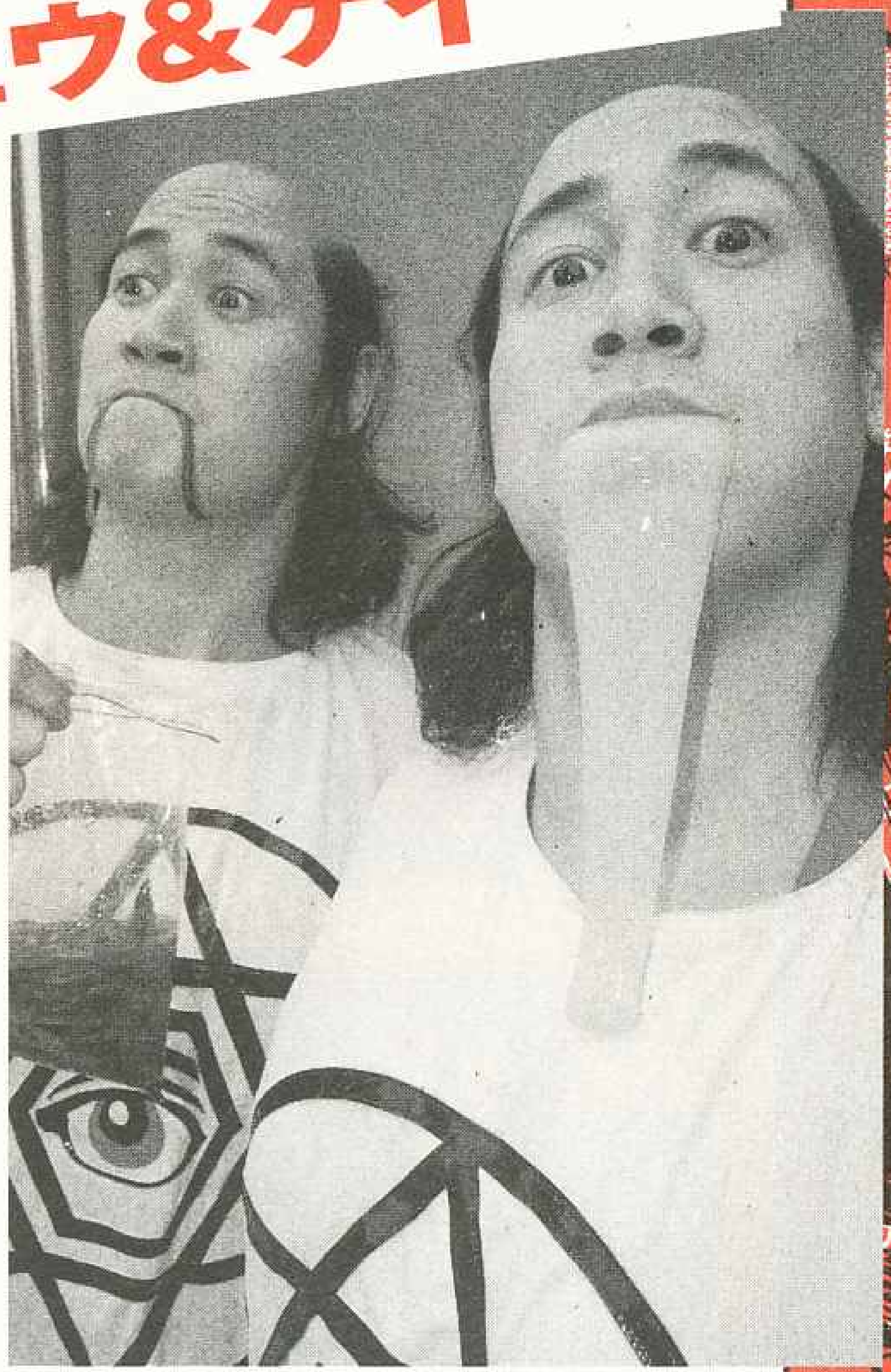


撮影／平工幸雄

イナズマKの ハードコアドーショー Special

最狂双子に"蟲地獄"の原点を直撃!!

"世界一バッドテイスト"なカルトプロレス道! バラモン・シュウ&ケイ


ばらもんしゅう&けい■本名は佐藤秀&恵。1980年7月5日生まれの双子。神奈川県横浜市出身。闘龍門9期生として入門。02年5月にメキシコでデビュー。石森太二と"セーラーボーイズ"でベビーフェイスとして活動も05年にヒールに転身、ザ・グレート・サスケと抗争開始。06年よりエルドラドにてバラモンシュウ&ケイと改名。"蟲地獄"マッチで賛否両論を巻き起こす。

この連載もいつの間にかプロレス的ハードコア路線から逸脱し、バッドテイストに漂着! 感動の小橋建太復帰戦の真裏で、虫が飛び交い絶叫がこだました異常興行12・2『大バラモン展』の首謀者・バラモン兄弟が登場だ!

ハードコア列伝1 アイドル時代は"暗黒時代"!?

某プロレス誌が大批判! 虫を愛するあのミヤマ☆仮面も「ガチで許せない」と怒り心頭! いまや大ヒールとなったザンバラ頭の双子レスラー・シュウ&ケイの素性とは?

「10歳上と9歳上の兄貴がいて、2番目の兄貴が大のプロレス好きで一緒にファンクスとか観てた」(シュウ)と、幼少からプロレス漬けだった二人は、20歳で闘龍門に一緒に入門。だがその前には「歌舞伎をやっていた」というから驚き。「ケイが歌舞伎役者で、俺が笛吹きだった。高校卒業して国立劇場の養成科に2年通ってプロになった」(シュウ)。「役者を目指してたけど、オレらはバブル崩壊後のロスト・ジェネレーションで就職難。たまたまそこにいたけど。なんか違うぞって」(ケイ)。

闘龍門のメキシコ時代にはウルティモ・ドラゴン校長から、毎日カラオケに連行され、「いつもチャゲ&飛鳥の『万里の河』を一緒に歌おうって。オレらは会長のカナリヤ隊だよ!」(シュウ)。そのカナリヤ隊はやがてT2P、闘龍門X、みちのくプロレスで、アイドルユニット・セーラーボーイズに変身! ルックスもカッコいい彼らだけに、当然ベビーフェイス。だが彼らいわく「暗黒時代」で「ツラすぎてプロレス辞めようと思った」(シュウ)ほど。「試合で負けたあと踊りながら、『キープ・オン・ジャーニー』を歌うんだぜ。それ見た親戚の子に何がアイドルだよ、って噛みつかれたり」(ケイ)とアングラ&アナーキー気質はまだ開花していなかった。

ハードコア列伝2 サスケとの"宇宙戦争"激化!!

05年からめでたくヒール道に開眼。ホームリングのエルドラドではバラモン・シュウ&ケイに改名し、本来のバッドテイスト街道を邁進し始める。とくにケイは、頭に包帯を巻き、口からスライム状の"ゲル"を出すキモキャラに変身!

「06年夏に試合で大流血して、家で安静にしてたんだ。『悪魔の墓場』って映画に頭に包帯巻いてるゾンビが出てきて『オレじゃん!』って。以降、頭に包帯巻いてオムツでうろうろしたり、口からコオロギ、頭にトンボ乗っけて出たり。口から"ゲル"も出し始めたりね」(ケイ)。

そんな彼らの抗争相手は、いわずもがなのザ・グレート・サスケ。「徐々にアイツの正体が宇宙人だって気づいたの。フライング・ヒューマノイドっていうUMA(未確認動物)の写真を拡大すると、トペしてるサスケと同じ格好だし(笑)」(ケイ)。『宇宙大戦争』と銘打たれた抗争劇は、06年の新潟フェイズ大会で会場を飛び出し、ミスター・ポーゴばりのマラソンマッチを展開。「サスケは狂ってるよ! 橋から落ちるわ、結婚式場に突入しそうになるわ、偶然通ったタクシーを停めて引きずろうとするわ」(ケイ)と大暴走。

07年の新宿大会では、「普通のお客さんが乗ってるエレベーターに乗り込んで、闘いながらボーリング場まで行ったり」(ケイ)。さらにサスケを和式の風呂オケに入れ、後楽園北側席から"階段落ち"など一線を越えた非道行為はエスカレート中!

ハードコア列伝3 "蟲地獄"に某記者ブチキレ!!

ここで、彼らのバッドテイスト信仰のきっかけを聞いてみよう。「小さい頃、手塚治虫と水木しげる、どっちを読むかで人間性が決まるといわれるけど、オレらは水木しげるを手にした」(ケイ)。「一番上の兄貴がホラー好きで、小学生の頃、深夜に『死霊のしたたり』やゾンビ3部作を見せられた」(シュウ)。アイデンティティは、兄の英才教育の賜物のようだ。

さらに「ジャッキー・チェン、ブルース・リーに『燃えよデブゴン 豚だカップル拳』とかカンフー映画も大好き。でも基本は『悪魔のいけにえ』みたいなカルトホラー。しかもウィットに富んでないとダメ」(ケイ)。そこはプロレス観ともダブる。「闘いとコメディの中間がやりたいし、サスケとの試合はそれに近い」(シュウ)。

そんな彼らの集大成が彼らが主催した昨年12・2『大バラモン展』。西口プロレス所属の虫食い芸人・佐々木孫悟空が登場し、「ファンが差し入れした1万7220円のヘラクレスオオカブトムシをパクパク食った」(シュウ)ところでスタート。

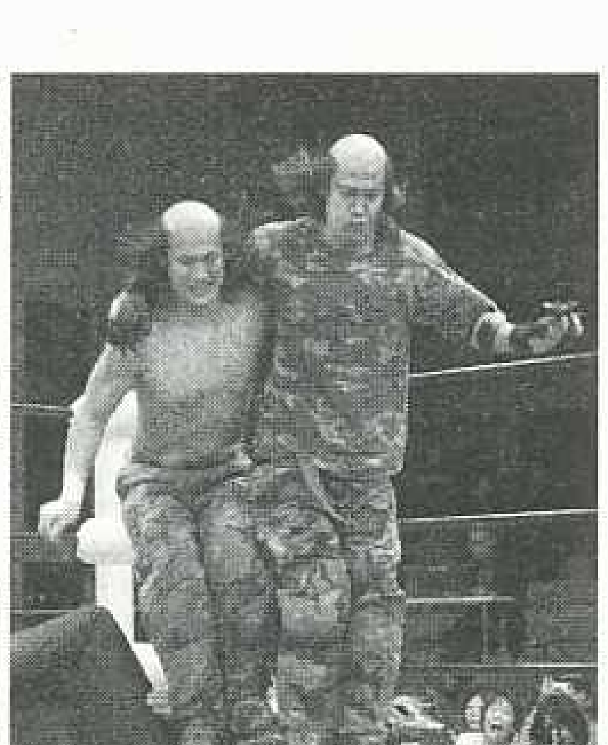
"蟲地獄"マッチでは、土場ミミズ5キロ! エンマコウロギ1000匹! カブトムシの幼虫30匹! マダガスカルゴキブリBが60匹! がリング内外にもウヨウヨ。……明らかにやりすぎだって!

試合中も相当な数の虫がグチャグチャになる無法状態に某誌記者がブチキレたのも当然と言えば当然か。しかも「試合の最後、虫まみれのボード上にパワーボムやったら、虫が飛び散ってマスコミ席にバサッと落ちた(笑)」(シュウ)。

だが彼らは単に残酷ショーを見せたかったわけではない。「8割の人はダメだろうけど、残り2割の意見が聞きたい。世の中にはテレビには出ないけど虫を食って輝く人がいるのも見せたかった」(シュウ)と世間へのアンチテーゼでもあった模様。

また双子レスラーの彼らは、「『バラモン展』も二人だからできた。二人だと自分を肯定する存在がいるから」(シュウ)と素晴らしき兄弟の絆も告白。

この一見クレイジーだけどアイデア満載のバラモン兄弟、今年も度肝を抜く試合をぶっ放してくれることに期待しよう!


07年の12・3みちのくプロレス後楽園大会では、サスケと『宇宙戦争』最終決戦が実現(みちのくでは佐藤兄弟名義)。サスケのパスタ屋失敗をおちょくるパスタ乾麺攻撃や木製の巨大風呂オケをかぶせて北側客席から落とす無法行為! このトンパチな抗争劇は今年もやっぱり続く模様。宇宙戦争サイコー!



イラスト◎ゴローちゃん

萌えろー！（アニマル浜口がワンショルダーのメイド服で）。そんな妄想も頭をよぎりながら、今回のゲストは三田佐代子さん！　サムライTVのメインキャスターをやって12年の三田さんに、プロレスファン代表として萌えてきました！　ホラ、椎名基樹さんも恥ずかしがらずに萌えちゃって！

三田　私なんて〝萌え〟と確実にかけ離れてると思うんですけど（笑）。

掟　いやいや、三田さんはサムライTVの萌え担当ですから！　そんな三田さんが近頃お嘆きのことがあるとか？

三田　そうそう、私は最近のプロレスラーがみんなロングタイツになったのが凄くイヤなんですよ。

掟　べつに矢野通みたいな田子作タイツのことを言ってるわけじゃないですよね？

三田　あれはあれでいいと思うんですけれど、短かきゃ短いほうがいいんですよ！　棚橋（弘至）とか中邑（真輔）も鍛えてるのに、なんで腿とか隠すのかなぁって。

掟　もったいない、と。肉体的にプロレスラーはイケますか？

三田　大好きですよ！　昔は全然ダメだったんですけど。

掟　マッチョな人には興味がなかった？

三田　超ダメ！　汗臭いのはごめんなさい！　みたいな感じで。バレーボールとか室内スポーツのほうが好きでしたから。格闘技は柔道も何も観なかったですし。

掟　本来まったく興味のなかったプロレスの仕事を始めてから、ああいう身体もいいなと思った、と。

三田　プロレスの肉体とそうじゃない肉体ってあるじゃないですか？　友だちの筋肉フェチの娘も「私、あの丸い筋肉はヤダ」って言う娘もいるんですけど、「何言ってんだ！　丸い筋肉こそいいじゃないか」って、いまでは思うんですけどね。

掟　丸い筋肉？

三田　最近のレスラーって、グッドシェイプにみんな向かってるじゃないですか？　邪道さんや外道さんじゃないですけど、「鶏のささ身とブロッコリーしか俺は食わねえ」とか「茹でた味のないパスタを食べます」みたいな。

掟　昔のパンクラスの選手みたいな。

三田　そう。それでみんな風邪引いちゃう、みたいなね（笑）。それはそれで肉体美としてはいいと思うんですけど、私は小島（聡）さんみたいな身体が凄い好きなんですよ。筋肉の上にいい感じに肉が乗ってるっていうか。



みた・さよこ■1969年8月5日、神奈川県出身。古館プロジェクト所属。慶応大学卒業後、テレビ静岡に入社。96年の退社後はサムライTVのキャスターとして、日々、プロレス＆格闘技のニュースを伝えている。07年『東スポ』プロレス大賞ではテレビ媒体から初の選考委員に。『kamipro Hand』では毎週月曜日にコラムを好評連載中！

掟　いわゆるちょっと腹が突き出てるプロレスラー体型ですよね。力道山的な。

三田　そう！　だから私はあれですよ、最初は中西学がどタイプでしたもん。まだ野人とか言われる前、クロサワと名乗ってるとき。

掟　ゴリラの身体ですね！　人間というよりは動物に近いというか。

三田　棚橋とかも、あんだけ綺麗な身体してるんだからショートタイツでやりゃあいいのになって思うんですけどね。

掟　ヤングライオンがショートタイツだから、その象徴からいかに脱却するかっていう意味もあるんでしょうね。

三田　なるほどね。でも、このあいだの後藤洋央紀戦で短いタイツを穿いたんで、「よし、きた！」って思っていたら、また長いのに戻って、私はガッカリして。『東スポ』のプロレス大賞のときに聞いたら「もう穿かないですね」ってサラッと言われて悲しい気持ちになりましたね。そういう意味では以前、北斗（晶）さんと「男は脚を出してナンボ」みたいな話で盛り上がったことがあったんですよ。

掟　脚フェチ同士気が合って（笑）。

三田　「なんで、いまどきの子は長いタイツを穿くんだろうね？」って。そのときちょうど中嶋勝彦くんがWJから健介オフィスに来た頃で。中嶋くんって空手のバックボーンもあって、WJの頃は空手衣みたいな袴を穿いてたんですよね。あれを見て北斗さんは「あんなジジくさいヤツ、絶対やめさせる！」って言ってて、いろいろ私と同意見で凄い盛り上がりましたよ！

掟　オッサンみたいなこと言ってますね（笑）。「脚線美がもったいないからミニスカートになれ！」みたいな（笑）。脚が好きなんですね？

三田　そう！　私は脚がとにかく大好きなんです！　たとえば、橋本（真也）さんがピッタリしたパンタロンを穿くのは、あれはあれで意味があると思うしカッコよかったと思うんですけれど、他のレスラーには単純に「なんで長いの穿くの？」って聞いてみたいですよね。永田（裕志）さんとか中西さんは普通に短いじゃないですか？

掟　プロレスラーなりの美意識があるんじゃないですか？　いっときうしろ髪が長いのが、もの凄い流行ったみたいに。

三田　そう！　うしろ髪とか、レスラーのファッションセンスについても凄い考えたことがあるんですよ。で、菊池（孝）さんに「なんでレスラーはうしろ髪が長いんですか？」って聞いて。

掟　菊池さんにヘアスタイルの話を、ね……。で、どういう答えが返ってきたんですか？

三田　まず「あれは誰からなんですかね？」って聞いたら、「坂口（征二）かなぁ」って凄いマジメにおっしゃって。

掟　ずいぶんとさかのぼりますねぇ……。

三田　そのあとに菊地さんがホントにビックリするような答えを導いてくださって。目から鱗がバーって落ちたんですけど。

掟　なんて答えたんですか？

三田　「延髄を守るためじゃないかなぁ」って言ったんですよ、真顔で（笑）。

掟　ガハハハハ！　じつは理に適ってるんだ！　人間のむだ毛は身体を守るために生えるって言いますからね（笑）。

三田　やっぱり必要なところに毛は生えるわけじゃないですか！

掟　生えるっていうか、うしろ髪は故意に伸ばしてると思うんですけどね（笑）。

三田　そうなんだけど（笑）、「延髄を守るためじゃないかな」ってプロレスマスコミ界の長老に言われたら、そう思うしかないじゃないですか？　すべてのものには意味があるんだなって思って、菊池さんについていこうと思いましたもん！

掟　さすが菊池さんですねぇ（笑）。

三田　そういう質問に対しても明確にサラッと答えてくれましたからね。「奥深いなぁ、プロレスは」って思って。日々勉強させてもらってますよ。だから、菊池さんに聞いたらロングタイツの意味もあるのかもしれないですけどね（笑）。

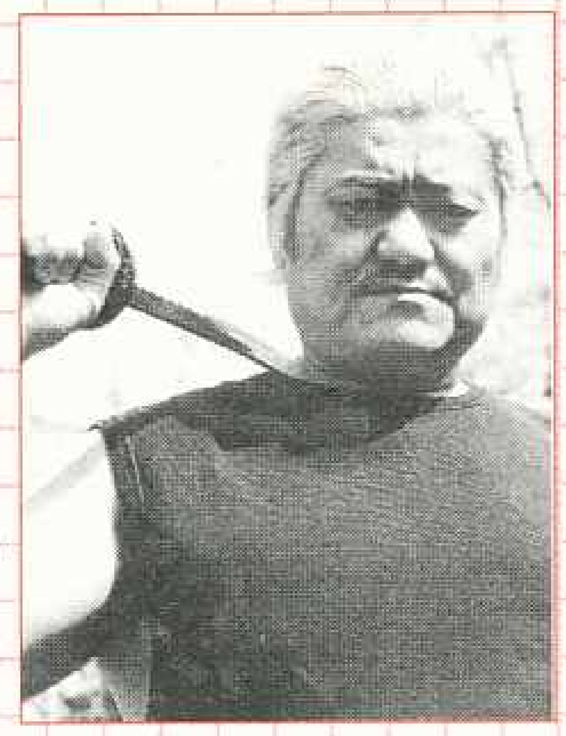
掟　「くるぶしを守るため」とか「アキレス腱は弱いから」とか言われそうですけどね（笑）。

三田　ある意味、萌えますよ、菊池さん。〝萌え萌え〟登場を楽しみにしてます！（笑）。


三田さんが肌身離さず持ち歩いているのが『週プロ』の2ヵ月分の大会カレンダー。これには三田さんが観戦予定の大会へ印がつけられているが、『kamipro』編集部の誰よりも観戦してます。年間観戦数は100大会近いとか。スゲェ！

Okite Porsche◎掟ポルシェ■掟ポルシェのバンド『ロマンポルシェ。』が札幌でライブ敢行！2・17（日）札幌HALL SPILITUAL LOUNGE（南2西4・TEL011-221-9199）で18時からやってるイベントに21時くらいから1時間ほど出演予定！　チケットは前売2000円、当日2500円で、これでもかというほど発売中！その他の情報は掟ポルシェブログを参照！【http://porsche.exblog.jp/】

ファイター関係者がこだわりの選出!



ごとう・たつとし■1956年5月25日生まれ。愛知県常滑市出身。82年に新日本プロレス入門。89年にはブロンド・アウトローズ結成。06年に新日本退団。06年に無我ワールド・プロレスリングから離脱。180センチ、115キロ。

“俺だけの”なんでもランキング

後藤達俊の 俺のこだわりブログの掟、5ヵ条

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキングを選出! 第13回目は、07年に無我ワールド（現・ドラディション）を離脱した後藤達俊が登場! “ヒールの中のヒール”がマメに更新するブログのルール、5ヵ条がコレ!

1 盛り上げたいなら、自分から積極的に書き込むこと!



2 コメント欄に、同じ目線で対応してはいけません!



3 顔文字は、ポイントをしぼって使いましょう!



4 礼儀正しい言葉使いに気をつけなさい!



5 日記を書く気持ちで、気軽に始めなさい!



なんと一日で最大150通! スーパーヒールは超筆マメ!!

俺のブログ（『ミスター・バックドロップ後藤達俊』）はいろいろなとこで紹介されてるんですけど、まだ始めて一年も経ってないんだよね。ある会社から、「やらないか?」と話をもらってたけど、パソコンができないから断ってたの。でも「携帯でメールを打つ感覚でやれば大丈夫です」と言われて、「それならできるかな」って思って。

というか、俺は電話は嫌いだけど、メールは得意なんだよ（笑）。メールならなんぼでもできるし、一日のメールの回数も多くて150通、少なくとも30、40通くらいはやりとりしてるから。

最近は、ちょっと荒らしも多くなったんで、あえてやめてるんだけど。多いときは一日7、8回更新してたからね。「いまメシ食ってます」とか「○○に向かってます」とか。日常を細かく書いてたら、いつの間にかドンドン増えちゃった。それで、だんだんおもしろくなって、「遊んじゃおうかな」って。

とくに『Yahoo!』のニュースでブログが紹介されたときはアクセスが急に増えたからビックリしたねぇ〜。ちょうど俺が一人一人に質問に答える質問コーナーをやってたから、「大変なことになる!」ってあわててやめたりね（笑）。

心構えは「見なくても結構」コメントには“上から目線”!

これからブログを始めるレスラーへの助言みたいなことを言うとすれば、ブログを書くポイント5ヵ条の第5位は、俺みたいに「日記を書く感じで、気軽に始めなさい」ってこと。最初からたいそうなことをやろうとすると大変だし。それでも文句をつける人には、「見なくても結構」くらいの気持ちでいいと思うよ。俺らの本業じゃないんだから。

4位は「礼儀正しい言葉使いに気をつけなさい」ということかな。ヒールとはいえ、ブログでは基本的には「です、ます」調に統一してるから。最低限の言葉使いはキチンとしたいよね。ただ、そういう態度にも関わらず、ナメた態度のコメントや、「テメー、後藤!」なんて呼び捨てにするヤツまでもいるから、今年からヒールモードの言葉使いになるかもね（笑）。

3位は「顔文字はポイントをしぼって使いましょう」かな。顔文字だらけになるとウルサイでしょ。そう言いながら俺もけっこう使ってますけどね（笑）。喜んでる「(^○^)」とかイジワルな「(´・◁・`)」とか困ったときの「(∨_∧)」とか。

俺は文字打ちは早いけど、顔文字だけは「何がシックリくるかなぁ」と手が止まっちゃうんだよ。顔文字といえば、あるレスラーは、メールの最後に「(^3^)-Chu!」って必ず入れてくるから、困っちゃうよ。名前に「天」がつく人なんだけどさ(笑)。

で、2位は「コメント欄に、同じ目線で対応してはいけません」と。キツイ書き込みにも“上から目線”で対応すれば頭にくることもないでしょ。コメントの返事は、率直に書くことが大事。心に忠実に書いてればホントに応援してくれる人はついてくるもんだから。

1位は「盛り上げたいなら、自分から積極的に書き込むこと」かな。俺も「後藤達俊のここがイカン!」を100文字でお願いします!」とかを募集する100文字コーナーとか、質問コーナーを始めたら、アクセスも上がったから。そこで俺に興味を持ってくれて、試合やイベントに来てくれたら嬉しいね。

『2ちゃんねる』の後藤スレまでちゃ〜んとチェック済み!!

ただ「ブログを書いてる」って意識はあんまりなくて、メールみたいな感覚だね。なんか書くとすぐにリアクションがあるでしょ。ちょっと書き込むと5分以内にはもう書き込まれてるから。ただ俺がブログを更新すると、すぐに『2ちゃんねる』の後藤スレにもその話題が書き込まれるんだよ（笑）。そこでもボロクソに書かれてるんだけど。こっちも携帯でちゃ〜んとチェックしてるんだって。

それから、ブログが始まってから、ブログの読者有志が『後達会』っていうファンクラブを作ってくれたんだよ。「オフ会もやりたい」って盛り上がってくれてたから、俺も行きつけの等々力の『シド・アール』ってパン屋さんに場所をとってもらったり協力したりしてる。じつは、この『後達会』のイベントにも“ちゃねらー”が来てたみたいでさ（笑）。でも実際は何も言ってこないんだよなぁ。

あと『mixi』っていう会員制サイトもあるんでしょ? 俺も招待メールをもらったし、「あっちのほうがマトモだよ」という助言ももらったけど、ブログで精一杯だから、そっちまで始めたら大変なことになっちゃうよね。

あとはケータイで書く“ケータイ小説”が流行ってるじゃない。俺もブログでは寛水流の時代や猪木さんの付き人時代の話なんかも書いているから、ここは一つ『kamipro』さんで俺のケータイ小説を出せないもんかねぇ（笑）。編集長によろしく言っておいてよ!



“ヒールの中のヒール”が絶賛更新中の話題のブログはコチラ!

後藤は実際のブログ上でも「ルールを守れっ!」とばかり場をわきまえない質問&態度にはビシッ! と注意など見事な管理ぶりを発揮。また読者登録で誕生日祝いのメール発送や誕生月の「おめでとう」書き込みサービスと、どこまでも筆マメなんだって! そんな後藤のブログワールドを君も要チェック!

『Mr.バックドロップ 後藤達俊』
http://ameblo.jp/mr-bd/
いますぐ、レッツ・アクセス!



サッカー界に電撃参入!!

蹴れんのか!

PRIDEからサッカーへ!!　独占インタビュー

榊原信行

聞き手／ジャン斎藤
撮影／乾晋也

三崎和雄のサッカーボール・キックは、じつはここから始まっていたのである!!（ウソ）。

12月15日、大晦日の格闘大連立で湧くマット界に、超強烈なボールが飛び込んできた。元『PRIDE』代表、榊原信行氏がサッカー界に進出することになったのだ。

ご覧になった方も多いと思われるが、スポーツ番組でも大きく取り扱われた、フィリップ・トルシエ（元・日本代表監督）のFC琉球総監督就任。その就任会見のため沖縄入りしたトルシエのすぐ隣に、なんとなんとあの榊原氏の姿が映し出されているではないか。UFCのオーナーでもあるラスベガスのカジノ王、ロレンゾ・フェティータにPRIDEの全権利を譲渡後、表舞台から姿を消していた榊原氏。じつは、トルシエ獲得のキーパーソンの一人だった模様だ。榊原氏のサッカー界進出は以前から噂レベルでは上がっていたが、それにしたって衝撃的な仕掛けである！

トルシエは翌日の16日にも東京のホテルで会見を行なった。榊原氏は株式会社琉球スポーツキングダム代表取締役・野口必勝氏とともに登場し、FC琉球を側面からバックアップしていくことを宣言。榊原氏は、すでに住民票も沖縄に移し、新たな会社を立ち上げ、FC琉球を中心に沖縄全体の活性化させるべく動き始めているとのこと。

この会見にはもちろん本誌も潜入。もうまったくマット界とは関係のない会見だが、アントンの選挙活動や永久電機お披露目会見、猪木快守氏の熱海市長選出馬会見、そしてサスケの県知事選密着など、"ジャンル越え"には昔から定評の本誌である。無事に潜入できたばかりか、なんと榊原氏のインタビュー収録にも成功！

一部報道では、ロレンゾとの契約で今後は格闘技業界に携わることができない、おまけにPRIDEに関する発言ができないという噂もあるが……、とりあえず"サッカーだけ"にテーマを絞って話を聞いた！

――榊原さんが格闘技界に続いて、サッカー界を征服するという噂を聞いて、すっ飛んできました！

榊原　それはちょっと大げさに言いすぎだよ（笑）。しかし、『Kamipro』も大変だね。わざわざサッカーの記者会見まで取材に来るなんて。

――いやいや、おもしろそうな匂いがしたもので図々しくもお邪魔しましたが、サッカーはまるで詳しくないんです。

榊原　いや、サッカーもじつは格闘技なんですよ！（キッパリ）。

――あ、サッカーも格闘技でしたか！（笑）。



会見場には元サッカー日本代表監督のトルシエ氏が5年半ぶりに日本サッカー界に復帰するということで、サッカーマスコミはもちろんのこと、各局のテレビカメラもズラリ勢揃い。そんな大々的な会見の最中、本誌・阿修羅チョロ氏はウトウト眠りこけるという、『kamipro』らしさを発揮したのであった。眠れんのか!?

Nobuyuki Sakakibara

榊原　うん。肉体と肉体が激しくぶつかり合うから。『Kamipro』もサッカーを取り上げたほうがいいんじゃない？

――想像もつかないですけど、いままでにないサッカー雑誌が作れる気がします、なんとなく（笑）。そのとっかかりが榊原さんというのも凄い話なんですけど。

榊原　やっぱり格闘技界から見ると、「いったいあの男はサッカー界で何をしてるんだろう？」という感じなんですかね？（笑）。

――本当にみんなビックリしてると思うんですよ。夕方6時台のニュース番組に榊原さんがトルシエと一緒にバンバン出てるんですから（笑）。なので、詳しいお話をお聞きしたいんですが、そもそもどうしてサッカー界に携わろうと思ったんですか？

榊原　もともとの話をすれば、07年の4月、ロレンゾ・フェティータ氏にPRIDEの権利を譲渡して、自分は格闘技界とお別れをしたわけですよ。それは自分にとってもの凄くつらく覚悟のいった決断だったので……。ま、格闘技界にとって、つらいかどうかはともかくね（笑）。

――ダハハハハ！　いや、やっぱり榊原さんがいないといろんな意味で誌面にも刺激がないです（笑）。

榊原　まあ、とにかくがむしゃらに走ってきたPRIDE10年間を振り返ったときに、今後の自分の人生で何がしたくて、何ができるのかということを考えると、やっぱりいつの時代もスポーツの持つ筋書きのないドラマ性が多くの人を惹きつけているわけだし、ボクも格闘技を通じてその瞬間に触れることが多かったんですよね。そういう経験の中で自分が今後やりたいことを自問自答してみると、ボクは子どもの頃から高校を卒業するまでずっとサッカーで育ってきたことに行き着いたんですよ。

――あ、榊原さんはサッカー少年だったんですか。

榊原　当然、全国に通用するようなレベルではないけども、高校3年生のときには受験勉強とサッカーの両立に悩みながら、それでも最後の夏まで闘ったなぁとか、ヒザの靱帯をケガして松葉杖で何ヵ月も不自由な生活を過ごしたなぁとか、自分の中でのノスタルジックな想いも含めて、サッカーというスポーツが持つポテンシャル、それはとてつもないわけじゃないですか。先日のACミランと浦和レッズの試合にしても、23パーセントもの視聴率を獲ってるし。

――んあ～！　谷川将軍ならヨダレを垂らす数字ですね。

榊原　その巨大な世界で自分の力を試してみたいという強い思いがあったんです。ただ、すでにできあがっているものにはまったく興味がないんですよ。たとえば、大金をかけて浦和レッズのオーナーになったとしても、もうやることはないですよね、浦和レッズはもうリッパな一流チームなわけだから。ただオーナーになるだけじゃそんなの何も嬉しくないし、エキサイティングではないわけですよ。

――つまり、何かをイチから育てていきたいということなんですかね。

榊原　そう。もともと何かをプロデュースしたり、創造したりするのが自分にとっての喜びなので、今度はサッカーの世界で選手がすべてを懸けてプレイできるような舞台を作りたいな、と。だからマインドとしてはPRIDEというコンテンツを作ってきたのと同じようなスタンスでサッカーにトライする。そう考えると、

トルシエFC琉球総監督はPRIDEの世界でいうところの"髙田延彦"にあたるんです

やっぱりドラマチックな背景が必要じゃないですか。

――それがFC琉球というチームを選んだ理由なんですか？

榊原　そうですね。簡単に説明すると、ボクは単純にFC琉球のオーナーになったわけじゃなくて、総合的なプロデューサーとしてバックアップすることになったんです。FC琉球はいま、沖縄という日本の最南端から一歩ずつ、本当に一歩ずつ東を目指している途中なんですよ。だからこの先、JFLからJ2に上がって、そしてJ1に上がって、最後は日本のトップのチームとして世界に向けて闘いを挑んでいくという壮大なる野望を思い描くことができる。その一大構想をお手伝いしていくわけです。

――FC琉球と榊原さんの橋渡しをしたのは、ライターの金子（達仁）さんなんですよね？　髙田本部長の自叙伝『泣き虫』を書かれた。

榊原　ええ。ボクの思いを金子さんに伝えて、それでFC琉球の代表である野口（必勝）代表と出会うことができたんですよね。それで野口代表と一緒にやっていこう！　と。そうしてこの秋ぐらいから本格的に動いてきたわけです。で、そうなったときにFC琉球に何が必要かといえば、PRIDEの世界でいうところの"髙田延彦"が必要だと思ったんです。それが今回、FC琉球の総監督に就いていただいた、フィリップ・トルシエさんなんです。

――トルシエは髙田延彦だったんですか！（笑）。

榊原　ええ（笑）。髙田延彦という人間がいなかったら、世の中の人が振り向いてくれなかったですし、PRIDEもいきなり東京ドームではできなかったわけじゃないですか。トルシエさんを獲得したのもそれと同じですよね。

――いやあ、この仕掛け方は"らしい"なあと思ってましたけど。

榊原　なんだかんだ言っても、ここもプロの世界ですからね。「どうやって見せるか」というところは問われてくるんですよ。いまのところFC琉球は年間3億円ぐらいの予算なんですけど、浦和レッズだと年間80億円を超えるくらいの予算でチーム運営しているんですよ。

――年間80億円超え！

榊原　J1で運営していくのに最低でも年間に20億から25億がいる。J2だって10億ぐらいは絶対に必要なんですよ。それだけの経済効果を上げるためには、サポーターの熱もそうだし、企業のスポンサードも必要なわけですよね。そうやってバックアップをしてもらうための環境を作り出していかないといけないんです。そういうことを野口代表たちも考えてはいるけども、やっぱりボクは実際にPRIDEを運営する中で、そういうところを実体験を通じて凄く学んできていて、ソフトの作り方についてボクが協力できることも多々あると思うんですよね。



――その第一弾がトルシエ"本部長"。

榊原　スポークスマンとして世の中に向けてインパクトのある、知名度のある、象徴的な人で、かつ指導者として超一流の人。それをすべて兼ね備えているのがトルシエさんじゃないのかなというところで、秋から必死に獲得へと動いて、最終的に今日に至るという感じなんですよね。

――しかし……、田村潔司を登戸のカラオケボックスで口説き落とすのと、あまりやってることに変わりはない気がしますけど（笑）。

榊原　そうかもしれないね（笑）。そういう点では選手との交渉はいつの間にか慣れている状況もあってですね、PRIDEでの経験が活きてきたのは確かですよね。とにかく自分たちの思いを選手や関係者に伝えるというスタイルは、これまで格闘技界で培ってきた作業となんら変わらないですね。だから今回の交渉でもトルシエさんにラブレターを書きました。

――ラブレターまで！　榊原さんにとっては、いまのFC琉球イコール、PRIDEという感じなんですね。

榊原　そういうことですね。だから今後のことは凄くワクワクしているし、自分たちの軌跡を振り返ったときに、道程が右肩上がりになっているというか、「ああ、ここまで来れたか」という達成感を味わいたい。まあ、見上げれば上は限りなくあるんですよ。それは自他共に認めてもらえることだと思うけど、PRIDEは総合格闘技の世界では間違いなく世界一のコンテンツにまで昇華できたと思っているし、そういう経験というか実績を活かしてどこまでできるかわからないけど、いまはサッカー界の中で一からやってやろう！　と。これは自分にとって今日が第一歩、道のりは険しいとは思うんですが、自分自身にとっては新たなフィールドの中での再チャレンジでもあるんです。

――そこで気になるのは、榊原さんに対するサッカー界の反響なんですけど。

榊原　それは局地的にはあるんじゃないですか（笑）。PRIDEのファンだったというテレビ局の人が、「トルシエよりも、榊原さんが会見に来たことのほうがサプライズだった！」って驚いてましたし。

――シロウトのボクレベルでも、サッカー業界内からの冷たい視線って凄くあるんじゃないかって思うんですけど。

榊原　それはあるでしょうね。「のこのこやってきやがって！」っていうか（笑）。でも、それはPRIDEのときもそうだったし、『ハッスル』のときもそうだった



07年4月8日、『PRIDE.34 KAMIKAZE』で実現した奇跡のスリーショット。これがマット界における榊原氏の最後の姿である。このときは桜庭vs田村戦ばかりか、PRIDEがそのまま活動停止するとは思いもしなかった。"桜庭vs田村" というタマアゴをふ化させるのは誰だ!?

Nobuyuki Sakakibara

PRIDEのファンの皆さんに対しては心からお詫びを言いたいと思います

し、これまでの価値観とか、各業界特有の人間のしがらみとか、業界の中のいろんな年功序列があると思うんですよ。

――そのジャンルによって、オリジナルのルールはそれぞれあるでしょうね。

榊原　きっとサッカー界も同じだと思いますし、そういうものは凄く大事なんですよ。でも、ボクはそういうことに縛られる必要がないことが大きな武器にもなると思うんです。だからおもいきって自分の信じた道を突き進んで、その結果は神のみぞ知るだけれども、これまでボクらが培ってきたことを気持ちを持って一つずつやっていけば、いつかは通じていくと思うんですね。だからすぐには受け入れてもらえないかもしれない。みんな斜めから見ているところもあるだろし（笑）。

――斜めからの視線を感じますか（笑）。

榊原　感じるね（笑）。だから、あとはこの第一歩からどれだけ真摯な態度で一つずつ結果を残せるかということだと思うんですよ。デカいことをブチ上げたぶん、やっぱり結果は問われてきますし。そこは本当にきっちり自分たちも腹を決めてやらなくちゃいかんと思います。

――今日の会見で、「エンターテインメントの部分が強いんじゃないか」というニュアンスのことも質問に含まれていましたけども。

榊原　ボクらがエンターテインメントとしてやっていくということは、リアルなスポーツの感動や興奮を届けていく環境作りが主なのであって、そこはホントにうがった見方をしてほしくないです。ボクらはおもしろおかしくサッカーを茶化すつもりでやってるんじゃなくて、真剣に取り組みます。だけども、アマチュアイズムでやるということではないわけで、当然ながら商行為、営業行為目的はありますよ。そこはどこの世界だって同じであって、なんかへんに誤解されてるかもしれないんだけど、ボクはべつにスポーツをエンターテインメントとして魅せていくことに関してはなんの照れもないし、エンターテインメントしていくということは、単にドラマを見せていくことだけじゃなくて、テレビ局から放映権料もらって、グッズも売って、ビジネスとしての拡がりも含まれるわけです。それがチームの骨となって血となって肉となるわけですよ。だって、強いチームを作るには、いい選手を獲得するには、お金が必要でしょう。だからそのためにはエンターテインメントの部分を強化していくということですよね。

――やっぱりトルシエが露出したことによる経済効果って凄いんですか？

榊原　凄いですよ！　JFLの沖縄のチームが東京で会見したって、これだけのプレスは集まりませんね。まずは世の中の人たちに振り向いてもらわなかったら始まらない。自分たちがプロのチームとしてやっていくうえで、みんなに認知してもらうこともそうだし、興味を持ってもらって、さらにもう一歩突っ込んでファンになってもらう。いまの時代は音楽から映画からたくさんのコンテンツがいっぱいある。それらの中からFC琉球に振り向いてもらう努力をしないといけないん

です。浦和レッズが浦和を本拠地にして、あれだけの素晴らしいムーブメントというか、あれだけのことを成し遂げてるわけだから、沖縄のプロチームがスタジアムに5万人のファンを集めてもおかしくないと思う。FC琉球や沖縄はそういうコンテンツを作れる可能性は秘めているし、ボクは絶対に世の中に向けて発信できると思うんですよ。

――それに向けて榊原さんの人脈だったり、力だったりを有効活用していくという。

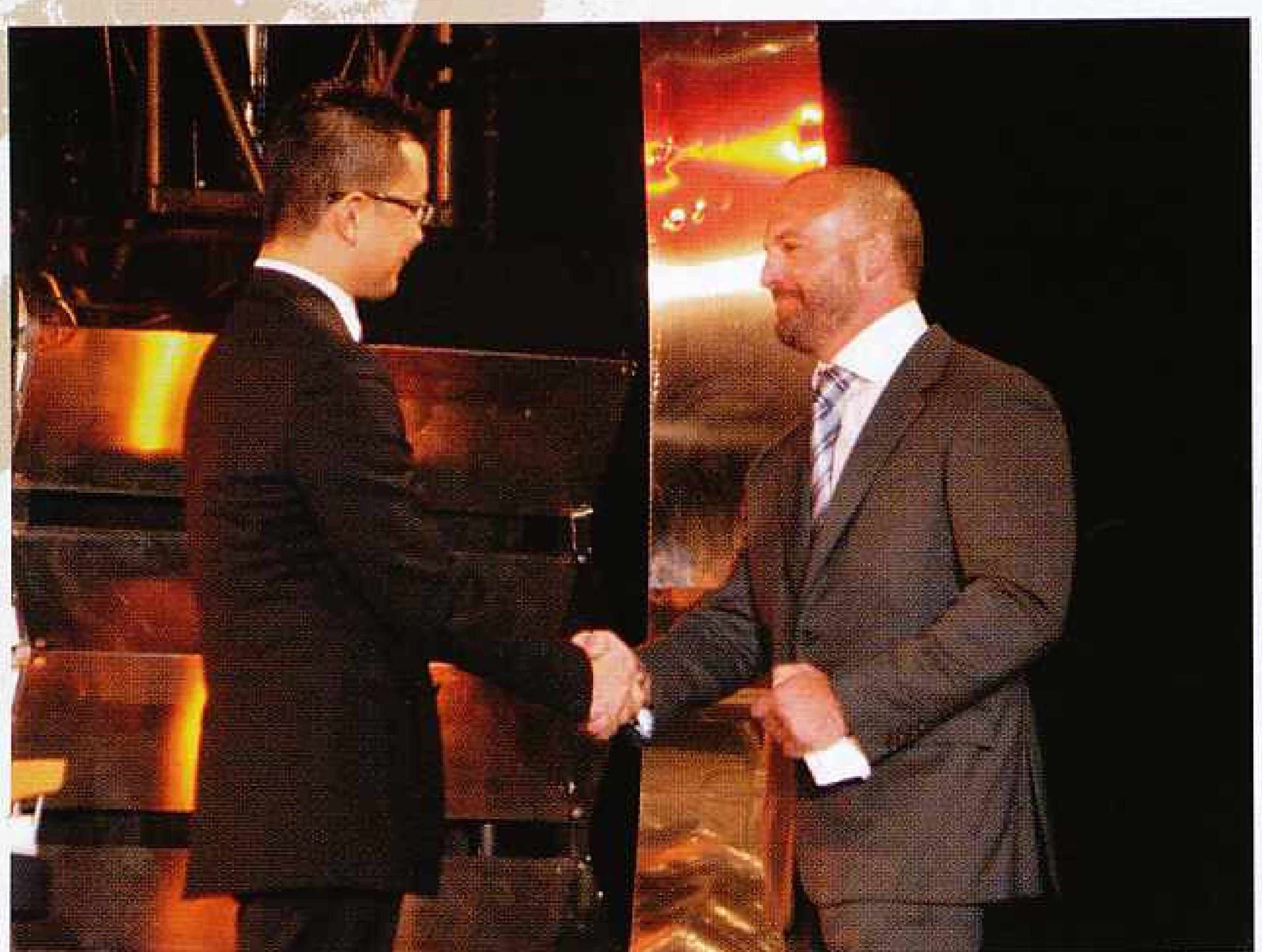
榊原　それがボクにできることだろうし、選手の指導はできないですよ（笑）。そういうところはトルシエさんに総監督としてやってもらう。まあ、彼が今日、言いかけてたけど、JFLで通用するチームを作る気はなくて、最終的にみんながステップアップしていく。選手もそうだし、フロントサイドもコーチ陣もステップアップして、3年後、5年後にJ1で通用するチームにするための第一歩なわけだから、そこからイメージして作っていかないと。J1に上がったからJ1に通用するチームを作ろうったって作れないと思うんです。だからそういう意味での志だけはむちゃくちゃ高いわけ。このチャレンジが徒労に終わるかもしれないんだけどね（笑）。

――ちなみに、このホテルって、あのフジテレビ・ショックの公開記者会見があったんですよね。

榊原　ああ、このホテルだっけ。そういえば、ここの2階でやったんだねえ……。

――そんな場所で榊原さんの新たな出発会見が行なわれるなんて、何か因縁を感じますね（笑）。

榊原　感慨深いね……。あんなつらい会見は、もう二度としたくないですけど。





06年6月に起きたフジテレビ中継打ち切り、UFCのビッグバンにより、マット界の風景は急激に変化した。まさか榊原氏がPRIDEに関する発言を控えなくてはならず、サッカー界に進出することになるとは、一寸先は本当に闇だ。谷川さんのあだ名が"サダハルンバ"から"ジャニー"に変わるはずだよ。ユーも蹴っちゃいなよ！

――ダハハハハハ！

榊原　まあ、そんなホテルでこうやって前向きな会見ができたことをホントに嬉しく思いますけど。

――で、その格闘技の質問なんですが……。

榊原　ホントはサッカーよりそっちでしょ？（笑）。

――いや、サッカーも非常にたいへん興味深いお話でした（笑）。スポーツ紙の報道では、ロレンゾとの契約のために、榊原さんは格闘技ビジネスにはしばらく携われないということなんですけど。

榊原　まあ、あまり多くはしゃべれないですけど、「やれんのか？」って聞かれても、「やれません！」って答えるしかないです（笑）。

――ダハハハハ！　では、PRIDEに対する発言というのもかなり規制されてるんでしょうか？

榊原　そうですね。

――というわけで、読者の皆さん、行間からいろいろと察してください（笑）。

榊原　そういう状況でファンに向けて言えるのは、ボクはこういうかたちになっても、それでもまだロレンゾ氏と交わした男同士の約束を信じているし、必ず2008年にはロレンゾ氏が新生PRIDEを立ち上げてくれると信じたいし、信じるしかないってことなんです。

――それでも信じますか！

榊原　だって、ボクがロレンゾ氏と交わした約束は、PRIDEは必ず活動し続けるいうことなんだから、いろんな問題はあるだろうけど、それはお互いにプロモーター同士、この契約をまとめた人間の中で解決をしないと。このままだったら間違いなくボクもロレンゾもファンを裏切っただけだし、それは格闘技界にとっても決していいことではないし、自分としてはもの凄く恥ずかしいことなんですよ。だからとにかくロレンゾにボクの思いを伝えて、彼がどうしても進めない部分の問題があるなら、ボクも自らその問題を解決するために動くし、だから2008年にまたPRIDEが再開される日を夢見て活動を続けたいと思ってます。

――榊原さんとしては、ロレンゾとの契約というか約束を信じるだけだ、と。

榊原　そうです。ただ、この場を借りてPRIDEを応援し、今後に期待してくれたファンの皆さんに対しては、心からお詫びを言いたいと思います。「本当に力足らずで申し訳ありません！」と。日本のPRIDEファンがPRIDEに寄せてくれた一途な熱、思い、プロモーター的な立場で言ったら、市場がきちっとあるわけじゃないですか。だからそれをこのままにしておくというのは決してよくないし、だからボクはロレンゾやダナ・ホワイトにも「とにかくやろうよ！」と言い続けたいと思ってますけどね。

――やれんのか？　と。サッカー界でのご活躍を期待しております。

【07年12月16日／都内・某ホテルにて収録】



さかきばら・のぶゆき■1963年11月18日、愛知県出身。元PRIDE運営会社代表。高田延彦vsヒクソン・グレイシー戦実現に奔走したPRIDEの生みの親。07年3月、ロレンゾ・フェティータにPRIDEの権利を譲渡。現在はFC琉球の総合プロデュースを行なっている。

!! KYORAKU PRESENTS

ハッスル27 ファイティング・オペラ

スポーツエンターテインメントの
舞台裏レポート



ボノちゃん、ハッスルの主役へ——。今年のテーマは“成長”だ！

2008年最初の大会である1.13『ハッスル27』（愛知県体育館）は、大晦日までの張りつめたテンションとはうって変わって、自然体の『ハッスル』になっていた。とくに際立っていたのは“ボノちゃん”ことモンスター・ボノと“ママ”であるインリン様の悲劇だ。坂田という主役が戦線離脱を余儀なくされる状況で急浮上してきた親子ストーリーの本質とはなんなのか!?　そして、昨年末から急激に変化しつつある会場での盛り上がりについてなど、表舞台だけ観ていてもわからない部分にまで踏み込んでレポートをお届けする次第である。

構成／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

「まだまだ、ハッスルの風なんか吹いちゃいないのである」

髙田延彦は『ハッスル27』終了直後に自身のブログにこう記している。

昨年末はビッグマッチを立て続けに成功させ、勢いに乗っているかのように見える『ハッスル』は、年が明けて2週間も経たないうちに08年最初のシリーズに突入した。ろくに休みもなかったので1月に入ってから選手もスタッフも体調を崩す者が続出。バックステージにいたスタッフの数は通常の半数程度だっただろうか。『ハッスル』は年末のビッグマッチ二連戦を経て、確実に一つの階段を登ったが、チームとしては満身創痍の状態だった。

舞台装置も芸能人参戦もない しかし熱のある『ハッスル』

1月13日、愛知県体育館には7000人を超える観客が集まり、おおいに盛り上がった。この冬一番の寒さを記録した寒空の下、開場直前には大行列ができていた。しかし、それだけではまだまだ厳しいよ、というのがプロレス全盛期の90年代に頂点を極めた男・髙田延彦の見解であろう。

大会の前に行なわれるミーティングでは髙田から大晦日の反省点とそれを活かして前に進むための決意が語られた。トップにこういう厳しい目線を持つ人がいるからこそ、『ハッスル』チームは浮かれることなく走り続けていくことができるのだろう。

とはいえ、舞台装置も演出も控えめなのでリハーサルも大晦日よりは大幅に短縮された。『ハッスル・マニア』『ハッスル祭り』という地獄の二連戦を乗り切ったことでスタッフが成長したこともあるのだろう。

結果的に『ハッスル27』は会場の熱も、内容も、非常に濃い大会となった。過去の『ハッスル』では派手な話題にかき消されて、隠れていた部分が前面に出ていた。

とくに若手選手の底上げが急ピッチで行なわれているのが印象的だった。第2ハッスルではKUSHIDAと崔領二が川田利明と佐藤耕平に挑み、第3ハッスルではチエとRGがアン・ジョー司令長官とジャイアント・バボに挑んだ。KUSHIDAは、川田と耕平のキックでボコボコにされながらも若さと勢いで対抗して歓声を集めた。崔は試合中から、バチバチとやり合いながら、試合後のマイクで川田の歌（中日ドラゴンズ応援歌『燃えよドラゴンズ』）を邪魔して遺恨を残した。川田の歌で大歓声が起こったが、崔が音楽を止めさせたおかげで大ブーイングが発生！　あらためて川田が07年を通じて取り組んできたことのインパクトの強さを思い知らされたが、川田と絡むことで崔のしゃべりの才能が開花することになるかもしれない。崔はもともとプロレスラーになる前は『探偵ナイトスクープ』に出演するなど、関西では名の知れたトンパチ素人だった。試合とマイクで川田に絡むことで発生するであろう〝化学反応〟によって大化けするかもしれない。



「まだまだ、ハッスルの風なんか吹いちゃいないのである」by髙田延彦



チエとRGのコンビもじつに絶妙だった。プロレスラーとしては足りない部分だらけの両者が、タッグを組むことでお互いを補完し合うというタッグの醍醐味を表現できるチームである。RGにフォールを奪われたバボも、アン・ジョー司令長官から「もうモンスター軍に来て2年だぞ。生まれ変われ！」と檄を飛ばされた。『ハッスル』にいる以上は常に成長と変化を求められる。バボだけではない。KUSHIDAも、チエも同様だ。

大がかりな演出や芸能人が出なくても、若手が感情剥き出しでバチバチと激しくぶつかり合う試合は観客を魅了する。とくにボコボコにやられたあとで反撃に転じるという展開は非常に感情移入がしやすいものだ。大晦日の『ハッスル祭り』はテレビ向けということで、すべての試合に演出があったり、初登場の芸能人が出たりしていたが、08年最初の大会はライブ向けにシフトしている印象を受けた。開催地が名古屋だったこともあり、プロレスをこねくりまわすよりも、シンプルなプロレスを選択したのは正解だったのかもしれない。

KUSHIDA、チエ、バボの3人は12月大会から新たに導入された前説も担当している。開演前にリング上から観戦上の注意や声援の送り方をレクチャーするのだ。KUSHIDAとチエが「ハッスル軍には声援を送ってください。髙田モンスター軍とRGのつまらないギャグにはブーイングです！」と言ってるところにバボが現われて、「髙田総統には『ソートー』コールや。インリン様が登場したら腹の底から『インリン様～』と叫べ」と説明する。

『ハッスル』は一見さんの来場も多く、どういうふうに応援していいのかわからないという人も多い。こういった前説をやることでハッスルの世界観を理解しやすいようになっている。

実際、第1ハッスルではご当地モンスター〝赤福〟蜘蛛にかなりブーイングが飛んでいた。前説によってお客さんも積極的なリアクションをするようになるのだ。ちなみにバックステージでは、緊張しなが



らマイクを握るバボが何を言い出すかヒヤヒヤしながら注目している（12月は観客に敬語で総統コールをお願いしていた。モンスターなのに!）。

坂田は腰の手術を決意 ボノちゃんは主役へ？

セミハッスルではTAJIRIとレネ・ボナパルトが一騎打ちを行なった。1・11発売の『kamipro Special 2008 SPRING』でTAJIRI自身が語ってくれたように、飛んだり跳ねたりではない、サイコロジーを駆使した試合となった。嫌味なモテキャラのレネと、リベンジを挑むTAJIRIの駆け引きが絶妙な間で繰り広げられていく。前半戦に出た若手が自分の引き出しを勢いよく開けていたのとは対照的に、この二人はじっくりと自分の引き出しを開けている。大会全体の中でギアチェンジの役目をはたしたこの試合は、レネのロープつかみフォール勝ちというフラストレーションの溜まる決着で終了。そして、いよいよメインハッスルを迎える。

試合前の映像では、控室でモンスター・ボノが「パパに会いたい」と駄々をこねるシーンが流された。パパとはもちろん、大晦日に再会したグレート・ムタのことである。「なんでボノちゃん、パパに会えないの？　ボノちゃんが強くなったらパパに会えるの？」と無邪気にママ（インリン様）に尋ねるボノちゃんだったが、インリン様はボノちゃんをパパに会わせるのは教育上よろしくないと考えている。「パパ、正月に東京ドームにいたよ」とグズるボノちゃんは不機嫌モードのまま試合へ出ていった。ボノちゃんは大晦日に不在だったサップに不信感を抱いていたため、試合中の誤爆でヘソを曲げて途中で試合放棄してしまう。

一方、サップは試合中の間の取り方などが以前よりも格段に良くなっていた。K-1ルールやMMAの試合で株を落としたとはいえ、その驚異的な身体能力はいまだ健在だ。結局、サップが坂田をフォールして試合を終わらせた。

07年の『ハッスル』で最も躍進した坂田だが、ここにきて急激に調子を落としている。昨年秋に悪化したヘルニアに起因する坐骨神経痛が、最悪の状態になってしまったのだ。この日も入場のときから足を引きずっており、試合途中で動きが完全に止まってしまった。本人は足を引きずらないで歩いていたつもりだったというが、坂田の入場を見慣れた者なら一目でわかるほどコンディションは良くなかった。痛み止めの薬を毎日3錠服用しないと日常生活もままならないという状態らしい。この大会の試合前にはいよいよ痛み止めも効かなくなり、満足な闘いができる状態ではなかった。1月下旬から2月上旬にかけて手術を受けることになっており、2月大会の出場は危ぶまれている。



坂田が戦線離脱の可能性大という状況で、ボノちゃんのストーリーが大きく動き出した。なんとママであるインリン様と決別したのだ。

メインハッスル終了後、サップに謝るようママに言われたボノちゃんは、これを拒否する。

「ボノちゃん、悪くないもん！　パパとママが仲良くしないから悪いんだろ！」

「ママに向かってなんですか？　そんな悪い子はもうママの子じゃないわ！」

「ボクだって生まれたくて生まれたんじゃないよ！」

この発言にインリン様は思わず手……、というかムチが出てしまう。ふと冷静になり、自分のしたことに愕然とするインリン様。パパに会いたい一心のボノちゃんと、未婚の母としてボノちゃんを育てていく決意を固めるインリン様。二人の気持ちがすれ違った瞬間、悲劇的な音楽が場内に流れ出す。

「ぶったなー！　ママのバカーッ！　もうママのことなんか大嫌いだ！」

そう吐き捨てたボノちゃんは、怒り狂う巨象のように猛ダッシュで花道を引き揚げていった。

悲しい宿命を背負った超巨大モンスターと、セクシーなシングルマザーという構図だけでもグッとくるストーリーだが、そこに父親探し、03年の大晦日から続くサップとのライバル関係というテーマも加わる。このストーリーは、すでに走り始めた08年シリーズの大きな核となるだろう。異形のモンスターたちが愛憎入り混じったメロドラマを繰り広げるかと思うと、それだけでゾクゾクする。その物語の主人公は、ボノちゃんしかいない。

このテーマは、プロレスの枠を超えて広がっていく可能性を秘めている。人間は親との葛藤や組織の中での軋轢を乗り越えて成長していくものだ。ボノちゃんの物語は誰もが普遍的に抱えている問題でもある。

『ハッスル』の若手もボノちゃんも、どちらもテーマは〝成長〟である。『ハッスル・マニア2007』で一度クライマックスを迎えた『ハッスル』も、あの自己最高記録を超えるために〝成長〟しなければならない。髙田延彦が指摘するように、いまは風は吹いていないかもしれない。だが、年末の風をもう一度吹かすためには、〝成長〟するしかないのだ。



大晦日から導入されたハッスル応援棒。来場者全員に配布されており、客席が一気に華やかになる。叩くとポコポコといい音が鳴るのだ。前説はテレビでは中継されないボーナス・トラックだ。内容は……単なる前説だがかなりヒヤヒヤする。



坂田はヘルニアの影響でついに手術を決意！
そこで急浮上してきたのがボノちゃんである

2007年のベストシーン間違いなし
天龍〝ゲイ〟一郎が後楽園に降臨！
ボノちゃん誕生の瞬間を目撃せよ
『ハッスル』夏の陣をガッツリ収録

07年6月の大一番『ハッスル・エイド2007』（さいたまスーパーアリーナ）でHGに敗れたことで、髙田総統の逆鱗に触れてしまった天龍源一郎。男らしくハッスル軍が用意したコスチュームを受け取って、無言で去っていった。

その後の去就に注目が集まった7月の『ハッスル・ハウスvol・26』、天龍源一郎は唐突に現われた。

いや、それはハードゲイ・コスチュームに身を包んだ天龍〝ゲイ〟一郎だった。あまりの衝撃に髙田総統も「おい、リング上を見ろ！　大変なことが起こってるよ！」と珍しく驚くほど、強烈なインパクトだった。

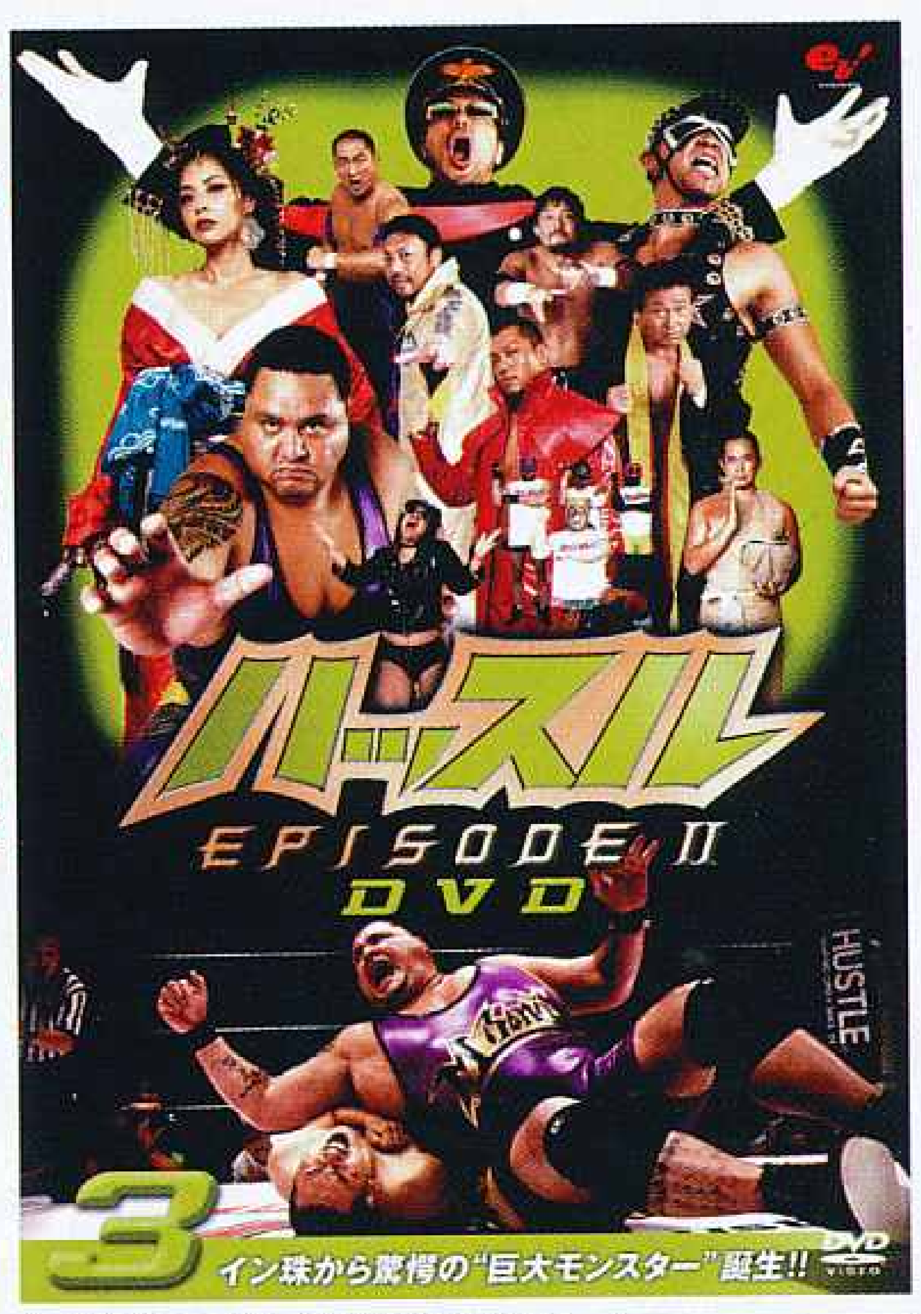
このあと、天龍はハッスル軍に加入して『ハッスル』が世界に誇れるものになるんだったら、おまえら若いモンを身体が粉々になろうと支えてやろうと思ってるよ」と熱く宣言したのだった。

一方、髙田モンスター軍も着実に新戦力が誕生する。『ハッスル・エイド』でグレート・ムタの毒霧を股間に受けて失神したインリン様が、なんと卵を身ごもっていることが明らかになったのだ。8月の『ハッスル・ハウスvol・27』で緑色の卵を産卵したインリン様は、その3日後の『ハッスル25』でイン珠と名づけられた卵を孵化加速装置に入れる。中から誕生してきたのはなんと体重21万5000グラムの超巨大な赤ん坊、その名もモンスター・ボノだった。


翌月の『ハッスル26』でデビューしたボノちゃんはRGを簡単に圧殺。救出に駆けつけた天龍と一触即発の乱闘を繰り広げたのだった。

10月には髙田総統が呼び寄せたという新モンスター〝暗黒肉弾魔人〟ボブ・サップも緊急参戦！『ハッスル・ハウスvol・30』でHGと坂田を吹っ飛ばして、その実力の片鱗を見せつけたのだった。

このDVDには『ハッスル・マニア2007』へとつながる伏線が「これでもか～、これでもか！　これでもか～、これでもか！」（by髙田総統）と詰まっている。もちろん見逃し厳禁だ！



『ハッスル EPISODE II DVD 3』
標準価格／4800円（税込5040円）
発売日／08年1月30日　発売元／エンタープレイン



WWEより

!!

オレ流〝家族愛〟を大熱弁！

曙

AKEBONO

祝・大晦日初勝利！
12.31『ハッスル祭り』でボノちゃん劇場大爆発！

ハッスルはW…
凄いんだー!!



大晦日MVP級の活躍をしたのは三崎vs秋山だけじゃない！　初の大晦日興行&地上波ゴールデン放送となった『ハッスル祭り』に登場したボノちゃんこと、モンスター・ボノの活躍を観た者なら、誰もがそう思うはずである！　例年の大晦日以上に輝きまくった曙さん。そこにはどんな思いがあったのか？　また、「『ハッスル』はWWE以上！」と豪語するその真意とは!?

聞き手／松下ミワ　撮影／梅木麗子　試合写真／山口比佐夫、平専英、乾晋也

「その日はK－1 MAXの会見なので、広報スタッフは同行できないと思います」。

横綱の取材を申請した別の日に、FEG側からそう告げられたのは確か取材の二日前。しかし、まあそんなことはよくあることだし、カメラマンと一緒にワイワイ取材すれば、きっとなんとかなるはず！　そう高をくくっていたのだが……。なんと、こんなときに限ってカメラマンまでもが「取材後、急いで大阪に飛ばないといけないんですよお」と、撮影を先に行ないたいとの連絡。ああ、それもとくに問題ないですよ、と思ったのだが……、ん？　ということは、よく考えると、横綱と二人っきりでインタビューってことになるの!?　ウガーッ!!

というわけで、この日は約束の場所で本当に横綱と一対一で取材を敢行したのだった！　ところが、図らずもこれが功を奏したのか、横綱はぶっちゃけトーク大全開！　超ノリノリの横綱節を披露してくれたのだった〜。

——曙さん！　念願の大晦日初勝利、おめでとうございます！

曙　ん？　…………（しばらく考えて）アァ〜〜！

——「アァ〜〜！」じゃないですよ！（笑）。03年『Dynamite!!』ボブ・サップ戦での大晦日登場から、4年間も明るい新年を迎えられてなかったわけですけど、07年はついに一勝を挙げたじゃないですか！　どうでしょう、勝利のお味は？

曙　フッフッフッフ（笑）。正直そんなこと、なーんにも考えてなかったですね。今回はもう、いままでと違ってとにかく身も心も疲れたーという感じでしたから。

——やっぱり例年の大晦日とは違いまし

たか?

曙　だって、一年の中で一番大きいイベントじゃないですか。そりゃ、緊張しますよ。それに、もともと最後のほうまで自分がどっちに出るのか、わからなかったですからね。

――「どっち」というのは『Dynamite!!』か『ハッスル祭り』かということですね。ただ、11・25『ハッスル・マニア』では「パパを連れてくるからな!」みたいなセリフがありましたし、けっこう早い段階から横綱は『ハッスル祭り』出場だという雰囲気はあった気がしましたけど。

曙　いやいや、やっぱりギリギリまで『Dynamite!!』の可能性もありましたよ。だから、ちゃんと『ハッスル祭り』のほうだって言われたのは、クリスマスが終わってからですからね。社長（山口日昇氏）からは、「『Dynamite!!』からオファー来た?　来た?」って何度も聞かれてて、「いや、まだないです」って答えてましたから。

――そうだったんですね。それにしても、横綱は凄いですよ!　華の大晦日に『Dynamite!!』と『ハッスル』の両方からオファーの可能性がある人なんて、ハッキリ言って全世界探しても横綱ぐらいしかいませんから!

曙　フッフッフッフ。そうかな?（照れながら）。

――ただ、谷川さんは「横綱は総合格闘技に対するモチベーションは、ボクが見る限りゼロですね」なんてとんでもないことを言われてましたけど、やっぱり横綱としても大晦日はプロレスで暴れたいなという気持ちがありましたか?

曙　いやいや、もう出させていただけるならどっちでも（笑）。でも、大晦日はお祭りだからね。だから前も言ったように『Dynamite!!』でプロレスをやってもいいと思ったんだけど、まあ、なかなかそういうわけにもいかないんだろうね。

――プロレスでの出場ということでは、『ハッスル』参戦が決定したときはやっぱりテンション上がりましたか?

曙　いや、逆に緊張しましたね。それは、どっちに上がるにしてもそうなんですけど、やっぱり出させてもらっている以上はいい試合しとかないといけないというプレッシャーはありますから。一緒に出てる選手の皆さんにも対しても失礼だしね。まあ、大晦日に仕事をするという心の準備だけはしてたんですけど。



ボクの中の一つの目標は、会場のお客さんを何人泣かせるかが勝負だなって

――そんなプレッシャーがありながらも、やっぱりモンスター・ボノとグレート・ムタとの初対面は最高に感動的な場面になりました。ムタがボノちゃんを置いて去っていく場面なんて、本気で涙が出た人も多かったみたいです!

曙　フッフッフッフ（得意げに）。まあ、今回はボクの中でそれを一つの目標にしてましたからね。会場のお客さんを何人泣かせるかが勝負だなって。

――そんな目標を立ててましたか。

曙　でも、やっぱりあの試合を観たお客さんにそういうふうに思っていただけたんだったら、ボクのやってることは間違ってないなって思いますね。なんか、よけいにもっといいものを作りたくなりますよ。

――いやあ、凄いモチベーションですねえ。では、会場に来たお客さんはかなり意識してたわけですね。

曙　いや、でもね、ボクはどっちかっていうと、会場に入ったら緊張しすぎてリングだけしか見えなくなるんですよ。なんていうかな、もう、すぐスイッチが切り替わるというかね。それに、あの日はとくにほかの皆さんも緊張が凄かったですよ。

――それは、やっぱり大晦日のビッグイベントだったことに加えて、テレビ東京系列での地上波放送があったからですか?

曙　ボクたちはそういうのは気にしてないんですけどね。それより、一年の集大成というか、やっぱりボクの試合でいっ

第64代横綱 大晦日の軌跡



[Dynamite!!]
○ボブ・サップ vs 曙×
（1R 2分58秒 KO）

最高瞬間視聴率43.0パーセントと、視聴率では大勝利を飾った曙さん。ダイナミックな打撃戦の末、最後はサップの強烈なパンチでマットに沈んでしまった！　このときの姿は"ヒキガエル"のようだと各方面で形容され、図らずも大きな話題になってしまったのだった。



[Dynamite!!]
○ホイス・グレイシー vs 曙×
（1R 2分13秒 リストロック）

人生初の総合格闘技挑戦となった曙さん。しかも、2年連続『Dynamite!!』のメインという快挙を成し遂げたが、100キロ以上の体重差をもってしても、やっぱりホイスから白星を勝ち取ることはできず……。なんとも悔やまれる総合転向になってしまった。



[Dynamite!!]
○ボビー・オロゴン vs 曙×
（3R 判定3-0）

『Dynamite!!』3戦目の05年は"史上最強の素人"として期待されているボビー。なんとか判定まで持ち込んだ横綱だったが、無念にも3年連続敗戦へ……。しかも、ボビーから「曙さんが汗臭くてつらかった」と屈辱的なことを言われるなど、さんざんな結末に。



[Dynamite!!]
○ジャイアント・シルバ vs 曙×
（1R 1分02秒 CWアームロック）

これぞサダハルンバの真骨頂（?）とも言うべきカードとなったジャイシル戦。横綱がジャイシルをロープ際に押し込み、考えられないくらいロープが揺れた瞬間は会場からこの日一番のどよめきが！　しかし、結末はここでも一本負けしてしまった……。

ボク、凄くボノちゃんをやりやすいんです　なぜかと言うと、凄く似てるんですよ……

たら初めてパパに会えるわけじゃないですか。でも、そこで失敗したらいままで作り上げてきたものが全部崩れますから。そっちの緊張感のほうが凄かったですね。

――そういう思いがあってのあの試合だったんでしょうけど、それにしてもパパが出てきたときのあのボノちゃんの表情はいつにも増して素晴らしかったです！　というか、なぜボノちゃんはあんなにかわいいのか教えてほしいぐらいでしたよ!!

曙　フッフッフッフ（おもいっきり照れながら）。でも……、ホントにかわいいと思ってるの？

――ズバリ、お世辞抜きにめちゃめちゃかわいいです！

曙　ファファファファッファァ！　それはそれは、嬉しいっス（顔を赤らめて）。

――やっぱりパパが出てきた瞬間というのは、ボノちゃんとしても奮い立つものがありました？

曙　正直言えば、一番最初にボノちゃんの話が来たときは凄く戸惑いがありましたからね。いきなり「タマゴから産まれてください」とか言われて、「意味わかんないよ！」って本気で思ってたんですけど。

――64代横綱としては想像もつきませんよね。

曙　でも、ここまでやってたらもう割りきって全力でやるしかないなって思いますよ。だって、『ハッスル』はみんなそうじゃないですか。だからもうそこに飛び込んでいくしかないなって。川田（利明）さんがいっつもボクに言うんですけど、「バカらしいことかもしれないけど、一生懸命やろう」っていうのは、肝に命じてやってますね。

――そういう意味では、横綱はインリン様と一緒になることが多いと思うんですけど、インリン様のプロ魂みたいなのはどんなふうに見てますか？

曙　フッフッフッフ。きれいなママで嬉しいなって（笑）。

――横綱、そういう話じゃないんですよ。

曙　だから真面目に話すと、インリン様に限らず、大会に向けてほとんどみんな一つの夢に向かって頑張ってるんですよ。なので、冗談抜きに、言わなくても伝わるものがあるんですよね。気持ちだけでコミュニケーションできてるって感じですかね。だから、プロ意識が高いとかそういう話では、インリン様にしてもＨＧさんにしても、もうみんな高いですよ。ＲＧにしたって、根性だけは認めますからね。



[ハッスル祭り2007]
○インリン様&モンスター・ボノ&グレート・ムタ vs 天龍源一郎&RG&TAJIRI×
(10分45秒 M字式親子固め)

07年の大晦日、ついに横綱初勝利ダー！　親子3人で決めたM字式親子固めでは、ボノちゃんも勝ち誇ったこの表情である。以前、髙田延彦が本誌インタビューで語っていたように、これまで曙が大晦日で苦汁をなめ続けていたのは、この日の勝利を、より感動的にするためだったと思わされる一コマである。

――まだ根性しか認めてもらえませんか（笑）。プロレスと一言に言っても、横綱はすでにいろんな団体で活躍されてるわけですけど、『ハッスル』は現場の空気的に何か特殊だなと感じる部分もあったりしますか？

曙　あー、どうですかねえ。……（しばらく考えて）やっぱり雰囲気は違いますね。あんまりボクがこんなことを言える立場じゃないんですけど、それは目指しているものが違うからかなと思うんですよね。たとえばボクは新日本さんも出させていただいてるんですけど、『ハッスル』はバチバチのプロレスではないじゃないですか。だから、どうしてもそのへんの雰囲気はまったく違うものになると思いますよ。

――どちらかというと、作品の完成度を高めていく感覚に近いような気がしますよね。『ハッスル』ではインリン様との親子愛だったり、グレート・ムタ含めての家族愛だったりを表現される場面が多いと思いますが、今日は実際に横綱の"家族感"というものにも迫りたいと思うんですよ。

曙　（唐突に）ボクはね、凄くボノちゃんをやりやすいんですよ。

――ほう！　やりやすい、と言いますと？

曙　だからね、似てるんですよね。ボノちゃんとボクの子どもたちのシチュエーションが。これは現役時代の話なんですけど、力士って巡業に出たりするんで本当に肝心なときに家にいないことが多いんですよ。

――ああ、なるほど。つまり、横綱がグレート・ムタみたいに子どものそばにいないパパだった、と。

曙　ですね。ボクの家は長女が一人、あと息子が二人いるんですけど、上の二人はまだボクが相撲をとってたときに産まれた子だったから、そのときはずっと出ぱなしでしたよ。

――お子さんたちは凄く寂しかったでしょうねえ。じゃあ、ひさしぶりにパパが戻ってきたときは、やっぱりボノちゃんのようなかわいい笑顔で迎えてくれたんでしょうか？

曙　いやいや。一番上が産まれたときは、巡業行って、地方場所に出て、巡業行ってっていう感じで、それこそ3ヵ月半ぐらい家に帰れなかったんですよ。で、やっと家に戻ったと思ったらいきなり娘に泣かれましたからね。

――「知らないおじさんが家に入ってきた！」って？

曙　そう。娘にとってはパパはテレビの人だって感覚だったんですよ。だから、テレビをつけると、「あっ！　パパだ！　パパだ！」って喜んでたらしいんですけど、いざ本人が目の前に来たら、「うえ～ん」って泣かれて……。

――それはパパだという意識が……。

曙　（さえぎって）ないの！　だからねえ、悲しかったよ……（しみじみ）。

――複雑な心境ですよね。家族のために闘わないといけない一方で、家族からはパパだと思われないというのは。

曙　子どもというのは純粋だからねえ。

「パパはテレビの人なんだ」って感覚がつくと、なかなかそこから抜けられないというか……(寂しそうに)。

——娘さんがちゃんと横綱をパパだって認識しだしたのは、何かきっかけがあったんですか?

曙 えっとね、ケガをして半年ぐらい休場してたときがあったんですけど、そのときですね。だって、毎日一緒にいましたから。

——それは、よかった……って言っていいのかわからないですけど。

曙 いや、よかったですよ。だからね、パパを待つ子どもの気持ちはよくわかります。ボノちゃんのときも、たぶんそういう経験が自然と出てきてるのかなって思うんですけど。

——なるほど。逆に、曙さんがお子さんのときはどうだったんですか? ボノちゃんのようにけっこう甘えん坊だったりしたんでしょうか?

曙 いやー、ボクはぜんぜん甘えん坊じゃなかったんですよ。3人兄弟の長男だったからね。で、両親は共働きで仕事してるし。だから、5、6歳の頃からボクが兄弟の面倒をずっと見てましたよ。

——じゃあ、お兄ちゃんとして自分がしっかりしないと……。

曙 (さえぎって)殴られる!

——えーっ! そんな危険な環境だったんですか!?

曙 というか、ボクから見たらいまの子どもなんか甘いですよ! ボクらが子どものときは全部そんな感じでしたから。

——いまは殴ったりすると問題視されやすくなってますからね。で、横綱は19歳のときに初土俵ということで日本にやって来られたわけですけど。

曙 もう、そのときは何もわからないまま来ましたね。成功するかしないかもわからないし、言葉もわからないし。もちろん相撲もわからないしね。でも、19歳だったからというか……、あんまり真剣に考えてなかったですよ。たぶん真剣に考えてたら日本には来なかったですよ。勢いで来ましたから(笑)。

——日本に行けばなんとかなるだろう、って?

曙 親方に「来い」って言われて2ヵ月後に日本に着いてましたから。その期間がもうちょっとでも長かったら完全に来なかったです。

——言葉も通じないんじゃ話す人も限られるだろうし、かなりホームシックになったんじゃないですか? 格闘家の方でも海外修行に行ったりすると、電話代がハンパないことになって帰ってくるなんて話も聞きますけど。

曙 最初の半年間ぐらいはありましたけど、まあ、しょうがないっすよ。それに、こっちは親が苦労しているだとか、そういう状況もわかってますから。だから、心配かけるなんてできないんですよ。電話にしても「元気だよ」って言ってすぐ切るぐらいですね。





煽りVでもボノちゃんの存在感は超ド級! 身長、体重ともに200を超える大男に、眉毛をへの字にされてこんな表情をされたら、もう相手が誰であろうと完敗であろう。

——それだけですか!?

曙 ボクから電話するときというのは、場所が終わってお金がもらえてテレフォンカード買って、そして大事な用件があるときですね。だって、やっぱり迷惑はかけられないですもんね。

——甘えてる場合じゃない、と。

曙 まあ、寂しいのはあたりまえですけど、ボクが強くなればすべてよくなるという感じでやってましたよ。

——遠く日本で闘っている横綱を、ご両親はどんなふうに見てたと思いますか?

曙 う〜ん。どうっスかね。それは、……やっぱり親に聞かないとわからないかなあ(笑)。でも当時、ハワイにはフットボールの有名選手とかいっぱいいたんですよね。優秀な人はアメリカの本土の大学に行ったりとかしてる人もいたんですけど、中には1ヵ月もたないで帰ってくる人もいるわけですよ。そうなると、その人がハワイに帰ってきたときは、みんな「惜しかったねえ」とか「頑張ったよ」とか言うんですよ。でも、いないときはボロクソ言われてるんです。ボクはそういうのを見たり聞いたりしてるから、自分の親には絶対に恥をかかせたくないなって。そういう気持ちでしたね。

——横綱……。

曙 でも、みんなそういうもんじゃないんですか? ボクはそうだと思う。

——いやいや、親孝行すぎますよ。きっと、ご両親は横綱のような子どもを持てて凄く幸せだと思います!



パパであるグレート・ムタの登場に大喜びのボノちゃん。こんなかわいい息子を、なぜ置いてけぼりにするのか、まったくムタの気が知れない。しかも、養育費も払ってないというから一大事である。

て来られたわけですけど

曙　フッフッフッフ。変わった息子を持って大変だったと思ってるかもよ（笑）。

——逆にいま横綱はパパであるわけなんですけど、父親としてお子さんにはどう接してますか？

曙　一番はあれですね。挨拶ができて、お礼も言えて、どこに出しても恥ずかしくないような人間になればなとは思ってますけどね。あとは、ボクが部屋に入っていろいろ見て覚えたのと同じように、子どもたちもいろんなところから学んでいけばいいのかなって。

——ちなみに、パパとしての横綱はどんな家族孝行をしているんでしょうか？

曙　時間があるときは、米軍のプールに行ったり、米軍（基地）の公園に行ったりして遊んでますね。奥さんが米軍関係の仕事をしてるんで、ボクらは米軍に入れるんですよ。

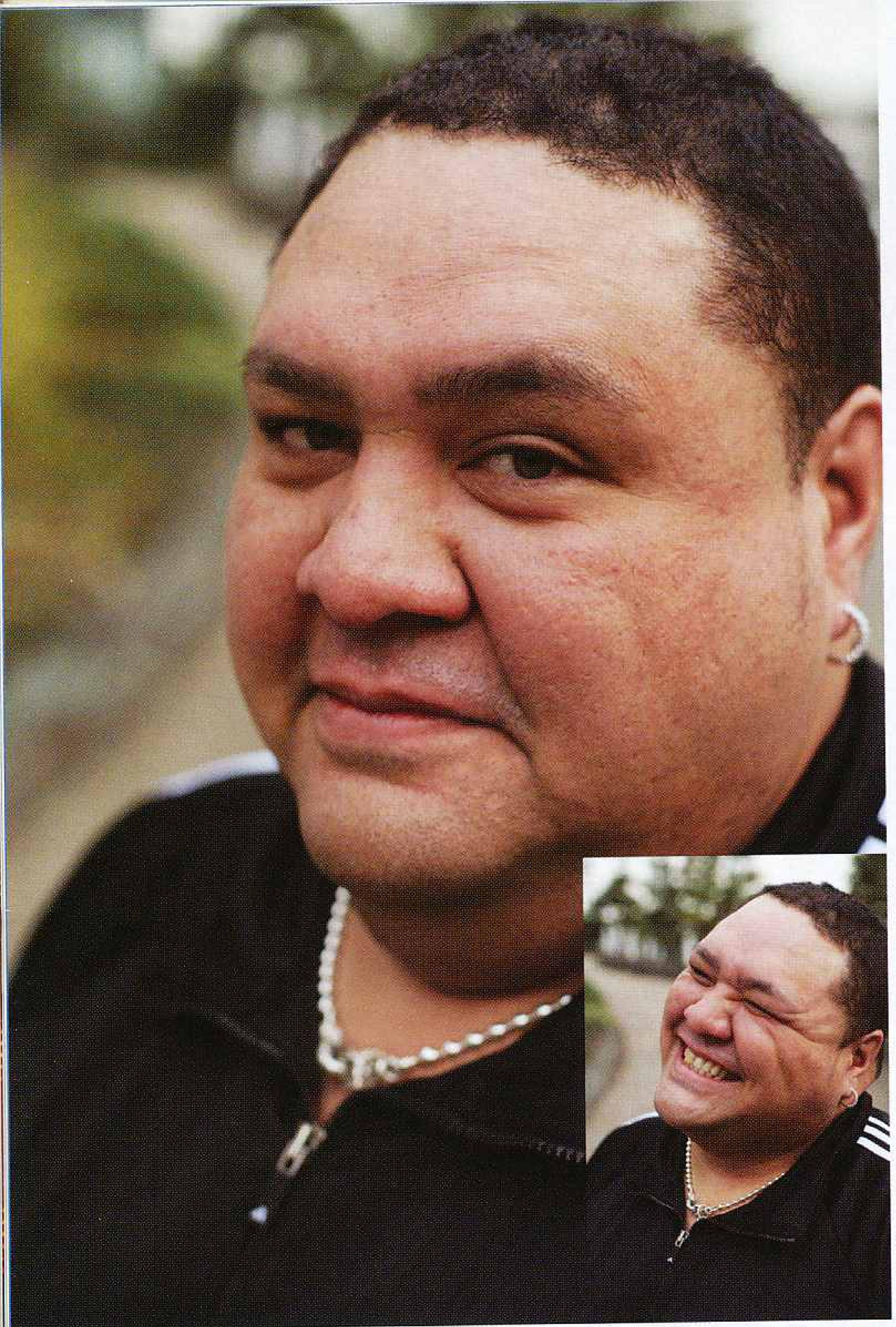
——それはいいアミューズメントパークですね。普通の公園なんかに横綱が現われたら、家族サービスどころじゃないですもんね。

曙　そう！　それが一番困るんですよ。子どもと一緒にいるときに囲まれたりするのがね。まあでも、誰も何も言ってくれないのは、それはそれで寂しいけど（笑）。

——でも、お子さんもそういうパパを誇りに思うんじゃないんですか？

曙　いやいや、子どもって複雑ですよ。現役時代に新聞で1面を飾ることとかたまにあったんですけど、その新聞を学校の教室に貼られるらしいんですよ。そしたら「お父さん、凄いね！」とか周りから凄く言われるらしくて、けっこう恥ずかしがったりしてるみたいです。だから、まだそういうことに対して誇りに思えるような歳じゃないかもしれないですね。

勝手に考えてるのは、ボノちゃんが
パパを探す旅に出るのもいいと思うんだよね



あけぼの■1966年5月8日、米国ハワイ州出身。K-1には03年12月31日『Dynamite!!』から参戦。FEG主催のイベントでは、なかなか白星を挙げられずにいたが、唯一、角田信朗から判定勝ちを収める実績を持つ。また、プロレスでも大活躍中の横綱は、全日本、新日本、『ハッスル』など幅広く活躍。とくに『ハッスル』では生後約6ヵ月のモンスター・ボノとして驚異の存在感を見せている。203cm、200kg（自称）。

——なるほど。あと5、6年ぐらい経ったら変わってくるんでしょうかね。ちなみに、お子さんたちは『ハッスル』はご覧になったりしてますか？

曙　観てるねえ（笑）。

——パパの赤ちゃん姿にはどんな反応をしてますか？

曙　フッフッフッフ。あれパパじゃないよ。ボノちゃんだもん（と、急にかわいらしく）。

——あ、そうですか。では質問を変えまして、ボノちゃんを観てどういう反応でしょう？

曙　フッフッフッフ。けっこうおもしろがって観てますよ。最近『ハッスル』のグッズで新しく「魔界ファミリーTシャツ」というのができたんですけど、ずーっとあれ着てて学校に行ったりとかしてますよ。

——まあ、お子さんたちも〝ファミリー〟ですからね。

曙　それに、息子二人はもうプロレスにはまっちゃって、家の中でもしょっちゅうやってますね。困るね（笑）。

——そこはパパのほうが断然強いから大丈夫でしょう。

曙　でも一番困ってるのが、パパよりレイ・ミステリオのほうが好きだって言うことですよ。『ハッスル』の中でも一番好きなのはＴＡＪＩＲＩだって言うしね。

——そうなんですか（笑）。

曙　ＴＡＪＩＲＩさんはＷＷＥのゲームとかにも出てくるから。でも、ハッキリ言って『ハッスル』はもうＷＷＥを超えてると思うんだけどな（キッパリ）。

——おおっ！　ズバリ言いきりましたね。

曙　インリン様とグレート・ムタとボノちゃんでＷＷＥで勝負したいもん。そしたら絶対に凄いことになるよ。あと、最近ボクが勝手に考えてるのは、ボノちゃんがパパを探す旅に出るのもいいと思うんだよね。

——『昆虫物語・みなしごハッチ』の世界ですね。

曙　ボノちゃんが全日本の事務所に行ってムトさん（武藤敬司）に「おまえ、パパだろ！」って言ったり、それから神奈月さんに会いにいって「おまえはパパじゃない！」って言ったりね（笑）。

——それは、くだらない！

曙　フッフッフッフ。で、パパと会ったらこう言うんですよ。「養育費、払えよ」って。

——ワハハハハ！　夢も希望もないじゃないですか！

曙　（ボノちゃんモードになって）だってパパ払わないんだもん。結局、お年玉だってもらってないからね。

——そうですか（笑）。

曙　まあ、それは冗談だけど、やっぱり『ハッスル』ではおもしろいことをしていきたいと思うね。なんでもできる舞台だから。

——わかりました。では、これからもボノちゃんの成長過程を見守らせていただきます！

曙　フッフッフッフ。期待してよ！

【08年1月11日／都内・某ホテルにて収録】

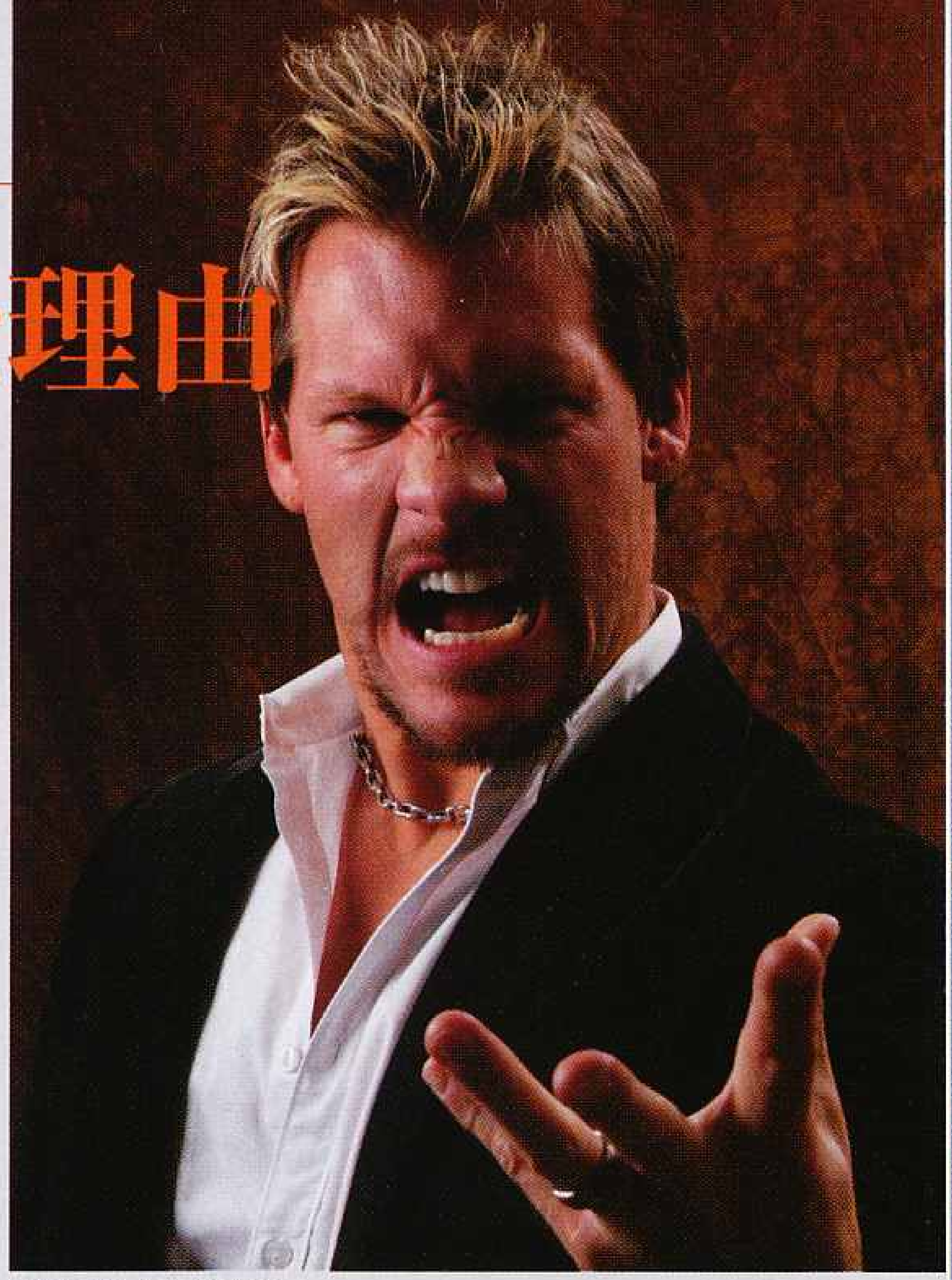


日本のプロレス界の黄金期を知る男　クリス・ジェリコが語る

日本のプロレスが衰退した理由

かつてはフジテレビの地上波放送もあって華々しく日本侵略を進めていたWWEが、07年は一度も日本大会を開催しなかった。もはや日本のマーケットを放棄したのかと思われたが、08年は再び日本再上陸作戦を仕掛けることになりそうだ。なんと日本オフィス開設、以前は不可能だと言われていた05年の日本大会のDVD化など、新しい戦略を打ち出しているのだ。そんな中、1月10日に行なわれた大会プロモーション記者会見で来日したWWEスーパースター、クリス・ジェリコは、かつてFMWやWARで活躍した経歴を持つ、日米のプロレス界を熟知した男である。世界最大のプロレス団体であるWWEの一員という立場から見た日本のプロレス界、さらには世界的にMMAが台頭する時代の中で、大きな過渡期を迎えつつあるプロレスというジャンルについて話を聞いてみた。

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄



CHRIS JERICHO
1970年11月9日、米国・ニューヨーク州出身。通称Y2J。カナダで育ち、名門ハート一家の地下道場「ダンジョン」でトレーニングを積む。世界各国で闘い、ECW、WCWを経てWWEへ。05年～07年は活動を休止して「FOZZY」という自身のバンドで世界ツアーを敢行した。178cm、102kg。

——本誌は総合格闘技とプロレスを両方扱ってるんですけど、日本の市場ではMMAの需要がどんどん大きくなってきて、逆にプロレスは元気がないという状況なんですが。

ジェリコ　一番の間違いは、プロレスとMMAを混同したことだろうね。たとえばナガタ（永田裕志）とかアケボノとかヤスダ（安田忠夫）がMMAの試合に出て負けたことだ。レスラーが勝ったら総合格闘技の中でレスラーが一番強いという印象を与えられるけど、負けたら観客がみんな勘違いをしてしまう。

——以前はプロレスは強さの象徴でしたけど、プロレスはこれからの時代の中で、何を表現していけばいいと思いますか？

ジェリコ　プロレスはエンターテインメント性を含んだファイトなんだよ。その上に日本独特のストロングスタイルをキープしてやり続けるのが一番大事なんじゃないかな。その中でキャラクターやカリスマ性をお客さんに見せるのがとても大事で、たとえばコバシ（小橋建太）vsミサワ（三沢光晴）の試合は、とてもタフで、芸術性もあって、そのストーリーラインを楽しめるだろ？

——WWEはストーリーの部分が凄くしっかりしていますよね。

ジェリコ　ストーリーラインがあるという意味では、プロレスラーは俳優を兼ねている。自分の人生をすべて捧げ、かつキャラクターになりきり、それを信じさせる力を持つというのがレスラーの責任なんだ。ストーリーによっては自分らしく振る舞えるときもあるけど、「ちょっと違うなぁ」と思ってもそれになりきることに徹するんだ。そのストーリーが終われば次のストーリーになるわけだし。楽しんでやることが大事なんだよ。

——昨年11月に2年間の休養から復帰したジェリコさんから見て、以前のWWEと変わったなと感じる点はありますか？

ジェリコ　アメリカンスタイルしか習ったことがない若い選手ばかりだね。自分は日本やメキシコやカルガリーなど、いろいろやってきた。いまはそのギャップを感じてるよ。

——クリス・ベノワさんやエディ・ゲレロさんが亡くなった影響は大きいと思いますけど、いろんなスタイルができる選手がどんどん減ってますよね。ジェリコさんが最後の世代じゃないですか。

ジェリコ　確かに。俺より若い世代だとレイ・ミステリオぐらいだろう。俺はいろんなスタイルができるっていうことを若手に見せたいと思ってる。

——日本のファンの嗜好をわかってるから、いつも観客の反応はいいですよね。

ジェリコ　今回で38回目の来日なんだぜ。何をしたら日本のファンが喜んでくれるのかはよくわかってる。2月にランディ・オートンと闘って、日本のファンを喜ばせたいね。

——ちなみに日本で印象に残ったレスラーは？

ジェリコ　アサイ（浅井嘉浩）とは手が合ったし、フユキグン（冬木軍）にはヒールとはなんたるやっていうことを教えてもらった。あと、テンルー（天龍源一郎）は偉大なボスだよ。無理強いはされたことないけど、よく酒を飲んでバカなことをやったよ。いい思い出だね。

【08年1月11日／都内・某ホテルにて収録】

一番の間違いはプロレスとMMAを混同したことだろうね



05年に日本で開催された『RAW』『SMACKDOWN!』がDVD化! こちらを3名様にプレゼント!

フジテレビで放送されていたWWEの放送がなくなったのが05年3月、その1ヵ月前に行なわれた日本初の『RAW』『SMACKDOWN!』。会場には大勢の観客が集まり、熱気に包まれて大きな盛り上がりとなった。2年の歳月を経て、この大会の模様がDVD化されることになった。2枚組DVD『ライブ・イン・ジャパン2005』（¥5,800・税込　発売元／ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング　販売元／東宝）は2月8日（金）発売！　応募方法は158ページを参照。

WWEの熱烈なファン"HBK"草野仁が登場 "ネイチャーボーイ"リック・フレアーと共演!!

1月10日、都内で行なわれたWWE来日会見では司会者に"HBK（ヒトシ・ボッシュート・クサノ）"こと草野仁さんが登場。なんとリック・フレアーにチョップを見舞う一幕も。今回のプロモーションの力の入れ具合が伝わってくる場面であった。



『WWE RAW ROYAL RUMBLE TOUR』

2.11（月・祝）東京・有明コロシアム（開場16:00／開演17:00）
［DAY1］
【WWE王座タイトルマッチ】ランディ・オートン vs クリス・ジェリコ
DX（トリプルH&ショーン・マイケルズ）vs ウマガ&Mr.ケネディ

2.12（火）東京・日本武道館（開場17:30／開演18:30）
［DAY2］
15人バトルロイヤル
【ラストマンスタンディングマッチ】トリプルH vs ウマガ／リック・フレアー vs スニツキー
【WWE女子王座タイトルマッチ】キャンディス vs ベス・フェニックス

【入場料金】※消費税込み　SS ¥20,000／S ¥15,000／A ¥10,000／B ¥5,000／C ¥3,000
【お問い合わせ】キョードー東京　TEL.03-3498-9999



07年を席巻した"越中ブーム"はもう終わってしまったのか?

「まだ始まってもいないって!」

～サムライ・リターンズ～

越中詩郎

空前の"越中ブーム"に乗って、07年に風を吹かせまくった越中詩郎。上半期の大車輪ぶりには目を見張るものがあったものの、メキシコ遠征のアクシデントで頭部を強打、長期欠場へ……。あの"越中ブーム"は終わってしまったのか? 不屈のサムライが07年を振り返りつつ、08年の展望をいまこそ語りまくるって!

聞き手／真下義之　撮影／丸山剛史　写真協力／Office K2

『東京スポ プロレス大賞』にノミネートがないって？ あっ、そう……そりゃあ、残念だったねぇ

――越中さん、どうもおひさしぶりです！

越中　おう、ひさしぶりじゃない？　一時期は『kamipro』に毎月、出てたのにさぁ（笑）。

――ええ。5ヵ月連続で登場していただいてましたから（笑）。ところで、さっそくですが越中さん。今日は納得がいかないことがあるんですよ！

越中　ん？　それはおだやかじゃないねぇ。

――（新聞を取り出して）越中さん、昨日発表された『東京スポーツ』紙の『プロレス大賞』の結果はご覧になりました？（このインタビューは07年12月に収録）。

越中　（新聞を受け取り）いや、読んでないねぇ。

――なんと！　07年にあれほど活躍された越中さんが『プロレス大賞』のどこにもノミネートされてない。それどころか全部門に一票たりとも入っていないんですよぉ！

越中　（一瞬、絶句して）あっ……そう。そりゃあ、残念だったねぇ（とおだやかに）。

――いやいや、そんな反応でいいんですか？　厳重抗議したっておかしくないですよ！

越中　ハハハハ！　だいたい俺は『プロレス大賞』には出席したこともあまりないんだよ。賞をもらったときは出てるけどさ。

――でも、これだけ07年のプロレス界を盛り上げた功労者をピックアップしないなんて絶対におかしいと思うけどなぁ……（とブツブツ言いながら）。

越中　ま、こっちが四の五の言っても仕方ないじゃない（笑）。

越中詩郎 Shiro Koshinaka



どういうことなんだって！ 07年度の『東スポ認定プロレス大賞』へのノーエントリー状態にはサムライもかなりご立腹！ ……と思いきや、じつはまったくノー問題の模様。それよりも胸に去来するのは来期の阪神の行方か？

――『kamipro』では上半期MVPなのになぁ……。ところで10月にメキシコでケガして痛めたお身体の調子はいかがですか？

越中　それがさ、今日身内から電話がかかってきたんだよ。「ケガしたんだって？」って。こっちは治りかけなのに「いまさら、何言ってんだ！」って頭にきたよ（笑）。

――ただ、今回のケガの状態は、あまり知れ渡ってないですし、ネットの一部では〝重病説〟が流れていたくらいなんで、ファンも心配してると思いますよ。

越中　じつはメヒコでケガしたあと、日本でやった復帰戦で記憶が飛んじゃったの。それで「ちょっと頭の状態がおかしいな」ってことで、念のために大事をとったっていうかね。

――そのメヒコ遠征やケガの話についてはのちほどうかがうとして、今日はまず07年を席巻した越中ブームを振り返ってみたいんですが、ブームの渦中にいた越中さんはこの動きはどう見てました？

越中　う～ん。ま、不思議だったねぇ。だってケンコバ（ケンドーコバヤシ）くんが『アメトーーク！』（テレビ朝日系）でモノマネした翌日から、会場でもファンの反応がまったく違うんだから。その頃、俺はフリーランスとしてテーマを見失なっていた時期だったからさ、「一晩でこんなになっちゃうの？」って驚きがあったよね。

――ええ。越中さんのサイトのサーバもダウンする騒ぎになりましたから。でも、いまだから言える本音で「茶化しやがって！」とか気分が悪かったりしたことはなかったですか？

越中　いや～、それはまったくない！（キッパリ）。最初は「そんなに似てるかな？」とは思ったけどさ（笑）。それに茶化されただけだったら、あそこまでお客さんだって反応しないですよ。ホントに彼は俺のことが好きだったみたいだもんね。

――ええ。全日本プロレスのルー・テーズ杯に出ていた頃からチェックしてた筋金入りの〝越中LOVE〟な方ですから（笑）。そのケンコバさんとの初遭遇も本誌で実現したわけですけど、お会いしたご印象は？

越中　やっぱり最初に感じたのは、芸人さんとしても「コイツ、頭の回転いいなぁ」って。「コイツは食っていけるだろうな」って瞬間的に思ったよね（笑）。

――食っていけるどころか、いまや〝越中詩郎芸人〟の相乗効果もあって、芸能界でも屈指の超多忙な人になっちゃいましたね。

越中　そうそう。何回目かに会ったとき「もう、半年から一年先までスケジュールがいっぱいです」なんて言うからビックリしたよ。「ずいぶん凄くなっちゃったねぇ」って冷やかしたけど（笑）。

――越中さんも〝越中芸人〟効果でひっぱりダコになったと思いますけど、この越中ブームで一番印象に残ったことは？

越中　う～ん。やっぱり驚いたのはあれかなぁ……ゲーム。

――あ、越中さんは携帯ゲーム（オリジナル携帯FLASHゲーム『越中詩郎の完全無ケツだって！』三文堂）にもなりましたね。

越中　そう。俺がキャラっていうことは「やっぱりプロレスゲームかな？」と思ったら、なぜか延々と俺が走ってるゲームでさ（笑）。

――ヒップアタックで障害をクリアしたり、敵を倒したりするゲームですね。DSのパズルゲーム（『ハメコミ　LUCKY PUZZLE DS』ユークス）の宣伝もやられてますが、そのほかにCMの話は来なかったですか？

越中　いやいや、いっぱいありましたよ！　CMもあったし、講演会の話や、イベン

トへの出演依頼とか、なんとかって雑誌の表紙の話とか。

――おお、凄いじゃないですか！

越中　そう、凄いんだよ（ニヤリと笑って）。でも必ず最初にギャラとスケジュールを連絡してきて、「スケジュールは空いてますか？」って話から始まるの。そこから「ほかに候補がいますので、プレゼンにかけて最終選考に残ったら連絡します」って言ったきり連絡がない、ってのが多かったなぁ。

――なかなか実現までこぎつけるのは大変というか。

越中　うん。最後まで行くのは大変らしくてさ。選ばれたときに備えて、スケジュールとギャラの確認をとりにくるわけ。こっちが「おっ！　いい話じゃない？」って喜んでもヌカ喜びで終わったりさ。でも、ウチのカミさんがそういうことには詳しいから「たぶん、難しいと思う」「プロレスラーはこういうプレゼンは通らない」とか先に言ってくれてたから助かったよ。

――あ、奥様は新日本プロレスの元広報さんですから、そういう件に関しては、とくにお詳しいでしょうね。

越中　だから名前は言えないけど、かな～り大きな仕事の話もけっこうありましたよ。でも結局はほとんどが実現しなかったねぇ……（と残念そうに）。

――でも越中さんの講演会は聞きたかったですよ！

越中　その可能性はあったんだけど、メヒコ遠征の時期と完全にカブってたから、丁重にお断りしたんだよ。自分の出身の（東京都）狛江市の学校の何十周年記念式典かなんかでさ。最初は「50分やってくれ」って話だったから、「そんなに話せねぇよ！」ってボヤいたりさ（笑）。

――その学校には引き続き、検討してほしいですねぇ。そしてプロレスラーとしての大きなトピックとしては、5月2日の後楽園ホールのＩＷＧＰ挑戦（vs永田裕志戦）が大きかったと思います。会場の熱気も最近の新日本プロレスではないほどの異様な雰囲気があったし。

越中　あの日はホントに自分の力以上のものをファンの人だったり、周囲から与えられたよね。

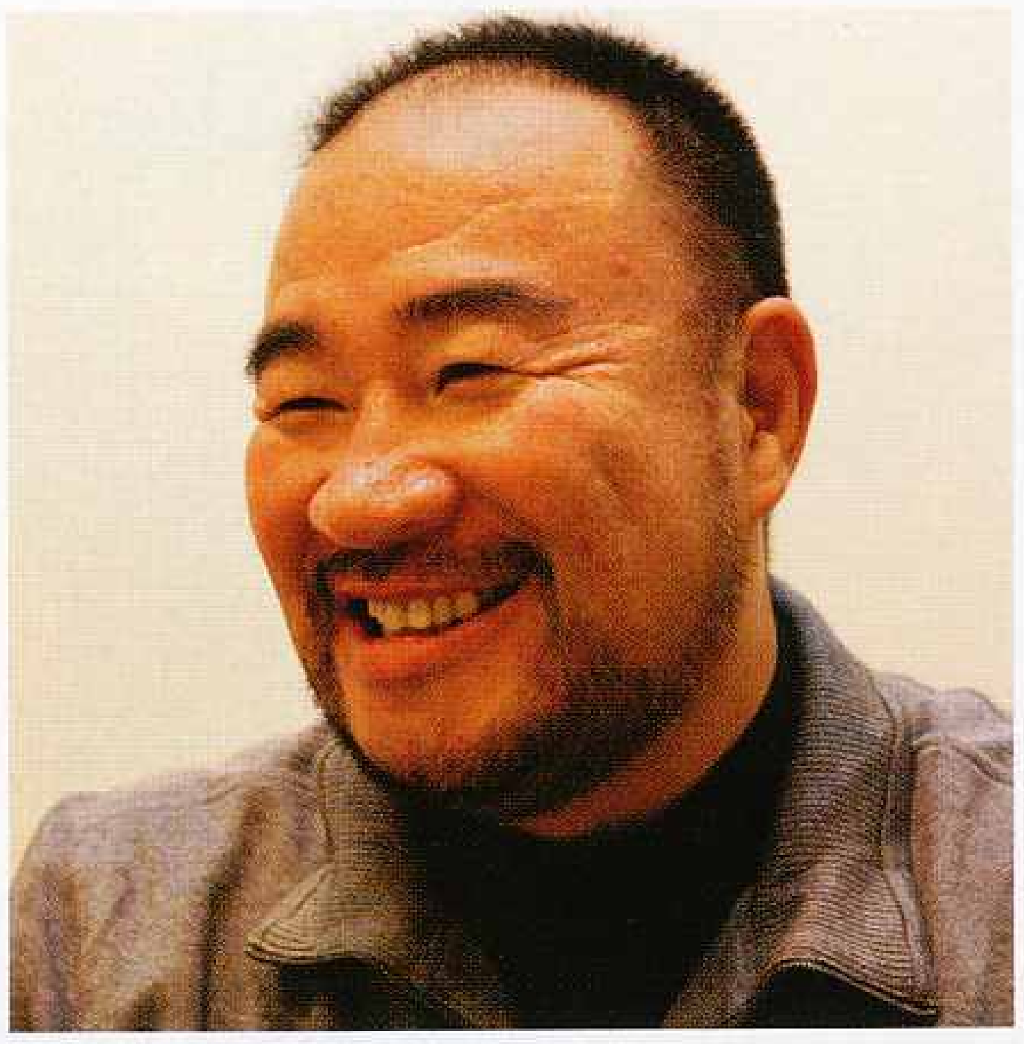
――ファンも関係者も完全にバックアップしてましたし、ケンコバさんがナレーターを務めた煽りVから盛り上がって、入場時の越中さんの目に光るものもあって。

越中　まぁ、あの日だけはそういうファンの気持ちをイヤっていうほどわかったし。ホントにありがたいなって……（と遠い目でしみじみと）。

――それが最後の控室前での「サンキュー、サンキューな」という名言につながった。

越中　うん。あれが正直な気持ちだよね。

――そして、このＩＷＧＰが奪取できなかったときに我々は、「まだＧ1がある！」と盛り上がって、本誌Ｎｏ．113ではケンコバさん、ライターのせきしろさんと『越中詩郎をＧ1クライマックスで優勝させる会』を結成、一大キャンペーンを張らせてもらったんですけども。



じつは、かな～り大きな仕事の話も来たんですよ。でも……

越中　フフフ。やってたねぇ。その話を聞いて、ケンコバくんには「そんなことやってるヒマがあったら、もっと会場に来いよ」と言ったんだけどさ（笑）。

――越中フリークのお二人をお呼びして「初日にメチャクチャ強い」とか「初出場の人に弱い」とか、越中さんの〝Ｇ1の法則〟を徹底検証したんですけど、それがあまりにもズバズバと的中しちゃって……。

越中　（さえぎって）ただね、Ｇ1って毎年、「もの凄くシンドい」ってイメージがあるんですよ！

――ええ。真夏にトップクラス同士のシングルのリーグ戦を、しかも転戦しながらやるわけですもんね。

越中　だから今回も「どんなにシンドくなっちゃうんだろう」って覚悟してたんだけど……結果的にたいしてシンドくなかったね（ニヤリと笑って）。

――あ、今年はシンドくなかった！

越中　そう。そこは内容が問題なかったのか、日程が問題なかったのか、相手が問題なかったのか……。手応えがあったのは中西（学）くらいだし。これは負け惜しみじゃないけどさ、「オイ、こんなもんか？」って感覚もあったもんね（と自信満々の表情で）。

――世代的に若い選手が多いから、余裕を持って闘えたのかもしれない。そして公式戦最終戦では棚橋（弘至）に「勝てば、決勝トーナメントに残れる！」というビッグチャンスでしたけど。

越中　あのさぁ……。俺は、いままで、そういうところで一度も勝ったことないんだよ！（ひときわ大きな声で）。

――ダハハハ！　編集部でも「今年こそ決勝に行くだろう！」「行かせなくてどうする！」と必死で応援してたんですけどもねぇ。

越中　ま、そこも含めて確かに残念な結果は多かったけどさ、俺にとっちゃあ、プロレスでもほかの仕事でもホント～に濃厚な一年だったよね。

――話題がまったく途切れなかったですもんね。そのＧ1の前には、ケンコバさんとの共著で『やってやるって!!』（扶桑社）も出ましたし。

越中　じつはあの本もハラハラドキドキものだったんだよ！　最初に「こういう企画書を書きました」と話をもらって、「これを版元（扶桑社）さんで出すように会議に提出します」って話だったの。それでその途中経過の報告を逐一もらってたんだよ。「今週、最終審査です」みたいな感じでさ。だから、ホントに実現したときはビックリしたねぇ。

――しかもタイミングとしては越中ブームの頂点というより、ちょっと早いくらいの時期の〝英断〟でしたからね。でもケンコバさんをご自宅に招いたり、自分で文章も書いたりとこの本にも全力投球でした。

越中　「内容はすべておまかせしないといけないな！」と思ったんですよ。作り手はプロフェッショナルだと思ってたから、編集スタッフを全面的に信用して、最初の会議の席で俺は「言われたことは全部やるから！」って言いきったの。

――さすがサムライ！　オール・オッケー状態だった、と。

越中　ただし！　本を作るにあたって、

越中詩郎
Shiro Koshinaka



そのとき風は吹いたのか?

07年脅異の“越中現象”をプレイバック!



(写真上)桜の花咲く多摩川土手で敢行された本誌No.109の『3年G組金沢先生』時の一枚。当初はコスチューム撮影も予定されたが、花粉症がヒドかった越中はキッパリ拒否!(写真左)さらに本誌No.110で、ついにブームの“震源地”ケンコバと“初対ケツ”! この運命のご対面は『アメトーーク!』内でも放送、またまた嵐を巻き起こした。





(写真上)すべてはここから始まったって! もはや“伝説”の『アメトーーク!』(テレビ朝日系)の“越中詩郎芸人”。ケンコバ以外のメンツはバッファロー吾郎&博多大吉。(写真左)本誌No.109でもいち早く大特集! 越中本人も登場し、ブームの“原点”せき詩郎のコラム傑作選を再録、“名作”越中語録カルタが衝撃を呼んだ。



見てみぃ、このケツ! IWGP王者・永田さんに挑んだ最強の“48歳”越中は、序盤からヒップアタックの狂い咲きさせる絶好調ぶり。だが、永田さん必殺のバックドロップホールドの前に無念の撃沈。



これが最初のクライマックスだって! 後楽園ホールを埋めつくした超満員の越中フリークが場内を揺るがす「越中」コールを大合唱! これにはサムライ男泣きも「汗が目に入っただけだって!」。



いったいどこまで続くんだって! 空前の越中景気を追い風に、本誌No.111では“盟友”小林邦昭&ザ・グレート・カブキと維震軍復活座談会を決行! 収録はカブキの店『串焼きとちゃんこ かぶき』に集結!



サムライ無念!『優勝させる会』の後押しにも関わらず、「初出場に弱い」「5日目に弱い」という“越中の法則”が次々的中! 両国での棚橋戦にも敗れ、2勝3敗で越中の夏は終わったんだって。









エー、オラ! 新軍団結成だって! G1公式リーグ戦最終日に蝶野、長州、ライガー、マシンらの“レジェンド”にやや唐突に加入した越中だが、“維震の魂百まで”。サムライは走り続けるって!



(写真上)『kamipro』も負けらんないって! 本誌No.112では当時、在籍したGBHの一員として『プロレス探検隊』に参戦。「ぶっ潰すって!」とばかりに小松隊員を血祭りに。(写真左)本誌No.113では、悲願の“48歳の初優勝”に向け、ケンコバ&せき詩郎の越中フリークが『G1クライマックスで優勝させる会』結成! 優勝への傾向と対策を徹底分析。

越中旋風は出版界にも波及だって! ケンコバとの共著『やってやるって!!』(扶桑社)は自宅訪問にロング対談、あの髙田延彦まで登場するいたせりつくせりぶり!

俺のほうから二つだけ出したリクエストがあった。

――リクエストは二つ！

越中　そう。一つは「髙田（延彦）と会わせてほしい」ということ、もう一つは「平成維震軍を全員揃えてほしい」っていうことね。

――髙田さんの登場に、維震軍メンバーを全員！　どっちも高いハードルですねぇ。そういえば、本誌No．111では小林邦昭さんとザ・グレート・カブキさんと〝維震軍復活座談会〟も実現しました。

越中　やったねぇ～。ただ、その座談会のときも思ったんだけど、やっぱり維震軍は数人だけだとどうも寂しくなっちゃうんですよ。全員揃って維震軍だからさ。だから「維新軍の企画を出すんなら、全員集めてほしい！」とキッパリ言ったんだよね。でも維震軍に関しては「スケジュールとギャラの関係で全員集めるのは難しい！」とキッパリと言われましたけど（笑）。

――そしてもう一方の〝永遠のライバル〟髙田さんと再会した感想はいかがですか？　ひさびさに「エッチューさん」と呼ばれた感想は（笑）。

越中　ハハハハ！　あのときも言ってたねぇ。彼とはホントに接点がなくて20年以上会ってなかったんだけどさ、俺が思ってたとおりの髙田のまんまだったね。でも彼にはやっぱり不思議なオーラがあるよ。いろんな選手と接する機会があるけど、ああいうオーラがあるヤツはちょっといない。

――ある意味、別格だと。

越中　うん。俺の本のために「よくぞ出てきてくれたなぁ」って。もう髙田への感謝しかないし、スタッフにリクエストを出したときは髙田も維震軍も「両方とも無理かな」と思ってたから、喜びもひとしおだったねぇ。

――そういう意味で、今回のブームは越中さんが好きな人がよってたかって盛り上げた感じはありましたね。越中さんが積み上げていたものが届いてたということなんでしょうけど。

越中　そうだねぇ。でも俺もこの業界で30年やってるわけだからさ。プロレスに入門したときの感じって凄く鮮明で、ついこのあいだのような気がして仕方がないんだよ……（と遠い目で）。

――そして、下半期にはかつての天敵だった蝶野（正洋）さんや長州（力）さんが組んだ〝レジェンド〟に加入しました。

越中　そうね。長州さんや蝶野と組むことになってさ。あいつらは俺の存在を消すような〝毒〟や〝アク〟を放ってくるから。こっちはこっちで「彼らに対抗しよう」という意味で、勢いをつけるためにもメヒコ遠征を志願したんですよ。



あまりにも波瀾万丈だった今回のメヒコ遠征、アレナ・コリセオでのスナップ。隣の人物は、越中が20年前にメヒコのEMLLに遠征したときに「一番お世話になった」という〝恩人〟のペオノノさん。現在はウルティモ・ドラゴンの会社のスタッフとのこと。

意識のない状態でムーンサルトが顔面直撃！ 意識が戻ったら、唇が3枚になってたって！

――レジェンド内でも負けらんないって！と。その待望のメヒコ遠征が10年ぶりに実現するわけですが、ここでまさかのアクシデントに遭われてしまった。

越中　いや～、メヒコは10年前とは全然違ってたね。初めて行った国みたいだったし、知ってる選手もほとんどいないし。

――でもメヒコ遠征時のサムライ・シローを知ってるファンから声をかけられたりとかは？

越中　そりゃ、ありましたよ。とくにアレナ・メヒコとか、コリセオは20年前の遠征で一番試合をやった会場だしね。ただ、コリセオは日本大使館から「行ってはいけない！」と言われちゃって。

――ホームタウンに帰ったら〝危険地区〟に指定されていた（笑）。

越中　今回は地元のレスラーとかレフェリーでいかにもお金もってなさそうな人でさえ、「強盗に遭った」とか「地下鉄でギャラを奪われた」とかそんな話ばっかりなんだもん！

――そりゃビビってたじろぎますね（笑）。

越中　それに試合もより過激になっているというか。俺もメヒコのスタイルを思い出せなくて完璧に忘れちゃってたしさ。でもメヒコの客のテンションはメチャクチャ高いよ！

――越中さんとはフィットしそうですね。ちなみに週に何試合やってたんですか？

越中　週に3～4試合かな？　ブッキングしてくれたウルティモ（・ドラゴン）が気を使ってくれて、「地方の試合はやめましょう」とシティだけの試合にしてくれたから、楽させてもらったよ。

――そこはVIP待遇でしたか。ケガをしなければ、もっと長くいる予定だったんですか？

越中　最初から3週間の予定だったんだけど。その真ん中でケガしちゃって……あとは安静にしてたの。

――そのケガは試合中に顔面にムーンサルトが当たったと聞いてます。

越中　あの試合の日、俺の控室は一階だったんだけど、対戦相手もパートナーもなぜかみ～んな二階にいたんだよ。それに控室では彼らも素顔だし、全員マスクマンだったから。誰と組んで、誰と闘うのかまったくわからない。それを照合するのに時間がかかっちゃってねぇ……（と困った顔で）。

――〝リアル・神経衰弱〟みたいな感じで（笑）。

越中　かなり不安な状態で試合に出ていったんだよ。その日は3本勝負で1本目は勝利して2本目に入ったとき、ボディスラムをやられて、視界が見えなくなって記憶が途切れちゃった。

――ボディスラムで意識がふっ飛んだ。

越中　そのあと意識のない状態で相手のムーンサルトが顔面にモロに入っちゃった。それで意識が回復したら、俺の唇が3枚になってたの！

――唇が3枚に!?

越中　もう内臓が出たみたいに血だらけで、唇が魚をおろしたみたいに3枚にめ

日本の復帰戦で、また意識が飛んじゃってさ、気がついたら控室で〝おいなりさん〟食ってた

くれ上がってたらしい（笑）。でも俺はタンカで運ばれるときに「試合をやる！」と立ち上がったみたいなんだよ。

――うわっ、危ないですねぇ。

越中　なだめて控室に連れてってたら、イスに座って何回も「試合はどうだった？」と聞いたらしい。でもそこの意識は一切なくて、医者に唇を縫合された痛みでようやく意識が戻ったの。

――ただ唇はすっかり元どおりですね。

越中　でも縫われた糸もブッとくてさ、日本の医者が「こんな糸、見たことない！」って。タコ糸みたいな糸なんだから（笑）。

――ダハハハ！　さすがメヒコ。

越中　それで次の日、病院へ行ったら今度はCTスキャンもないんだもん。正面からレントゲンを撮ったけど、「こんなの意味ないだろ！」って（笑）。でも脳を打ったときは24時間から74時間は安静にしなくちゃいけない。吐き気はなかったけど、頭痛がヒドかったから一週間は安静にしてたの。

――メヒコで一週間も安静状態でしたか。

越中　それで帰って日本の病院でCTを撮ってもらったら、頭痛は続いていたんだけど。内出血も異常もなかったんだよ。それで一週間は安静にして、二週間目にシリーズが始まるから、そこまで休んでいればよかったんだけど、一週間経ったら練習を始めちゃったんですよ。受け身の練習をガンガンやっちゃって（笑）。

――そこで張りきってしまった、と。

越中　あれが悪かったねぇ。それとビックリしたのは20年以上通っている美容院に行ったら、「越中さん！　頭のかたちがへんですよ！」って言われたこと。

――それは怖いなぁ。

越中　そう言われると自分でもわかるんですよ。「な～んとなく頭が腫れてるなぁ」って自覚症状があってさ。

――そんな状態で試合に出てしまった。

越中　それで開幕戦で相手にヒジをコツン！　と当てられたら……。また記憶が飛んじゃった。で、意識が戻ったら、なぜか控室でおいなりさんを食ってんの！

――気づいたら、おいなりさんを！

越中　試合が終わって、おいなりさんなんか食わないよ（笑）。長州さんも「おまえ、試合中へんな行動をしてたぞ」って言うし。心配になって病院に行ったら、CTでは問題はないんだけど、「とにかく頭を揺すらないように！」って。だから具体的な診断書は何もないんだけどさ。

――いまは頭痛はないですか？

越中　ほとんどないね。でも身内も「もうヤメろ、ってことだよ」なんて言うし。カミさんも「引き際のいいタイミングなんじゃないの」なんて言うからさ。逆に「コノヤロ～！」って血が昇っちゃって。

――かえって炎上してしまった、と（笑）。

越中　てめぇが動けなくなったときはいさぎよく辞めてやるよって。俺は反射神経が鈍ったり、動けなくなったらとっとと辞めますよ。でも身体だってピンピンしてるし、明日からだって箱根でガンガン走ってやろうと思ってるのに、冗談じゃないって！（と興奮して）。

――ダハハハ！　ただ上半期の怒濤の勢いに比べて、下半期はメヒコ遠征と欠場してしまったことで露出が少なくなった。口の悪いファンからは「越中ブームは終わった」なんて声もありますけども。

越中　ブームとかじゃなくてさ、俺はやるべきことをやるだけだし。「もう一度、自分を痛めつけて頑張って頑張って、次の試合に備えたい」ってことだけですよ。それに、俺はG1でやられたぶんも取り返すつもりだし、永田戦の借りだって取り返すつもりだし……。っていうか、メヒコだって俺はもう一回行くつもりだから！（キッパリ）。

――さんざんな目に遭ったメヒコにもリベンジしますか！

越中　ああ。俺はもうホントにアッタマに来てるんだよ！

――「メヒコぶっ潰すって！」と（笑）。まだまだ越中ブームは終わらせないって意気込みですね。

越中　ああ、まだ始まってもいないって！（トーンを落として）でもさぁ……じつは、休んでいいこともあったんですよ。ずっとヒザが悪くてスクワットができなかったの。正面で曲げることもできなくて、角度をつけながら騙しながらやってたの。でも今回、休んだおかげで……すっかりヒザが曲がるようになりました（笑）。

――いつの間にかヒザが完治しましたか。

越中　「あ、こういうこともあるんだ」って。不思議な気持ちだったねぇ。サポーターや治療なんかしてなくても、休んだだけで回復ってあるんだなあって。もう、それがムチャクチャ嬉しくてさぁ！（と満面の笑顔で）。

――じゃあ08年のサムライにも期待してよさそうですね。

越中　そうねぇ。ただ、困ったことに調子に乗って夢中でスクワットやりすぎてさ、今日は筋肉痛で曲げられないんだけどさ（笑）。

――ほどほどにしてください（笑）。本日もどうもありがとうございました！

【07年12月13日／都内・目黒のカフェにて収録】

侍 越中詩郎
Shiro Koshinaka



こしなか・しろう■1958年9月4日生まれ。東京都江東区出身。78年に全日本プロレス入門。85年に新日本プロレス移籍。92年に反選手会同盟（平成維震軍）を結成。07年にケンドーコバヤシの"越中詩郎芸人"で大ブレイク！　ケガで欠場中だったが今年1月13日に『LOCK UP』で復活。185cm、105kg。



暴れ太鼓をやれんのか？！

髙田延彦統括本部長の師匠に太鼓を直接習ってみよう！



構成／坂井ノブ
インタビュー本文構成／小松伸太郎
撮影／山口比佐夫



小松隊員

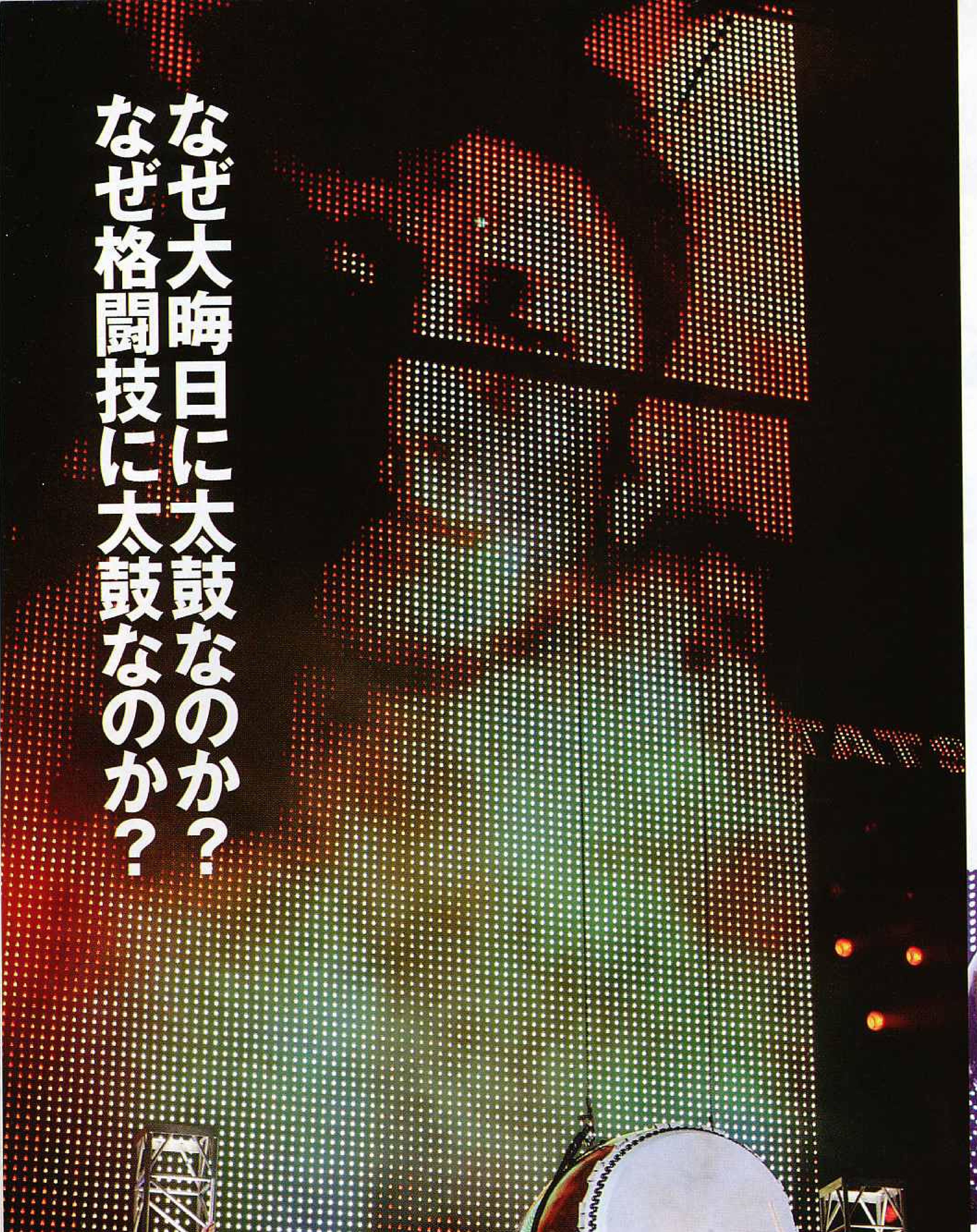
こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。以前からGKと親交があり、『週刊ゴング』で座談会も担当していた。元相撲部でもあり非常にグッドルッキンなボディを持つ。"受け"の美学は今回も全開だ!! 通称「モグラ」。

GK隊長

かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。現『Gリング』統括プロデューサー。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なう一方、探検隊を結成し体当たりで取材に挑んでいる。

GKスペシャル プロレス探検隊

なぜ大晦日に太鼓なのか？ なぜ格闘技に太鼓なのか？



「大晦日といえば？」「高田延彦統括本部長の暴れ太鼓！」というぐらい、格闘技界に定着した感のあるフンドシ暴れ太鼓。これがなければ年を越せない、という人もいるほどの風物詩となっている。07年はフンドシこそなかったものの、高田本部長が暴れ太鼓を披露して会場の喝采を浴びた。だが、ふと冷静になって考えてみると、ほんの少しだけ疑問は残る。なぜ大晦日に太鼓なのか？　なぜ格闘技に太鼓なのか？

そもそも、太鼓とは木で組み合わせた筒に動物の皮を張って音を出すというおそろしく原始的な楽器である。古くは縄文時代から神事、祭り、呪術、戦争などで使用されてきたという歴史がある。太鼓の音を聴いた者は、精神を鼓舞されて高揚する。やがて集団でトランス状態へと突入していくのだ。

男と男が己の身体のみで闘って決着をつける、というきわめてシンプルな競技である総合格闘技と太鼓とは、じつはかなり相性がいいのではないか？



昨年の大晦日、かねてから予告していたように高田本部長は暴れ太鼓を披露！フンドシではなくさらしを巻いての登場となった。

そんな疑問に答えを出すべく、プロレス界のみならず最近は格闘技界の謎まで解明してしまう凄腕のプロレス記者二名が立ち上がった。ご存知、金沢“GK”克彦隊長と小松隊員のプロレス探険隊である。今回、二人が探検したのは高田延彦統括本部長の師匠にあたる茂戸藤浩司先生だ。

高田本部長と茂戸藤先生のタッグ結成は04年にまでさかのぼる。高田本部長が最初に暴れ太鼓を披露したときのことだ。そこから公私にわたってお付き合いが始まり、高田道場主催の『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』で太鼓のワークショップを行なっているほどである。まるでロックのドラムセットのように配置した太鼓を凄まじいテンションで叩きまくる演奏は“超絶”と言っていいだろう。

先の大晦日では、まずオープニングに高田本部長と茂戸藤先生と茂戸藤先生の出身チームである大江戸助六太鼓が暴れ太鼓を披露。そのまま続けてレイジ・アゲインスト・ザ・マシーンの『ゲリラ・レディオ』に乗せて太鼓の音を勇壮に響かせ、見事に『やれんのか！』を幸先よくスタートさせることに成功した。ちなみに、このときの高田本部長は非常に短い準備期間だったにもかかわらずノーミスだった。

そんな凄い先生に探検（というか弟子入り？）をしたのが昨年末。次のページからは、その模様をお伝えしよう。



ご覧のようにズラリと並べられた太鼓をドラムのように叩く茂戸藤先生。大晦日の『やれんのか！』でもこのセットで演奏した。



GK探検ファイル No.009

太鼓とプロレス似てんのか!

髙田延彦の太鼓の師匠 茂戸藤浩司先生に直接太鼓を習おう!

GK　さて、小松隊員よ。今回は『PRIDE男祭り』の名物だった、髙田延彦統括本部長の暴れ太鼓を探検する。つまり、「太鼓とはプロレスである!」がテーマだ!

小松　ラジャーです、隊長!（敬礼）。

GK　ということで、こちらが髙田本部長に指導をされた太鼓奏者の茂戸藤浩司先生である。（いつになく丁寧に）茂戸藤先生、今日はよろしくお願いします。

茂戸藤　いえ、こちらこそ!　僕もプロレスファンですからお会いできて光栄です（笑）。

GK　それは話が早い!　では、さっそくお聞きしますが太鼓とはなんですか?

小松　（小声で）た、隊長、それはあまりに漠然としたご質問では?

GK　黙るんだ、小松隊員!　先生、この男の言うことは気にせずに説明してください。

茂戸藤　では、ご説明しましょう!　まず、太鼓を叩くには、ほかのスポーツに負けないくらいのフィジカル的要素が必要となります。

小松　まずは体力!

茂戸藤　はい。そして、太鼓は打楽器ですから、奏でるという楽しみがあるんです。

GK　つまり、音楽である、と。

茂戸藤　そうですね。それから、パフォーマンス。たとえば、桴（ばち）の振り。打つためのフォームそのものが「型」としてパフォーマンス的な要素もあるんですよ。そこがほかの楽器と大きく違うところですね。つまり、スポーツ、音楽、パフォーマンスという3つの要素を持っている総合芸術、それが太鼓です!

GK　よ〜し、わかった!　太鼓はプロレスです（キッパリ）。

小松　た、隊長!　結論を出すのが早すぎるのでは?

GK　黙らんか!　太鼓が総合芸術なら、プロレスは格闘芸術。同じアートなんだよおぉぉ!

小松　（興奮しながら）た、確かにそうですね、隊長!

GK　（得意げに）フフフ、だろ?　それではもっと掘り下げるぞ。先生はなぜ、太鼓を始められたんですか?

茂戸藤　僕は東京の下町育ちなんです



太鼓とロックとプロレスの美しき融合！　プロレスファンでもある茂戸藤先生は
グレート・ムタのメイクでライブにも出演。グレート・ヒロシ、見参！

いきなり太鼓をやると楽譜が読めないので髙田本部長専用の譜面を用意したんです！

けど、お祭りとか盆踊りのときに、やぐらの上で凄く楽しそうに太鼓を叩いている兄ちゃんがいたんですよ。それに夢中になったのが始まりですね。

GK それがいつしかプロになってしまった、と。

茂戸藤 そうですね。一番のきっかけは、僕が憧れていた林英哲さんという人がいるんですけど、その人がロックバンドの中に入って、太鼓を叩いていたんですよ。それに衝撃を受けて、プロになることを決意したんです。子どもの頃からハードロックが大好きでしたからね。もちろん、最初は大江戸助六太鼓というところで修行をして、師範にまでなりました。その後、独立して、現在の道に足を踏み入れたわけです。

GK つまり、太鼓とロックの異種格闘技戦ですね？ 先生は、「踏み出せばその一足が道となる」を実践されているわけだ。

茂戸藤 おっしゃるとおり！ 猪木vsアリ戦をオンタイムで観ていた猪木信者の僕にとって、その言葉は座右の銘みたいなもんですよ（笑）。

小松 （小声で）隊長、やはり太鼓はプロレスと共通点がありますね。

GK そういうことだよ！ ところで、先生、髙田さんの稽古ぶりはいかがでした？

茂戸藤 非常に真面目でしたよ。普通の人だったら、最初は30分もやったら叩けなくなるんですけど、1～2時間はノンストップでやりましたから。やっぱりプロレスラーは凄いなと思いましたね。

小松 ちなみにどのようにご指導されたんですか？

茂戸藤 いきなり太鼓をやる人は楽譜が読めないんですよね。だから、髙田さん専用の譜面を用意しました。「ドンドンドン　ドドンコ　ドドン」っていうふうに、音をカタカナにしたんです。でも、それでもゴチャゴチャになっちゃって、覚えられないんですよね。



06年までは髙田本部長がフンドシ一丁で勇壮な暴れ太鼓を披露した。茂戸藤先生と髙田本部長のタッグで素晴らしいパフォーマンスを繰り広げてきた。

小松 混乱しそうですね。

茂戸藤 じゃあ、言葉を当て込んで、アクセントで教えたら覚えられるかなと思ったんですよ。たとえば、大太鼓の曲で、「ドドドドン、ドドドドン」という部分があるんですけど、これを「髙田さん、髙田さん」と当て込んだんです。

GK おお、覚えやすい！

茂戸藤 初心者には非常にリズムのとりづらい「ドン！　スットン！　ダダン！」ってのが出てきたんですね。これを「丼、うどん、そば」に置き換えたら、バッチリ覚えてくれましたね。

GK これはビビってたじろぐアイデアだ！ 先生も当日は一緒にやられたんですか？

茂戸藤 一年目は一緒にやりましたけど、あとはセコンドですね（笑）。

GK と、申しますと？

茂戸藤 太鼓の前に髙田さんはタップダンスやピアノをやったじゃないですか？ それが終わってから、舞台の下で、およそ30秒でフンドシに着替えるんですよ。

小松 さ、さ、30秒で！

茂戸藤 はい。タキシードからフンドシになって、さらに身体にオイルを塗るんです。汗が光るような演出として。で、ハチマキも巻いて、足の裏に滑り止めの松ヤニを塗る。それを僕一人でやっているんですよ。

GK （感心した顔つきで）はぁ～、大晦日に早着替えで苦労しているのは小林幸子だけじゃなかったわけだ。しかも、オイルを塗るなんて反則技まで使ってね（ニヤリ）。

小松 （小声で）た、隊長、この場合は良いのでは？

GK わかっておるわ！ グダグダ言ってないで、さっそく実践に移るぞ！

小松 ラ、ラジャーです！

【07年12月10日／東京・浅草「宮本スタジオ」にて収録】



もとふじ・ひろし■東京下町に生まれ育ち、10才より太鼓に出会い、「根津権現龍神太鼓保存会」に入門。15才のときに東京のプロ太鼓グループの草分け『大江戸助六太鼓』に入門。プロの太鼓奏者として活動。ロックバンドに参加して世界各国をツアーで回る。PRIDE武士道のテーマの和太鼓を担当、会場でも演奏。髙田延彦のほかにも市川海老蔵にも太鼓を指導。テレビアニメ『NARUTO』のテーマ曲でも和太鼓を披露している。また自身のウェブサイトを通じて指導、稽古、太鼓に関する質問などを随時募集している。初心者に太鼓を優しく指導してくれるぞ!!
http://sound.jp/hiroshi_web/





探検隊はやれんのか?

「太鼓はプロレスである」という定義を発見してしまった以上、生半可な体力と気持ちでは叩けない。太鼓の奥深さを知るには実践あるのみ！　というわけで、プロレス探険隊が意を決して太鼓の実演にチャレンジだ！　GK隊長も小松隊員も太鼓に触るのは初めてということで珍しく緊張の面持ちでレクチャーが始まった。姿勢、足の位置、桴（ばち）の振り方、叩き方に至るまで基本動作を徹底的に叩き込まれたのだった。茂戸藤先生の丁寧な教え方で、プロレス探険隊の秘められたポテンシャルが一気に開花!?



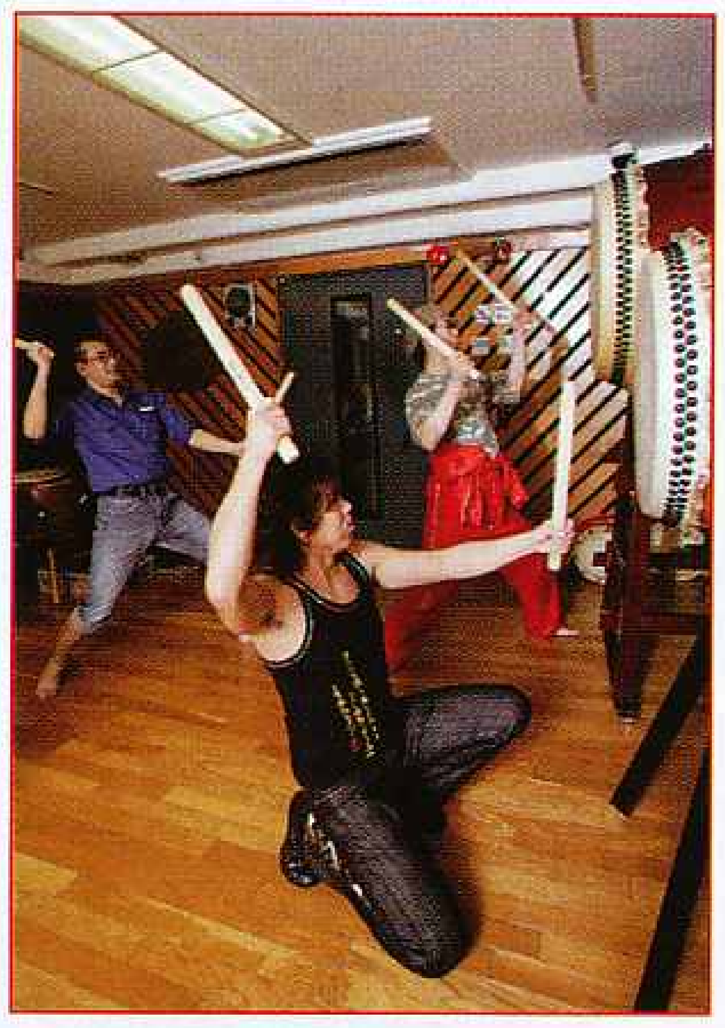
大太鼓編



こちらも助六流打法と同じように立ち方や姿勢が重要。全身の力を利用して打たないと、大きくて響く音にならない。やはり髙田本部長は凄いなぁ。



「ドン！　ドン！　ドドン！」のリズムを叩けるようになるまで徹底的にトレーニング。べつにGK隊長は小松隊員の後頭部を殴打しようとしているわけではない。



髙田本部長も披露した大太鼓を実践！　GK隊長はツナギを脱いで完全に臨戦態勢に入っている。小松隊員もナイス・イメージトレーニングだ！

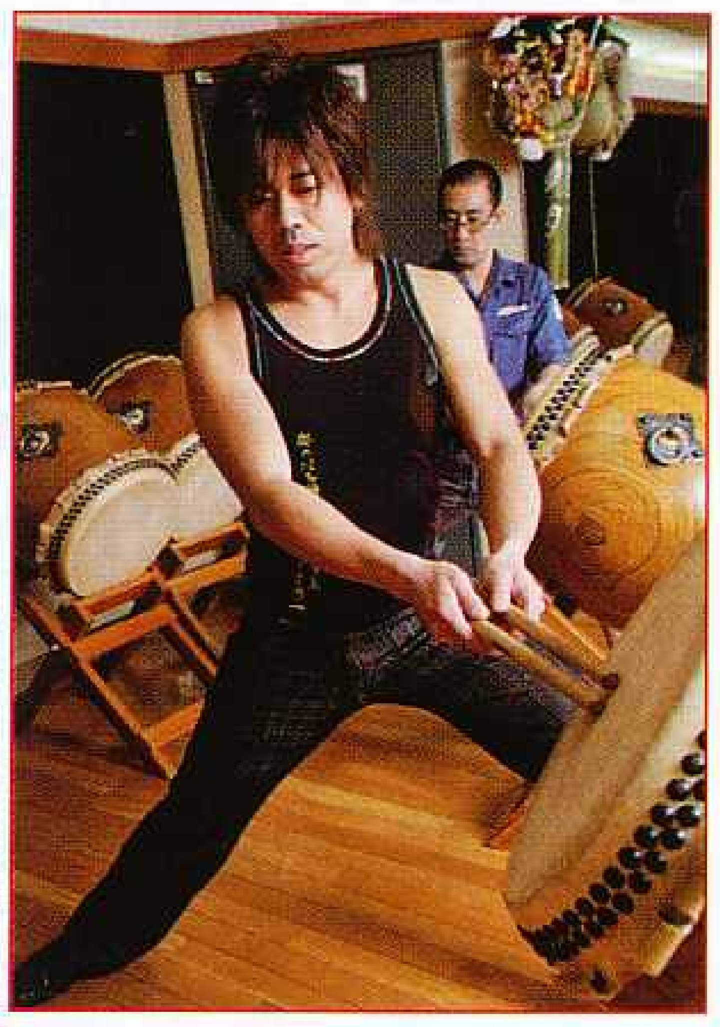
助六太鼓編



まず最初に習ったのが助六流打法。斜めに置いた太鼓に桴を振り下ろすのだが、プロの先生とは音が全然違う。小松隊員、丹田に力を込めるんだ！



正しい軌道で太鼓を叩くために、振り上げる位置も重要になってくる。腕を振るときは力を抜き、インパクトの瞬間だけ力を入れるのはパンチの打ち方と同じ！



茂戸藤先生が太鼓を叩くと、周囲の空気までいっせいに振動するような音……、というか衝撃が走る。足の位置も重要だぞ、小松隊員！

金沢"GK"克彦隊長の探検レポート



隊長のワタクシが初めて正装たる赤のツナギをはだけたことで、もう充分におわかりだろう。まさに太鼓は闘いであり、エンターテインメントであり、すべてを含めてプロレスであったのだ。それに叩かれれば叩かれるほど、太鼓の皮はいい音色を出すのだという。まさにプロレスラーだ。この太鼓はリック・フレアーかな、ハーリー・レイスかな？　そう思いながら聴く茂戸藤先生の太鼓の響きはまさにカート・アングルと呼ぶにふさわしいのだよ！

小松伸太郎隊員の探検レポート



昨年の大晦日、さいたまスーパーアリーナで取材をしていた私にとってのメインイベントは言うまでもなく、髙田本部長の太鼓だった。さあ、茂戸藤先生の教えを思い出せ！　耳を澄ませろ！　よ～く、太鼓の音を聴くんだ！　すると、本当に聴こえてきたのだ、「髙田さん、髙田さん」と「丼、うどん、そば」という音が！　PRIDEのテーマ曲は流れなかったが、この二つの音を私の耳は確実に捕らえていた。でも、錯覚だったらごめんなさい。



最後はGK隊長と小松隊員が「ドン！　ドン！　ドドン！」のリズムを見事に競演！　先生と一緒に記念写真だ。やったぞ、プロレス探険隊！

kamipro SHOPPING



『kamipro』通販でも買えんのか!
青木新作Tシャツ新春初売りだし!!



青木フンドシ Tシャツ [☆]
[M･L･XL ブラック] ¥3,990（税込）



マサ斎藤Tシャツ [☆]
[M･L･XL ブラック] ¥3,150（税込）
©mmsaito Co. Ltd. 2007 All Rights Reserved.



マッスル スターウォーズ Tシャツ [☆]
[S･M･L･XL イエロー] ¥3,150（税込）



LOVE&HUSTLE Tシャツ
[LADY's M,M,L,XL ブラック、ベージュ] ¥5,250（税込）



I編集長 "殺し" Tシャツ [☆]
[M･L･XL ブルー] ¥3,990（税込）



Kamiproマスク Tシャツ [☆]
[S･M･L･XL ホワイト×レッド] ¥3,990（税込）



髙田総統MONSTER Tシャツ
[XS･S･M･L･XL ホワイト] ¥4,200（税込）



完売間近

ニューリン様 "BERO" Tシャツ [☆]
[LADY'S M･M･L･XL ブラック] ¥3,990（税込）



完売間近

ニューリン様 "SIGN" Tシャツ [☆]
[S･M･L･XL ブラック] ¥3,990（税込）

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島･山岳部の方はお問い合わせください）

★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
（株）ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

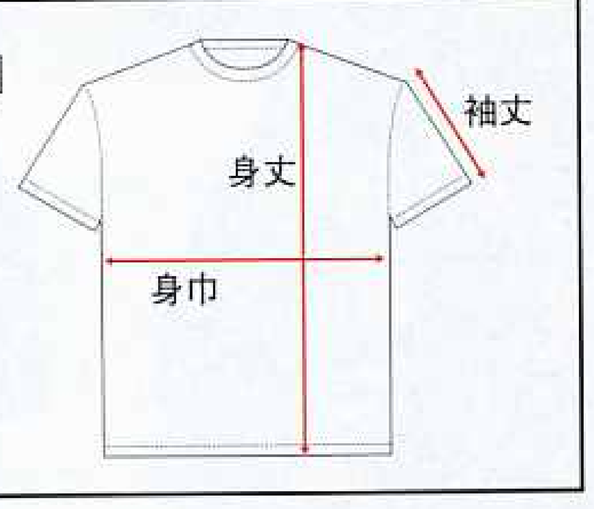
メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承ください）。
販売元／（株）ダブルクロス

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

（単位はcmです）

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



ケータイサイトはもちろん24時間受付OK!
非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

- DoCoMo：iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
  ※もしくは「kamipro」で一発検索!!
- au/TU-KA：トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- SoftBank：メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- WILLCOM：趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
  エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです

応募しないと俺はおまえを許さん!

片想いの人に会ったような嬉しさです!

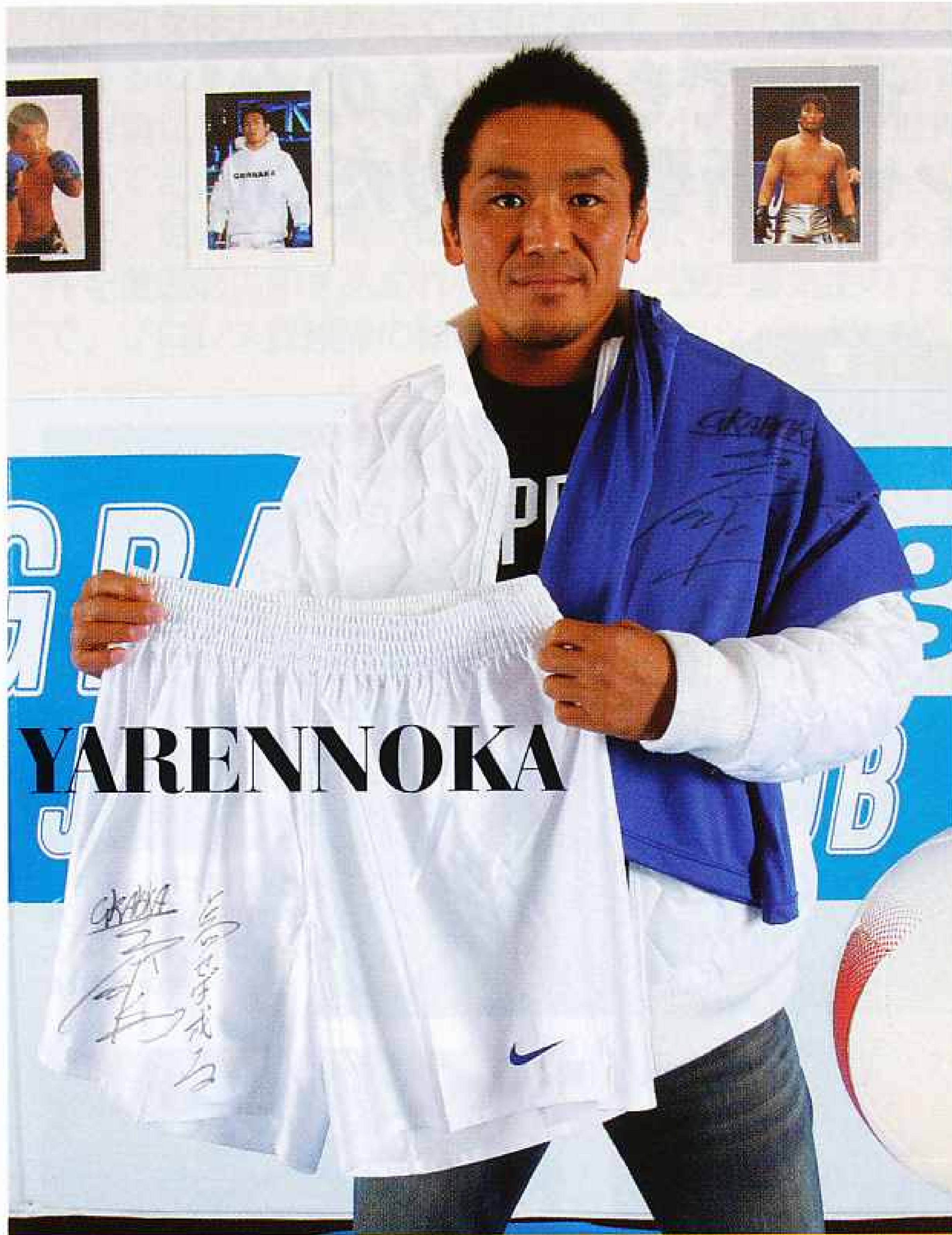
kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定致します。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますので、ご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は1月21日以降発送予定です）。
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦期待している団体&イベント（その理由）⑧今年あなたが観たいカードは?
【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「何、カッコつけとんのや!」係まで
※締切は2月20日（水）当日消印有効

kamipro 119 応募券 戦極ビターン!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!





サイン入り 1名様

三崎 サイン入り サッカーボール &ユニフォーム

大観衆の“魔王討伐”への期待を一身に背負いながら、秋山成勲との激闘を制し、“kamipro大賞MVP”に輝いた、超貴重な三崎のサイン入りサッカーボール&ユニフォームを1名様に提供!





サイン入り 各1名様

三崎サイン入り やれんのか! オフィシャルパンフレット

¥2,100（税込）

大会開催発表記者会見の模様から各試合の解説、大会への思いを綴った『書けんのか! 大賞』など読み応え満点! 三崎のサイン入り『やれんのか!』パンフをズバリ1名様に。

やれんのか! 大会記念Tシャツ

ブラック／¥3,990（税込）

07年大晦日、格闘技界大連立効果によって開催され、熱狂の混沌を現出させた本誌認定の07年ベスト大会『やれんのか!』開催記念Tシャツを1名様に。これを着て、桜の咲く頃に再び会場へ行こう!

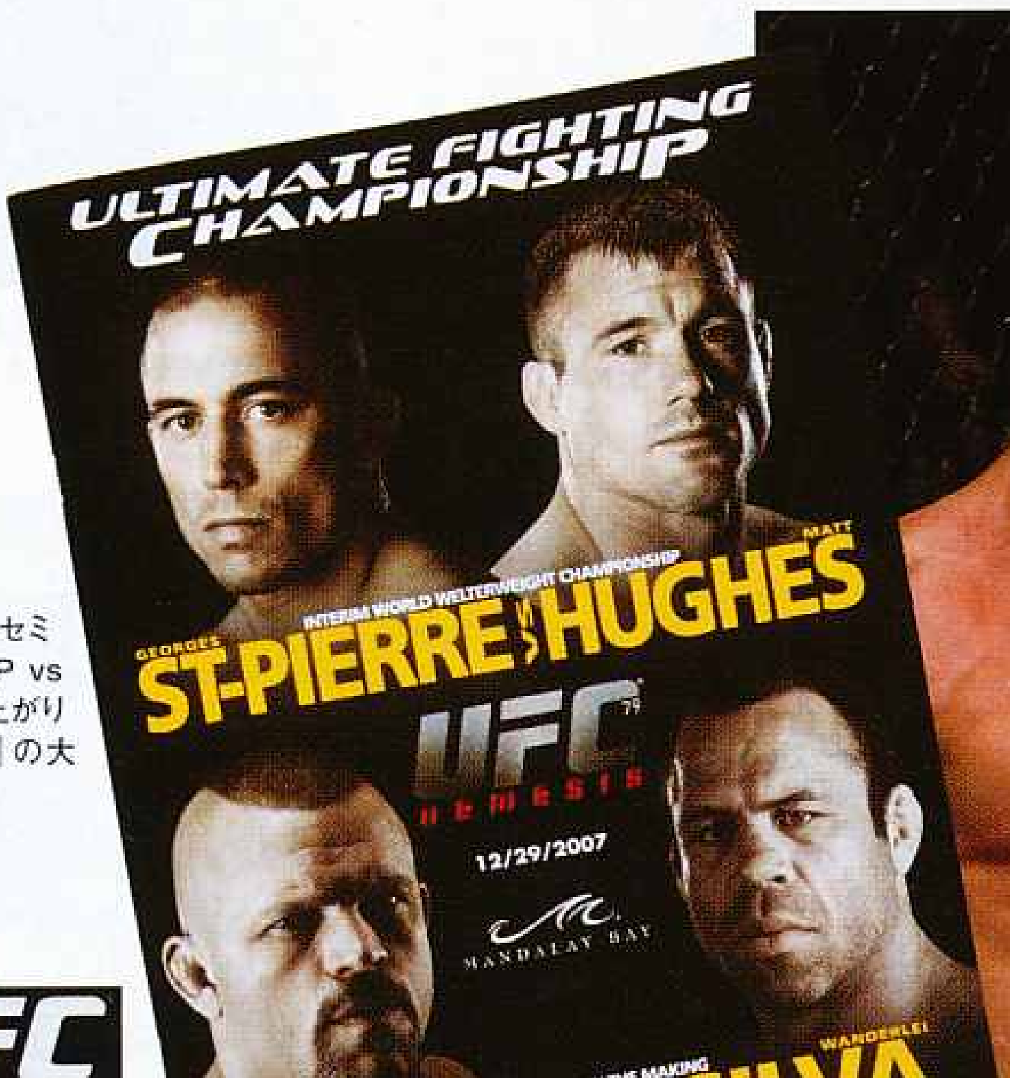
やれんのか!■http://www.yarennoka.com/

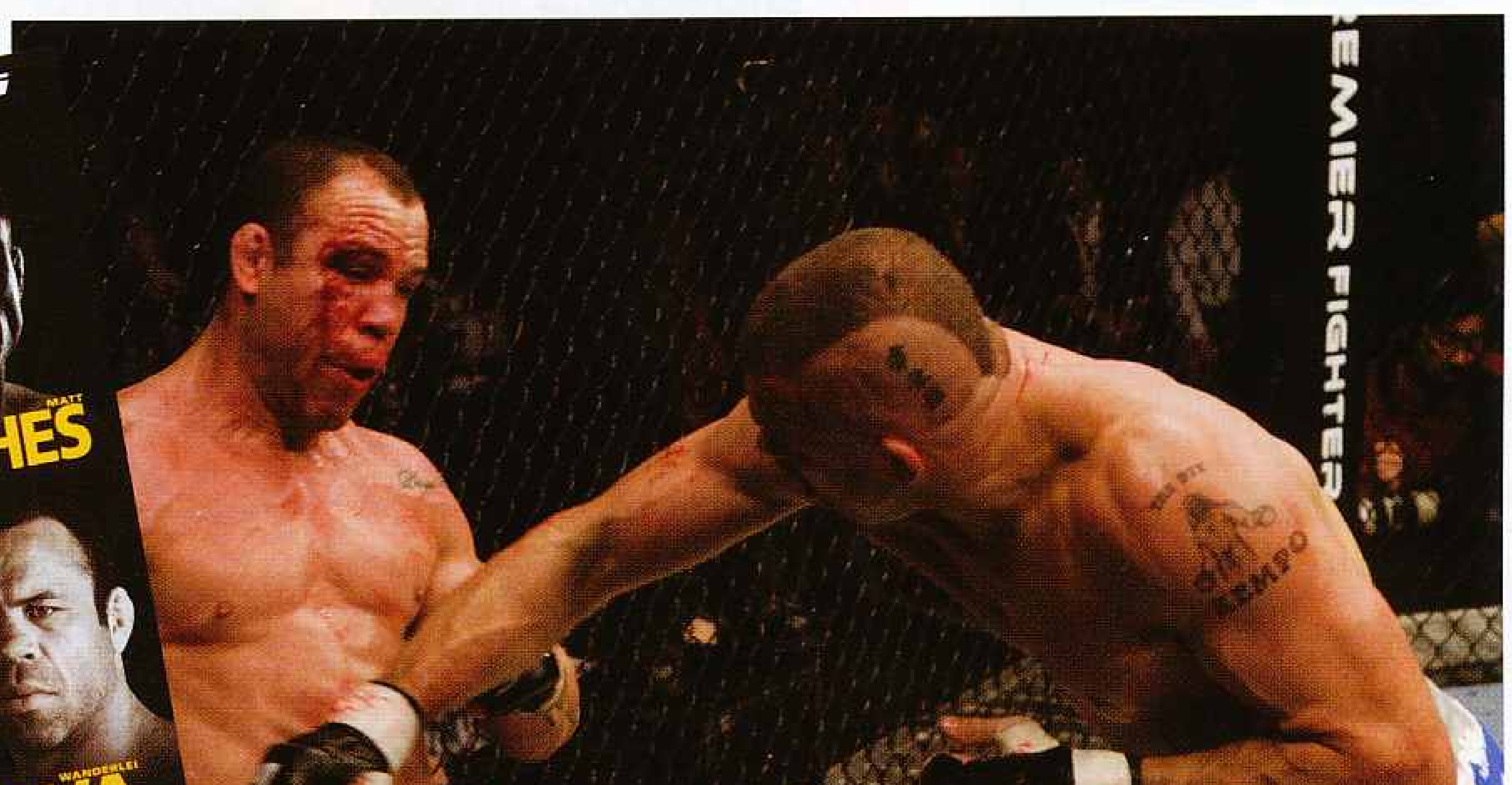
UFC

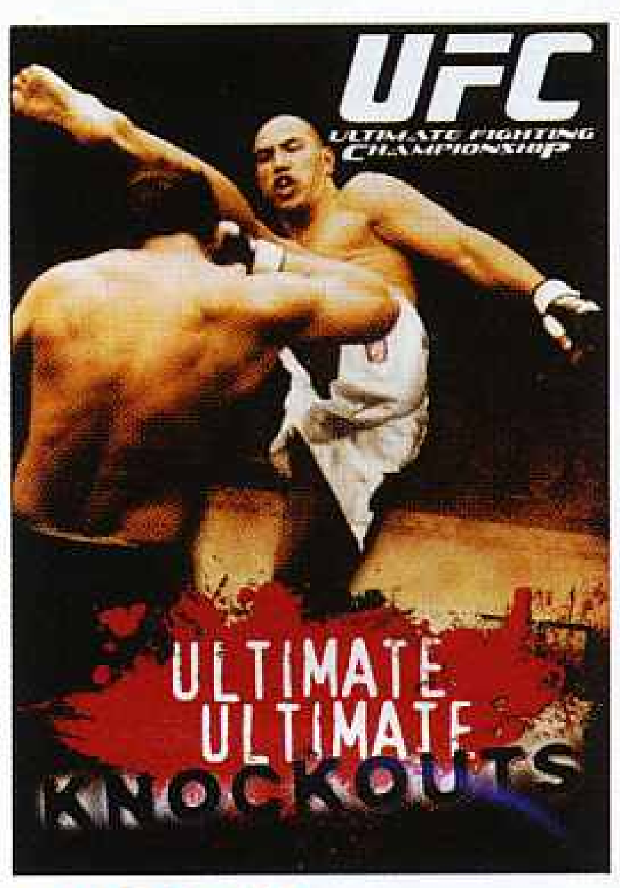
各1名様

UFC79 パンフレット

壮絶などつき合いが繰り広げられたセミのシウバ vs リデルや、メインのGSP vs ヒュースなどが過去最大級の盛り上がりを見せた空前のメガ興行『UFC79』の大会パンフレットを1名様に。

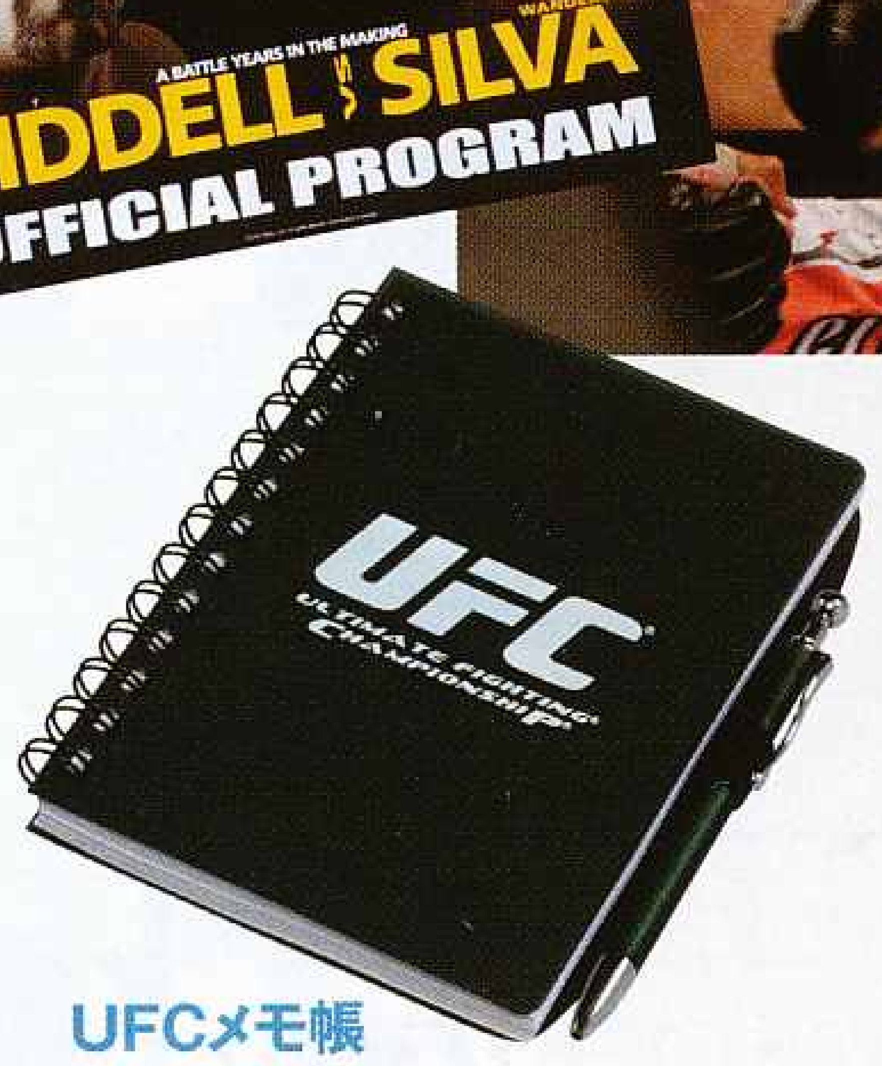






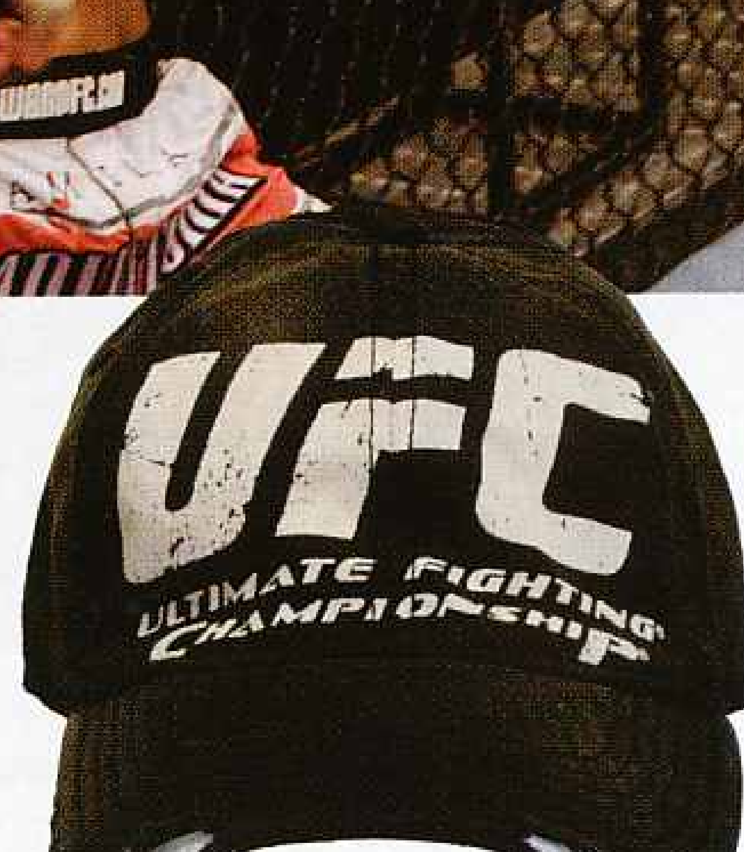
UFC DVD 『ULTIMATE ULTIMATE KNOCKOUTS』

ジョルジュ・サンピエール、チャック・リデルにアンデウソン・シウバ! 現在のUFCを代表するトップファイターによるスペクタキュラーなKOシーンばかりを「これでもか!」と集結させた濃厚すぎるDVDを1名様にプレゼント。



UFCメモ帳

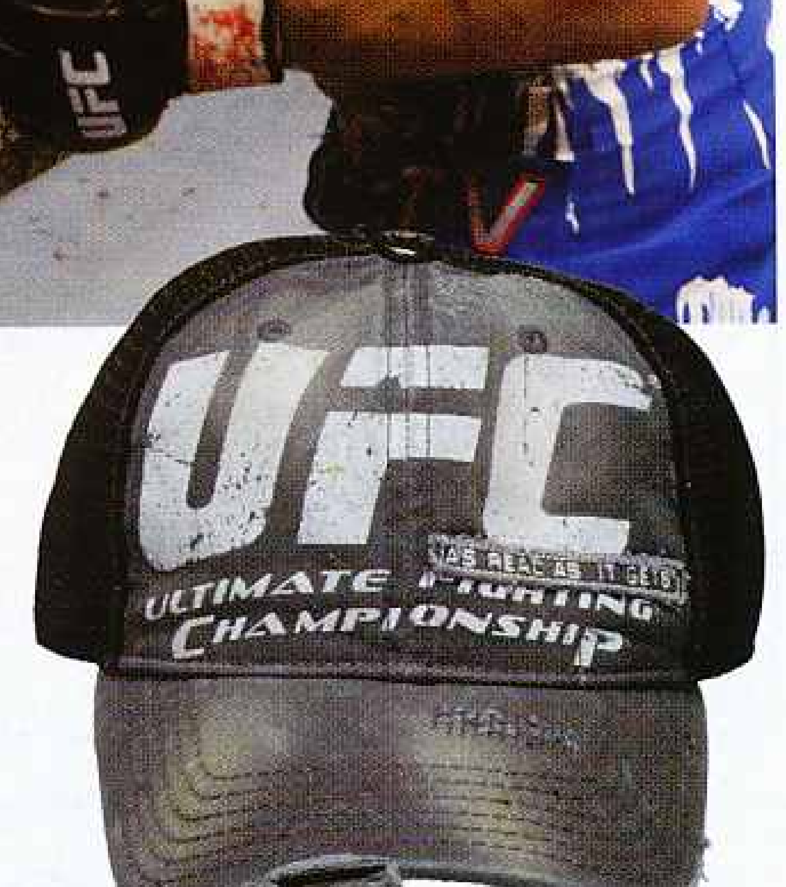
こちらもUFC現地から直送! 日本では絶対に手に入らない、クールなUFCロゴ入りメモ帳を1名様に! メモ帳として使用するにはもったいなく思えてしまうほどカッコイイ作りだ。



UFCキャップ

ブラック

PPV件数も60万件を突破! 歴史に残る名勝負が続出して会場を熱狂させた先日の『UFC79』に遠征した堀江ガンツ前特派員がゲットしたロゴ入りキャップブラック。



UFCキャップ

グレー

最高峰はここにある! いつ何時もジャイアンイズム爆発なダナ・ホワイト総帥によって、世界最大のMMA団体に成長したUFC帝国、その貴重なロゴ入りキャップを1名様に。

UFC■http://www.ufc.com/

ART JUNKIE





ジョシュメタル ドッグタグネックレス

￥2、520（税込）

表にはジョシュのメタルなイラストが彫られ、裏には〝神様〟ゴッチの遺伝子を受け継ぐキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの文字という、ジョシュ・バーネットネックレスを1名様に。

アルティメットチーム POパーカー

パープル／¥9,240（税込）

これぞアルティメットかつ、極めてMMA的なハードデザイン！ 13.2オンスの肉厚ボディ使用で「着心地、サイコー！」。パープル色『ART JUNKIEアルティメットチームPOパーカー』を1名様に提供。

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

HUSTLE

2名様



ハッスル・ハウス クリスマスSP ハッスル祭り2007 パレンダー

¥2,000（税込）

07年末の『ハッスル祭り2007』のパンフレットと、08年のカレンダーが一緒になった"パレンダー"を2名様に。インリン様の実物大キスマークで洗脳してア・ゲ・ル！

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

K-1



タイのお守り"ポクポン" K-1 Ver. チャレンジャー

ブルー／¥1,575（税込）

K-1からはムエタイの本場タイからやってきた、災いを食べてくれちゃうお守り"ポクポン"のK-1バージョンをプレゼント。これをつければ勇気や力がみなぎってくる!?

FEG■http://www.k-1.co.jp/

REVERSAL

帯ベルト

Sサイズ／ブラウン／¥5040（税込）

人気ブランドreversalからは、なんと柔術の"茶帯"がベルトに変化！ このトンチの効きまくったデザインの実物ファブリック、帯ベルトも提供。こちらは1名様にプレゼントだ！

各1名様





KIMONOSドラムバッグ

Sサイズ／イエロー／¥3150（税込）

オシャレな格闘ブランド、おなじみreversalからは黄色と緑の2色で彩られた、Sサイズのロゴ入りドラムバッグを1名様にプレゼント。スポーティーかつ機能的、使い勝手もよい逸品だ。

reversal■http://www.rvddw.com/

PANCRASE

1名様



鈴木みのるデビュー20周年記念Tシャツ

ブラック／¥4,000（税込）

「か・ぜ・に・なれ〜！ （合唱）」でおなじみ、鈴木みのるのデビュー20周年記念Tシャツを1名様に。試合コスチュームをモチーフにした黒地に金という斬新なデザインだ。

PANCRASE■http://www.pancrase.co.jp/

DVD

各1名様



『新極真会 教則 其の一、二、三』

一、51分 二、三、43分／¥各5、040（税込）

『Gi-Grappling 2007』

200分／¥5、880（税込）

RINGS 10th ANNIVERSARY リングス創立10周年記念 総集編DVD

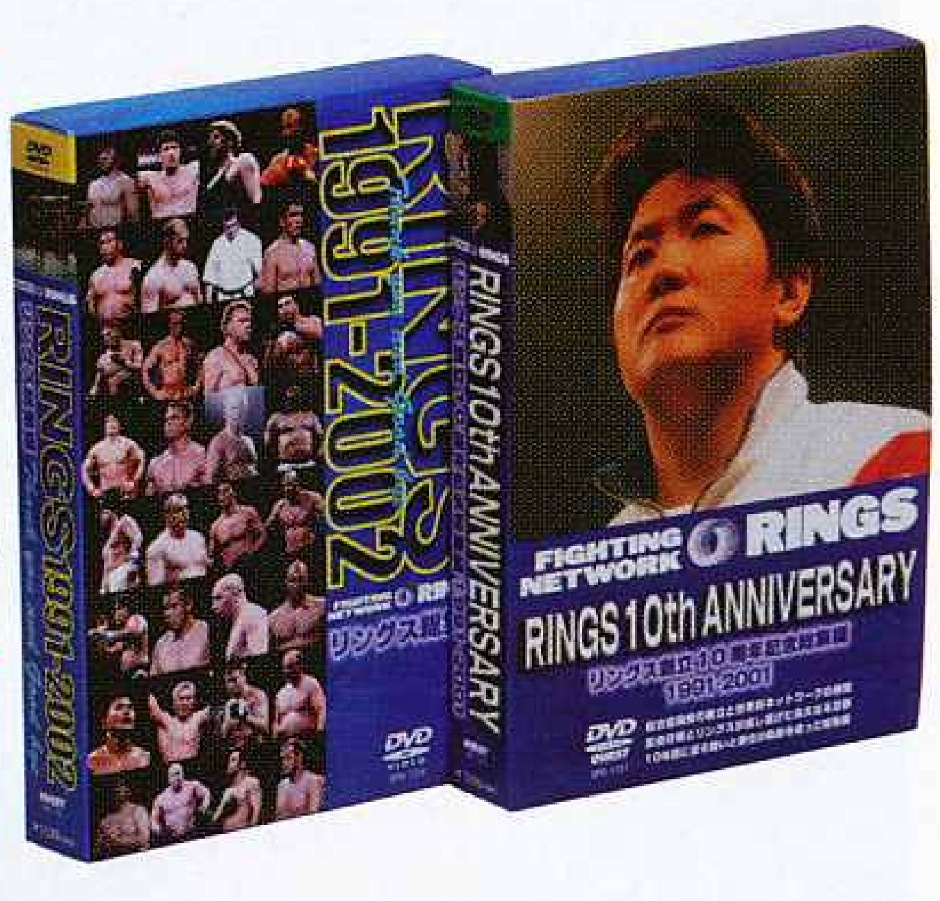
400分／¥10,500（税込）

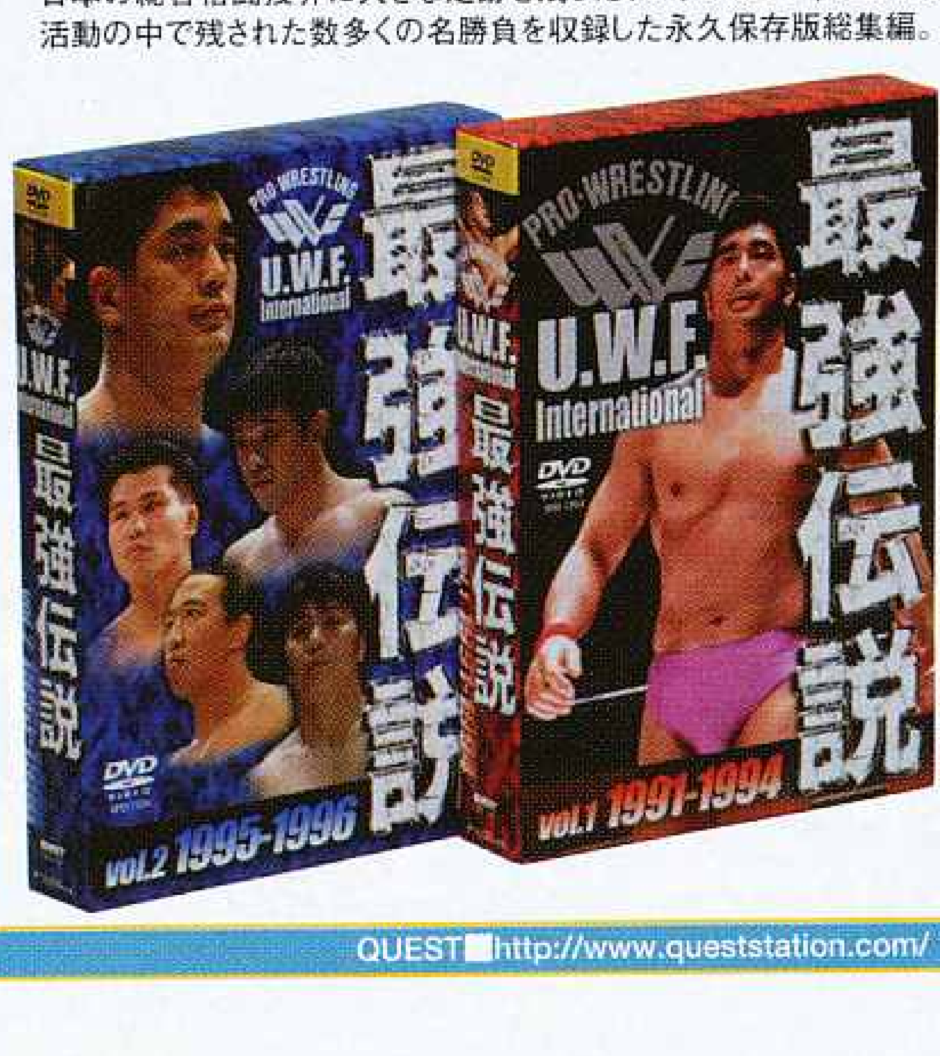
まだ総合格闘技という言葉がなかった時代からリングスが成し遂げた偉大なる足跡、10年間にわたる闘いと進化の奇跡を追った総集編。若かりし頃の前田、田村、高阪、ノゲイラ、ヒョードルらの姿に震えろ！

RINGS 1991-2002

426分／¥10,500（税込）

日本の総合格闘技界に大きな足跡を残したリングスの11年にわたる活動の中で残された数多くの名勝負を収録した永久保存版総集編。





U.W.F.International 最強伝説 vol.1 1991-1994

400分／¥10,500（税込）

今号では『高田延彦変態座談会』も開催された、いまこそ必見！ 我が青春のUインター、伝説の高田 vs 北尾戦も収録した総集編第1弾。

U.W.F.International 最強伝説 vol.2 1995-1996

360分／¥10,500（税込）

エース高田を筆頭に、田村や桜庭も躍動する伝説の団体・UWFインター後期の総集編第2弾!! 格闘技界を代表する彼らの"最強伝説"が甦る。

QUEST■http://www.queststation.com/

BOOK

1名様



『女子魂。』

風香（著）（講談社刊）／¥1,000（税込）

風香のあの事件が単行本に！ 昨年2月に痴漢に襲われてから、100日間にもおよぶ自らのパトロールによる痴漢逮捕までを綴ったドキュメント本を提供。片想いの人にあったような嬉しさです！

講談社■http://www.kodansha.co.jp/

kamipro 紙のプロレス
No.119
2008年2月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎（ギター講師のため非番）

チェ・ゲバラ
上杉革命

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長（やれません！）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

福の神
入江えべっさん（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本“残念ながら欠席”義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

編集チアマダム
廣橋久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

ボノちゃん カワイイ!!



NEXT ISSUE

ノゲイラ王座獲りへ！ 2.2『UFC81』徹底詳報、3.5『戦極』、3.15『HERO'S』直前情報満載の
No.120は2月22日（金）発売予定!!

※地域によっては多少発売日が遅れます。ボノちゃんのかわいさは変わりません。



結婚情報サービス
サンマリエ
30歳からの出会い幸せな結婚へ
20代・40代・50代のプランもご用意しております。
お相手情報をたくさんもらっても、それがあなたの
ご希望に合う人じゃなければ意味がありません。
また、忙しいあなたは出会いを作る時間すらないかもしれません。
サンマリエでは会員専任カウンセラーが
あなたとお相手との出会いまでをサポートいたします。
サンマリエならあなたに合った理想の出会いが見つかるはず!
「自分で探す!」というあなたは
自宅で気軽にお相手探し
「会員検索システム」※
「条件重視!」のあなたは
より多くの出会いのチャンス
「定期紹介状」
「相性一致!」であなたの
理想の結婚までサポート
「特別紹介状」
「条件よりもフィーリング」なら
多彩なパーティーが最適!
「イベント」
※オプションサービスです。
今、無料であなたの理想のお相手プロフィール進呈中!
pr@4330.jp
携帯から空メールを送信、または右のQRコードを読み取ると、あなたの
理想のお相手が無料で診断できる入力フォームのURLが届きます。
0120-86-4330
土日・祝日も24時間、お申し込みを受付中。
URL www.sunmarie.com
または「サンマリエ」で検索して下さい。
結婚情報サービス協議会正会員
MISCとは業界の信頼性の向上と健全化に努める業界団体です。
私たちも応援しています。
高橋英樹・美恵子
大切な個人情報をお守りします。
経済産業省の外郭団体JIPDECが認定した
事業者だけが使用できるマーク。個人情報を
適切に管理・保管している証です。
○ご応募いただく個人情報はサンマリエに関する情報提供に利用し安全に管理します。
また、いかなる第三者にも提供しません。 ○会員資格：男性20歳以上定職のある方、
女性20歳以上、男女とも独身の方。 サンマリエ株式会社 本社：〒160-0023 東京都新宿区
西新宿1-4-11 全研プラザ6F TEL：03-5324-6301

kamipro 2008 119
桜が咲く頃、明るい未来が開花する!
2008年、ハッスルするぞ!!
2008年2月5日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤信一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社 ©2008 ENTERBRAIN,INC. ©2008 DOUBLECROSS

9784757740037
定価: 本体838円 + 税
雑誌 61955-76 Ⓗ2008.5
Printed in Japan 図書印刷
ISBN978-4-7577-4003-7
C9476 ¥838E
1929476008381